

山梨県北杜市

堰口遺跡

県営耕作放棄地解消・発生防止基盤整備事業
白州地区堰口工区その2に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第3分冊

2020
山梨県中北農務事務所
北杜市教育委員会

山 梨 県 北 杜 市

せきぐち
堰口遺跡

県営耕作放棄地解消・発生防止基盤整備事業
白州地区堰口工区その2に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第3分冊

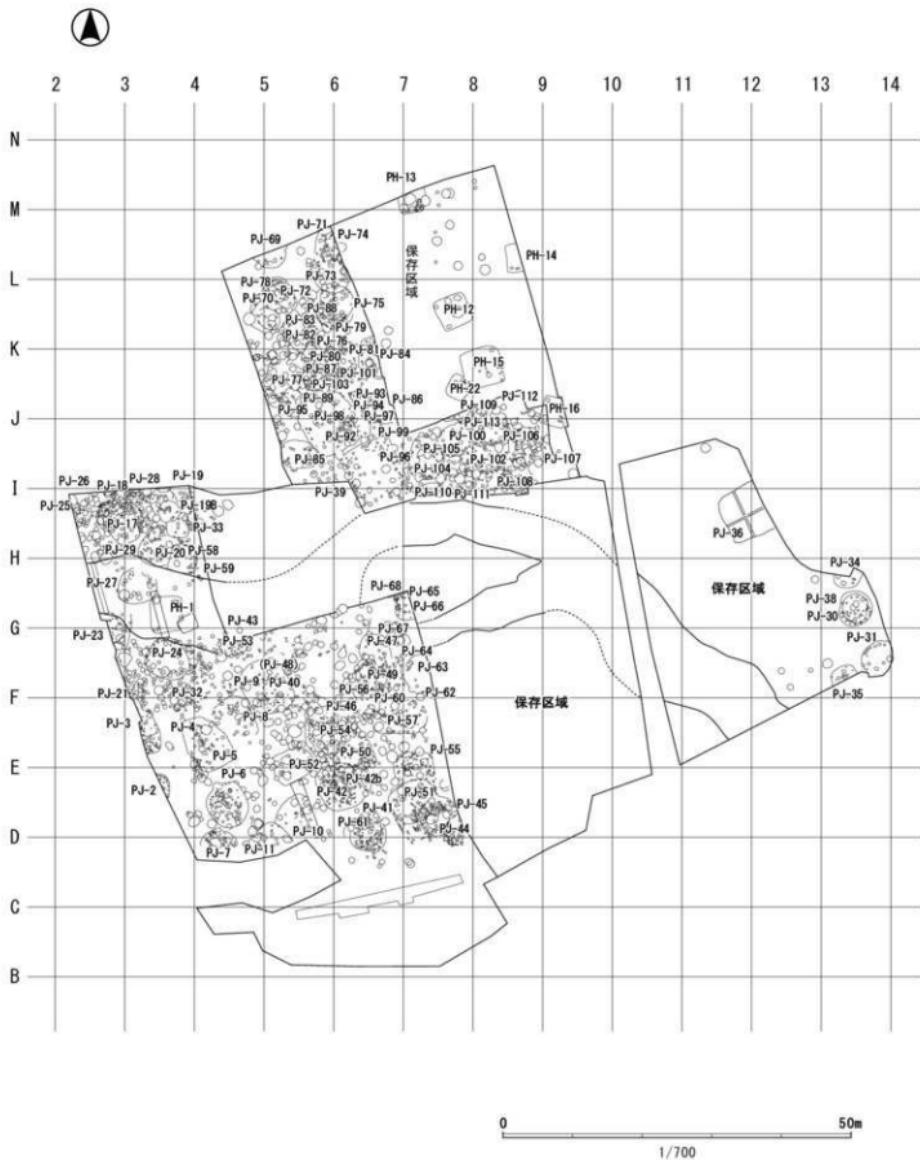
2020
山梨県中北農務事務所
北杜市教育委員会

目 次

第3章 縄文時代の遺構と遺物

第1節 住居と遺物

PJ089号・PJ092号・PJ094号・PJ097号・PJ098・PJ099号住居全体図	1
PJ089号住居	2～11
PJ092号住居	12～40
PJ090号・PJ091号住居／PJ094号・PJ097号住居	41～46
PJ098号住居	47～49
PJ099号住居	50～54
PJ096号住居	55～87
PJ100号住居	88～93
PJ102号住居	94～99
PJ113号住居	100～106
PJ104号・PJ105号住居	107～117
PJ106号・PJ107号・PJ112号住居	118～144
PJ108号住居	145～157
PJ109号・PJ110号・PJ111号住居	158～166
第2節 挖立柱建物	167～170
第3節 土器埋設土坑・土坑・ピット	171
第4節 集石土坑	173～175
第5節 溝	176～177
第6節 焼土	178～180
第4章 平安時代の遺構と遺物	181～208
第5章 理化学分析	209
第6章 調査の成果と総括	210～212
写真図版	213～388
抄録	
奥付	

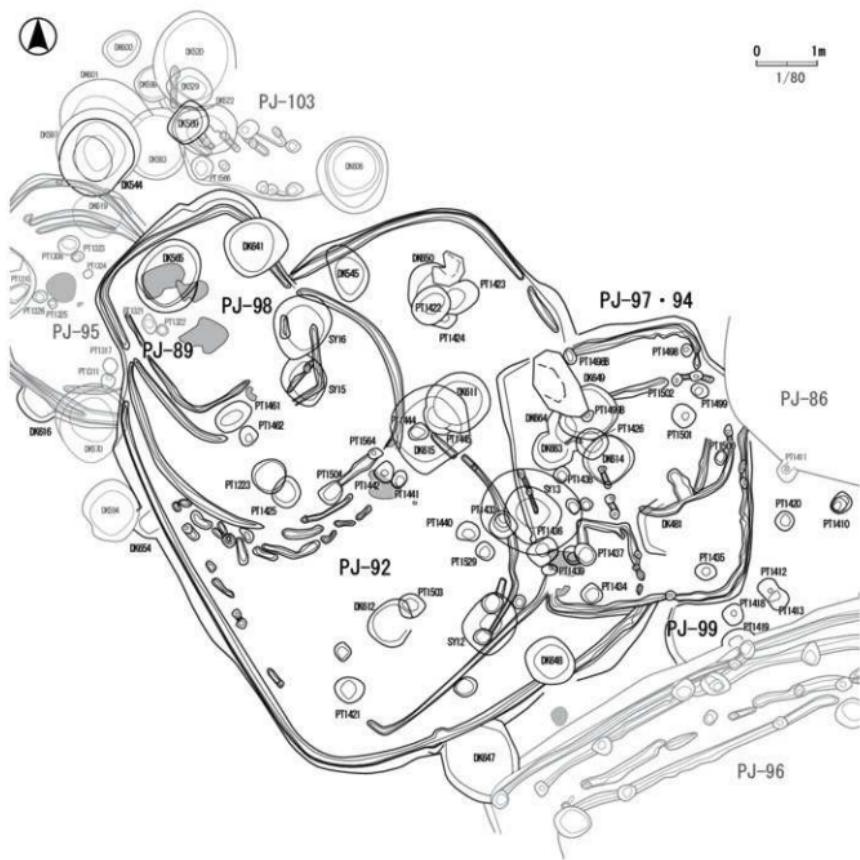


調査区全体図 (1/700)





0
1m
1/80



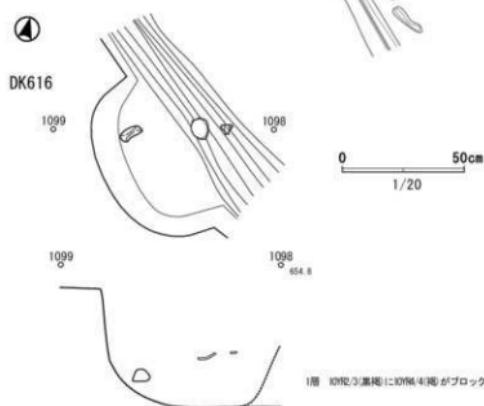
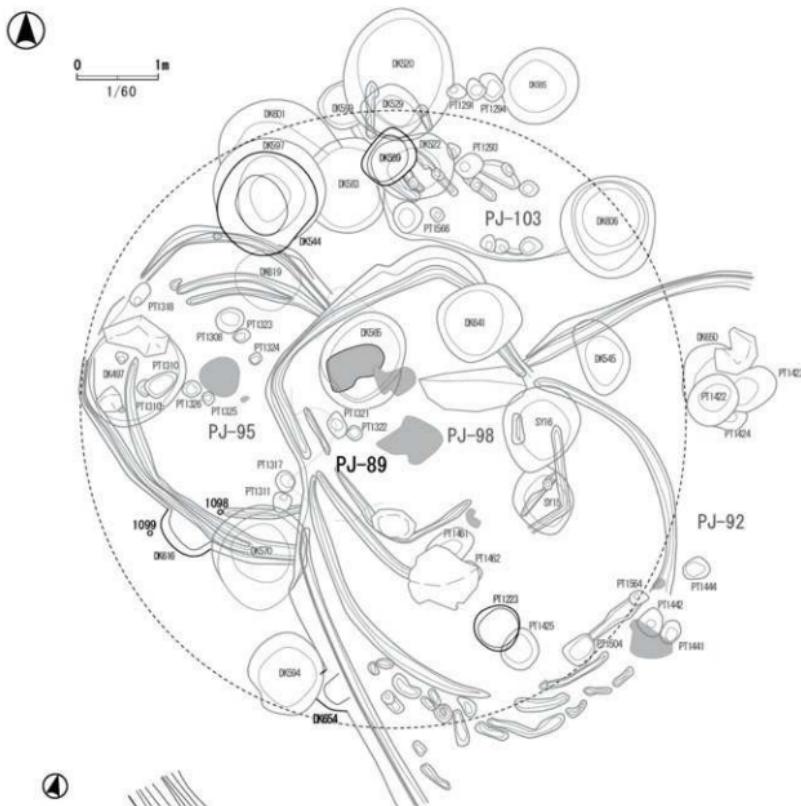
PJ089 • PJ092 • PJ094 • PJ097 • PJ098 • PJ099 号住居全体図

PJ089 号住居

- 位 置**：J-5 グリッドに位置する。PJ95 号住居の調査中に黄褐色粘質の貼床状土層を検出したことから住居と認定したが、住居平面形は把握できなかった。
- 規 模**：不明である。PJ77 号住居、PJ95 号住居、PJ92 号住居の埋土断面から得られた断片的な住居の広がりから推測すると、PJ79 号住居程度のやや大きな円形住居の可能性があるが確認は得られていない。
- 埋 土**：PJ95 号住居と PJ92 号住居の調査中に黄褐色粘質土層を検出した。それら黄褐色土層が広がる範囲、厚さは不安定で 1 軒の住居と認定できるか疑問が残る。
- 床 面**：黄褐色粘質土層を床面と判断したが、広がり、厚みは不安定で、貼床と認定してよいか判断がつかなかった。
- 炉**：PJ98 号住居の北西角で検出した DK565 号土坑の底面で焼土を検出した。DK565 号土坑埋土は黒褐色土を基調とする一様な土質で炭化物、焼土粒子が混じないことから、土坑底面の焼土が本住居の地床炉である可能性がある。
- 周 溝**：検出されなかった。
- 柱 穴**：穴：黄褐色の貼床面で検出されたのは PT1223 号ピットのみである。地床炉と思われる焼土からの距離、形状、深さから想定すると PT1223 号ピット、DK544、DK589、DK616、DK654 号土坑などが柱穴に相当するかも知れないが、全く確認がない。
- 出土遺物**：断片的に検出された床面の上位で出土した土器を本住居分として取り上げたほか、本住居の想定範囲内で、床面よりも高い位置で出土した遺物を本住居分に分別、集計した。土器 2435 がもっともまとまった土器破片であった。
- 出土した土器の総量は 18,907g で、内訳は木島式 121g、中越式 1,600g、神ノ木式 916g、関山式 74g、有尾式 819g、釈迦堂 Z3 式 259g、諸磯 a 式 1,221g、諸磯 b 式 3,380g、諸磯式 7,690g、北白川下層式 29g、前期土器破片 2,689g などである。
- 出土した石器は、石鏃 17 点、削器 1 点、石匙 3 点、石錐 1 点、両極石器 1 点、磨石類 11 点、石皿 1 点、礫器 2 点、円盤形石器 1 点、ハンマー 6 点、剥離のある剥片 5 点、黒曜石原石 4 点、石英岩原石 1 点で、ほかに黒曜石を主とする剥片・碎片 360 点、954g がある。
- 時 期**：遺構の時期を端的に示す出土状況は得られなかったが、土器 2435 から本住居は諸磯 b 式中段階に位置づけられると思われる。型式別の出土量は諸磯式が多い。これらの点から本住居は諸磯 b 式期に廃絶、埋没したと推測される。

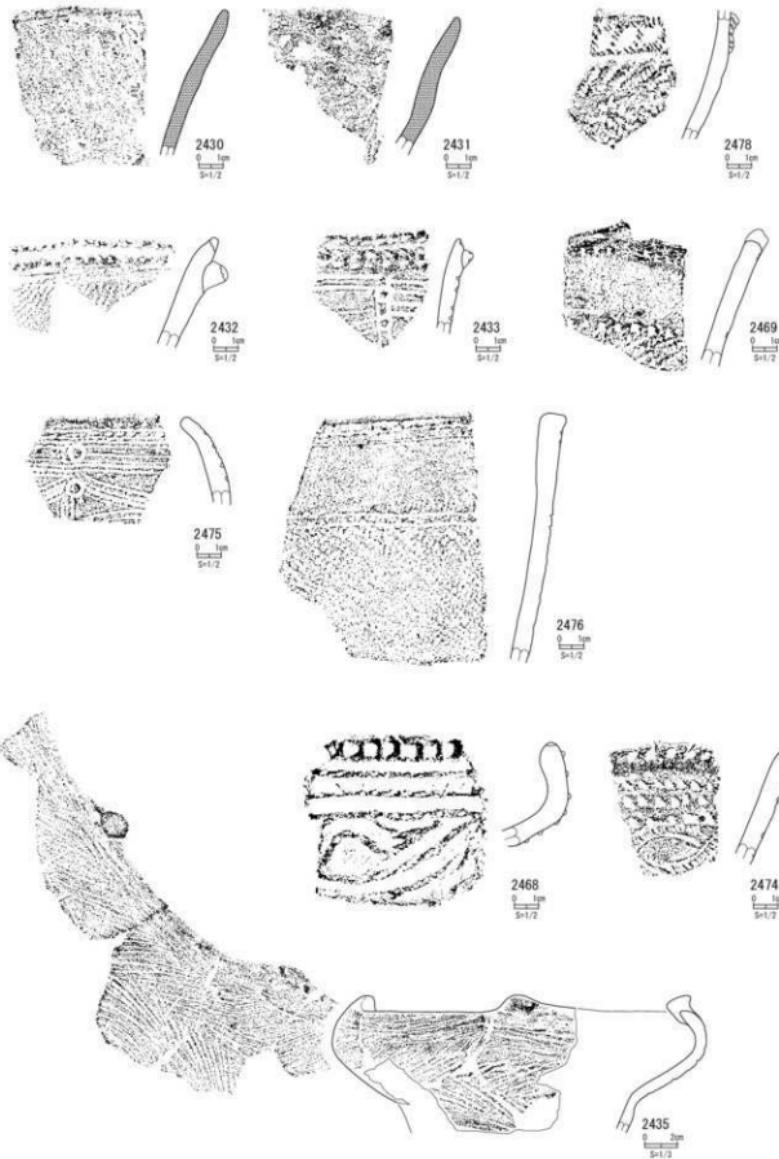
PJ089 号住居 土坑ピット一覧表

遺構番号	位置	大きさ	深さ	覆土色	備考（遺物など）
PT-1223	96 住内	56×57	5	10YR3/3 (暗褐)	木島式、中越式、神ノ木式、有尾式、諸磯式、石皿、ハンマー。深さの計測値は PT-688 床面からの深さ
DK-544	95 住内 北 0.5m	120×-	38	10YR2/3 (暗褐) に 10YR4/2 (反黄褐) が 5%、焼土が 1% 混じる。 シルト粘土、しまる。	木島式、中越式、神ノ木式、有尾式、諸磯 b 式
DK-589	103 住内	72×-	18	10YR3/3 (暗褐) に 10YR4/3 (にぶい黄褐) が 15% 混じる。 シルト粘土、しまる。	SY-5、DK-522 に切られる、中越式、諸磯式
DK-616	95 住 南西壁	70×-	22	10YR2/3 (黒褐) に 10YR4/4 (褐) ブロックが 5% 混じる。 炭化物が 1% 混じる。シルト粘土、粘性なし、ややしまる	木島式、神ノ木式、諸磯式？隕
DK-654	92 住 西壁	55×40	31	10YR3/3 (暗褐)	諸磯式

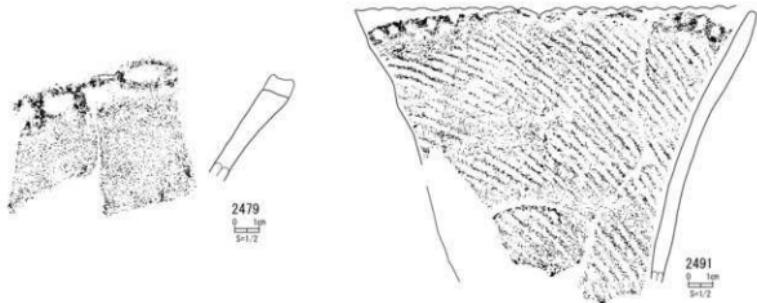


1層 10% (3) (黒褐色)に10% (4) (褐)がブロック状に5%、炭化物が内混じるシルト粘土、粘性なし、ややしまる。

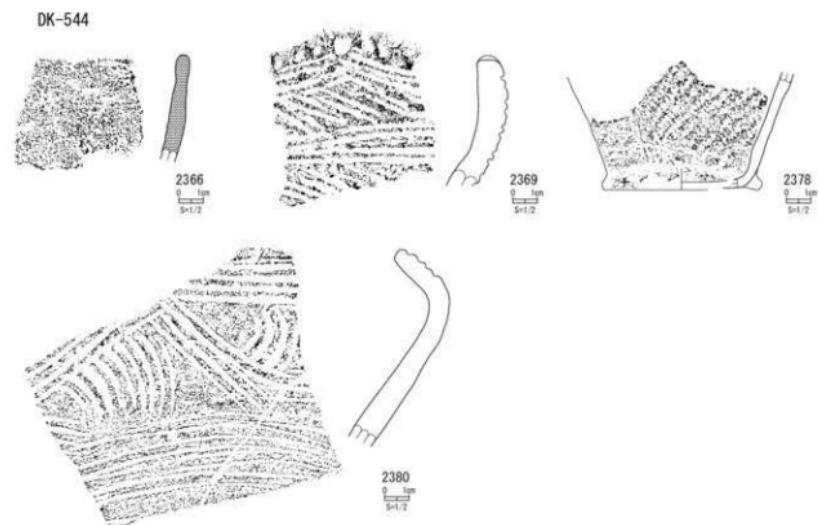
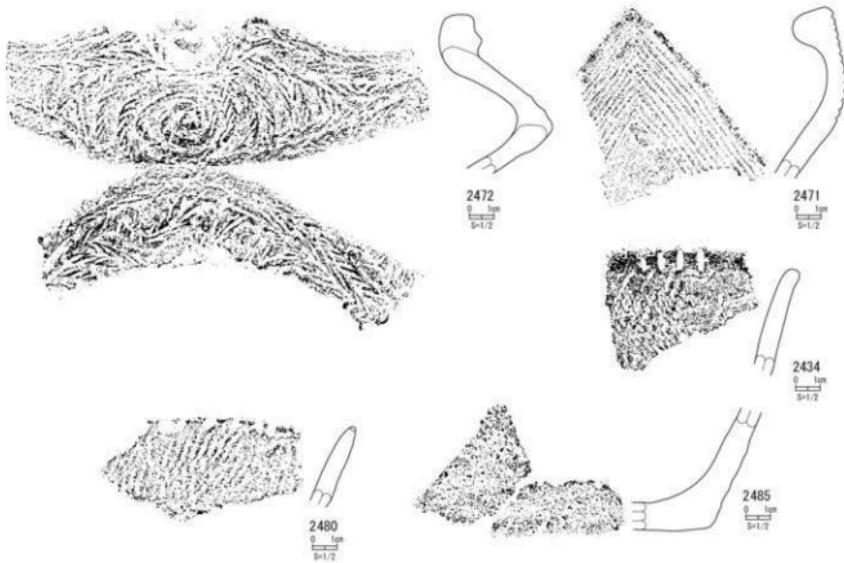
PJ089 号住居



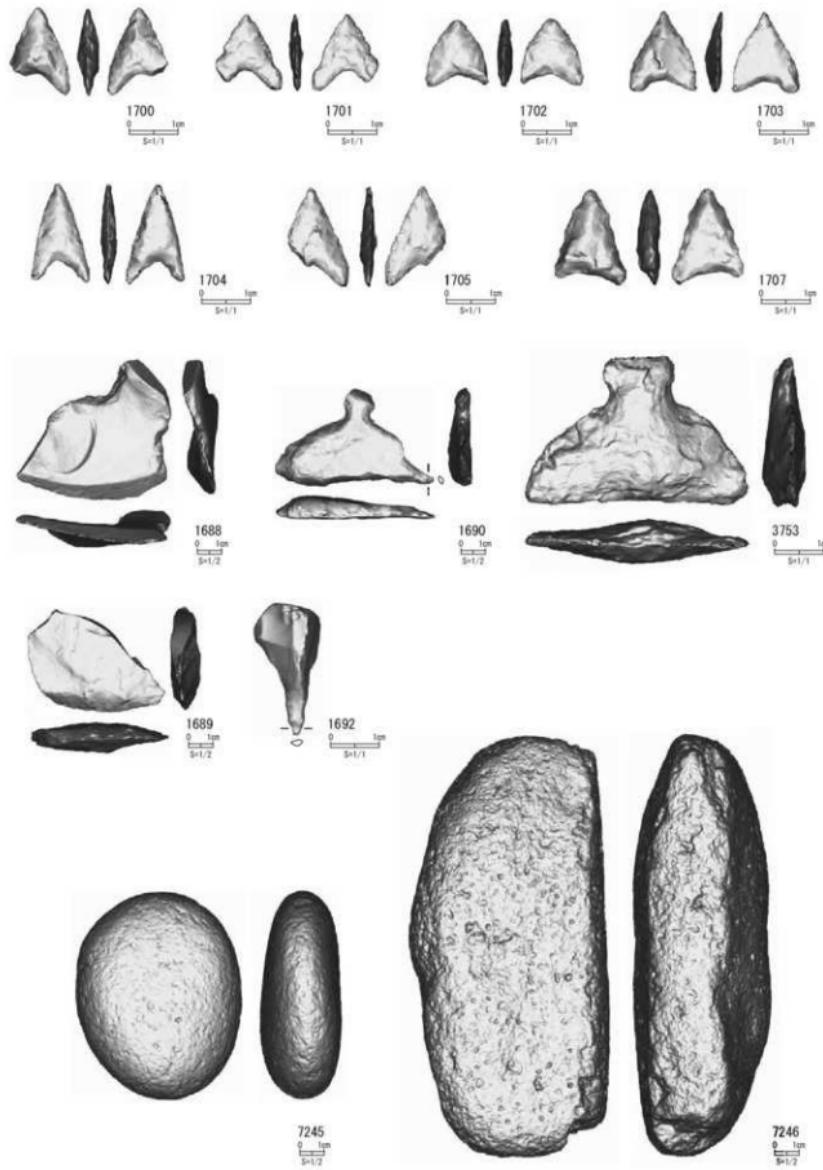
PJ089 号住居出土遺物



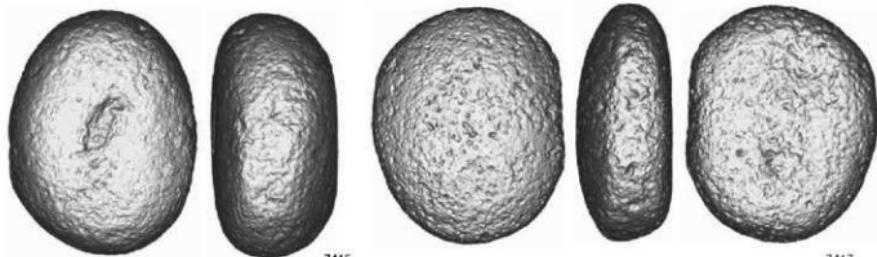
PJ089 号住居出土遺物



PJ089 号住居出土遺物

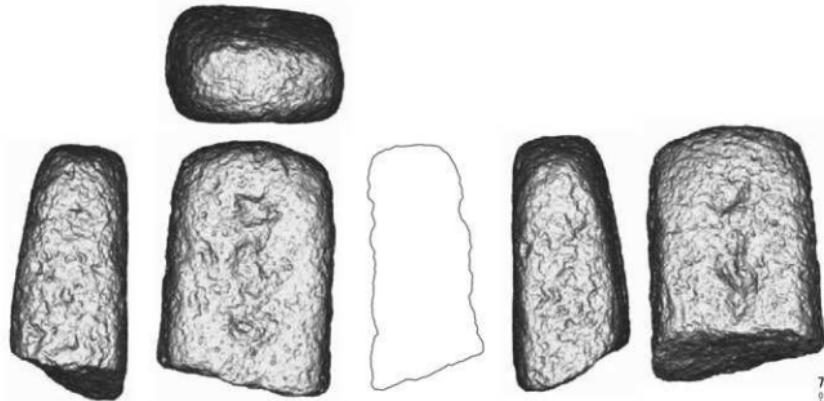


PJ089 号住居出土遺物

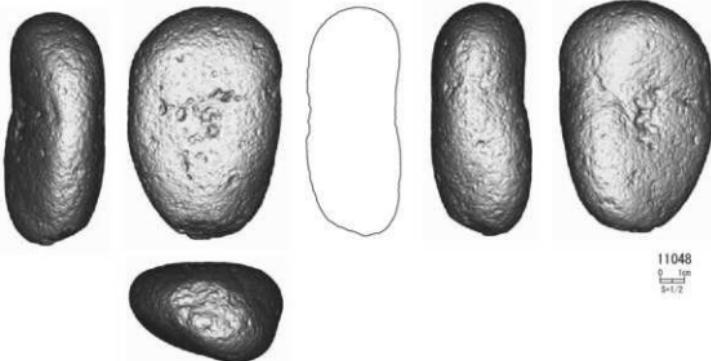


7415
0 1cm
5x1/2

7417
0 1cm
5x1/2

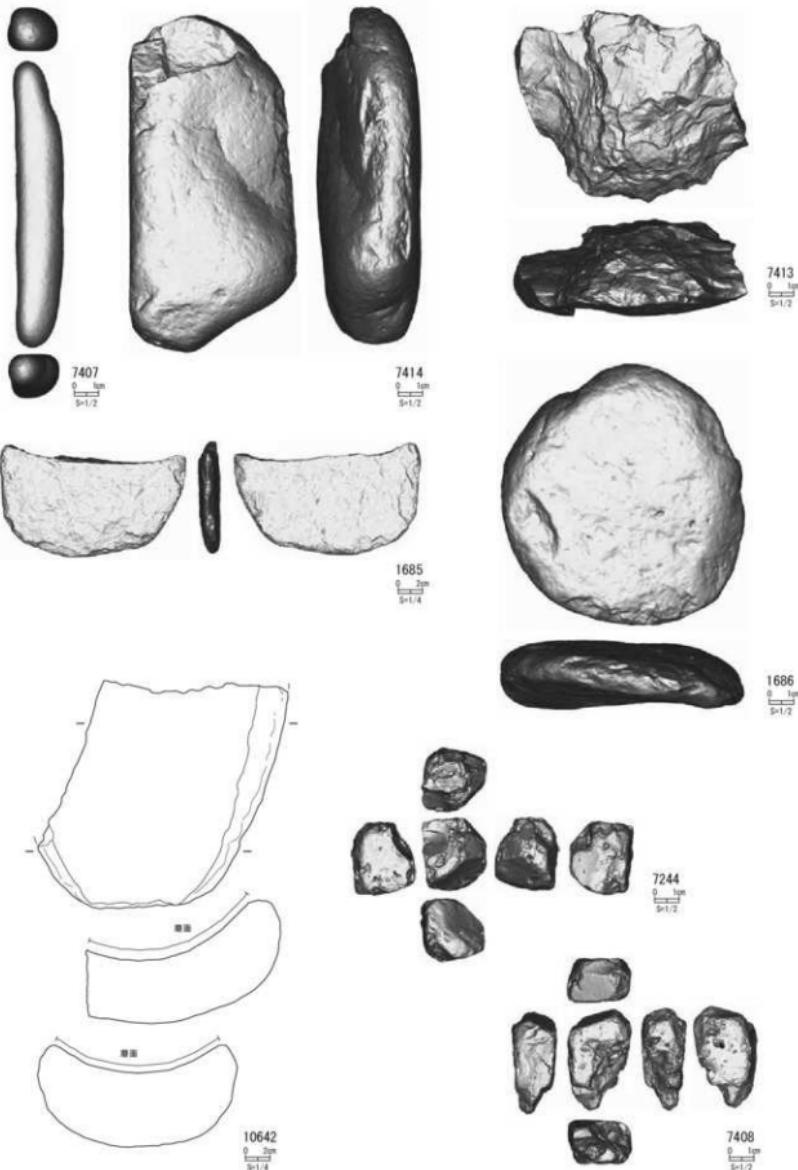


7409
0 1cm
5x1/2



11048
0 1cm
5x1/2

PJ089 号住居出土遺物



PJ089 号住居出土遺物

PJ089 号住居 土器観察表

実測番号	注記	部位	口径 cm 縦	器高 cm 横	底径 cm 厚さ	重量	残存度	出土状況 上段：内面 下段：外面	備考
2366	DK-544	口縁部				19.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR6/2	DK544 出土。小ぶりの深鉢。内外面整形の凹凸がやや残る。胎土に繊維を含む。中経式
2369	DK-544	口縁部				53.0	破片	5YR4/4 5YR3/2	DK544 出土。深状口縁。口縁部に刻み、竹管の集合沈線。内面ナデミガキ。謹徳 b 式
2378	DK-544、J-5-13	肩部～ 底部	(6.6)		40.0	破片	7.5YR6/3 7.5YR6/3	DK544 出土。斜続文。内面指頭圧痕。胎土に繊維を含まない。神ノ木式	
2380	DK-544 2	口縁部			134.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR6/6	DK544 出土。深状口縁。竹管の集合沈線。内面ナデミガキ。謹徳 b 式	
2430	PJ-89	口縁部			29.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR7/4	内外面整形の凹凸が残る。内面ヨコナデ。胎土に繊維を含む。中経式	
2431	PJ-89	口縁部			21.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR6/4	内外面整形の凹凸が残る。胎土に繊維を多量に含む。中経式	
2432	PJ-89、I-5-19, I-5-20、J-6-6	口縁部			131.0	破片	5YR5/6 5YR5/4	口縁部と腰帯に刻み、続文。内面ミガキ。謹徳 a 式	
2433	PJ-89、I-5-20	口縁部			71.0	破片	5YR6/6 5YR6/6	口縁部と腰帯に刻み、複数画面と円形刻夷文。肋骨文？謹徳 a 式	
2434	PJ-89、I-5-24, J-5-21	口縁部			81.0	破片	2.5YR6/4 2.5YR6/3	口縁部に刻み、続文。内面指頭圧痕がやや残るミガキ。謹徳 b 式	
2435	PJ-89、I-5-20	口縁部	21.0		452.0	破片	5YR5/6 5YR4/3	退化した腹面突起が4単位の口唇突起に変化。集合沈線。謹徳 b 式中経期	
2447	PJ-95、PJ-96 54、PJ-96 56, J-5-17、J-5-21	口縁部 ～腰部	22.8		322.0	破片	5YR6/4 5YR3/4	PJ-98 北東角、DK41 北西端。P-89 床面から 11～14 cm 浸いで土器 2540 とともに出土。見落とした諸道式期の片焼の所産かも。口唇部に薄緑線刻文。木の葉文。刻みのある微削帶。続文。内面ミガキ、補修孔あり。謹徳 b 式	
2468	PJ-77	口縁部			54.0	破片	2.5YR4/6 2.5YR4/3	口唇部刻み、結節洋線文。内面ミガキ。謹徳 b 式中経期	
2469	PJ-77	口縁部			32.0	破片	2.5YR4/6 2.5YR4/3	口唇部に突起。角押文状の押引き、続文。内面ミガキ。謹徳 a 式	
2471	I-6960	口縁部	-	-	55.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR6/3	大きく突出し内屈する波状口縁。集合沈線文。内面ミガキ。謹徳 b 式新段階	
2472	I-6960	口縁部	-	-	176.0	破片	5YR4/4 5YR3/2	退化した腹面突起。結節洋線文と刻突文。謹徳 b 式中経期	
2474	PJ-77	口縁部			24.0	破片	5YR5/6 5YR5/6	押引文。木の葉文。内面ミガキ。謹徳 b 式	
2475	PJ-77	口縁部			26.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR6/3	刻夷文。平行沈線文。円形刻突文と複位底面。内面ミガキ。謹徳 a 式	
2476	PJ-77	口縁部 ～腰部			269.0	破片	5YR5/6 5YR4/4	押引文。続文。内面ミガキ。内面風化。謹徳 a 式	
2478	PJ-77	腰部			19.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR6/3	脱いだみの浮線文。羽状続文。北白川下層 II c 式	
2479	PJ-77	口縁部			39.0	破片	5YR6/4 5YR3/2	波状口縁。口唇部に薄緑線貼付。謹徳 b 式	
2480	PJ-77	口縁部			51.0	破片	5YR5/6 5YR4/4	口唇部刻み。続文。内面ミガキ。謹徳	
2485	PJ-77	肩部～ 底部			211.0	破片	2.5YR5/1 2.5YR5/1	強く被熱し、発泡、灰色に変色、変形、斜続文。謹徳式か	
2491	PJ-96 55、PJ-96 56、PJ-96 63, PJ-96、PJ-95, I-6970、J-5-17	口縁部 ～腰部	(16.2)		263.0	破片	7.5YR2/2 7.5YR3/2	PJ-98 北東角、DK41 西端。P-89 床面から 10～30 cm 浸いで土器 2447、土器 2540 とともに出土。口唇部に刻み、斜続文・外系垂拂み低の凹凸がやや残る。胎土に繊維を含まない。謹徳 a 式か	
2540	PJ-96 54、PJ-96 56、PJ-96 63, PJ-95	口縁部 ～腰部	(43.0)		1,288.0	破片	2.5YR5/6 2.5YR3/3	PJ-98 北東角、DK41 北西端。P-89 床面から 11～14 cm 浸いで土器 2447 とともに出土。内面ミガキ。謹徳 b 式古段階	

PJ089 号住居 石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
1685	PJ-89 6	円盤形石器	安山岩		92.0	152.0	17.0	305.10	硬化面の床面高で出土。折取った半円形の剥片の縁辺に圓面から刃部調製。刃部鋸耗。
1686	PJ-89 12	研器	花崗岩	1/1	112.0	105.0	28.0	399.60	硬化面上。床面高で出土。扁平円錐の縁辺に刃部。
1687	PJ-89	原石	石英岩					78.50	灰色がかった半透明石英岩。縁辺などに崩れ、敲打痕。
1688	PJ-89 2	石匙	頁岩	1/1	59.0	62.0	8.0	33.60	硬化面の北側。21 cm 浸いで出土。素刃。微小剝離。黄色く風化し使用痕不規則。
1689	PJ-89 1	削器	珪質頁岩	3/4	42.0	59.0	12.0	31.30	硬化面上。21 cm 浸いで出土。片刃。刃部に微小剝離と済れ。灰色珪質頁岩
1690	PJ-89	石匙	頁岩	1/1	40.0	65.0	9.0	19.00	片刃。肩部に石鍬状の尖った機能部。複合石器もしくは石匙を石面に転用。か、黄色く風化し使用痕不明瞭。
1691	PJ-89	剥離のある 剥片	珪質頁岩					2.10	調整剝離のある小さな剥片。灰色珪質頁岩。搬入石材
1692	PJ-89 8	石匙	黒曜石	1/1	28.0	9.0	8.0	1.80	PJ-89 南端で出土。PJ-89 床面高で出土したことから PJ-89 分とした。ズリ面が残る剥片素材。肩部縁辺に流れ。漆黒黒曜石
1693	PJ-89	原石	黒曜石					3.60	薄い板状ズリ。漆黒黒曜石
1694	PJ-89	四脚石器	黒曜石	1/1	22.0	22.0	13.0	4.40	原石面に残る紗片の両端に衝撃剝離。透明黒曜石
1695	PJ-89	剥離のある 剥片	黒曜石					2.00	ズリ面が残る紗片の 2 面に片面ずつから調整剝離。透明系黒曜石

PJ089 号住居 石器觀察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	觀察所見
1696	PJ-89	原石	黒曜石					5.40	一発コア。ズリ。漆黒黒曜石
1697	PJ-89	石器	黒曜石	1/1	20.6	17.7	5.6	2.09	未成品。剝片素材。縁辺調整を始めた段階。底面入り透明黒曜石
1698	PJ-89	石器	黒曜石	1/2				0.74	未成品。剝片素材。先端を両面調整。基部側は未調整。底面入り透明黒曜石
1699	PJ-89	石器	黒曜石	3/4	19.9	16.6	1.9	0.85	未成品。剝片素材。2辺を両面から調整し始めた段階。透明黒曜石
1700	PJ-89	石器	黒曜石	3/4	18.5	(13.5)	4.7	(0.62)	凹基、両面加工。片側欠損。素材の薄みが残る。白筋のある漆黒黒曜石
1701	PJ-89	石器	黒曜石	3/4	16.3	-	2.6	(0.32)	凹基、両面加工。片側欠損。ブルーブラック黒曜石
1702	PJ-89	石器	黒曜石	1/1	14.0	12.9	3.0	0.42	凹基、両面加工。透明黒曜石
1703	PJ-89	石器	黒曜石	1/1	17.1	14.2	3.4	0.48	凹基、縁辺加工。ズリ面が残る剝片素材。漆黒黒曜石
1704	PJ-89	石器	黒曜石	1/1	20.5	12.4	3.2	0.48	凹基、細身、両面加工。漆黒黒曜石
1705	PJ-89	石器	黒曜石	3/4	20.7	-	3.4	(0.56)	凹基、両面加工。片側欠損。絶満状透明黒曜石
1706	PJ-89	石器	黒曜石	1/2	-	-	1.9	(0.13)	細面破片。透明黒曜石
1707	PJ-89	石器	黒曜石	1/1	19.6	14.8	4.7	0.94	凹基、両面加工。ズリ面が残る剝片素材。素材の薄みが残る稚拙なつくり。白筋のある漆黒黒曜石
1708	PJ-89	石器	黒曜石	3/4	20.0	14.8	4.8	1.02	未成品。三角形状ができる段階。片側欠損。絶満状透明黒曜石
1709	PJ-89	剝離のある 剥片	黒曜石	1/1				0.60	小さな剝片の2辺に微小剝離。透明黒曜石
1710	PJ-89	剝離のある 剥片	黒曜石	1/1				1.00	小さな剝片の両面から調整剝離。石器未成品か。透明系黒曜石
1711	PJ-89	石器	黒曜石	-				(0.09)	細面破片。透明系黒曜石
3699	DK-544	剝離のある 剥片	珪質頁岩	1/1	39.0	25.0	5.0	4.40	剝片の1辺に微小剝離。白筋のある黄灰色珪質頁岩
3700	DK-544	石器	黒曜石	1/2	21.7	16.2	3.2	0.79	未成品。剝片素材。縁辺調整のみで三角形状ができる段階。片側欠損。透明系黒曜石
3701	DK-544	石器	黒曜石	1/2	-	20.5	3.8	(0.85)	DK544 出土。凹基、両面加工。先端欠損。透明系黒曜石
3702	DK-544	石器	黒曜石	3/4	30.8	21.1	7.5	3.83	DK544 出土。未成品。両面加工。三角形状ができる段階。透明系黒曜石
3753	DK-616 図1	石器	赤色 チャート	1/1	31.0	46.0	9.0	9.70	DK616 出土。周刃。使用感はみられない。暗赤褐色チャート
4490	PT-1223	石器	黒曜石	3/4	(12.4)	12.1	2.0	(0.23)	PT1223 出土。凹基、剝片素材。縁辺加工のみ。先端欠損。透明系黒曜石
7244	IG-6868	原石	黒曜石	1/1				171.00	河岸転石。赤褐色斑入り黒曜石
7245	IG-6869	磨石類	安山岩類	1/1	85.0	69.0	23.0	249	扁平構円錐の両面が摩耗。長軸両端に斜打痕。被熱し蛇腹
7246	IG-6869	磨石類	安山岩類	1/1	59.0	174.0	81.0	1161	不整形構円錐の両面が縦横状に摩耗。長軸両端に斜打面。
7247	IG-6869	磨石類	砂岩類	3/4	(94.0)	63.0	43.0	493	石器転石。平面2面が摩耗。1面に柱状斜打痕。側面2面も摩耗。1面に斜打痕。細密砂岩
7407	IG-6842	ハンマー	砂岩類	1/1	115.0	20.0	18.0	65	細密い棒状凹面。長軸両端部に弱い柱状斜面。両端が茶色に変色。乳棒と乳鉢のような使用感か？縦紋。緻密な砂岩
7408	IG-6867	原石	黒曜石	1/1				173.70	河岸転石。赤褐色斑入り黒曜石
7409	IG-6844	磨石類	安山岩類	3/4	(105.0)	72.0	50.0	520	石器転石。広い2面が摩耗。平面化。斜打集中の凹みが長軸方向に並ぶ。側面2面が斜打面で平面化。長軸両端面に丸打痕。多孔質安山岩
7413	IG-6839	礫器	砂泥灰岩	1/1	79.0	99.0	41.0	281.50	墨円刻印に巻曲状の刃部。
7414	IG-6900	ハンマー	砂岩類	1/1	90.0	71.0	43.0	638	扁平構円錐。1段面が斜打。渋れ。長軸両端面にも斜打痕と割れ。細密な砂岩
7415	IG-7013	磨石類	安山岩類	1/1	105.0	81.0	54.0	610	橢円形の広い2面が摩耗。斜打集中の凹みが長軸方向に並ぶ。側面2面が斜打で棘状斜面。
7416	IG-6840	磨石類	安山岩類	1/2				338	石器転石。広い2面が摩耗。反対面は平坦で斜打集中の浅い凹みが長軸方向に並ぶ。側面2面が斜打で棘状斜面。
7417	IG-6879	磨石類	安山岩類	1/1	98.0	80.0	40.0	413	橢円形。広い2面が摩耗。反対面は平坦で斜打集中の浅い凹みが長軸方向に並ぶ。側面1面に斜打痕。多孔質安山岩
10640	PJ-89	ハンマー	砂岩類	1/1	(124.0)	44.0	36.0	326	棒状凹面。風化し使用感不明瞭だらう。ママーと思われる
10641	PJ-89 3	磨石類	砂岩類	1/1	119.0	63.0	41.0	439	硬化面の北側。16cm浮いて出土。橢円形。平坦な面が摩耗。堅い点状斜打痕が1ヶ所に集中。細密。緻密な砂岩
10642	PJ-89 7	石皿	安山岩類	1/2	(187.0)	(214.0)	(101.0)	3,400	硬化面南西側で出土。底部が摩耗。骨壺がなく底部が確実に広がる。
10643	PJ-89 9	磨石類	花崗岩類	1/1	108.0	95.0	60.0	859	PJ89 南端で出土。PJ89底面真で出土したことからPJ89分とした。橢円形。平坦な1面が摩耗。
10644	PJ-89 5	ハンマー	頁岩類	1/2	104.0	47.0	36.0	307	硬化面の西側。26cm浮いて出土。棒状凹面。両端が削離。ハンマーと思われる。
10655	PJ-89 11	ハンマー	砂岩類	1/1	123.0	50.0	27.0	230	硬化面上で出土。棒状凹面。全体が手すり方に摩耗し。長軸両端に浅い柱状斜打痕。細密。緻密な砂岩
11048	DK-616 図-3	磨石類	安山岩類	1/1	95.0	63.0	42.0	326	DK616 出土。橢円形。広い1面の中心に堅い点状斜打痕が集中。長軸両端面に浅い柱状斜打痕。
11060	DK-544 6	磨石類	安山岩類	破片				652	DK544 出土。橢円形。広い1面が摩耗。平坦化。多孔質安山岩
11158	PT-1223	ハンマー	頁岩類	3/4	81.0	34.0	20.0	96	PT1223 出土。棒状凹面の長軸両端部に深い1点状斜打痕。

PJ092号住居

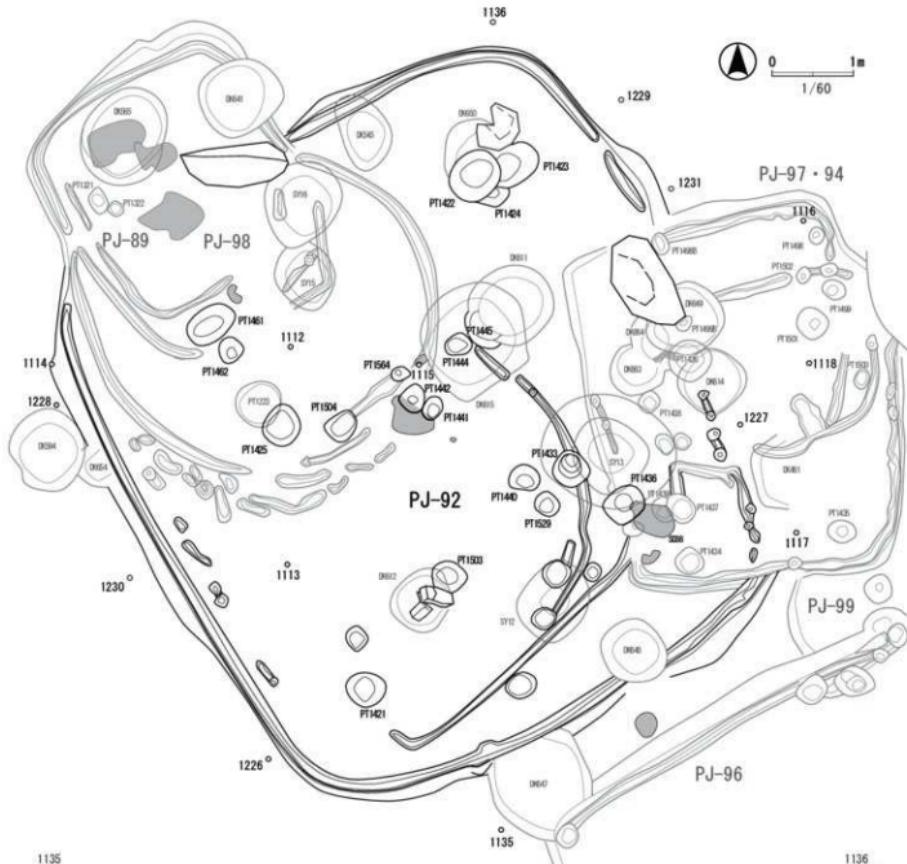
- 位 置**：I-5 グリッドから J-6 グリッドにかけて位置する。PJ89 号住居に切られ、PJ95 号住居と PJ97 号住居、PJ98 号住居を切る。諸磯式期の SY-12、SY-13、SY-15、SY-16 号集石土坑、DK611、DK615 号土坑などに切られる。
- 規 模**：長軸長 8.1m、短軸長 7.6m ほどの長方形で、竪穴は西壁沿いで深さ 50 cm が残る。
- 埋 土**：暗褐色から黒褐色を基調とする埋土で、おおむねレンズ状に堆積する層理が確認された。土層断面図に PJ89 号住居、PJ92 号住居、PJ97 号住居の境界を太線で表示した。PJ98 号住居との重複関係は断片的にしか確認できなかったが、本住居が新しいと思われる。
南東壁近く、PT1436 上の床面から 35 cm 浮いた高さで焼土の塊を検出し、SD038 号焼土址と命名した。焼土は土器破片、石器、石材片とともに検出されて地床炉ではないと思われる。焼土の塊を埋没過程の竪穴に投棄したものであろう。
- 床 面**：黄褐色砂質の地山を平坦に掘り込み、床面としている。地山の風化花崗岩が露出しており、床面にあわせて削られている縁、住居床面から高く突出する縁とがあった。
- 炉**：PT1441、PT1442 号ピット西脇の床面が弱く被熱、焼土化していた。焼土は 2 基のピットに切られる。これが地床炉と思われる。
- 周 溝**：壁に沿って小溝を検出した。北西部で円形に巡る小溝を検出し、PJ98 号住居とした。このほか住居の南半分で断片的な小溝を検出した。周溝から複数回の住居の建て替えが想定される。土層断面の観察から本住居は抜張を繰り返したと考えた。
- 柱 穴**：もっとも住居が広くなった、最新段階の柱穴は、PT1422、PT1461、PT1421、PT1436 号ピットの 4 基を想定した。深さ、形状が揃っている。PT1422 号ピットのみ周間に 2 基のピットが検出されたが、これは地山縁があるために柱穴を繰り返し掘り直した結果かもしれない。PT1422 号ピットの埋土下層で 26cm × 21cm 径の柱痕を検出した。PT1436 号ピットの埋土下層でも 30cm × 23cm 径の柱痕を検出した。
住居南半分で検出された方形にめぐる断片的な小溝に伴う古い段階の柱穴は、PT1444、PT1504、PT1503、PT1433 号ピットの 4 基を想定した。PT1444 号ピットで 10cm 径の柱痕を検出した。PT1529 号ピットは PT1433 号ピットに先行する柱穴かもしれない。
- 出土遺物**：埋土中からまばらに土器破片、石器等が出土した。
出土した土器の総量は 68,867g で、内訳は早期撫系文系土器 14g、早期条痕文系土器 133g、神ノ木台式 27g、下吉井式 173g、木島式 1,321g、中越式 12,335g、神ノ木式 12,183g、関山式 459g、堂之上 Z 式 241g、上の坊式 22g、有尾式 25,324g、积迦堂 Z3 式 462g、北白川下層式 34g、前期土器破片 10,829g である。
出土した石器は、石鏃 60 点、削器 3 点、石匙 10 点、石錐 6 点、両極石器 4 点、打製石斧 1 点、磨石類 16 点、石皿 1 点、台石 5 点、磨製石斧 6 点、ハンマー 7 点、礫器 5 点、装身具 1 点、剥離のある剥片 21 点、黒曜石と石英岩の石核 4 点、黒曜石原石 16 点、縁 2 点で、このほか黒曜石を主とする剥片・碎片 1,674 点、4,310g がある。
- 時 期**：住居の時期を端的に示すような土器の出土状況は認められなかつたが、大きな破片、床面出土土器には、土器 2466 のような有尾式土器が多い。また土器型式ごとの出土量は有尾式が最多で次いで中越式、神ノ木式が多いことから、本住居は有尾式初期段階に廃絶し埋没したと思われる。

PJ092 号住居 土坑ピット一覧表

遺構番号	位置	大きさ	深さ	覆土色	備考（遺物など）
PT-1421	92 住内	46×35	50	10YR2/2 (黒褐色)	新しい柱穴。中越式、神ノ木式
PT-1422	92 住内	40×43	52	柱痕：10YR3/2 (黒褐色) に 10YR2/1 (黒) が混じる。 理土：10YR6.4 (にぶい黄褐色)	新しい柱穴。径 26 × 21 cm の柱痕あり。中越式
PT-1423	92 住内	50×44	28	10YR3/2 (黒褐色)	中越式、神ノ木式？
PT-1424	92 住内	40	20	10YR3/2 (黒褐色)	中越式
PT-1425	96 住内	45×45	10	10YR3/2 (黒褐色)	中越式
PT-1433	92 住内	40×37	49	10YR2/2 (黒褐色)	古い柱穴。繊維土器
PT-1436	97 住 南西壁	47×50	54	柱痕：10YR3/2 (黒褐色) に 10YR2/1 (黒) が混じる。 理土：10YR6.4 (にぶい黄褐色)	新しい柱穴。径 30 × 23 cm の柱痕あり。鳥島式、中越式、神ノ木式
PT-1440	92 住内	30×30	40	10YR3/2 (黒褐色)	跡跡式
PT-1441	92 住内	26×20	35	10YR3/2 (黒褐色)	跡跡式？石蹴。
PT-1442	92 住内	32×32	27	10YR3/2 (黒褐色)	
PT-1444	92 住内	30×26	52	柱痕：10YR3/2 (黒褐色) に 10YR2/1 (黒) が混じる。 理土：10YR6.4 (にぶい黄褐色)	古い柱穴。径 10 cm の柱痕あり。
PT-1445	92 住内	50×27	28	10YR3/2 (黒褐色)	D6511 に切られる。中越式？
PT-1461	96 住内	60×37	42	10YR3/2 (黒褐色)	新しい柱穴。木島式、中越式
PT-1462	96 住 南壁	40×30	30	10YR2/2 (黒褐色)	神ノ木式、有尾式
PT-1503	92 住内	40×30	37	10YR3/2 (黒褐色)	古い柱穴。神ノ木式
PT-1504	96 住 南東壁	40×28	46	10YR3/2 (黒褐色)	古い柱穴
PT-1529	92 住内	30×23	42	10YR3/2 (黒褐色)	磨石破片
PT-1564	96 住 南東壁	17×18	17	10YR3/2 (黒褐色)	



PJ092 号住居
墨曜石の出土状況



1層 10R3/2(黒褐色)に10R3/3(褐色)から10、10R4/4(褐色)から、炭化物が5%、花崗岩粉が10混じるシルト粘土
粘性ややあり、しまる。(RJ-02 No.1の10層と対応)

- 2周 10R2 (黒蜜) / 10M4 (黒蜜) が△、皮膚が△、便祕△、花園粒が△以下、湿るシルト粒△、粘性やあります。

3周 10R5 (4△ 黒蜜) / 10R2 (黒蜜) が△、皮膚が△、便祕△、花園粒が△以下、湿るシルト粒△、粘性やあります。

4周 10R5 (4△ 黒蜜) / 10R2 (黒蜜) が△、皮膚が△、便祕△、花園粒が△以下、湿るシルト粒△、粘性やあります。

5周 10R2 (黒蜜) / 10R3 (黒蜜) が△、皮膚が△、便祕△、花園粒が△以下、湿るシルト粒△、粘性やあります。

6周 10R2 (黒蜜) / 10R3 (黒蜜) が△、皮膚が△、便祕△、花園粒が△以下、湿るシルト粒△、粘性やあります。

7周 10R2 (黒蜜) / 10M4 (黒蜜) が△、10R5 (黒蜜) △△、便祕△、花園粒が△以下、湿るシルト粒△、粘性やあります。

8周 10R2 (黒蜜) / 10M4 (黒蜜) が△、10R5 (黒蜜) △△、便祕△、花園粒が△以下、湿るシルト粒△、粘性やあります。

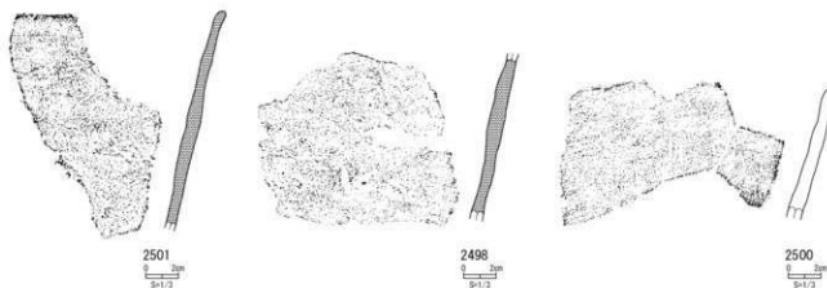
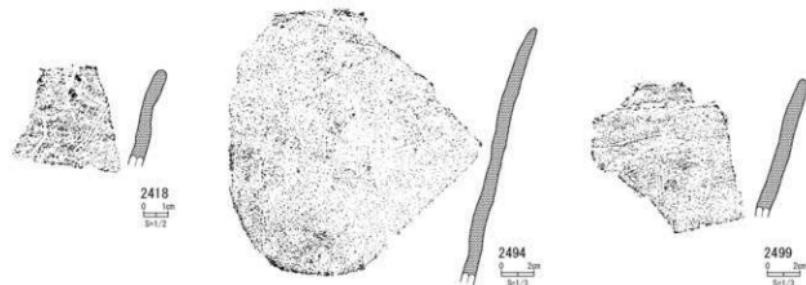
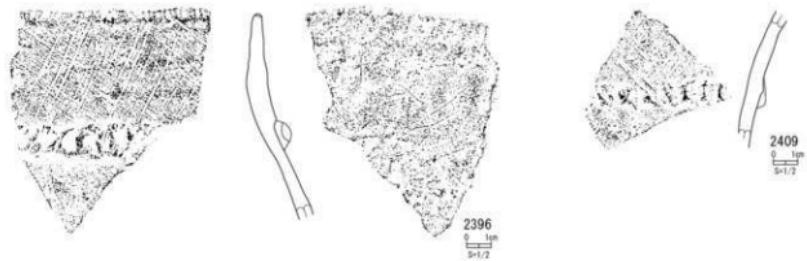
9周 10R2 (黒蜜) / 10M4 (黒蜜) が△、10R5 (黒蜜) △△、便祕△、花園粒が△以下、湿るシルト粒△、粘性やあります。

10周 10R2 (黒蜜) / 10M4 (黒蜜) が△、10R5 (黒蜜) △△、便祕△、花園粒が△以下、湿るシルト粒△、粘性やあります。

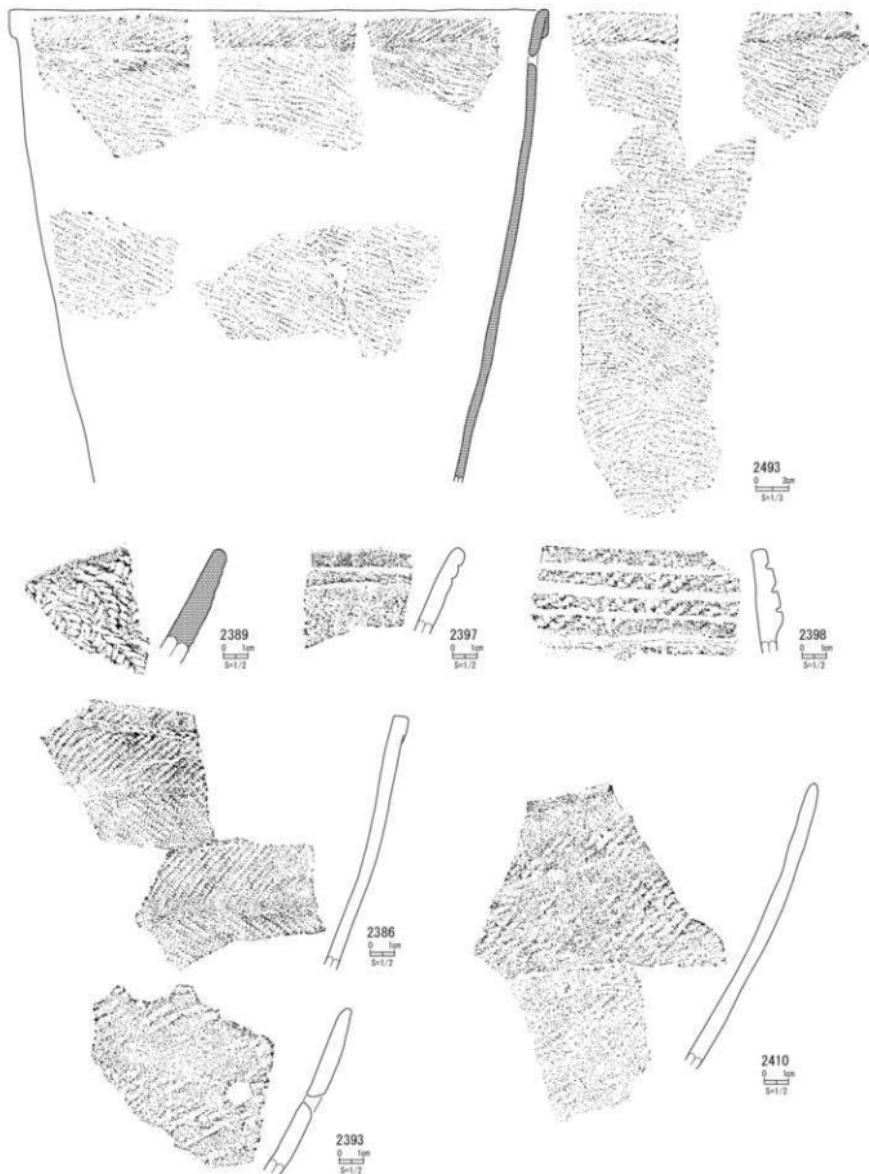
10問 4よりやや悪い。
11問 10問の「問題」に10問(2重複)があるが、10問(重複)が4問、他物質が4問、花園宿泊が4問で同じシルト粒土・粘性土でありやや、やさしくある。
12問 10問の「問題」に10問(重複)があるが、他物質が4問、花園宿泊が4問で同じシルト粒土・粘性やありややしくある。
13問 10問の「問題」に花園宿泊が4問で同じシルト粒土・粘性ややあり、する。
14問 4よりやや悪い。
15問 4よりやや悪い。
16問 10問の「問題」に2重複(重複)があるが、10問(重複)が5問、花園宿泊が4問で同じシルト粒土・粘性ややありやや。
17問 10問の「問題」に10問(4にない重複)があるが、10問(重複)が4問、他物質が4問、花園宿泊が4問で同じシルト粒土・粘性ありやややや。
18問 4よりやや悪い。Dc-65とD-61の問題を混同してたらしいのが理由。
19問 10問の「問題」に10問(4にない重複)があるが、10問(重複)が4問で同じシルト粒土・粘性あり、する。(D-61の原因)
20問 15に10問(6重複)があり混同。
床底 10問(6重複)・シルト粒土・粘性ややあり、する。
壁面 10問(6重複)・シルト粒土・粘性ややあり、する。

PJ092号住居

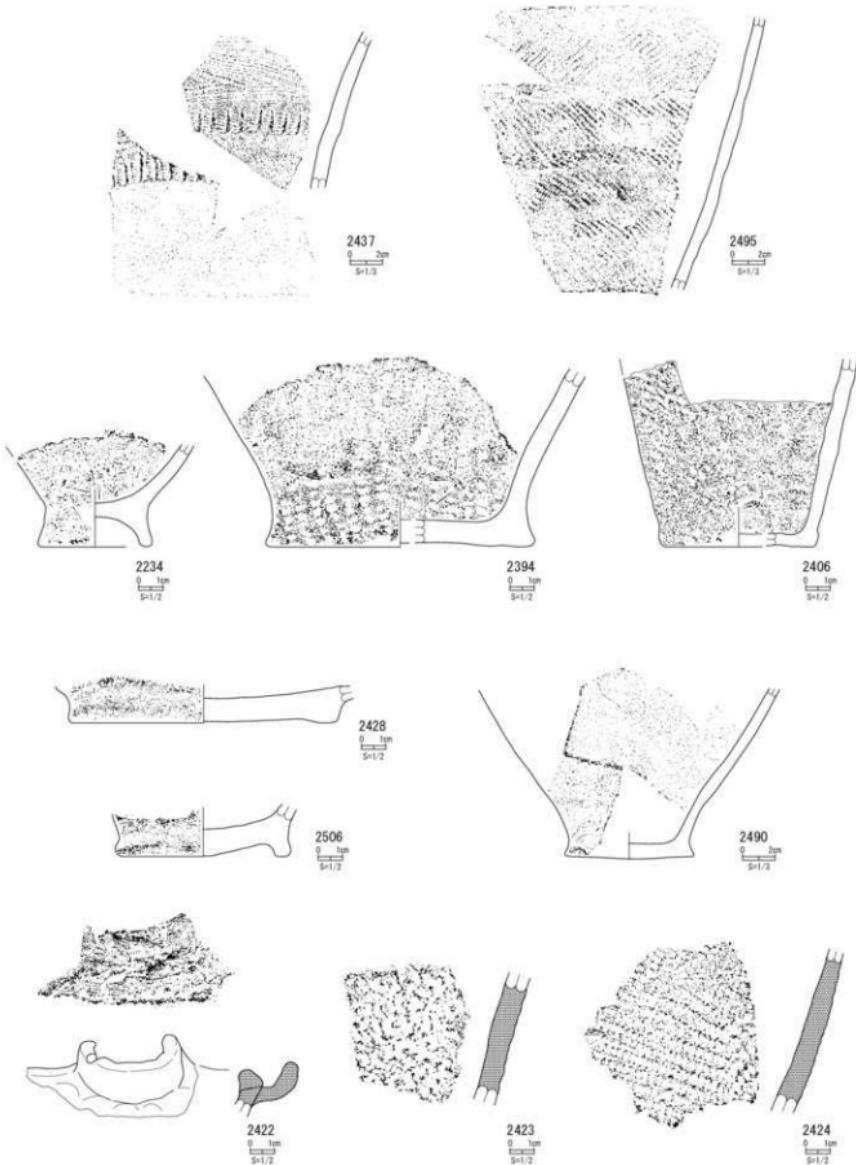




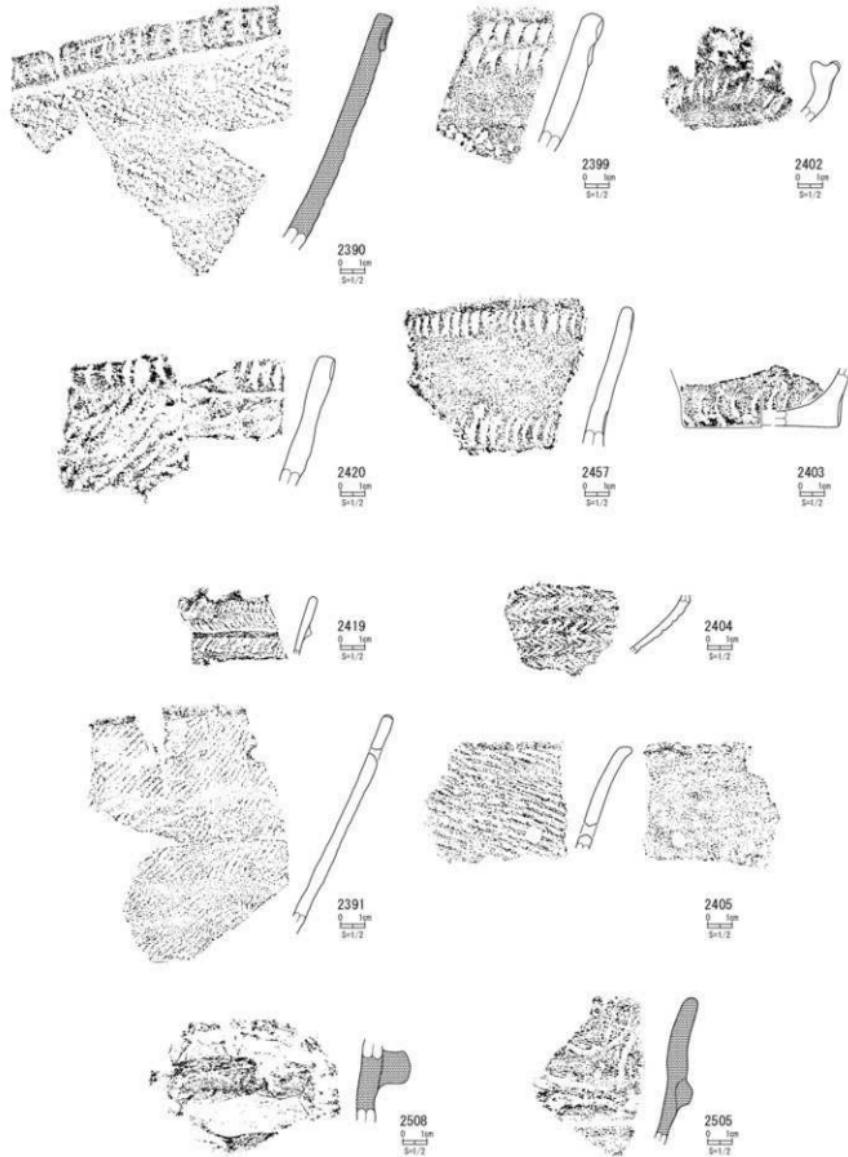
PJ092 号住居出土遺物



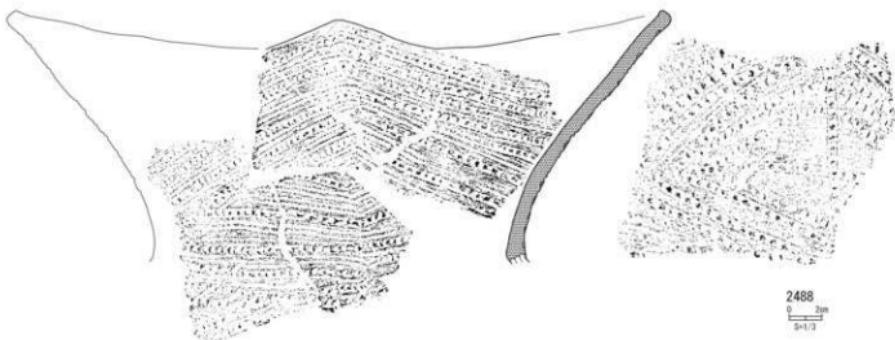
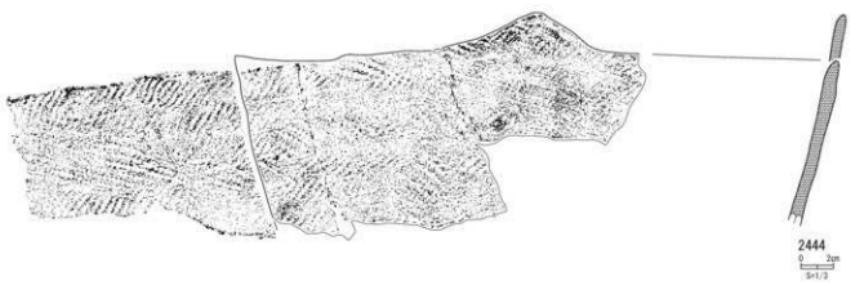
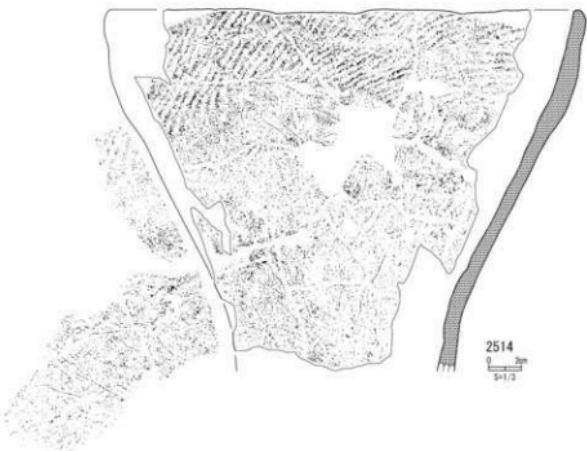
PJ092 号住居出土遺物



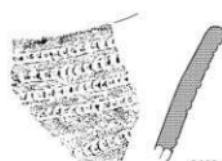
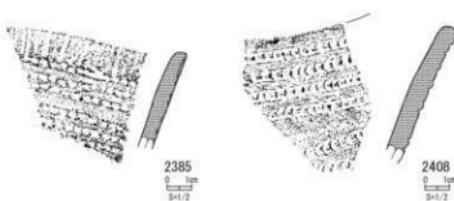
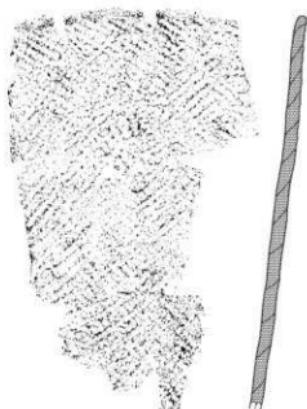
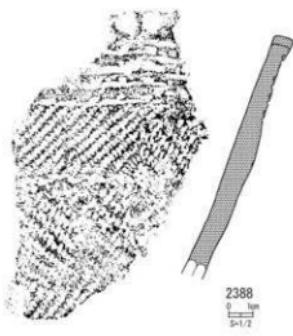
PJ092 号住居出土遺物



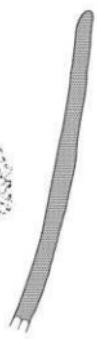
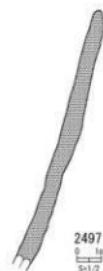
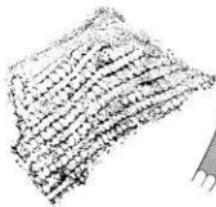
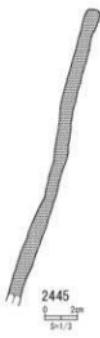
PJ092 号住居出土遺物



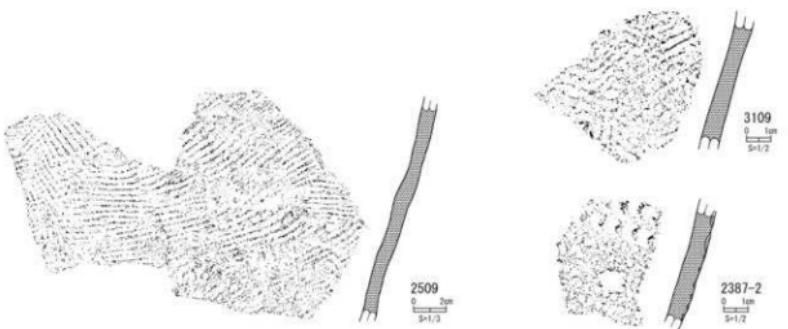
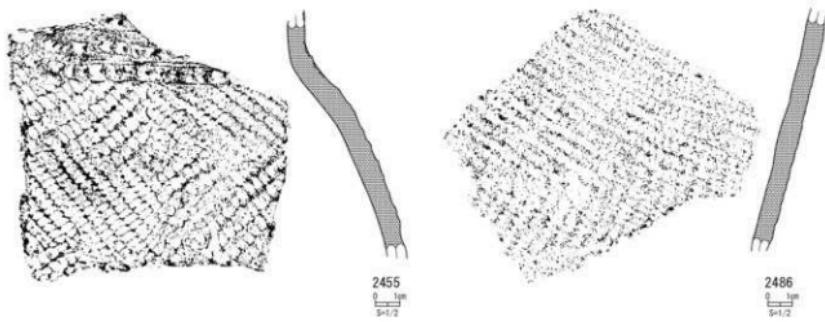
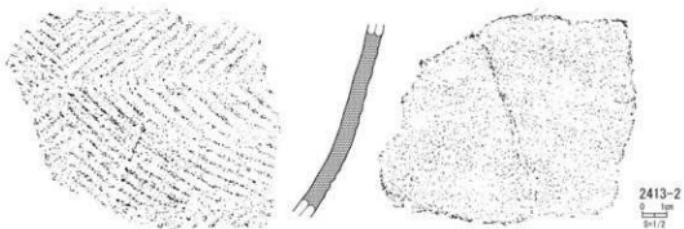
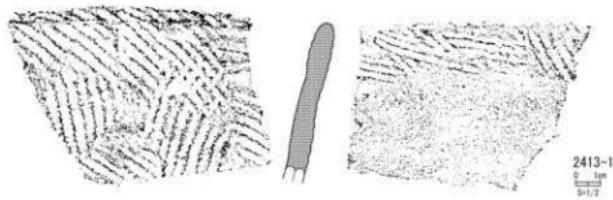
PJ092 号住居出土遺物



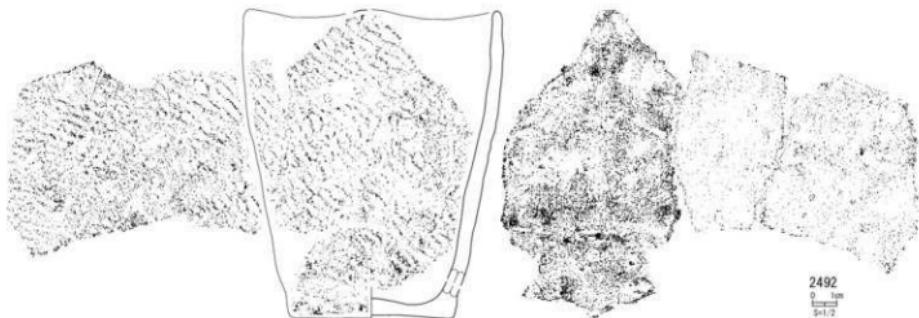
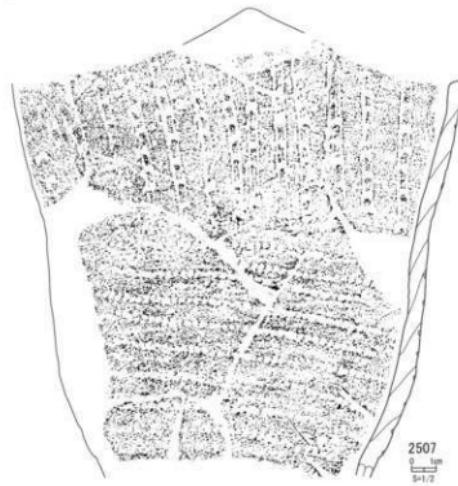
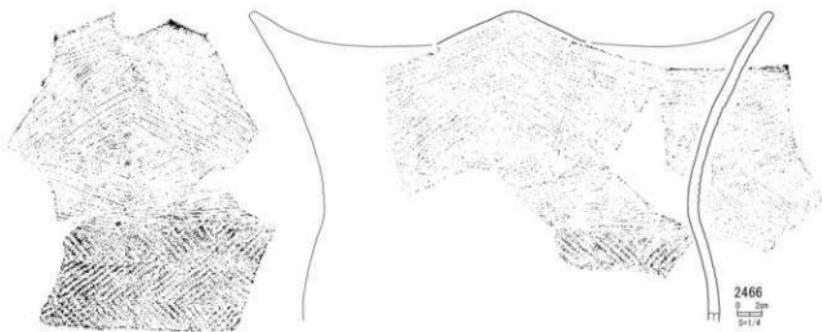
PJ092 号住居出土遺物



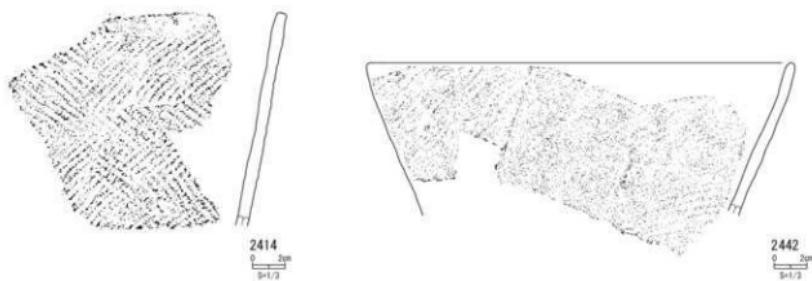
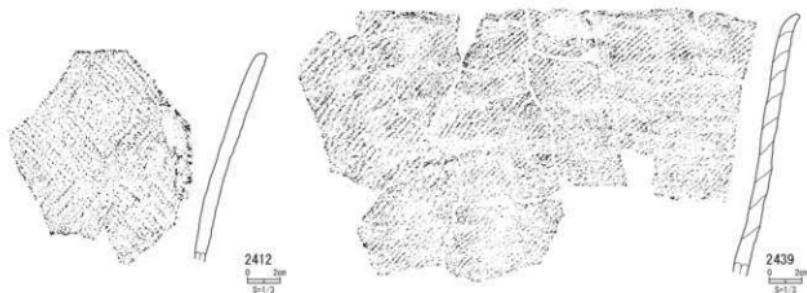
PJ092 号住居出土遺物



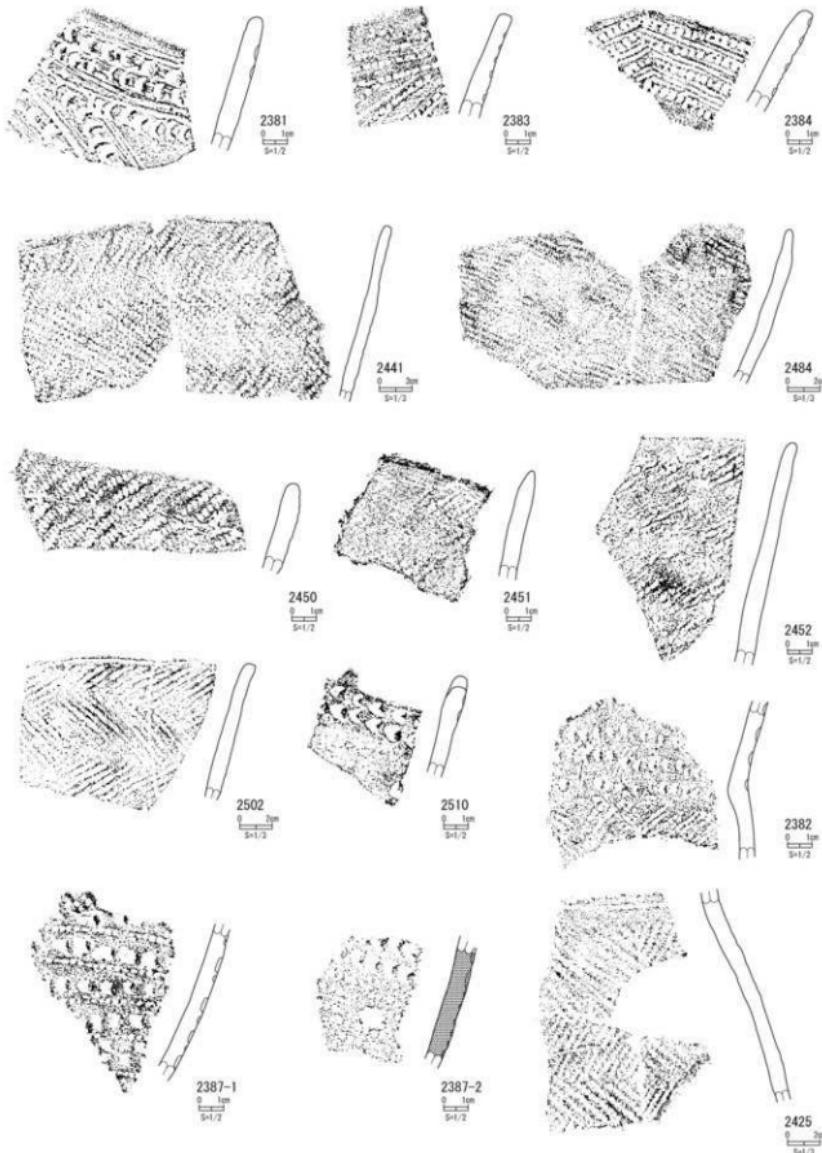
PJ092 号住居出土遺物



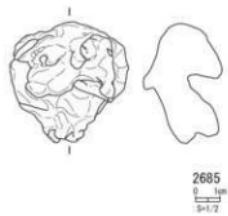
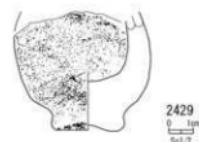
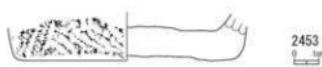
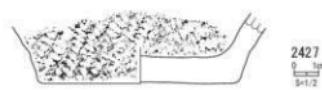
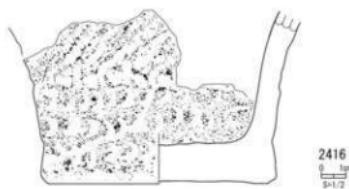
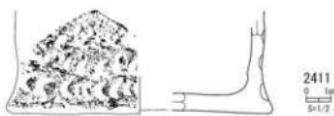
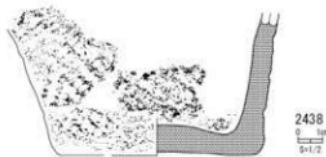
PJ092 号住居出土遺物



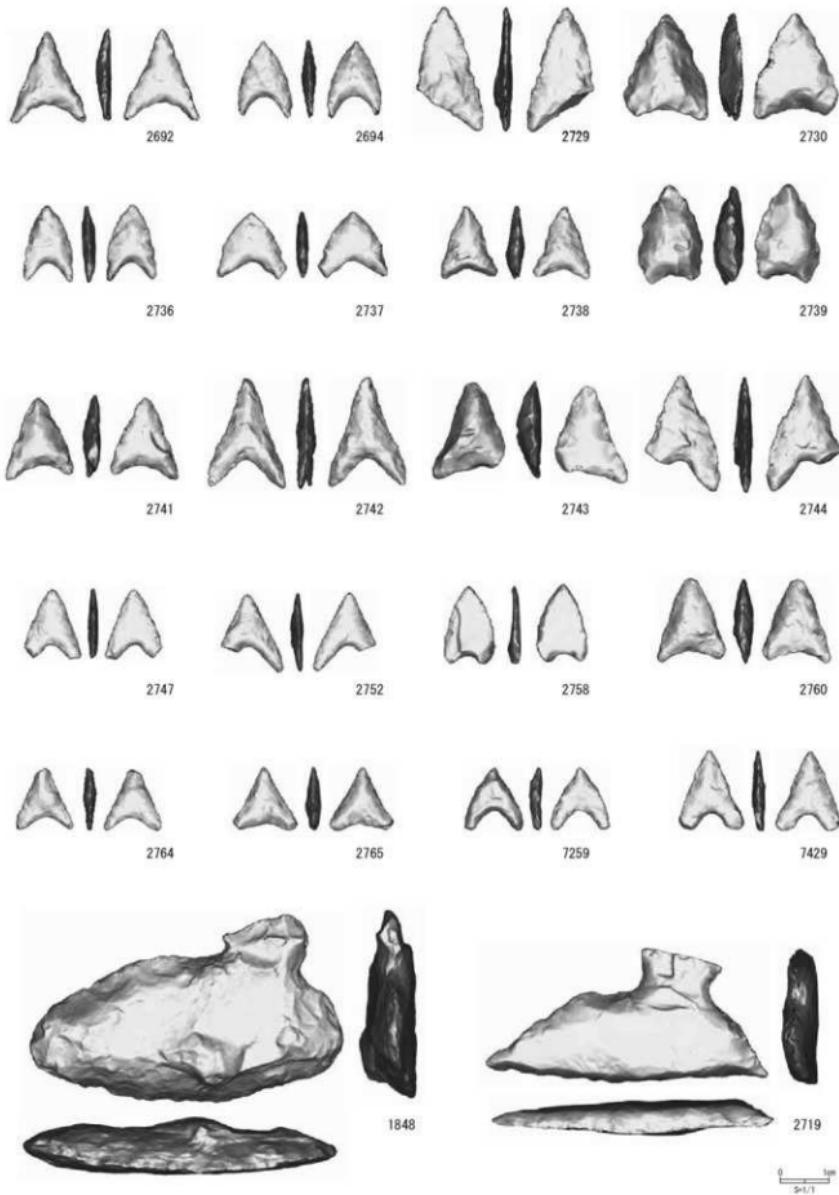
PJ092 号住居出土遺物



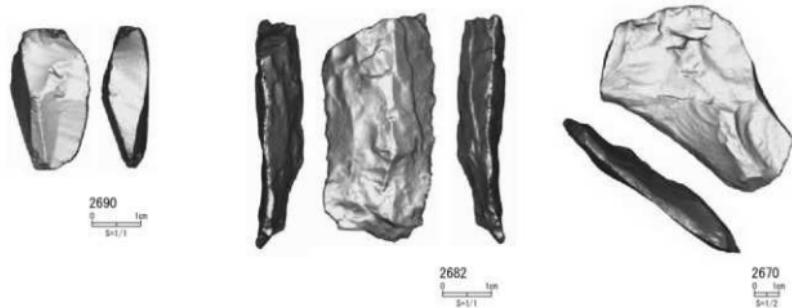
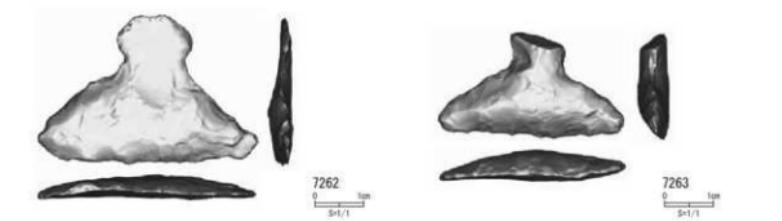
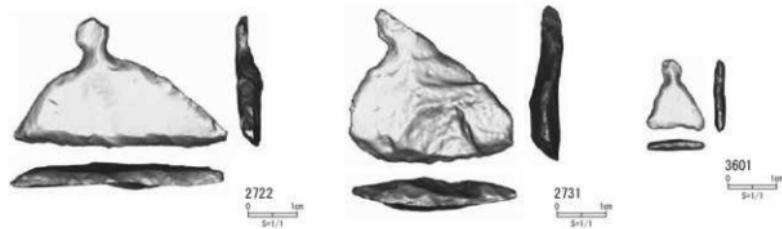
PJ092 号住居出土遺物



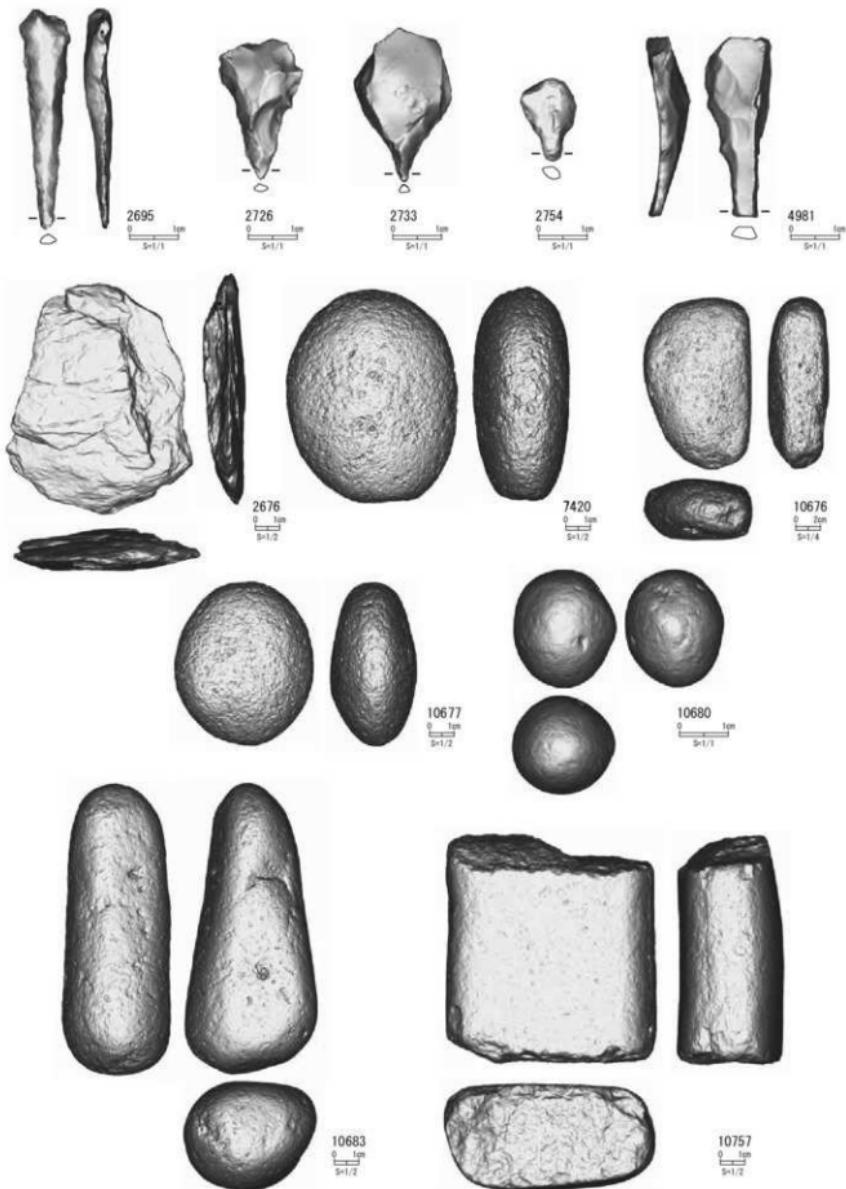
PJ092 号住居出土遺物



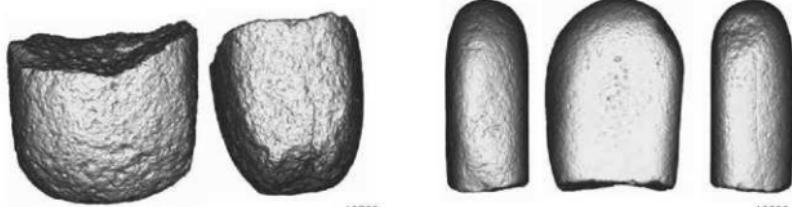
PJ092 号住居出土遺物



PJ092 号住居出土遺物



PJ092 号住居出土遺物

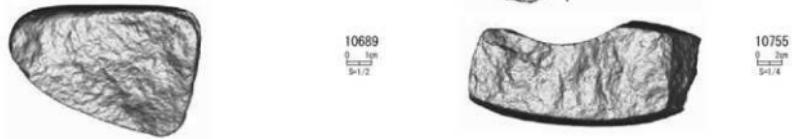


10760

0
1cm
3/4

10688

0
1cm
3/4

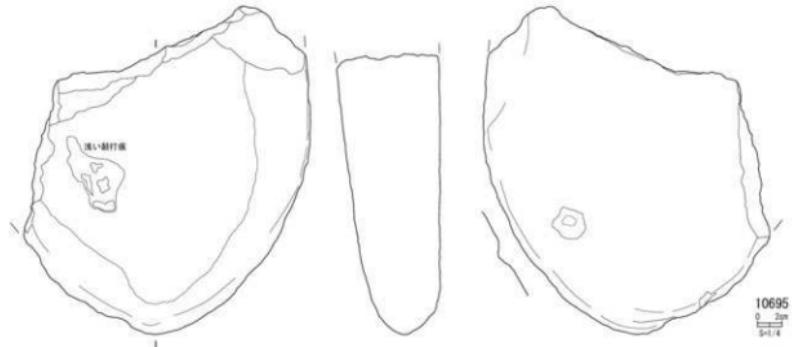


10689

0
1cm
3/4

10755

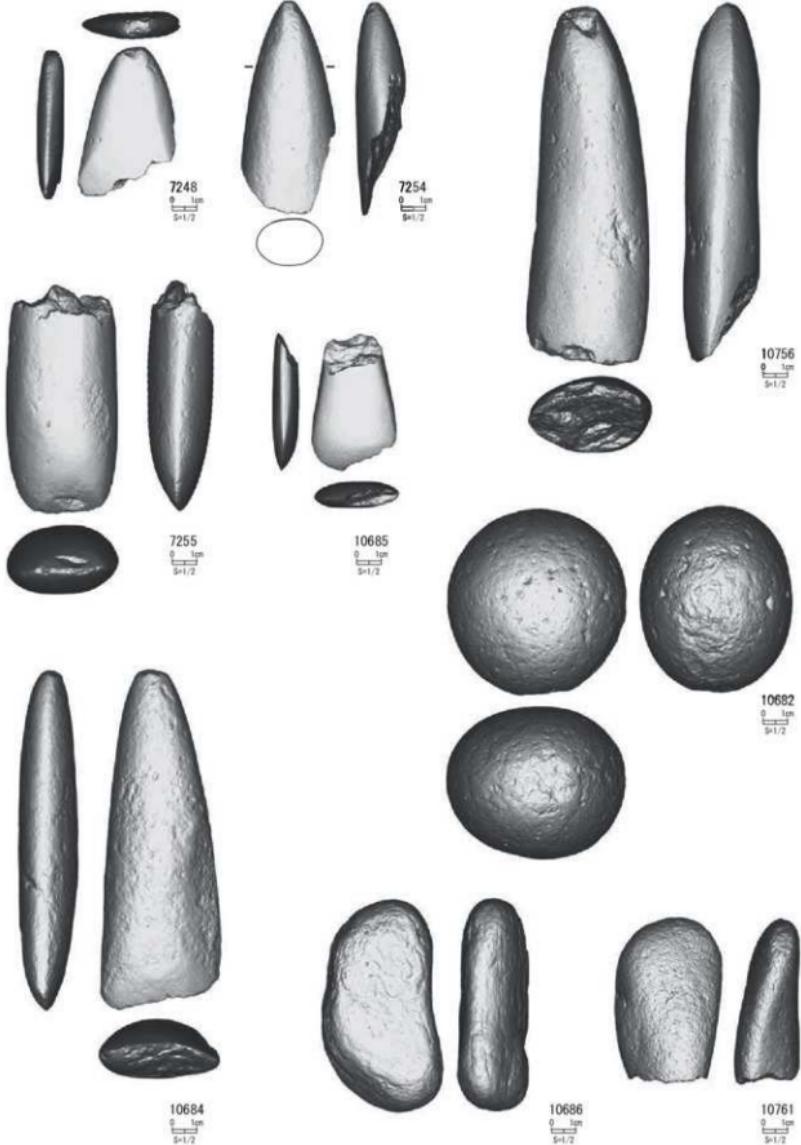
0
1cm
3/4



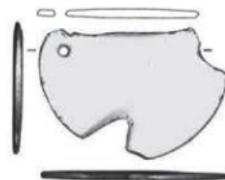
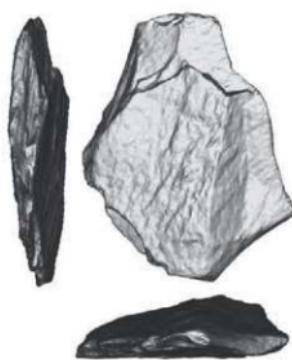
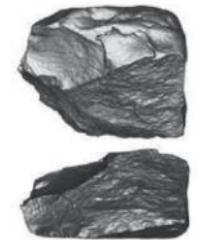
10695

0
1cm
3/4

PJ092 号住居出土遺物



PJ092 号住居出土遺物



PJ092 号住居出土遗物

PJ092 号住居 土器觀察表

実測 番号	注記	部位	口径 cm 縦	器高 cm 横	底径 cm 厚さ	重量	残存度	胎土色調 上段：内部 下段：外側	備考
2234	I-G-600	胴部～ 底部			4.7	53.0	破片	7.5YR5-/ 5YR5/6	脚付き底部。神ノ木式
2381	PJ-92	口縁部				46.0	破片	5YR6-/ 5YR4/2	波状口縁、幅広の竹管押印文。内面ヨコナデミガキ。胎土に織維を含まない。有尾式
2382	PJ-92 72	胴部				38.0	破片	5YR4/3 5YR5/6	Q38 胎土出土。爪彫形。縄文。内面ナデ。胎土に織維を含まない。土器
2383	PJ-92	口縁部				19.0	破片	5YR6-/ 5YR7/4	波状口縁、連点状刻突文。菱形構成。内面ヨコナデ。胎土に織維を含まない。有尾式
2384	PJ-92	口縁部				26.0	破片	5YR6-/ 5YR5/6	波状口縁。菱形構成の連点状刻突文と条線文。内面ナデミガキ。胎土に織維を含まない。有尾式
2385	PJ-92- SF-12	口縁部				25.0	破片	7.5YR6-/3 7.5YR7/4	波状口縁。S12の埋土。口縁部に縱次線。深く長い連点状刻突。内面ミガキ。胎土に織維を含む。有尾式
2386	PJ-92	口縁部～ 胴部				179.0	破片	7.5YR6/4 5YR4/3	波状口縁。角ばった口唇部。肥厚口縁。羽状縄文。内面ナデミガキ。胎土に織維を含まない。神ノ木式
2387-1	PJ-92	口縁部				27.0	破片	7.5YR6/4 5YR5/4	波状口縁。菱形構成の爪彫文と連点状刻突。内面ナデミガキ。胎土に織維を含まない。
2387-2	PJ-92	胴部				22.0	破片	7.5YR6/3 5YR6/5	竹管爪彫突。連点状刻突文。内面ナデミガキ。胎土に織維を含む。有尾式
2388	PJ-92 79	口縁部～ 胴部				96.0	破片	5YR5/4 5YR4/3	P1421 上。床面土。口唇部につまみ状の刻み。まばらな連点状刻突と沈線。菱形施文の純文。内面ナデミガキ。胎土に織維を少量含む。有尾式
2389	PJ-92	口縁部				23.0	破片	7.5YR7/4 7.5YR7/4	縄の束。内面ナデミガキ。胎土に織維を含む。神ノ木式
2390	PJ-92 29, J-6-1	口縁部～ 胴部			100.0	破片	5YR5/3 5YR4/2	0611 南東施。P97-7の植点付近の床面出土。波状口縁。S12の爪彫形。縄文。内面ナデミガキ。胎土に織維を少量含む。金之上 2式	
2391	PJ-92 42, I-5-24, I-6-4, I-6-10	口縁部～ 胴部			225.0	破片	2.5YR4/6 5YR3/2	住居南東施。P1434 上の床面出土。縄文。内面指頭圧痕。胎土に織維を含まない。飢塗室 23 式	
2393	PJ-92 33, I-6-10	口縁部			113.0	破片	5YR5/4 5YR4/3	S13 下。床面土。波状口縁。二つの小突起。縄文。内面指頭圧痕が残るナデ。胎土に織維を含まない。神ノ木式	
2394	PJ-92 58, I-5-24	胴部～ 底部			(11.0)	179.0	破片	5YR7/6 5YR7/6	P1421 夏。床面土。底部に輪状粘土による刻突文。わずかに上げ汽氣味の底面。胎土に織維を含まない。神ノ木式
2395	PJ-92	胴部				46.0	破片	7.5YR7/4 5YR5/4	条線文。つまみ状込み等。内面菱形の凹凸が残るナデ。堅壁は9mm。胎土に多量に織維を含む。中越式
2396	PJ-92	口縁部～ 胴部				62.0	破片	5YR5/4 5YR4/3	口唇部に刻み。口唇部が肥厚。頭部につまみ状隆帯。格子目文。内面指頭圧痕が盛るヨコナデ。堅壁は口縁部が8mm。胴部が5.6mm。胎土に織維を含まない。木鳥式
2397	PJ-92 46	口縁部				18.0	破片	5YR4/3 5YR4/2	住居南施。DK648 下の床面出土。輪筋小刻みを残したよう口縁部。かすかな純文。内面ナデミガキ。胎土に織維を含まない。神ノ木式
2398	PJ-92	口縁部				41.0	破片	5YR6-/4 5YR4/3	やや角ばった口唇部。肥厚する口唇部に深い刻突。縄文。内面縦横筋痕がやや残るヨコナデ。胎土に織維を含まない。神ノ木式
2399	PJ-92	口縁部				31.0	破片	7.5YR7/4 5YR6/4	口縁部に大柄の爪彫形。網目 RLR 純文。内面ヨコナデ。胎土に織維を含まない。神ノ木式
2402	PJ-92	口縁部				12.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR6/6	口唇部の小突起と刻みのある円形突起。爪彫形。胎土に織維を含まない。室之上 2式
2403	PJ-92 35	胴部～ 底部			6.4	24.0	破片	5YR7/4 5YR6/4	Q38 胎土出土。底部に大柄爪彫形。内外面ミガキ。胎土に織維を含まない。室之上 2式
2404	PJ-92 35, J-6-22	胴部				11.0	破片	5YR6/6 5YR6/6	ヘラ状工具による矢羽状短辺縫。内面指頭圧痕がやや残るナデ。堅壁は4.5 mm。胎土に織維を含まない。上の柄式
2405	PJ-92, PJ-95, J-6-2	口縁部				100.0	破片	2.5YR4/3 5YR3/3	縄文。内面指頭圧痕。胎土に織維を含まない。飢塗室 23 式
2406	PJ-92	胴部～ 底部			(6.2)	77.0	破片	7.5YR4/2 5YR4/1	かすかな底面。底部に刻み。上げ汽氣味の底面。胎土に織維を含まない。神ノ木式
2408	PJ-92	口縁部				31.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR6/6	やや角ばった口唇部。爪彫押印文。内面ミガキ。胎土に織維を含む。有尾式
2409	PJ-92	口縁部～ 胴部				22.0	破片	5YR6/6 2.5YR6/6	やや口縁部が肥厚。頭部に刻み等。格子目文。内面指頭圧痕。堅壁は口縁部で7mm。胴部で5mm。胎土に織維を含まない。木鳥式
2410	PJ-92, I-5-20, I-5-15	口縁部				129.0	破片	7.5YR7/4 7.5YR6/4	波状口縁。縄文。内面輪筋込みの底面。内面輪筋化。胎土に織維を含まない。神ノ木式
2411	PJ-92, I-6-5	胴部～ 底部			11.0	52.0	破片	5YR6/6 5YR5/4	濃削りの爪彫形。上げ汽氣味の底面。内面ヨコナデ。胎土に織維を含まない。有尾式
2412	PJ-92 50, PJ-92, I-6-5	口縁部～ 胴部				220.0	破片	7.5YR6-/4 5YR4/3	P1529 西。床面から16cm浮いて出土。口唇部。内外面に縄文。菱形施文。内面ヨコナデ。胎土に織維を含まない。有尾式
2413-1	PJ-92, I-6-4	口縁部				143.0	破片	5YR6-/6 7.5YR5/6	南壁近く。床面から13cm浮いて出土。口唇部。内外面に縄文。菱形施文。内面ヨコナデ。胎土に織維を含む。有尾式
2413-2	PJ-92 57, I-6-4	胴部				97.0	破片	5YR6/6 7.5YR5/6	菱形構成の純文。内面ヨコナデ。胎土に織維を含む。有尾式
2414	PJ-92 61	口縁部～ 胴部				472.0	破片	5YR4/6 5YR4/4	P1421 上。床面から16cm浮いて出土。P1422とともに出土。角ばった口唇部。菱形施文の純文。内面指頭圧痕が残るヨコナデ。胎土に織維を含まない。有尾式

PJ092 号住居 土器觀察表

実測番号	注記	部位	口径 cm 縦	器高 cm 横	底径 cm 厚さ	重量	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外側	備考
2416	PJ-02, PJ-02 41, PJ-02 35	胴部～ 底部			(9.7)	173.0	破片	7.5/84/2 7.5/84/4	SDB 個体出土。縦文、底部に爪跡文。上げ底気味の底面。胎土に織維を含まない。有尾式
2417	PJ-02	胴部				37.0	破片	7.5/87/6 7.5/86/4	蛇行する条線文。内面ヨコナデ。胎土に織維を含む。中越式
2418	PJ-02	口縁部				12.0	破片	7.5/87/6 7.5/86/4	条線文。内外整形の凹凸が残る。胎土に織維を多量に含む。中越式
2419	PJ-02	口縁部				6.0	破片	5/85/4 5/80/2	波打つような口縁部。垂直線と重複した爪跡文。爪跡文をヨコナデして埋消。内面ヨコナデ。胎土に織維を含まない。北白川下層ノ式
2420	PJ-02	口縁部				49.0	破片	7.5/84/2 7.5/83/2	口縁部に爪跡文。縦筋が底が残り、横筋に縦文と押捺。胎土に織維を意識した施文式。内面整形の凹凸が残るヨコナデ。赤彩が残る。胎土に織維を含まない。堂之上式
2422	PJ-02	口縁部				33.0	破片	7.5/89/2 7.5/85/3	片口注入部破片。胎土に織維を多量に含む。間山式
2423	PJ-02	胴部				31.0	破片	10/82/1 7.5/84/3	末端襤付き縦文。内面ミガキ。胎土に織維を多量に含む。間山式
2424	PJ-02 42	胴部				46.0	破片	7.5/85/3 7.5/87/2	住居南東角。PT140上、床面出土。菱形施文の縦文。内面ミガキ。胎土に織維を多量に含む。間山式
2425	PJ-02, 10-0004, DK-615, 1-6-10, 1-6-4, 1-6-5, 1-5-21, 1-5-24, 1-5-25	胴部				770.0	破片	7.5/87/6 7.5/87/4	住居南半分の埋土上層に散在して出土。頭部に連点状刻文。施文式の縦文。内面ヨコナデ。胎土に織維を含まない。有尾式
2427	10-6999	胴部～ 底部			(8.4)	114.0	破片	5/86/6 5/86/6	縦文。上げ底気味の底面。有尾式
2428	10-6880	底部			(11.2)	196.0	破片	5/85/3 5/86/6	P62 北東角。埋土出土。上げ底気味の底面。胎土に織維を含まない。神ノ木式
2429	10-6855	胴部～ 底部			2.6	97.0	3/4	10/82/2 10/82/2	北壁沿い。床面から69cm浮いて出土。上げ底の底面。胎土に織維を含まない。
2437	10-7007, 10-6947, J-5-21, J-5-22	胴部				215.0	破片	5/86/6 7.5/85/4	PT140 東北。床面から20cm浮いて、東壁近く床面から70cm浮いてそれぞれ破片が出た。直筒型工具を址として縦文。菱形構成の条線文。刻文式。内面ミガキ。胎土に織維を含まない。神ノ木式
2438	PJ-02, 10-5, 10- 7001, J-5-21	胴部～ 底部			8.2	701.0	破片	10/82/1 5/85/6	PT144 北西。床面から19cm浮いて出土。縦文。上げ底気味の底面。胎土に織維を含む。有尾式
2439	PJ-02 12, PJ-90	口縁部～ 胴部				496.0	破片	5/82/3 5/82/2	住居南東角。床面から4cm浮いて出土。斜線文。内面輪轉模様と直形の凹凸があるヨコナデ。胎土に織維を含まない。有尾式
2440	10-6948, J-6-1	口縁部～ 胴部				299.0	破片	5/85/6 5/84/3	PT142 南東。床面から57cm浮いて出土。要割施文の縦文。内面整形の凹凸が残るヨコナデ。胎土に織維を含む。有尾式
2441	PJ-00 35, PJ-96 23, PJ-96 70, PJ- 96	口縁部～ 胴部				314.0	破片	5/84/4 5/82/2	PT145 北。床面から15cm浮いて出土。やや角張った口唇部。複雑な菱形施文の縦文。内面黒化。胎土に織維を含まない。有尾式
2442	PJ-96 14, PJ-96 15, PJ-92, 10- 6899	口縁部～ 胴部			(26.4)	179.0	破片	5/86/6 5/84/3	PT144 北西。床面から11～21cm浮いて土器248号とともに出土。角ばった口唇部のみ縦文。内面輪轉模様がやや残る。内面黒化。胎土に織維を含まない。有尾式
2444	PJ-02 40, PJ- 92 71, PJ-02 72, J-6-4	口縁部			(37.2)	433.0	破片	5/84/6 5/84/4	PT146 南端。床面から5cm浮いて出土。小突起。難な菱形施文の縦文。内面整形の凹凸があるヨコナデ。胎土に織維を含む。有尾式
2445	PJ-02 75, PJ-02	口縁部～ 胴部				324.0	破片	5/85/4 5/80/1	住居北東沿い。DK-615 南東脇、床面から15cm浮いて出土。難な菱形施文の縦文。内面輪轉模様がやや残る。内面ヨコナデ。胎土に織維を含む。有尾式
2446	PJ-96 43, PJ-96 29, PJ-96 10, PJ- 92, 10-7005	胴部			41.0	580.0	破片	2.5/84/6 2.5/84/4	PT147 1周辺。床面から6～12cm浮いて出土。角ばった口唇部。複雑な菱形施文の縦文。内面輪轉模様がやや残る。内面整形の凹凸が残るヨコナデ。胎土に織維を含む。有尾式
2448	PJ-96 30	口縁部				226.0	破片	7.5/86/6 7.5/84/3	PT142 東脇。床面から4cm浮いて出土。波状口縁。波状底部がやや側面に傾く。斜めに口縁取りした口唇部。内面ミガキ。胎土に織維を多量に含む。有尾式
2449	PJ-96 66	口縁部				49.0	破片	5/86/6 5/84/6	PT145 2。床面から10cm浮いて出土。波状口縫。角ばった口唇部。縦文。内面ミガキ。胎土に織維を含む。有尾式
2450	PJ-96 22	口縁部				34.0	破片	5/86/6 5/85/4	PT145 北。床面から12cm浮いて出土。波状口縫。縦文。内面ヨコナデ。胎土に織維を含まない。有尾式
2451	PJ-96 42	口縁部				25.0	破片	7.5/84/2 7.5/82/2	PT141 西脇。床面から7cm浮いて出土。波状口縫。外縫形の凹凸がやや残る。かすかな縦文。内面ヨコナデ。胎土に織維を含まない。有尾式
2452	PJ-96 71	口縁部				37.0	破片	5/86/6 5/84/3	PT146 1上。床面出土。爪跡押引き。菱形施文の縦文。内面ミガキ。胎土に織維を含まない。有尾式
2453	PJ-96 59	胴部～ 底部			9.6	143.0	破片	7.5/87/4 7.5/86/6	北壁沿い。床面から15cm浮いて出土。羽状縞文。上げ底気味の底面。胎土に織維を含まない。有尾式
2455	PJ-96 38, J-5-16	胴部				139.0	破片	7.5/86/4 7.5/85/4	PT146 1上。床面出土。爪跡押引き。菱形施文の縦文。内面ミガキ。胎土に織維を含む。有尾式
2457	PJ-02	口縁部				40.0	破片	7.5/85/4 5/80/2	大柄の口部文式。内面ヨコナデ。器壁は7mm。胎土に織維を含まない。堂之上式
2466	PJ-96 59, PJ-96 16, PJ-02, 10- 6882, 10-6883, 10- 6884, 1-6-24, J-5- 16, J-5-21, J-6-2, 10-6890	口縁部～ 胴部			43.0	1,858.0	破片	5/85/4 7.5/84/3	北壁沿い。床面から15～36cm浮いて出土。波状口縫。角ばった口唇部。ヘラ等工具をなすつけた凹線で菱形文を構成。肩部は菱形施文の縦文。内面指痕がやや残るヨコナデ。胎土に織維を含まない。有尾式

PJ092 号住居 土器觀察表

実測 番号	注記	部位	口径 cm 横	器高 cm 横	底径 cm 厚さ	重量	残存度	胎土色調 上段：内部 下段：外側	備考
2483	PJ-98 11	肩部～ 底部			8.2	83.0	破片	7.5YR3/1 SYR6/6	上げ底気味の底面。底部に竹管痕形文。胎土に繊維を含まない。有尾式
2484	PJ-98 17, PJ-98 15, PJ-98 32	口縁部 ～肩部				159.0	破片	7.5YR3/1 7.5YR2/2	北西角付辺。底面から5～15cm浮いて出土。内外面に輪郭ひだがやや残る。内面指頂圧痕。胎土に繊維が残じない。有尾式
2486	PJ-98 9, IG-7009	肩部				200.0	破片	SYR4/3 SYR4/4	PJ1504 北。床面から27cm浮いて出土。羽状縞文もしくは複数の菱形施文の純文。内面ヨコナデ。胎土に繊維を含む。有尾式
2488	PJ-92, IG-6800, DK-615, J-5-1, IG-6800, J-5-21, IG-7002	口縁部	39.8			833.0	破片	SYR6/6 SYR4/3	PJ1444 北西。床面から15～25cm浮いて出土。波状口縁。波状文と平行弦形で輪郭を構成。表面的に十字耐衝文。内面ではねみガキ。胎土に繊維を多量に含む。有尾式
2490	PJ-92 74, J-6-1, J-6-2, J-5-15, I-4-4	肩部～ 底部			(8.0)	196.0	破片	10YR5/3 10YR5/3	北東壁沿い。床面から29cm浮いて出土。底成がよく内外面風化。無文。やや出張る底面。胎土に繊維を含まない。中越式と神ノ木式が折衷?
2492	PJ-98 39, PJ-98 41, IG-7009, J-5- 16, I-6-4	口縁部 ～底部	14.0	12.6	6.6	252.0	破片	7.5YR3/1 SYR2/2	PJ1461 北船。床面から1～24cm浮いて出土。難な網文施文。底部底面はやや上げ底気味。胎土に繊維を含まない。有尾式
2493	PJ-1433, PJ-70, PJ-64, PJ-92, PJ- 98 30, PJ-98 15, IG-6800, J-5-21, K-6-11	口縁部	(33.2)			712.0	破片	SYR6/6 7.5YR5/6	PJ1433 のほか各所に破片が散らばって出土。肥厚口縁。崩れた羽状縞文の純文。網文。表面形が底面か不明。内面は整形成が残るミガキ。ナデ。堅物は肥厚口縁部が9mm。頭部は5～6mm。胎土に繊維を含む。前期初頭の中道式へ後続する傾斜か、もしくは神ノ木式併行
2494	IG-684	口縁部 ～肩部				212.0	破片	7.5YR5/4 SYR2/4	PJ-98 東北角。埋土。内外面整形成が残る。外縁は縦、横、斜めにナデ。内面は指頂圧痕。胎土に繊維を少量含む。中越式
2495	PJ-98 26, PJ-98 29, PJ-98 66	肩部				221.0	破片	SYR6/6 SYR4/4	北西角付辺。床面から5～10cm浮いて出土。羽状縞文。内外面輪郭ひだが残る。内面ヨコナデ。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
2497	IG-6800, J-5-21	口縁部 ～肩部				72.0	破片	SYR8/2 SYR4/4	DK615 北西船。床面から18cm浮いて出土。網文。外縁に輪郭ひだがくつかず。内面指頂圧痕とヨコナデ。胎土に繊維を含む。有尾式
2498	PJ-92 74	肩部				199.0	破片	7.5YR3/6 SYR4/3	北東壁沿い。床面から29cm浮いて土着と800とともに出土。難に施された複数縞。内外面整形成の凹凸が残る。内面ヨコナデ。胎土に繊維を多量に含む。中越式
2499	PJ-92	口縁部				110.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR4/2	内外面整形成の凹凸がやや残るヨコナデ。胎土に繊維を多量に含む。中越式
2500	PJ-92 30, PJ-92, I-5-20, I-6-21, I-6-5, I-6-10, J-6-1	口縁部				244.0	破片	5YR5/4 7.5YR4/2	PJ1430 上。床面から14cm浮いて出土。内外面凹凸がやや残るヨコナデ。胎土に繊維を含まない。中越式
2501	PJ-92	口縁部 ～肩部				418.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR4/3	内外面整形成の凹凸。指頂圧痕が残る。胎土に繊維を多量に含む。中越式
2502	PJ-98 31	口縁部				175.0	破片	SYR4/6 SYR4/4	PJ1461 東船。床面から4cm浮いて出土。要衝文の純文。内面指頂圧痕がやや残るヨコナデ。胎土に繊維を含まない。有尾式
2503	PJ-98 10	口縁部 ～肩部				253.0	破片	2.5YR3/3 SYR3/2	PJ1504 北。床面から13cm浮いて出土。斜縞文。内面ヨコナデ。胎土に繊維を含む。有尾式
2505	PJ-98	口縁部				21.0	破片	7.5YR6/6 SYR5/6	幅広で厚いガ状隆帯。内面ナデミガキ。胎土に繊維を多量に含む。下吉井式
2506	PJ-98	底部			(7.2)	60.0	破片	7.5YR4/1 7.5YR6/6	上げ底底部。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
2507	PJ-98 71, PJ-98 72, PJ-98 34, PJ- 92, PJ-70, PJ-67, I-5-20	口縁部 ～肩部	(38.4)			280.0	破片	SYR5/4 SYR5/4	PJ1461 上。床面出土。複位の爪形押引き文。模様は連点状刺突文。内面輪郭ひだがやや残るヨコナデ。胎土に繊維を含まない。有尾式
2508	PJ-92	肩部				152.0	破片	7.5YR7/4 7.5YR4/2	太く厚いガ状隆帯。内面指頂圧痕が残るナデ。胎土に繊維を多量に含む。下吉井式
2509	PJ-92 54, PJ-92 -10-6888, I-6-4,	肩部				419.0	破片	7.5YR5/4 7.5YR4/4	PJ1503 南船。床面から9cm浮いて出土。難な要衝施文の純文。内面指頂圧痕がやや残るヨコナデ。胎土に繊維を多量に含む。有尾式
2510	PJ-92	口縁部				338.0	破片	7.5YR5/3 7.5YR2/2	波状口縁。角ばった口唇部に小突起。爪彫文。内面ヨコナデ。胎土に繊維を含まない。有尾式
2514	PJ-98 10, PJ-98 74, PJ-98 22, PJ- 98 61, PJ-98 2, PJ- 98 75, PJ-98 28 72, PJ-98 27, PJ- 98 96	口縁部 ～肩部	(29.0)			1,181.0	破片	7.5YR3/1 SYR5/4	地床坪の北西 1m 附近。床面と床面から10cm浮いた地点に散在して出土。口縫形に純文。外縁は擦痕が残るタテナギ模様。内面は成形の凹凸が残る。胎土に繊維を多量に含む。有尾式併行
2515	PJ-98 42	肩部～ 底部			7.6	130.0	破片	7.5YR3/1 2.5SYR4/6	PJ1461 西船。床面から7cm浮いて出土。羽状縞文。内面凹凸がやや残るヨコナデ。胎土に繊維を含まない。有尾式
2685	PJ-92 44	燒成粘 土壤	5.0	4.8	3.2	56.0	完形	7.5YR6/4 7.5YR3/1	指頭が残る。繊維は窓入しない。胎土質は神ノ木式土器に類似する。
2724	PJ-98 24, PJ-92 31, IG-6800, I-6- 10	口縁部 ～肩部	(40.0)			2,068.0	1/3	SYR5/6 SYR4/6	東壁近く。PT1438 上。床面から27cm浮いて出土。難な要衝施文？結節縞文。内面指頂圧痕が残る。胎土に繊維を含まない。有尾式
3109	PJ-92	肩部				38.0	破片	SYR5/6 SYR5/6	難な要衝施文の純文。内面ヨコナデ。胎土に繊維を含む。有尾式
3112	PJ-92	口縁部				30.0	破片	7.5YR6/6 10YR4/2	波状口縁。口縁部に縞縫の連点状刺突文。要衝形の平行弦と連点状刺突文。内面ヨコナデ。胎土に繊維を多量に含む。有尾式
3113	PJ-98	口縁部	14.0			23.0	破片	7.5YR5/6 7.5YR4/4	角ばった口唇部。縦く深くX字縫で内縫縫と横模様沈縫。純文。内面平滑にナデ調が残る。胎土に繊維を含む。有尾式併行

PJ092 号住居 石器觀察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
1848	PJ-94 12	石匙	安山岩	1/1	40.0	64.0	11.0	28.30	PJ092 南東角。PT1466 東 1m の埋土下層出土。片刃。刃部にわずかな微小剥離と流れ。黒色斑定安山岩
2668	PJ-92 7	研磨器	M2/2bII	1/1	118.0	147.0	69.0	1229.20	PT1461 北端。床面から 35 cm 浮いて出土。墨角鍬を剥離した縁辺に刃部調整。砂皮灰瓦器系ホルンフルス
2669	PJ-92 9	剥離のある 剝片	頁岩	3/4	96.0	83.0	22.0	202.40	北壁の少し、床面から 331 cm 浮いて出土。円錐の板状剝片の 1 边に調整剥離。側面 1 面に耐打流れ。初期的な打裂石斧か。
2670	PJ-92 6	削器	頁岩	1/1	58.0	91.0	14.0	74.20	剝片の薄い縁辺に刃部調整。片刃、微小剥離、摩耗。黄色く風化し使用痕不明瞭。
2671	PJ-92	剥離のある 剝片	M2/2bII	1/1	62.0	75.0	16.0	72.30	剝片の薄い 1 边に調整剥離。黄色く風化し使用痕不明瞭。
2672	PJ-92 76	剥離のある 剝片	砂岩	1/1	81.0	103.0	29.0	267.40	PT1422 西端。床面から 15 cm 浮いて出土。円錐の剝片の 2 边に剥離。細胞的な砂岩
2673	PJ-92 56	研磨器	砂岩	1/1	82.0	61.0	19.0	150.00	南壁の少し、床面から 26 cm 浮いて出土。墨角鍬の両端部に剥離、耐打流れ。硬砂岩
2674	PJ-92	剥離のある 剝片	砂岩	1/1	57.0	47.0	18.0	64.80	墨角鍬の 1 边に縫隙調節の調整。対応端部に耐打痕。側に使用痕?不明瞭。
2675	PJ-92 40	剥離のある 剝片	頁岩	1/1	91.0	100.0	23.0	200.30	PT1463 南端。床面から 8 cm 浮いて出土。板状剝片の 1 边に縫隙調節の誤差。初期的な打裂石斧か? 黄色く風化し使用痕不明瞭。
2676	PJ-92 21	打裂石斧	頁岩	1/1	95.0	77.0	17.0	128.90	PT1529 西端。床面出土。薄く剥がれた石材を両面打打法によらずに調整剝離。刃部摩耗。黄色く風化し使用痕不明瞭。
2677	PJ-92 59	研磨器	M2/2bII	1/1	121.0	125.0	43.0	888.20	PT1421 東 1m、床面出土。薄い研磨剝片の 1 边に片刃の刃削。
2678	PJ-92 51	原石	黒曜石					56.90	PT1503 北端。床面から 10 cm 浮いて出土。ズリ、透明系黑曜石
2679	PJ-92 32	原石	黒曜石					66.80	PT1426 北東、東壁沿い。床面出土。ズリ。漆黒黒曜石
2680	PJ-92	剥離のある 剝片	珪質頁岩	1/1	39.0	55.0	12.0	19.30	剝片の半円状に外寄する縁辺に微小剥離。青灰色珪質頁岩
2681	PJ-92	剥離のある 剝片	珪質頁岩	1/1	47.0	34.0	7.0	8.80	剝片の薄い縁辺に微小剥離。青灰色珪質頁岩。
2682	PJ-92	削器	珪質頁岩	1/1	23.0	46.0	10.0	11.20	削形三角形の複数剝片の長辺 2 边に片刃の刃削調整、微小剥離。白筋のある青灰色珪質頁岩。
2683	PJ-92	原石	黒曜石					8.10	板状ズリ、透明系黑曜石
2684	PJ-92 52	剥離のある 剝片	頁岩		31.0	33.0	13.0	7.11	PT1503 南 1m、床面出土。厚い素材の両面を四方から調整。石礫ブランクか。黄褐色で致密な頁岩。搬入石材
2685	PJ-92	両極石器	黒曜石	1/1	29.0	10.0	14.0	6.40	ズリ面が残る厚手剝片の両端に衝撃剝離。透明系黑曜石
2686	PJ-92	剥離のある 剝片	黒曜石	1/1				4.20	ズリ面が残る剝片の両面を四方から調整。1 边に微小剝離。漆黒黒曜石
2687	PJ-92	剥離のある 剝片	珪質頁岩	1/1	26.0	34.0	8.0	6.30	剝片の薄い縁辺に微小剝離。白筋のある青灰色珪質頁岩
2688	PJ-92	剥離のある 剝片	珪質頁岩	破片				4.60	石鉋の体部破片のような形状。刃部は刃刃、鋸齒線。白筋のある青灰色珪質頁岩
2689	PJ-92	剥離のある 剝片	黒曜石	1/1				3.60	ズリ面が残る剝片の 1 边に微小剝離。漆黒黒曜石
2690	PJ-92	両極石器	黒曜石	1/1	30.0	12.0	10.0	5.10	長方形の跡の両端に衝撃剝離。透明系黑曜石
2691	PJ-92	石器	黒曜石	1/2				1.49	未完成品。ズリ面が残る素材の両面を四方から調整。半分欠損。三角形ができた跡か。漆黒黒曜石
2692	PJ-92 土サ ンプル①	石器	黒曜石	1/1	18.7	15.3	3.0	0.45	PT1421 東端。埋土出土。凹基、両面加工。素材の反りが残る。漆黒黒曜石
2693	PJ-92 土サ ンプル①	石器	黒曜石	3/4	21.9	-	6.7	(1.20)	PT1421 東端。埋土出土。凹基、両面加工。片側欠損。素材の渦巻が残る。縫隙調整がやや粗く、未完成品か。すりガラス状。透明系黑曜石
2694	PJ-92 土サ ンプル②	石器	チャート	1/1	16.7	11.4	3.1	0.37	PT1422 北端。埋土出土。凹基、両面加工。赤褐色チャート
2695	PJ-92	石器	珪質頁岩	1/1	45.0	11.0	5.0	2.00	長い棒状の鋸。先端部に目立った使用痕なし。灰色珪質頁岩。搬入石材
2696	PJ-92	石器	黒曜石	3/4	17.0	12.1	3.2	0.61	未完成品。凹基、両面加工。片側欠損。原形ができる段階。葛湯状透明系黑曜石
2697	PJ-92	石器	黒曜石	1/1	18.0	15.1	6.0	1.35	未完成品。黒曜石が残る素材の両面を四方から調整。三角形状ができる段階。透明系黑曜石
2698	PJ-92	石器	黒曜石	1/1	16.0	13.8	3.6	0.75	未完成品。剝片の縁辺のみ加工。凹基。原形ができる段階。漆黒黒曜石
2699	PJ-92	石器	珪質頁岩	1/2	-	-	3.4	(0.65)	基部欠損。灰白色珪質頁岩
2700	PJ-92	石器	黒曜石	3/4	-	(14.5)	2.7	(0.44)	未完成品。凹基、両面加工。先端欠損。漆形ができる段階。葛湯状透明系黑曜石
2702	PJ-92	石器	黒曜石	-	-	-	3.2	(0.59)	縫隙、両面加工。基部欠損。透明系黑曜石
2703	PJ-92	石器	黒曜石	1/1	24.0	15.0	5.0	1.10	未完成品。薄い片材素材を縁辺調整して錐部を作出。葛湯状透明系黑曜石
2704	PJ-92	石器	黒曜石	3/4	18.3	-	2.4	(0.32)	未完成品。凹基。剝片素材の縁辺を調整。片側欠損。搬入入り透明系黑曜石
2705	PJ-92	石器	黒曜石	破片				(0.13)	片側のみの破片。凹基、両面加工。透黒黒曜石
2706	PJ-92	石器	黒曜石	1/2				0.56	未完成品。両面加工。三角形状ができる段階。片側欠損。高湯状透明系黑曜石
2707	PJ-92	原石	黒曜石					34.30	一舟コア。河川転石。夾雜物が脱落した空腔あり。透明系黑曜石
2708	PJ-92	原石	黒曜石					22.00	ズリ。透明系黑曜石

PJ092 号住居 石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
2709	PJ-92	原石	黒曜石					22.10	ズリ。透明系黒曜石
2710	PJ-92	原石	黒曜石					25.20	一発コア。ズリ。透明系黒曜石
2711	PJ-92	原石	黒曜石					25.10	ズリ。透明系黒曜石
2712	PJ-92	原石	黒曜石					17.60	ズリ。漆黒黒曜石
2713	PJ-92	原石	黒曜石					13.30	一発コア。ズリ。灰色透明系黒曜石
2714	PJ-92	原石	黒曜石					18.50	ズリ。漆黒黒曜石
2715	PJ-92	原石	黒曜石					16.00	ズリ。透明系黒曜石
2716	PJ-92	原石	黒曜石					10.30	ズリ。板状。漆黒黒曜石
2717	PJ-92 15	石核	石英岩	61.0	40.0	24.0	64.50		南壁沿い。床面から20cm浮いて出土。透明石英岩
2718	PJ-92 26	石核	石英岩	58.0	38.0	14.0	39.70		PT1444 南 1m 床面から41cm浮いて出土。片刃。透明石英岩
2719	PJ-92 8	石剣	珪質頁岩	1/1	28.0	58.0	7.0	10.50	PT1406 北 1.5m 床面から8cm浮いて出土。片刃。白筋のある灰色珪質頁岩。搬入石材
2720	PJ-92 65	石剣	珪質頁岩	1/1	32.0	48.0	7.0	8.00	PT1405 北 1.5m 床面から12cm浮いて出土。刃部は柔軟。微小剥離。白筋のある青灰色珪質頁岩
2721	PJ-92	石剣	珪質頁岩	3/4	34.0	42.0	7.0	7.60	弧状に外彌溝がある刃部。両刃。白筋のある灰色珪質頁岩。搬入石材
2722	PJ-92 45	石剣	珪質頁岩	1/1	27.0	44.0	4.0	4.30	PT1406 南側、床面出土。片刃。白刃入り灰色珪質頁岩。搬入石材
2723	PJ-92	剥離のある剣片	黒曜石	1/1				1.50	剣片の薄い縁辺に微小剥離。黒斑入り透明黒曜石
2724	PJ-92	両極石器	黒曜石	1/1	21.0	16.0	12.0	4.00	研削の両端に衝撃剝離。透明系黒曜石
2725	PJ-92	両極石器	黒曜石	1/1	21.0	22.0	8.0	2.70	剣片の両端に衝撃剝離。透明系黒曜石
2726	PJ-92	石錐	黒曜石	1/1	29.0	18.0	8.0	2.50	錐部が目立った便用痕なし。赤褐色斑入り黒曜石
2727	PJ-92	石錐	黒曜石	-	14.0	23.4	3.9	1.32	未成品。凹基。両面加工。先端欠損。原形ができる段階。黒斑入り透明黒曜石
2728	PJ-92	石錐	珪質頁岩	1/2	17.8	14.2	4.7	1.31	未成品。三角形状ができる段階。片側缺損。白色珪質頁岩。搬入石材。
2729	PJ-92	石錐	珪質頁岩	3/4	25.3	-	3.8	(0.89)	凹基。両面加工。片側が衝撃面で欠損。青灰色珪質頁岩
2730	PJ-92	石錐	チャート	1/1	21.9	17.8	4.8	1.76	未成品。凹基。両面加工。先端欠損。原形ができる段階。青色チャート
2731	PJ-92	石剣	頁岩	3/4	32.0	33.0	6.0	5.00	つまみ部破損。片刃。黄色く風化した頁岩
2732	PJ-92	剥離のある剣片	黒曜石					2.10	原石面が残る剣片の2辺に調整剝離と微小剥離。黒斑入り透明黒曜石
2733	PJ-92	石錐	黒曜石	1/1	31.0	20.0	7.0	3.50	原石面が残る剣片に鋸跡を作出す。裏張状透明黒曜石
2734	PJ-92	剥離のある剣片	黒曜石					1.30	原石面が残る薄い剣片の2辺に調整剝離。透明黒曜石
2735	PJ-92	剥離のある剣片	黒曜石					0.80	剣片の1辺、両面に微小剥離。透明黒曜石
2736	PJ-92	石錐	黒曜石	1/1	16.3	10.7	2.7	0.33	凹基。両面加工。基準部透明黒曜石
2737	PJ-92	石錐	黒曜石	1/1	14.3	14.2	2.6	0.39	凹基。両面加工。基準部透明黒曜石
2738	PJ-92	石錐	黒曜石	1/1	15.4	11.8	3.7	0.41	凹基。両面加工。基準部透明黒曜石
2739	PJ-92	石錐	黒曜石	1/1	20.8	13.7	6.3	1.46	凹基。両面加工。素材の厚みが残る堆積なくなり。透明系黒曜石
2740	PJ-92	石錐	黒曜石	1/1	24.0	17.0	4.1	1.43	未成品。剝離素材。縁辺調整のみ。原形ができる段階。凹基。透明黒曜石
2741	PJ-92	石錐	黒曜石	1/1	16.7	14.2	3.5	0.54	凹基。両面加工。透明黒曜石
2742	PJ-92	石錐	黒曜石	1/1	23.6	16.3	4.0	0.74	凹基。細身。両面加工。素材の反りがやや残る。透明黒曜石
2743	PJ-92	石錐	黒曜石	3/4	19.7	(14.6)	5.2	(1.02)	凹基。両面加工。片側欠損。素材の厚みが残る。透明黒曜石
2744	PJ-92	石錐	黒曜石	3/4	24.0	-	3.9	(0.76)	凹基。両面加工。片側欠損。黒斑入り透明黒曜石
2745	PJ-92	石錐	黒曜石	1/1	20.2	14.2	4.7	0.91	未成品。両面加工。先端と両側縁の厚壁が進んでいるが基部側より内調整。透明黒曜石
2746	PJ-92	石錐	黒曜石	3/4	16.3	15.0	4.7	1.04	未成品。両面加工。三角形状ができる段階。透明黒曜石
2747	PJ-92	石錐	黒曜石	3/4	(14.7)	(12.2)	2.0	(0.24)	凹基。両面加工。両脚先端が欠損。黒斑入り透明黒曜石
2748	PJ-92	石錐	黒曜石	-				0.65	未成品。両面加工。三角形状ができる段階。片側欠損。透明黒曜石
2749	PJ-92	石錐	黒曜石	3/4	-	11.7	2.8	(0.26)	凹基。両面加工。先端欠損。透明黒曜石
2750	PJ-92	石錐	黒曜石	-	-	-	2.7	(0.24)	先端のみの破片。透明黒曜石
2751	PJ-92	石錐	黒曜石	1/2	-	-	2.4	(0.26)	凹基。両面加工。片側欠損。透明黒曜石
2752	PJ-92 土サンプル②	石錐	黒曜石	3/4	16.3	-	2.7	(0.28)	先端のみの破片。透明黒曜石
2753	PJ-92	石錐	黒曜石	-	-	-	4.4	(0.77)	先端のみの破片。透明黒曜石
2754	PJ-92	剥離のある剣片	黒曜石	-	-	-	5.0	0.90	短い錐部。錐部縁辺に流れ。透明黒曜石
2755	PJ-92 土サンプル①	石錐	黒曜石	-	-	-		0.38	両面に調整剝離のある断片。石錐未成品かも。漆黒黒曜石
2756	PJ-92 土サンプル③	石錐	黒曜石	-	-	-		(0.15)	先端のみの破片。ブルーブラック黒曜石
2757	PJ-92	石錐	珪質頁岩	3/4	-	-	2.9	(0.46)	凹基。両面加工。先端。片側欠損。青灰色珪質頁岩

PJ092 号住居 石器觀察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
2758	PJ-92	石鎚	黒曜石	1/1	16.4	10.8	2.2	0.33	剥片素材。凹基、縁辺加工。漆黒黒曜石
2759	PJ-92	石鎚	黒曜石	3/4	17.4	—	3.5	(0.47)	凹基、両面加工。片脚欠損。素材の厚みが強る。葛湯状透明黒曜石
2760	PJ-92	石鎚	黒曜石	1/1	17.7	13.9	4.0	0.66	凹基、両面加工。透明黒曜石
2761	PJ-92	石鎚	黒曜石	1/2	—	18.7	2.7	(0.50)	大形、凹基、両面加工。先端欠損。漆黒黒曜石
2762	PJ-92	石鎚	黒曜石	3/4	—	—	3.5	(0.60)	凹基、両面加工。先端、片脚欠損。すりガラス状。被熱か。透明系黒曜石
2763	PJ-92	石鎚	黒曜石	1/1	21.6	13.6	5.0	1.38	未成品。ズリ面が残る剥片素材。縁辺加工。三角形状ができる段階。透明系黒曜石
2764	PJ-92	石鎚	黒曜石	3/4	(13.3)	11.8	2.6	(0.21)	凹基、両面加工。先端欠損。葛湯状透明黒曜石
2765	PJ-92	石鎚	黒曜石	1/1	13.6	13.3	3.1	0.31	凹基、両面加工。片脚欠損。透明黒曜石
2766	PJ-92	石鎚	黒曜石	1/2	—	14.6	3.1	(0.51)	未完成品。凹基、両面加工。先端欠損。最終調整に入る段階。透明黒曜石
2767	PJ-92 土サンプル①	石鎚	黒曜石	—	—	—	2.8	(0.18)	片脚のみの破片。透明黒曜石
2768	PJ-92	石鎚	黒曜石	—	—	—	—	(0.14)	片脚のみの破片。灰白色夾雜物が混じる透明黒曜石
3585	PJ-98 61	穀器	砂岩類	1/2	78.0	120.0	43.0	372.00	PT-1401 北東か。床面から6cm浮いて出土。円錐破片の薄い縁辺に刃部調整。細粒砂岩
3586	PJ-98 73	削器	軽石類	1/1	65.0	63.0	17.0	78.20	削片に片刃の刃部調整。両側面にも調整刻痕、打裂石斧を思わせる形状。刃部に目立った使用痕なし
3588	PJ-98	原石	黒曜石	—	—	—	—	20.30	ズリ。漆黒黒曜石
3589	PJ-98	石核	黒曜石	—	—	—	—	15.10	ズリ。漆黒黒曜石
3590	PJ-98	原石	黒曜石	—	—	—	—	2.60	深い板状ズリ。漆黒黒曜石
3591	PJ-98	石核	黒曜石	—	—	—	—	12.50	ズリ。漆黒黒曜石
3592	PJ-98	石鎚	珪質頁岩	1/2	—	—	—	7.60	片刃。刃部2/3が欠損。灰白色珪質頁岩。搬入石材
3593	PJ-98	剝離のある 剝片	黒曜石	1/1	—	—	—	1.30	剝片の片面を3方から剝離。透明系黒曜石
3594	PJ-98	剝離のある 剝片	黒曜石	1/1	—	—	—	0.60	透明黒曜石
3595	PJ-98	石鎚	黒曜石	1/1	18.1	15.7	4.1	0.92	未完成品。剝片素材。三角形状ができる段階。黒曜石入り透明黒曜石
3596	PJ-98	石鎚	黒曜石	—	—	—	4.9	(1.25)	未完成品。両面加工。2辺が欠損。透明系黒曜石
3597	PJ-98	石鎚	黒曜石	1/2	—	—	2.6	(0.35)	凹基、両面加工。両端欠損。葛湯状透明黒曜石
3598	PJ-98	石鎚	黒曜石	3/4	20.0	19.0	3.0	1.23	未完成品。先端欠損。三角形状ができる段階。漆黒黒曜石
3599	PJ-98	石鎚	黒曜石	3/4	25.2	16.4	6.1	2.04	未完成品。剝片素材。片脚欠損。基部側折損。葛湯状透明黒曜石
3600	PJ-98	剝離のある 剝片	チャート	—	—	—	—	2.80	深い縁辺に調整刻痕と微小剝離。灰白色チャート
3601	PJ-98 土サンプル②	石斧	黒曜石	1/1	14.6	11.9	2.0	0.34	ミニチュア石斧。つまみ部以外が有機磨擦磨石のようになまけ。縁辺に削れ。漆黒黒曜石
3602	PJ-98 土サンプル③	石鎚	黒曜石	—	—	—	—	(0.16)	片脚のみの破片。漆黒黒曜石
3603	PJ-98 土サンプル④	石鎚	黒曜石	—	—	—	3.1	(0.14)	片脚のみの破片。透明系黒曜石
3604	PJ-98 土サンプル⑤	石鎚	黒曜石	—	—	—	—	(0.06)	片脚のみの破片。漆黒黒曜石
3605	PJ-98 土サンプル⑥	石鎚	黒曜石	1/2	—	—	—	1.30	未完成品。両面加工。先端のみの破片。透明系黒曜石
4491	PT-1441	石鎚	黒曜石	3/4	13.3	(14.2)	2.7	(0.36)	PT-1441 出土。未完成。三角形状が完成した段階。先端欠損。透明黒曜石
4960	PJ-92	剝離のある 剝片	黒曜石	1/1	—	—	—	4.30	ズリ面が残る剝片の片面に調整刻痕。透明系黒曜石
4961	PJ-92	石鎚	黒曜石	1/1	37.0	13.0	6.0	2.80	未完成品。片脚跡が確認面で欠損。椎形先端未完成。透明系黒曜石
7248	IG-6901	磨製石斧	蛇紋岩	3/4	(60.0)	(40.0)	11.0	36	住居南西角付近。床面から70cm浮いて出土。縁平。刃部は鋸角部がかろうとして残存。基部側に敲打跡。ハンマーに転用か。漆黒色蛇紋岩
7253	IG-6904	台石	安山岩類	破片	—	—	—	268	埋土上層出土。台石破片。平坦面が磨耗。多孔質安山岩
7254	IG-6905	磨製石斧	緑色岩	破片	(86.0)	(38.0)	(20.0)	66	埋土上層出土。刃部欠損。基部側が尖り、横円形断面。諦巻式跡に特徴的な形状。基部側に鋸い点状敲打痕。ハンマーに転用。被熱し赤く変色
7255	IG-6904	磨製石斧	緑色岩	3/4	(94.0)	46.0	27.0	195	埋土上層出土。基部欠損。片面と両側面に鋸い点状敲打痕。ハンマーに転用か。縁平。横円形断面。諦巻式跡に特徴的な形状。
7256	IG-6907	台石	安山岩類	破片	(90.0)	(115.0)	(80.0)	1734	埋土上層出土。平坦面が磨耗。
7259	IG-6739	石鎚	黒曜石	1/1	13.1	12.4	2.5	0.26	埋土上層出土。凹基、両面加工。透明黒曜石
7262	IG-6741	石斧	珪質頁岩	1/1	32.0	46.0	5.0	5.60	南東角、埋土上層出土。片刃。刃部に微小剝離と摩耗。灰白色珪質頁岩。搬入石材
7263	IG-6902	石斧	チャート	1/1	22.0	38.0	6.0	4.00	南東角。埋土上層出土。片刃。刃部に微小剝離。黒筋のある灰白色チャート

PJ092 号住居 石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
7405	Ig-6968	台石	安山岩類	1/2	(178.0)	(360.0)	(123.0)	9400	床底伊南面。床面から 39 cm浮いて出土。平坦面が弱く摩耗。多孔質安山岩
7420	Ig-7003	磨石類	安山岩類	1/1	89.0	72.0	40.0	332	埋土上層出土。裸円形。広い2面が摩耗。疊らな点状敲打痕。長軸と短軸の側面に敲打痕。
7422	Ig-7008	磨石類	安山岩類	3/4	(108.0)	68.0	43.0	414	PT1422 東面。床面から 13 cm浮いて出土。扁平椭円形。広い1面が摩耗して平坦。両側面が敲打痕で平坦になり棱磨石状。破缺。赤変。剥れ。
7423	Ig-6876	ハンマー	砂岩類	1/2				132	DK56 東端の北壁らしい。床面から 45 cm浮いて出土。扁平椭円形。共軸端が剥け付により平坦化。細粒。緻密な砂岩
7424	Ig-6875	磨石類	安山岩類	1/1	85.0	50.0	35.0	206	DK65 東端。北壁らしい。床面から 57 cm浮いて出土。不整形円錐。全体が磨耗。
7429	Ig-6746	石鏡	黒曜石	1/1	17.1	13.5	2.7	0.38	埋土上層出土。巴基斯坦面加工。漆黒黒曜石
7430	Ig-6946	原石	黒曜石	1/1				40.00	埋土上層出土。黒化剥離面状の黒石面。鉛筆を削り取ったような角柱状。透明系黒曜石
7431	Ig-6963	磨石類	砂岩類	破片				62	P02 北東角。埋土上層出土。円錐破片。平坦な面に摩耗、敲打痕。細粒砂岩
8402	PJ-92	破器	頁岩	破片				39.40	亜角柱形。刃部剥離面。刃部に流れで摩耗。破器の断片
10676	PJ-92 18	磨石類	安山岩類	1/1	51.0	143.0	89.0	846	PT1503 南 1m。床面から 32 cm浮いて出土。構円錐。平坦な2面が弱く摩耗。側面1面が棱磨石状。多孔質安山岩
10677	PJ-92 78	磨石類	安山岩類	1/1	66.0	57.0	43.0	170	DN67 付近の北壁らしい。周溝で出土。小さな円錐の1面が弱く摩耗。
10678	PJ-92 38	台石	安山岩類	破片	(125.0)	(141.0)	(75.0)	1,602	PT1436 南面。床面出土。平坦面が摩耗。黄色に変色
10679	PJ-92 77	磨石類	安山岩類	破片	(65.0)	(131.0)	(77.0)	726	PT1427 南面。床面から 6 cm浮いて出土。やや楕円錐。広い2面が弱く摩耗。
10680	PJ-92	磨石類	安山岩類	1/1	24.0	21.0	20.0	14	うずら原大の円錐。全体が光沢を生じるほどに摩耗
10681	PJ-92	磨石類	砂岩類	1/1	91.0	79.0	49.0	480	扁平椭円錐。片面に敲打集中の凹み。風化。摩耗は不明。花崗岩質砂岩
10682	PJ-92 55	ハンマー	花崗岩類	1/1	76.0	74.0	63.0	474	PT1503 南 1m。床面から 10 cm浮いて出土。球状円錐の側面に敲打痕。
10683	PJ-92	磨石類	安山岩類	1/1	119.0	54.0	47.0	407	神奈川円錐の広い1面が摩耗。続いた点状敲打と凹み。側面1面も摩耗。長輪端面も摩耗。反対側面部に敲打の平面面
10684	PJ-92	磨製石斧	緑色岩類	3/4	(139.0)	49.0	25.0	249	刃部の半分が欠損。角部がかろうじて残る。刃部剥離面が摩耗。断面扁平椭円錐。鍔部式頭の形状。
10685	PJ-92	磨製石斧	蛇紋岩	3/4	(57.0)	(35.0)	11.0	33	刃部と基部欠損。刃部は角部がかろうじて残る。繊細な小形磨製石斧
10686	PJ-92 39	ハンマー	結晶片岩	1/1	88.0	51.0	30.0	188	PT1405 南面。床面出土。董円錐の端部に敲打の平坦面
10687	PJ-92	穂	砂岩類	1/1	94.0	59.0	32.0	226	扁平な円錐。細粒。緻密な砂岩
10688	PJ-92	磨石類	砂岩類	3/4	(90.0)	57.0	36.0	294	扁平な円錐。平坦な2面が摩耗。続いた点状の敲打痕。端部側面に敲打の平坦面。反対側面に浅い点状、線状の敲打痕。細粒。緻密な砂岩
10689	PJ-92 69	磨石類	砂岩類	1/1	113.0	83.0	55.0	595	床底伊南面。床面出土。削れた亜三角錐の平坦な2面が摩耗。削れた角が流れ、剥れ角が弱く摩耗。細粒。緻密な砂岩
10690	PJ-92 4	装身具	蛇紋岩	3/4	(39.0)	27.0	2.0	4	PT1422 南面。床面から 22 cm浮いて出土。「の」の字の石製品。破損後に再生、2ヶ所を穿孔。
10691	PJ-92	ハンマー	砂岩類	破片				85	棒状の扁平椭円錐。端部に敲打の平坦面と削れ。細粒。緻密な砂岩
10692	PJ-92	ハンマー	砂岩類	破片				56	棒状の扁平椭円錐。端部に敲打の平坦面と削れ。細粒。緻密な砂岩
10694	PJ-92 19	ハンマー	砂岩類	破片				159	PT1503 南東 1m。床面出土。扁平亜角錐。平坦な1面に浅い点状敲打痕。細粒。緻密な砂岩
10695	PJ-92 70	台石	安山岩類	1/2	(280.0)	(217.0)	85.0	6,600	PT1440 西面。床面出土。扁平椭円錐。広い2面は敲打により平らに整形。摩耗。表面に剥離面。凹みあり。
10754	PJ-98 57	磨石類	安山岩類	不明	(100.0)	(159.0)	(102.0)	2,000	円錐の広く平坦な1面が摩耗。敲打集中の浅い凹み。
10755	PJ-98 45	石皿	安山岩類	-	(155.0)	(202.0)	(88.0)	2,800	PT1455 東 1m。床面から 2.5 cm浮いて出土。刃部欠損。刃部剥離面縁辺が流れ、基部側に敲打流れ。複数に起用か。
10756	PJ-98 7	磨製石斧	緑色岩類	3/4	(147.0)	50.0	34.0	350	藉形並角錐。平坦な面に弱い摩耗とまばらな点状敲打痕。側面1面にもまばらな敲打痕。細粒。緻密な砂岩
10757	PJ-98 26	磨石類	砂岩類	不明	(94.0)	38.0	(49.0)	703	藉形並角錐。平坦な面に弱い摩耗とまばらな点状敲打痕。側面1面にもまばらな敲打痕。細粒。緻密な砂岩
10758	PJ-98 47	穂	砂岩類	1/1	85.0	31.0	25.0	79	棒状並角錐。細粒。緻密な砂岩
10760	PJ-98 24	磨石類	安山岩類	1/2				488	PT1461 東 1.5m。床面から 19 cm浮いて出土。石造形。広い2面が摩耗。側面2面は平坦に敲打。
10761	PJ-98 21	ハンマー	安山岩類	1/2				108	PT1462 東 1.5m。床面から 9 cm浮いて出土。扁平椭円錐。広い1面に点状敲打痕。長輪端面側面に敲打の平坦面。
11160	PT-1529	磨石類	安山岩類	破片				190	PT1529 出土。扁平椭円錐。片面に摩耗。多孔質安山岩

PJ090 号住居・PJ091 号住居

PJ097 号住居埋土中に薄く、明るい暗褐色土層を検出したことから新しい住居の貼床と考え、PJ090 号住居、PJ091 号住居を設定した。しかし整理作業時の再検討で、見合う柱穴が検出されなかつたこと、遺物の出土状況に住居を想定すべき状況が認められなかつたことから、PJ090 号住居と PJ091 号住居は廃止した。

PJ094 号住居・PJ097 号住居

位 置：PJ094 号住居と PJ097 号住居は I-6 グリッドから J-6 グリッドに位置する。

PJ094 号住居とはほぼ同じ位置で、若干ずれて検出された住居を PJ097 号住居とする。

PJ086 号住居との新旧関係は確認できなかつた。PJ094 号住居出土の土器 2243 破片が PJ097 号住居との境界をまたいで出土したため PJ094 号住居が新しいと思われる。

PJ097 号住居は PJ092 号住居と PJ099 号住居、SY-13 号集石土坑、DK418、DK649 号土坑など諸磯式期の集石土坑と土坑に切られる。

規 模：平面図の北側壁は PJ094 号住居の北壁であり、PJ094 号住居が北寄りに位置する。平面図の南側壁は PJ097 号住居の南壁であり、PJ097 号住居が南寄りに位置する。

壁面と周溝から想定される PJ094 号住居の形状はほぼ正方形で、南北長 3.2m、東西長 3.5m である。PJ097 号住居の形状もほぼ正方形で、南北長 3.6m、東西長 3.8m 程度である。両住居とも竪穴は表土直下の諸磯式期の集石土坑の検出面から測って深さ 50 cm が残る。

埋 土：埋土は断片的に観察できただけであるが、黒褐色と暗褐色を基調とする埋土がレンズ状に堆積するようである。

床 面：黄褐色砂質の地山を平坦に掘り込んで床面としている。地山の風化花崗岩が露出し、床面に合わせて削られていた。PJ094 号住居北壁沿いには大きな花崗岩礫が床面上に突出していた。PT1501 号ビットは風化花崗岩を掘り込んでいる。

炉：検出されなかつた。

周 溝：PJ094 号住居と PJ097 号住居の壁に沿って小溝を検出した。また床面で PJ092 号住居の南東壁沿いの小溝を断片的に検出した。

柱 穴：PJ094 号住居の柱穴は PT1498、PT1498B、PT1438、PT1500 号ビットの 4 基を想定した。深さ、形状が揃っている。PT1498 号ビットは北壁沿いに露出する大きな花崗岩礫の東脇に掘られていて、やや浅い。

PJ097 号住居の柱穴は PT1499、PT1499B、PT1434、PT1435 号ビットの 4 基を想定した。深さ、形状が揃っている。PT1499B 号ビットは北壁沿いに露出する大きな花崗岩礫の南脇に掘られていて、やや浅い。

出土遺物：PJ094 号住居を床面まで発掘し周溝を検出した段階で PJ097 号住居が重複していることに気がついたため、両住居の遺物を分別しないまま取り上げることとなつた。

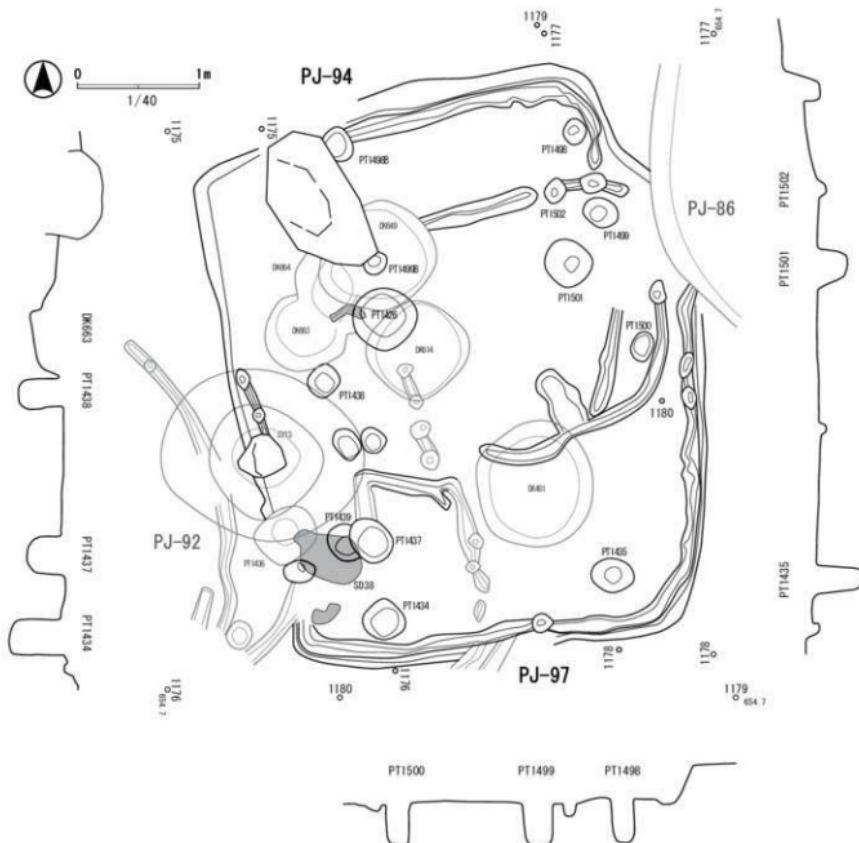
両住居で出土した土器の総量は 7,198g で、型式ごとの内訳は早期条痕文系土器 47g、坂平式 5g、木島式 246g、中越式 3,332g、神ノ木式 1,024g、堂之上 Z 式 10g、清水ノ上 II 式 543g、有尾式 319g、諸磯式 156g、北白川下層式 21g、前期土器破片 1,276g などである。

出土した石器は、石鏹 12 点、削器 2 点、石匙 2 点、石錐 2 点、磨石類 3 点、ハンマー 2 点、黒曜石原石 2 点で、このほか黒曜石を主とする剥片・碎片が 163 点、318g 出土した。

時 期：両住居とも時期を特定するに足る土器の出土状況は検出されなかつた。PJ094 号住居では土器 2241、土器 2243、土器 2511 が埋土出土ながら、まとまって出土している。これらから PJ094 号住居は中越式期、PJ097 号住居は PJ094 号住居に先行する中越式期に位置づけられると思われる。

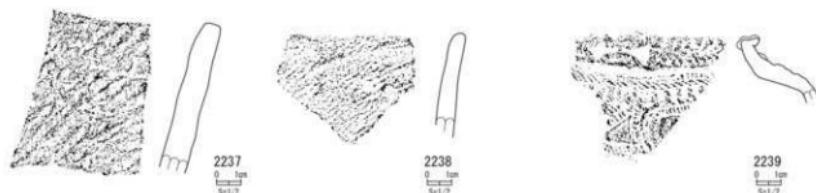
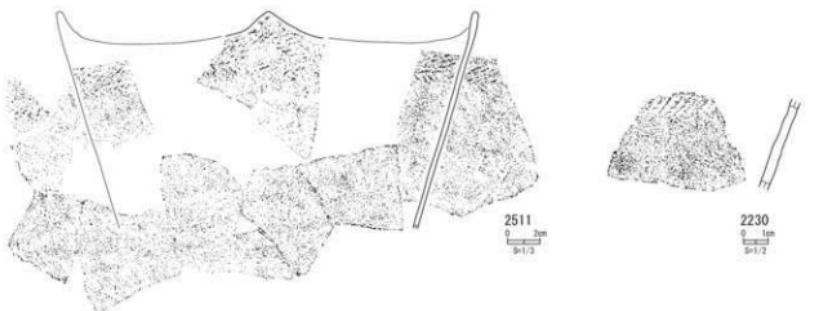
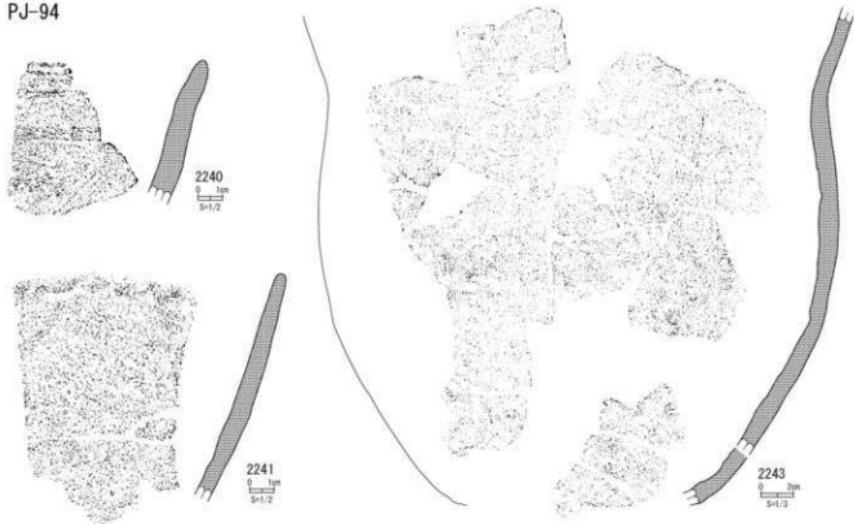
PJ094 号・PJ097 号住居 土坑ピット一覧表

遺構番号	位置	大きさ	深さ	埋土色	備考(遺物など)
PT-1426	97 住内	50×50	30	10YR3/3 (暗褐色)	木島式、石庭
PT-1434	97 住内	27×26	41	10YR3/3 (暗褐色)	PJ097 柱穴
PT-1435	97 住内	30×24	40	10YR3/3 (暗褐色)	PJ097 柱穴、神ノ木式
PT-1437	97 住内	27×28	25	10YR3/3 (暗褐色)	中越式
PT-1438	97 住内	23×22	34	10YR3/3 (暗褐色)	PJ094 柱穴
PT-1439	97 住内	26×18	23	10YR3/3 (暗褐色)	PJ094 柱穴
PT-1440	97 住内	17×18	36	10YR3/3 (暗褐色)	PJ094 柱穴
PT-14988	97 住内	20	20	10YR3/3 (暗褐色)	PJ094 柱穴
PT-14989	97 住内	25×23	36	10YR3/3 (暗褐色)	PJ097 柱穴
PT-14990	97 住内	20	25	10YR3/3 (暗褐色)	PJ097 柱穴
PT-1500	97 住内	19×19	35	10YR3/3 (暗褐色)	PJ094 柱穴
PT-1501	97 住内	33×33	24	10YR3/3 (暗褐色)	
PT-1502	97 住内	17×17	10	10YR3/3 (暗褐色)	



PJ094 号・PJ097 号住居

PJ-94



PJ094 号 · PJ097 号住居出土遺物

PJ-94 · 97

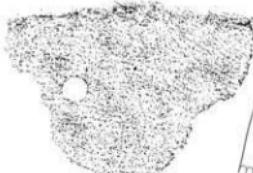
PJ-97



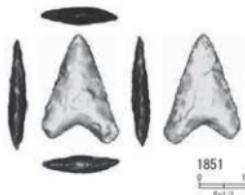
2400
0 2cm
S=1/2



2242
0 2cm
S=1/2



2415
0 2cm
S=1/2



1851
0 1cm
S=1/1



1852
0 1cm
S=1/1



3617
0 1cm
S=1/1



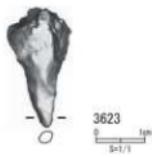
3622
0 1cm
S=1/1



3624
0 1cm
S=1/1



3619
0 1cm
S=1/1

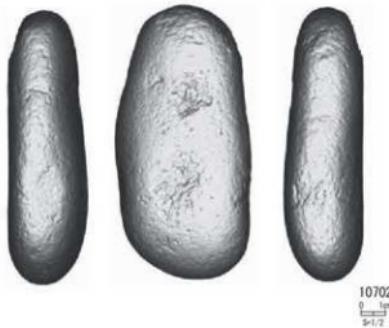
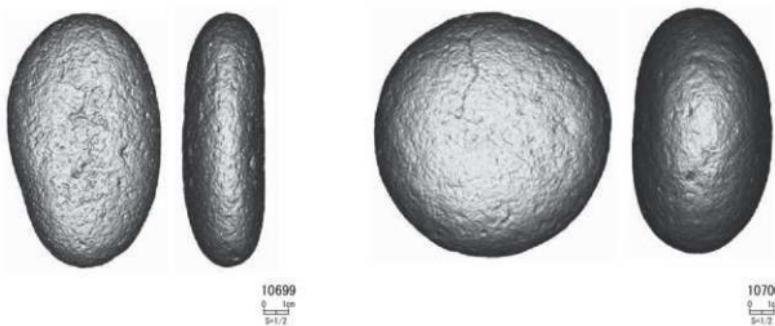
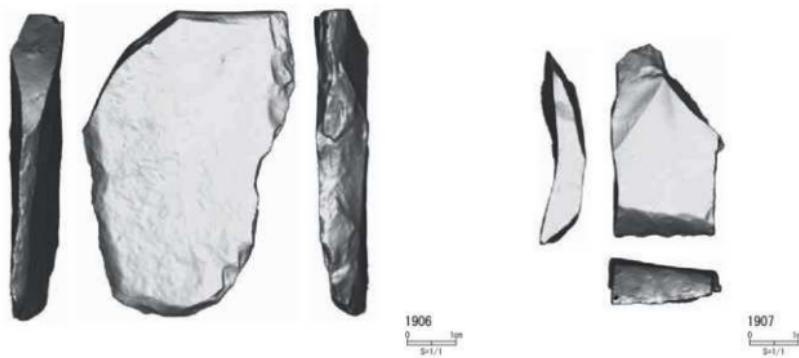


3623
0 1cm
S=1/1



4512
0 1cm
S=1/1

PJ094 号 · PJ097 号住居出土遺物



PJ094 号 · PJ097 号住居出土遺物

PJ094 号・PJ097 号住居 土器観察表

実測番号	注記	部位	口径 cm 縦	器高 cm 横	底径 cm 厚さ	重量	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
2230	PJ-94_ J-6-i	肩部				18.0	破片	7.5/93.2 5/94.3	貝殻腹縫線。胎土に繊維を含まない。清水ノ上Ⅱ式
2237	PJ-94	口縁部				53.0	破片	7.5/97.6 7.5/96.6	波状口縁か、角ばった口唇部。縦文。内面ヨコナデ。胎土に繊維を含まない。有尾式
2238	PJ-94	口縁部				23.0	破片	5/95.6 2.5/95.6	波状口縁。角ばった口唇部。縦文。内面指頭圧痕がやや残る。胎土に繊維を含まない。
2239	PJ-94	口縁部				21.0	破片	7.5/97.4 7.5/95.3	口唇部に矢張刺突み。細滑縫貼付。剝み縫跡線。竹管押引き。内面指頭圧痕。胎土に繊維を含まない。北白川下第 II c 式。縫合式の土坑から混入か
2240	PJ-94	口縁部				32.0	破片	7.5/96.4 7.5/94.2	内面整形成の凹凸がやや残る。外面ヨコナデ。内面風化。胎土に繊維を含む。中越式
2241	PJ-94_ II	口縁部				129.0	破片	7.5/96.6 7.5/96.6	P.04 北東沿い。床面から 20cm 浮いて出土。内外面整形成的凹凸が残る。胎土に繊維を含む。中越式
2242	PJ-97, PT-1407, SD-38, SI-13	口縁部				76.0	破片	7.5/96.3 7.5/94.3	PT1407 ほか P.07 球土出土。内外面整形成的凹凸がやや残る。外ナデ。胎土に繊維を含む。中越式
2243	PJ-94_ 9, PJ-94_ 4, PJ-94_ 8, PJ-92, 10-6912, 10-6914, 10-6915, J-6-6, 1-6-15	肩部				1.333.0	破片	7.5/96.4 7.5/96.4	P.04 北東東側付近。球土上層出土。内外面整形成的凹凸が残る。外ナデテナデ。内面ヨコナデ。丸底。胎土に繊維を含む。中越式
2400	PJ-94_ , PJ-97, PJ-92, SI-13	肩部				55.0	破片	7.5/96.3 7.5/96.4	頂部に隆起。竹管刺突。縦文。内面ヨガキ。胎土に繊維を含まない。有尾式か
2415	PJ-97, PJ-92_ 27, PJ-92	口縁部				160.0	破片	5/94.6 5/94.6	内外面指頭圧痕。外面ヨコナデ。胎土に繊維を含まない。中越式
2511	PJ-97, PJ-92, K-615, DK-650, 10-6910, J-6-1	口縁部 ～肩部	(25.4)			525.0	破片	7.5/96.3 5/92.2	P.04 球土上層出土。波状口縁。口縁部に貝殻腹縫線とへら状工具刺突の矢張状。外内面整物み残の凹凸と指頭圧痕が残る。器壁は 3.5mm と薄手。胎土に繊維が混入しない。清水ノ上Ⅱ式

PJ094 号・PJ097 号住居 石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
1849	PJ-94	原石	黒曜石					16.70	ズリ。透明系黒曜石
1850	PJ-94	石器	珪質頁岩	破片				1.00	石器と思われる断片。片刃。刃部ガジリ。灰色珪質頁岩。
1851	PJ-94	石器	黒曜石	1/1	22.9	15.7	3.8	0.83	凹基、両面加工。片脚先端欠損。葛溝状半透明黒曜石
1852	PJ-94	石器	黒曜石	1/1	13.9	12.1	2.9	0.24	凹基、長脚、片面は縫合部の凹み。
1853	PJ-94	石器	黒曜石	3/4	15.9	(9.8)	2.7	(0.35)	凹基。抉り抜いてある。片面は縫合部の凹み。片脚欠損。堆積なつくり。黒斑入り透明黒曜石
1906	PJ-90	削器	頁岩	3/4	44.0	61.0	10.0	31.70	剥片の薄い縁辺に片刃の刃部調整。反対辺には縁辺調整。黄色に風化し使用印明瞭
1907	PJ-90	削器	珪質頁岩					8.40	短冊状の剥片の2辺に刃部。急絞斜の器種状刃部に微小剝離痕。灰色珪質頁岩。搬入石材
1908	PJ-90	石器	黒曜石	1/2	-	-	3.8	(0.79)	先端のみの破片。両面加工。黒面入り透明黒曜石
1909	PJ-90	石器	黒曜石	1/1	21.0	13.4	5.7	1.40	未成品。剥片材料。表面の凹凸を調整し削葉部になった段階。漆黒黒曜石
3615	PJ-97	原石	黒曜石					18.00	ズリ。透明系黒曜石
3616	PJ-97	石器	珪質頁岩	1/2	-	16.1	4.4	(0.79)	凹基。両面加工。先端欠損。白筋のある青灰色珪質頁岩
3617	PJ-97	石器	黒曜石	3/4	19.2	(15.5)	6.0	(1.22)	凹基。両面加工。素材の薄みが残る。堆積なつくり。葛溝状透明黒曜石
3618	PJ-97	石器	黒曜石	-	-	-	3.6	(0.44)	先端のみの破片。
3619	PJ-97	石器	黒曜石	1/1	27.0	16.0	6.0	1.60	ズリ面が残る剥片素材。先端欠損。透明系黒曜石
3620	PJ-97	石器	珪質頁岩	破片				0.67	未成品の断片。剥片素材。縫合調整のみ。灰色珪質頁岩。搬入石材。
3621	PJ-97	石器	黒曜石	3/4	(17.1)	13.2	3.0	(0.41)	凹基。両面加工。先端欠損。側縫ガジリ。透明系黒曜石
3622	PJ-97	石器	黒曜石	1/1	13.8	14.2	2.2	0.27	凹基。両面加工。先端欠損。漆黒黒曜石
3623	PJ-97	石器	黒曜石	1/1	25.0	13.0	6.0	1.30	ズリ面が残る剥片素材。側部先端の峰凹が流れ。葛溝状半透明黒曜石
3624	PJ-97	石器	黒曜石	1/1	21.6	14.6	2.5	0.44	凹基。両面加工。漆黒黒曜石
4512	PT-1426	石器	頁岩	1/1	28.0	101.0	10.0	22.00	PT1426 出土。渦曲した素材。長辺2辺に刃部。I辺は大きく波打つ縫合縫。やや黄色く風化し使用印不明瞭
7448	IIG-6889	ハンマー	頁岩類	1/1	116.0	42.0	22.0	157.0	P.04 北東沿い。理土上層出土。疊平状の凹円窓。長軸端面に低い点状打痕。黄色く風化し使用印不明瞭
10699	PJ-94_ 3	磨石類	安山岩類	1/1	104.0	63.0	35.0	290.0	P.07, PT1426 北 0.5m の土下層で出土。稍円形。広い2面に摩耗。敲打集中の凹みが長軸方向に2ヶ所ずつある。側面と長軸端面にも低い点状打痕。褐色く風化し使用印不明瞭。
10700	PJ-94	磨石類	安山岩類	1/1	100.0	97.0	59.0	800.0	P.07, PT1426 北 1m の理土上層で出土。扁平規則円形。広い2面に摩耗。敲打集中の凹みが長軸方向に2ヶ所ずつある。側面と長軸端面にも低い点状打痕。褐色く風化し使用印不明瞭。
10702	PJ-94_ 5	磨石類	砂岩類	1/1	109.0	55.0	39.0	332.0	P.07, PT1426 北 1m の理土上層で出土。扁平規則円形。広い2面に摩耗。敲打集中の凹みが長軸方向に2ヶ所ずつある。側面と長軸端面にも低い点状打痕。褐色く風化し使用印不明瞭。
10752	PJ-97_ 1	ハンマー	砂岩類	1/1	37.0	151.0	66.0	539.0	P.04 北東角、PT1426 西の床面出土。扁平、棒状円錐形。平坦な面に深い点状打痕が集中。長軸端面にも敲打痕。細胞、細密な砂岩

PJ098 号住居

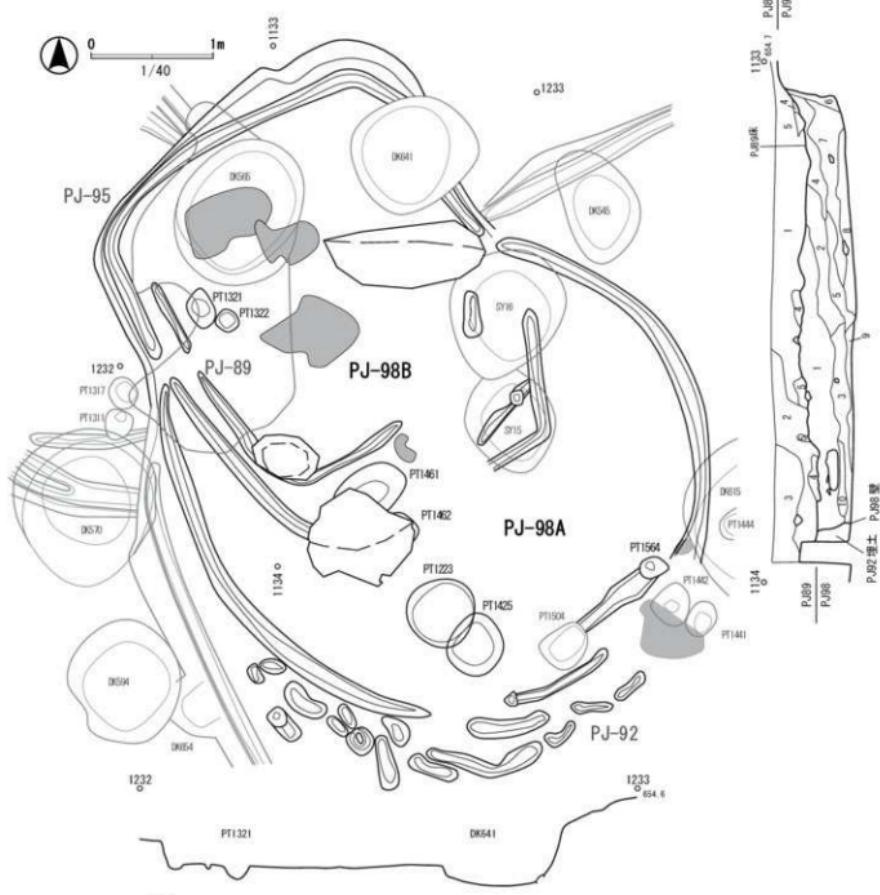
- 位 置**：I-5 グリッドから J-5 グリッドにかけて位置する。PJ089 号住居、PJ092 号住居、PJ095 号住居と重複する。PJ089 号住居と PJ92 号住居に切られ、PJ095 号住居を切る。
- 諸磯式期の SY-11、SY-15、SY-16 号集石土坑、DK565、DK615、DK641 号土坑に切られる。
- 規 模**：PJ092 号住居を調査する過程で円形に周溝がめぐる住居と、さらに北側に方形の住居を確認した。方形住居を PJ098A 号住居、円形住居を PJ098B 号住居と命名した。
- PJ098A 号住居は南北長 3.7m、東西長 3m の長方形で、竪穴は諸磯式期の集石土坑の検出面から測って深さ 70 cm が残る。
- PJ098B 号住居は直径 4.3m 程度の円形である。
- 埋 土**：黒褐色土が堆積していたが堆積層理は十分に確認できなかった。
- 床 面**：黄褐色砂質の地山を平坦に掘り込んで床面としている。地山の風化花崗岩が露出し床面に合わせて削られていたが、2ヶ所で礫が床面上に突出していた。
- 炉**：PJ098A 号住居の中心近くで被熱、焼土化した床面を 2ヶ所で検出した。PJ098B 号住居は PT1461 号ピット東脇で被熱、焼土化した床面 1ヶ所を検出した。
- 周 溝**：両住居とも壁に沿って小溝を検出し、部分的に二重、三重に巡る箇所があった。
- 柱 穴**：精査したが柱穴にふさわしい形状、位置にピットは検出されなかった。
- 出土遺物**：住居の主要部分が PJ092 号住居に切られ、遺物はわずかである。また PJ098A 号住居と PJ098B 号住居の遺物はほとんどが分別しないまま取り上げた。
- PJ098A 号住居と PJ098B 号住居の 2軒で出土した土器の総量は 832g で、内訳は木島式 33g、中越式 26g、神ノ木式 77g、有尾式 580g、諸磯式 116g である。諸磯式土器は重複する当該時期の土坑、PJ089 号住居からの混入と思われる。
- 出土した石器は、磨石類 3点、石英岩原石 1点である。
- 時 期**：出土した土器は有尾式が最も多かった。PJ092 号住居からの混入の可能性が否定できないが、中越式、神ノ木式が少量であることから、本住居は有尾式期の所産と推測される。

PJ098 号住居 土器観察表

実測番号	注記	部位	口径 cm 横幅 cm	底径 cm 厚さ	重量	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
246	IIG-6881	口縁部			77.0	破片	7.5YR7/6 5YR6/6	東壁沿い、床面から 51 cm 浮いて出土。肥厚する波状口縁。角ばった口唇部に切欠き。櫛目状工具をぎらして施文。朱絵文。内面ヨコナデ。胎土に繊維が混じない。神ノ木式
244	PJ-98 51	脚部～ 底部			8.3	103.0	破片	5YR5/4 5YR5/6
254	PJ-98 49	脚部～ 底部			4.4	140.0	破片	5YR3/4 5YR3/3
253	PJ-98 53	脚部～ 底部			(6.0)	318.0	破片	5YR3/1 2.5YR5/8
								地床KPの北脇、床面から 5 cm 浮いて出土。斜続文。上げ底気味の底面。内面指頭压痕がやや残るナミガキ。胎土に繊維を含まない。有尾式

PJ098 号住居 石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
3586	PJ-98 73	削器	ホルン エニスル	1/1	65.0	63.0	17.0	78.20	大型品。片刃陥器か。
3587	PJ-98 48	原石	石英岩		50.0	38.0	21.0	46.20	西壁沿い、床面から 4 cm 浮いて出土。白色、半透明の石英岩
10075	PJ-92 11	磨石類	安山岩類	1/1	98.0	53.0	40.0	305	西壁沿い、床面から 40 cm 浮いて出土。精円錐。平坦な 2 面が摩耗。敲打痕。
10093	PJ-92 10	磨石類	安山岩類	1/2				163	南側の地床KP上、床面から 32 cm 浮いて出土。精円錐。平坦な 2 面が摩耗。敲打集中の深い凹み。側面 2 面と長軸端面に敲打痕。
10759	PJ-98 52	磨石類	安山岩類	1/2				386	北側の地土上、床面から 12 cm 浮いて出土。精円錐。広い 2 面が摩耗減りして扁平、平坦。



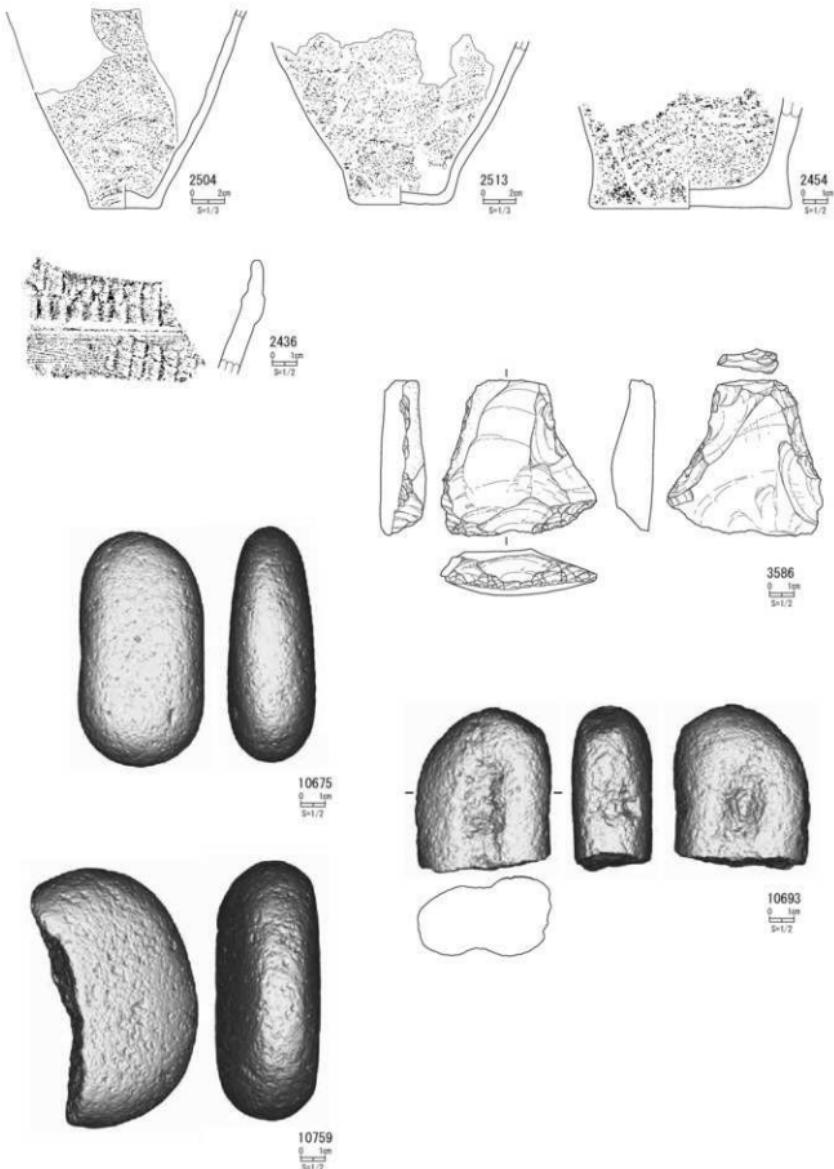
ルーム

- 1階 1092.3(裏地)に1093.3(階地)が0%, 1095.4(にじ(裏地))が7%, 1095.6(裏地)が0%, 底化物が0%, 花崗岩粒が0%で同じシルト粘土。粘性ややあり。しまる。
- 2階 1092.3(階地)に1093.3(裏地)が0%, 1095.6(裏地)が7%, 底化物が0%, 花崗岩粒が0%で同じシルト粘土。粘性ややあり。しまる。
- 3階 1092.3(裏地)に1093.3(裏地)が0%, 1093.3(階地)が0%, 底化物が0%, 花崗岩粒が0%で同じシルト粘土。粘性ややあり。しまる。
- 4階 1092.3(裏地)に1093.3(裏地)が0%, 1094.3(にじ(裏地))が0%, 底化物が0%, 花崗岩粒が0%で同じシルト粘土。粘性ややあり。固くしまる。
- 5階 1092.3(階地)に1095.6(裏地)が0%, 1094.3(にじ(裏地))が0%, 花崗岩粒が0%で同じシルト粘土。粘性ややあり。固くしまる。

ルート

- 1階 1092.3(裏地)に1093.3(階地)が0%, 1095.6(裏地)が0%, 底化物が0%, 花崗岩粒が0%で同じシルト粘土。粘性ややあり。しまる。
- 2階 1092.3(裏地)に1093.3(階地)が0%, 1095.6(裏地)が7%, 底化物が0%, 花崗岩粒が0%で同じシルト粘土。粘性ややあり。しまる。
- 3階 1092.3(裏地)に1093.3(裏地)が0%, 1095.6(裏地)が0%, 底化物が0%, 花崗岩粒が0%で同じシルト粘土。粘性ややあり。しまる。
- 4階 1092.3(裏地)に1094.3(階地)が0%, 1095.6(裏地)が0%, 底化物が0%, 花崗岩粒が0%で同じシルト粘土。粘性ややあり。しまる。
- 5階 1092.3(階地)に1095.6(裏地)が0%, 底化物が0%, 花崗岩粒が0%で同じシルト粘土。粘性ややあり。しまる。
- 6階 1092.3(裏地)に1093.3(裏地)が0%, 1095.6(裏地)が0%, 底化物が0%, 花崗岩粒が0%で同じシルト粘土。粘性ややあり。しまる。
- 7階 1092.3(裏地)に1094.0(にじ(裏地))が0%, 1095.6(裏地)が7%, 底化物が0%, 花崗岩粒が0%で同じシルト粘土。粘性ややあり。しまる。
- 8階 1092.3(裏地)に1094.0(にじ(裏地))が0%, 1095.6(裏地)が0%, 底化物が0%, 花崗岩粒が0%で同じシルト粘土。粘性ややあり。しまる。
- 9階 1092.3(裏地)に1094.0(にじ(裏地))が0%, 1095.6(裏地)が0%, 底化物が0%, 花崗岩粒が0%で同じシルト粘土。粘性ややあり。しまる。
- 10階 1092.3(裏地)に1094.0(にじ(裏地))が0%, 1095.6(裏地)が0%, 底化物が0%, 花崗岩粒が0%で同じシルト粘土。粘性ややあり。しまる。
- 地盤 1095.6(裏地)に1095.4(階地)が0%, 花崗岩粒が0%で同じシルト粘土。粘性ややあり。しまる。
- 壁 1095.6(裏地)に1095.4(階地)が0%, 花崗岩粒が0%で同じシルト粘土。粘性ややあり。しまる。

PJ098 号住居



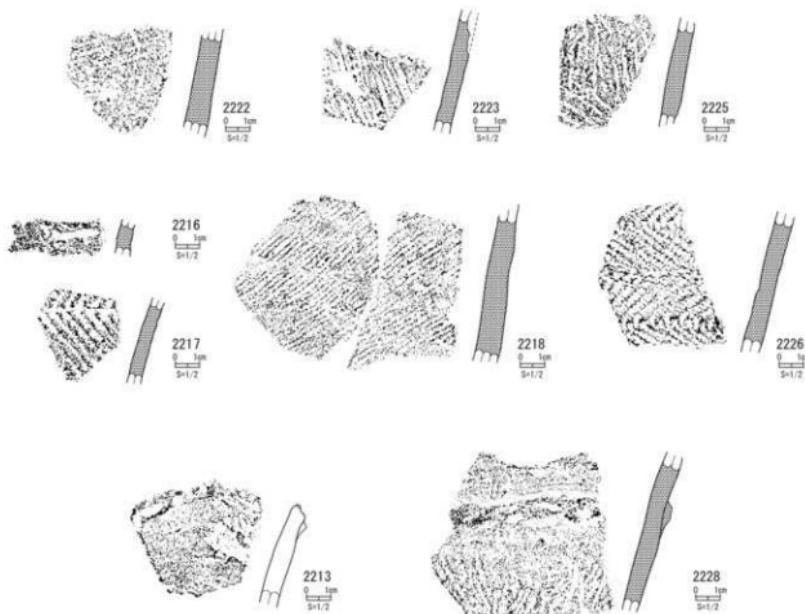
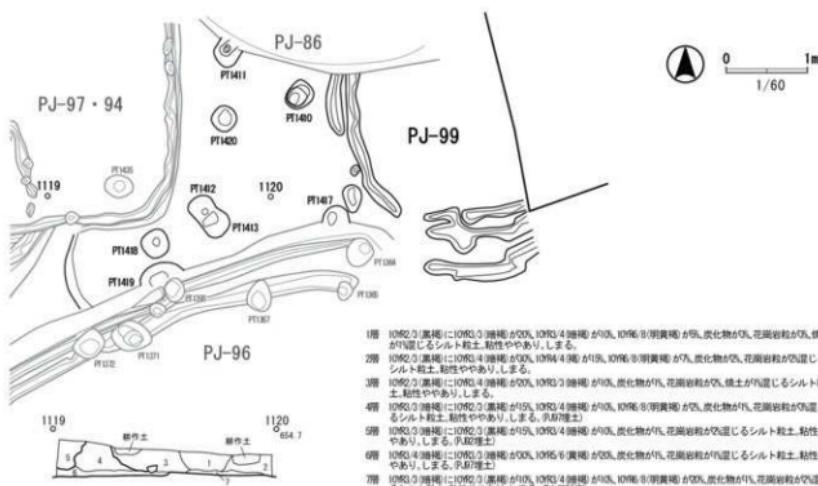
PJ098 号住居出土遺物

PJ099 号住居

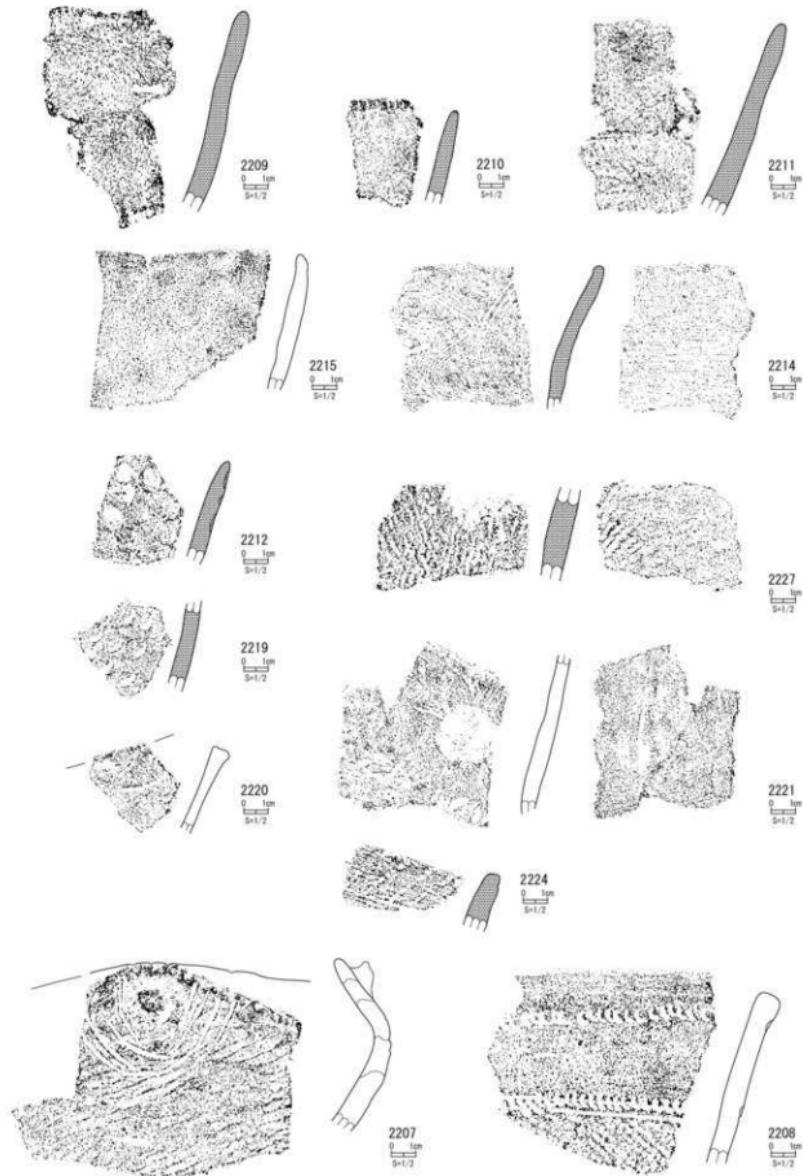
- 位 置** : I-6 グリッドに位置する。PJ86、PJ96、PJ97 号住居と重複し、PJ86 号住居に切られ、PJ97 号住居を切る。
 PJ96 号住居との新旧関係は確認できなかった。
- 規 模** : 断片的な壁面と周溝が検出されたのみである。小形、円形プランの住居と推測されるが規模は不明である。
- 埋 土** : 黒褐色を基調とする埋土が堆積していた。
- 床 面** : 黄褐色砂質の地山を平坦に掘り込んで床面としている。
- 炉** : 検出されなかった。
- 周 溝** : 断片的な壁面からだいぶ離れた位置に同心円状に巡る小溝を検出した。壁面と周溝は別造構と思われるが、PJ099 号住居に一括して扱った。
- 柱 穴** : 周溝に囲まれた範囲でピットは検出されなかった。断片的な壁面の内側（東側）で検出されたピットから柱穴を想定すると、PT1410、PT1420、PT1413、PT1417 号ピットの 4 基の組み合わせが適当であろうか。
- 出土遺物** : 住居を認定した時点で出土した遺物は遺構名を付して取り上げた。認定以前に小グリッド単位で取り上げた遺物のうち住居範囲に該当するものを本住居分とみなした。また本住居に切られる PJ97 号住居の遺物として取り上げたもので、明らかに本住居に帰属する遺物は PJ97 号住居分から分別し、本住居分として扱った。具体的には石器 10701（台石破片）である。
- 出土した土器の総量は 5,374g で早期土器 261g、花積下層式 135g、神之木台式 39g、坂平式 63g、木島式 453g、中越式 1,906g、神ノ木式 192g、堂之上 Z 式 43g、有尾式 91g、諸磯式 542g、前期土器破片 1,216g、中期土器破片 47g などである。
- 出土した石器は、石礫 6 点、石匙 1 点、磨石類 3 点、台石破片 1 点、有抉頭磨石器 1 点、剥離のある剥片 2 点、块状耳飾 1 点、黒曜石原石 1 点、黒曜石を主とする剥片・碎片 98 点、185g である。
- 時 期** : 中越式期の PJ86 号住居に切られ、中越式期の PJ97 号住居を切る新旧関係とわずかに出土した土器から、本住居は中越式期に位置づけられよう。同心円状に検出された周溝が別の住居の痕跡であるとするなら、その住居の時期は不明である。

PJ099 号住居 土坑ピット一覧表

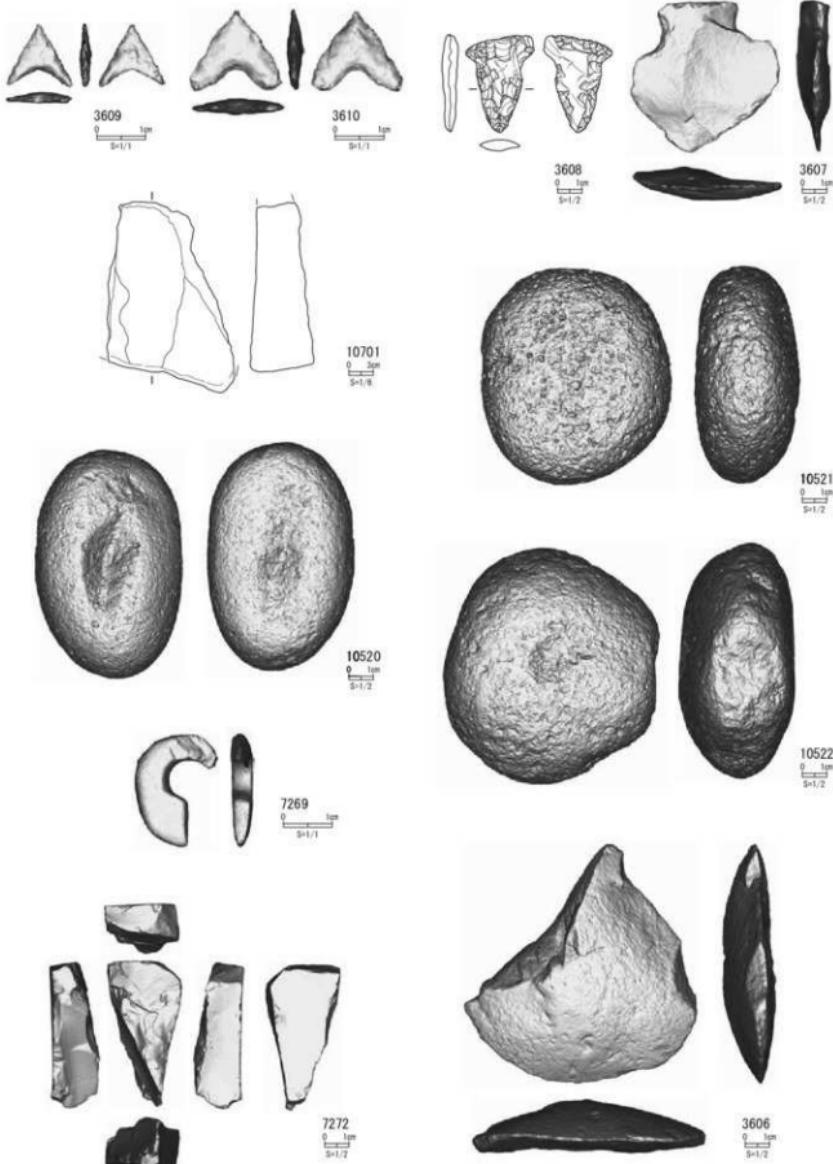
遺構番号	位置	大きさ	深さ	覆土色	備考(遺物など)
PT-1410 96 住 南 0.5m	30×25	35	10YR2/3(黒褐)に 10YR3/4(暗褐)が混じる。シルト粘土。やわ しまる。		PJ99 柱穴。木島式、中越式
PT-1411 96 住 南西壁	24×24	14	10YR2/3(黒褐)に 10YR3/4(暗褐)が混じる。シルト粘土。やわ しまる。		木島式
PT-1412 99 住内	35×25	25	10YR2/3(黒褐)に 10YR3/4(暗褐)が混じる。シルト粘土。やわ しまる。		
PT-1413 99 住内	25×25	32	10YR2/3(黒褐)に 10YR3/4(暗褐)が混じる。シルト粘土。やわ しまる。		PJ99 柱穴。中越式
PT-1417 96 住 北壁	25×27	28	10YR2/3(黒褐)に 10YR3/4(暗褐)が混じる。シルト粘土。やわ しまる。		PJ99 柱穴。木島式、中越式
PT-1418 99 住内	29×26	18	10YR2/3(黒褐)に 10YR3/4(暗褐)が混じる。シルト粘土。やわ しまる。		
PT-1419 96 住 北壁	40×23	32	10YR2/3(黒褐)に 10YR3/4(暗褐)が混じる。シルト粘土。やわ しまる。		中越式
PT-1420 96 住 南西 1.0m	17×17	44	10YR2/3(黒褐)に 10YR3/4(暗褐)が混じる。シルト粘土。やわ しまる。		PJ99 柱穴。中越式



PJ099号住居出土遺物



PJ099 号住居出土遗物



PJ099 号住居出土遺物

PJ099 号住居 土器観察表

実測番号	注記	部位	口径 cm 縦	器高 cm 横	底径 cm 厚さ	重量	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
2207	PJ-99 3	口縁部				94.0	破片	SYRS/4 SYRS/6	PJ1420 北端。床面から 11cm 浮いて出土。退化した黒斑突起、平行沈線、綺文、竹管押引き。平行沈線、綺文、内面ミガキ、薄織式
2208	PJ-99	口縁部				86.0	破片	2.5SYR/6 SYRA/3	竹管押引き。平行沈線、綺文、内面ミガキ、薄織式
2209	PJ-99	口縁部				37.0	破片	2.5SYR/6 SYRA/3	内外面整形痕が残る。胎土に織維を多量に含む。中越式
2210	PJ-99	口縁部				10.0	破片	SYRE/6 SYRS/6	口縁部折れ。内外面に整形痕が残るヨコナデ。胎土に織維が少量混じる。中越式
2211	PJ-99	口縁部				29.0	破片	7.5SYR/4 7.5SYR/3	内外面整形痕が残るナデ調整。胎土に織維を多量に含む。中越式
2212	PJ-99	口縁部				13.0	破片	7.5SYR/6 SYRS/4	口縁部折れ。外壁は文様で仕立てた頭頂圧痕。内外面整形痕が残るヨコナデ。胎土に織維を含む。頭頂圧痕に竹筋が不明だが土器 2219 と同一個体であることが分かる。中越式とする。
2213	PJ-99	口縁部				39.0	破片	7.5SYR/4 SYRA/3	低い定位式縁。尖った口縁部に外側側面に凹み、口縁部に内凹溝跡。内外面も横筋の文様を磨り消してナデ調整。器壁 8.5mm 程度。胎土に織維を含まない。神之木式
2214	PJ-99 3	口縁部～肩部				88.0	破片	7.5SYR/6 SYRA/3	PJ1420 北端。床面から 11cm 浮いて出土。内外面に波状線條文。内外面整形痕が残るヨコナデ。胎土に織維を多量に含む。中越式
2215	PJ-99	口縁部				45.0	破片	7.5SYR/6 7.5SYR/3	外表面頭頂圧痕がやや残るテナ。内面頭頂圧痕が残るヨコナデ、斜めナデ。胎土に織維を含まない。中越式
2216	PJ-99	肩部				12.0	破片	7.5SYR/3 7.5SYR/4	頭頂圧痕。内面平滑なナデミガキ。胎土に織維を含む。花積下階式併行？
2217	PJ-99	肩部				17.0	破片	7.5SYR/4 7.5SYR/1	結束羽状綾文。内面平滑なヨコナデミガキ。器壁は 5.3cm、胎土に織維を少量含む。花積下階式併行？
2218	PJ-99, PJ-99 9	肩部				77.0	破片	SYRS/6 SYRS/2	PJ1417 北端。床面出土。綺文。内面平滑にミガキ。器壁は 9.2mm と薄手。胎土に織維を多量に含む。花積下階式併行？
2219	PJ-99	肩部				11.0	破片	SYRS/6 SYRA/3	土器 2212, PJ-93 出土の土器 29. G-4-2 グリット出土土器 179 と同じ個体。弓形足。胎土に織維を含む。爪削打であることを堂之上式とする。
2220	PJ-99	口縁部				9.0	破片	7.5SYR/2 10YR/2-6	幅広い口縁部。外表面頭頂圧痕が残るナデ。内面は平滑なナデ調整。胎土に織維を含まない。木鳥式
2221	PJ-99	肩部				34.0	破片	7.5SYR/4 7.5SYR/3	外表面は複数糸縫。弧形足。内面頭頂圧痕が残るヨコナデ。胎土に織維を含まない。木鳥式
2222	PJ-99 9	肩部				19.0	破片	7.5SYR/6 7.5SYR/4	外面上に小さな垂直紋。内面ナデ調整。器壁は薄手で胎土に織維を多量に含む。早川後半か。
2223	PJ-99	肩部				13.0	破片	7.5SYR/4 7.5SYR/3	外表面文様。内面弓模様方向のナデ調整。胎土に織維を多量に含む。器壁は 7mm 程度とやや薄手。早期末葉と思われるが形式不明。
2224	PJ-99	口縁部				10.0	破片	7.5SYR/4 7.5SYR/4	波状口縁。角っぽい口唇部。連点状斜突。内面ナデミガキ。胎土に織維を多量に含む。有尾式
2225	PJ-99	肩部				15.0	破片	7.5SYR/7 7.5SYR/1	綺文系。内面平滑なナデミガキ。胎土に織維を多量に含む。
2226	PJ-99	肩部				29.0	破片	7.5SYR/6 7.5SYR/3	結束羽状綾文。内面ヨコナデ。胎土に織維を含む。花積下階式併行？
2227	PJ-99	肩部				30.0	破片	SYRS/6 7.5SYR/3	内外面に綺文。内面ヨコナデ。胎土に織維を多量に含む。神ノ木式？
2228	PJ-99 4	肩部				53.0	破片	7.5SYR/4 7.5SYR/6	綺文。扁平。福字の縁帯。内面ヨコナデ。胎土に織維を多量に含む。坂平式

PJ099 号住居 石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
3606	PJ-99 7	剥離のある 剝片	砂岩互瓦	1/1	96.0	95.0	20.0	164.40	PJ1418 西端、床面出土。円錐面に残る大きな剝片の薄い、外溝ある 1 辺に崩れ跡。
3607	PJ-99 5	石匙	頁岩	1/1	58.0	59.0	12.0	44.00	PJ1405 西端、床面から 6cm 浮いて出土。刃部は斧刃。微小剝離。つまみ部崩れ跡のみ誤認。
3608	PJ-99	有抉痕磨石	黒曜石	1/1	40.0	28.0	6.0	5.40	黄褐色風化し透明白透明黒曜石
3609	PJ-99	石鏟	黒曜石	1/1	13.7	13.8	2.4	0.19	凹基、両面加工。葛条状透明黒曜石
3610	PJ-99	石鏟	黒曜石	1/1	17.3	19.3	3.6	0.66	凹基、幅広、両面加工。先端欠損。黒曜石のある葛条状半透明黒曜石
3611	PJ-99	石鏟	黒曜石	1/2	11.4	2.7	(0.33)	凹基、細身、両面加工。先端欠損。葛条状半透明黒曜石	
3612	PJ-99	石鏟	黒曜石	1/2	16.3	3.3	(0.43)	凹基、両面加工。先端欠損。黒曜石のある葛条状黒曜石	
3613	PJ-99	石鏟	珪質頁岩	3/4		4.1	(0.54)	大形石鏟の脚部と思われる破片。凹基、両面加工。青灰色珪質頁岩	
3614	PJ-99	石鏟	チャート	1/2	31.3		5.8	(1.81)	先端部の調整はほぼ完成。基部の調整は軽く、黒斑入り灰白色チャート
4492	PJ-1413	剥離のある 剝片	黒曜石					1.70	PJ1413 出土。三角形剝片の 1 辺に両面から調整跡。石未完成品か。芯のある葛条状透明黒曜石
7269	IIG-6953	狀狀耳飾	滑石	1/2	23.0	(18.0)	5.0	1	PJ1417 南西端。床面から 48cm 浮いて出土。刃部に鋸切痕。孔部内面に細かな擦痕。くすんだ緑色の滑石
7272	IIG-6742	原石	黒曜石	1/1				33.70	南端崩れ付近。床面から 10cm 浮いて出土。ズリ。漆黒黒曜石
10520	PJ-99 2	磨石類	安山岩類	1/1	95.0	62.0	34.0	229	PJ1410 東端。圓溝の東側の床面土。精巧鍛。広い 2 つめやわらぎ。鋸刃集めの跡。U 字型形状が長い傾向方に似る。
10521	PJ-99	磨石類	安山岩類	1/1	88.0	78.0	43.0	369	円錐。広く平坦な 1 つの壁面。側面に鋸切痕。多孔質安山岩
10522	PJ-99 6	磨石類	安山岩類	1/1	96.0	88.0	49.0	564	PJ1420 南西端。床面出土。円錐。広い 2 つめが厚壁。中心に鋸切痕。1 つめは斜面。側面に鋸切痕。多孔質安山岩
10701	PJ-94 1	台石	安山岩類	破片	(185.0)	(201.0)	(83.0)	3,800	PJ07 の PJ1405 東端で出土。P.09 床面高で出土。P.09 分する。板状、平坦な 1 面の凸部が漆耗。

PJ096 号住居

- 位 置**：I-6 グリッドに位置する。PJ099 号住居と重複する。諸磯式期の DK515、DK610、DK609、DK646、DK653、DK682、DK686、DK687、DK693 号土坑に切られる。南端は現状保存区域との境界で、南西角部は未調査である。
- 規 模**：長軸長 9.5m、短軸長 7.6m の端正な長方形で、竪穴は深さ 65 cm が残る。本調査のなかで PJ092 号住居と並んで最大規模の住居である。
- 埋 土**：暗褐色土と褐色土を基調とする埋土がレンズ状に堆積していた。住居南端が現状保存区域に入ることから土層断面図は中途までしか作図しなかった。23 層に示す黄褐色土層は住居南側中央部の埋土中層に厚く広がり、東壁に向かって徐々に薄くなっていた。その後、南側を拡張して調査した際に南側の土層断面を観察したが、拡張部分が從前の農地境界にあたり床面の直上まで擾乱されていたことから土層断面図を追加、作図しなかった。
- 床 面**：黄褐色砂質の地山を平坦に掘り込んで床面としている。ほぼ全面にわたって硬く踏みしまっていた。
- 炉**：住居中央からやや北寄りで浅いくぼみと焼土塀を検出した。
- 周 溝**：壁に沿って小溝を検出した。南壁沿い以外では 4 重から 5 重に小溝がめぐり、住居の建替えを示唆する。埋土観察から本住居は拡張を繰り返したと考えた。
- 柱 穴**：4 本主柱穴構造を探り、住居の長軸方向主軸線を通る柱穴が加わる。さらに住居が拡張される過程で隅角部を中心に壁柱穴が加わったと考えられる。住居の平面形から想定される大きな上屋荷重を支持する複雑な構造が採用されている。
- 周溝から 4 回から 5 回の建築が想定されたが、DK642、DK689、DK645、DK643 号土坑の 4 基の主要な柱穴は大きく位置を変えることなく維持されたようである。というのはこれら 4 基の主柱穴の埋土上面には床が貼られることなく検出されたからである。
- 住居隅角部を中心とする壁柱穴は、4 回から 5 回の建築に対応するピットが検出されている。住居北西角では PT1378 号ピットから PT1380、PT1376、PT1375 号ピットと外側に移動しながら変遷したと考えられる。住居北東角では、DK644 号土坑、PT1366、PT1365、PT1364 号ピットと変遷する。南西角では PT1645、PT1654、PT1652、PT1653 号ピット、南東角では PT1635、PT1634 号ピットの西側部分、PT1634 号ピットの東側部分、PT1639B 号ピットと変遷したと思われる。
- PT1387 号ピットは最初期段階の柱穴と思われる。ほかの 3ヶ所は大きな柱穴と接続して失われていると思われる。DK689 号土坑が細長い掘り方であるのは、旧い柱穴が接続しているためであろう。
- 住居主軸線上に位置する柱穴がどの段階から設けられていたかはつきりしないが、第 1 段階の PT1387 号ピットの掘り方が細いことから、少なくとも PT1388 と PT1625 号ピットの 2 基は最初期から支持材として機能していた可能性がある。南壁沿いでは PT1643、PT1641、PT1640 号ピットの 3 基が、隅角部の柱穴と連動して外側へ移動している様子がうかがえる。
- 住居の北西角部で DK651 号土坑を検出した。住居床面よりも深く、壁柱穴 PT1379 号ピットと周溝に切られる。長方形の特異な形状で、底面から中越式土器がまとまって出土した。住居検出面では確認されず、住居の完掘写真を撮影するために清掃していたところ壁面がくすんだ箇所が見いだされ、本土坑を検出した。本住居との関係は不確かであるが、ほかに類例がないこと、あたかも住居の壁面に付属するように掘り込まれていること、住居と同時期の中越式土器が出土したことから、本住居の付属施設と判断した。
- 出土遺物**：竪穴の保存状態が良好であったわりに出土遺物は少なく、埋土中からまばらに出土したのみである。少量の諸磯式土器が出土したが、当該時期の土坑などからの混入と思われる。ごく小さな諸磯式土器破片が柱穴 DK642 号土坑埋土からも出土している。
- 出土土器の総量は 54,104g で、早期条痕文系土器 249g、神之木台式 70g、下吉井式 32g、坂平式 35g、

木島式 3,469g、中越式 29,789g、神ノ木式 8,409g、関山式 962g、堂之上 Z 式 169g、上の坊式 27g、有尾式 1,357g、諸磯式 1,733g、前期土器破片 6,871g などである。

出土した石器の内訳は、石鑿 54 点、削器 12 点、石匙 11 点、石錐 11 点、両極石器 13 点、抉入石器 1 点、有抉頭磨石器 1 点、打製石斧 3 点、磨石類 27 点、石皿破片 3 点、台石 10 点、磨製石斧 1 点、鍬器 3 点、玦状耳飾破片 4 点、滑石製裝身具 1 点、ハンマー 10 点、剥離のある剝片 12 点、黒曜石石核 1 点、黒曜石原石 8 点、円碟 5 点、礫 1 点で、このほか黒曜石、チャートなどの剝片 1463 点 3,748g が出土した。

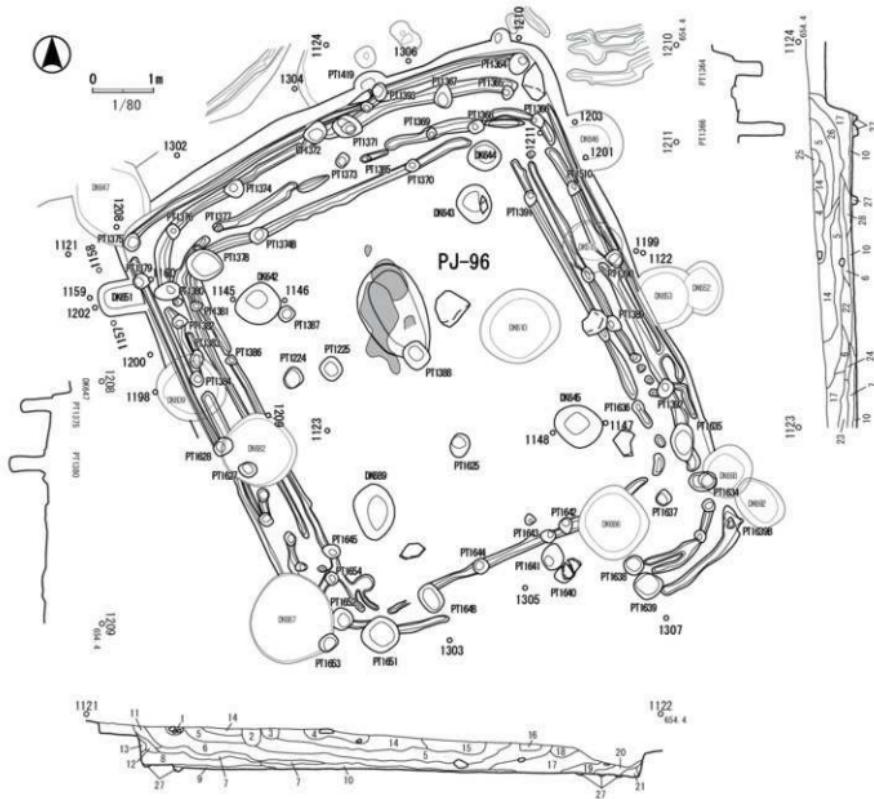
時 期：まとまって出土した土器は中越式が多いことから、本住居は神ノ木式を伴う中越式期に廃絶したと推測される。

PJ096 号住居 土坑ピット一覧表

遺構番号	位置	大きさ	深さ	覆土色	備考(遺物など)	
DK-642	96 住内	70*64	96	10YR2/2(黒褐) 10YR5/4(にぶい黄褐) 10YR5/3(にぶい黄褐) 9%、10YR5/6(黄褐) 3% 混じる。	柱穴、柱底を検出。条痕文、木島式、中越式、諸磯式	ア
DK-643	96 住内	50*50	78	10YR2/3(黒褐) 10YR5/2(にぶい黄褐) 10%、10YR5/6(黄褐) 7%、炭化物が 1% 混じる。しまりなくボソボソした埋土	柱穴、木島式、中越式	ア
DK-644	96 住内	45*46	51	10YR2/3(黒褐) 10YR5/4(にぶい黄褐) 15%、10YR5/6(黄褐) 3%、炭化物が 1% 混じる。ややしまる。	鷹角部の柱穴、黄褐色やや粘質の粘床がピット中央に残る。中越式	ア
DK-645	96 住内	70+	80	10YR2/2(黒褐) 10YR5/4(にぶい黄褐) 10%、10YR5/6(黄褐) 1% 混じる。ややしまる。	柱穴、柱底を検出。中越式、神ノ木式	ア
DK-651	96 住 西壁	60*80	92	10YR4/6(褐) 10YR3/4(緑褐) 20%、10YR4/3(にぶい黄褐) が混じる。シルト粒土。ややしまる。	PT1379 に切られる。中越式土器	ア
DK-689	96 住内	80*54	80	2.5Y7/4(淡黄色) の砂質土に 10YR2/2(黒褐) 5% 混じる。しまり弱くボソボソした埋土。	柱穴、中越式	エ
PT-1224	96 住内	31+	23	10YR2/3(黒褐) 10YR3/3(緑褐) が混じる。ややしまる。	中越式	エ
PT-1225	96 住内	35+	7	10YR2/3(黒褐) 10YR3/3(緑褐) が混じる。ややしまる。	中越式	エ
PT-1364	96 住内	18*18	30	10YR2/3(黒褐) 10YR5/6(黄褐) 10%、10YR2/2(黒褐) 3% 混じる。	鷹角部の柱穴、中越式	ア
PT-1365	96 住内	17*13	35	10YR2/2(黒褐) 10YR5/6(黄褐) 3% 混じる。	鷹角部の柱穴	ア
PT-1366	96 住内	19*15	41	10YR2/2(黒褐) 10YR2/3(黒褐) 20%、10YR5/6(黄褐) 5%、炭化物が 5% 混じる。	鷹角部の柱穴	ア
PT-1367	96 住内	18*17	20	10YR2/3(緑褐) 10YR5/6(黄褐) 20%、10YR2/3(黒褐) 3% 混じる。	壁柱穴	ア
PT-1368	96 住内	20*24	14	10YR5/6(黄褐) 10YR3/3(緑褐) 10% 混じる。	壁柱穴	エ
PT-1369	96 住内	15*11	20	10YR2/3(緑褐) 10YR2/3(黒褐) 10%、10YR5/6(黄褐) 5% 混じる。	壁柱穴	ア
PT-1370	96 住内	16*13	20	10YR2/3(黒褐) 10YR5/6(黄褐) 5% 混じる。	壁柱穴	ア
PT-1371	96 住内	40*35	44	10YR2/3(黒褐) 10YR5/6(黄褐) 5%、10YR2/2(黒褐) 3%、炭化物が 3% 混じる。	壁柱穴、条痕文	ア
PT-1372	96 住内	35*31	58	10YR2/3(黒褐) 10YR2/2(黒褐) 10%、10YR5/6(黄褐) 3% 混じる。	主軸上の柱穴	ア
PT-1373	96 住内	17*17	60	10YR2/3(黒褐) 10YR2/2(黒褐) 15%、10YR5/6(黄褐) 5% 混じる。	主軸上の柱穴	ア
PT-1374	96 住内	27*27	28	10YR2/3(黒褐) 10YR2/2(黒褐) 20%、10YR5/6(黄褐) 5% 混じる。		ア
PT-1374B	96 住内	27*27	10	10YR2/3(黒褐) 10YR2/2(黒褐) 20%、10YR5/6(黄褐) 3% 混じる。	壁柱穴	ア
PT-1375	96 住内	19*18	47	10YR2/3(黒褐) 10YR5/6(黄褐) 5% 混じる。	鷹角部の柱穴	ア
PT-1376	96 住内	14*14	20	10YR2/2(黒褐) 10YR5/6(黄褐) 9% 混じる。シルト粒土。ややしまる。	鷹角部の柱穴	ア
PT-1377	96 住内	10*10	23	10YR2/3(黒褐) 10YR5/6(黄褐) 9% 混じる。ややしまる。		ア
PT-1378	96 住内	57*45	35	10YR2/3(黒褐) 10YR5/4(にぶい黄褐) 5% 混じる。ややしまる。	鷹角部の柱穴	ア

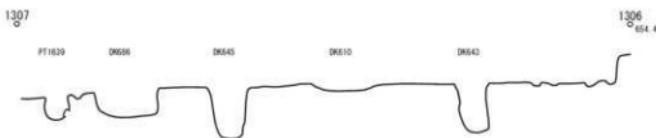
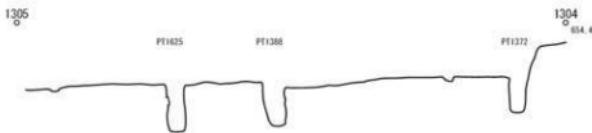
PJ096 号住居 土坑ピット一覧表

遺構番号	位置	大きさ	深さ	覆土色	備考(遺物など)	
PT-1379	96 住内	15*19	28	10YR3/2(黒褐色)に10YR5/6(黄褐色)が5%混じる。ややしまる。		ア
PT-1380	96 住内	35*25	57	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が11%、10YR5/6(黄褐色)が3%混じる。ややしまる。	隅角部の柱穴。中柱式	ア
PT-1381	96 住 西壁	12*10	15	10YR2/3(黒褐色)に10YR5/3(ぶい黄褐色)が15%、10YR5/6(黄褐色)が3%混じる。ややしまる。	壁柱穴	ア
PT-1382	96 住内	17*17	22	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が10%、10YR5/6(黄褐色)が3%混じる。ややしまる。	壁柱穴	ア
PT-1383	96 住内	22*16	12	10YR5/3(ぶい黄褐色)に10YR2/3(黒褐色)が7%混じる。ややしまる。	壁柱穴	エ
PT-1384	96 住内	15*15	23	10YR2/2(黒褐色)に10YR5/6(黄褐色)が7%混じる。ややしまる。	壁柱穴	ア
PT-1385	96 住内	17*13		10YR2/2(黒褐色)に10YR5/6(黄褐色)が3%混じる。ややしまる。		ア
PT-1386	96 住内	11*10	30	10YR2/2(黒褐色)に10YR5/6(黄褐色)が5%混じる。ややしまる。	壁柱穴	ア
PT-1387	96 住内	22*20	54	10YR2/3(黒褐色)に10YR5/6(黄褐色)が3%混じる。ややしまる。	最初期の柱穴。中柱式	ア
PT-1388	96 住内	46*43	78	10YR2/3(黒褐色)に10YR5/2(ぶい黄褐色)が7%、10YR5/6(黄褐色)が2%混じる。ややしまる。	主軸上の柱穴。木島式、中柱式	ア
PT-1389	96 住内	20*15	16	10YR2/3(黒褐色)に10YR5/4(ぶい黄褐色)が10%混じる。ややしまる。	壁柱穴	エ
PT-1390	96 住内	20	20	10YR2/3(黒褐色)に10YR5/6(黄褐色)が3%混じる。ややしまる。	壁柱穴	
PT-1391	96 住内	16*14	40	10YR2/2(黒褐色)に10YR5/6(黄褐色)が5%混じる。ややしまる。	壁柱穴	ア
PT-1392	96 住内	32*25	40	10YR2/2(黒褐色)に10YR5/6(黄褐色)が5%混じる。ややしまる。	壁柱穴	ア
PT-1393	96 住 北壁	27*25	25	10YR5/4(ぶい黄褐色)に10YR2/2(黒褐色)が15%、10YR5/6(黄褐色)が15%混じる。ややしまる。	壁柱穴	ア
PT-1510	96 住内	17*16	28	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が混じる。ややしまる。	壁柱穴	ア
PT-1625	96 住内	30*33	80	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が混じる。ややしまる。	主軸上の柱穴。木島式、中柱式	ア
PT-1627	96 住内	24*22	30	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が混じる。ややしまる。	壁柱穴	ア
PT-1628	96 住 西壁	26*24	26	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が混じる。ややしまる。	壁柱穴	ア
PT-1634	96 住内	29*34	56	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が混じる。ややしまる。	隅角部の柱穴。2基の柱穴が連結。中柱式、神ノ木式	ア
PT-1635	96 住内	50*30	50	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が混じる。ややしまる。	隅角部の柱穴	ア
PT-1636	96 住内	22*22	41	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が混じる。ややしまる。	壁柱穴	ア
PT-1637	96 住内	24*22	42	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が混じる。ややしまる。	壁柱穴	ア
PT-1638	96 住内	30*26	28	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が混じる。ややしまる。	石あり。	ア
PT-1639	96 住内	40*40	35	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が混じる。ややしまる。	壁柱穴、鰐山式	ア
PT-1639#	96 住内	30*28	20	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が混じる。ややしまる。	隅角部の柱穴	ア
PT-1640	96 住内	29*20	55	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が混じる。ややしまる。	主軸上の柱穴	ア
PT-1641	96 住内	32*33	60	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が混じる。ややしまる。	主軸上の柱穴	ア
PT-1642	96 住内	20*20	25	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が混じる。ややしまる。	壁柱穴	ア
PT-1643	96 住内	20*17	41	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が混じる。ややしまる。	主軸上の柱穴	ア
PT-1644	96 住内	20*20	30	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が混じる。ややしまる。	壁柱穴	ア
PT-1645	96 住内	20*23	42	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が混じる。ややしまる。	隅角部の柱穴	ア
PT-1648	96 住内	47*48	13	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が混じる。ややしまる。	壁柱穴	エ
PT-1651	96 住 壁面	56*54	15	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が混じる。ややしまる。	壁柱穴、中柱式	エ
PT-1652	96 住内	34*34	15	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が混じる。ややしまる。	隅角部の柱穴	エ
PT-1653	96 住 南西壁	30*31	23	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が混じる。ややしまる。	隅角部の柱穴。木島式	ア
PT-1654	96 住内	20*20	30	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が混じる。ややしまる。	隅角部の柱穴	ア



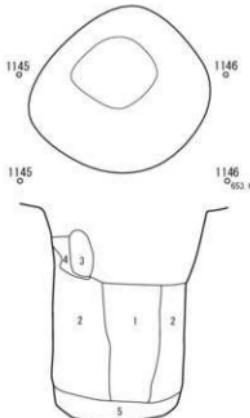
- 1番 1092.2(黒磚)に1094.4(磚)が5cm、花崗岩粒が5mm以下、混じるシルト粘土。粘性ややあり。
ややしまる。(やらしい)
- 2番 1092.2(黒磚)に1094.4(磚)が10cm、花崗岩粒が5mm以下じるシルト粘土。粘性ややあり、やや
しまる。(やらしい)
- 3番 1092.2(黒磚)に1094.6(黄磚)がブロックで10cm、花崗岩粒が5mm以下じるシルト粘土。粘性や
やりややしまる。(やらしい)
- 4番 1092.2(黒磚)に1094.6(磚)が5cm、花崗岩粒が5mm以下、混じるシルト粘土。粘性やや
やしまる。(石があるから黒いだけ?) (P.S. 砖ではないと思われる)
- 5番 1093.2(黒磚)に1094.6(黄磚)が10cm、花崗岩粒が5cm以下、花崗岩粒がブロックで5cm、
底物化物が混じるシルト粘土。粘性ややりややしまる。
- 6番 1093.2(黒磚)に1094.4(磚)が40cm、花崗岩粒が5mm以下じるシルト粘土。粘性ややりやや
しまる。
- 7番 1093.2(黒磚)に1094.2(黒磚)が90cm、1094.6(明黄磚)の2cm~10cmの粒子
が5mm以下じるシルト粘土。粘性ややりややしまる。
- 8番 1093.2(黒磚)に1094.4(磚)が5cm、花崗岩粒が5cm以下、1094.6(明黄磚)の2cm~10cmの粒子が5mm
以下じるシルト粘土。粘性ややりややしまる。
- 9番 1093.2(黒磚)に1094.6(黄磚)の2cm~5cmの粒子が5cm、花崗岩粒が5mm以下じるシ
ルト粘土。粘性ややりややしまる。
- 10番 1093.2(黒磚)に1094.4(磚)が5cm、1094.6(明黄磚)の粒子が5cm、花崗岩粒が5mm以下じ
るシルト粘土。粘性ややりややしまる。
- 11番 1093.2(黒磚)に1094.2(黒磚)が5cm、1094.6(明黄磚)のブロックが5cm、花崗岩粒が5mm以下じ
るシルト粘土。粘性ややりややしまる。
- 12番 1093.2(黒磚)に1094.4(磚)が5cm、花崗岩粒が5mm以下じるシルト粘土。粘性ややりや
やしまる。
- 13番 1093.2(黒磚)に1094.4(磚)が40cmじるシルト粘土。粘性ややりややしまる。
- 14番 1093.2(黒磚)に1094.4(磚)が50cm、花崗岩粒が5mm以下化物)、粘土に混じるシルト粘土。粘
性ややりややしまる。
- 15番 1092.2(黒磚)に花崗岩粒が5cm、底物化物)、粘土に混じるシルト粘土。粘性ややりややしまる。
- 16番 カクラン
- 17番 1093.2(黒磚)に1094.4(磚)が50cm、花崗岩粒が5cm、底物化物)、粘土に混じるシルト粘土。粘性や
やりややしまる。
- 18番 1093.2(黒磚)に1094.4(磚)が40cm、1094.6(明黄磚)の2cm~10cmの小ブロックが5cm、花崗岩粒
が5mm以下じるシルト粘土。粘性ややりややしまる。
- 19番 1093.2(黒磚)に1094.4(磚)が50cm、1094.6(明黄磚)の2cm~10cmの小ブロックが5cm、花崗岩粒
が5mm以下じるシルト粘土。粘性ややりややしまる。
- 20番 1093.2(黒磚)に1094.4(磚)が50cm、1094.6(明黄磚)の粒子が5cm、花崗岩粒が5mm以下じるシルト粘
土。粘性ややりややしまる。
- 21番 1093.2(黒磚)に1094.6(明黄磚)の粒子が5cm、花崗岩粒が5mm以下じるシルト粘土。粘性やや
やしまる。
- 22番 1093.2(黒磚)に1094.2(黒磚)が5cm、1094.4(磚)が50cm、花崗岩粒が5mm以下じる、細粒土。粘性やや
やりややしまる。
- 23番 1095.6(明黄磚)に1094.3(黒磚)が50cm、花崗岩粒が5mm以下じる、細粒土。粘性ややりややしまる。
- 24番 1095.6(明黄磚)に1094.3(黒磚)が50cm、花崗岩粒が5mm以下じる、細粒土。粘性ややりややしまる。
- 25番 1092.2(黒磚)に1094.6(明黄磚)が5cm、花崗岩粒が5mm以下じる、細粒土。粘性ややりややしまる。
- 26番 砂と 泥質同じだが 砂より やや密。
- 27番 1092.2(黒磚)に1094.4(磚)が50cm、花崗岩粒が5mm以下じる、細粒土。粘性ややりや
やしまる。
- 28番 1092.2(黒磚)に1092.2(黒磚)が5cm、1094.4(磚)が50cm、花崗岩粒が5mm以下じる、細粒土。粘性やや
やりややしまる。
- 床底 1093.6(明黄磚)に1095.6(黄磚)が5cm以下、花崗岩粒が5mm以下じる、細粒土。粘性なし、非常に固
くしまる。
- 壁 1093.6(明黄磚)に1095.6(黄磚)が5cm以下、花崗岩粒が5mm以下じる、細粒土。粘性ややりや
やしまる。

PJ096号住居

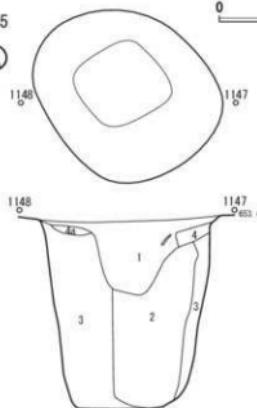


PJ096 号住居

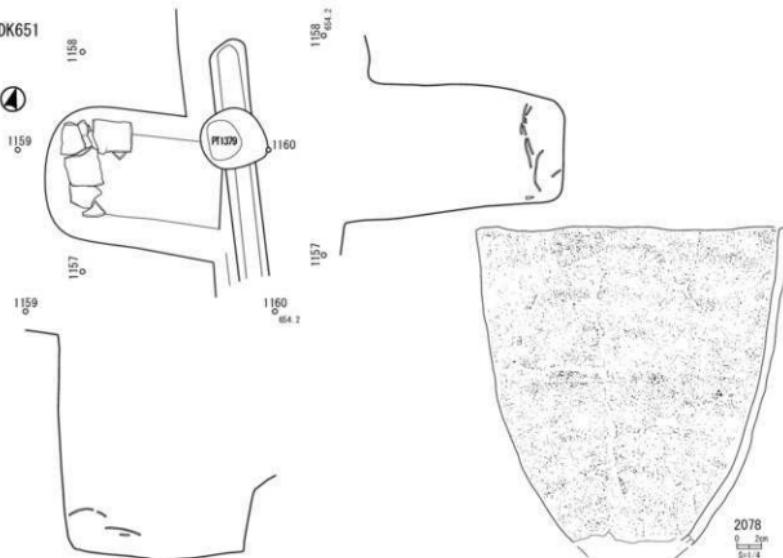
DK642

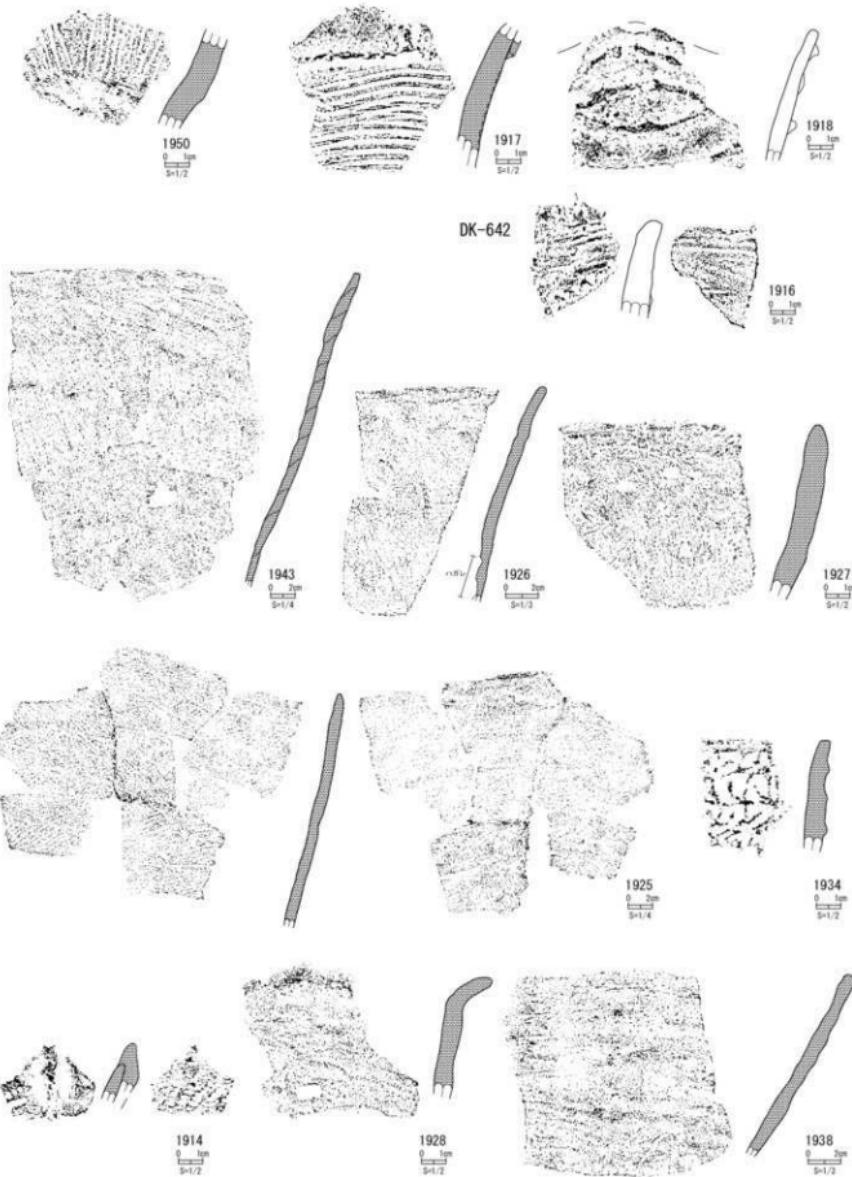


DK645

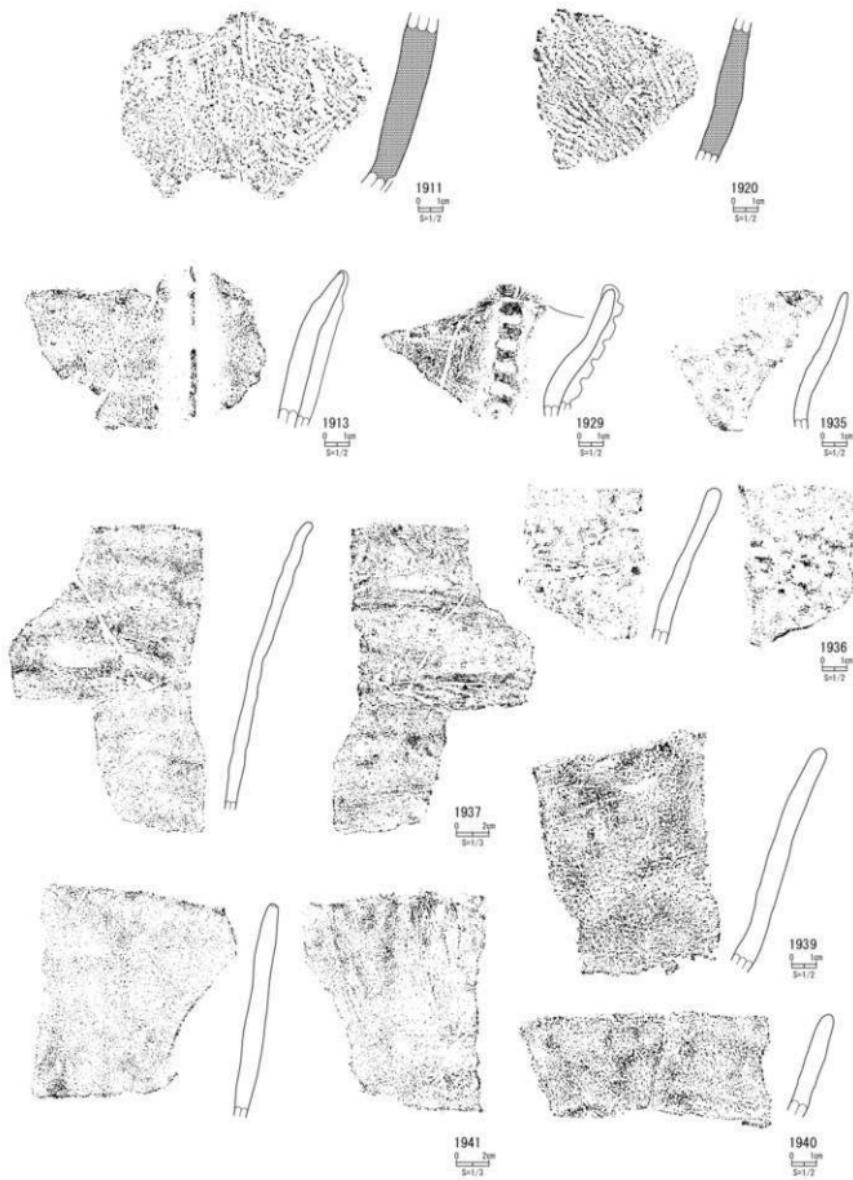


DK651

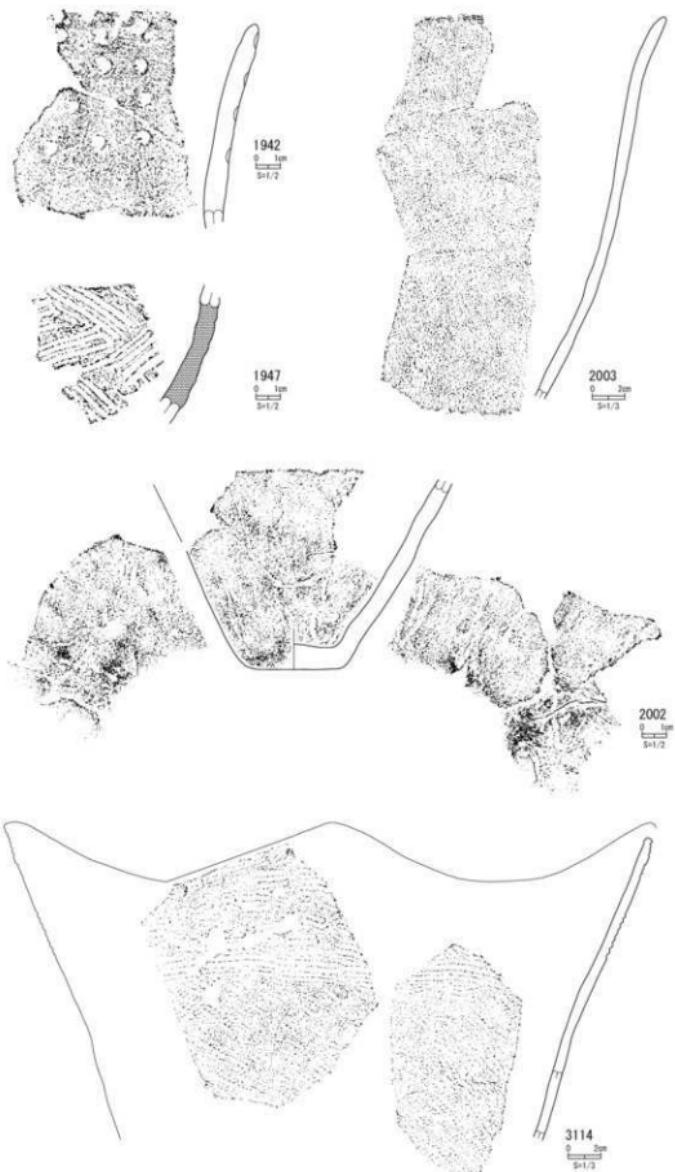




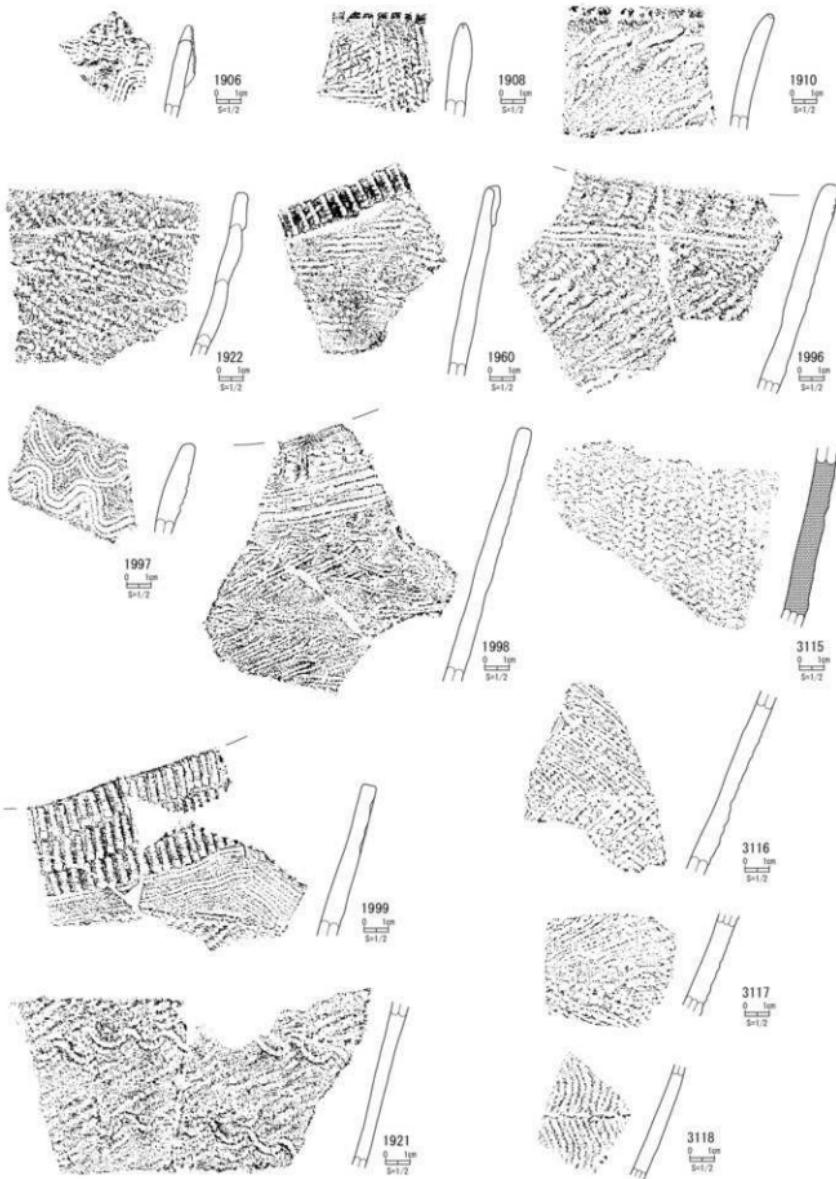
PJ096 号住居出土遺物



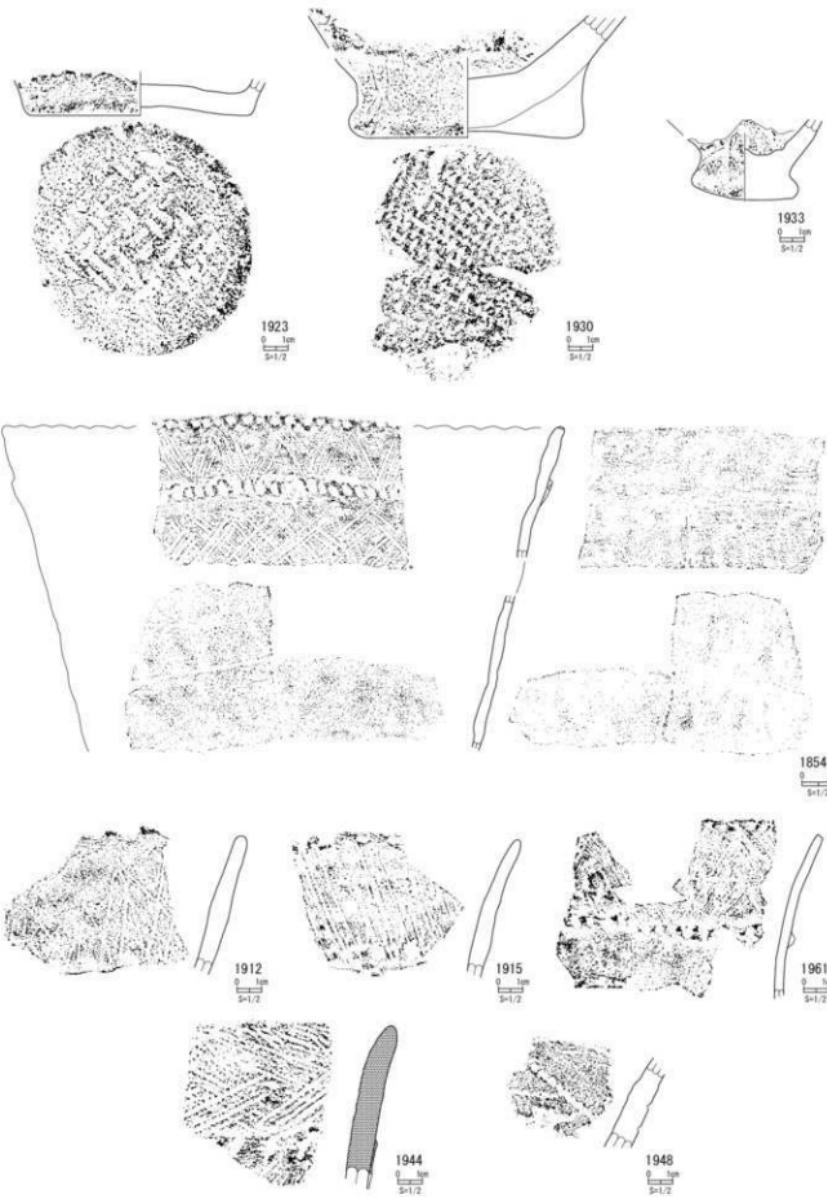
PJ096 号住居出土遺物



PJ096 号住居出土遺物



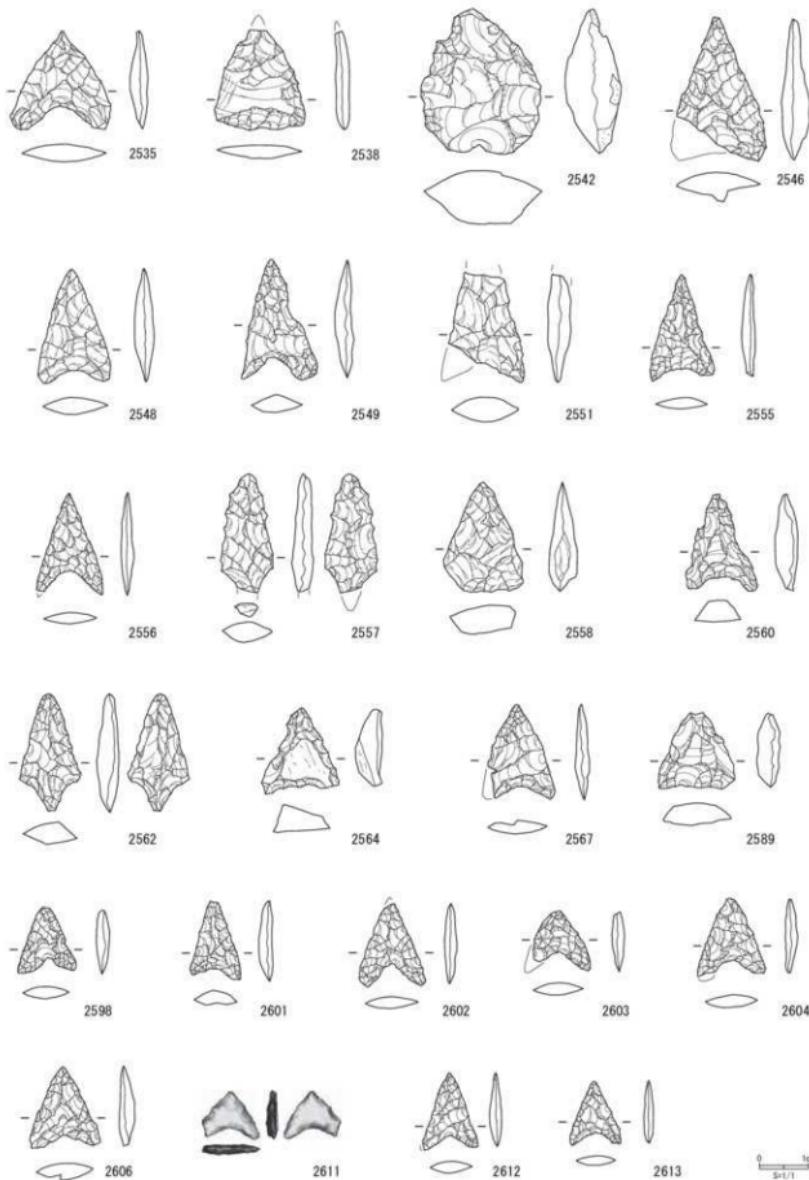
PJ096 号住居出土遺物



PJ096 号住居出土遺物



PJ096 号住居出土遺物



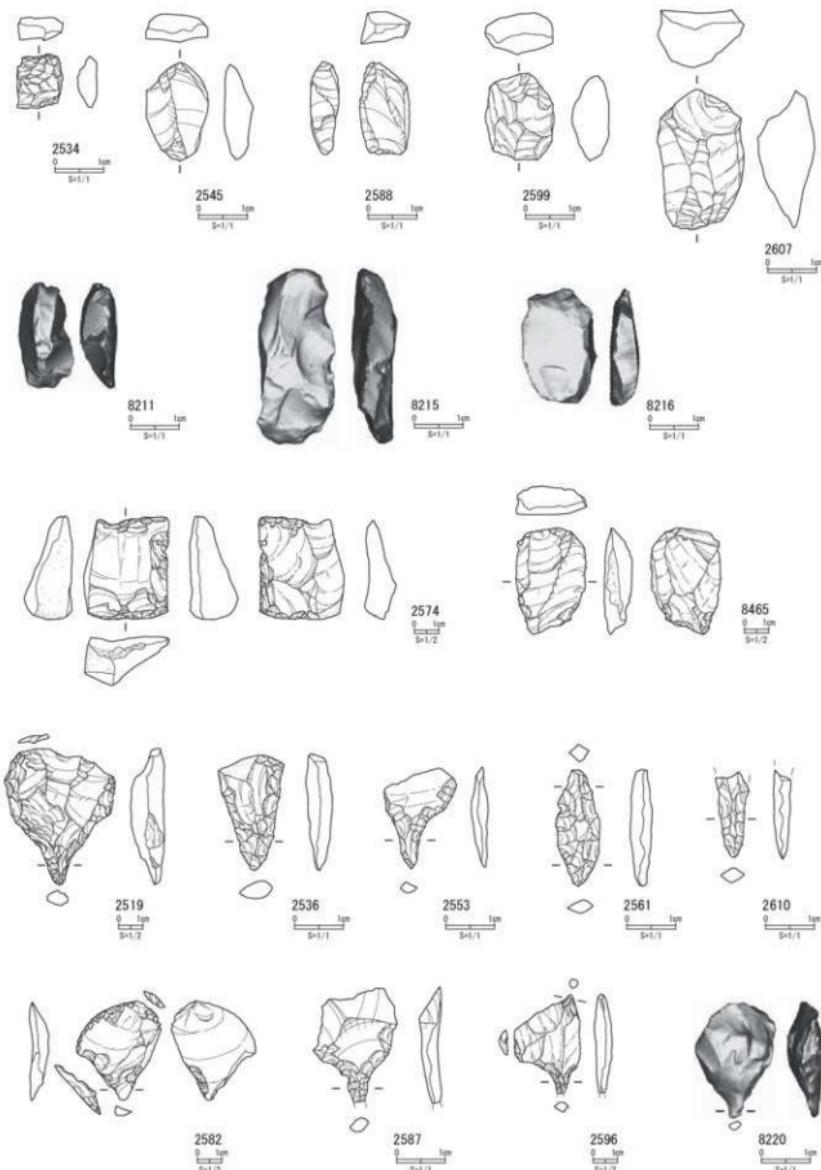
PJ096 号住居出土遺物



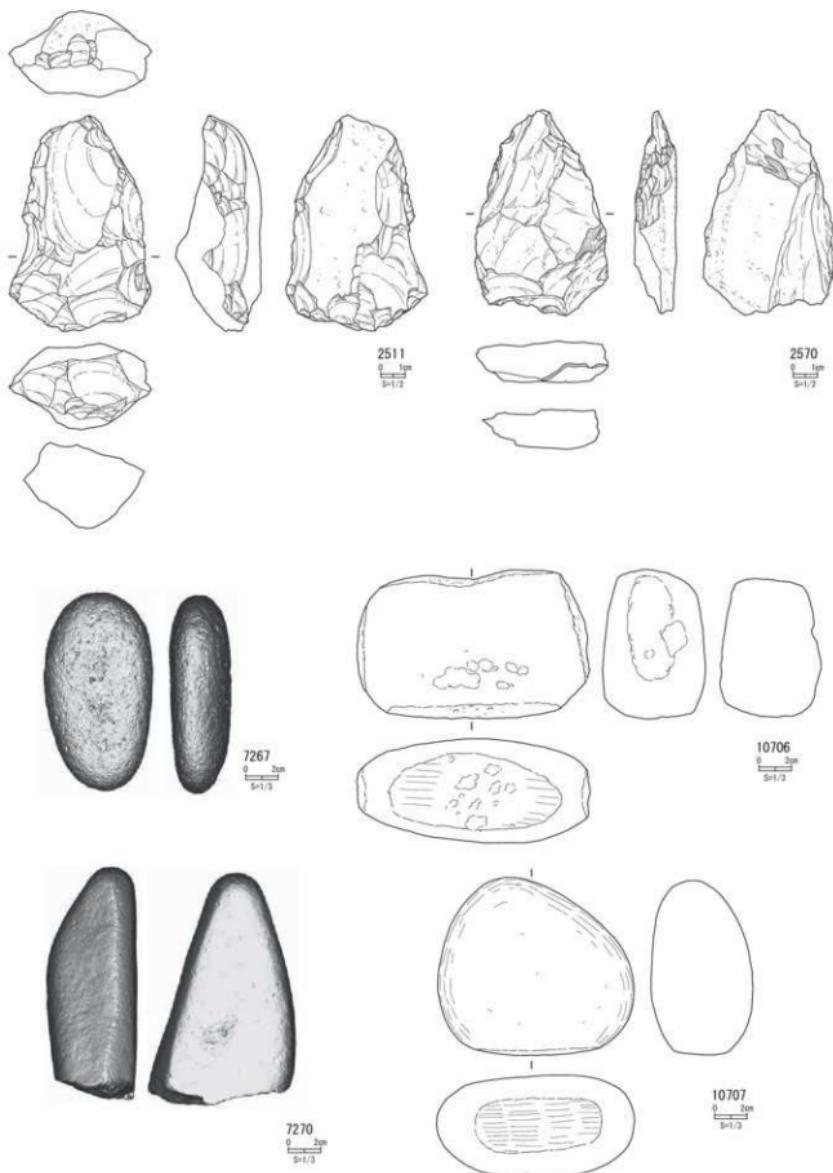
PJ096 号住居出土遺物



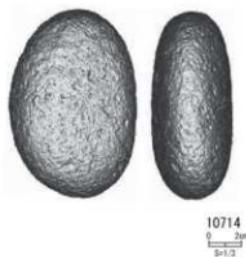
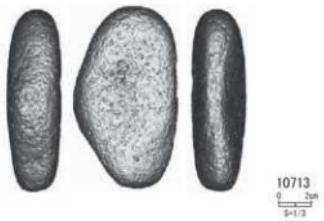
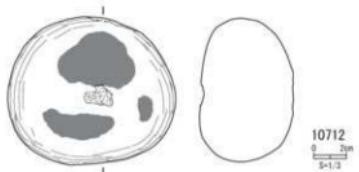
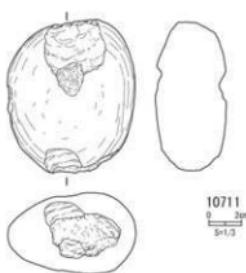
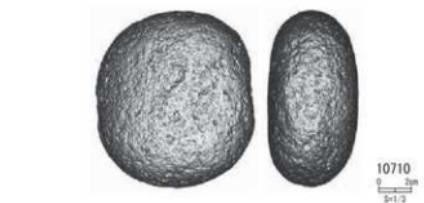
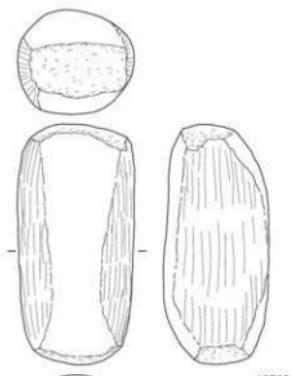
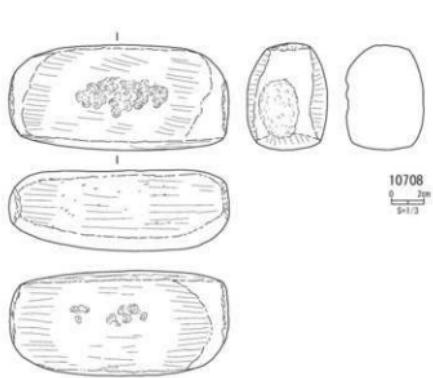
PJ096 号住居出土遺物



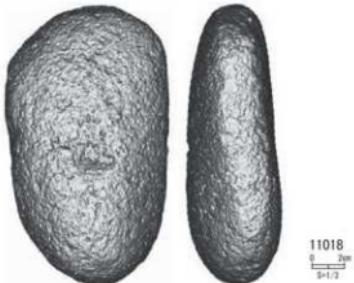
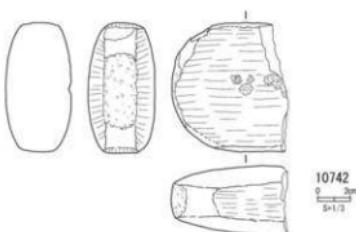
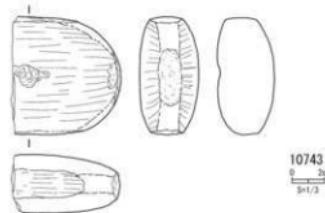
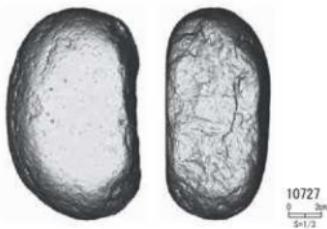
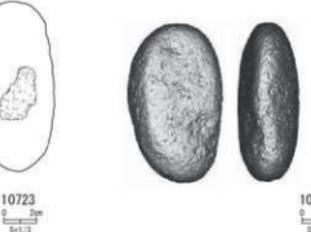
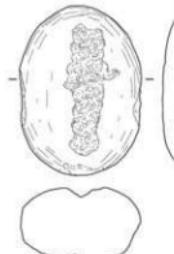
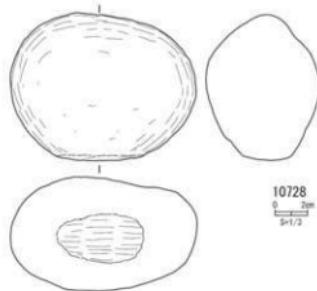
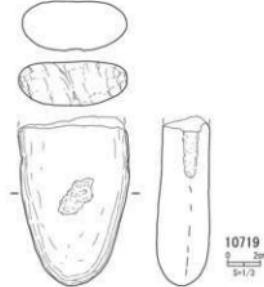
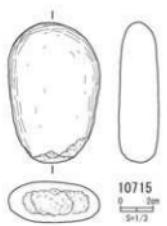
PJ096 号住居出土遺物



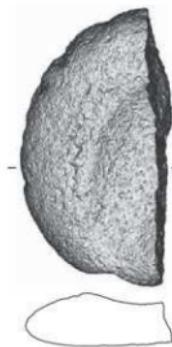
PJ096 号住居出土遺物



PJ096 号住居出土遺物



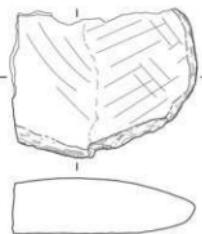
PJ096 号住居出土遺物



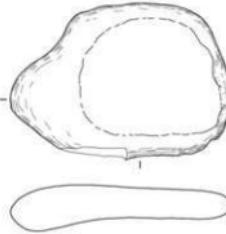
7258
0—2cm
S=1/4



10704
0—2cm
S=1/4



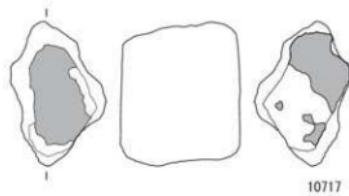
10703
0—2cm
S=1/8



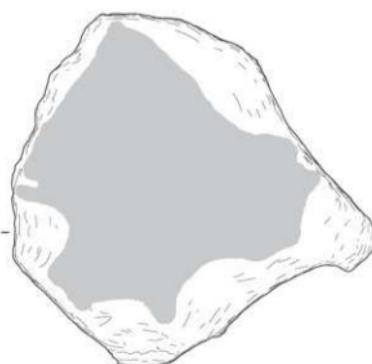
10705
0—5cm
S=1/8



10716
0—2cm
S=1/4

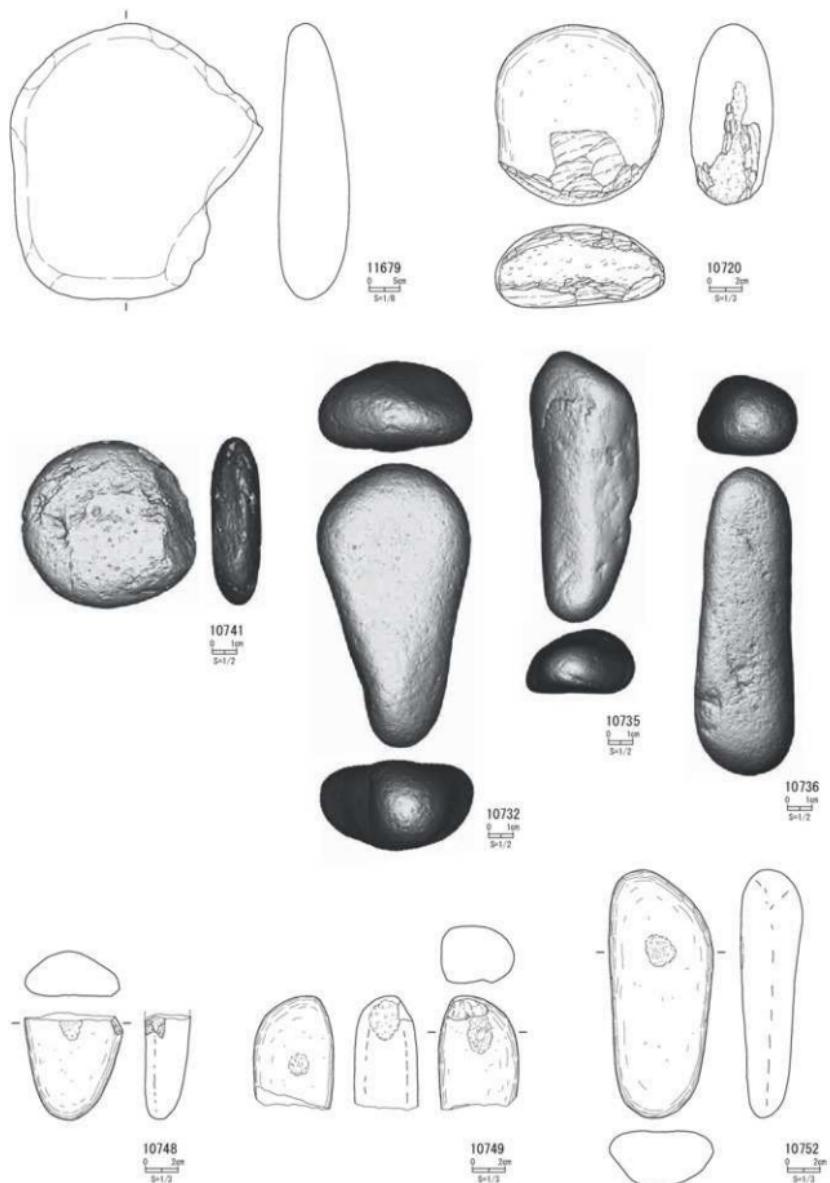


10717
0—2cm
S=1/8

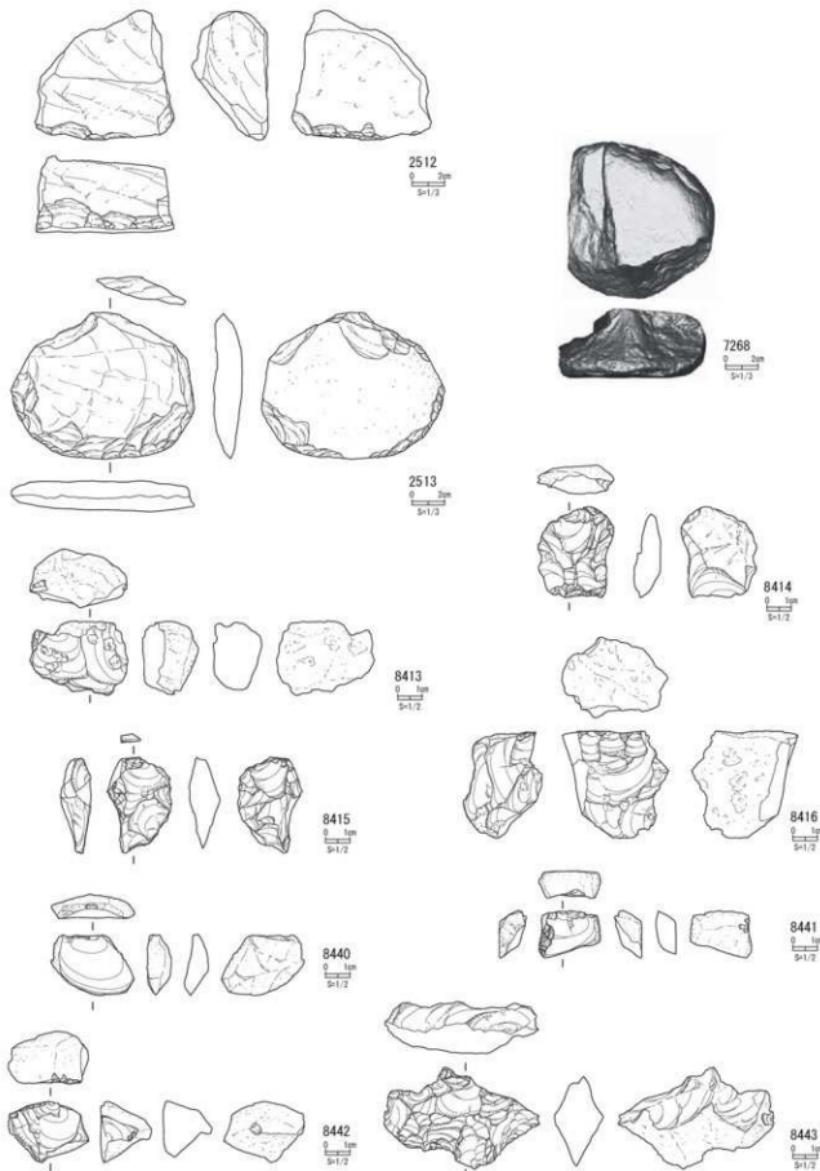


11669
0—5cm
S=1/8

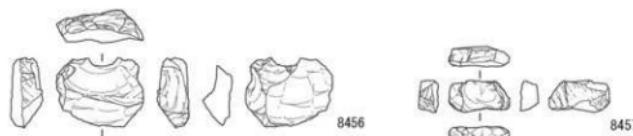
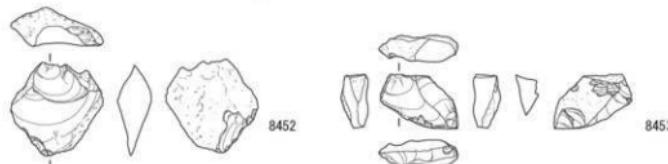
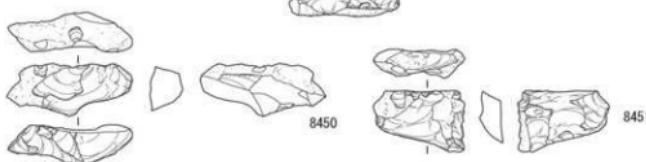
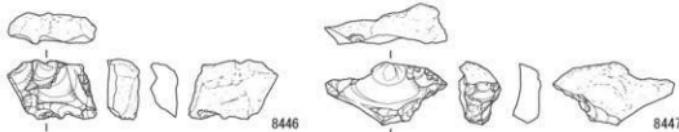
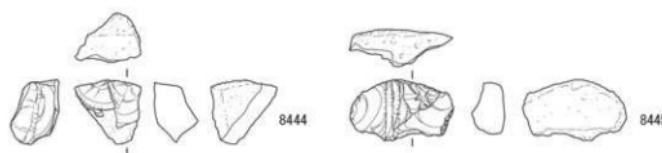
PJ096 号住居出土遺物



PJ096 号住居出土遺物

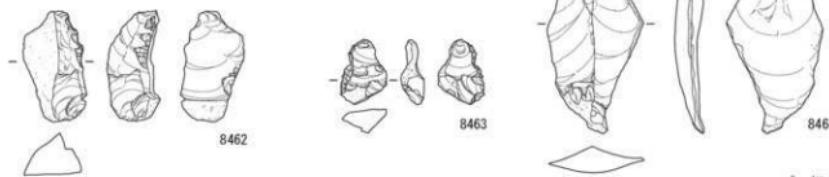
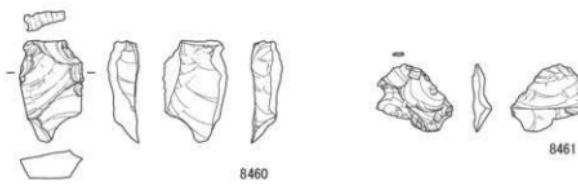
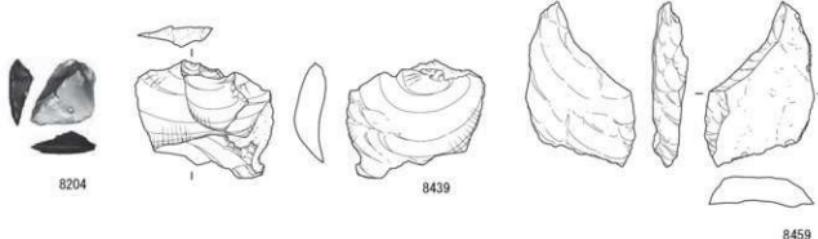
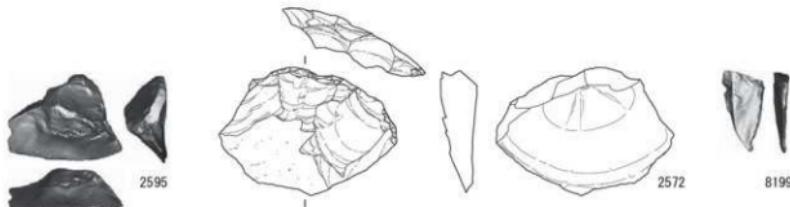
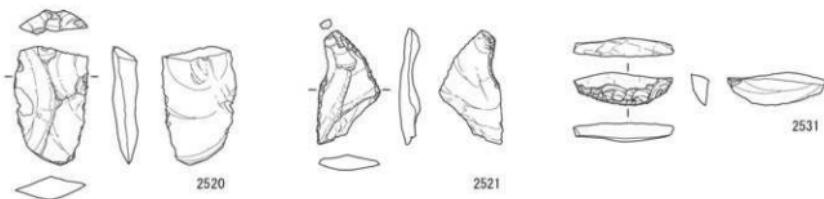


PJ096 号住居出土遺物



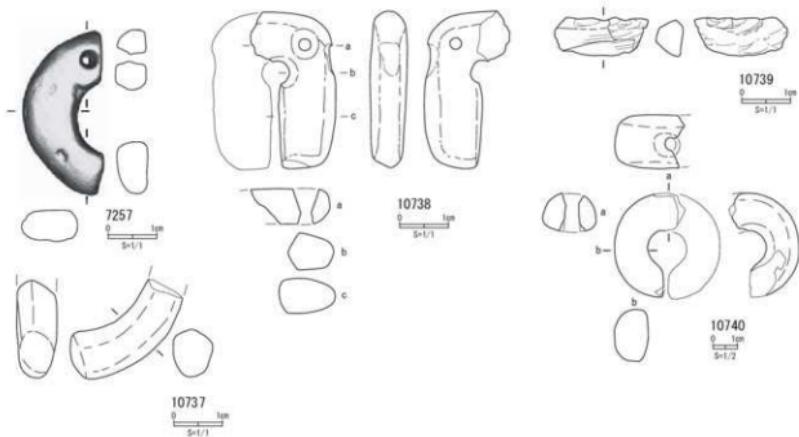
3 10mm
5-1/2

PJ096 号住居出土遺物



1:2
5:1/2

PJ096 号住居出土遺物



PJ096 号住居出土遺物



PJ096 号住居
南壁沿いの石器出土状況（北西から）

PJ096号住居 土器観察表

実測番号	注記	部位	口径 cm 横	器高 cm 横	底径 cm 厚さ	重量	残存度	施土色調 上段：内面 下段：外面	備考
1854	PJ-96_20 PJ-96, PJ-92, PJ-[04, I-7-13, I-6-17]	口縁部 ～肩部	34.8	-	-	806.0	破片	SYR6/6 SYR6/4	06644 南東席。床面から11cm浮いて出土。口唇部に刺込み。側面に落帯。縫合部に底部形状多様。落帯下位に格子目文。組合しない同一器体破片をみると格子目文は頭部中位以下まで描かれてるが、かすれて不明瞭になる。内面指頭圧痕。器底は口縁部9mm。脚部7mmと薄手。胎土に織維を含まない。木鳥式
1906	PJ-96	口縁部	-	-	-	9.0	破片	SYR6/4 SYR5/4	口唇部に三角形の突起。術後状工具の刺突文、条線文。内面指頭圧痕がやや残る。胎土に織維を含まない。神ノ木式
1908	PJ-96	口縁部	-	-	-	20.0	破片	7.SYR6/4 7.SYR5/3	口唇部に弧状切り込みのような彫み。縫文。内面指頭圧痕が残るヨコナデ。胎土に織維を含まない。神ノ木式
1910	PJ-96_81	口縁部	-	-	-	33.0	破片	SYR6/6 SYR5/4	PT1825上。表面出土。口唇部に刺込み。縫文。内面平滑にヨコナデ。胎土に織維を含まない。神ノ木式
1911	PJ-96_85	肩部	-	-	-	94.0	破片	7.SYR6/4 SYR5/4	PT1651出土。外面にすこしかな条痕文。内面ヨコナデ。肩部下位の破片。縫合は11mm以上と厚手。胎土に織維を多量に含む。中越式か
1912	PJ-96	口縁部	-	-	-	32.0	破片	SYR6/6 SYR5/4	口唇部に凹み。細く長いV字形格子目文。刺込み。内面指頭圧痕。胎土に織維を含まない。器壁は6.5mm。木鳥式
1913	PJ-96	口縁部	-	-	-	57.0	破片	7.SYR7/4 7.SYR4/4	波瀬頭から剪下落帯。落帯は前面三角形。内面指頭圧痕がやや残るナデ調整。胎土に織維を含まない。中越式
1914	DK-645	口縁部	-	-	-	6.0	破片	SYR6/6 SYR6/6	DK65 出土。波瀬頭に垂下落帯。縫文。胎土に織維を含む。中越式
1915	PJ-96	口縁部	-	-	-	28.0	破片	7.SYR5/3 7.SYR2/1	口唇部に刺込み。斜状の条線文。口縁部段差に刺込み。内面指頭圧痕がやや残るヨコナデ。胎土に織維を含まない。木鳥式
1916	DK-642	口縁部	-	-	-	17.0	破片	7.SYR4/3 7.SYR4/4	DK62 出土。山形状口縁。角ばいた口唇部に真姫腹継の刺込み。内外縫合条文。外縫には低く、縫合半径から落帯。内縫は2枚位条痕文。内面に2枚位条痕文を有するナデ調整。器壁は9.5mm程度。胎土に織維を含まない。神之木台式か
1917	PJ-96	肩部	-	-	-	42.0	破片	SYR5/4 SYR4/3	波状口縁。波状前部に刺込み落帯添付のV字形。口唇に平行するV字形落帯。下位は2枚位条痕文。内面に2枚位条痕文を有するナデ調整。器壁は9mm程度。胎土に織維を少量含む。神之木台式
1918	PJ-96_80	口縁部	-	-	-	32.0	破片	SYR4/6 2.SYR5/5	山の波状口縁。薄く尖った口唇部。口縁部に新面三角形の細い縫跡があり、下位にレンズ形落帯添付。内面に凹と凸が残がていいらしい方吉調整。器壁は8mmと薄手。胎土に織維を含まない。下吉井式か
1919	PJ-96	口縁部	-	-	-	114.0	破片	2.SYR8/4 SYR4/6	磨透縫文。竹貫平行沈綴で木の葉文。内面ミガキ。諸葛b式
1920	PJ-96	肩部	-	-	-	42.0	破片	7.SYR7/4 7.SYR6/4	内外面に整形の凹凸がやや残る。縫文。胎土に織維を多量に含む。中越式
1921	PJ-96	肩部	-	-	-	95.0	破片	7.SYR5/3 7.SYR6/4	結節縫文。内面に輪筋痕がやや残るヨコナデ。胎土に織維を含まない。神ノ木式
1922	PJ-96	口縁部	-	-	-	91.0	破片	SYR5/4 SYR3/1	内外面に輪筋痕がやや残る。外面口縁部は肥厚口縁のように輪筋痕みどり。内面ヨコナデ。胎土に織維を含まない。神ノ木式
1923	I0-6975	肩部～ 底部	-	-	9.2	110.0	破片	SYR6/6 7.SYR6/3	地表付の北 In. 床面から28cm浮いて出土。上げ底気味の底面に網代底。胎土に織維を含まない。神ノ木式
1924	I0-6964, I-6-12	口縁部	-	-	-	87.0	破片	SYR4/2 SYR3/4	地表付の北 In. 床面から50cm浮いて出土。口唇部に刺込み。貝殻状の網代付。内面ヨコナデ。胎土に織維を含まない。諸葛式か?器面調整は諸葛式にしては粗鈍な印象。
1925	PJ-96_6, PJ-96_36, PJ-96_37, PJ-96_39, PJ-96_40	口縁部 ～肩部	-	-	-	982.0	破片	7.SYR6/4 7.SYR6/6	PT1224 南東席。床面から7～15cm浮いて出土。波状口縁。縫文地文に粗鈍な格子目文。内面にも粗鈍な格子目文。胎土に織維を含む。中越式
1926	PJ-96	口縁部 ～肩部	-	-	-	95.0	破片	SYR6/6 SYR4/3	内外面に整型の凸凹。内面に指頭圧痕が残る。胎土に織維を含む。中越式
1927	PJ-96_73	口縁部	-	-	-	69.0	破片	7.SYR7/4 7.SYR6/3	住居南西角。床面から14cm浮いて出土。内外面に整型の凸凹が残るナデ調整。胎土に織維を多量に含む。中越式
1928	PJ-96	口縁部	-	-	-	31.0	破片	SYR6/6 SYR4/2	縫跡が強く屈曲。外反。内外面整型の凸凹が残るナデ調整。胎土に織維を含む。中越式
1929	PJ-96	口縁部	-	-	-	22.0	破片	7.SYR5/3 7.SYR5/3	波瀬頭から刺込み落帯が垂下。内外面整型の凸凹が残るナデ調整。胎土に織維を含まない。中越式
1930	PJ-96_83, PJ-96_84	肩部～ 底部	-	-	9.6	338.0	破片	10YR4/1 7.SYR6/4	10YR4/1 床面出土。上げ底気味の底面に網代底。胎土に織維を含まない。神ノ木式
1933	I0-6961	肩部～ 底部	-	-	4.4	61.0	破片	2.SYR5/6 SYR5/4	脚付底部。胎土に織維を含まない。神ノ木式
1934	PJ-96_1-6-8, I-7-7	口縁部	-	-	-	66.0	破片	SYR3/3 SYR2/1	ループ文。やや角ばいた口唇部。内面ミガキ顕著。胎土に織維と海緑骨状の白色物質を含む。鶴山式
1935	PJ-96_16	口縁部	-	-	-	18.0	破片	2.SYR4/4 2.SYR5/6	外縫ヨコナデ。内面指頭圧痕が残るヨコナデ。胎土に織維を含まない。中越式
1936	PJ-96	口縁部	-	-	-	27.0	破片	SYR6/4 7.SYR5/4	外縫にガジリ。内面指頭圧痕がやや残るヨコナデ。胎土に織維を含まない。中越式
1937	PJ-96_42, PJ-96_41, PJ-96	口縁部 ～肩部	-	-	-	191.0	破片	SYR5/4 SYR4/4	内面輪筋縫文。指頭圧痕が残るナデ吉調整。胎土に織維を含まない。中越式
1938	I0-6966	口縁部 ～肩部	-	-	-	189.0	破片	7.SYR5/3 SYR6/4	内外面にヨコナデ調整痕が明瞭。胎土に織維を含む。中越式

PJ096 号住居 土器観察表

実測番号	注記	部位	口径 cm 横	器高 cm 横	底径 cm 厚さ	重量	残存度	胎土色調 上部：内部 下部：外部	備考
1939	PJ-96	口縁部～脚部	-	-	-	81.0	破片	SYR6/5 SYR4/4 SYR2/2	無い波状口縁。外面上に整形の凹凸と指揮痕がやや残るナデ調整。胎土に織維を含まない。中越式。
1940	PJ-96	口縁部	-	-	-	49.0	破片	SYR4/4 SYR6/4	外面上指揮痕が残るナデ調整。内面風化。胎土に織維を含まない。中越式。
1941	PJ-96 31	口縁部～脚部	-	-	-	208.0	破片	SYR6/5 7.SYR5/4	DK65 西 In. 底面から 25 cm 手前で出土。縁なし波状口縁。口部側に削み。内外面に指揮痕が残る。外面上ヨコナデ。内面は口縁部がタナナデ、脚部がヨコナデ。胎土に織維を含まない。中越式。
1942	PJ-96	口縁部～脚部	-	-	-	57.0	破片	SYR6/5 7.SYR6/6	口縁部側に削み。竹青を斜めに削突。外面上平滑にナデ調整。内面指揮痕が残るヨコナデ。胎土に織維を含まない。中越式併行。
1943	PJ-96_1, PJ-96 2, PJ-96 3, PJ-96 4, PJ-96 5, I-6-12	口縁部～脚部	-	-	-	597.0	破片	SYR4/3 SYR2/2	地炉灰上。床面から 21 ~ 27 cm 手前で出土。内外面ともナデ痕が同時に残る。胎土に織維を含む。中越式。
1944	PJ-96	口縁部	-	-	-	51.0	破片	SYR6/5 SYR5/4	梅子目の朱赤文。口縁部下端がやや厚くなり刻み。内面ヨコナデ。基部は 11 mm と厚手。胎土に織維を多量に含む。木鳥式併行。
1945	PJ-96_1, 16-7032	口縁部～脚部	-	-	-	240.0	破片	2.SYR6/5 SYR4/4	波状口縁。斜めに盛取りした口唇部。ループ文。複位羽状純文。内面ミガキ。胎土に織維と海綿骨状の白色物質を含む。關山式。
1947	PJ-96	脚部	-	-	-	30.0	破片	7.SYR7/4 7.SYR7/4	側面削面圧痕。内面ヨコナデ。器壁は 9 mm と厚手。胎土に織維を含まない。
1948	PJ-96	脚部	-	-	-	20.0	破片	SYR5/4 SYR2/1	貝殻側面圧痕。内面ヨコナデ。器壁は 9 mm と厚手。胎土に織維を含まない。
1949	PJ-96	口縁部	-	-	-	6.0	破片	7.SYR6/4 7.SYR6/5	片口状の口縁部突起。大柄爪彫文。内面ハガレ。胎土に織維を含まない。堂之上式。
1950	PJ-96	脚部	-	-	-	28.0	破片	7.SYR7/2 7.SYR6/5	擦文。内面ナデ調整。胎土に織維と海綿骨状の白色物質が混じる。
1951	PJ-96	脚部	-	-	-	60.0	破片	7.SYR4/2 7.SYR6/6	爪彫文。内面風化。胎土に織維を少量含む。堂之上 2 式。
1952	PJ-96	口縁部	-	-	-	39.0	破片	7.SYR6/4 7.SYR6/4	肥厚口縁に爪彫文割り 2 列。純文。内面平滑なヨコナデ。胎土に織維を含まない。堂之上 2 式。
1953	PJ-96	口縁部	-	-	-	25.0	破片	SYR5/4 7.SYR5/2	肥厚口縁に爪彫文割り 2 列。脚部は擦文。内面平滑なヨコナデ。胎土に織維を含まない。堂之上 2 式。
1954	PJ-96_1, I-6-18	脚部～底部	-	-	-	73.0	破片	7.SYR6/4 7.SYR2/4	底部破片。ループ文。内面ミガキ。胎土に織維を含む。關山式。
1960	PJ-96	口縁部	-	-	-	68.0	破片	SYR6/4 SYR2/2	肥厚口縁。横筋状工具の削突文。純文。内面平滑なナデ調整。胎土に織維を含むない。神ノ木式。
1961	PJ-96	口縁部～脚部	-	-	-	105.0	破片	SYR4/4 SYR4/3	口唇部削突。横筋状工具による格子目条線文。刻み縦帶。内面指揮痕がやや残るナデ調整。器壁は 6 mm と厚手。木鳥式。
1966	PJ-96_1, I-6-11	口縁部～脚部	-	-	-	242.0	破片	7.SYR6/4 7.SYR5/6	無い波状口縁。横筋状工具の削突文と条線文。内面指揮痕がやや残るナデ調整。胎土に織維を含まない。神ノ木式。
1997	PJ-96	口縁部	-	-	-	27.0	破片	7.SYR6/4 7.SYR5/6	波状口縁。コンバツ文。内面平滑にヨコナデ。胎土に織維を含まない。神ノ木式。
1998	I-6-12	口縁部～脚部	-	-	-	76.0	破片	7.SYR6/4 7.SYR2/2	過模倣感。擦文（埋土最上層）。出土。波状口縁。横筋状工具の削突文と条線文。感性体。内面風化。胎土に織維を含まない。神ノ木式。
1999	PJ-96_1, I-6-18	口縁部～脚部	-	-	-	115.0	破片	SYR5/4 7.SYR4/2	波状口縁。角ばった口唇部。横筋状工具の削突文が 3 列。純文。内面平滑。底床灰上。床面から 46 cm 手前で出土。胎土に織維を含まない。木鳥式。
2002	I6-6962	脚部～底部	-	-	4.0	168.0	破片	7.SYR6/1	地床灰上。床面から 46 cm 手前で出土。底床灰上。胎土に織維を含まない。木鳥式併行。
2003	PJ-96_22, PJ-96_43, PJ-96	口縁部～脚部	-	-	-	240.0	破片	SYR5/6 SYR4/4	住居北東角。床面から 9 ~ 13 cm 手前で出土。内外面輪郭痕が残る。外面上ヨコナデ。内面ヨコナデ。胎土に織維を含まない。中越式。
2078	DK-651	口縁部～脚部	25.4	-	-	2,000.0	4/5	2.SYR6/5 SYR6/6	DK65 出土。内外面に輪郭痕が残る。外面上ヨコナデ調整。内面ヨコナデ。底盤が打ち欠かされたよう欠損。胎土に織維を含まない。中越式。
2981	PJ-96	土製円盤	-	6.6	1.0	19.7	1/2	7.SYR4/2 7.SYR7/4	關山式土器破片を加工した土製円盤か。羽状純文。内面ミガキ。胎土に織維を含む。
3114	PJ-96_1, PJ-96_6	口縁部～脚部	40.0	-	-	264.0	破片	SYR5/4 7.SYR5/4	組紐。内面平滑にヨコナデ。胎土に織維を含む。神ノ木式。
3115	PJ-96	脚部	-	-	-	71.0	破片	7.SYR5/2 7.SYR5/4	正反の合。羽状施文。内面ナデミガキ。胎土に織維を含まない。神ノ木式。
3116	PJ-96	脚部	-	-	-	39.0	破片	7.SYR5/4 7.SYR4/3	正反の合原体と反張原体の組状体施文？内面平滑にナデ調整。胎土に織維を含まない。神ノ木式。
3117	PJ-96	脚部	-	-	-	31.0	破片	7.SYR6/4 7.SYR6/6	網の糸を羽状施文？内面平滑にナデ調整。胎土に織維を含まない。神ノ木式。
3118	PJ-96	脚部	-	-	-	13.0	破片	7.SYR6/6 7.SYR6/6	網の糸を羽状施文？内面平滑にナデ調整。胎土に織維を含まない。神ノ木式。
3119	I6-6973	燒成粘土塊	-	-	-	67.0	-	10YR7/1 5YR6/6	粘土板を折り曲げて巻きつぶしたような形状。指痕あり。胎土に織維を含む。
3328	PJ-96	脚部	-	-	-	75.0	破片	SYR5/4 7.SYR5/4	直面段合部。内面ミガキ。胎土に織維を多量に含む。關山式。

PJ096 号住居 石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
2511	PJ-96 72	打製石斧	泥岩	1/1	87.0	57.0	35.0	175.20	D6699 南 1m、床面から4cm浮いて出土。亜円錐面が残る素材を調整し、刃部を作出。調査式刀削以降の打製石斧と異なり刃部は薄く、側面に両様打法を用いていない。使用痕はみられない。黄色く風化した泥岩。搬入石材。
2512	PJ-96 28	研器	砂岩	1/1	80.0	66.0	45.0	374.70	PT1389 東 1m、床面出土。角錐面が残る厚い片刃の1辺に刃部調整。刃節づぶれ。砂岩。
2513	PJ-96 49	研器	林立砂岩	1/1	90.0	117.0	17.0	259.80	東壁沿い。堆土上層出土。板状剥片を周縁調整。1辺に刃部。黄色く風化し使用痕不明だが、刃部は摩耗しているらしい。
2514	PJ-96	原石	黒曜石					57.70	河川転石。透明系黒曜石
2515	PJ-96	削器	珪質頁岩	3/4	34.0	63.0	9.0	29.10	剥片素材。片刃。刃部に微小剝離。白筋のある青灰色珪質頁岩
2516	PJ-96 15	石匙	珪質頁岩	1/1	47.0	71.0	7.0	24.20	地床仰側 1m、床面から26cm浮いて出土。片刃。刃部が強く摩耗。白斑がある青灰色珪質頁岩。搬入石材。
2517	PJ-96	削器	珪質頁岩	3/4	26.0	66.0	11.0	29.60	断面三角形の短長削片の長辺2辺に片刃の刃部。刃部と剥片の様が強く摩耗。白筋のある灰色珪質頁岩。搬入石材
2518	PJ-96	削器	珪質頁岩	1/1	25.0	59.0	8.0	13.20	断面三角形の短長削片の長辺2辺に片刃の刃部。刃部に局所的な微小剝離。剥片の様が弱く摩耗。白筋のある青灰色珪質頁岩
2519	PJ-96	石錐	珪質頁岩	1/1	56.0	45.0	13.0	30.10	大きな剥片素材。側部側面が強く摩耗。平坦化。先端は弱い尖鋒。白筋のある青灰色珪質頁岩
2520	PJ-96	剥離のある 剥片	珪質頁岩	1/1				14.40	剥片の長辺2辺に微小剝離。1辺にガジリ。白筋のある青灰色珪質頁岩
2521	PJ-96	剥離のある 剥片	珪質頁岩	1/1				5.50	不整剥片の2辺に微小剝離。白筋がある灰色珪質頁岩。搬入石材
2522	PJ-96	原石	黒曜石					23.40	ズリ。透明系黒曜石
2523	PJ-96	原石	黒曜石					23.70	ズリ。透明系黒曜石
2524	PJ-96	原石	黒曜石					25.80	ズリ。透明系黒曜石
2525	PJ-96	原石	黒曜石					23.30	河川転石。透明系黒曜石
2526	PJ-96	削器	珪質頁岩	1/1	52.0	28.0	7.0	13.10	二等辺に角錐形の長辺2辺に急傾斜の刃部。尖った端部に積状剥離。刃部に微小剝離。局所的な摩耗。白筋のある青灰色珪質頁岩
2527	PJ-96	原石	黒曜石					42.30	風化剥離面状の断面。透明系黒曜石
2528	PJ-96	削器	珪質頁岩	1/1	47.0	46.0	10.0	17.10	直角錐面が残る剥片の長辺1辺に片刃の刃部調整。刃部に微小剝離。長辺2辺は内済し、微小剝離と弱い穿孔。青灰色珪質頁岩
2529	PJ-96	削器	珪質頁岩	3/4	28.0	40.0	8.0	11.10	断面台形の短長削片。長辺2辺に刃部。短辺1辺の折取り面が傾斜で摩耗。緩急面。白筋のある青灰色珪質頁岩
2530	PJ-96 13	石匙	珪質頁岩	1/1	27.0	44.0	9.0	9.80	東壁沿い。堆土上層出土。片刃。リダクションが進行して刃部が後退。白筋のある青灰色珪質頁岩
2531	PJ-96	剥離のある 剥片	碧玉	-				3.70	外側にある片刃の刃部。物小剝離。赤褐色の碧玉
2532	PJ-96	削器	黒曜石	1/1	36.0	27.0	11.0	7.80	指指状器のような形状。周縁に刃部調整と微小剝離。基準状透明黒曜石
2533	PJ-96	石匙	黒曜石	1/1	34.0	29.0	8.0	6.50	未成品か、太い三まき然。刃部右端は折損でなく、素材剥離面。刃部調整は粗削形剥離。半透明黒曜石
2534	PJ-96	両極石器	珪質頁岩	1/1	22.0	18.0	9.0	4.80	剥片の左端に衝撃剝離。白筋のある灰色珪質頁岩
2535	PJ-96	石錐	珪質頁岩	1/1	20.3	20.7	4.3	1.19	凹基、幅広、両面加工。先端がすぼむ。灰色筋がある淡赤褐色の珪質頁岩
2536	PJ-96	石錐	黒曜石	1/1	22.0	13.0	5.0	1.40	両面にズリ面が残る裸素材。椎部削離が流れ。透明黒曜石
2537	PJ-96	石錐	黒曜石	1/2	-	-	4.7	(0.63)	未成品。凹基、両面加工。片削離が大きめ。欠損。透明黒曜石
2538	PJ-96	石錐	黒曜石	3/4	(20.4)	18.7	2.9	(1.04)	未成品。黒曜石が残る剥片素材。三角形状ができる段階。先端欠損。透明黒曜石
2539	PJ-96	石錐	黒曜石	3/4	(19.9)	(14.3)	4.6	(0.62)	凹基、両面加工。両端先端欠損。透明黒曜石
2540	PJ-96	石錐	黒曜石	3/4	17.6	(14.7)	3.5	(0.62)	凹基、抉りは浅い。両面加工。片端欠損。片面に主剥離面が残る。透明黒曜石
2541	PJ-96	石錐	黒曜石	3/4	(14.5)	-	2.6	(0.30)	凹基、両面加工。片面に主剥離面が残る。先端、片端欠損。透明黒曜石
2542	PJ-96	石錐	黒曜石	1/1	30.5	25.1	11.6	6.97	未成品。ズリ面が残る無い素材。三角形状ができる段階。透黒黒曜石
2543	PJ-96	石核	黒曜石	1/1	21.0	23.0	7.0	3.00	原石面が残る小さな石核。両端打法による剥離面。基準状透明黒曜石
2544	PJ-96	両極石器	黒曜石	1/1	19.0	16.0	9.0	2.30	厚い三角形の剥片の両端に衝撃剝離。基準状透明黒曜石
2545	PJ-96	両極石器	黒曜石	1/1	20.0	12.0	6.0	1.50	剥片の両端に衝撃剝離。透明黒曜石
2546	PJ-96	石錐	黒曜石	3/4	29.1	-	6.0	(1.66)	大形、凹基。片面加工。片面には原石面が大きく残り縁辺のみ調整。片端欠損。透明黒曜石

PJ096 号住居 石器觀察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
2547	PJ-96	石鎚	黒曜石	3/4	21.7	16.2	5.0	1.42	未完成品。片面に原石面が残る素材。三角形状ができつつある段階。透明黒曜石
2548	PJ-96	石鎚	珪質頁岩	1/1	23.0	14.8	4.4	1.07	凹基、両面加工。白筋のある青灰色珪質頁岩
2549	PJ-96	石鎚	黒曜石	3/4	24.8	(15.7)	4.0	(0.79)	凹基、両面加工。片脚側縫が欠損後に調整。透明黒曜石
2550	PJ-96	石鎚	黒曜石	1/2	~	17.1	2.3	(0.32)	凹基、両面加工。両先端が強く尖り、基部抉りも直線的。先端欠損。黒曜石のある基部は半透明黒曜石
2551	PJ-96	石鎚	珪質頁岩	3/4	~	~	5.3	(1.47)	未完成品か。凹基、両面加工。先端、片脚欠損。縫跡調整はまだ粗い。白筋のある青灰色珪質頁岩
2552	PJ-96	石鎚	黒曜石	3/4	~	(16.4)	5.0	(1.03)	凹基、両面加工。先端欠損。基部側透明黒曜石
2553	PJ-96	石鎚	珪質頁岩	1/1	20.0	15.0	4.0	0.70	小さな剥片素材。難燃に使用なし。白筋のある青灰色珪質頁岩
2554	PJ-96	石鎚	黒曜石	1/1	23.5	19.8	7.9	2.97	未完成品。三角形状ができた段階。基部側に素材の薄みがごぶ状に残る。黒曜石のある透明黒曜石
2555	PJ-96	石鎚	黒曜石	1/1	21.6	13.1	3.2	0.50	凹基、細身、両面加工。片脚欠損。白筋のある透明黒曜石
2556	PJ-96	石鎚	黒曜石	3/4	20.4	(13.5)	2.5	(0.37)	凹基、両面加工。片脚先端欠損。ていねいなつくり。透明黒曜石
2557	PJ-96	石鎚	珪質頁岩	1/1	24.0	10.0	5.0	1.10	石縫を再加工した有茎石歯か。先端には鋸部が残り、やや摩耗。白筋のある青灰色珪質頁岩
2558	PJ-96	石鎚	石英岩	1/1	22.2	16.4	6.2	1.98	未完成品。三角形状ができた段階。素材の厚みが残る。透明な石英岩
2559	PJ-96	石鎚	黒曜石	1/2	~	15.9	3.6	(0.65)	未完成品。剥片ができた段階。先端欠損。透明黒曜石
2560	PJ-96	石鎚	黒曜石	1/1	20.1	14.8	5.1	0.93	凹基、両面加工。片面に素材側面が残る。素材の薄みが残る難燃なつくり。基部側透明黒曜石
2561	PJ-96	石鎚	黒曜石	1/1	23.0	9.0	4.0	0.90	両面が穴の石鎚。片端は折損か。片面に微小剥離。半透明黒曜石
2562	PJ-96	石鎚	珪質頁岩	1/1	24.0	12.7	4.6	1.08	有茎、両面加工。白筋のある青灰色珪質頁岩
2563	PJ-96	石鎚	黒曜石	1/1	21.1	15.2	4.4	1.26	未完成品。他目的に調整した剥片を石鎚製作に転用か。三角形状を作り出す調整がみられない。基部側透明黒曜石
2564	PJ-96	石鎚	黒曜石	1/1	17.3	15.5	5.7	0.95	原石面が残る片端素材。片面に縫跡調整したのみ。難燃なつくり。透明黒曜石
2565	PJ-96	石鎚	黒曜石	3/4	15.5	~	2.7	(0.23)	凹基、長身、両面加工。片脚欠損。透明黒曜石
2566	PJ-96	石鎚	黒曜石	1/2	~	~	~	0.67	未完成品。剥片素材を両面加工。原形ができた段階。基部側が大きく折損。透明黒曜石
2567	PJ-96	石鎚	黒曜石	3/4	19.5	(13.6)	3.4	(0.55)	凹基、両面加工。片脚縫欠損。透明黒曜石
2568	PJ-96	石鎚	黒曜石	3/4	14.3	(14.7)	3.0	(0.37)	未完成品？両面加工。正三角形。難燃なつくりで先端、基部が半削りできない。黒曜石のある基部側透明黒曜石
2569	PJ-96	石鎚	黒曜石	3/4	~	(15.1)	3.1	(0.40)	凹基、両面加工。先端、片脚欠損。透明黒曜石
2570	PJ-96	打製石斧	頁岩	3/4	85.0	55.0	17.0	89.30	亜角椎形が残る。側面調整はソーン打法ではない。刃部に摩耗。尖った基部側にも局所的な摩耗。
2571	PJ-96	打製石斧	M&Jツル	破片	57.0	55.0	12.0	39.10	刃部、基部欠損。形状と調整跡から打製石斧と推定
2572	PJ-96	剥片	頁岩	1/1	50.0	72.0	16.0	51.30	亜角椎形が残る剥片。黒色で風化面は乳白色の頁岩。撮入石材
2573	PJ-96	削器	頁岩	1/1	43.0	68.0	11.0	34.00	打面に側面が残る剥片の1辺に片刃の刃部。黄色く風化し使用痕不明
2574	PJ-96	両極石器	砂岩類	1/1	42.0	36.0	17.0	28.50	亜円錐形が残る剥片の両端に「茎型剥離」。黄色く風化した硬質砂岩
2575	PJ-96	石匙	頁岩	1/1	32.0	51.0	6.0	8.90	片刃。刃部に微小剥離、ガジリ、暗紫色の頁岩。きな粉状に黄色く風化。
2576	PJ-96	石匙	泥岩	1/1	31.0	55.0	5.0	10.50	ちいさなつまみ部、片刃。黄色く風化した使用痕不明瞭。
2577	PJ-96	石匙	泥岩	1/1	57.0	31.0	7.0	11.90	1辺に細かな刃部調整。片刃。黄色く風化し使用痕不明瞭
2578	PJ-96	石匙	珪質頁岩	1/1	28.0	50.0	4.0	6.50	特徴的凹面がある剥片素材。片刃。刃部に微小剥離。濃緑色珪質頁岩。搬入石材
2579	PJ-96	磨石	黒曜石	~	~	~	~	22.20	ズリ。D899 南東 0.5m、床面から 4cm 深いで出土。刃部側を意図的に折取りか。
2580	PJ-96 70	石匙	石英岩	1/2	38.0	59.0	16.0	25.90	やや灰色がかった透明白石英岩
2581	PJ-96 土サンブル①	両極石器	黒曜石	1/1	20.0	24.0	8.0	3.90	河内軽石が残る剥片の両端に衝撃剥離。夾雜物が混じる透明黒曜石
2582	PJ-96	石鎚	珪質頁岩	~	40.0	31.0	7.0	8.60	椎形土素刃に近い。使用痕なし。つまみ部側の縫跡に微小剥離。青灰色と灰色斑の珪質頁岩
2583	PJ-96	削器	珪質頁岩	1/2	~	~	7.0	8.20	剥片の両端に片刃の刃部、2 辺の刃部には弱い摩耗あり。白筋のある青灰色珪質頁岩
2584	PJ-96	削器	珪質頁岩	~	30.0	29.0	10.0	8.90	剥片の1辺に片刃の刃部。刃部に微小剥離とガジリ。白筋のもある青灰色珪質頁岩
2585	PJ-96	石鎚	黒曜石	1/1	26.4	16.8	8.5	3.35	未完成品。三角形状ができつつある段階。素材の厚みが残る。ブルーブラック黒曜石

PJ096 号住居 石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
2586	PJ-96	削器	黒曜石	1/1	31.1	23.6	8.0	4.10	剥片の1辺に刃部、片刃。微小剥離。灰白色のある黒曜石
2587	PJ-96	石錐	黒曜石	1/1	23.0	17.0	4.0	1.10	錐部に流れ。黒斑の半透明黒曜石
2588	PJ-96	両極石器	黒曜石	1/1	20.0	11.0	6.0	1.30	ズリ面が残る紗片の両端に衝撃剥離。葛湧状半透明黒曜石
2589	PJ-96	石錐	黒曜石	1/1	15.5	15.3	5.2	1.08	未成品。原形ができた段階。素材の薄みが残る。夾杂物が混じる半透明黒曜石
2590	PJ-96	石錐	黒曜石	3/4	23.5	(13.1)	4.1	(0.80)	凹基、錐身、両面加工。片脚欠損。稚拙なつくり。葛湧状半透明黒曜石
2591	PJ-96	石錐	黒曜石	1/2	-	-	3.7	(0.41)	基部欠損。両面加工。灰色半透明黒曜石
2592	PJ-96	石錐	黒曜石	1/1	18.0	15.2	3.0	0.77	未成品。剥片素材。2辺に調整を始めた段階。白筋のある透明黒曜石
2593	PJ-96	両極石器	黒曜石	1/1	15.0	7.0	5.0	0.60	小さな紗片の両端に衝撃剥離。透明黒曜石
2594	PJ-96	石錐	黒曜石	-	-	-	3.2	(0.27)	凹基、両面加工。先端、片脚欠損。黒斑の透明黒曜石
2595	PJ-96	剥離のある剥片	頁岩	1/1	36.0	46.0	16.0	13.40	剥片の薄い縁辺に微小剥離。淡黄色と褐色の頁岩。擦入石片
2596	PJ-96	石錐	頁岩	3/4	40.0	27.0	6.0	7.00	尖った正面に刃部。細長い錐部がジリ折れ。反対側錐部は厚底。濃灰色頁岩。風化面は黄白色。
2597	PJ-96	石剣	黒曜石	1/1	18.0	37.0	3.0	1.60	複長剥片素材につまみ部を作出。刃部は未調整。ミニチュア石剣。透明黒曜石
2598	PJ-96 土サ ンブル②	石錐	黒曜石	1/1	13.3	12.4	2.7	0.28	小形、凹基、両面加工。基部抉りが特徴的。先端欠損。透明黒曜石
2599	PJ-96	両極石器	石英岩	1/1	17.0	14.0	9.0	2.70	両端に衝撃剥離。白色半透明の石英岩
2601	PJ-96	石錐	黒曜石	1/1	15.9	10.4	3.2	0.33	凹基、錐身、両面加工。先端欠損。両面にすりガラス状の原石面が残る。稚拙なつくり。透明黒曜石
2602	PJ-96	石錐	黒曜石	3/4	(16.9)	13.4	2.7	(0.37)	凹基、両面加工。先端欠損。葛湧状半透明黒曜石
2603	PJ-96	石錐	黒曜石	3/4	12.2	-	2.8	(0.26)	凹基、両面加工。先端、片脚欠損。葛湧状半透明黒曜石
2604	PJ-96	石錐	黒曜石	1/1	15.5	13.9	2.7	0.34	凹基、両面加工。片脚欠損。葛湧状半透明黒曜石
2605	PJ-96	石剣	黒曜石	1/1	24.0	14.0	5.0	1.40	ミニチュア石剣にしては調整が怠り。刃部両刃。幕面がすりガラス状。被熱。透明系黒曜石
2606	PJ-96	石錐	黒曜石	1/1	16.3	14.1	3.5	0.47	凹基、両面加工。剥片素材。黒斑の透明黒曜石
2607	PJ-96	両極石器	石英岩	1/1	29.0	17.0	11.0	5.60	結晶面がある小形。柱状石柱の両端に衝撃剥離。透明の水晶
2608	PJ-96 有抉離磨石器	黒曜石	1/1	20.0	14.0	7.0	1.50	片面に凹所的な摩擦痕があることから有抉離磨石器としたが、ミニチュア石剣かも。黒斑の透明黒曜石	
2609	PJ-96	石錐	黒曜石	3/4	20.5	-	2.7	(0.38)	凹基、両面加工。片脚欠損。ていねいなつくり。透明黒曜石
2610	PJ-96 土サ ンブル②	石錐	珪質頁岩	破片				0.40	細長い錐部破片。先端丸味。明色珪質頁岩
2611	PJ-96	石錐	黒曜石	3/4	10.2	(11.9)	2.0	(0.16)	小形、凹基、両面加工。片脚先端欠損。葛湧状透明黒曜石
2612	PJ-96	石錐	黒曜石	1/1	15.6	11.5	2.8	0.27	凹基、錐身、両面加工。ていねいなつくり。葛湧状透明黒曜石
2613	PJ-96	石錐	黒曜石	1/1	12.6	10.2	2.3	0.18	小形、凹基、両面加工。ていねいなつくり。基部状透明黒曜石
2614	PJ-96 土サ ンブル②	石錐	黒曜石	破片				(0.16)	脚部先端の小さな断片。透明系黒曜石
3832	DK-643	剥離のある剥片	黒曜石					0.40	DK643 出土。小さな剥片の1辺に微小剥離。灰白色半透明黒曜石
4493	PT-1634	石剣	黒曜石	3/4	19.2	20.0	3.2	0.95	PT1634 出土。ミニチュア石剣。剥片素材。刃部は片刃。透明黒曜石
7257	IIG-6952	块状耳飾	滑石	1/1	35.0	17.0	7.0	6	西壁沿い。滑石導頭面（理土農人帯）出土。块状耳飾の破壊品を再生。垂耳状・穿孔。
7258	IIG-6976	石皿	安山岩類	1/2	229.0	(130.0)	55.0	1477	埋土上層出土。小ぶりの有縫石皿。圓形摩耗。縫部に敲打の小さな凹み。側面に抉離状の跡の翻打痕。多孔質安山岩
7260	IIG-7020	石錐	黒曜石	3/4	17.2	(14.8)	2.9	(0.53)	北壁沿い。埋土上層出土。凹基、両面加工。片脚先端欠損。片面に主剥離面がある。透明黒曜石
7264	IIG-6974	原石	黒曜石	1/1				106.60	埋土上層出土。一発完成。クリ。透明系黒曜石
7265	IIG-6972	磨石類	安山岩類	1/2				138	埋土上層出土。橢円形。平坦な2面に摩耗。敲打の浅い凹み。側面と長軸面間に打ち痕。多孔質安山岩
7266	IIG-6968	ハンマー	砂岩類	1/1	59.0	49.0	21.0	177	埋土上層出土。扁平。神狀亞円形。目立った使用痕はないがハンマーと思われる形狀。鉛錠。緻密な砂岩
7267	IIG-6970	磨石類	安山岩類	1/1	123.0	69.0	29.0	449	DK643 上。床面から 29 cm 浮いて出土。やや扁平な楕円形。平坦な面に摩耗。敲打集中のいわゆる 2ヶ所が長軸方向に並ぶ。凸面にも摩耗と敲打集中の深い凹み 1ヶ所。
7268	IIG-6971	研器	粘土質	3/4	91.0	99.0	42.0	463.90	DK643 上。床面から 35 cm 浮いて出土。楕円形円盤の2辺に大きな剥離。うち1辺に刃部調整。刃部は摩耗。

PJ096 号住居 石器觀察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	觀察所見
7270	I-6993	磨石類	砂岩類	1/1	66.0	147.0	79.0	907	東壁沿い、床面から 27cm 深いで出土。やや長細い亜円錐の平坦面が摩耗。削打集中の断片 1 ヶ所。残 2 個が粘土質石片に埋め。相続砂岩
7271	I-6803	磨製石斧	蛇紋岩	破片	(63.0)	(44.0)	(12.0)	42	DGS15 西壁 床面から 41cm 深いで出土。剥がれるように削れた断片。綠色と白色の蛇紋岩。
8199	PJ-96	剝離のある 剥片	黒曜石	1/1				2.20	縦面が残る剥片の 1 辺に微小剝離。剝離のある葛湧状透明黒曜石
8200	PJ-96	石鎌	黒曜石	1/1	30.0	22.0	8.0	4.10	鎌部は太い断面三角形。済れ。葛湧状半透明黒曜石
8201	PJ-96	剝離のある 剥片	黒曜石	1/1				1.10	縦長剥片の 1 辺に微小剝離。葛湧状透明黒曜石
8202	PJ-96	石鎌	黒曜石	1/2				1.04	未成品。剥片素材の両面に調整。黒芯のある葛湧状半透明黒曜石
8203	PJ-96	剝離のある 剥片	黒曜石	1/1				3.50	ズリ面がある剥片の 2 边に微小剝離。葛湧状透明黒曜石
8204	PJ-96	剝離のある 剥片	黒曜石	1/1				4.50	剥片の 2 边に微小剝離。葛湧状半透明黒曜石
8205	PJ-96	剝離のある 剥片	黒曜石	1/1				1.70	小さな碎片に両刃の削器伏刃部を調整剝離。透黒黒曜石
8206	PJ-96	剝離のある 剥片	珪質頁岩	1/2				1.13	小さな剥片の縁辺部に調整剝離。石鎌未成品か。白筋のある灰色珪質頁岩
8207	PJ-96	剝離のある 剥片	黒曜石					1.50	縦挫爪大の剥片に微小剝離。透明黒曜石
8208	PJ-96	石鎌	黒曜石	3/4	32.0	19.0	5.0	2.20	広く平たいまみ部。鎌部先端欠損。葛湧状半透明黒曜石
8209	PJ-96	抉入石器	黒曜石	1/2	14.0	18.0	3.0	0.90	石片のつまみ部のような形状。複数の抉り、灰色芯の透明黒曜石
8210	PJ-96	両極石器	黒曜石	1/1	16.0	16.0	5.0	1.30	ズリ面が残る剥片の両面に衝撃剝離。透明黒曜石
8211	PJ-96	両極石器	黒曜石	1/1	22.0	11.0	7.0	1.60	柱状の片端の両面に衝撃剝離。側縁に抉り。葛湧状透明黒曜石
8212	PJ-96	石鎌	黒曜石	-				(0.30)	凹基、両面加工。片端欠損。透明黒曜石
8213	PJ-96	石鎌	黒曜石	1/2				(0.72)	未成品。縁辺調整のみ。2 边が折損。稚拙な加工。透明系黒曜石
8214	PJ-96	石鎌	黒曜石	1/2			2.5	(0.19)	凹基、長脚、両面加工。片端欠損。透明黒曜石
8215	PJ-96	両極石器	黒曜石	1/1	37.0	17.0	9.0	5.60	原石面が残る厚手の細長い剥片の短辺と長辺の両端に衝撃剝離。筋入り半透明黒曜石
8216	PJ-96	両極石器	黒曜石	1/1	24.0	15.0	5.0	2.10	原石面が残る剥片の両面に衝撃剝離。葛湧状半透明黒曜石
8217	PJ-96	削器	黒曜石	1/2				8.40	原石面が残る板状剥片の 1 边に接着部の刃部。透明系黒曜石
8218	PJ-96	石鎌	黒曜石	3/4	16.9	18.7	4.7	1.28	未成品。両面加工法で削出した片端素材。三角形状ができる切断。先端欠損。黒斑入り半透明黒曜石
8219	PJ-96	石鎌	黒曜石	破片				0.38	未成品。先端部の断片。透明黒曜石
8220	PJ-96	石鎌	黒曜石	1/1	24.0	16.0	7.0	2.10	原石面が残る。つまみ部は厚手で断面横円形。鎌部に折れ。葛湧状透明黒曜石
8221	PJ-96	石鎌	黒曜石	1/2				0.79	未成品。原形ができる最終調整に入る段階。先端、片端欠損。葛湧状半透明黒曜石
8413	PJ-96	石核	黒曜石					25.40	乳白色球状が多数混じる原石。縦面が残る。半透明黒曜石
8414	PJ-96	石核	黒曜石					11.90	風化剝離面状の縦面が残る。葛湧状半透明黒曜石
8415	PJ-96	石核	黒曜石					10.30	両面に調整剝離。青灰色斑の黑色黒曜石で乳白色の夾杂物が混じる。殆ど産黒曜石
8416	PJ-96 69	石核	黒曜石					45.40	灰白色夾杂物が多い原石。縦面が残る。葛湧状半透明黒曜石
8439	PJ-96 66	剥片	黒曜石					26.90	ズリ面が残る。黒斑入り半透明黒曜石
8440	PJ-96	石核	黒曜石					7.90	さほど汚れていない自然面が残る。透明黒曜石
8441	PJ-96	石核	黒曜石					5.20	さほど汚れていない自然面が残る。葛湧状透明黒曜石
8442	PJ-96	石核	黒曜石					13.70	土汚れのあるアリ面。点状に夾杂物が混じる半透明黒曜石
8443	PJ-96 19	石核	黒曜石					34.90	河川転石面の縦面。半透明黒曜石
8444	PJ-96	石核	黒曜石					9.90	ズリ面と風化剝離面が残る。葛湧状半透明黒曜石
8445	PJ-96	石核	黒曜石					12.30	河川転石面が残る。葛湧状透明黒曜石
8446	PJ-96	石核	黒曜石					10.20	風化剝離面状の縦面が残る。半透明黒曜石
8447	PJ-96	石核	黒曜石					11.70	河川転石面が残る。黑色系黒曜石
8448	PJ-96	石核	黒曜石					9.80	やや土汚れがある縦面。半透明黒曜石
8449	PJ-96	石核	黒曜石					13.70	さほど汚れていない自然面。黒斑入り半透明黒曜石
8450	PJ-96	石核	黒曜石					12.10	土汚れのある縦面。オリガラス状半透明黒曜石

PJ096 号住居 石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
8451	PJ-96	石核	黒曜石					10.10	ズリ面が残る。灰色筋のある半透明黒曜石
8452	PJ-96	石核	黒曜石					13.50	角がやや取れたズリ面。夾雜物が混じる半透明黒曜石
8453	PJ-96	石核	黒曜石					6.40	風化剥離面が残る。透明黒曜石
8454	PJ-96	石核	黒曜石					5.40	河川転石状の裸面。透明黒曜石
8455	PJ-96	石核	黒曜石					11.70	河川転石状の裸面。透明黒曜石
8456	PJ-96	石核	石英岩					13.30	白色半透明の石英岩
8457	PJ-96	石核	石英岩					3.30	結晶面がある透明白色石英岩
8458	PJ-96	削器	石英岩					11.40	結晶面がある白色半透明石英岩
8459	PJ-96 63	剥離のある 剥片	石英岩					32.40	自然面が残る。白色半透明石英岩
8460	PJ-96	剥片	石英岩					13.90	結晶面が残る。わずかに墨みがかった透明石英岩
8461	PJ-96	剥片	黒曜石					3.70	末端肥厚剥片。黒筋のある半透明黒曜石
8462	PJ-96	剥片	黒曜石					17.40	末端肥厚剥片。河川転石状の裸面。葛巻状透明黒曜石
8463	PJ-96	剥離のある 剥片	黒曜石					2.90	末端肥厚剥片。一辺に剥離剥片。葛巻状透明黒曜石
8464	PJ-96	剥片	珪質頁岩					19.10	河川転石面が残る石刃状の剥片。一边にガジリあり。白色の灰白色質岩。非在地石岩
8465	PJ-96	楔形石器	黄玉石					14.50	黄土色の非在地石材
10703	PJ-96 34	台石	安山岩類	1/2	(310.0)	(252.0)	96.0	9,400	地床仰南。PT1388 南西 0.3m の床面出土。平坦な面と凸面あり。平坦面は摩耗と広範囲斜削打痕。凸面は平滑に摩耗。
10704	PJ-96 48	石皿	安山岩類	破片	(181.0)	(201.0)	(96.0)	3,300	PT1388 南東 1m。床面から 4 cm 浮いて出土。底面は中心が摩耗。外側は斜削打痕。多孔質安山岩
10705	PJ-96 74	台石	安山岩類	1/1	257.0	364.0	85.0	9,000	PT1640 上。床面下。底面平滑円錐。平坦面が平滑に摩耗。裏面はすれ程度に摩耗。器体中央で割れ
10706	PJ-96 18	磨石類	安山岩類	1/1	143.0	91.0	65.0	980	住居の北東角。床面から 3 cm 浮いて出土。石研削。広い 2 面が摩耗。斜削打痕。側面は斜削で平緩。長軸端面にも斜削痕。多孔質安山岩
10707	PJ-96 29	磨石類	安山岩類	1/1	123.0	110.0	63.0	1,042	PT1388 南東 1m。床面から 4 cm 浮いて出土。おにぎりのような形状。平坦な 2 面が摩耗。斜削打痕。側面 1 面が斜削と斜削平。底面摩耗。多孔質安山岩
10708	PJ-96 55	磨石類	安山岩類	1/1	137.0	62.0	57.0	670	住居の東東角。床面から 6 cm 浮いて出土。石研削。広い 2 面が摩耗。斜削打痕。側面が長軸方向に並ぶ。側面 2 面が平坦化。稜磨石状。長軸端面にも斜削痕。
10709	PJ-96 46	磨石類	安山岩類	1/1	147.0	72.0	65.0	977	09642 東 1m。床面から 21 cm 浮いて出土。円柱状。1 面が摩耗で平坦化。対岸斜面と凸面で斜削あり。多孔質安山岩
10710	PJ-96 59	磨石類	安山岩類	1/1	110.0	97.0	59.0	850	PT1641 東端。床面出土。円柱形。平坦な 2 面が斜削。斜削集中の中凹み。側面 2 面。長軸端面 2 面にも斜削痕。多孔質安山岩
10711	PJ-96 25	磨石類	安山岩類	1/1	96.0	79.0	51.0	485	09643 南 1m。床面から 23 cm 浮いて出土。椭円形。広い 2 面が摩耗。斜削集中の中凹み。側面 2 面と長軸端面に斜削痕。側面 2 面にも斜削痕。多孔質安山岩
10712	PJ-96 44	磨石類	安山岩類	1/1	105.0	91.0	60.0	791	PT1387 上。床面から 10 cm 浮いて出土。椭円形。広い 2 面が摩耗。斜削集中の中凹み。多孔質安山岩
10713	PJ-96	磨石類	安山岩類	1/1	35.0	111.0	65.0	307	不整橢円形。やや扁平。広い 2 面が摩耗。斜削集中の凹みが長軸方向に並ぶ。1 面がガジリ。側面 2 面に斜削痕。長軸端面 1 面に斜削痕。多孔質安山岩
10714	PJ-96 56	磨石類	安山岩類	1/1	115.0	78.0	51.0	537	PT1635 西端。床面出土。橢円形。斜削。底面はみられない。器面風化のためか、広い 2 面に斜削痕。多孔質安山岩
10715	PJ-96	磨石類	安山岩類	1/1	86.0	57.0	27.0	167	扁平橢円形。小形。広い 2 面に摩耗。斜削痕。長軸端面にも斜削痕。多孔質安山岩
10716	PJ-96 30	台石	安山岩類	破片	(96.0)	(61.0)	(76.0)	448	扁平橢円形の台石と思われる断片。広い 2 面は縁いで白面。片面が頭着に摩耗。多孔質安山岩
10717	PJ-96 32	台石	安山岩類	破片	(92.0)	(93.0)	(99.0)	1,168	疊平な台石と思われる破片。平坦な 2 面が頭着に摩耗。
10718	PJ-96	石皿	安山岩類	破片	(127.0)	(100.0)	(68.0)	1,054	疊平橢円形。小形。広い 2 面が摩耗。斜削痕。側面 1 面にも斜削痕。
10719	PJ-96	磨石類	安山岩類	1/2	(104.0)	68.0	33.0	351	疊平橢円形。広い 2 面が摩耗。斜削痕。側面 1 面にも斜削痕。
10720	PJ-96	ハンマー	砂岩類	1/1	63.0	102.0	45.0	811	疊平円錐の 1 辺が斜削で削れ、剥離。細密な砂岩
10721	PJ-96	円錐	安山岩類	1/1	48.0	33.0	29.0	60	ニワトリ頭とウサギ頭の間の大きさ。卵形の円錐。使用感はみられない。
10722	PJ-96	磨石類	安山岩類	1/1	95.0	83.0	33.0	328	扁平。橢円形。広い 2 面が摩耗。斜削集中の深い凹み。使い減りして扁平化。多孔質安山岩

PJ096 号住居 石器觀察表

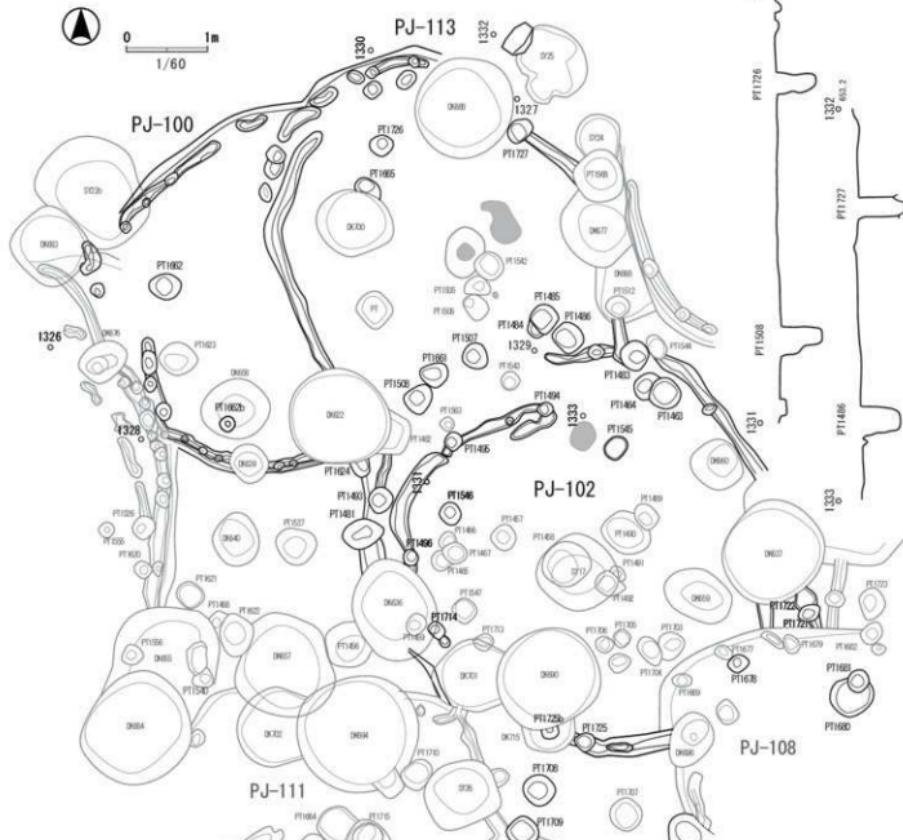
整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	觀察所見
10723	PJ-96 57	磨石類	安山岩類	1/1	104.0	76.0	37.0	435	住居南壁。床面から3cm浮いて出土。楕円形。広い2面が摩耗。敲打集中の凹みが長軸方向に並ぶ。側面2面、長軸端面1面にも敲打痕。
10724	PJ-96	磨石類	安山岩類	1/1	100.0	60.0	30.0	297	不整橢円形。1面が摩耗。平坦化。広い2面に敲打痕。長軸端面1面に敲打痕。多孔質安山岩
10725	PJ-96	円錐	花崗岩類	1/1	47.0	43.0	28.0	78	ニワトリ頭とウズラ頭の中間の大きさの円錐。使用痕はみられない。
10726	PJ-96 60	磨石類	花崗岩類	1/1	85.0	67.0	60.0	458	PJ1641 西脇。床面出土。楕円形。敲打痕の浅い凹みが1ヶ所。
10727	PJ-96 58	磨石類	花崗岩類	3/4	122.0	(71.0)	69.0	1,123	PJ1640 東脇。床面から10cm浮いて出土。楕円形。1面が摩耗し平坦化。側面が削れ。使用による跡は不明。
10728	PJ-96 65	磨石類	花崗岩類	1/1	70.0	114.0	90.0	923	D669 南東 1.5m。床面出土。不整橢円形。側面1面が敲打で平坦化。
10729	PJ-96 67	磨石類	花崗岩類	1/1	72.0	118.0	80.0	796	D669 南東 1.5m。床面出土。不整橢円形。側面1面が敲打でやや平坦化
10730	PJ-96	磨石類	砂岩類	1/1	0.0	0.0	0.0	401	楕円形。広い1面が摩耗。風化して砂化しつつある。花崗岩質砂岩
10731	PJ-96	円錐	砂岩類	1/1	52.0	44.0	25.0	78	扁平。不整橢円形。使用痕はみられない。被熱して赤茶。ひび。
10732	PJ-96 71	ハンマー	砂岩類	1/1	117.0	63.0	37.0	365	D669 南東 1m。床面出土。長軸い不整橢円錐。長軸端面2面に敲打痕。細胞。緻密な砂岩
10733	PJ-96 23	ハンマー	砂岩類	1/1	117.0	56.0	27.0	257	東壁に長い。PJ150 南脇の床面出土。長軸い扁平橢円錐。長軸端面1面に削れ。細胞。緻密な砂岩
10734	PJ-96 62	ハンマー	砂岩類	1/1	122.0	37.0	28.0	181	PJ1642 西北 1.5m。床面から7cm浮いて出土。棒状茎角錐。風化し使用痕不明。形状からハンマーと判断。細胞。緻密な砂岩
10735	PJ-96 77	ハンマー	砂岩類	1/1	112.0	44.0	27.0	180	PJ1645 西脇の西壁沿い。床面出土。棒状の扁平橢円錐。長軸端面1面に敲打痕。細胞。緻密な砂岩
10736	PJ-96 78	ハンマー	砂岩類	1/1	130.0	41.0	34.0	303	PJ1645 西脇の西壁沿い。床面出土。棒状の亞円錐。広い1面に敲打集中の凹みやせん。長軸端面1面に深い削れ。
10737	PJ-96 12	块狀耳飾	滑石	破片	(20.0)	(21.0)	(8.0)	4	PJ1390 南西。東脇公1。床面から9cm浮いて出土。新面が円形の块狀耳飾片。再加工なし。灰白色の滑石
10738	PJ-96	块狀耳飾	滑石	1/2	(32.0)	(16.0)	7.0	5	確認した块狀耳飾に片側から穿孔。垂飾に再生か。緑褐色の滑石
10739	PJ-96	裝身具	滑石	破片	(20.0)	(7.0)	(5.0)	2	緑褐色の滑石。球状耳飾の断片か
10740	PJ-96 76	块狀耳飾	滑石	1/2	(40.0)	(24.0)	(23.0)	23	肉眼の块狀耳飾。半剖して穿孔し垂飾に再生しようとして被破か。孔に継続縫合。緑褐色の滑石
10741	PJ-96	円錐	綠色岩類	3/4	69.0	(71.0)	20.0	96	扁平の円錐。使用痕はみられないが、縫合1ヶ所が平坦に削れ。多孔質な綠色岩
10742	PJ-96	磨石類	安山岩類	1/2				300	椭円形。広い2面が摩耗し摩耗。扁平。平坦化。敲打痕が長軸方向に並ぶ。側面は敲打で面積整形。多孔質安山岩
10743	PJ-96 50	磨石類	安山岩類	1/2				257	D669 東 1m。床面から20cm浮いて出土。楕円形。広い2面が摩耗。扁平。平坦化。敲打痕が長軸方向に並ぶ。側面は敲打で面積整形
10744	PJ-96	ハンマー	砂岩類	破片				93	扁平の円錐。端面に敲打痕。ハンマーの断片と思われる。細胞。緻密な砂岩
10745	PJ-96	円錐	砂岩類	破片				26	扁平円錐の断片。使用痕はみられないかハンマーの断片か。節理面で削れ。細胞。緻密な砂岩
10746	PJ-96	磨石類	安山岩類	破片				155	椭円形。安山岩の断片。広い2面が摩耗し。敲打痕。細胞。緻密な砂岩
10747	PJ-96	磨石類	綠色岩類	1/2				214	不整橢円形。広い2面が摩耗。節理面で破壊。被熱し全体が朱褐色に変色。多孔質な綠色岩
10748	PJ-96	ハンマー	砂岩類	破片				151	扁平。長椭円錐。広く平坦な面が摩耗し。敲打痕。細胞。緻密な砂岩
10749	PJ-96	ハンマー	砂岩類	1/2				226	棒状亞円錐。断面は楕丸形。2面は器体中央に敲打痕。うち1面は敲打集中の凹み。穿孔を有する。別のやや深い1面は端部近くに敲打痕が集中。削れ。細胞。緻密な砂岩
10750	PJ-96 21	台石	安山岩類	破片				138	平面面がある台石の断片。平面面が摩耗。僅せたように削れた断片
10751	PJ-96	台石	安山岩類	破片				147	扁平円錐の断片。平坦な面が摩耗。多孔質安山岩
10752	PJ-97 1	ハンマー	砂岩類	1/1	151.0	66.0	37.0	539	扁平棒状円錐。平面面に深い敲打痕。細胞。緻密な砂岩
11018	DK-642	磨石類	安山岩類	1/1	173.0	101.0	58.0	1,335	D662 東出。楕円形。平坦な2面に摩耗。片面には敲打集中の深い凹み。側面は敲打と削れ。摩耗により平坦化。多孔質安山岩
11669	PJ-96 52	台石	安山岩類	1/1	524.0	565.0	150.0	50,200	地表伊東脇。床面から26cm浮いて出土。板状錐。片面は球の凹凸のままに摩耗
11670	PJ-96 53	硯	花崗岩類	1/2	(299.0)	(224.0)	(142.0)	10,300	花崗岩錐。地床伊東脇で出土
11671	PJ-96 82	台石	安山岩類	破片	(350.0)	(473.0)	70.0	15,450	D665 南東脇。床面出土。厚手の鉛平石。片面が球の凹凸のままに摩耗
11672	PJ-96 83	台石	安山岩類	—	(443.0)	(257.0)	(133.0)	16,600	南壁沿い。床面出土。扁平錐円錐。片面が球の凹凸のままに摩耗
11679	10-6992	台石	安山岩類	1/1	451.0	414.0	122.0	32,000	PJ028 西脇。床面から26cm浮いて出土。扁平錐円錐。片面は平坦で摩耗し敲打痕。片面は凸面で摩耗

PJ100 号住居

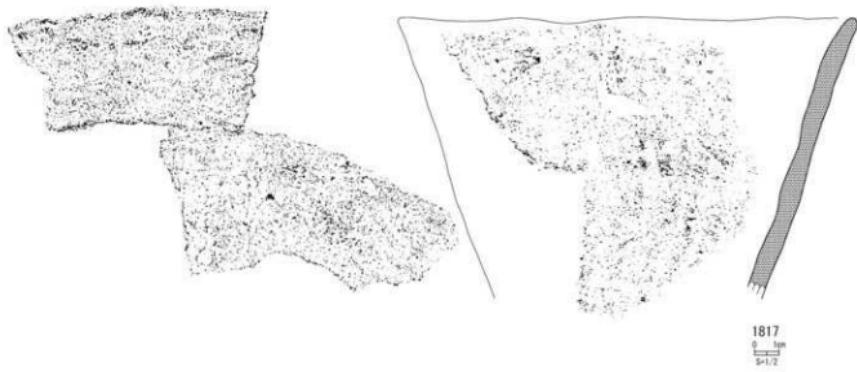
- 位 置**：I-7 グリッドに位置する。PJ113 号住居と重複し、新旧関係は不明である。PJ104 号住居、SY23b 号集石土坑、DK622、DK658 号土坑に切られる。
- 規 模**：横 4.5m 程ほどの円形住居と思われる。北壁と南壁の一部が残り、竪穴は北壁沿いで 30 cm であった。
- 埋 土**：造構確認面で造構範囲が明瞭に把握できず、小グリッド単位で発掘しながら検出したため埋土断面を観察できなかった。埋土は PJ104 号住居と同じ黒褐色土であった。
- 床 面**：黄褐色砂質の地山を平坦に掘り込み、床面としている。住居中心部がわずかにくぼむが踏み固まった箇所は検出されなかった。
- 炉**：調査範囲では検出されなかつた。PJ113 号住居に切られて失われた可能性がある。
- 周 溝**：北壁沿いから南壁にかけて小溝を検出した。小溝中には小穴が規則的に検出された。床面高がほぼ同じ PJ113 号住居の床面を精査したが、本住居の周溝の継ぎは検出されなかつた。
- 柱 穴**：穴：PT1662、PT1662b、PT1665 号ピットの 3 基が柱穴と思われる。南東角のピットは検出されなかつた。PJ113 号住居の建築時に床面が攪乱され、ピットを見つけられなかつた可能性がある。
- 出土遺物**：遺物は埋土からまばらに出土したが、土器 1819 は床面に密着して出土した。北壁沿いで石英岩、黒曜石、磨石類が並んで出土した。
出土した土器の総量は 8,849g で、木島式 197g、中越式 4,439g、神ノ木式 487g、関山式 221g、堂之上 Z 式 12g、有尾式 274g、諸磯式 1,414g、前期土器破片 1,665g、中期土器破片 29g、平安時代の土師器破片 5g である。
出土した石器の内訳は、石鏃 5 点、削器 1 点、石錐 1 点、磨石類 2 点、ハンマー 3 点、剥離のある剥片 5 点、礫 2 点で、このほか黒曜石を主とする剥片・碎片 144 点 1,225g が出土した。
- 時 期**：中越式期に比定した PJ104 号住居に切られ、かつ PJ113 号住居にも切られる可能性があること、中越式の出土量が最多で、まとまった土器 1819 が出土したことから本住居は中越式期に位置づけられる。

PJ100 号住居 土坑ピット一覧表

造構番号	位置	大きさ	深さ	覆土色	備考（遺物など）
PT-1662	100 住内	35×43	45	10YR2/3(黒褐色) に 10YR0/2(黒褐色) が 10% 混じる。シルト粘土ややしまる。	
PT-1662b	100 住内	35	40	10YR0/2(黒褐色)	DK658 底面で検出
PT-1665	113 住内	30×23	40	10YR2/3(黒褐色) に 10YR0/2(黒褐色) が混じる。	中越式、諸磯式

0
1m
1/60

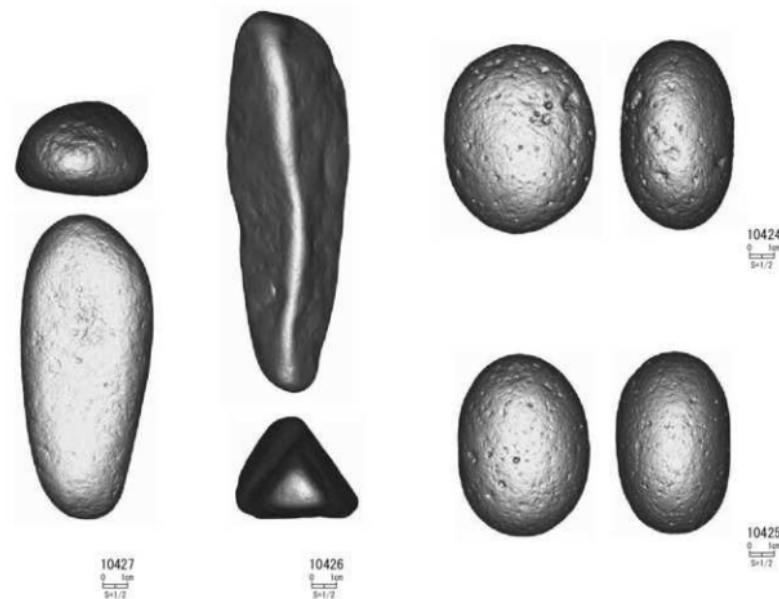
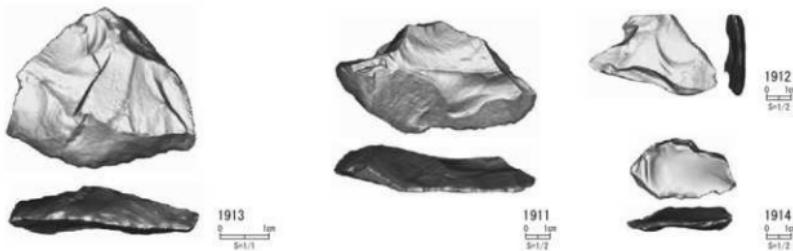
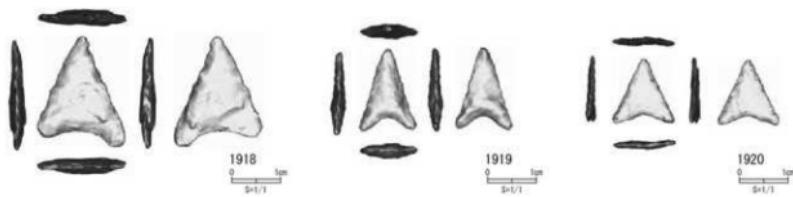
PJ100 号 · PJ102 号 · PJ113 号住居



PJ100 号住居出土遺物



PJ100 号住居出土遗物



PJ100 号住居出土遺物

PJ100 号住居 土器観察表

実測番号	注記	部位	口径 cm 縦	器高 cm 横	底径 cm 厚さ	重量	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
1808	PJ-100	口縁部				20.0	破片	7.5H6/3 7.5H6/2	外側に輪筋み痕が残り、内面は指圧圧痕が明瞭に残る。器壁は5mmから6mmと薄手。胎土質は木島式に類似する。胎土に繊維を含まない。中越式
1810	PJ-100	口縁部				25.0	破片	7.5H6/3 7.5H6/4	内削ぎ跡味で尖った口唇部、刻み、羽状綾文。内面ヨコナデ。器壁は7mmとやや厚手。胎土に繊維を少量含む。鶴山式
1811	PJ-100 8	口縁部				74.0	破片	7.5H6/6 7.5H6/6	内削ぎ跡味で尖った口唇部、刻み、羽状綾文。内面ヨコナデミガキ。胎土に繊維を含む。鶴山式
1812	PJ-100	口縁部				12.0	破片	5H5/4 5H6/4	口唇部にへら工具の傷い跡み。椅子目条綾文。内面指圧圧痕が残るナデミガキ。木島式
1813	IIG-6491	口縁部				44.0	破片	7.5H7/6 5H4/3	波状口縁。肥厚口縁に削出状工具の削突。乳頭状付文。組紐？ 内面平滑なヨコナデ。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
1814	PJ-100	腹部				21.0	破片	10H7/4 10H7/4	純文。内面に整形の凹凸がやや残るナデ調整。胎土に繊維を含む。鶴山式か
1815	PJ-100	腹部				25.0	破片	5H5/4 5H6/2	竹管平行線文で軽妙な施文。内面に整形の凹凸が残るナデ調整。胎土に繊維を含む。中越式
1816	PJ-100 4, PJ-100, I-7-23	口縁部				99.0	破片	5H7/6 5H6/6	北整沿い。床面から12cm深いて出土。口唇部2ヶ所に小突起。肥厚口縁。純文。内外面に輪筋み痕が残る。内面風化。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
1817	PJ-100, PJ-113	口縁部～胴部				305.0	破片	5H4/4 5H4/6	外外面に整形の凹凸が残るナデ調整。胎土に少量の繊維を含む。中越式
1818	PJ-100, PJ-113	口縁部				130.0	破片	7.5H7/3 7.5H7/6	外外面に整形の凹凸が残る。胎土に繊維を多量に含む。中越式
1819	PJ-100	口縁部	22.8	20.2		1,041.0	破片	5H4/6 5H4/4	PT1662 南側。床面出土。外外面に整形の凹凸が残る。外側ヨコナデ。内面風化。胎土に繊維を含む。中越式

PJ100 号住居 石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
1910	PJ-100	剥離のある 剝片	珪質頁岩	3/4	70.0	47.0	17.0	50.00	破面が残る剝片に調整剝離。白筋のある珪質頁岩
1911	PJ-100	剥離のある 剝片	頁岩	3/4	47.0	83.0	14.0	50.60	剝片の薄い邊縁1辺に微小剝離。黄色く風化し使用痕不明瞭
1912	PJ-100	剥離のある 剝片	珪質頁岩	1/1				10.60	破面が残る剝片の薄い1辺に微小剝離。明灰色、緻密な珪質頁岩。掘入石材
1913	PJ-100	削器	珪質頁岩	1/2				10.80	剝片の1辺に片刃の刃部。白筋のある灰色珪質頁岩
1914	PJ-100	剥離のある 剝片	黒曜石	1/1				7.50	破面が残る剝片の薄い邊縁に微小剝離。基面状半透明黒曜石
1915	PJ-100	石器	黒曜石	1/1	30.2	19.3	9.3	3.99	未完成。ズリ面が残る素材。三角形状ができる段階。素材の済みが残る。黒曜石のあらわせ感は無黒曜石
1916	PJ-100	剥離のある 剝片	黒曜石	1/1				1.20	小さな剝片の2辺に画面から調整剝離。透明系黒曜石
1917	PJ-100	石器	黒曜石	1/1	23.9	16.8	6.4	1.73	未完成。三角形状ができる段階。黒曜石のある透明系黒曜石
1918	PJ-100	石器	黒曜石	3/4	22.7	(28.4)	3.1	(0.86)	凹基、両面加工。片筋先端欠損。灰色感のある透明系黒曜石
1919	PJ-100	石器	黒曜石	1/1	17.8	11.5	3.0	0.33	凹基、両面加工。黒曜石のある透明系黒曜石
1920	PJ-100	石器	黒曜石	3/4	14.0	12.4	1.7	0.19	小形、凹基、両面加工。透明系黒曜石
8222	PJ-100	石器	チャート	3/4	24.0	11.0	5.0	1.00	先端欠損。灰色チャート
10424	PJ-100	磨石類	花崗岩類	1/1	77.0	62.0	47.0	302	構円底。器面全体が手すれ状に弱く摩耗。
10425	PJ-100 11	磨石類	花崗岩類	1/1	75.0	54.0	47.0	264	北整沿いの底面で出土。構円底。器面全体が手すれ状に弱く摩耗。片面の長軸端部に削打痕。
10426	PJ-100 7	ハンマー	砂岩類	1/1	155.0	48.0	42.0	354	PT1662 南側。床面出土。断面三角形の棒状亞角錐の長軸端面に削打痕。器面全体が手すれ状に弱く摩耗。緻密、緻密な砂岩
10427	PJ-100 2	ハンマー	安山岩類	1/1	127.0	55.0	48.0	386	南整沿い。床面出土。長軸円錐。平坦な1面に削打痕。対戦側の凸面のみ削打痕。
10428	PJ-100	礎	砂岩類	1/2	50.0	(33.0)	20.0	28	小さな亞角錐。器面全体が弱く摩耗
10429	PJ-100	礎	砂岩類	破片	(24.0)	(41.0)	(9.0)	17	亞円錐破片。縦割れするような不自然な破壊。器面が弱く摩耗。
10430	PJ-100	ハンマー	砂岩類	1/2				54	棒状亞角錐。縦割れ破壊。1面に削打痕。緻密、緻密な砂岩

PJ102号住居

- 位 置：I-7 グリッドから I-8 グリッドにかけて位置する。PJ108号住居、SY17号集石土坑に切られる。PJ111号住居、PJ113号住居と重複するが、新旧関係を明瞭に把握できなかった。
- 規 模：壁面、周溝ともに完全に検出できず、正確な規模は不明である。長軸長 7m 以上、短軸長 5m 以上の長方形の住居と思われる。堅穴壁面は北西角で部分的に残り、深さは 20 cm であった。
- 埋 土：造構確認面で造構の範囲を把握できず、小グリッド単位で発掘を進めながら検出したため埋土断面を観察できなかった。埋土は黒褐色土であった。
- 床 面：黄褐色砂質の地山を平坦に掘り込み床面としている。住居中心部がやや硬く踏み締まり、黒褐色の斑状汚れが目立った。
- 炉 焚：PT1545 号ピットの北西側で床面が被熱、焼土化した箇所を検出したが、後述する柱穴の組み合わせと整合せず、本住居の地床炉ではないと思われる。本住居の周溝は PT1458 号ピットに切られて失われた可能性が高い。
- 周 溝：断片的に小溝を検出した。北西角部と南東部では二重に周溝が検出された。複数回の建替え、建直しが想定される。
- 柱 穴：柱穴にふさわしいピットが多数検出され、かつ周溝から想定される建替え、建直しに見合う柱穴の組み合わせが想定できる。
- 最も住居が広がった段階の柱穴は、北東角で PT1463、PT1464、PT1483 号ピット、北西角で PT1481、PT1493 号ピット、南西角で PT1708、PT1709 号ピット、南東角で PT1680、PT1681 号ピットと 4ヶ所のピットのまとまりを想定する。2基から 3基の、大きさ、深さが類似するピットがまとまって検出されることから、2回程度の建替え、建直しが考えられる。
- さらに棟持柱のような位置に 2基のピットが確認される。北側は PT1507 号ピット、南側は PT1718 号ピットで、この 2基を結ぶ線は住居の長軸と平行する。偶然かもしれないが、柱穴と考えておく。
- 内側をめぐる周溝に対応する柱穴は、北東角から PT1545、PT1546、PT1725b、PT1678 号ピットの 4基が想定される。
- 本住居の柱穴ではないが、PJ102号住居と PJ113号住居床面で検出されたピットのなかには柱穴にふさわしいものがある。これらは削平されて造構として認識できなかった住居の存在を示唆するものである。
- 例えば PJ102号住居と PJ113号住居の中間にある PT1512、PT1506、PT1465、PT1492 号ピットの 4基の組み合わせ、PJ102号住居西側に隣接する PT1624、PT1526、PT1540、PT1459 号ピットの 4基の組み合わせなどである。さらに組み合わせを確認できなかったが、PT1458、PT1456、PT1715 号ピットは深く、かつ柱痕が検出されるなどしている。独立して報告しないが、これらの造構の存在も指摘しておきたい。

出土遺物：遺物は埋土からまばらに出土したが、神ノ木式土器破片と磨石類、石皿破片が床面に密着して出土した。また前期諸磯式土器破片と中期土器破片、当該時期と思われる打製石斧、磨石が出土した。これらの新しい時期の遺物は、諸磯式期の土坑と PJ108号住居からの混入、あるいは削平されて失われた当該時期の造構が存在したと考えられる。

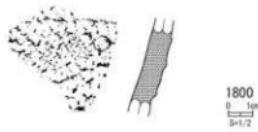
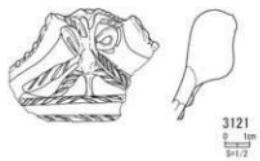
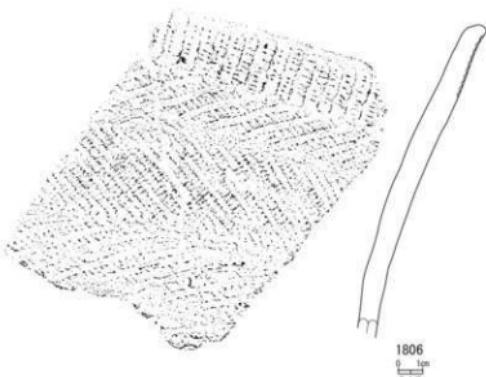
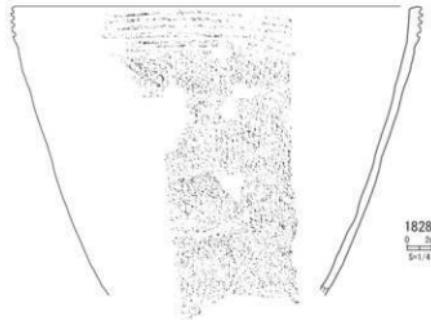
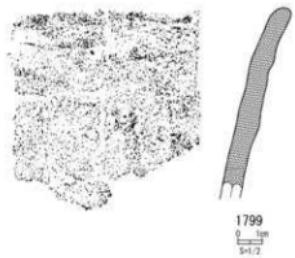
出土した土器の総量は 12,939g で、神ノ木台式 21g、木島式 75g、中越式 2,275g、神ノ木式 1,913g、閑山式 35g、有尾式 59g、諸磯式 3,429g、北白川下層 II c 式 22g、前期土器破片 4,547g、中期土器破片 425g、平安時代の土師器破片 57g などである。

出土した石器の内訳は、石鏨 6点、石匙 1点、削器 1点、両極石器 2点、打製石斧 2点、磨石類 9点、石皿 1点、台石 1点、研磨具 1点、ハンマー 2点、剥離のある剥片 7点、黒曜石石核 1点で、このほか黒曜石を主とする剥片・碎片が 173 点 555g 出土した。

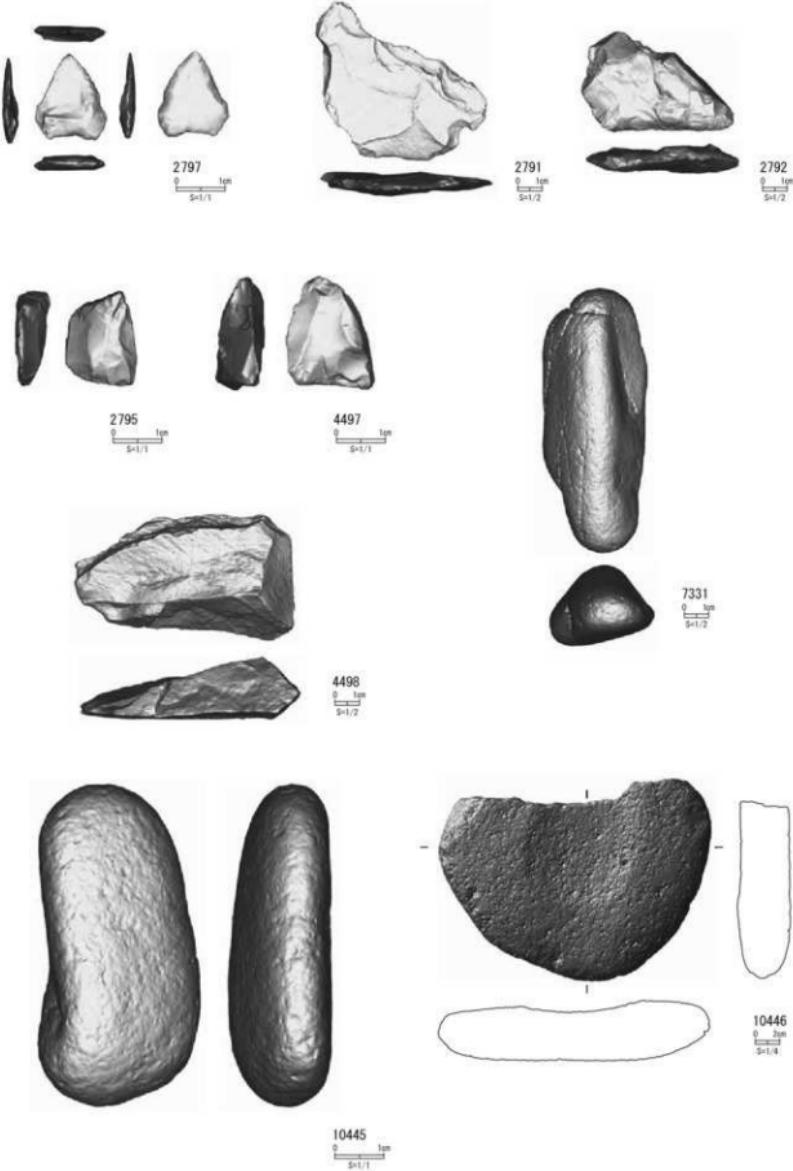
時 期：中期中葉に比定した PJ102 号住居に切られることから当該時期に先行する遺構である。土器の出土量は諸磯式を除くと中越式が最多で、神ノ木式が次ぐ。さらに床面に密着して出土した土器 1806 から、本住居は神ノ木式期に廃絶した住居と推測される。

PJ102 号住居 土坑ピット一覧表

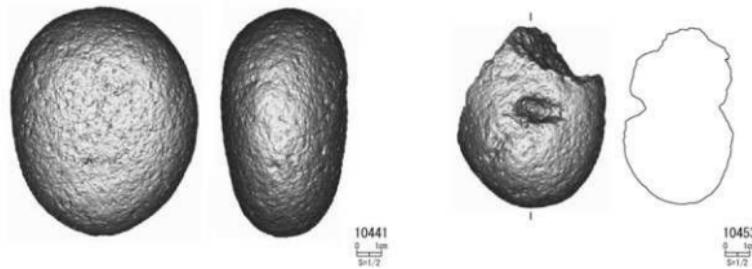
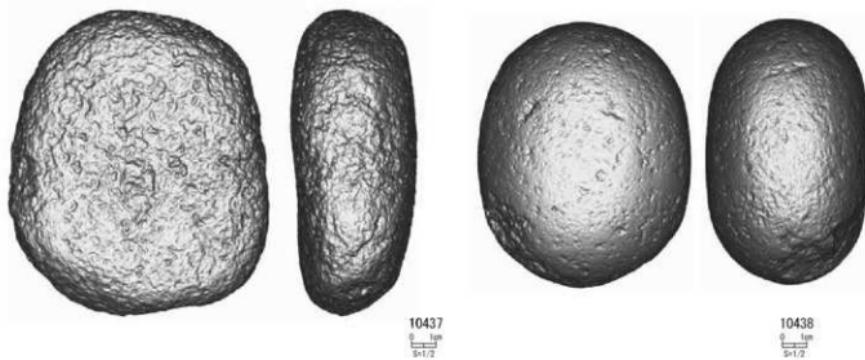
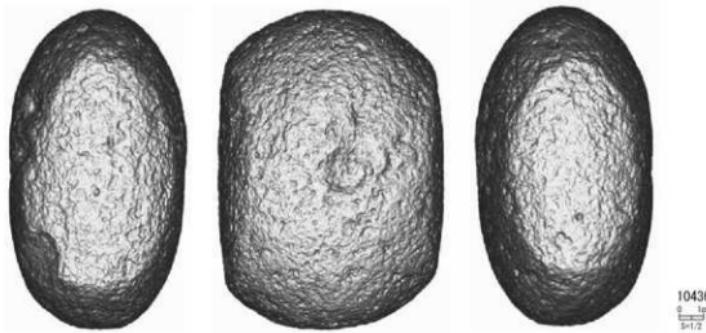
遺構番号	位置	大きさ	深さ	覆土色	備考(遺物など)
PT-1463	102 住内	3m6	70	10YR3/3(暗緑)に 10YR3/4(暗緑)が混じる。	PT1464 を切る。木鳥式
PT-1464	102 住内	3m20	70	10YR3/3(暗緑)に 10YR3/4(暗緑)が混じる。	PT1463 に切られる。
PT-1481	102 住 西壁	4m6	33	10YR3/3(暗緑)に 10YR3/4(暗緑)が混じる。	中越式、諸磯式小片
PT-1483	102 住 北壁	3m6	57	10YR3/3(暗緑)に 10YR3/4(暗緑)が混じる。	中越式
PT-1493	102 住 西壁	2m6	32	10YR3/3(暗緑)に 10YR3/4(暗緑)が混じる。	中越式
PT-1494	102 住 北壁	1m4	20	10YR3/3(暗緑)に 10YR3/4(暗緑)が混じる。	焼青片(人骨か獸骨か未同定)
PT-1495	102 住 北壁	2m0	26	10YR3/3(暗緑)に 10YR3/4(暗緑)が混じる。	
PT-1496	102 住内	4m00	37	10YR3/3(暗緑)に 10YR3/4(暗緑)が混じる。	石器
PT-1507	113 住内	3m6	23	10YR3/3(暗緑)に 10YR3/4(暗緑)が混じる。	
PT-1545	102 住内	2m0	17	10YR3/3(暗緑)に 10YR3/4(暗緑)が混じる。	
PT-1546	102 住内	2m0	16	10YR3/3(暗緑)に 10YR3/4(暗緑)が混じる。	
PT-1678	108 住内	2m0	28	10YR3/3(暗緑)に 10YR3/4(暗緑)が混じる。	深さ値は PJ108 床面からの深さ
PT-1680	108 住内	2m0	29	10YR3/3(暗緑)に 10YR3/4(暗緑)が混じる。	PT-1681 に切られる。深さ値は PJ108 床面からの深さ
PT-1681	108 住内	4m0	13	10YR3/3(暗緑)に 10YR3/4(暗緑)が混じる。	深さ値は PJ108 床面からの深さ
PT-1708	102 住 南 0.5m	2m6	52	10YR3/3(暗緑)に 10YR3/4(暗緑)が混じる。	中越式
PT-1709	111 住 東壁	3m6	61	10YR3/3(暗緑)に 10YR3/4(暗緑)が混じる。	木鳥式、中越式、諸磯式小片。中期? 小片
PT-1714	102 住内	1m6	22	10YR3/3(暗緑)に 10YR3/4(暗緑)が混じる。	
PT-1718	108 住 南西壁	5m0	40	10YR3/3(暗緑)に 10YR3/4(暗緑)が 5% 混じる。シルト粘土。ややしまる。	中越式、神ノ木式
PT-1721	108 住 北 0.5m	1m6	16	10YR3/3(暗緑)に 10YR3/4(暗緑)が混じる。	中越式、有尾式、諸磯式
PT-1722	108 住 0.5m	2m6	25	10YR3/3(暗緑)に 10YR3/4(暗緑)が混じる。	
PT-1725	102 住 南壁	2m6	30	10YR3/3(暗緑)に 10YR3/4(暗緑)が混じる。	中越式、神ノ木式
PT-1726	102 住 南壁	2m6	30	10YR3/3(暗緑)に 10YR3/4(暗緑)が混じる。	D0715 底面で検出



PJ102 号住居出土遺物



PJ102 号住居出土遺物



PJ102 号住居出土遺物

PJ102 号住居 土器観察表

実測番号	注記	部位	口径 cm 縦	器高 cm 横	底径 cm 厚さ	重量	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
1799	PJ-102	口縁部				74.0	破片	7.5YR5/4 5YR2/3	内外面に整形の凹凸が残る。胎土に繊維を含む。中越式
1800	PJ-102	肩部				18.0	破片	5YR6/6 7.5YR2/6	末端埋付縫文。内面でいわいなミガキ。胎土に繊維を含む。関山式
1801	PJ-102, I-7-25	底部				176.0	破片	5YR4/6 5YR5/6	丸底。胎土に繊維を含まない。中越式
1806	PJ-102 28, I-6-7	口縁部 ～肩部				190.0	破片	5YR5/4 5YR4/4	住居中央からやや東寄り。床面出土。深状口縁。口縁部に彫刻状工具の刻突列。正反の場合、斜縫縫文。内面頭頂部分がやや残るいわいなヨコナデミガキ。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
1807	PJ-102	肩部				32.0	破片	2.5YR5/6 5YR5/4	環付口の垂下腹部。衝撃状工具の刻突。彫縫文。内面でいわいなヨコナデミガキ。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
1828	PJ-102	口縁部 ～肩部	(33.6)			307.0	破片	5YR5/4 5YR4/4	肥厚口縁に竹管修制埋付。複縫縫文。内面に整形の凹凸がやや残るヨコナデミガキ。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
3121	I6-7035	口縁部				37.0	破片	5YR5/4 5YR4/4	写実的な表現の断面突起。刻みのある細縫縫。内面ミガキ。諸連b式

PJ102 号住居 石器観察表

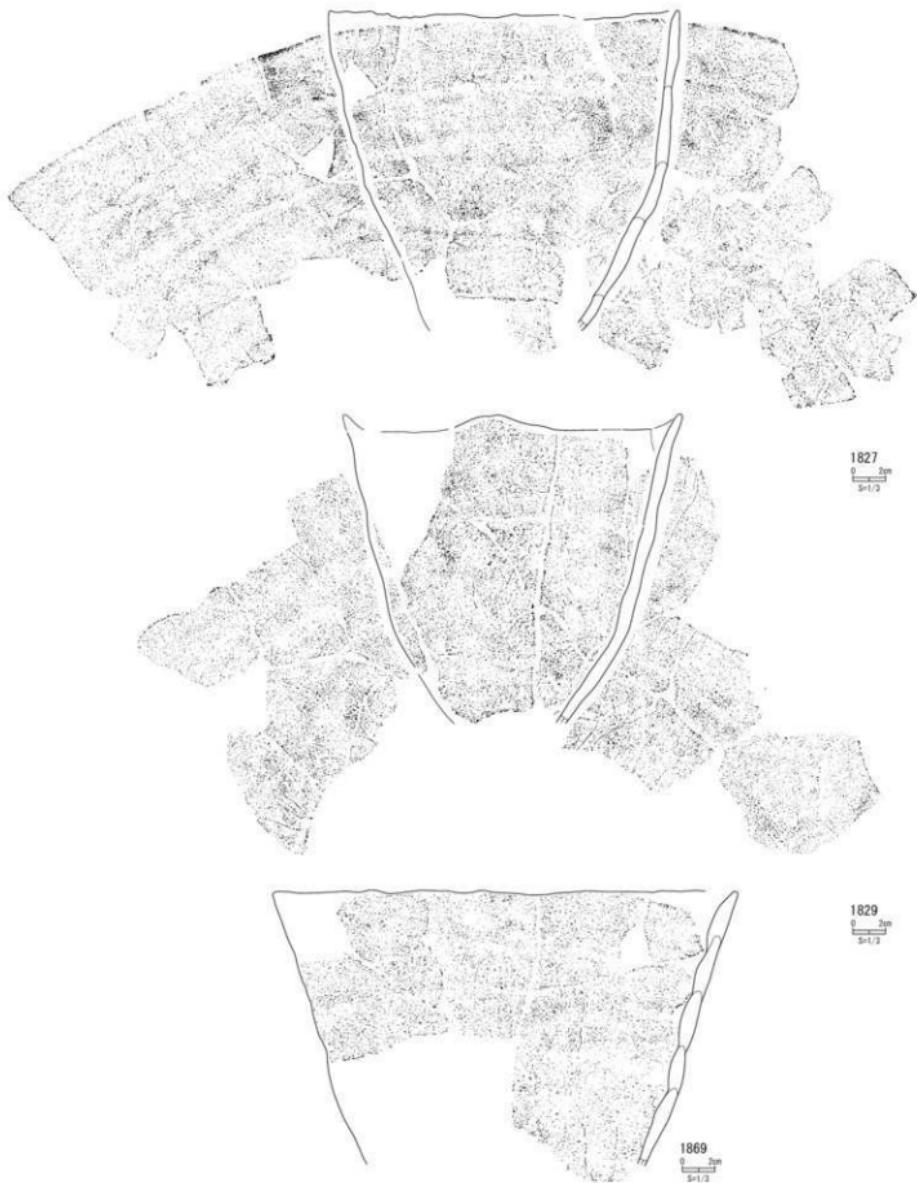
整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存 長 (mm)	現存 幅 (mm)	現存 厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
2791	PJ-102 27	石匙	頁岩	3/4	64.0	72.0	9.0	32.70	円1489 上、床面出土。刃部調整なし。のみみ部の様に摩耗
2792	PJ-102	削器	珪質頁岩	1/1	43.0	63.0	10.0	27.00	剥片の1辺に刃部の刃部調整。白筋のある灰色珪質頁岩
2793	PJ-102	剥離のある剝片	チート	1/1	44.0	39.0	17.0	17.10	剝片の1辺に微小剝離。灰色チャート
2794	PJ-102	剥離のある剝片	黑曜石	21.0	29.0	9.0	5.10	剥片が残る剝片の両面に調整剝離。透明感のある黑色黒曜石	
2795	PJ-102	両端石器	黑曜石	1/1	19.0	15.0	6.0	1.80	小さな剝離の両端に衝撃剝離。基底状半透明黒曜石
2796	PJ-102	石鎌	黑曜石	3/4	~	15.2	3.6	(0.46)	基底。表面加工、先端欠損。透明黒曜石
2797	PJ-102	石鎌	黑曜石	1/1	18.5	14.9	3.1	0.63	四基。側面加工。剥片の縁辺のみを調整。透明黒曜石
4497	PT-1481	両極石器	黑曜石	1/1	24.0	18.0	9.0	3.30	円1481 出土。剥片が残る剝片の両面に衝撃剝離。基底状半透明黒曜石
4498	PT-1496	剥離のある剝片	粘土鉱	1/1	52.0	92.0	24.0	107.60	円1496 出土。周辺に小剝離か、風化して使用痕不明瞭
7301	I6-1317	打製石斧	頁岩	3/4	77.0	50.0	17.0	72.00	理土上層出土。小時で4つ4形。刃部に磨耗と絆合条。片面は摩耗が深く、片面は浅い。周辺打打法。中頸石器の混入と思われる。
7302	I6-804	石鎌類	砂岩類	破片				322	理土上層出土。精円形、長軸端部と脊面に耐打痕。細粒砂岩
7325	I6-7072	剥離のある剝片	珪質頁岩	1/1				2.70	側面削离溝あり。剥片が残る剝片の1辺に両面から調整剝離。灰色珪質頁岩。搬入石片
7326	I6-7072	剥離のある剝片	透灰岩	3/4				1.60	下凹形の剝片。調整剝離あり
7327	I6-7072	剥離のある剝片	黑曜石	1/1	28.0	21.0	6.0	2.60	剥片が残る剝片の両端に衝撃剝離。大きな球窓の脱落痕がある灰色半透明黒曜石
7328	I6-7072	石鎌	黑曜石	1/1	21.2	16.3	5.8	2.01	未完成品。三角形状ができる段階。片側縫欠損。透明系黒曜石
7331	I6-7035	ハンマー	砂岩類	1/1	11.1	4.6	3.2	213	側面削離溝あり。床面から10cm浮いて出土。直線状の長軸端面に垂直封打痕。細粒砂岩
7332	I6-7035	磨石類	安山岩類	破片				142	側面削離溝あり。床面から10cm浮いて出土。精円形。広い2面が摩耗。側面に耐打痕。多孔質安山岩
7333	I6-7035	石核	黑曜石	1/1				16.40	側面削離溝あり。床面から10cm浮いて出土。わずかに水痕があるアリ。透明感がある灰色黒曜石
7334	I6-7035	石鎌	黑曜石	3/4	15.3	11.7	3.6	0.53	未完成品。原形がうがたれ段階。表面サリガシ跡。被熱?透明系黒曜石
7335	I6-7035	石鎌	黑曜石	3/4	12.9	16.6	3.6	0.90	未完成品。凹面、両面加工。片端が大きくなれ。裏面透明黒曜石
7336	I6-7035	石鎌	黑曜石	破片				(0.26)	小形。凹面、両面加工。先端と片端欠損。透明系黒曜石
7337	I6-7035	剥離のある剝片	黑曜石					2.00	ズリ面が残る素材に調整剝離。透明黒曜石
7338	I6-6496	打製石斧	頁岩	3/4	82.0	45.0	16.0	77.10	理土上層出土。刀部が欠損したか、もしくは再生リダクションか、着柄部が摩耗
10436	PJ-102 30	磨石類	安山岩類	1/1	131.0	91.0	74.0	1,169	円1546 夏末、床面出土。石鍛錬。広い2面が摩耗。中心に敲打集中の深い凹み。側面削離溝状。片面ガジリ。多孔質安山岩
10437	PJ-102 32	磨石類	安山岩類	1/1	124.0	155.0	51.0	887	住居北西角。床1483 実施。床面から6cm浮いて出土。扁平円錐形。広く平坦な面上に耐打痕が複数方向に並ぶ。対向側の片面には耐打痕が並んで広がる。側面と長軸端面に耐打痕。多孔質安山岩
10438	PJ-102 33	磨石類	安山岩類	1/1	109.0	87.0	68.0	963	住居北西角。床1482 南東側。床面から9cm浮いて出土。精円形。広い2面が摩耗。側面に耐打痕。中心に耐打痕。側面と長軸端面に耐打痕と削れ
10441	PJ-102 31	磨石類	安山岩類	1/1	93.0	76.0	53.0	465	円1546 夏末、床面から5cm浮いて出土。精円形。広い2面の中央に耐打痕。多孔質安山岩
10443	PJ-102 39	磨石類	砂岩類	1/1	98.0	58.0	45.0	372	円1706 北船、床面出土。長軸円錐形。広く平坦な1面の中心に耐打集中の深い凹み。風化して使用痕不明。花崗岩質砂岩
10444	PJ-102 23	磨石類	安山岩類	1/1	97.0	74.0	35.0	320	円1464 南東側、東側削離溝中心の床面出土。扁平な不整円錐形。広い2面の中心に耐打痕。片面ガジリ。多孔質安山岩
10445	PJ-102	研磨具	砂岩類	1/1	6.6	3.5	2.1	73	長軸円錐形。1面の準備。
10446	PJ-102 25	石皿	安山岩類	1/2	167.0	228.0	50.0	2,337	円1499 北船、床面出土。面部は浅く、摩耗は弱い。裏面は平坦で局所的に摩耗。多孔質安山岩
10453	PJ-102 29	磨石類	安山岩類	破片				213	D6660 幅 50 cm、床面出土。横円形。2面が摩耗。中心に耐打集中の深い凹み。
10454	PJ-102	ハンマー	砂岩類	1/2				167	亜角錐形。長軸端面の角より所に耐打痕。細粒砂岩
10456	PJ-102 26	台石	安山岩類	破片				841	円1489 上、床面出土。平面的な作業面がわずかに残る傾斜。作業面は磨着に摩耗。斜面の縁辺に小さな剥離が並び、研削後に軽用か。

PJ113号住居

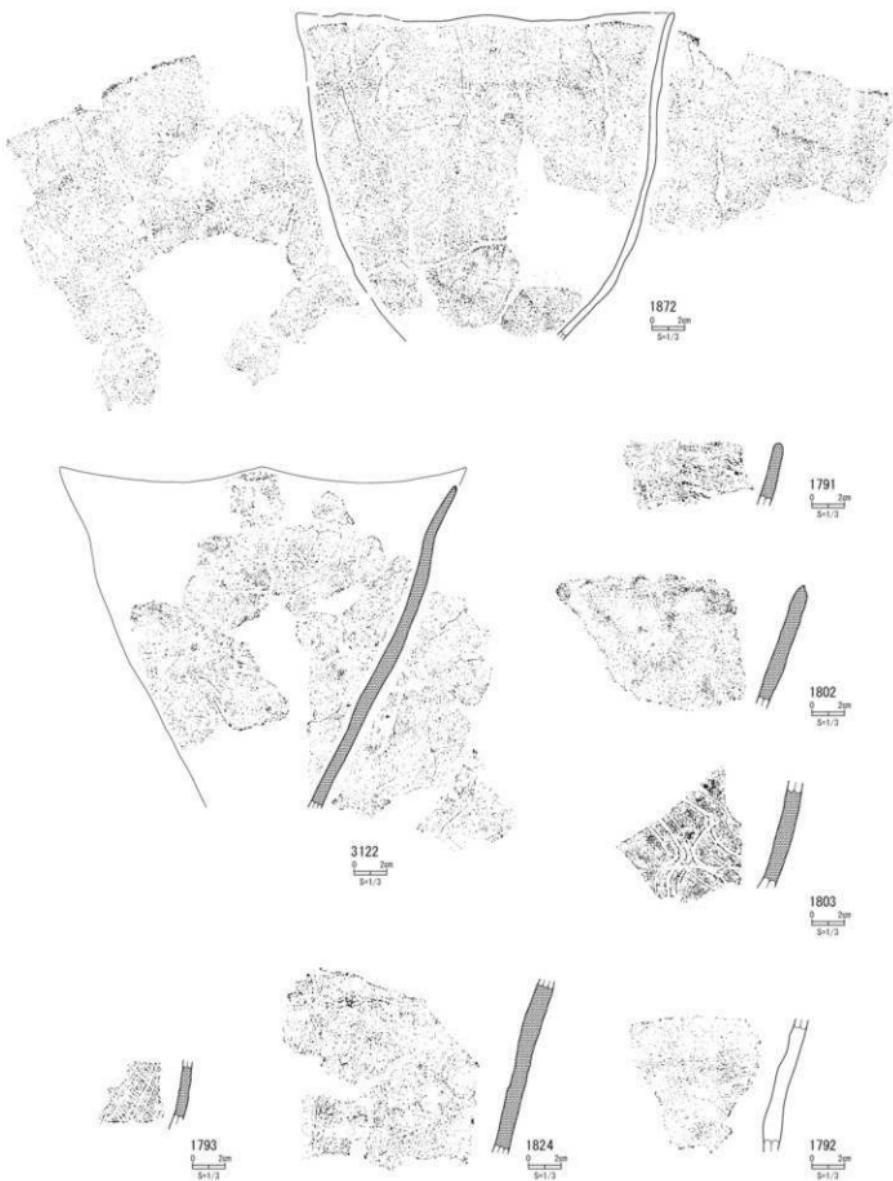
- 位 置**：I-7 グリッドから I-8 グリッドにかけて位置する。PJ100号住居、PJ102号住居と重複するが新旧関係は不明である。DK622、DK668、DK677、DK688、DK700号土坑に切られる。
- 規 模**：壁面、周溝が完全に検出されず、正確な規模は不明である。おそらく長軸長5m程度の楕円形と思われる。北壁が部分的に残り、豊穴の深さは20cmであった。
- 埋 土**：造構確認面で造構の範囲を把握できず、小グリッド単位で発掘を進めながら検出したため埋土断面を観察できなかった。埋土は黒褐色土で、水平もしくはレンズ状に堆積していた。
- 床 面**：黄褐色砂質の地山を平坦に掘り込み、床面としている。硬く踏みしまった箇所は検出されなかった。住居中央部に黒褐色の斑状の汚れが目立った。
- 炉**：住居中央部で床面が被熱、焼土化した箇所を検出した。焼土は3ヶ所で検出された。
- 周 溝**：北壁から西壁にかけて連続する小溝と小穴を検出した。東側と南側でも断片的ながら小溝を検出し、住居の範囲、形状がおぼろに確認できた。
- 柱 穴**：北東角のPT1727、北西角のPT1726、南西角のPT1508とPT1661、南東角のPT1484、PT1485とPT1486号ピットの4ヶ所で検出されたピットが柱穴と思われる。南西角と南東角のピットは2基から3基ずつがまとまって検出され、建て替え、建直しが想定される。
- 出土遺物**：遺物は埋土からまばらに出土したが、中越式土器 1827、1829、1869、1872が床面からやや浮いた位置でまとまって出土した。諸磁器土器が出土したが、重複する土坑などからの混入と思われる。
- 出土した土器の総量は12,024gで、木島式71g、中越式6,319g、神ノ木式937g、関山式68g、有尾式147g、釈迦堂Z3式36g、諸磁器式2,519g、前期土器破片1,810g、中期土器破片17g、平安時代の土師器破片15g、須恵器破片18gなどである。
- 出土した石器の内訳は、石鏃1点、削器1点、磨石類7点、石皿1点、ハンマー2点、剥離のある剥片3点、円礫1点、礫1点で、このほか黒曜石を主とする剥片・碎片93点265gが出土した。
- 時 期**：土器の出土量は中越式が最多であり、埋土下層でまとめて出土した土器破片には中越式が多いことから、本住居は神ノ木式を伴う中越式期に廃絶したと考えられる。

PJ113号住居 土坑ピット一覧表

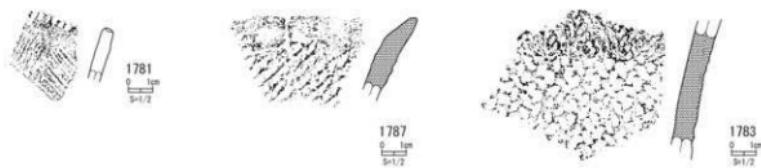
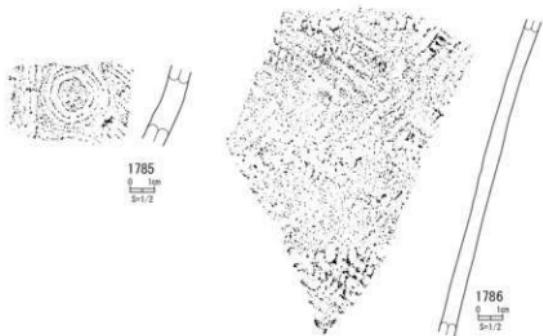
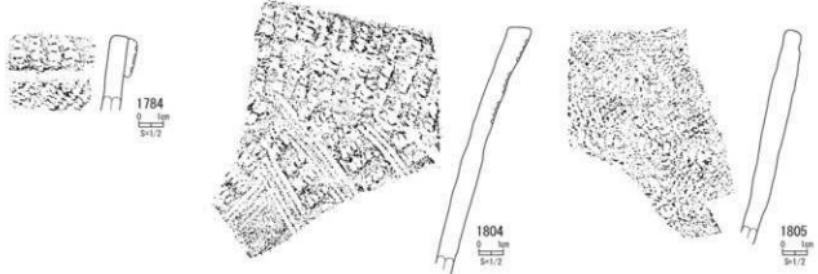
造構番号	位置	大きさ	深さ	覆土色	備考（遺物など）
PT-1484	II3 住内	2m0	40	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/2(黒褐色)が混じる。	
PT-1485	II3 住内	3m5	42	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/2(黒褐色)が混じる。	PT1484を切る。剥離式小片
PT-1486	II3 住内	4m0 0m+0.5	47	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/2(黒褐色)が混じる。	中越式、剥離式小片
PT-1508	II3 住内	4m0	50	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/2(黒褐色)が混じる。	
PT-1661	II3 住内	2m6	50	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/2(黒褐色)が10%混じる。シルト粘土。ややしまる。	
PT-1726	II3 住内	2m6	47	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/2(黒褐色)が混じる。	
PT-1727	II3 住 北東壁	2m6	55	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/2(黒褐色)が混じる。	



PJ113号住居出土遺物



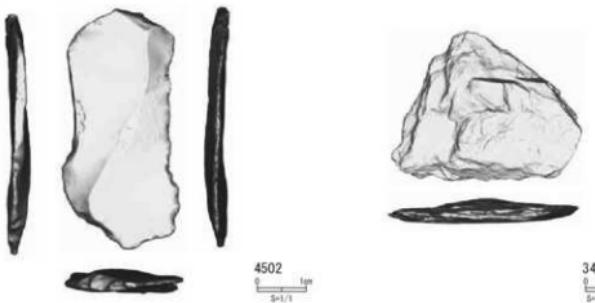
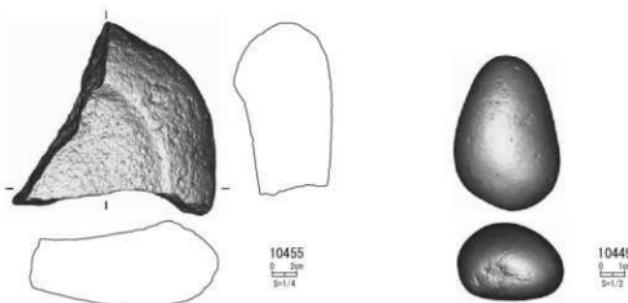
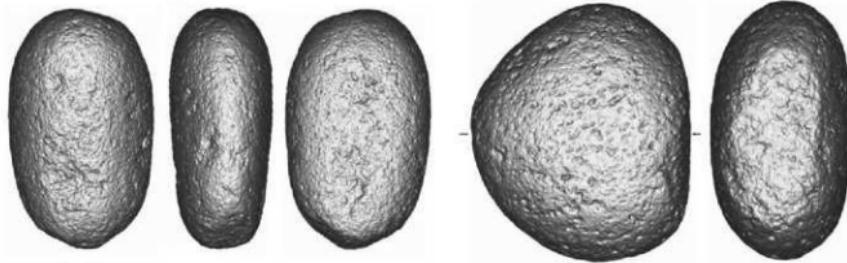
PJ113 号住居出土遺物



PJ113号住居出土遺物



PJ113 号住居出土遺物



PJ113号住居出土遺物

PJ113号住居 土器観察表

実測番号	注記	部位	口径 cm	器高 cm	底径 cm	重量	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
1781	PJ-113	口縁部				5.8	破片	7.5YR6/4 7.5YR6/4	口唇部に割れ、条線文。木島式
1783	PJ-113	胴部				39.0	破片	7.5YR7/4 5YR6/4	純の側面圧痕？、縫隙。内面平滑にナデミガキ。胎土に織縫を含む。鶴山式
1784	PJ-113	口縁部				15.0	破片	7.5YR6/4 5YR6/6	肥厚口縁に細密工具の削突文。縫文。内面平滑にナデミガキ。胎土に織縫を含まない。神ノ木式
1785	PJ-113	胴部				22.0	破片	5YR6/6 5YR6/6	筒状工具で円文。短条縫文。内面に整形の凹凸がやや残るナデ。胎土に織縫を含まない。神ノ木式
1786	PJ-113 6	胴部				80.0	破片	7.5YR7/6 7.5YR6/6	丸底、羽状縫文。内面に指頂圧痕がやや残る。平滑にナデ調整。胎土に織縫を含まない。神ノ木式
1787	PJ-113	口縁部				18.0	破片	7.5YR4/2 7.5YR4/2	内斜削気味に尖る口唇部。縫文。内面ナデミガキ。胎土に織縫を含む。鶴山式
1791	PJ-113	口縁部				27.0	破片	7.5YR4/3 5YR6/4	内外面に整形の凹凸が残る。胎土に織縫を含む。中越式
1792	PJ-113 4	胴部				63.0	破片	5YR6/6 5YR6/6	内面に整形の凹凸が残る。内面指頂圧痕が残るヨコナデ。胎土に織縫を含まない。中越式
1793	PJ-113	胴部				12.0	破片	7.5YR7/4 7.5YR4/3	格子文。内面指頂圧痕がやや残るナデ調整。胎土に織縫を含む。中越式
1802	PJ-102 20	口縁部				78.0	破片	7.5YR5/4 5YR4/3	地獄炉北東、床面から5cm深いて出土。内外面に整形の凹凸と指頂圧痕が残る。内面ナデミガキ。胎土に織縫を含む。中越式
1803	PJ-102、PJ-106	胴部				63.0	破片	7.5YR7/4 2.5YR2/1	粒状の平行沈降。内面に整形の凹凸がやや残るヨコナデ。胎土に織縫を含む。中越式
1804	PJ-102 12. I-7-25	口縁部				84.0	破片	7.5YR6/6 7.5YR5/4	地獄炉南東、床面から14cm深いて出土。波状口縁。わずかに薄する波状縫。縫状工具の剥離跡。格子文の条縫文。内面輪轉目痕がやや残るヨコナデ調整。胎土に織縫を含まない。神ノ木式
1805	PJ-102 1	口縁部				52.0	破片	7.5YR5/4 5YR4/4	角った口唇部。縫い状口縁が結果、羽状縫文。内面指頂圧痕がやや残るヨコナデ。胎土に織縫を含まない。神ノ木式
1824	PJ-102 1、PJ-13 7	胴部				138.0	破片	7.5YR4/2 7.5YR5/4	西面圓溝無い。床面から10cm深いて出土。内外面に輪轉目痕が残る。胎土に織縫を含む。中越式
1827	PJ-102 2. PJ-102, PJ-103 3. PJ-103 5. PJ-100	口縁部 ～胴部	21.6	96.6	0	2/3		7.5YR5/4 7.5YR5/3	西面圓溝無い。床面から10cm深いて出土。内外面に輪轉目痕が残る。外面部指頂圧痕が残るナデ。内面風化。胎土に織縫を含まない。中越式
1829	PJ-102 17. PJ-102 21. I-6-4	口縁部 ～胴部	(20.6)	90.8	0	1/2		5YR5/6 5YR5/3	地獄炉東東、床面出土。土器187cm等ともに出土。波状口縁。内外面に輪轉目痕が残るナデ。内面風化。胎土に織縫を含まない。中越式
1869	PJ-102 4. PJ-102 5. I-7-4	口縁部 ～胴部	(28.2)	438.0	0			5YR5/6 5YR5/6	PJ102北端。床面から14cm深いて出土。内外面に輪轉目痕。特に内面に輪轉目痕が残るナデ。胎土に織縫を含まない。中越式
1872	PJ-102 17. PJ-102 21. I-6-4. I-7-4	口縁部 ～胴部	(23.0)	720.0	0	1/2		7.5YR7/4 10YR6/3	地獄炉東東、床面出土。内外面に輪轉目痕が残る。外面部テナデ、内面風化。器壁は中厚手。胎土に織縫を含まない。中越式
3122	PJ-102 11	口縁部 ～胴部	25.0	361.0	0			5YR5/6 7.5YR4/3	地獄炉南東、床面から12cm深いて出土。波状口縁。口唇部に割れ。内外面に整形の凹凸と指頂圧痕が残る。胎土に織縫を含む。中越式

PJ113号住居 石器観察表

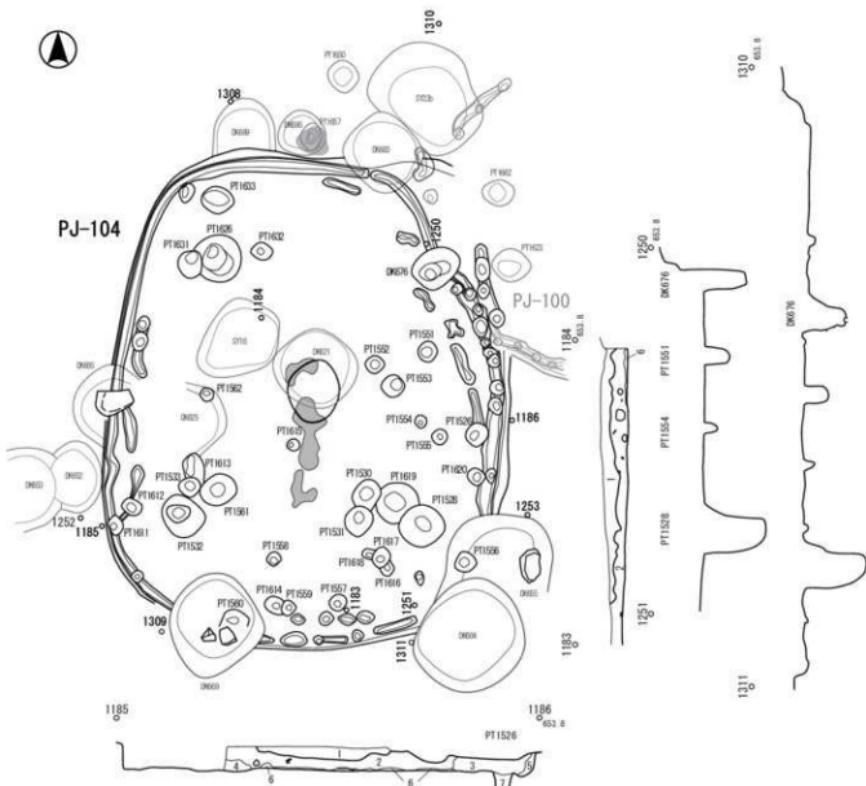
整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
3450	PJ-113	剥離のある 剥片	頁岩	1/1	64.0	69.0	9.0	43.90	円錐面が残る剥片の縁辺に調整剥離。中際の石器か
3451	PJ-113	剥離のある 剥片	頁岩	破片	54.0	74.0	12.0	59.90	縫辺に調整剥離。黄色く風化し使用痕不明
3452	PJ-113	削器	粘土質陶	1/1	45.0	43.0	10.0	25.90	円錐面が残る剥片の1辺に刃片の刃部、1辺に微小剝離。風化し使用痕不明
4502	PJ-1485	剥離のある 剥片	黒曜石	1/1	49.0	24.0	4.0	4.90	PJ1485出土。ヘラ状の薄い嵌長剝片の縁辺に微小剝離。滑れと摩耗。透明黒曜石
7304	IIG-815	磨石類	安山岩類	1/1	105.0	62.0	50.0	520	埋土上に出土。構円形。長軸端部に斜打痕。器面全体が平ずれ状に滑りと摩耗。
8225	PJ-113	石刀	黒曜石	3/4	13.5	10.4	2.4	0.26	黒曜石。邊緣加工。小なぎ片の縁辺のみに調整。未商品か。透明黒曜石
10434	PJ-113 5	磨石類	安山岩類	1/1	128.0	98.0	60.0	897	0N695南面。床面から13cm深いて出土。構円形。広い1面に掌耗。画面の中心に凹凸がある。
10435	PJ-113 11	磨石類	安山岩類	1/1	120.0	87.0	56.0	815	0N695南面。床面から7cm深いて出土。構円形。広い2面が掌耗。中心に斜打痕。側面に豊富な磨耗跡。多く安山岩
10439	PJ-102 35	磨石類	安山岩類	1/1	93.0	84.0	51.0	482	地獄炉上。床面出土。構円形。広い2面が掌耗。中心に斜打集中の凹み。多孔質安山岩
10440	PJ-102 10	磨石類	安山岩類	1/1	81.0	67.0	53.0	382	PJ102西面。床面から6cm深いて出土。構円形。広く平坦な面の中に斜打痕。多孔質安山岩
10442	PJ-102 7	磨石類	安山岩類	1/1	99.0	60.0	46.0	350	PJ102西面。床面出土。構円形。広い2面が掌耗。長軸方向に斜打集中の凹みが並ぶ。長軸端部に斜打による平坦面。多孔質安山岩
10448	PJ-102 3	ハンマー	砂岩類	3/4	116.0	58.0	35.0	264	PJ102北。床面から21cm深いて出土。長軸端部が削れ。器面全体が手平れ状に摩耗。使用痕は不明で削れの状況からハンマーと判断。縮隙。縮隙。縮隙。多孔質砂岩
10449	PJ-102 6	ハンマー	砂岩類	1/1	65.0	44.0	32.0	120	PJ102上。床面出土。円柱の長軸片側断面に斜打による平坦面。器面全体が手平れ状に摩耗。縮隙。縮隙。縮隙。多孔質砂岩
10450	PJ-102 14	穂	花崗岩類	1/1	111.0	182.0	53.0	1.402	床面仰上。床面から3cm深いて出土。花崗岩の憑依性。使用痕なし。器面全体が手平れ状に滑らか。縮隙。花崗岩
10451	PJ-102 8	円鏡	花崗岩類	破片				249	PJ102東脇。床面出土。器面が風化し使用痕不明
10452	PJ-102 16	石砧	安山岩類	破片				140	東側圓溝無い。床面出土。底部中心に頑著に摩耗。裏面は平坦で摩耗。多孔質安山岩
10455	PJ-102 9	石砧	安山岩類	破片				1.992	PJ102西面。床面出土。底部中心に頑著に摩耗。裏面は平坦で摩耗。多孔質安山岩
11165	PJ-1508	磨石類	安山岩類	1/1	103.0	88.0	58.0	742	不整齊円形。広い2面が摩耗。薄らな斜打痕。1側面に斜打による平坦面。稜磨石状。多孔質安山岩

PJ104 号住居

- 位** 置：I-7 グリッドに位置し、PJ100 号住居と重複し、本住居が PJ100 号住居を切る。調査時に PJ104 号住居 埋土上に貼床と思われる黄褐色土層を検出したことから PJ105 号住居を設定したが、本住居の調査が 進む過程で PJ104 号住居埋土中に何らかの人為的な行為により黄褐色土が堆積したと判断した。したがって PJ105 号住居は廃番とした。
- 遺構確認面より上位で平安時代の土師器壺、甕の破片がまばらに出土した。削平された平安時代の 住居跡が存在した可能性がある。
- 規** 模：PJ104 号住居は複数回の建替え、更新を経た住居で、検出された周溝から隅丸長方形と隅丸正方形の 平面形が想定され、埋土観察から最終段階で平面形が最も広がったと判断した。その規模は南北長 6m、東西長 4.9m で、堅穴は深さ 50 cm が残る。
- 埋** 土：第 1 層とした黄褐色土層と 2 層黒褐色土層がレンズ状に堆積する。当初、第 1 層黄褐色土層を貼床と 見立てて PJ105 号住居を設定したが、土層断面を観察し、貼床には層厚が 20 cm と厚いこと、レンズ状層理を形成すること、踏みしまった硬化面が認められなかったことから PJ105 号住居を廃番とした。
- 第 1 層黄褐色土層が形成された要因は不明である。黄褐色土は地山由来の土壤で自然堆積では形成 されないとされる。さらに黄褐色土層から遺物が一切出土しないことから、本住居が廃絶した後の 埋没途上で、別の堅穴住居から廃棄されたものなどと推測できる。
- 床** 面：黄褐色砂質の地山を平坦に掘り込んで床面としている。地床炉を中心広い範囲が踏みしまってやや 硬化していた。貼床は検出されなかった。
- 炉** : 住居中央の床面が被熱、焼土化した箇所を 3ヶ所、浅いくぼみ 1ヶ所を検出した。これが地床炉と思われる。3ヶ所の焼土は住居の建替えに伴い形成されたものと思われる。
- 周** 溝：全周で小溝を検出し、おぼろげながら二重に巡る箇所もあった。
- 柱** 穴：柱穴にふさわしいビットがいくつも検出された。ビットの形態、位置から柱穴を想定した。
- 最も平面形が広がった最終段階の柱穴は DK676 号土坑、PT1626、PT1532、PT1528 号ビットの 4 基で、 これらは深く掘り方が大きい。底面形状から 2 基のビットが連結しているものもある。PT1528 号ビットで 20cm 径の柱痕を検出した。
- 一段階、先行する居住期の柱穴は、DK676 号土坑の一部、PT1626 号ビットの一部、PT1561、PT1619 号ビットの 4 基を想定した。
- さらに先行する居住期の柱穴は、DK676 号土坑の一部、PT1631、PT1533、PT1530 号ビットの 4 基を想定した。
- 最初期の最も平面形が小さい居住期の柱穴は、PT1553、PT1562、PT1532 号ビットの一部、PT1531 号ビットの 4 基を想定した。
- これら以外にも浅いビットがいくつか検出されていて、平面形が認識できなかった先行する住居が 存在した可能性がある。PT1551、PT1560、PT1556 号ビットなどは組み合う可能性があろう。
- 出土遺物**：遺構確認面から中期土器破片、平安時代の土師器破片が出土した。大形粗製石匙などは前期後半もしくは中期石器の混入かもしれない。
- 出土した土器の総量は 15,830g で、早期条痕文系土器 83g、神之木台式 86g、坂平式 115g、木島式 986g、中越式 6,989g、神ノ木式 1,567g、関山式 307g、堂之上 2 式 60g、有尾式 153g、諸磯式 1,872g、北白川下層式 110g、前期土器破片 3,337g などである。
- 出土した石器の内訳は、石鏸 9 点、削器 1 点、石匙 4 点、石錐 1 点、磨石類 5 点、台石 1 点、磨製 石斧 1 点、ハンマー 4 点、剥離のある剥片 5 点、黒曜石核 2 点、黒曜石原石 1 点、円礫 1 点、礫 3 点で、このほか黒曜石を主とする剥片・碎片 248 点 1,206g がある。
- 時** 期：土器 1873 がまとまって出土したことから、本住居は神ノ木式期に廃絶したと思われる。

PJ104号住居 土坑ピット一覧表

遺構番号	位置	大きさ	深さ	覆土色	備考(遺物など)
DK-676	104住 北東壁	50	50	10YR2/2 (黒褐色) に 10YR3/3 (緑褐色) が混じる	底面が複数ピットに分かれる。
PT-1526	104住内	20×28	27	10YR2/2 (黒褐色) に 10YR3/3 (緑褐色) が混じる	中越式
PT-1528	104住内	50×48	80	10YR2/2 (黒褐色) に 10YR3/3 (緑褐色) が混じる	径 20 cm の柱痕を検出。底面が細長く、複数ピットが連結か。木鳥式、中越式
PT-1530	104住内	30×32	29	10YR2/2 (黒褐色) に 10YR3/3 (緑褐色) が混じる	
PT-1531	104住内	35×29	41	10YR2/2 (黒褐色) に 10YR3/3 (緑褐色) が混じる	
PT-1532	104住内	50×45	52	10YR2/2 (黒褐色) に 10YR3/3 (緑褐色) が混じる	底面が細長く、複数ピットが連結か。木鳥式、中越式
PT-1533	104住内	26×42	27	10YR2/2 (黒褐色) に 10YR3/3 (緑褐色) が混じる	早期豪族灰土器、木鳥式、中越式
PT-1551	104住内	22×21	31	10YR2/2 (黒褐色) に 10YR3/3 (緑褐色) が混じる	
PT-1552	104住内	19×19	19	10YR2/2 (黒褐色) に 10YR3/3 (緑褐色) が混じる	中越式、神ノ木式
PT-1553	104住内	25×21	42	10YR2/2 (黒褐色) に 10YR3/3 (緑褐色) が混じる	
PT-1554	104住内	12×12	17	10YR2/2 (黒褐色) に 10YR3/3 (緑褐色) が混じる	
PT-1555	104住内	16×16	23	10YR2/2 (黒褐色) に 10YR3/3 (緑褐色) が混じる	中越式
PT-1556	104住 南東壁	23×23	34	10YR2/2 (黒褐色) に 10YR3/3 (緑褐色) が混じる	
PT-1557	104住内	17×17	27	10YR2/2 (黒褐色) に 10YR3/3 (緑褐色) が混じる	
PT-1558	104住内	16×15	24	10YR2/2 (黒褐色) に 10YR3/3 (緑褐色) が混じる	
PT-1559	104住内	24×13	19	10YR2/2 (黒褐色) に 10YR3/3 (緑褐色) が混じる	
PT-1560	104住内	30×16	36	10YR2/2 (黒褐色) に 10YR3/3 (緑褐色) が混じる	
PT-1561	104住内	34×6	58	10YR2/2 (黒褐色) に 10YR3/3 (緑褐色) が混じる	
PT-1562	104住内	15×14	36	10YR2/2 (黒褐色) に 10YR3/3 (緑褐色) が混じる	
PT-1611	104住内	23×20	15	10YR2/2 (黒褐色) に 10YR3/3 (緑褐色) が混じる	
PT-1612	104住内	24×20	15	10YR2/2 (黒褐色) に 10YR3/3 (緑褐色) が混じる	
PT-1613	104住内	22	16	10YR2/2 (黒褐色) に 10YR3/3 (緑褐色) が混じる	切りあい不明。
PT-1614	104住内	18	17	10YR2/2 (黒褐色) に 10YR3/3 (緑褐色) が混じる	切りあい不明。
PT-1615	104住内	13×12	12	10YR2/2 (黒褐色) に 10YR3/3 (緑褐色) が混じる	
PT-1616	104住内	18	11	10YR2/2 (黒褐色) に 10YR3/3 (緑褐色) が混じる	
PT-1617	104住内	20	18	10YR2/2 (黒褐色) に 10YR3/3 (緑褐色) が混じる	
PT-1618	104住内	11	11	10YR2/2 (黒褐色) に 10YR3/3 (緑褐色) が混じる	
PT-1619	104住内	51	30	10YR2/2 (黒褐色) に 10YR3/3 (緑褐色) が混じる	
PT-1620	104住内	19	11	10YR2/2 (黒褐色) に 10YR3/3 (緑褐色) が混じる	
PT-1626	104住内	30×30	62	10YR2/2 (黒褐色) に 10YR3/3 (緑褐色) が混じる	底面が複数ピットに分かれる。木鳥式、中越式
PT-1631	104住内	22×23	31	10YR2/2 (黒褐色) に 10YR3/3 (緑褐色) が混じる	
PT-1632	104住内	30×31	27	10YR2/2 (黒褐色) に 10YR3/3 (緑褐色) が混じる	
PT-1633	104住内	39×25	26	10YR2/2 (黒褐色) に 10YR3/3 (緑褐色) が混じる	



1周 10%6.4(率)に10%6.5(黄緑)が10%10.2(黒緑)が7%、成化物が8%進むシルト土粒、粘性ややあり、しまる。P-125の生産地。

2周 10%2(黒緑)に10%3(暗緑)が10%10.5(黒緑)が9%、成化物が7%シルト・粘土、粘性ややあり、しまる。

3周 10%2(黒緑)に10%3(暗緑)が10%10.5(黒緑)が8%、成化物が6%シルト・粘土、粘性ややあり、しまる。

4周 10%2(黒緑)に10%6(黄緑)が8%進むシルト土粒、粘性ややあり、やすまる。

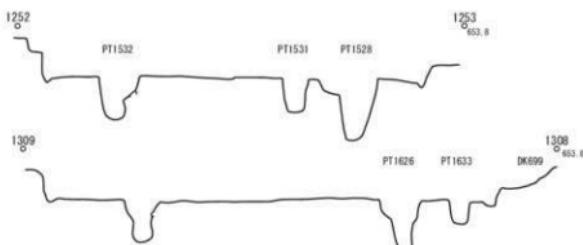
5周 10%3(暗緑)に10%6(黄緑)が5%進むシルト土粒、粘性ややあり、やすまる。

6周 10%4(暗緑)に10%3(暗緑)が5%進むシルト土粒、粘性ややあり、やすまる。

7周 10%3(暗緑)に10%3(黒緑)が5%進むシルト土粒、粘性ややあり、やすまる。

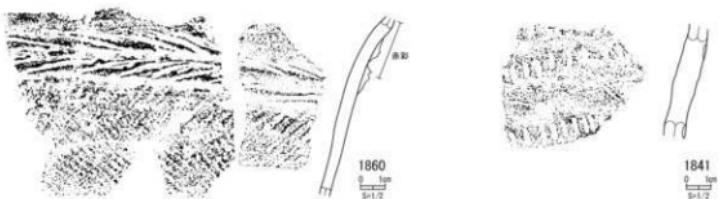
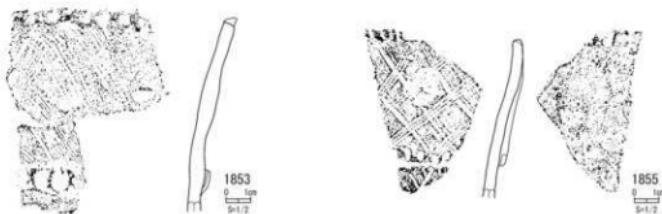
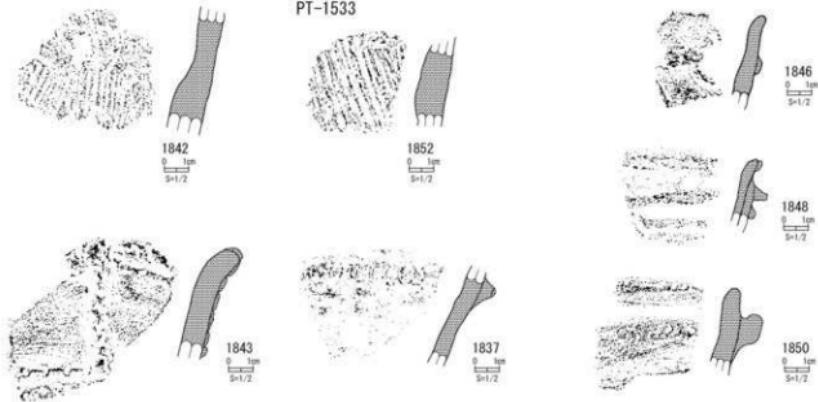
7周 10%2(黒緑)に10%6(黄緑)が5%進むシルト・粘土、粘性ややあり、やすまる。P-125の生産地。

8周 10%5(黒緑)に10%4(暗緑)が5%進むシルト・粘土、粘性ややあり、やすまる。



PJ104号住居

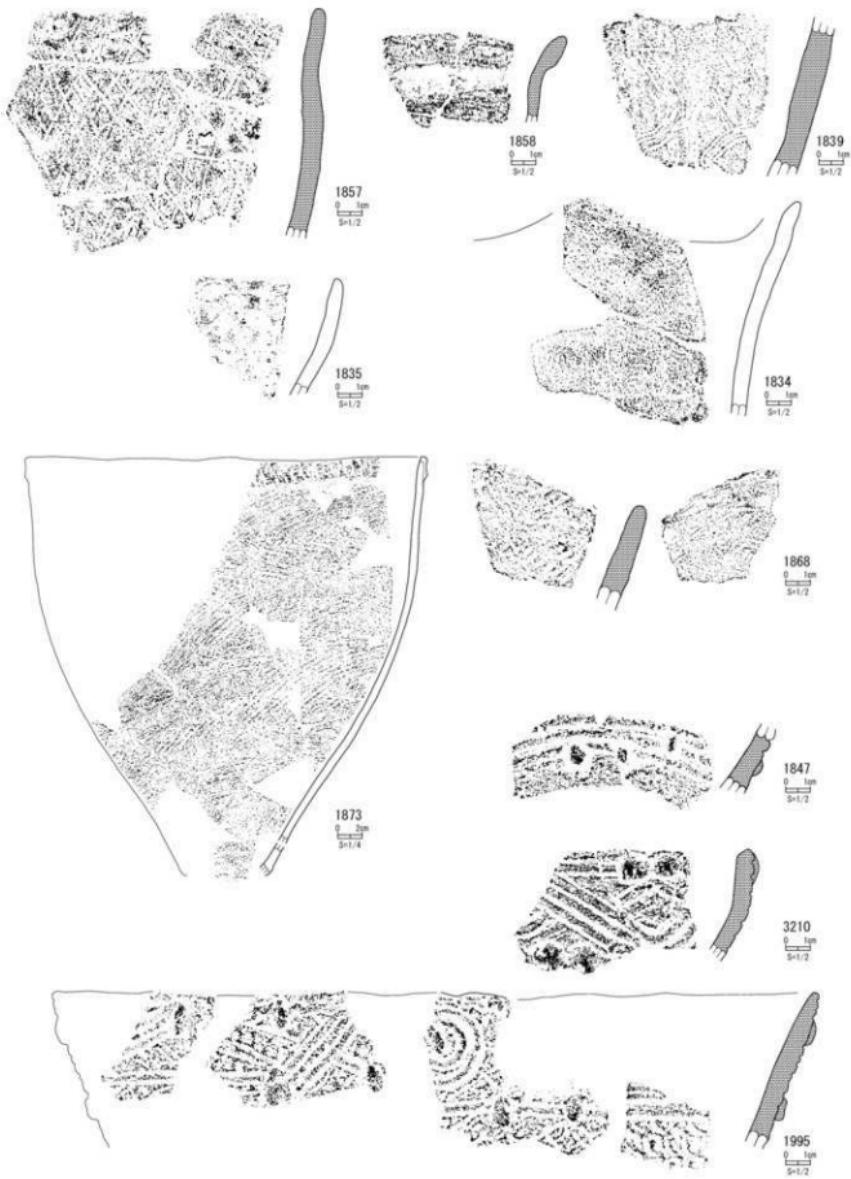
PT-1533



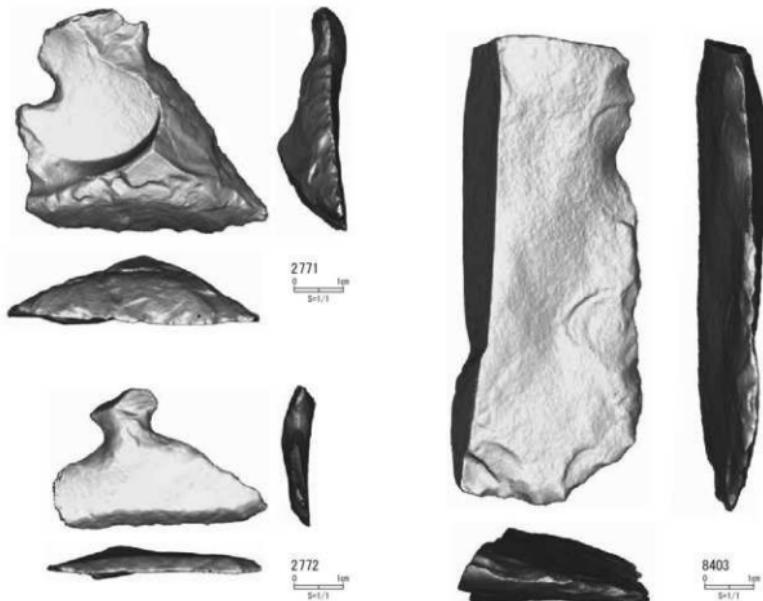
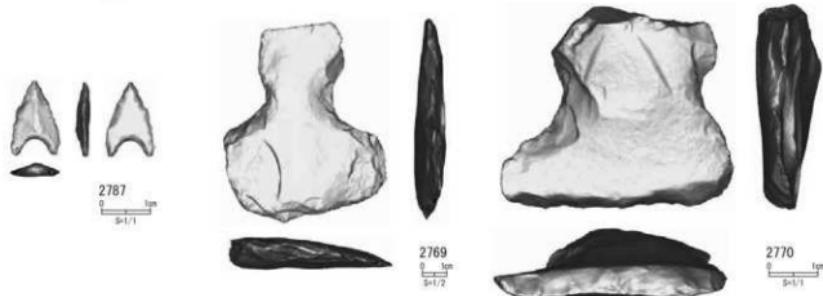
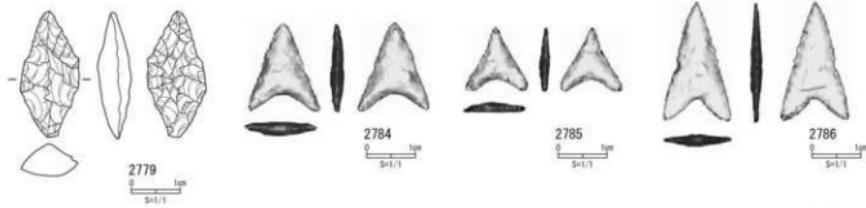
PJ104 号住居出土遗物



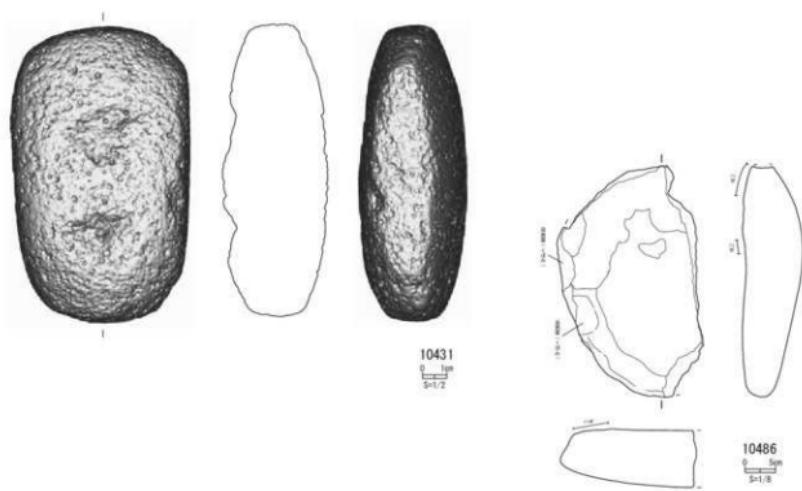
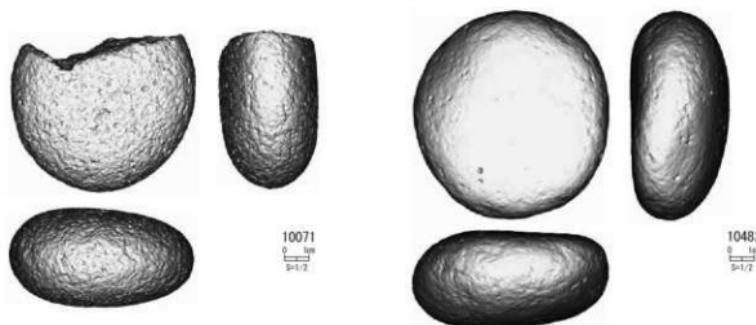
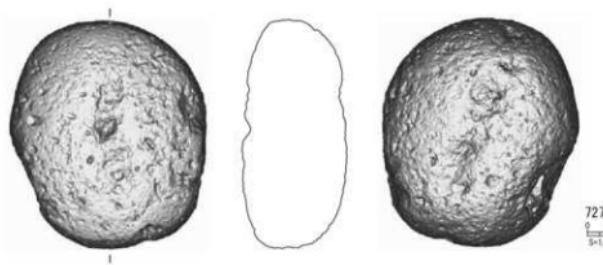
PJ104 号住居出土遺物



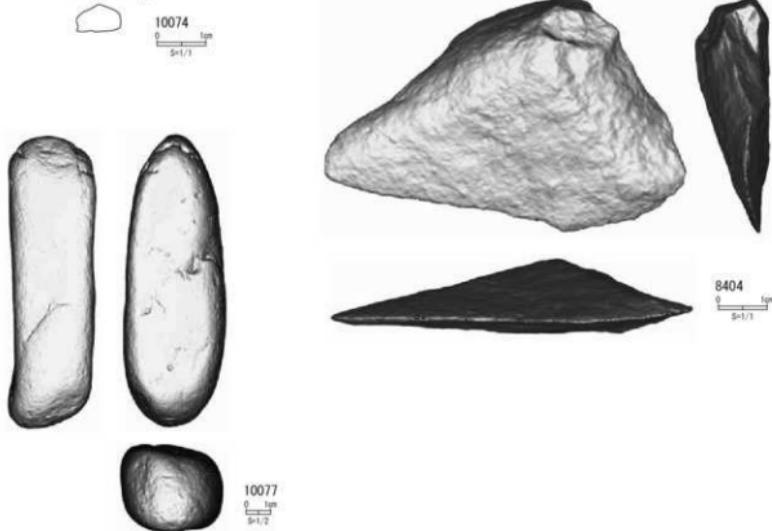
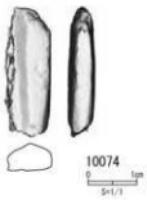
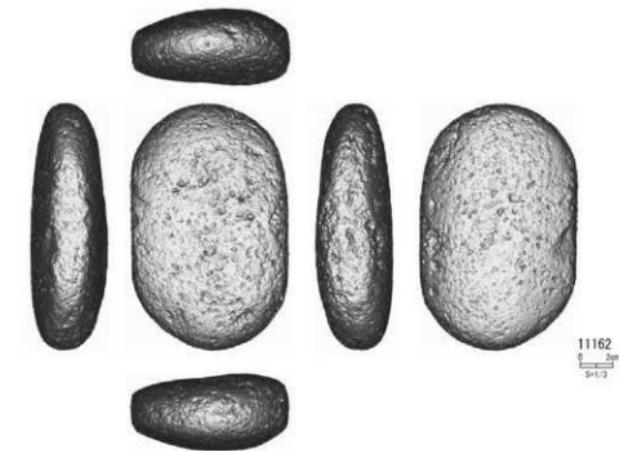
PJ104 号住居出土遺物



PJ104 号住居出土遺物



PJ104 号住居出土遺物



PJ104 号住居出土遺物

PJ104号住居 土器觀察表

実測番号	注記	部位	口径 cm 縦	器高 cm 横	底径 cm 厚さ	重量	残存度	胎土色調 上段：内部 下段：外部	備考
1831	PJ-104、PJ-105, I-7-12、I-7-12'	口縁部 ～胴部	18.0			113.0	破片	SYR6/4 SYR4/3	口唇部剥り。肥厚する口縁部の下端段差に棒状工具の跡。外側指頭圧痕がやや残る。外面タナデ、内面ヨコナデ。胎土に繊維を含まない。器壁は口縁部が7.3cm、胴部が5cm。木鳥式
1832	PJ-105	口縁部				90.0	破片	7.SYR6/4 7.SYR2/3	内外面に整形の凹凸が残るヨコナデ。胎土に繊維を含む。中経式
1833	PJ-105	口縁部				64.0	破片	7.SYR6/6 7.SYR6/4	粗略な格子目文。外面に整形の凹凸が残るヨコナデ。胎土に繊維を含む。中経式
1834	PJ-105	口縁部 ～胴部				41.0	破片	7.SYR6/4 7.SYR6/4	波状口縁。外側指頭圧痕がやや残るヨコナデ。胎土に繊維を含まない。中経式
1835	PJ-105	口縁部				13.0	破片	SYR6/6 7.SYR6/4	外側面に指頭圧痕がやや残る。内面ヨコナデ。胎土に繊維を含まない。中経式
1836	PJ-105	口縁部				24.0	破片	7.SYR6/6 7.SYR6/6	角張った口唇部。斜綱文と斜行沈線で格子目。内面ヨコナデ。胎土に繊維を含む。中経式平行
1837	PJ-105	胴部				22.0	破片	7.SYR6/6 7.SYR5/6	高さがある隆帯に剥み。内面ナデミガキ。胎土に繊維を含む。神ノ木台式
1838	PJ-105	口縁部				26.0	破片	7.SYR7/6 7.SYR6/6	内側面指頭圧痕がやや残るナデミガキ。胎土に繊維を含む。中経式
1839	PJ-105	胴部				49.0	破片	7.SYR6/3 7.SYR2/3	焼けたる条線文。外側面に整形の凹凸が残る。内面ヨコナデ。胎土に繊維を多量に含む。中経式平行
1840	PJ-105	口縁部				24.0	破片	7.SYR7/4 7.SYR6/6	口縁部外面に爪の先を押したような剥み。焼けたる条線文。外側面に整形の凹凸が残る。胎土に繊維を多量に含む。中経式平行
1841	PJ-105	胴部				45.0	破片	7.SYR6/6 7.SYR7/6	爪形文。内面剥みの凹凸が残る。胎土に繊維を含まない。堂之上乙式
1842	PJ-105	胴部				33.0	破片	7.SYR5/3 SYR4/4	外側面の柔軟文。内面は接合部の剥離が残る。器壁は11mm程度。胎土に繊維が多量に混じる。早期後半の柔軟文系土器
1843	PJ-105	口縁部				33.0	破片	SYR5/3 SYR4/3	深い貯湯部がある波状口縁。口唇部と隆帯に貝殻模様の剥み。隆帯断面は三角角。内外面にナデミ調整。器壁は11mmと薄手。胎土に繊維を少量含む。神之木台式
1844	I-7-7	口縁部	-	-	-	57.0	破片	7.SYR6/5 7.SYR6/6	粗略な格子目文。内面に整形の凹凸が残る。内面ヨコナデ。胎土に繊維を多量に含む。中経式
1845	PJ-104	口縁部				19.0	破片	7.SYR6/6 7.SYR5/6	外面ヨコナデ直條。指頭圧痕。内面ヨコナデ。胎土に繊維を含む。中経式
1846	PJ-104	口縁部				9.0	破片	7.SYR2/1 7.SYR1/2	太い隆帯。胎土に繊維を多量に含む。坂平式
1847	PJ-104	胴部				25.0	破片	7.SYR2/2 SYR4/6	竹管平行沈線。貼付文。内面ミガキ。胎土に繊維を含む。關山式
1848	PJ-104	口縁部				11.0	破片	SYR5/6 7.SYR6/6	薄みのある隆帯が2本。胎土に繊維を多量に含む。坂平式もしくは神之木台式
1849	PJ-104	口縁部				29.0	破片	7.SYR6/4 7.SYR6/4	外側整形の凹凸が残るナデ調整。内面ヨコナデ。胎土に繊維を含む。中経式
1850	PJ-104	口縁部				17.0	破片	SYR2/1 7.SYR6/6	太く厚みのある隆帯。内面ナデ調整。胎土に繊維を多量に含む。坂平式
1851	PJ-104	口縁部				20.0	破片	7.SYR7/6 7.SYR6/6	内外面に整形の凹凸が残るナデ調整。胎土に繊維を含む。中経式
1852	PT-153	胴部				22.0	破片	SYR5/5 SYR5/6	PT153出土。外側柔軟文。内面柔化。刮溝。胎土に繊維を含む。早期後半の柔軟文系土器
1853	PJ-104	口縁部				36.0	破片	SYR5/6 SYR5/5	口唇部剥り。格子目条線文。刮み隆帯。内外面に指頭圧痕が残る。内面ヨコナデ。胎土に繊維を含まない。木鳥式
1855	PJ-104	口縁部				20.0	破片	7.SYR6/4 7.SYR5/2	口唇部剥り。格子目条線文。やや肥厚する口縁部の下端段差にへら状工具の剥み。内外面に指頭圧痕が残る。胎土に繊維を含まない。木鳥式
1856	PJ-104	口縁部				38.0	破片	7.SYR6/6 7.SYR5/4	粗略な格子目文。内外面指頭圧痕が残る。外面タナデ。内面ヨコナデ。胎土に繊維を含む。中経式
1857	I-7-8	口縁部 ～胴部	-	-	-	104.0	破片	7.SYR6/6 7.SYR5/2	格子目文。内外面に整形の凹凸が残る。胎土に繊維を多量に含む。中経式
1858	PJ-104	口縁部				15.0	破片	7.SYR7/4 7.SYR2/4	口縁部に凹凸状のナデ。内面ヨコナデ。胎土に繊維を含む。中経式
1860	PJ-104、I-7-2, I-7-3	胴部				110.0	破片	SYR5/6 2.SYR5/6	粗略の剥離き文、刮み隆帯。羽状純文施文。基壁は5mm以下で薄手。赤彩あり。北白川下層Ⅱ式平行
1866	PJ-104	口縁部	-	-	-	21.0	破片	2.SYR5/6 SYR5/6 SYR3/3	波状口縁。内外面に柔軟文。指頭圧痕がやや残る。胎土に繊維を含む。神ノ木式
1873	PJ-104、I-7-2	口縁部 ～胴部	33.0	34.3	7.0	638.0	破片	SYR5/6 SYR5/6	剥離する口縁部に粗面状工具の剥炎。正反の合掌形の基形状？内面ナデミガキ。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
1874	PJ-104、I-7-2, 10	口縁部	22.4	-	-	1,014.0	破片	7.SYR6/6 7.SYR5/6	内外面に整形の凹凸と指頭圧痕が残る。胎土に繊維を含む。中経式
1995	PJ-104、DE-699, I-6-16、I-7-7	口縁部	31.5	-	-	98.0	破片	SYR6/5 SYR4/3	角張った口唇部。竹管による円文。格子目文。波状文。純文。内面ミガキ。胎土に繊維を含む。關山式
3120	IG-811	口縁部				34.0	破片	10YS/4 7.SYR5/4	内面ぎざした口唇部。竹管沈線の菱形文と円形貼付文。内面ミガキ。胎土に繊維を含む。關山式

PJ104 号住居 石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
2769	PJ-105	石匙	頁岩	3/4	83.0	69.0	13.0	72.20	大形粗製石匙。片削跡が欠損。刃刃。黄色く風化し使用痕不明
2770	PJ-105	石匙	頁岩	1/1	42.0	48.0	10.0	25.00	刃部は接器状の片刃。ガジリ。黄色く風化し使用痕不明
2771	PJ-105	石匙	珪質頁岩	1/1	44.0	51.0	12.0	19.00	2辺に棒器状の片刃。刃部に微小剝離。白筋のある青灰色珪質頁岩
2772	PJ-105	石匙	頁岩	1/1	28.0	44.0	6.0	5.40	片刃。黄色く風化し使用痕不明
2773	PJ-105	石匙	黑曜石	1/1	20.0	12.4	3.4	0.83	未成品。剥片の縁辺を調整し始めた段階。1辺折損後にも調整。透明黒曜石
2774	PJ-105 3. PJ-105 5	石核	黑曜石		56.0	68.0	19.0	72.60	河川転石である石核。二つに割れ、接着。白色底の半透明黒曜石
2776	PJ-104 I	剥離のある 剥片	頁岩	1/1	147.0	32.0	11.0	53.10	亜円錐面が残る石核のような形の剥片。部分的に敷面の剥離剥離あり。
2777	PJ-104	石核	黑曜石					23.60	ズリ。1面の剥片剥離あり。白筋のある漆黒黒曜石
2778	PJ-104	原石	黑曜石					9.20	ズリ。透明系黒曜石
2779	PJ-104	石錐	珪質頁岩	1/1	25.0	12.0	7.0	1.80	錐形先端に使用痕なし。石錐から石匙に作り替えか?白筋のある青灰色珪質頁岩
2780	PJ-104	剥離のある 剥片	珪質頁岩					1.20	剥片の1辺に微小剝離。白筋のある青灰色珪質頁岩
2781	PJ-104	石錐	黑曜石	破片				0.95	未成品。剥片素材、先端欠損。縁辺のみ調整。透明黒曜石
2782	PJ-104	石錐	黑曜石	3/4	18.2	-	2.6	(0.55)	凹基、両面加工。片削欠損、縁辺調整がやや粗く未成品か。漆黒黒曜石
2783	PJ-104	石錐	黑曜石	1/1	15.5	13.2	3.0	0.57	未成品。原石面が残る剥片素材。三角形状ができた段階。片削跡が欠損。透明系黒曜石
2784	PJ-104	石錐	黑曜石	1/1	18.6	15.2	3.0	0.43	凹基、両面加工。墓塚状透明黒曜石
2785	PJ-104	石錐	黑曜石	1/1	14.3	13.1	2.0	0.18	凹基、両面加工。透明黒曜石
2786	PJ-104	石錐	黑曜石	1/1	25.3	14.5	2.6	0.53	凹基、細身、両面加工。縁辺鋸歯形。側縫ガジリ。墓塚状透明黒曜石
2787	PJ-104	石錐	黑曜石	1/1	16.8	10.5	2.8	0.32	凹基。抉りや深い、縁辺加工。剥片素材。墓塚状透明黒曜石
2727	Ig-719	磨石類	安山岩	1/1	9.5	8.3	4.5	461	橢円形。広い2面が摩耗。長軸方向に敲打集中の凹みが並ぶ。多孔質安山岩
7278	Ig-718	剥離のある 剥片	黑曜石	1/1				2.30	薄い剥片の1辺を両面から調整。石錐未成品か。墓塚状透明黒曜石
7283	Ig-6498	石錐	黑曜石	1/2	23.0	25.3	3.7	1.68	未成品。剥片素材。大形石錐を意図して製作中に先端側が欠損か。透明黒曜石
8403	PJ-105	削器	頁岩	1/1	41.0	99.0	15.0	63.50	剥片の薄い縁辺に片刃。微小剝離。1ヶ所に抉り状剥離。黄色く風化し使用痕不明確。
8404	PJ-105	剥離のある 剥片	林立木	1/1	48.0	74.0	14.0	40.80	亜円錐面が残る剥片の薄い縁辺に微小剝離。風化し使用痕不明確
8405	PJ-105	碎片	珪質泥岩	1/1				15.70	灰褐色の珪質頁岩。擦入石材
8406	PJ-105	剥離のある 剥片	珪質頁岩	1/1				18.40	短冊。板状剥片の1辺に局所的な微小剝離。白筋のある青灰色珪質頁岩
10071	PJ-104 8	磨石類	安山岩類	3/4	70.0	76.0	42.0	252	橢円形。広い1面が摩耗。両面に敲打痕。多孔質安山岩
10072	PJ-104	磨石類	花崗岩類	3/4	73.0	59.0	34.0	177	橢円形。広い1面が摩耗。長軸端面と側面に敲打痕一部黒く変色。
10073	PJ-104	円錐	砂岩類	1/1	42.0	37.0	30.0	67	ニワトリ頭よりやや小ぶりの線形円錐。長軸端面に弱い敲打痕。細粒砂岩
10074	PJ-104	磨製石斧	蛇紋岩	破片	(28.0)	(8.0)	(5.0)	2	小形の角定式磨製石斧の断片。再生しようと擦り作業中に破損、崩壊か。
10075	PJ-104	ハンマー	砂岩類	1/1	104.0	41.0	33.0	174	断面三角形の棒状亜角錐。平坦な1面に点状敲打痕が集中。細粒、緻密な砂岩
10076	PJ-104 5	ハンマー	砂岩類	1/1	104.0	45.0	43.0	263	西壁(小)、床面出土。断面三角形の棒状亜円錐。平坦な1面に点状敲打痕が集中。細粒、緻密な砂岩
10077	PJ-104	ハンマー	砂岩類	1/1	122.0	43.0	33.0	313	棒状亜円錐。長軸端面に敲打痕。細粒、緻密な砂岩
10431	PJ-104	磨石類	安山岩類	1/1	121.0	74.0	45.0	559	橢円形。広い2面が頗著に摩耗。敲打集中の凹みが長軸方向に並ぶ。片面は更に凹み、片面は浅い溝。2側面と長軸2端面も敲打で平坦面。多孔質安山岩
10482	PJ-105	礎	砂岩類	1/1	114.0	44.0	32.0	19	棒状砲。使用面はみられない。細粒砂岩
10483	PJ-105	礎	砂岩類	破片	(55.0)	38.0	29.0	84	棒状砲か、第範面で折損。ひび割れ。細粒砂岩
10485	PJ-105	ハンマー	砂岩類	破片				127	圓盤が削除した棒状砲。片削面に点状敲打痕。削れ面がやや摩耗。細粒、緻密な砂岩
10486	PJ-105 6	台石	安山岩類	1/2	(349.0)	(229.0)	103.0	12,500	北壁近くの埋土出土。扁平橢円錐。1面がやや溝曲するほどに摩耗。側面は斜め、側面面に堆積の削れ
11162	PT-1626	磨石類	安山岩類	1/1	150.0	97.0	50.0	933	PT-1626 出土。橢円形。摩耗して扁平化。広い2面が摩耗。片面に敲打集中の凹みが長軸方向に並ぶ。2側面も強打で平坦化。多孔質安山岩
11163	PT-1626	礎	砂岩類	1/2				267	PT-1626 出土。折損した棒状亜円錐。ハンマーと思われる。細粒、緻密な砂岩

PJ106号住居

- 位 置**：I-8 グリッドに位置する。PJ107号住居と重複する。SY22号集石土坑と SY23a号集石土坑、DK656、DK680号土坑に切られる。DK703号土坑を切る。
- 規 模**：長軸長4m、短軸長4mの隅丸方形住居で、竪穴は深さ40cmが残る。
- 埋 土**：埋土断面図で1層とした黒褐色土が水平に堆積し、壁際で2層、3層が堆積する状況を確認した。
PJ107号住居との切り合い関係が観察できるはずであるが、1層中では全く分からなかった。両住居の重複箇所ではPJ106号住居の2層がより暗く、PJ107号住居を切るようにみえた。
- 床 面**：黄褐色砂質の地山を平坦に掘り込み、床面としている。住居中心部がやや硬く踏みしまり、浅くくぼんでいた。
- 炉**：住居中心の浅いくぼみの片端で床面が狭く焼土化した箇所を検出した。この焼土とくぼみが地床炉と思われる。
- 周溝**：壁沿いで小溝を検出した。東壁沿いと北壁そいでは小溝が二重、三重に検出された。
- 柱穴**：検出されたピットから想定した本住居の柱穴配置は4本主柱穴構造と推測される。周溝が示唆する建替え、建直しに対応する柱穴の組み合わせが想定できる。
もっとも住居平面形が拡大した段階の柱穴は、PT1592、PT1595、PT1602、PT1630号ピットの4基である。形状と深さが類似している。
先行する段階の柱穴は、PT1588、PT1597、PT1599、PT1600号ピットの4基であろう。PT1596とPT1597号ピット、PT1600とPT1601号ピットが近接することから、住居西側部分の柱の更新ないし建て直しがさらに想定される。
- 出土遺物**：埋土中から土器破片、石器等がまばらに出土した。本住居で出土した磨製石斧の破片が、PJ44号住居、SY13号集石土坑で出土した破片と接合した。この磨製石斧10516はPJ44号住居で報告した。また埋土断面の一部を水洗選別したところ焼骨断片を少量回収した。同定していないが陸生哺乳類と思われる。
出土した土器の総量は44,127gで、早期末葉の下吉井式60g、木島式73g、中越式1,666g、神ノ木式1,105g、関山式297g、堂之上Z式8g、有尾式524g、卯迦堂Z式103g、諸磯a式994g、諸磯b式10,234g、諸磯c式7g、諸磯d式15,635g、北白川下層II式156g、前期土器破片12,518g、中期土器破片460gなどである。
出土した石器の内訳は、石鏃17点、削器1点、石匙4点、石錐8点、両極石器1点、打製石斧2点、磨石類9点、台石1点、磨製石斧2点、研磨具1点、ハンマー3点、礫器1点、块状耳飾1点、剥離のある剥片7点、黒曜石核2点、黒曜石と石英岩の原石6点、円礫1点で、このほか黒曜石を主とする剥片・碎片425点、1,407gが出土した。
- 時 期**：住居の時期を端的に示す土器の出土状況は認められなかつたが、諸磯b式中段階の出土量が最多で、埋土下層から安定して出土したことから、本住居は諸磯b式中段階には廃絶し、埋没途上にあつたと考えられる。

PJ106号住居 土坑ピット一覧表

遺構番号	位置	大きさ	深さ	覆土色	備考(遺物など)
PT-1588	106住内	30	28	I0VR3/4(縫隙)にI0VR4/3(にぶい黄褐色)が混じる	
PT-1596	106住内	20×19	9	I0VR3/4(縫隙)にI0VR4/3(にぶい黄褐色)が混じる	
PT-1595	106住内	34×42	60(40)	I0VR3/4(縫隙)にI0VR4/3(にぶい黄褐色)が混じる	深さはDK680底面からの深さ。本来の深さは推定47cm。
PT-1596	106住内	38	24(29)	I0VR3/4(縫隙)にI0VR4/3(にぶい黄褐色)が混じる	中越式、諸磯式
PT-1597	106住内	32	27	I0VR3/4(縫隙)にI0VR4/3(にぶい黄褐色)が混じる	諸磯式
PT-1598	106住内	21×(19)	15	I0VR3/4(縫隙)にI0VR4/3(にぶい黄褐色)が混じる	諸磯式
PT-1599	106住内	28	13.5	I0VR3/4(縫隙)にI0VR4/3(にぶい黄褐色)が混じる	諸磯式
PT-1600	106住内	33×25	26	I0VR3/4(縫隙)にI0VR4/3(にぶい黄褐色)が混じる	諸磯b式
PT-1601	106住内	34×27	38.5	I0VR3/4(縫隙)にI0VR4/3(にぶい黄褐色)が混じる	諸磯b式
PT-1602	106住内	27×23	36	I0VR3/4(縫隙)にI0VR4/3(にぶい黄褐色)が混じる	諸磯b式
PT-1605	106住内	15×14	25	I0VR3/4(縫隙)にI0VR4/3(にぶい黄褐色)が混じる	
PT-1629	106住内	19×15	44	I0VR3/4(縫隙)にI0VR4/3(にぶい黄褐色)が混じる	
PT-1630	106住内	30×23	60	I0VR3/4(縫隙)にI0VR4/3(にぶい黄褐色)が混じる	諸磯b式

PJ107 号住居

- 位** 置：I-8 グリッドに位置する。PJ106 号住居と重複する。SY20 号集石土坑、SY28 号集石土坑、SY29 号集石土坑、DK662、DK665、DK672、DK673、DK714 号土坑などに切られる。
- 規** 様：時期が異なる複数の住居が同一地点で重複するか、同一時期の住居が繰り返し建替えられている明確に判断できず、個々の住居の規模は把握できなかった。周溝で囲まれたもっとも外側の大きさは、南北長 5.6m、東西長 5.4m で、竪穴の深さは 25 cm であった。
- 埋** 土：暗褐色土が水平に堆積していたが、竪穴壁面の立ち上がりが埋土断面では認識できなかった。
- 床** 面：黄褐色砂質の地山を平坦に掘り込んで床面としている。住居中央部の床面は堅く踏みしまっていた。
- 炉** : 住居の中心からやや北西寄りの PT1536 号ビット脇と、南西寄りの PT1534 号ビット脇の床面が被熱、焼土化していた。これが地床炉と思われる。どちらの焼土もビットに切られていた。
- 周** 溝：住居の壁沿いで小溝を検出した。小溝は北壁沿いと南壁沿いで二重、三重に検出された。
- 柱** 穴：柱穴と思われるビット多数が検出された。いずれのビットも床面で明瞭に検出され、埋土にこれといった違いは認められなかった。大きさ、深さ、位置から以下のとおり柱穴の組み合わせを想定した。地床炉、周溝から複数の建替え、重複が想定される。
- PT1536 号ビット脇の地床炉を残した居住期の柱穴は、PT1590、PT1539、PT1728、PT1586、PT1569、PT1573 号ビットの 6 基の組み合わせを想定した。これらのビットは深さが 60 cm から 70 cm 程度と深く、形状も共通している。掘立柱建物を思わせる 6 本主柱穴構造である。2 ヶ所の地床炉をつなぐ線分は 6 本柱穴の主軸と平行することから、2 ヶ所の地床炉に新旧差はないかもしれない。
- 同様の 6 本柱穴の組み合わせは、PT1589、PT1535、PT1577、PT1572、PT1584 号ビットと DK681 号土坑の組み合わせ、PT1585、PT1591、PT1534、PT1580、PT1574、PT1739 号ビットの組み合わせが想定できる。これらは柱間寸法も類似している。
- これら以外にも多数のビットがあり、4 本柱穴の組み合わせを想定できるが、想定の真否を確認する術がない。
- 出土遺物**：埋土中から土器破片と石器等がまばらに出土した。遺構検出面から掘り下げて、周溝等を検出し、住居範囲を確定するまでの間に、本住居と重複する土坑などの遺物を一括して取り上げたことから、一括遺物には前期後半の諸磯式、中期中葉の土器が少なからず混在することとなった。
- 埋土中から焼骨片が少量出土した。未同定であるが陸生哺乳類の骨片と思われる。
- 出土した土器の総量は 31,267g で、木島式 182g、中越式 4,772g、神ノ木式 1,916g、関山式 103g、堂之上 Z 式 40g、有尾式 1,102g、釈迦堂 Z3 式 969g、諸磯式 9,791g、北白川下層 II 式 53g、前期土器破片 11,818g、中期土器破片 968g である。
- 出土した石器の内訳は、石鎚 15 点、削器 2 点、石匙 5 点、石錐 1 点、両極石器 2 点、打製石斧 10 点、磨石類 6 点、台石 2 点、磨製石斧 1 点、ハンマー 3 点、剥離のある剥片 2 点、黒曜石原石 1 点、扁平礫 1 点、円礫 3 点である。このほか黒曜石を主とする剥片・碎片が 340 点 1,123g 出土した。
- 時** 期：土器型式ごとの出土量は諸磯式が多いが、土器 1592、土器 1595 の 2 点がまとまって出土していることから、本住居は前期中葉、釈迦堂 Z3 式期に位置づけられると思われる。

PJ107号住居 土坑ピット一覧表

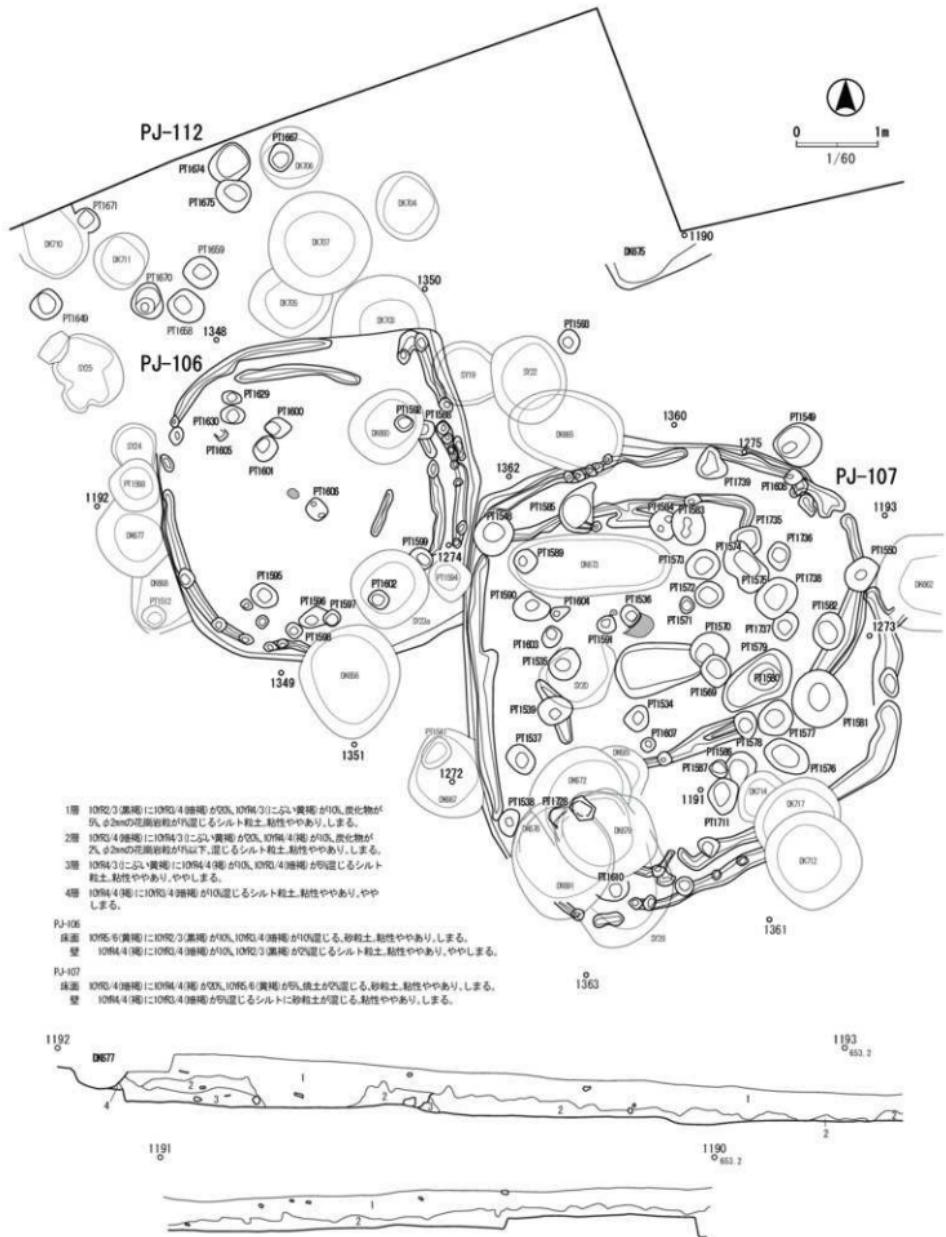
遺構番号	位置	大きさ	深さ	覆土色	備考(遺物など)
PJ-1534	107 住内	28×24	36		
PJ-1535	107 住内	35×35	31		
PJ-1536	107 住内	22×22	33		中越式
PJ-1537	107 住内	30×29	36		跡跡式
PJ-1538	107 住内	(29)×(25)	-34		?石
PJ-1539	107 住内	35 × (33)	62		中越式、神ノ木式
PJ-1540	107 住 北西壁	46×40	41		中越式
PJ-1549	107 住 北東に隔接	37×30	37		
PJ-1550	107 住 東壁	42×35	40		
PJ-1569	107 住内	31×(40)	72		PJ-1570 を切る。中越式
PJ-1570	107 住内	43←	49		神ノ木式
PJ-1571	107 住内	17×17	16		
PJ-1572	107 住内	32×29	37		
PJ-1573	107 住内	35×29	66		土器小片
PJ-1574	107 住内	37←	43(46)		PJ-1574 と PJ-1575 の切りあい不明。(切りあう)
PJ-1575	107 住内	37←	43		
PJ-1576	107 住内	14.50×(?)	18		中越式、軒道堂 Z式
PJ-1577	107 住内	49×49 (56)×(50)	29		軒道堂 Z式
PJ-1578	107 住内	33 × (24)	19		中越式
PJ-1579	107 住内	91×51	19(26)		土器
PJ-1580	107 住内	35×28	31		中越式
PJ-1581	107 住内	65×61	37		神ノ木式?
PJ-1582	107 住内	40×34	33		跡跡式?
PJ-1583	107 住内	44×(33)	35 - 39		跡跡式
PJ-1584	107 住内	32×(30)	33 - 26		跡跡式
PJ-1585	107 住内	53×37	31		中越式
PJ-1586	107 住内	38←	67		中越式
PJ-1587	107 住内	20×19	19		黒曜石
PJ-1589	107 住内	26×24	36		
PJ-1590	107 住内	42×34	67		中越式
PJ-1591	107 住内	19×(19)	30		
PJ-1603	107 住内	23×20	34		土器
PJ-1604	107 住内	12×12	41(46)		土器小片
PJ-1607	107 住内	15×14	16		
PJ-1608	107 住 北壁	21×14	15.5		同棲内 PJ
PJ-1610	107 住内	(32)×(?)	-36	シルト粘土。ややしまる。	
PJ-1711	107 住内	45×32	30	10YR3/2(黒褐色) に 10YR3/4(緑褐色) シルト粘土。ややしまる。	有隕式?
PJ-1728	107 住内	30×10	23	完層	D6572 底面で検出。本來の深さは推定 76cm
PJ-1735	107 住内	37×37	30	10YR3/2(黒褐色) に 10YR3/4(緑褐色) が シルト粘土。ややしまる。	
PJ-1736	107 住内	30×24	30	10YR3/2(黒褐色) に 10YR3/4(緑褐色) が 5%湿じる。シルト粘土。ややしまる。	
PJ-1737	107 住内	34×26	16	10YR3/4(緑褐色) に 10YR4/3(にじい黄褐色) が 5%湿じる。シルト粘土。ややしまる。	
PJ-1738	107 住内	48×40	18	10YR3/4(緑褐色) に 10YR4/3(にじい黄褐色) が 5%湿じる。シルト粘土。ややしまる。	
PJ-1739	107 住内				

PJ112号住居

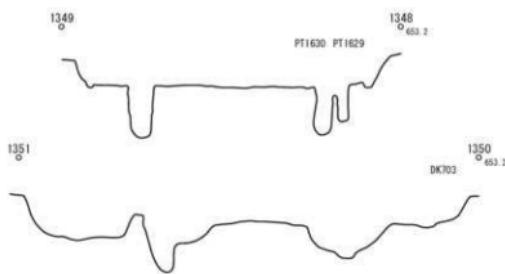
- 位** 置：J-8 グリッドに位置する。ぼんやりとした暗色の落ち込みがあり、土器と石器がまとまっていたことから住居と判断して設定したが、後述のとおり住居であるか疑問である。
- 規** 様：住居壁面、周溝、柱穴が検出されず不明である。暗色の落ち込みは、まとまって検出された土坑とピットであった。
- 床** 面：住居の床面とおぼしき硬化面、平坦面は検出されなかつた。
- 炉**：焼土、くぼみなど炉とおぼしき遺構は検出されなかつた。
- 周** 溝：検出されなかつた。
- 柱** 穴：柱穴にふさわしいピットが弧状に並ぶように検出されているが、住居の柱穴になるか不明である。
- 出土遺物**：黒褐色の遺物包含層から土器と石器が出土した。土器、石器ともに前期前葉から中期まで幅があり、特にまとめて出土した土器は認められなかつた。
住居かどうか不明で、また住居であってもその範囲が分からぬため、便宜上、弧状に並ぶピット周辺から調査区東端にかけて出土した遺物を本住居分として集計した。
- 出土した土器の総量は28,491gで、早期条痕文系18g、木島式53g、中越式1,557g、神ノ木式1,749g、開山式144g、堂之上Z式8g、有尾式425g、諸磯式11,624g、北白川下層II式56g、前期土器破片11,625g、中期土器破片1,188g、新崎式27g、平安時代の土師器・須恵器15gなどである。北陸地方の新崎式とみられる土器破片が注目される。
- 出土した石器の内訳は、石礫13点、石匙1点、石錐2点、鎌齒縁石器1点、両極石器3点、打製石斧10点、磨石類12点、石皿1点、台石2点、磨製石斧1点、ハンマー5点、側縁剥離石器1点、剥離のある剥片4点、黒曜石原石3点、円礫2点で、このほか黒曜石を主とする剥片・碎片239点820gが出土した。
- 時** 期：住居跡かも含めて不明である。住居跡ならば諸磯式の出土量が最も多い。

PJ112号住居 土坑ピット一覧表

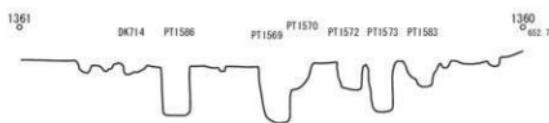
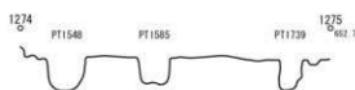
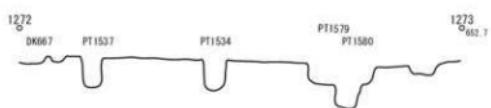
遺構番号	位置	大きさ	深さ	覆土色	備考(遺物など)
PT-1649	109 住 東 0.5 m	37×34	18		木島式、前期土器破片
PT-1658	106 住 北西 1.0 m	38×40	35		中越式、神ノ木式、諸磯式
PT-1659	112 住 西壁	36×32	30		中期?土器破片
PT-1667	112 住内	27×30	36		DK706を切る。
PT-1670	106 住 北西 1.0 m	40	42	10YR4/4(褐)に10YR4/6(褐)が5%混じる。シルト粘土。ややしまる。 (10YR2/2(黒褐)に10YR4/2(灰黄褐)が5%混じる。) ?	
PT-1671	109 住 東 1.0 m	38×33	15	10YR3/3(暗褐)に10YR4/6(褐)が5%混じる。 柱穴 10YR2/3(黒褐)に 10YR3/3(暗褐)が5%混じる。	
PT-1674	112 住内	47×64	16		前期土器破片
PT-1675	112 住内	40	25		諸磯式



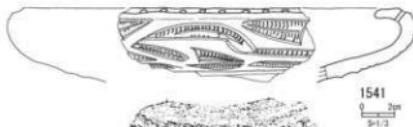
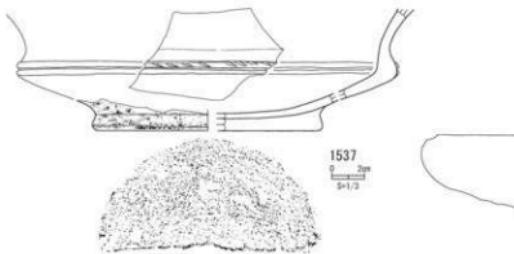
PJ-106エレベーション



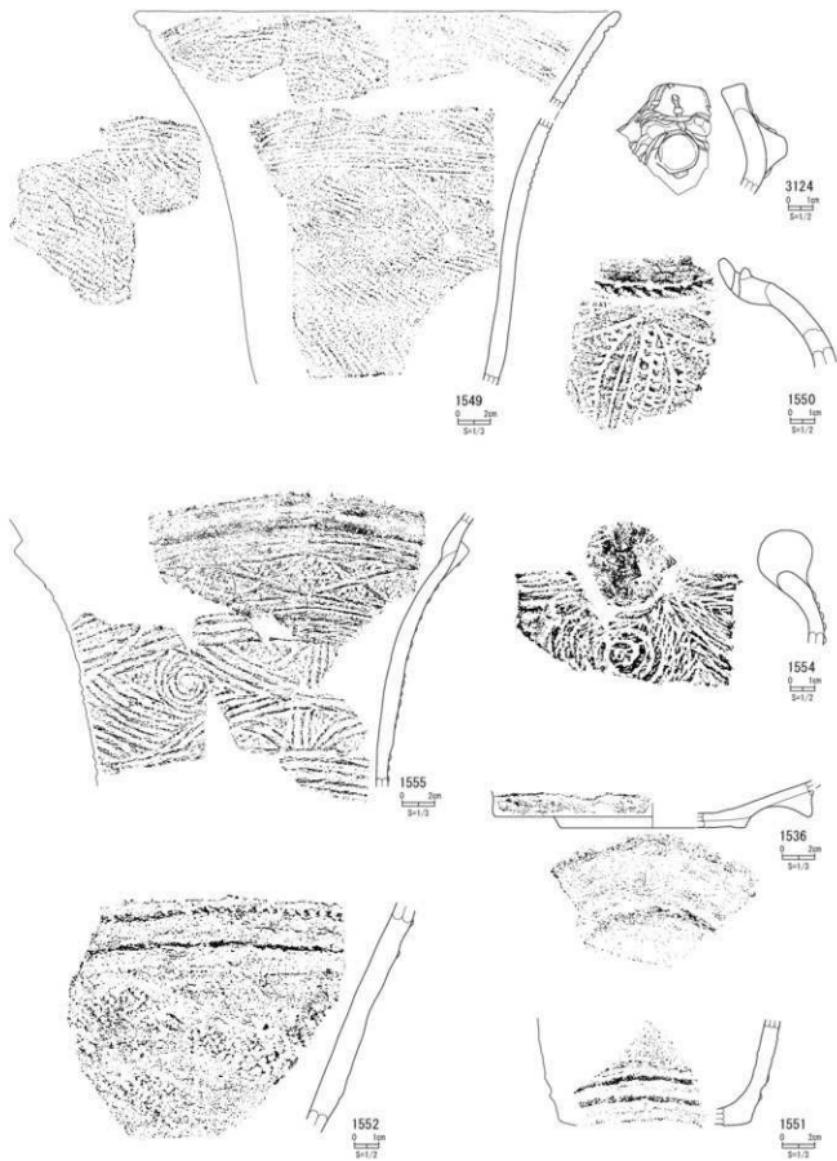
PJ-107エレベーション



PJ106号・PJ107号住居層



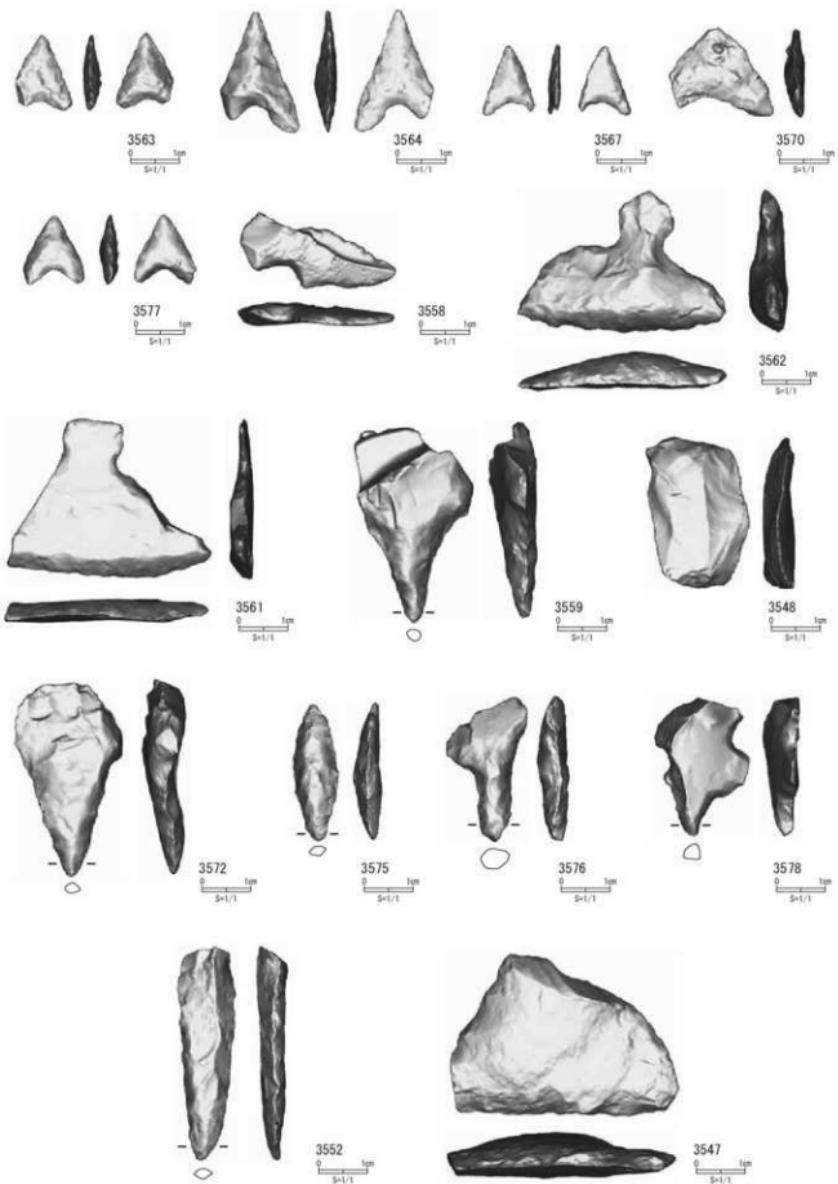
PJ106 号住居住居出土遗物



PJ106 号住居住居出土遗物



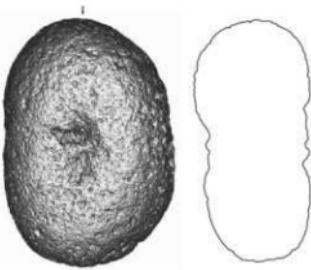
PJ106 号住居住居出土遗物



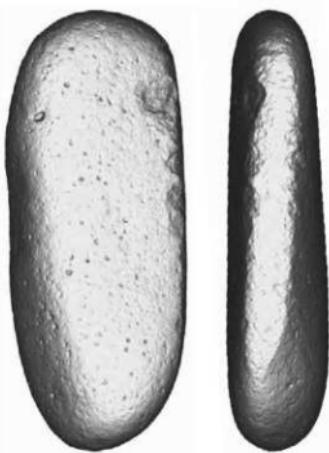
PJ106 号住居住居出土遺物



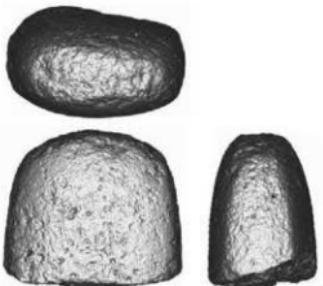
10552
0 1cm
S=1/2



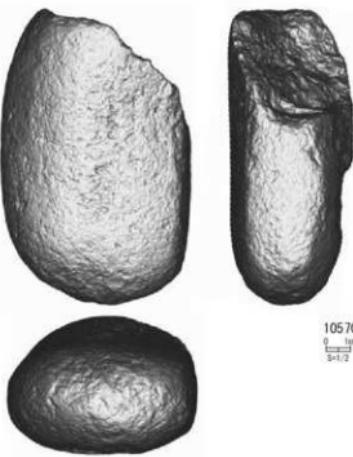
10558
0 1cm
S=1/2



10557
0 1cm
S=1/2

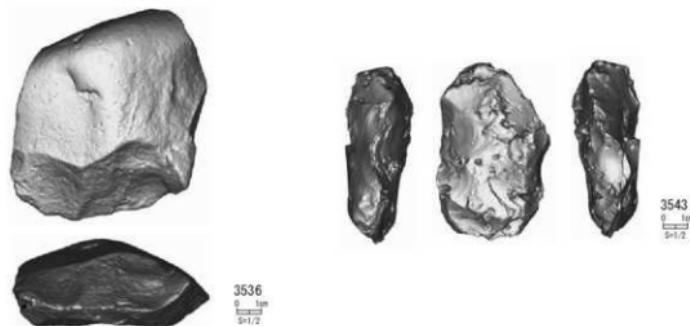
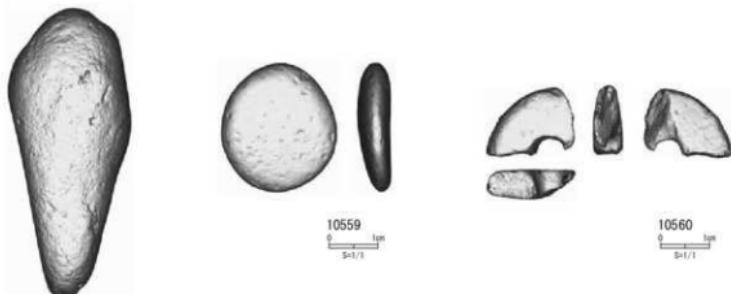


10569
0 1cm
S=1/2



10570
0 1cm
S=1/2

PJ106 号住居住居出土遗物



PJ106 号住居住居出土遺物

PJ106号住居 土器観察表

実測番号	注記	部位	口径 幅	器高 の構 造	底径 の厚さ	重量	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外表面	備考
1535	PJ-106 13	口縁部～脚部	(25.0)			122.0	破片	SYR6-2 SYR6-1	地表付北西隅。床面出土。口縁部陶片。結節浮縫文。兩部に穿孔跡。内面ミガキ。諸縫式
1536	PJ-106 5	脚部～底部			(11.4)	119.0	破片	SYR6-2 SYR6-1	床面から34cm深いて出土。浅鉢底部破片。内面ミガキ。諸縫式
1537	PJ-106 4, 19	脚部～底部			(14.2)	279.0	破片	IOP92-1 SYR6-4	浅鉢底部破片。内面ミガキ。諸縫式
1538	PJ-106 6, 8	口縁部～底部	22.0	6.2	8.8	223.0	1/3	SYR6-6 SYR6-2 SYR6-4	平坦な口縁部に穿孔跡。口縁部と脚部張り出し部に結節浮縫文。内面風化。諸縫式
1539	PJ-106 18, PJ-106	口縁部				365.0	破片	SYR6-3 SYR6-2 SYR6-3 SYR6-4	PJ106北西隅。床面から8cm深いて出土。木の葉文。結節浮縫文。外面上部が9残る。内面ミガキ。諸縫式中段階
1540	PJ-106 14, PJ-106	脚部				259.0	破片	SYR6-3 SYR6-2 SYR6-4	波状口縁部に穿孔跡。脚部と脚部張り出し部に結節浮縫文。内面風化。諸縫式
1541	PJ-106 11	口縁部～脚部	(20.2)			131.0	破片	SYR6-6 SYR6-4	平坦な口縁部に穿孔跡。脚部と脚部張り出し部に結節浮縫文。内面風化。諸縫式中段階
1542	PJ-106 37, 35, PJ-106	脚部				837.0	破片	SYR6-6 SYR6-4	縫隙。結束縫文。内面ミガキ。諸縫式
1543	PJ-106	脚部				26.0	破片	SYR6-6 7 SYR6-4	素形構成の連点状刻文。平行弦線。内面平滑にヨコナヂ。胎土に繊維を少量含む。有尾式
1544	PJ-106	口縁部				18.0	破片	7 SYR6-3 SYR6-3	波状口縁部。波状的に二つ折り状。深波底から下垂するつまんだような仄瓦式。胎土状態の連点状刻文。胎部にかかる多少風化。器壁は4mm前後と薄手で、内面に横筋压痕が強烈に残る。胎土側に木炭塊に接触する。
1545	PJ-106 24, PJ-106 DK-677	口縁部				164.0	破片	7 SYR6-4 7 SYR6-2	波状口縁部。角張り口縁部に三角形の小突起。様子状文と竹管押印文で済用と思われる。脚部點付文が多い。末端邊縫付き縫隙。内面はしないらしいミカギ無し。脚部點付を含む。閑山式
1546	PJ-106	脚部				4.0	破片	SYR6-6 7 SYR6-2	大柄な川彫形をロッキングするように施文。内外面に赤鉄。北白川下層Ⅱa式
1547	PJ-106	脚部				12.0	破片	SYR6-1 7 SYR6-2	凹曲面に刻み屋根。縫隙。内外面に赤鉄。北白川下層Ⅱc式
1548	PJ-106	脚部				15.0	破片	7 SYR6-3 7 SYR6-4	浅鉢か？刻み屋根。窓状付区画文。北白川下層Ⅱc式
1549	PJ-106 17, PJ-106 36, PJ-106	脚部	30.0			826.0	破片	SYR6-4 SYR6-3	木の葉文。縫隙。内面ミガキ。諸縫式新約物
1550	PJ-106	口縁部				50.0	破片	7 SYR6-2 7 SYR6-1	口縁部に穿孔跡。脚部緩傾。削れた木の葉文に爪管押印文。外面上部がミカギ無し。脚部點付式古段階
1551	PJ-106 27	脚部～底部	(12.0)			68.0	破片	SYR6-6 SYR6-5	底部近くに2本の縫隙。縫隙。諸縫式
1552	PJ-106 12	脚部				128.0	破片	7 SYR6-3 SYR6-3	縫隙。内面ミガキ。諸縫式
1553	PJ-106 9, PJ-106, 1-8-10	口縁部～脚部	30.2			317.0	破片	SYR6-5 SYR6-2	口縁部に削れ跡。脚部緩傾。削れた木の葉文に爪管押印文。内面上部がミカギ無し。脚部點付式古段階
1554	PJ-106	口縁部				93.0	破片	SYR6-4 SYR6-3	退化した窓状突起。結節浮縫文。諸縫式中段階
1555	PJ-106 35, PJ- 106, DK-677, DK- 703	脚部				754.0	破片	SYR6-3 SYR6-2	屈曲する頭部。結節浮縫文。内面ミガキ。諸縫式中段階
3123	PJ-106	脚部				33.0	破片	7 SYR6-6 7 SYR6-5	素形構成の連点状刻文と条縫文。横筋付区画文。縫隙。内面ミガキ。胎土に繊維を少量含む。有尾式
3124	PJ-106	口縁部				25.0	破片	SYR6-6 SYR6-5	窓状突起。脚部のある細縫隙。内面ミガキ。諸縫式
3125	PJ-106	土製円盤				37.0	(ほぼ完 形)	7 SYR6-5 SYR6-3	諸縫式土器底部の縫隙を打ち久いた円盤。
3126	PJ-106	脚部				60.0	破片	7 SYR6-6 SYR6-5	脚部のある扁平な階段。内面所復文。胎土に繊維を含まない。下吉井式か

PJ106号住居 石器観察表

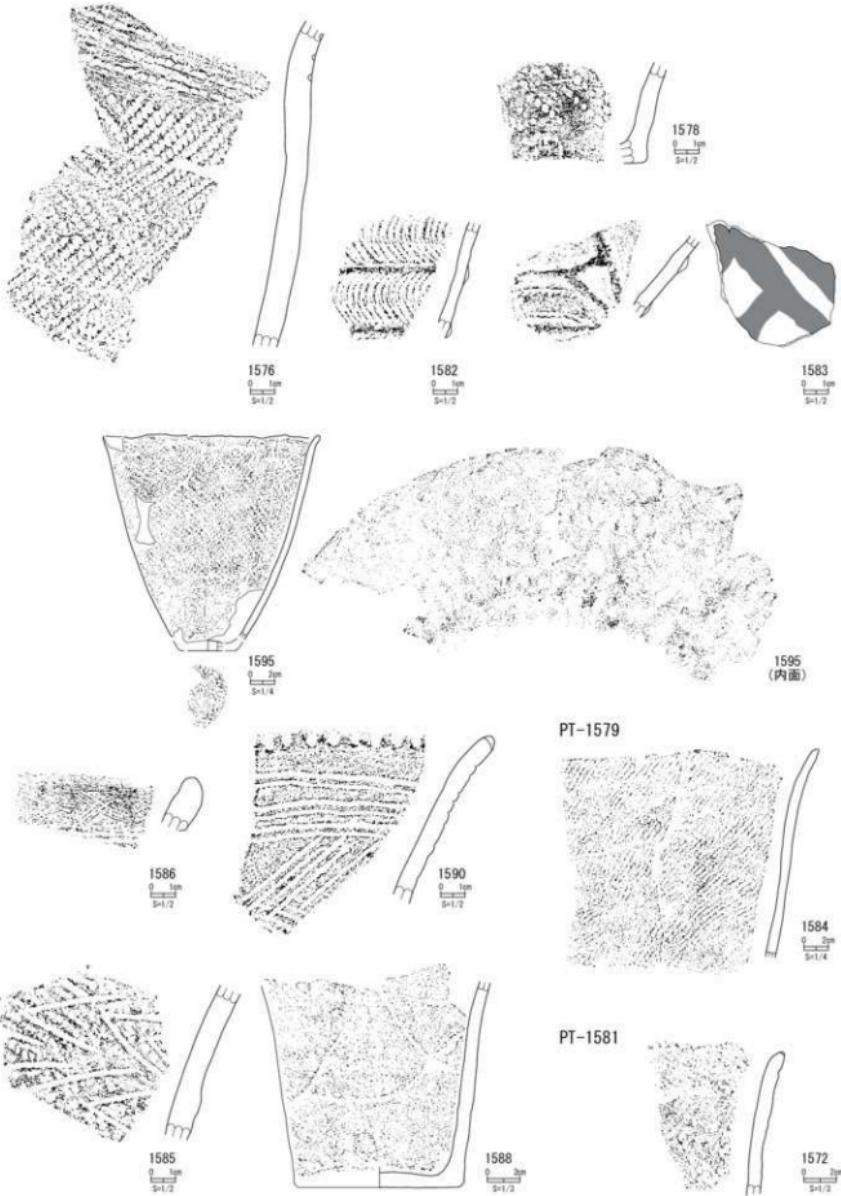
整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	觀察所見
3536	PJ-106	研器	砂岩	3/4	83.0	87.0	35.0	303.70	素面面が残る素材の縫隙に調節剝離。器底が風化し使用痕不明瞭。細粒砂岩
3537	PJ-106	剥離のある 刮削片	粘土質灰岩	1/1	65.0	69.0	17.0	91.00	素面面が残る剥離片の縫隙に剥離。器底が風化し使用痕不明。
3538	PJ-106	剥離のある 刮削片	砂岩	1/1	49.0	80.0	24.0	78.80	素平面彫刻を折りとったような素材の縫隙に微小剥離と摩耗。細粒砂岩
3539	PJ-106	打削石斧	頁岩	1/1	85.0	41.0	7.0	31.20	黄色く風化し使用痕不明
3540	PJ-106	剥離のある 刮削片	頁岩	1/1	48.0	47.0	15.0	38.70	複数のやわらかい剥離片の縫隙に剥離剝離。黄色く風化し使用痕不明
3541	PJ-106	剥離のある 刮削片	泥岩	1/2	50.0	50.0	15.0	50.30	複数剥離片の1辺に面から剥離剝離し、堅密状況。気泡状の穴がある細密な泥岩。施入石片
3542	PJ-106	打削石斧	粘土質灰岩	破片				31.00	基部削離。黄色く風化し使用痕不明
3543	PJ-106 32	石核	黑曜石		48.0	63.0	25.0	80.90	住吉北西角。床面出土。水滴のある縫隙。赤褐色の黒曜石
3544	PJ-106 I	石核	黑曜石		39.0	57.0	19.0	33.70	水滴のある縫隙。赤褐色の黒曜石の透明系黒曜石
3545	PJ-106	剥離のある 刮削片	チャート	3/4	33.0	53.0	12.0	21.10	刮削片の薄い1辺に微小剝離。基部のある灰色チャート
3546	PJ-106	剥離のある 刮削片	チャート	1/1	28.5	25.9	6.9	6.00	台形剥離片の1辺に調整剝離。オリーブ色チャート
3547	PJ-106	削器	珪質泥岩	3/4	33.0	47.0	9.0	14.20	つぶみ部がない刃部のよう形状。片刃。
3548	PJ-106	兩極石器	チャート	1/1	31.0	23.0	6.0	5.20	剝離の両側に衝撃剝離。黒斑のある灰色チャート。
3549	PJ-106 3	原石	黑曜石					66.30	理土出土。水滴のある縫隙。乳白色灰斑部が多数混じる透明系黒曜石
3550	PJ-106	原石	黑曜石					33.60	水滴のある縫隙。乳白色灰斑部が多数混じる透明系黒曜石
3551	PJ-106	原石	石英岩					36.80	白色。半透明の石英岩

PJ106 号住居 石器觀察表

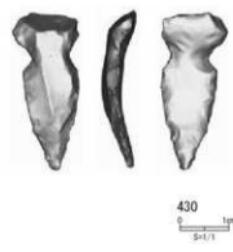
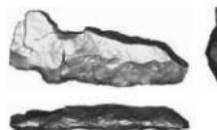
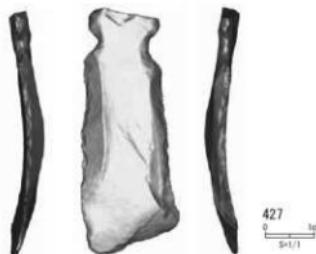
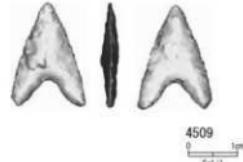
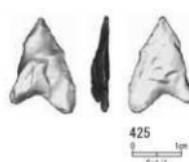
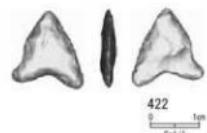
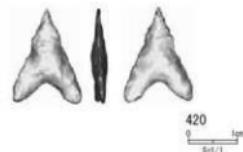
整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	觀察所見
3552	PJ-106	石錐	チャート	1/1	44.0	12.0	6.0	3.50	やや扁平な石錐。鋸削に使用例はみられない。赤色チャート
3553	PJ-106	石錐	珪質頁岩	1/1	25.8	25.6	8.5	4.79	未完成。縁面が残る三角形素材の縁辺を調整し始めた段階。灰色珪質頁岩
3554	PJ-106	原石	黒曜石				19.30		穂の角がややくくなかった原石。透明系黒曜石
3555	PJ-106	剥離のある 剝片	黒曜石				19.20		水滴のある亜角錐面。剥離面の縁辺に微小剝離。赤褐色斑入り黒曜石
3556	PJ-106	原石	黒曜石				19.00		一発コア。錐の角がやや丸みを帯びる。透明系黒曜石
3557	PJ-106	原石	黒曜石				35.70		すりガラス状の縁面。透明系黒曜石
3558	PJ-106	石器	黒曜石	3/4	16.0	32.0	5.0	1.70	ミニチア石器。ズリ跡が残る剥片素材。尖った端部は錐状。透明系黒曜石
3559	PJ-106	石錐	黒曜石	1/1	39.0	23.0	9.0	5.80	未完成。縁面がぼやけていたりガラス状。剥離先端が摩耗。
3560	PJ-106	石錐	真岩	3/4	64.0	28.0	9.0	12.60	石器の小さな複数。錐の先端が摩耗。
3561	PJ-106	石器	真岩	3/4	31.0	40.0	4.0	5.60	片刃。片側削除線。黄色く風化し使用痕不明瞭
3562	PJ-106	石器	チャート	1/1	29.0	43.0	7.0	6.90	片刃。刃間に小剝離。青灰色チャート
3563	PJ-106	石錐	石英岩	3/4	15.7		3.7	(0.49)	基底。両面加工。片面欠損。透明な石英岩
3564	PJ-106	石錐	チャート	3/4	22.7	15.3	4.2	0.86	基底。両面加工。片面欠損。青灰色チャート
3565	PJ-106	石器	黒曜石	3/4	19.8		3.1	(0.53)	基底。両面加工。両端欠損。灰色系のアーブラック黒曜石
3566	PJ-106	石器	黒曜石	1/1	19.9	21.0	6.8	2.04	未完成。基底。両面加工。石器形状ができる段階。石材の端みが残る。赤褐色斑入り黒曜石
3567	PJ-106	石器	黒曜石	1/1	14.4	10.6	2.6	0.24	基底。両面加工。片面に素材面が残る。黒面入り透明系黒曜石
3568	PJ-106	石器	黒曜石	1/2	11.2	2.5	(0.15)	基底。両面加工。基底部分のみが残る。透明系黒曜石	
3569	PJ-106	石器	黒曜石	3/4	19.4		4.0	(0.69)	基底。両面加工。片面欠損。複雑様の透明系黒曜石
3570	PJ-106	石器	黒曜石	3/4	(18.2)		3.9	(1.05)	基底。両面加工。片面欠損。幅広。赤褐色斑入り黒曜石
3571	PJ-106 土 サンプル	石器	黒曜石	1/2			2.2	(0.22)	基底。両面加工。先端。片面欠損。ブルーラック黒曜石
3572	PJ-106	石錐	珪質頁岩	1/1	39.0	22.0	8.0	6.10	錐先端に摩耗。灰色と白色の珪質頁岩。搬入石材
3573	PJ-106	石錐	珪質頁岩	3/4	28.0	8.0	5.0	1.20	錐状の形。錐先端に摩耗。明灰色の珪質頁岩。搬入石材
3574	PJ-106	石器	泥岩	1/2	19.0	28.0	6.0	4.10	片刃。2つみ部と刃部削離を交換した断片。刃間に小剝離と摩耗。灰色泥岩。搬入石材
3575	PJ-106	石錐	珪質頁岩	1/1	29.0	10.0	6.0	1.50	錐状の形。端面が尖る。片側削離がやや摩耗。青灰色珪質頁岩。搬入石材
3576	PJ-106	石錐	黒曜石	1/1	17.0	6.0	1.90		錐先端が丸め。透明系黒曜石
3577	PJ-106	石器	黒曜石	1/1	14.6	12.8	3.6	0.47	基底。両面加工。片面に素材面が残る。
3578	PJ-106	石錐	黒曜石	1/1	29.0	20.0	7.0	2.90	不整形剥片の一辺に錐状を作出。先端欠損。透明系黒曜石
3579	PJ-106	石器	黒曜石	1/1	19.8	19.3	4.4	1.71	未完成。再接合方法で作成した薄い剥片素材。三角形状をつくる段階。一辺が削除。黒筋のある透明系黒曜石
3580	PJ-106	石器	黒曜石	~	18.2		2.0	(0.29)	基底。縫合加工。片面欠損。薄い剥片の縁辺のみを調整。透明系黒曜石
3581	PJ-106	石器	黒曜石	1/1	19.2	13.0	2.7	0.58	未完成。薄い剥片素材。縁辺のみを調整。三角形形状をつくる段階。透明系黒曜石
3582	PJ-106	石器	黒曜石	1/1				1.80	未完成。剥離が残る薄い剥片素材。縁辺のみを調整。三角形形状をつくる段階。透明系黒曜石
3583	PJ-106	石器	黒曜石	1/1	24.1	16.3	4.4	1.22	未完成。尖端がある剥片の縁辺を調整。三角形状をつくる段階。赤褐色斑入り黒曜石
3584	PJ-106	石器	黒曜石	3/4			1.8	(0.15)	基底。長軸。両面加工。先端。片面欠損。透明系黒曜石
1052	PJ-106	磨石類	安山岩類	1/1	108.0	67.0	54.0	405	不整橢円形。広い2面に摩耗と剥離。細粒。緻密な安山岩
1053	PJ-106	円錐	安山岩類	3/4	52.0	47.0	31.0	68	やや厚い円錐形。縁辺のみを調整。細粒の安山岩
1054	PJ-106	磨石類	砂岩類	1/1	103.0	70.0	42.0	441	不整橢円形。広く平坦な1面が摩耗。片面に剥離と摩耗。緻密な砂岩
1055	PJ-106	ハンマー	花崗岩類	1/1	66.0	56.0	39.0	266	被熱しやすい割れ。変色。器面に風化し使用痕が確認だが、平坦な面は手すり状に摩耗。瞬間的で脆い
1056	PJ-106 33	ハンマー	砂岩類	1/1	119.0	52.0	33.0	276	砂岩状の形。長軸端部に弱い剥離と削れ。細粒。緻密な砂岩
1057	PJ-106	磨石類	砂岩類	1/1	48.0	181.0	73.0	909	側面1面が平坦で稜鏡状。広い2面は手すり状に摩耗。細粒砂岩
1058	PJ-106 23	磨石類	安山岩類	1/1	98.0	59.0	49.0	418	側面円形。広い2面が摩耗。中に削離と集中の剥離がある。側面にも削離による深い凹み。多孔質安山岩
1059	PJ-106	研磨具	砂岩類	1/1	27.0	26.0	7.0	5	小さな平行円筒形。器面が摩耗。被熱し変色
1060	PJ-106 10	砍狀工具	滑石	破片	(19.0)	(14.0)	7.0	2	地盤均整器。床面から4cm引いて出土。丸棒と切り込み部断面に削離痕。べっ甲色の滑石
1061	PJ-106	台石	安山岩類	破片	137.0	138.0	106.0	2.933	平坦な面が摩耗。表面はやや凸面で多く摩耗。削れ面も摩耗し、角が丸みを帯びる。研磨面でも使用例。
1063	PJ-106	磨製石斧	緑色岩類	破片			12		平滑に研磨した部分と削離整形のままの部分がある。ごく小さな破片
1064	PJ-106	磨製石斧	緑色岩類	破片			12		平滑に研磨した部分と削離整形のままの部分がある。ごく小さな破片
1065	PJ-106	磨石類	安山岩類	破片			116		円形。剥がれるようになり。削離面がやや摩耗。削離面集中の深い凹み。削れ面1ヶ所ソノママー状に陥れている。多孔質安山岩
1066	PJ-106	磨石類	砂岩類	破片			156		被熱しやすい。ひび割れ。器面に風化し使用痕が確認。花崗岩質砂岩
1067	PJ-106	ハンマー	砂岩類	破片			45		削離面の形状変化。器面が手すり状に摩耗。削離面1點が削離されてしまった。多孔質砂岩
1068	PJ-106 22	磨石類	安山岩類	1/2			406		円形円弧。平坦な1面が削離面に摩耗。中心に浅い削離痕。側面2面が磨擦石状。長軸端面に削離痕。
1069	PJ-106	磨石類	安山岩類	破片			299		丸柱状。底面から4cm引いて出土。石柱形。広い2面が削離。中心に浅い削離痕。側面1面が磨擦石状。長軸端面に削離痕。
1070	PJ-106 21	磨石類	安山岩類	1/2			690		丸柱状。底面から4cm引いて出土。石柱形。広い2面が削離。中心に浅い削離痕。側面1面が磨擦石状。長軸端面に削離痕。



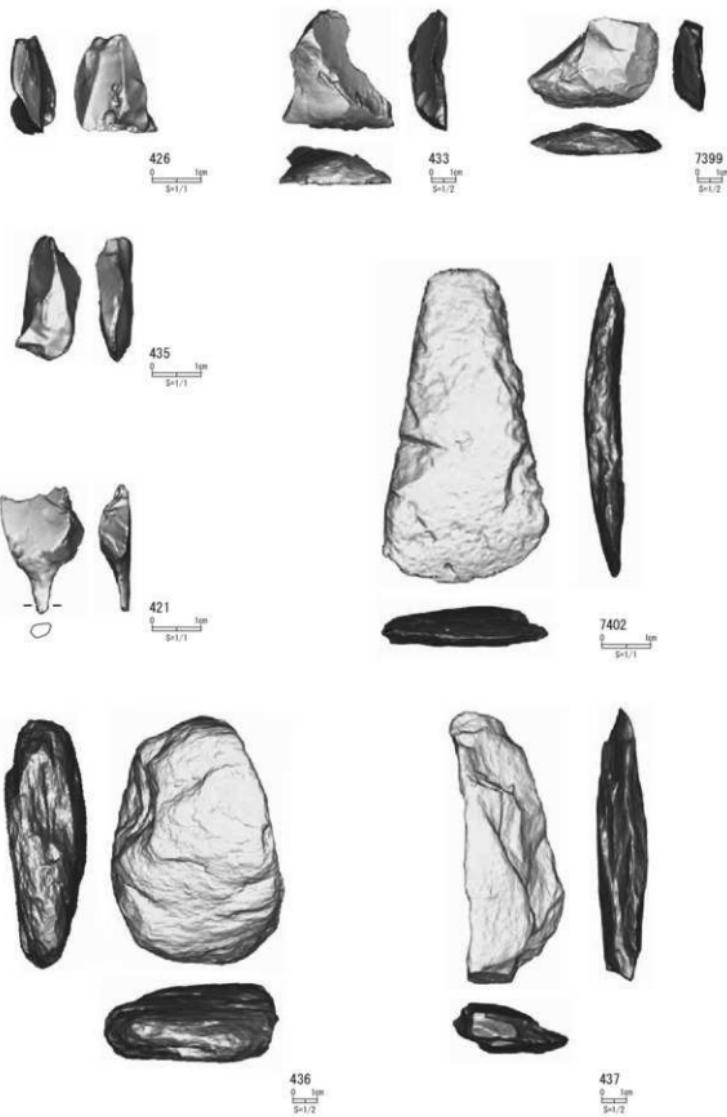
PJ107 号住居出土遺物



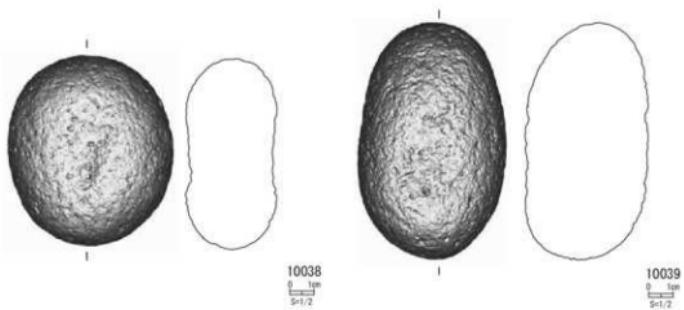
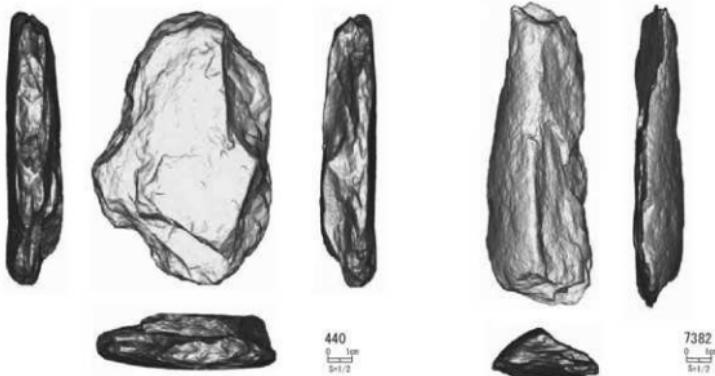
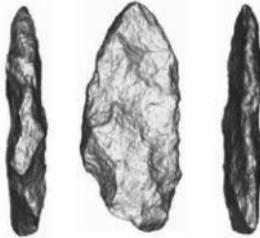
PJ107 号住居出土遺物



PJ107 号住居出土遺物



PJ107 号住居出土遺物



PJ107 号住居出土遺物



11168
0 2cm
S=1/4

10048
0 1cm
S=1/2



10047
0 2cm
S=1/2

10050
0 1cm
S=1/1



7398
0 1cm
S=1/1

PJ107号住居 土器観察表

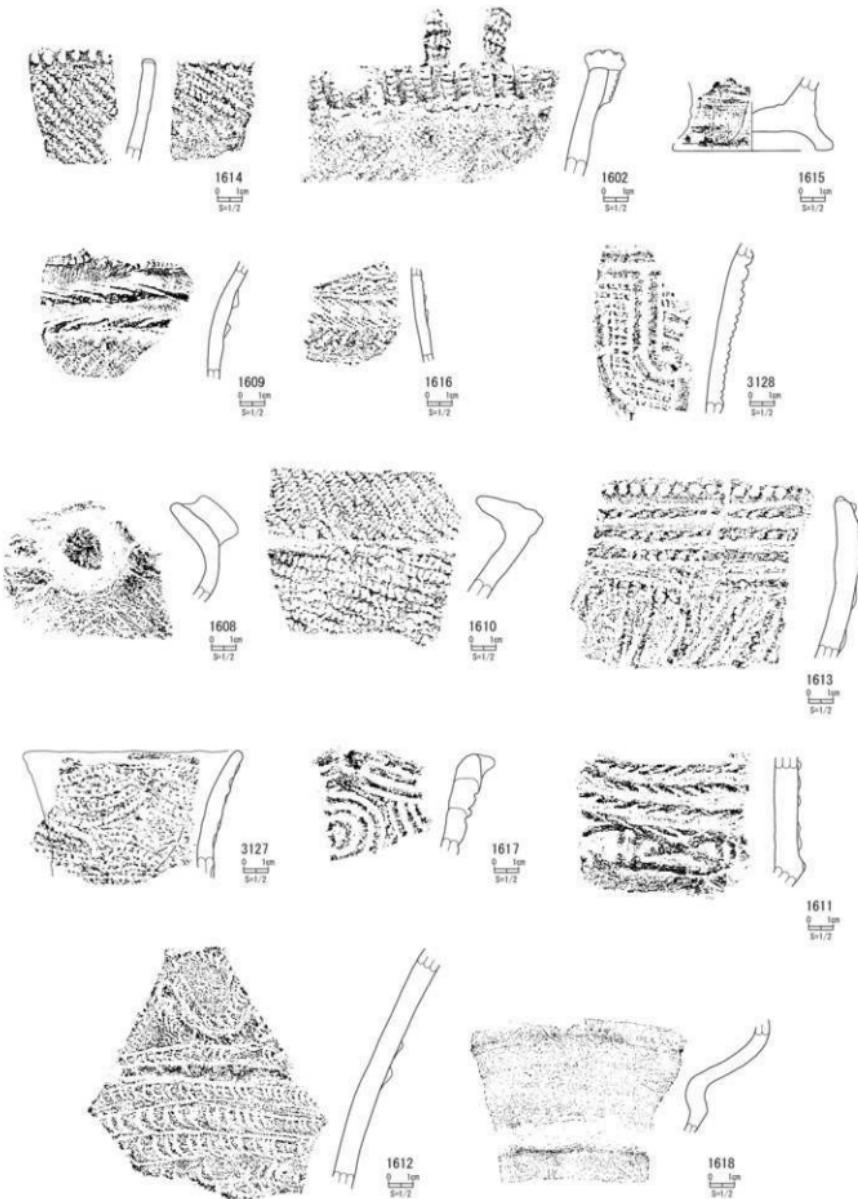
実測番号	注記	部位	口径 cm 縦	器高 cm 横	底径 cm 厚さ	重量	残存度	出土色調 上段:裏面 下段:外面	備考
1567	PJ-107	口縁部				22.0	破片	7.5H7/6 7.5H7/5	内外面整形の凹凸がやや残るヨコナデ。胎土に繊維を含む。中越式
1568	PJ-107	口縁部				22.0	破片	SYRA/4 SYR3/3	波状口縁。口唇部に剥離。剥離箇所が底面部から垂下。格子目文。内面に指頭圧痕がやや残るヨコナデ。胎土に繊維を含まない。中越式
1569	PJ-107	口縁部				52.0	破片	7.5H6/4 SYRA/3	内外面に指頭圧痕がやや残るヨコナデ。胎土に繊維を含む。中越式
1570	PJ-107	口縁部				13.0	破片	SYR5/6 7.5H6/5	内外面に複雑格子目文。ヨコナデ。胎土に繊維を含む。中越式
1572	PT-1581	口縁部				52.0	破片	SYR6/6 SYR5/6	PT1581 出土。羽状純続。内面ヨコナデ。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
1573	PJ-107	口縁部				22.0	破片	SYR6/6 7.5H8/3	波状口縁。口唇部に剥離。末梢埋付純文。内面指頭圧痕がやや残るヨコナデ。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
1574	PJ-107	胴部				21.0	破片	SYRA/3 SYR5/4	外腹に接合部が黒擦に残る。内面ヨコナデ。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
1575	IG-7076	口縁部				21.0	破片	SYR5/4 7.5H6/4	櫛状工具の剥離突文。条絵文。内面ヨコナデ。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
1576	PJ-107, PJ-107 周溝	胴部				19.0	破片	7.5H7/6 7.5H7/4	通底状剥離突文。羽状純文。内面平滑にヨコナデ。胎土に繊維を含まない。有輪式
1578	PJ-107	肩部～底部				20.0	破片	SYR8/1 7.5H8/6	純文、弦文。内面指頭圧痕がやや残るヨコナデ。胎土に繊維を含まない。堂之上2式
1579	IG-7076	胴部				13.0	破片	7.5H7/6 7.5H7/6	粒状する条絵文。内面指頭圧痕が残るナデ。胎土に繊維を含まない。中越式
1581	IG-7076	胴部				22.0	破片	7.5H6/6 7.5H5/4	複雑格子目文。剥離壓痕。胎土に繊維を含む。中越式併行
1582	IG-7076	胴部				16.0	破片	7.5H5/3 7.5H4/3	PT-1579 内のIG-96 出土破片と同一個体。大柄の彫文形。ロッキ状に施文。北白川下第II式
1583	IG-7076	胴部				17.0	破片	7.5H8/4 7.5H2/2	隆起、爪跡押引き。内外面に赤彩。内面は赤彩で格子状の文様を描く。内面ミガキ。器壁も薄手。胎土に繊維を含まない。北白川下第II式併行
1584	PT-1579	口縁部～底部				37.0	破片	SYRA/6 SYR4/4	PT1579 出土。純文。内外面に接合部がやや残る。内面指頭圧痕。胎土に繊維を含まない。新道堂2式
1585	PJ-107	胴部				58.0	破片	SYRA/4 7.5H8/4	くずれた木の束文と純文。内面ミガキ。諸種2式
1586	PJ-107	口縁部				20.0	破片	SYRA/6 SYR4/4	竹管の交差文。平行沈線。内面ヨコナデミガキ。諸種式
1588	PJ-107	肩部～底部			10.5	361.0	破片	7.5H4/3 2.5H4/6	外腹タテナデミガキ。内面風化。諸種式
1590	IG-7076	口縁部				51.0	破片	SYR6/6 2.5H4/8	口唇部剥離。竹管平行沈線文。内面ミガキ。諸種2式
1592	PJ-107 8, PJ-107 7, PJ-107 1-6-13, 1-6-18	口縁部～底部	25.4	26.0		945.0	破片	SYRA/4 SYR3/4	内外面に整形の凹凸が残る。外腹タテナデ。内面ヨコナデ。丸底。胎土に繊維を含む。中越式
1595	PJ-107 1, PJ-107 2, PJ-107	口縁部～底部	17.6	17.9	(4.6)	439.0	2/3	7.5H4/3 7.5H4/3	西壁泊い。PT1579 南脇。床面から7cm寄りて出土。口縁部に輪郭み張が明確に残る。斜絵文。底面にも純文施文。内面指頭圧痕が頗るに残る。胎土に繊維を含まない。新道堂2式

PJ107号住居 石器観察表

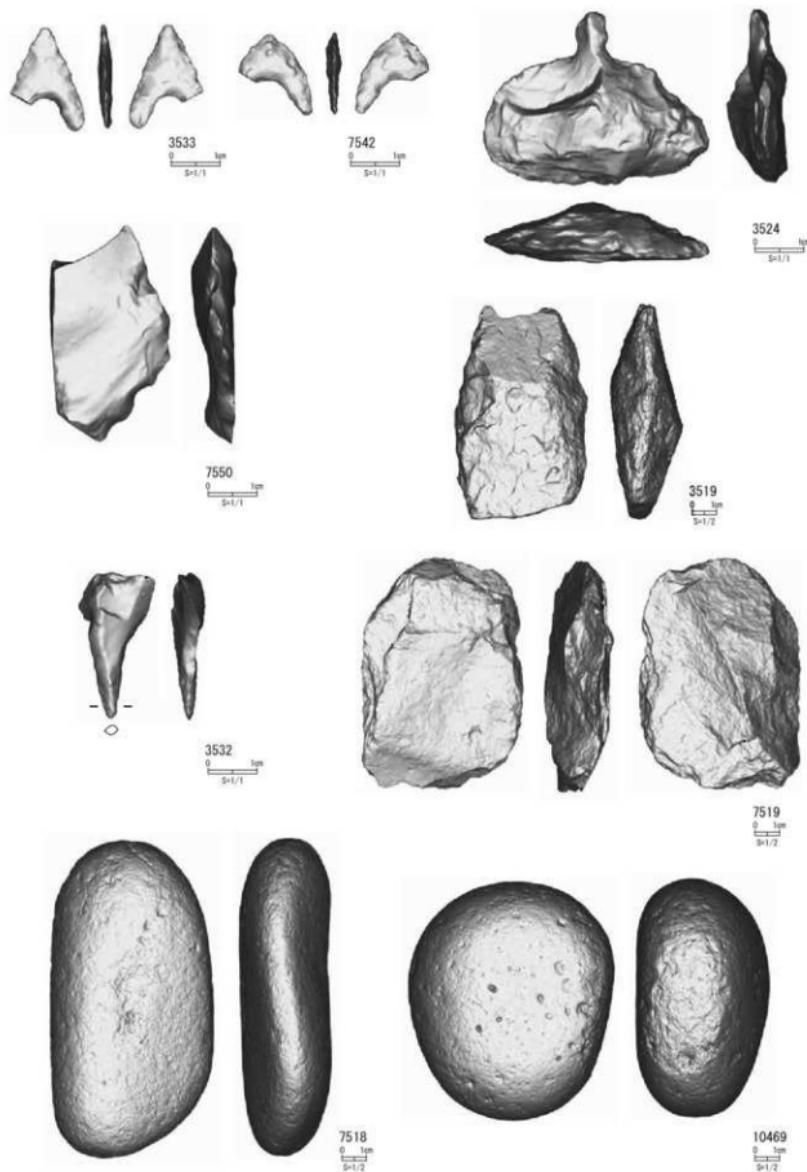
整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	觀察所見
0416	PJ-107 土サンプル2	石器	黒曜石	破片	(13.5)	9.2	2.9	(0.22)	凹基、両面加工。片側部のみの破片。葛邊状透明黒曜石
0417	PJ-107	石器	黒曜石	1/1	16.3	14.4	2.9	0.39	凹基、両面加工。灰色筋のある葛邊状透明黒曜石
0418	PJ-107	石器	黒曜石	1/1	20.9	16.9	4.6	0.92	凹基、両面加工。素材の厚みがやや残る。黒斑入り透明系黒曜石
0419	PJ-107	石器	黒曜石	1/1	28.9	17.0	4.4	1.11	未完成品。片側端部が削離して折損。製作を複数段階としたが敗作。灰色筋のある葛邊状透明黒曜石
0420	PJ-107	石器	黒曜石	1/1	20.5	14.6	3.4	0.48	凹基、両面加工。先端が欠けている。透明黒曜石
0421	PJ-107	石器	黒曜石	3/4	26.0	17.0	5.0	1.80	縦縫合端欠損。黑色の筋がある透明黒曜石
0422	PJ-107	石器	黒曜石	1/1	15.5	14.3	3.1	0.47	凹基、両面加工。透明黒曜石
0423	PJ-107	石器	黒曜石	3/4	16.3		2.8	(0.24)	凹基、両面加工。片側欠損。ていねいなつくり。黒斑入り透明黒曜石
0424	PJ-107	石器	黒曜石	1/1	15.5		4.0	(0.58)	凹基、両面加工。片側端欠損。素材の厚みがやや残る。骨縫調整が重い。先端端部が流れ。製作途上で放棄。石錐に通用か。葛邊状透明黒曜石
0425	PJ-107	石器	黒曜石	3/4	20.4	(13.9)	3.7	(0.54)	凹基、両面加工。片側端欠損。赤褐色斑入り透明黒曜石
0426	PJ-107	両縁石器	黒曜石	1/1	20.0	17.0	8.0	2.30	薄い片側の端部に衝撃剝離。葛邊状透明黒曜石

PJ107 号住居 石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	調査所見
0427	PJ-107	石匙	珪質頁岩	1/1	20.0	50.0	3.0	4.70	短長の器体。舌側縫に片刃の刃部。刃部鋸刃、剥離面端がやや摩耗。灰白色珪質頁岩。搬入石材
0428	PJ-107	石匙	チャート	1/2	28.0	33.0	8.0	8.10	器体半分が欠損。両側縫に片刃の刃部、黒筋のある明灰色チャート
0429	PJ-107	石匙	珪質頁岩	1/1	31.0	75.0	11.0	23.90	刃部は両刃。反対側縫に縦溝のまま。白筋ある青灰色珪質頁岩
0430	PJ-107	石匙	黒曜石	1/1	34.0	14.0	4.0	2.00	ミニチュア石匙。溝曲した剥片素材。削錐二辺に刃部調整。亂通状半透明黒曜石
0431	PJ-107	石匙	黒曜石	1/1	18.4	18.5	5.8	1.80	未完成品。剥片素材。二辺に両面から調整剝離を始めた段階。黒筋のある透明黒曜石
0432	PJ-107	原石	黒曜石					16.00	黒化剥離面状の原石。黒筋のある透明系黒曜石
0433	PJ-107	削錐	珪質頁岩	3/4	50.0	46.0	13.0	26.00	器形状刃部。チップ部分に微小剥離とガジリ。刃部がやや摩耗。楔刃削器。白筋のある灰白色珪質頁岩。
0434	PJ-107	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				0.70	調整剝離のある小剥片。透明系黒曜石
0435	PJ-107	四極石器	黒曜石	1/1	25.0	11.0	7.0	1.90	剥片の両端に衝撃剝離。透明黒曜石
0436	PJ-107	打製石斧	頁岩	3/4	101.0	69.0	31.0	293.30	片側削離が節理面で剥離。器体は薄い。側縫は両端打形。黄色く風化し使用痕不明
0437	PJ-107 11	打製石斧	頁岩	1/2	115.0	45.0	20.0	97.10	PJ15万。床塗出土。片側削離が折損。刃部一部折損。器体は薄手。側縫は両端打形によらない複数。黄色く風化し使用痕不明
0438	PJ-107	打製石斧	砂岩	3/4	77.0	37.0	13.0	48.60	刃部欠損。側縫調整は両端打形によらない複数。黄色く風化し使用痕不明
0439	PJ-107	打製石斧	砂岩	1/1	96.0	42.0	15.0	68.20	刃部欠損。側縫調整は両端打形か。搬入砂岩
0440	PJ-107 18	打製石斧	頁岩	3/4	112.0	73.0	22.0	236.70	兩端周縫剥離。床塗出土。刃部一部欠損。円錐面が残る薄手剥片素材。側縫は両端打形によらない複数。黄色く風化し使用痕不明
0641	PJ-107	石匙	黒曜石	破片				0.79	未完成品。剥片素材。縁辺に調整剝離を始めた段階。透明黒曜石
4501	PT-1539	扁平盤	安山岩	1/1	121.0	118.0	15.0	269.60	PT1539出土。薄い鉄平石の1辺に縱縫線状の剥離とガジリ
4507	PT-1569	石匙	珪質頁岩	3/4	34.0	48.0	5.0	7.60	PT1569出土。片刃。側縫に欠損。白色系の灰白色珪質頁岩。搬入石材
4508	PT-1711	石匙	黒曜石	1/1	20.5	13.6	2.5	0.41	PT1711出土。凹底。両面加工。黒曜石入り透明黒曜石
4509	PT-1570	石匙	黒曜石	1/1	21.4	15.4	3.6	0.67	PT1570出土。凹底。両面加工。器形がリガラク式。被破。黒筋のある透明系黒曜石
7357	I0-1299	石匙	黒曜石	1/1	24.3	17.4	3.9	1.39	I0-1299出土。薄い剥片素材の縁辺に調整剝離を始めた段階。黒筋のある透明黒曜石
7358	I0-1299	石匙	黒曜石	3/4	22.3	12.7	5.2	0.87	I0-1299出土。刃部。側縫に欠損。白色系の灰白色珪質頁岩。搬入石材
7362	I0-6482	打製石斧	砂岩	1/1	124.0	44.0	20.0	115.00	墨田砂岩が残る剥片素材。片側削離は無調整。黄色く風化し使用痕不明
7396	I0-7076	剥離のある剥片	チャート	1/1	41.0	38.0	13.0	17.30	三角形の器体の2辺に縱縫線状の剥離。1辺に微小剝離。明灰色チャート
7399	I0-7076	削器	珪質頁岩	1/1	38.0	57.0	13.0	24.40	剥片の1辺に搔扒状。片刃の刃部。白筋のある青灰色珪質頁岩
7400	I0-7076	打製石斧	頁岩	破片	49.0	55.0	15.0	52.30	器体中央で纵縫線の剥離。側縫は両端打形によらない複数縫線状の調整剝離。側縫削離か。黄色く風化し使用痕不明
7401	I0-7076	打製石斧	頁岩	破片	57.0	44.0	14.0	46.40	刃部折損。側縫は両端打形によらない複数縫線。黄色く風化し使用痕不明
7402	I0-7076	打製石斧	砂岩	1/1	66.0	35.0	7.0	19.60	ミニチュア品のような小剝。両側縫は両端打形か。刃部は素刃。未調整。細粒砂岩
7403	I0-7076	打製石斧	頁岩	破片		36.8	18.0	41.30	平手。直彎形。側縫は両端打形。基部削離部。頭部斜面式刃部打形斧片
10019	PJ-106 26	台石	安山岩類	破片	360.0	275.0	85.0	9.250	理土下で立った状態で出土。扁平亜角礫。平坦な2面は凹凸があるが平滑に摩耗。側縫も摩耗。自然な水垢か?
10038	PJ-107 4	磨石類	安山岩類	1/1	86.0	67.0	41.0	289	PT1604出土。床面から10cm深いで出土。棒円型。2面に斜打による凹凸、弱い摩耗。片側削離かすかに斜打形。多孔質安山岩
10039	PJ-107 5	磨石類	安山岩類	1/1	98.0	62.0	55.0	377	PT1604出土。床面から14cm深いで出土。棒円型。2面に斜打による浅い凹凸が2ヶ所づつ認められる。側縫に斜打による凹凸。平坦面。長軸側面に斜打痕。多孔質安山岩
10041	PJ-107 3	磨石類	安山岩類	1/2	(62.0)	58.0	40.0	135	PT165西壁。床面出土。石鍛錬。店い。2面に斜打集中による深い凹みが長軸方向に並ぶ。両側縫、長軸端面にも斜打痕。多孔質安山岩
10043	PJ-107	ハンマー	安山岩類	1/1	95.0	25.0	31.0	205	長軸端面に斜打痕。非多孔質安山岩
10044	PJ-107	磨石類	安山岩類	1/1	56.0	48.0	27.0	92	小さな斜打痕。平坦な1面が磨耗。黒色の付着物が少量あり。非多孔質安山岩
10045	PJ-107	円硆	安山岩類	1/1	45.0	33.0	24.0	44	圓形の円硆。目立った使用痕は認められない。
10047	PJ-107 14	ハンマー	砂岩類	3/4	(126.0)	48.0	39.0	291	PT165西壁。床面から14cm深いで出土。棒円型。2面に斜打による凹凸。平坦面。長軸側面に斜打痕。斜打痕間に斜打による平坦面。細粒砂岩
10048	PJ-107	円硆	砂岩類	1/1	65.0	77.0	17.0	117	扁平な円硆。広い2面はすずれ刃で弱く摩耗。側縫に弱い斜打痕。ハンマーのように使用か。細粒砂岩
10049	PJ-107	磨石類	安山岩類	1/2				352	橢円型。広い2面と片面が平坦。片面は凸面。凸面は摩耗。両面とも斜打集中の深い凹み。長軸端面にも斜打痕。やや多孔質安山岩
10050	PJ-107 13	磨製石斧	緑色岩類	破片				25	PT170西壁。床面出土。磨製石斧刃部破片。刃部刃とガジリ
10051	PJ-107	ハンマー	砂岩類	1/2				95	神狀亞角礫素材。長軸側面に斜打痕。広い面はすずれ刃で摩耗。花崗岩質砂岩
10052	PJ-107	台石	安山岩類	破片				472	扁平円錐形。平面な1面が強烈。反対面は側縫や摩耗。斜打痕がややあれ。削れ面を打ち落とした跡跡あり。研削痕にも使用か。やや多孔質安山岩
10053	PJ-107	円硆	砂岩類	破片				39	薄い円硆。前面が平滑に摩耗。細粒。微密な砂岩
11168	PT-1576	磨石類	安山岩類	3/4	(149.0)	90.0	78.0	1,637	PT165出土。薄い棒円形。広い2面は磨耗と斜打痕。側縫1面が暗赤色



PJ112 号住居出土遗物



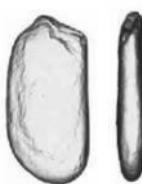
PJ112号住居出土遺物



10470
0 1cm
5:1/2



11170
0 1cm
5:1/2



7526
0 1cm
5:1/2



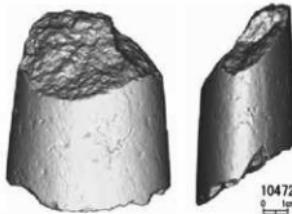
10477
0 1cm
5:1/2



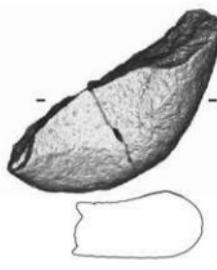
11169
0 1cm
5:1/2



10475
0 1cm
5:1/2



10472
0 1cm
5:1/2



10478
0 2cm
5:1/4



3526
0 1cm
5:1/1

PJ112 号住居出土遺物

PJ112号住居 土器観察表

実測番号	注記	部位	口径 cm 縦	器高 cm 横	底径 cm 厚さ	重量	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
1602	I6-7063	口縁部				95.0	破片	7.5/87/6 7.5/87/4	肥厚口縁に粗面状工具の刺突文。口唇部に小突起。神ノ木式
1608	PJ-112	口縁部				30.0	破片	7.5/86/6 7.5/85/6	波状口縁。退化した腹面突起、平行弦線。諸縫b式中段階
1609	PJ-112	腹部				25.0	破片	5/85.6 5/85.6	竹管押引き文、刻み隆線、縄文。外面赤彩、内面ミガキ。北白川下層IIc式併行
1610	PJ-112	口縁部				64.0	破片	5/84.6 5/84.4	内面ミガキ。諸縫b式
1611	PJ-112	腹部				73.0	破片	7.5/82/1 5/84.4	粘質浮線文、細理線、内面ミガキ。諸縫b式中段階
1612	PJ-112 12, PJ-112, I6-7043	腹部				148.0	破片	5/85.6 7.5/86.3	幅広な爪形押引文。細隆線、内面ミガキ。諸縫b式
1613	PJ-112	口縁部				104.0	破片	5/85.6 5/85.6	口唇部に刻み、細隆線、縄文。内面ミガキ。諸縫b式
1614	PJ-112	口縁部				17.0	破片	5/85.4 5/85.4	口唇部に刻み、外面部と口縁部内面に縄文。内面指頭压痕がやや残る。胎土に繊維を含まない。神ノ木式
1615	PJ-112 5	腹部～ 底部			6.5	64.0	破片	7.5/86/4 7.5/87/6	高台付き底部、胎土に繊維を含まない。神ノ木式
1616	PJ-112	腹部				12.0	破片	7.5/84/2 7.5/85/3	刻み隆線、縄文。内面ミガキ。北白川下層IIc式併行
1617	PJ-112	口縁部				25.0	破片	5/85.6 5/85.6	小さな円形貼付文。深い平行沈線。内面整合痕が残るナデ調整。諸縫b式
1618	PJ-112 1	腹部				176.0	破片	2.5/84/6 2.5/84/6	浅脚破片。内外面ミガキ。諸縫b式
3127	PJ-112	口縁部	9.0			32.0	破片	7.5/85/4 10/82/2	狭い爪形押引文、木の葉文？ 内面整形時の凹凸が残るヨコナナ、諸縫b式
3128	I6-7043	腹部				27.0	破片	7.5/84/2 7.5/84/3	竹管でなでた疑似隆線と細かな次線格子目文の充填。内面でいよいよミガキ、削跡式か？

PJ112号住居 石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	觀察所見
3518	PJ-112 13	剝離のある 剥片	林シラカバ	1/1	70.0	94.0	26.0	203.00	範大な剝片の薄い壁邊2辺に調整剝離。黄色く風化し使用痕不明
3519	PJ-112	打製石斧	花崗岩類	3/4	89.0	56.0	28.0	160.50	基部と刃部欠損。刃側縁は四種打法による流れ状の調整
3520	PJ-112	打製石斧	林シラカバ	破片				36.00	基部破片。短冊形、両極打法。前期後半から中期の打製石斧か
3521	PJ-112	打製石斧	林シラカバ	3/4	87.0	41.0	11.0	46.00	刃部欠損。短冊形、両極打法。前期後半から中期の打製石斧か
3522	PJ-112	打製石斧	真岩	破片	69.0	42.0	10.0	32.30	刃側破片。短冊形、両極打法。前期後半から中期の打製石斧か。黄色く風化し使用痕不明
3523	PJ-112	打製石斧	林シラカバ	破片				19.80	基部破片。短冊形、両極打法。前期後半から中期の打製石斧か
3524	PJ-112	石器	チャート	1/1	35.0	46.0	11.0	13.70	刃部は両面調整。赤褐色と青灰色斑のチャート
3525	PJ-112	打製石斧	片岩類	破片				44.40	基部破片。剥離するように削る。短冊形、両極打法か。器面が摩耗
3526	PJ-112	剝離のある 剥片	チャート	1/1	41.0	29.0	9.0	12.00	確認が残る材料を両面調整。石器未成品か。暗灰色チャート
3527	PJ-112	原石	黒曜石					24.70	風化剝離面状の自然面、角擦
3528	PJ-112	打製石斧	砂岩類	破片				9.10	刃側の断片。研磨面が残る。細粒砂岩
3529	PJ-112	打製石斧	林シラカバ	破片				9.50	基部、刃部欠損。小形、短冊形。被熱して変色
3530	PJ-112	原石	黒曜石					5.10	ズリ。研磨の跡を透明系黒曜石
3531	PJ-112	原石	黒曜石					5.60	板状ズリ、漆黒黒曜石
3532	PJ-112	石錐	黒曜石	1/1	30.0	15.0	6.0	1.70	椎部縁辺に流れ状の微小剝離。葛湯状半透明黒曜石
3533	PJ-112	石錐	黒曜石	3/4	(20.8)			2.9 (0.55)	凹形、両面加工。先端、片側欠損。漆黒黒曜石
3534	PJ-112	石錐	黒曜石	3/4				3.7 (0.64)	凹形、両面加工。先端、片側欠損。透明黒曜石
3535	PJ-112	石錐	黒曜石	3/4	17.7	11.6	3.1	0.58	未成品。三角形形状ができる段階。葛湯状透明黒曜石
7305	I6-6493	石錐	黒曜石	3/4	19.9	17.6	3.1	0.71	未成品。凹形、両面加工、先端欠損。最終調整段階。透明黒曜石
7518	I6-829	磨石類	砂岩類	1/1	130.0	67.0	39.0	505	扁平橢円形。広い2面が摩耗。敲打集中の凹み。側面2面が磨削状。細粒砂岩
7519	I6-7041	打製石斧	砂泥交互	3/4	93.0	66.0	23.0	164.20	亞圓錐面が残る剝片素材。両極打法によらない成形

PJ112号住居 石器観察表

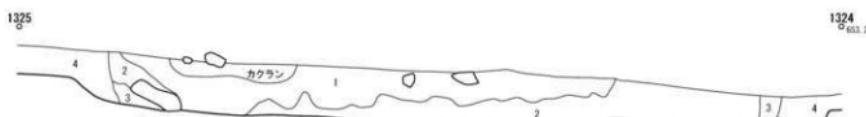
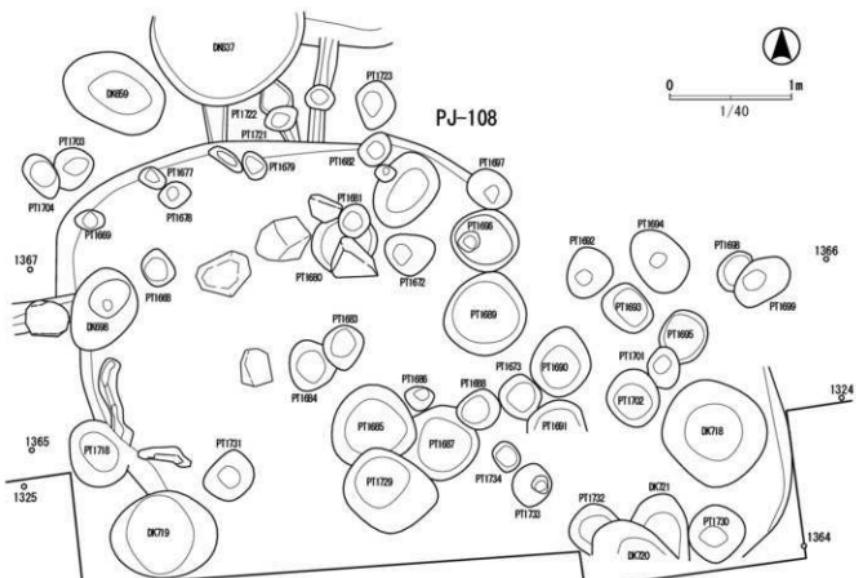
整理番号	記述	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
7520	IG-7041	石鎚	黒曜石	1/1	24.9	14.7	5.2	1.89	未完成。両面加工。三角形状ができた段階。黒斑入り透明黒曜石
7521	IG-7041	石鎚	黒曜石	3/4	20.0	18.4	4.4	1.56	未完成。両面加工。先端欠損。原形ができた段階。黒斑入り半透明黒曜石
7524	IG-7043	磨石類	安山岩類	1/1	76.0	47.0	31.0	145	小形円筒形。平坦な2面が摩耗。長軸端面に敲打痕。
7525	IG-7042	磨石類	砂岩類	1/1	53.0	40.0	36.0	104	小形円筒形。球状に近い。狭い平坦面が顕著に摩耗。
7526	IG-7042	ハンマー	頁岩類	3/4	(70.0)	34.0	13.0	49	扁平円錐形。側面に敲打痕。
7527	IG-7042	側縫剥離石器	安山岩	1/1	64.0	49.0	15.0	68.80	鉄平石の縁辺1辺に鋸齒線状の調整剝離
7528	IG-7042	石鎚	黒曜石	1/1	21.9	17.0	5.8	16.80	未完成。ズリ跡が残る剥片素材。両面加工。三角形状ができる途上の段階。透黒黒曜石
7532	IG-7111	台石	安山岩類	破片				336	平坦な面が摩耗。敲打集中の凹み
7533	IG-7043	磨石類	安山岩類	破片	(39.0)	(41.0)	(18.0)	40	扁平棒状形。平坦面から側面にかけて摩耗。
7534	IG-7043	ハンマー	砂岩類	1/2	0.0	0.0	0.0	73	偏平棒状体素材のハンマー。側面部に敲打痕。長軸両端とも敲打点から破損。一端は破面の端に敲打痕。細粒砂岩
7535	IG-7043	石鎚	黒曜石	1/1	22.1	16.6	6.7	1.96	未完成。三角形状の剥片素材の縁辺に両面から調整を始めた段階。黒筋のある半透明黒曜石
7536	IG-7043	石鎚	黒曜石	破片				0.53	未完成。凹基、縁辺加工。先端欠損。半透明黒曜石
7537	IG-7043	石鎚	黒曜石	1/1	22.0	14.0	10.0	1.90	碎片の1角に椎部を作り出す。先端に流れ。透明黒曜石
7538	IG-7043	両縫石器	黒曜石	1/1	19.0	18.0	9.0	2.70	剥片の両端に衝撃剝離。透明系黒曜石
7539	IG-7043	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				1.70	小さなスピール状剥片の先端に調整剝離。黒斑入り透明黒曜石
7540	IG-2139	石鎚	黒曜石	1/1	15.9	15.0	4.4	0.92	未完成。渦形ができた段階。透黒黒曜石
7541	IG-6494	石鎚	チャート	3/4	29.0	21.1	3.3	1.80	未完成。三角形状ができた段階。黒斑入り灰色チャート
7542	IG-6459	石鎚	黒曜石	3/4	11.3	15.7	3.1	0.43	凹基、長軸、両面加工。片御欠損。黒斑入り透明系黒曜石
7543	IG-7044	石鎚	黒曜石	1/2			3.3	(0.53)	凹基、両面加工。先端、両面欠損。透明黒曜石
7544	IG-7044	打製作斧	粘土質灰	破片				36.80	基部側と思われる破片。粘土質瓦質ホルンフェルスの扁平素材を両端打ち削形
7546	IG-1283	台石	安山岩類	破片				503	台石破片と思われる扁平円錐の側縫部破片
7548	IG-7045	両縫石器	黒曜石	1/1	22.0	21.0	6.0	2.50	サンドベービー状自然形がある剥片の両端に衝撃剝離。両縫石器としたが、粘土質素材を企図した両縫打剥による剥片か。黒斑入り透明黒曜石
7549	IG-7045	両縫石器	黒曜石	1/1	22.0	11.0	8.0	1.80	碎片の両端に衝撃剝離。透明系黒曜石
7550	IG-7045	鍛冶鍼石器	黒曜石	3/4	27.0	45.0	9.0	8.40	風化剝離面状の自然面がある剥片素材。縁辺に両面から鋸齒線状の調整剝離。透明系黒曜石
7551	IG-7045	剥離のある剥片	黒曜石	1/1				4.30	碎片の鋸齒状縁辺:微小剝離。透黒黒曜石
10469	PJ-112_11	磨石類	花崗岩類	1/1	99.0	84.0	55.0	650	横円形。広い2面が摩耗。側面2面に敲打による平坦面。緻密な花崗岩
10470	PJ-112	磨石類	安山岩類	1/1	66.0	55.0	35.0	130	小形、横円形。平坦な1面に敲打による凹み。多孔質安山岩
10471	PJ-112	磨石類	砂岩類	破片	81.0	76.0	56.0	365	やや渦曲した平坦面が摩耗。砾石状。刮れ面を打点した剝離あり。細粒砂岩
10472	PJ-112	青銅石斧	緑色岩類	破片	(84.0)	(67.0)	(40.0)	234	断面が扁平圓形。刃部、基部欠損。被熱、変色、前期後半の磨製斧斧か
10473	PJ-112	ハンマー	砂岩類	1/1	69.0	52.0	28.0	135	扁平、横円形の重円錐の縁辺に弱い敲打痕。細粒、緻密な砂岩
10474	PJ-112	磨石類	安山岩類	破片	0.0	0.0	0.0	32	磨石の断片。平坦面が摩耗
10475	PJ-112_9	磨石類	安山岩類	1/2	0.0	0.0	0.0	569	横円形。平坦な2面が摩耗。敲打集中の凹み、側面1面が吸溜石状
10476	PJ-112	磨石類	安山岩類	破片	0.0	0.0	0.0	320	磨石もしくは台石と思われる側縫部破片。平坦な面が摩耗
10477	PJ-112_7	ハンマー	砂岩類	1/1	81.0	76.0	46.0	389	刮れ面:摩耗。磨石耘用ハンマーか。平坦な2面。側面2面に長い点状の剥離痕(吸溜)か。細粒、緻密な砂岩
10478	PJ-112_8	石皿	安山岩類	破片				1.137	皿形がやや摩耗。J-6-16グリッド出土破片と複合。多孔質安山岩
10479	PJ-112	円錐	砂岩類	1/2				264	横円錐。長軸端部が削れ。使用痕はないハンマーと思われる。細粒、緻密な砂岩
10480	PJ-112	磨石類	安山岩類	破片				101	磨石もしくは台石と思われる側縫部破片。多孔質安山岩
10481	PJ-112	円錐	粘土質瓦	破片				91	棒状円錐の断片。ハンマーか
11169	PT-1658	ハンマー	頁岩類	1/1	49.0	87.0	22.0	133	PT-1658出土。扁平円錐形。長軸両面に敲打痕と刮れ
11170	PT-1658	磨石類	花崗岩類	3/4	(97.0)	68.0	44.0	413	PT-1658出土。横円形。平坦な2面が摩耗。敲打集中の凹み。長軸両端部に削れ。削れ面は摩耗。緻密な花崗岩

PJ108 号住居

- 位 置**：I-8 グリッドに位置する。住居南半は調査区外の現状保存区域にかかるが、從前農地の境界にあたり、南側はすでに削平されている。
- 規 模**：北壁から西壁にかけて平面形が確認できたのみで、全体像は不明である。柱穴位置から 4m 径ほどの大きさと想定される。堅穴は深さ 40 cm が残る。
- 埋 土**：暗褐色土と黒褐色土が斑に混じる埋土が堆積し、大きな花崗岩、土器、石器が出土した。西壁沿いでは黄褐色土が混じる三角堆積（3 層）が確認された。北壁と西壁は黄褐色地山が立ち上がり確認できただが、東壁は地山の立ち上がりがなく不明瞭であった。三角堆積土（3 層）に相当する土層を検出した地点を東壁と想定したが、北壁からのつながりが悪く、果たして真正な東壁か疑問である。想定される住居範囲のやや東側からも中期の土器と石器がまとまって出土しており、本住居に重複する同時期の遺構が存在した可能性も考えられる。
- 床 面**：黄褐色地山を床面としている。硬く踏みしめられた箇所は確認されなかった。
- 炉**：調査区内で炉、焼土は検出されなかつた。柱穴と想定される 4 基のピットで囲まれた空間のほぼ中心に 1684 号ピットがある。本住居周辺の土坑、ピットは前期土器ばかりが出土しているが、1684 号ピットのみ中期中葉土器破片が出土した。焼土は検出されなかつたが、このピットが本住居の炉跡である可能性があろう。
- 周 溝**：西壁沿いで断片的な小溝を検出した。北壁沿いで小ピットが検出された。東壁側は小溝、小ピットとともに検出されなかつた。
- 柱 穴**：床面上で多数の土坑とピットを検出した。出土遺物が少なく、本住居の柱穴と確信できるピットはなかつた。ピットの大きさと深さから、1668 号、1731 号、1688 号ピットと、浅く大きな 1696 号ピットのなかで検出された小ピットの 4 基が柱穴かもしだれない。
- 出土遺物**：埋土中で完形に近い状態、あるいは大形破片の状態で土器が出土した。床面に密着した状態で出土した土器はなかつた。石器は床面で取り上げたものが若干あるほかは、土器と同様である。
出土した土器の総量は、73,889g である。うち前期と識別できる土器破片が 40,779g と半分以上を占め、特に諸磯式土器が多い。中期と識別された土器個体および破片は 23,739g であった。残りは時期が特定できない破片である。
石器も多数出土した。しかし、土器の出土状況を踏まえると前期の石器が多数、混入していると考えられる。出土した石器の内訳は、石鏃 8 点、石匙 5 点、削器 2 点、素刃削器 5 点、石錐 3 点、鋸齒縁石器 2 点、両極石器 2 点、打製石斧 29 点、大型粗製石匙 1 点、横刃型石器 6 点、磨石類 5 点、石皿 1 点、台石 3 点、礫器 1 点、石柱 1 点、剥離のある剥片 8 点、黒曜石原石 4 点、円礫 3 点、草創期に帰属する可能性がある黒曜石製の有茎尖頭器 1 点である。このほか資料化から除外した剥片類が 683 点、1,743g 出土した。大半は黒曜石である。
- 時 期**：埋土から出土した保存状態がよい土器は中期中葉、藤内式 1 段階に位置付けられよう。したがって本住居はその時期より以前に廃絶したと考えられる。

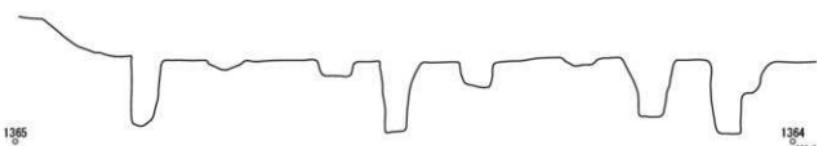
PJ108 号住居 土坑ピット一覧表

遺構番号	位置	大きさ	深さ	覆土色	備考（遺物など）
PT-1668	住居内	29×26	40		
PT-1669	住居 北 西壁	18×19	18		
PT-1672	住居内	35×37	62	10YR 2/2(黒褐色) に 10YR 4/6(褐) が 5% 重じる。 完整柱穴 10YR 2/3(黒褐色) に 10YR 2/2(黒褐色) が 5% 重じる。	諸磯式小片
PT-1677	住居 北 西壁	17×18	17		
PT-1679	住居 北 西壁	20×17	18		
PT-1684	住居内	35×38	20		炉跡か、前期土器小片、中期土器小片
PT-1688	住居内	31×26	42		神ノ木式、諸磯式小片
PT-1696	住居内	50×46	25		
PT-1731	住居内	37×30	68		諸磯式小片

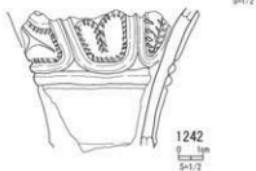
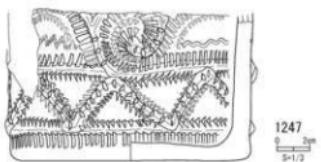
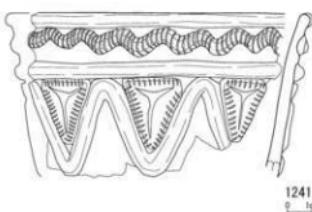
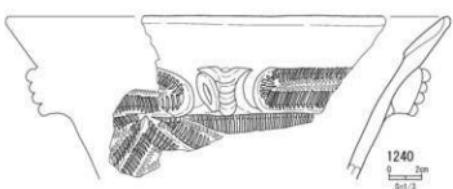
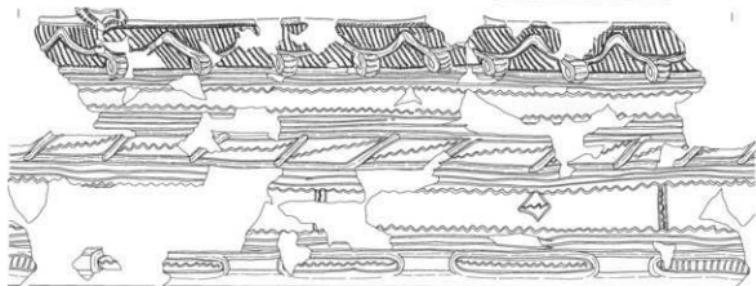
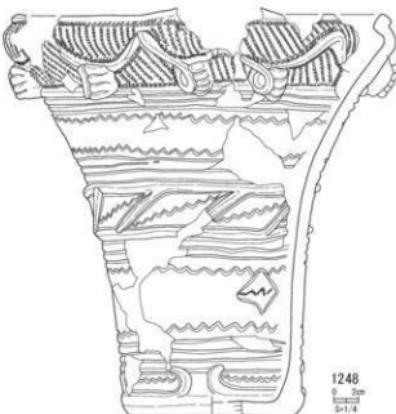
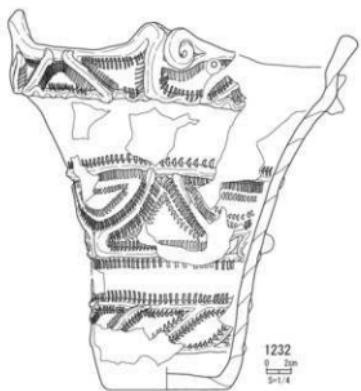


- 1層 10R2/4(黒褐色)に10R2/2(黒褐色)が3%, 10R4/4(黒)が3%, $\pm 3\text{cm}$ の花崗岩が4%, 墓じる, シルト粘土, 粘性ややありしまる。
 2層 10R2/4(黒褐色)に10R4/4(黒)が3%, 10R5/4(こぶし状黄褐色)が3%, 10R5/6(黄褐色)が3%, $\pm 2\text{cm}$ の花崗岩が4%以下, 壕化物が4%以下, 墓じる, シルト粘土, 粘性ややありしまる。
 3層 10R5/4(こぶし状黄褐色)に10R5/6(黄褐色)が3%, 10R5/4(湖褐色)が3%, 墓じる, シルト粘土, 粘性ややありしまる。
 4層 10R5/4(湖褐色)に10R5/4(こぶし状黄褐色)が3%, 墓じる, シルト粘土, 粘性ややありしまる。
 墓面 10R5/6(黄褐色)に10R3/4(湖褐色)が3%, 墓じる, 粉粒土, 粘性なししまる。
 墓 10R3/2(湖褐色)に10R3/4(湖褐色)が3%, 墓じる, 粉粒土, 粘性なししまる。

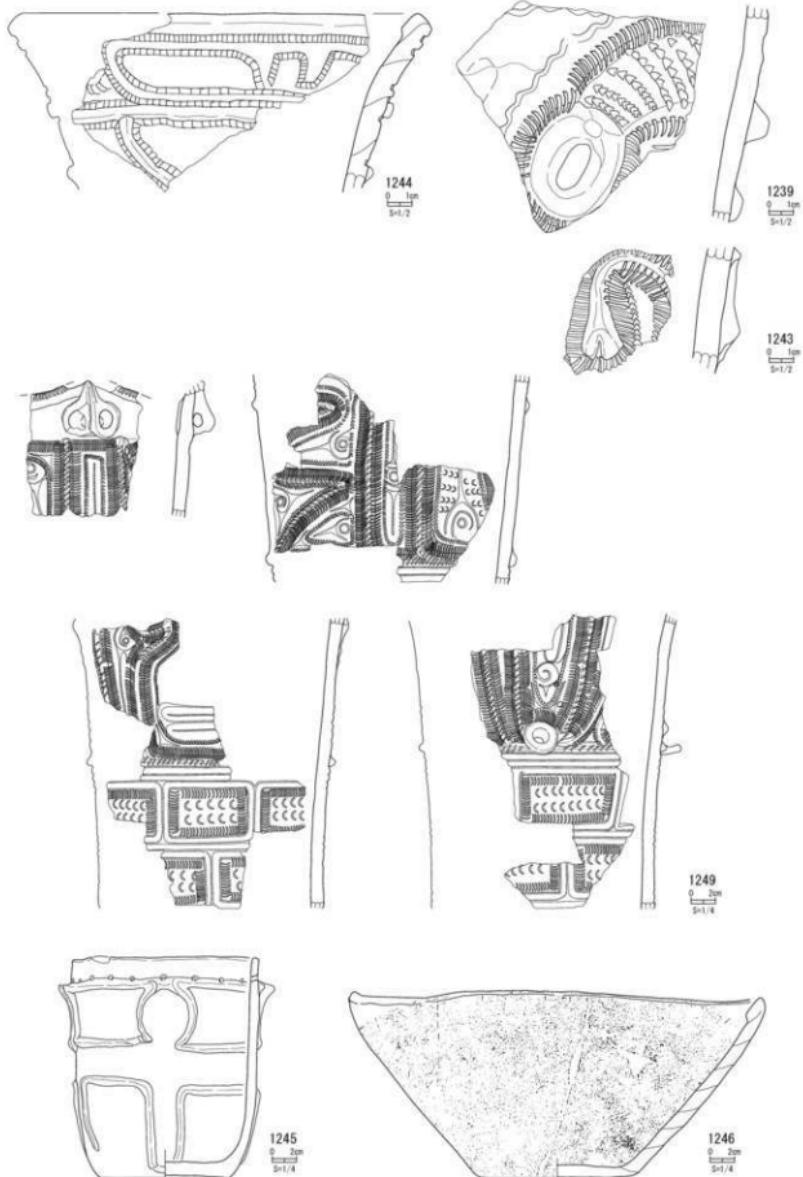
1367 1366
2 3 4



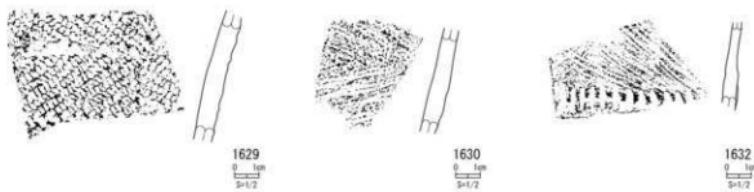
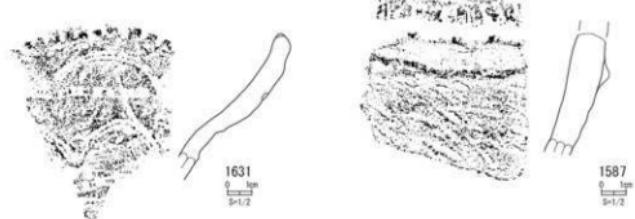
PJ108号住居



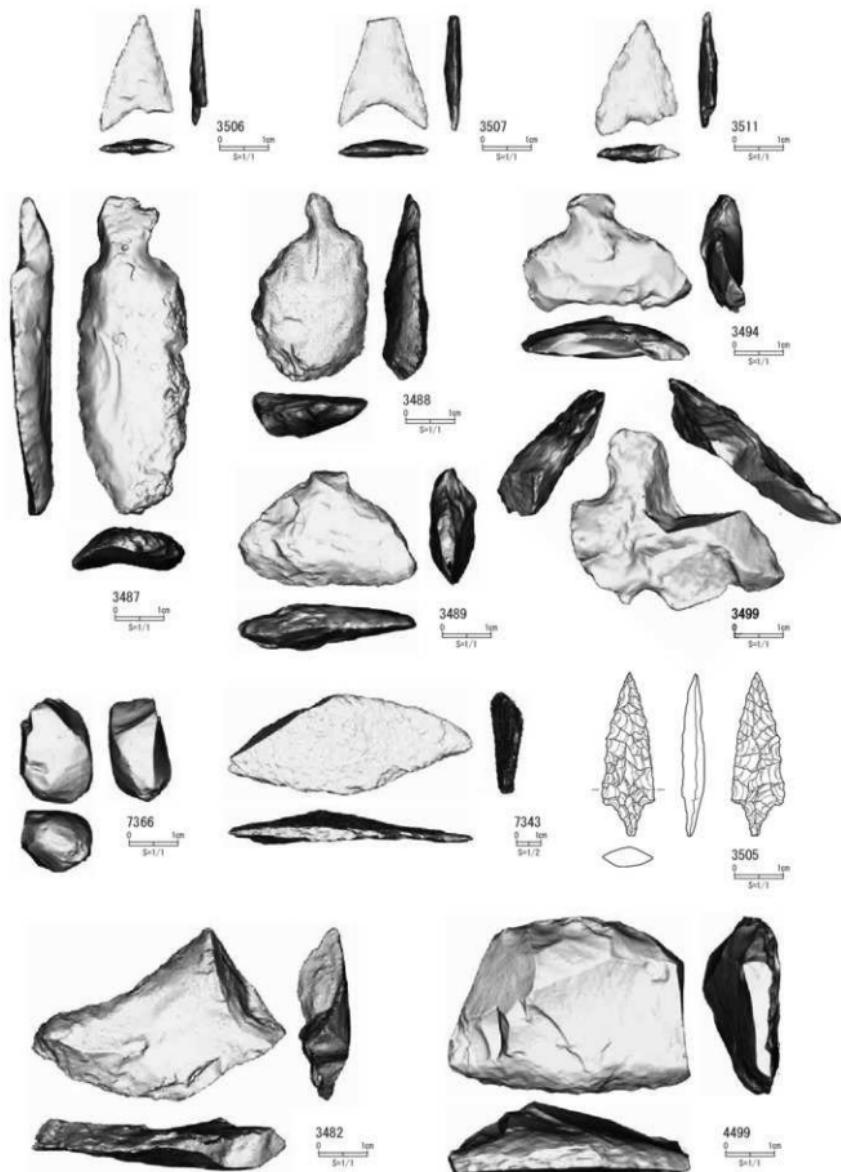
PJ108 号住居出土遺物



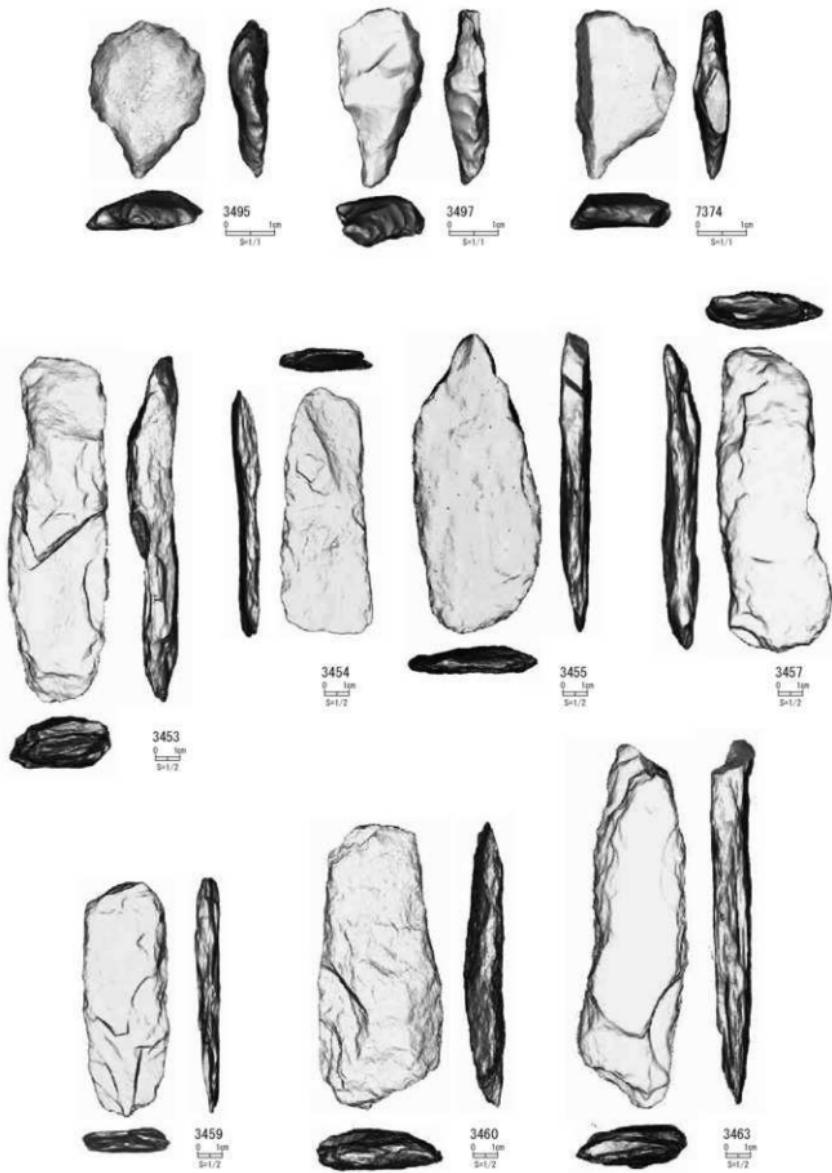
PJ108 号住居出土遺物



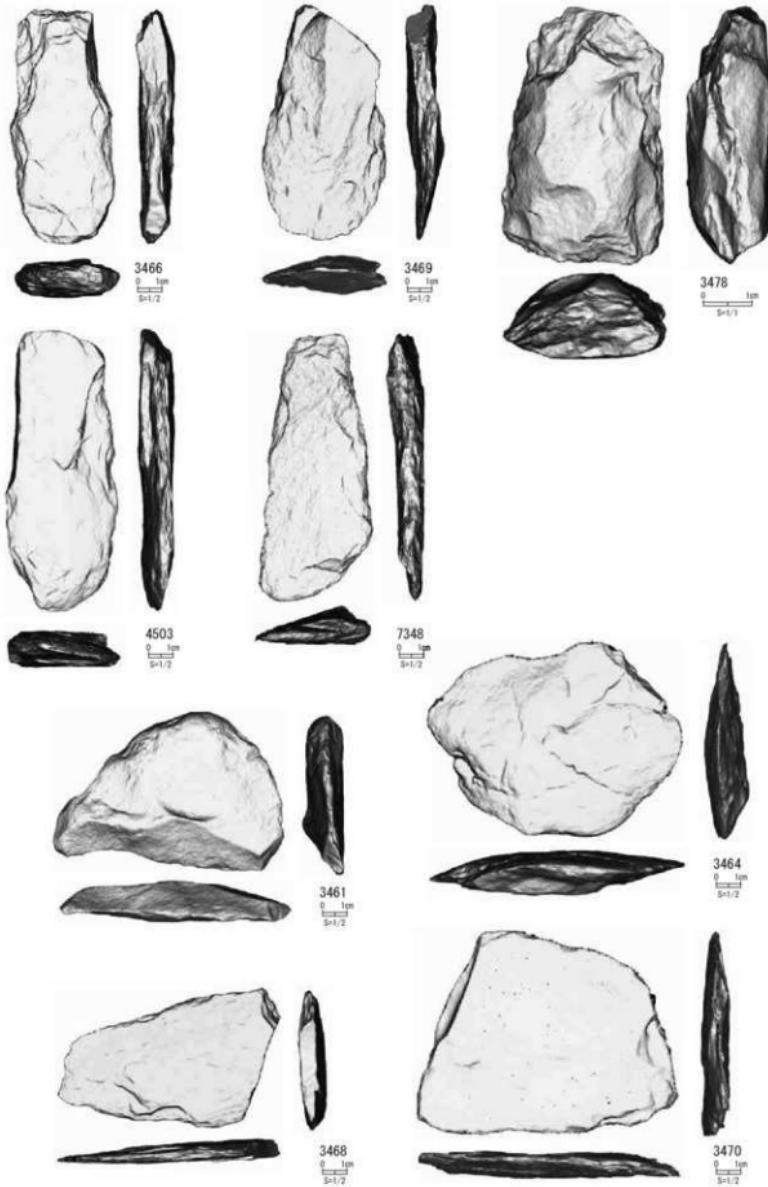
PJ108 号住居出土遺物



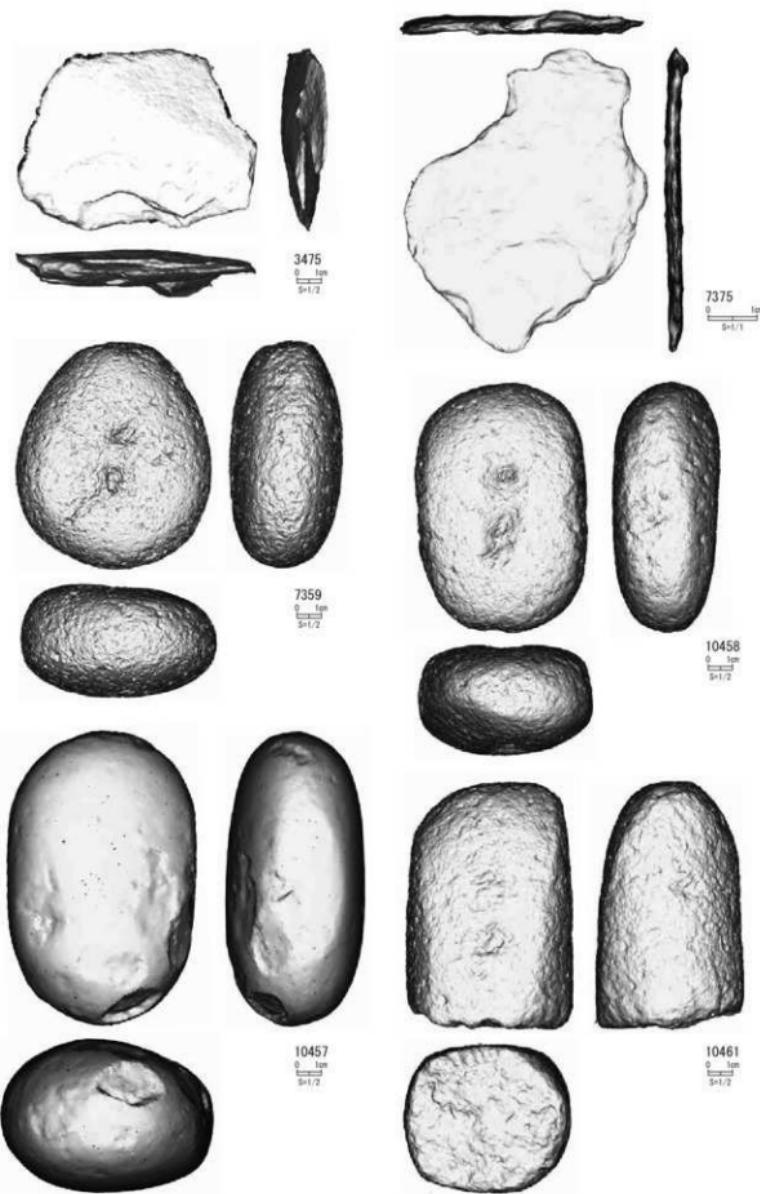
PJ108 号住居出土遺物



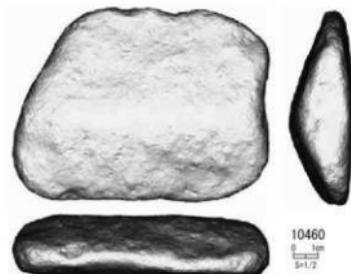
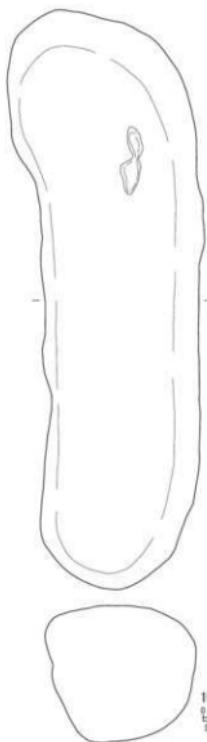
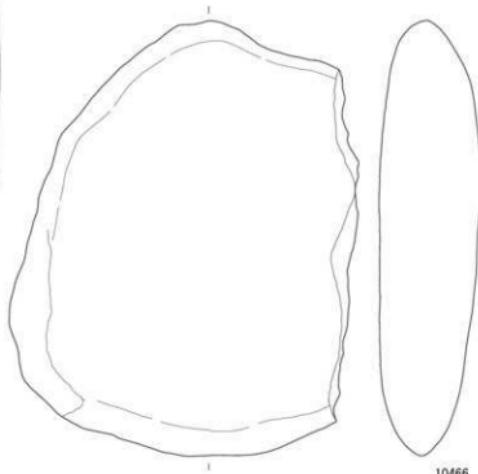
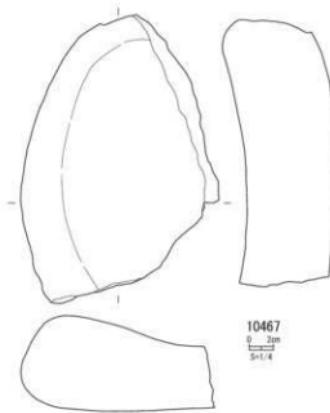
PJ108 号住居出土遺物



PJ108 号住居出土遗物



PJ108 号住居出土遺物



PJ108 号住居出土遺物

PJ108 号住居 土器観察表

実測番号	注記 (6-010-2012)	部位	口径 / 横 (cm)	器高 / 横 (cm)	底径 / 厚さ (cm)	重量 (g)	残存度	土色調査 上段 : 内面 下段 : 外面	備考	
1232	FJ-108-39, FJ-108-20, FJ-108-4, FJ-108-15, 10-7008, 10-7007	口縁～底部	28.7	31.4	10.0	2,600.0	4/5	7 SR85-4 SR86-6	住居北東部分の埋土中2ヶ所に分かれ、床面から20～41cm厚いて出土。口縁部に補修孔。口縁部文様底面下端につまみ刺のみの埋器。腹部中央文様部の埋器の底面は小破れ状態で出土。	
1239	FJ-108-15, 10-7006	胴部				124.0	破片	7 SR86-4 7 SR86-4	床面から41cm厚いて出土。小破れを付したサンショウウオ文。文様内に三脚文様の押引き。無文部は複合板と指頭痕が同時に残る。	
1240	FJ-108-29, FJ-108-15	口縁部 (27.0)				502.0	破片	SYU-2 SYU-2	床面から26cm厚いて出土。口縁部は肥厚し、内面に段差。	
1241	FJ-108-15, 10-7006	口縁～胴部 (12.7)				163.0	破片	7 SR84-3 7 SR85-4	床面から34～43cm厚いて出土。口縁部破片と胴部破片あり。	
1242	10-7006	胴部	~	~	~	33.0	破片	内: SR85-4 外: SR85-4	床面から43cm厚いて出土。	
1243	10-7006	胴部				35.0	破片	7 SR86-6 7 SR84-2	床面から41cm厚いて出土。表面が黒褐色化されたサンショウウオ文と思われるチャーフ	
1244	FJ-108-15, 10-7006	口縁部 (16.1)				95.0	破片	7 SR83-1 7 SR85-4	床面から41cm厚いて出土。角突文の押引き	
1245	10-7006	口縁～底部	15.3	18.0	10.4	1,268.0	ほぼ完形	7 SR77-4 7 SR77-4	PJ108A上段、底盤破壊面から4cm厚いて出土。この出土位置は既定されるFJ-108-15, 10-7006, 10-7007の外れのものか、既定に該当する可能性がないため、FJ-108-15, 10-7006, 10-7007と混同すると判断した。埋器で文様を抽出した。有孔付土器で、内外面に炭化物が薄く付着。外面口縁部に剥落がわずかに残る。	
1246	FJ-108-27, 10-7009	口縁～底部	33.4	15.3	13.0	2,030.0	2/3	SR86-6 SR86-4	PJ107Z北、住居北壁沿い、床面直上～10cm厚いて出土。	
1247	FJ-108-37, 10-7007	底部				14.3	838.0	破片	SR85-4 SR85-4	床面から25～34cm厚いて出土。
1248	FJ-108-35, FJ-108-29, FJ-108-15, 10-7006, 10-7007	口縁～底部 (31.2) (34.0)	13.6	2,980.0	破片	2 SR85-6 2 SR84-6	床面から28～43cm厚いて出土。口縁部の重三角文内は三角押文を充填			
1249	FJ-108-3, FJ-108-15, FJ-108-6, FJ-108-15, 10-7006, 10-7007	口縁部、胴部				1,659.0	破片	7 SR84-2 7 SR84-3	床面から38～43cm厚いて出土したハネル文土器断片。	
1577	10-7007	口縁部				9.0	破片	SR84-3 SR86-4	床面から34cm厚いて出土。北白川下層IIa式	
1587	10-7007	胴部				63.0	破片	SR86-4 SR85-3	床面から34cm厚いて出土。複数部の破壊面に刺穴状痕がある。中土器類	
1589	10-7007	胴部				13.0	破片	2 SR85-4 2 SR85-4	床面から34cm厚いて出土。複数部、破片全体が平滑に磨耗している。水中で磨耗したか。	
1627	FJ-108	口縁部				38.0	破片	7 SR87-6 7 SR87-6	埋土一括取り上げ。擦痕の回転施文。補修孔2ヶ所あり。胎土に織維を含む。神ノ木式	
1628	FJ-108	胴部				25.0	破片	10/86-3 10/86-3	埋土一括取り上げ。内外面黒漆条帶。外面に大きな爪彫。北白川下層IIa式。	
1629	FJ-108	胴部				39.0	破片	10/87-3 10/87-4	埋土一括取り上げ。羽状綾文。有輪式	
1630	FJ-108	胴部				15.0	破片	2 SR85-3 2 SR86-4	埋土一括取り上げ。格状体の回転施文	
1631	FJ-108	口縁部～胴部				56.0	破片	7 SR85-6 7 SR84-4	埋土一括取り上げ。角押文。口唇部に刺込み。施文式とか。	
1632	FJ-108	口縁部				13.0	破片	7 SR84-4 7 SR84-2	埋土一括取り上げ。木島式	
1633	FJ-108	口縁部				41.0	破片	7 SR85-6 7 SR84-3	埋土一括取り上げ。神ノ木式	
1634	FJ-108	口縁部				14.0	破片	7 SR87-4 7 SR87-4	埋土一括取り上げ。神ノ木式	
1635	FJ-108	口縁部				4.0	破片	10/87-3 10/84-2	埋土一括取り上げ。口唇部に刺込み。北白川下層IIa式	

PJ108 号住居 石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
3433	FJ-108-1	打製石斧	頁岩	3/4	142.0	42.0	18.0	134.20	住居西側(心)、床面から7cm厚いて出土。側面に大きな抉りあり。反対側側面は節理面による欠損。
3454	FJ-108-1	打製石斧	砂泥灰岩	1/1	101.0	41.0	8.0	35.90	3463とともに出土。
3455	FJ-108-17	打製石斧	黄色風化 泥岩	3/4	121.0	52.0	10.0	85.30	住居北壁沿い、床面から27cm厚いて出土。基部側、節理面で欠損
3466	FJ-108-10	打製石斧	粘土質灰岩	3/4	91.0	45.0	13.0	64.90	埋土一括取り上げ。刃部欠損
3457	FJ-108-5	打製石斧	砂泥灰岩	1/1	121.0	44.0	13.0	96.30	埋土一括取り上げ。刃部欠損
3458	FJ-108	打製石斧	砂泥灰岩	1/2				81.40	埋土一括取り上げ。刃部欠損
3459	FJ-108	打製石斧	黄色風化 泥岩	3/4	95.0	35.0	9.0	42.80	埋土一括取り上げ。刃部の一側欠損
3460	FJ-108-10	打製石斧	砂岩	3/4	117.0	52.0	15.0	112.50	PJ1086 東側、床面から8cm厚いて出土。刃部の一部欠損
3461	FJ-108-25	横刃型石器	砂泥灰岩	1/1	63.0	94.0	17.0	102.50	住居東端。床面から30cm厚いて出土。
3462	FJ-108-15	打製石斧	頁岩	3/4	110.0	51.0	15.0	114.60	PF1087上層、床面で出土。基部欠損。器軸に対して万字が斜め。
3463	FJ-108-2	打製石斧	頁岩	3/4	147.0	44.0	15.0	130.20	PF1088西、床面から6cm厚いて出土。
3464	FJ-108-13	横刃型石器	粘土質灰岩	3/4	79.0	105.0	17.0	135.60	PF1082西、床面で出土。薄い側面に調査割離はみられない。
3465	FJ-108-26	打製石斧	頁岩	1/1	72.0	50.0	11.0	54.70	住居東端。床面から27cm厚いて出土。器長が短く、折損品の再生か。
3466	FJ-108-12	打製石斧	頁岩	1/1	97.0	42.0	14.0	86.50	PF1088東、床面で出土。基部側側面が一部欠損。刃部から側面にかけて顕著な磨滅

PJ108 号住居 石器觀察表

整理番号	記注	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	觀察所見
3467	PJ-108	素刃削器	結晶片岩	1/2	53.0	57.0	10.0	33.60	埋土一括取り上げ。薄い刃部に微小な使用痕がこれ。
3468	PJ-108	横刃石器	黄色風化泥岩	1/1	60.0	86.0	7.0	47.30	埋土一括取り上げ。
3469	PJ-108	打製石斧	結晶片岩	3/4	96.0	52.0	13.0	66.00	埋土一括取り上げ。基部欠損。縦面が残る。風化して使用痕不明
3470	PJ-108 41	横刃石器	砂泥交又	1/1	83.0	106.0	10.0	112.70	PJ108西、床面から3cm浮いて出土。
3471	PJ-108	打製石斧	黄色風化泥岩	1/1	93.0	39.0	12.0	51.90	埋土一括取り上げ。風化して使用痕不明
3472	PJ-108	打製石斧	砂泥交又	1/2	80.0	41.0	14.0	52.00	埋土一括取り上げ。刃部欠損
3473	PJ-108 16	打製石斧	結晶片岩	1/2	90.0	53.0	16.0	98.90	PJ108上面、床面で出土。誤認剥離が少なく、未成品か
3474	PJ-108	打製石斧	黄色風化泥岩	破片	83.0	38.0	10.0	36.80	埋土一括取り上げ。
3475	PJ-108 31	横刃型石器	砂岩	1/1	74.0	99.0	18.0	134.50	PJ108上面、床面で出土。円錐面が残る
3476	PJ-108	打製石斧	結晶片岩	1/2	103.0	39.0	15.0	73.20	埋土一括取り上げ。縦面が大きくなっている。
3477	PJ-108	素刃削器	砂岩	3/4	57.0	54.0	18.0	58.90	埋土一括取り上げ。風化して使用痕不明
3478	PJ-108	打製石斧	泥岩	破片				39.90	埋土一括取り上げ。縦面が残る。基部側面片
3479	PJ-108	横刃型石器	結晶片岩	1/2				36.10	埋土一括取り上げ。
3480	PJ-108	素刃削器	黄色風化泥岩	1/1	33.0	57.0	10.0	21.30	埋土一括取り上げ。風化して使用痕不明
3481	PJ-108	打製石斧	黄色風化泥岩	破片				34.10	埋土一括取り上げ。
3482	PJ-108	削器	珪質頁岩	3/4	45.0	51.0	10.0	14.20	埋土一括取り上げ。青灰色で白筋が入る珪質頁岩
3483	PJ-108	素刃削器	結晶片岩	1/1	36.0	64.0	9.0	18.50	埋土一括取り上げ。風化して使用痕不明
3484	PJ-108	素刃削器	砂岩	1/1	40.0	50.0	8.0	11.00	埋土一括取り上げ。円錐面が残る。
3485	PJ-108	打製石斧	黄色風化泥岩	破片				17.20	埋土一括取り上げ。
3486	PJ-108	打製石斧	頁岩	破片				10.00	埋土一括取り上げ。
3487	PJ-108 18	石匙	黑曜石	1/1	23.0	64.0	7.0	11.70	PJ108上面の床面で出土。縦面、風化した剥離面が残る。
3488	PJ-108	石匙	珪質頁岩	1/1	24.0	39.0	9.0	7.90	埋土一括取り上げ。青灰色で白筋が入る珪質頁岩
3489	PJ-108	石匙	チャート	3/4	23.0	36.0	8.0	6.80	埋土一括取り上げ。くすんだ赤褐色で不透明のチャート。
3490	PJ-108	原石	黑曜石	1/1				11.60	埋土一括取り上げ。角縁アリ
3491	PJ-108	原石	黑曜石	1/1				10.90	埋土一括取り上げ。一舟コア。漆黒の黒曜石の角縁アリ
3492	PJ-108	原石	黑曜石	1/1				17.50	埋土一括取り上げ。風化してくすんだ黒曜石
3493	PJ-108	石匙	珪質頁岩	3/4	20.0	38.0	9.0	6.00	埋土一括取り上げ。不透明。灰白色で灰青色筋が入る珪質頁岩
3494	PJ-108 18	石匙	黑曜石	3/4	24.0	34.0	8.0	5.00	PJ108上面の床面で出土。3487とともに土上。刃部欠損
3495	PJ-108	石鍬	チャート	3/4	32.0	24.0	7.0	5.70	埋土一括取り上げ。不透明。くすんだ赤褐色のチャート。鋸部欠損
3496	PJ-108 19	石鍬未完成品	黑曜石	1/1	22.9	20.5	6.2	2.43	東壁付、PJ108南の床面から12cm浮いて出土。赤茶色がかった黒曜石
3497	PJ-108	石鍬	黑曜石	1/1	36.0	18.0	8.0	4.60	埋土一括取り上げ。縦部先端に使用痕。透明感のある黒曜石
3498	PJ-108	剥離のある剝片	チャート	1/1	22.0	38.0	9.0	7.20	埋土一括取り上げ。石鍬未完成品から。赤茶色不透明のチャート
3499	PJ-108	石匙	石英岩	1/2	31.0	46.0	10.0	10.20	埋土一括取り上げ。石英岩製の石匙、刃部欠損
3500	PJ-108	剥離のある剝片	黑曜石	1/1				3.00	埋土一括取り上げ。漆黒の黒曜石
3501	PJ-108	石匙	黑曜石	-	-	-	2.8	(0.40)	埋土一括取り上げ。先端部の小破片
3502	PJ-108	石匙	黑曜石	-	15.0	14.0	4.0	0.60	埋土一括取り上げ。ミニチュア石匙か、つまみ部のみの破片
3503	PJ-108	石匙	黑曜石	3/4	22.5	-	3.4	(0.79)	埋土一括取り上げ。赤茶色がかった黒曜石。片頭欠損
3504	PJ-108	石匙	黑曜石	1/1	25.0	18.0	4.0	1.60	埋土一括取り上げ。石鍬のような形状でもあるが、先端部は薄く使用痕なし。往復研磨。床面から3cm浮いて出土。様まで深く入る剥離剥離が発達と並ぶ。草創期の先端尖頭器。
3505	PJ-108 22	有茎尖頭器	黑曜石	1/1	34.0	11.0	5.0	1.30	東壁付、PJ108南の床面から12cm浮いて出土。透明感のある黒曜石
3506	PJ-108 20	石匙	黑曜石	3/4	24.8	-	3.2	(0.62)	埋土一括取り上げ。透明感のある黒曜石。
3507	PJ-108 21	石匙	チャート	3/4	22.7	-	2.6	(1.11)	埋土一括取り上げ。ミニチュア石匙か、つまみ部のみの破片
3508	PJ-108	両極石器	黑曜石	1/1	15.0	12.0	6.0	0.90	埋土一括取り上げ。赤茶色がかった黒曜石。片頭欠損
3509	PJ-108	石匙	黑曜石	3/4	(16.0)	(15.5)	3.0	(0.51)	埋土一括取り上げ。透明感のある黒曜石。先端と片頭欠損
3510	PJ-108	石匙	黑曜石	1/2	-	-	3.2	(0.47)	埋土一括取り上げ。透明感のある黒曜石。先端と片頭欠損。
3511	PJ-108	石匙	黑曜石	3/4	24.7	-	3.8	(1.03)	埋土一括取り上げ。透明感のある黒曜石。片頭欠損。縁辺部の誤認剥離がなく、未完成品か。
3512	PJ-108	剥離のある剝片	黑曜石	1/1	20.3	10.3	2.9	0.60	埋土一括取り上げ。カリガラスのような黒曜石。
3513	PJ-108	石匙	黑曜石	3/4	17.7	-	3.0	(0.40)	埋土一括取り上げ。透明感のある黒曜石。片頭欠損
3514	PJ-108	石鍬未完成品	黑曜石	3/4	26.0	16.3	5.4	1.55	埋土一括取り上げ。カリガラスのような黒曜石。先端と片頭欠損
3515	PJ-108	両極石器	黑曜石	1/1	14.0	12.0	3.0	0.50	埋土一括取り上げ。
3516	PJ-108	両極石器	黑曜石	1/1	17.0	16.0	5.0	1.40	埋土一括取り上げ。

PJ108 号住居 石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	觀察所見
3517	PJ-108	石鎚	黒曜石	3/4	~	(11.5)	3.5	(0.49)	理士一括取り上げ。すりガラスのような黒曜石。先端と細部欠損
4499	PT-1731	削器	珪質頁岩	3/4	36.0	50.0	14.0	30.20	PJ1371 出土。淡い青灰色頁岩。縫合が残る。
4503	PT-1668	打製石斧	黄色風化 泥岩	1/1	116.0	46.0	15.0	105.60	PJ1668 出土。刃部に磨耗あり
7343	I0-7036	削面縁石器	砂岩	1/1	43.0	97.0	10.0	36.80	床面から 41 cm浮いて出土。平滑に磨耗した表面が残る。台石などの破片が素材。
7344	I0-7036	剥離のある 削片	赤色 チャート	破片				0.94	床面から 41 cm浮いて出土。透明感がない赤色チャート。
7345	I0-7036	剥離のある 削片	黒曜石	1/1				6.60	床面から 41 cm浮いて出土。床面の黒曜石の角縁ズリの碎片。
7346	I0-7036	打製石斧	砂岩	3/4	116.0	63.0	23.0	175.10	床面から 41 cm浮いて出土。基部欠損。刃部はやや微弱。円錐面が残る。
7347	I0-7036	打製石斧	安山岩		71.0	64.0	17.0	111.60	床面から 41 cm浮いて出土。打製石斧と類似した製作技法。円錐状器に類似する
7348	I0-7036	打製石斧	砂岩	1/1	110.0	47.0	9.0	76.40	床面から 41 cm浮いて出土。器軸に對して刃部が傾め、もっとも突出した刃部は摩耗。
7349	I0-7036	石鎚	黒曜石	3/4	(15.3)	(12.1)	3.5	(0.46)	床面から 41 cm浮いて出土。赤帯入黒曜石。細部欠損
7350	I0-7036	石鎚	黒曜石	3/4	13.3	(12.3)	4.0	(0.55)	床面から 41 cm浮いて出土。透明な黒曜石。先端と細部欠損
7351	I0-7036	石鎚	チャート	3/4	28.6	18.1	5.0	2.31	床面から 41 cm浮いて出土。やや透明感がある赤色と緑灰青色のチャート。先端部欠損。未完成品。
7352	I0-7036	石鎚	黒曜石	1/1	32.0	14.0	8.0	2.40	床面から 41 cm浮いて出土。赤帯入黒曜石の角縁ズリ碎片を素材とする。
7353	I0-7036	削面縁石器	珪質頁岩	破片	41.0	32.0	13.0	20.60	床面から 41 cm浮いて出土。青灰色に白帯が入る珪質頁岩。
7359	I0-7097	磨石類	安山岩類	1/1	93.0	31.0	46.0	464	PJ1094 上面。床面から 41 cm浮いて出土。土器 12号 と共に。画面に磨石作業面、一面に深い凹形所の跡、他面に浅い凹形 3ヶ所。側面斜面。長軸端部に直交する射出筋。
7360	I0-7037	石鎚	黒曜石	破片				(0.29)	住居東端。床面から 34 cm浮いて出土。細部缺片
7361	I0-7037	石鎚	黒曜石	1/1	18.9	17.7	6.7	17.10	住居東端。床面から 34 cm浮いて出土。未成品。
7362	I0-7037	石鎚	黒曜石	3/4	17.9	19.6	4.3	0.67	住居東端。床面から 34 cm浮いて出土。
7363	I0-7037	石鎚	珪質頁岩	1/2	17.8	12.5	3.4	0.57	住居東端。床面から 34 cm浮いて出土。青灰色の珪質頁岩。細部欠損
7364	I0-7037	石鎚	黒曜石	破片				0.89	住居東端。床面から 34 cm浮いて出土。透墨黒曜石の角縁ズリ破片を素材とする。未成品。
7365	I0-7037	両極石器	黒曜石	1/1	13.0	13.0	4.0	0.60	住居東端。床面から 34 cm浮いて出土。
7366	I0-7037	両極石器	黒曜石	1/1	22.0	16.0	12.0	4.70	住居東端。床面から 34 cm浮いて出土。
7367	I0-7037	原石	黒曜石	1/1				6.40	住居東端。床面から 34 cm浮いて出土。
7368	I0-7037	剥離のある 削片	黒曜石	~				0.40	住居東端。床面から 34 cm浮いて出土。
7369	I0-7037	剥離のある 削片	黒曜石	1/1				0.50	住居東端。床面から 34 cm浮いて出土。
7370	I0-7037	剥離のある 削片	黒曜石	~				1.00	住居東端。床面から 34 cm浮いて出土。
7371	I0-7037	剥離のある 削片	黒曜石	1/1				0.70	住居東端。床面から 34 cm浮いて出土。
7372	I0-7037	剥離のある 削片	頁岩	1/1	45.0	46.0	6.0	14.00	住居東端。床面から 34 cm浮いて出土。
7373	I0-7037	剥離のある 削片	林力山鉱	3/4	49.0	67.0	11.0	26.90	住居東端。床面から 34 cm浮いて出土。
7374	I0-7037	石鎚	泥岩	1/1	35.0	23.0	7.0	5.60	住居東端。床面から 34 cm浮いて出土。くすんだ淡黄色泥岩を使用。插入石器か
7375	I0-7037	大形絆製石 鉗	子牧岩	1/2	46.0	59.0	4.0	12.70	住居東端。床面から 34 cm浮いて出土。子牧岩の薄い剥片を素材とする
7376	I0-7037	打製石斧	頁岩	1/1	28.0	67.0	6.0	19.10	住居東端。床面から 34 cm浮いて出土。
7377	I0-7037	打製石斧	頁岩	1/2				59.00	住居東端。床面から 34 cm浮いて出土。
7378	I0-7037	打製石斧	頁岩	1/2				30.90	住居東端。床面から 34 cm浮いて出土。
7379	I0-7037	円錐	砂岩類	1/2				52	住居東端。床面から 34 cm浮いて出土。使用痕は認められない。
10457	PJ-108 33	磨石類	安山岩類	1/1	121.0	78.0	68.0	862	PJ108上部。床面から 29 cm浮いて出土。非常に平滑に磨耗し、4面に敲打痕
10468	PJ-108 23	磨石類	安山岩類	1/1	101.0	70.0	45.0	444	理士一括取り上げ。平滑に磨耗し、2面に敲打痕。
10469	PJ-108 9	重円錐	綠泥片岩	1/1	114.0	72.0	35.0	370	住居中央や東西壁、床面から 34 cm浮いて出土。非常に平滑に磨耗。被破している。
10460	PJ-108	研磨器	砂岩	1/1	79.0	105.0	25.0	337	理士一括取り上げ。一側面にリッヂ状の敲打痕
10461	PJ-108	磨石類	安山岩類	1/2	101.0	69.0	65.0	617	理士一括取り上げ。平滑に磨耗し、2面に敲打痕。削面を工作面とした鉛石としで転用か。
10462	PJ-108	磨石類	安山岩類	1/2				360	理士一括取り上げ。断面が凹角・V字型の鉛石のような形状
10463	PJ-108	重円錐	砂岩類	破片				234	理士一括取り上げ。緑色がかった細粒の砂岩
10464	PJ-108	台石	安山岩類	破片				475	理士一括取り上げ。底面に磨耗した台石破片
10465	PJ-108	台石	安山岩類	破片				418	理士一括取り上げ。台石に沿る縫合線破片
10466	PJ-108 39	台石	安山岩類	1/1	(277.0)	(356.0)	(85.0)	12.050	住居西壁沿い、床面から 49 cm浮いて出土。巣扁円錐の台石
10467	PJ-108 34	石皿	安山岩類	1/4	(212.0)	(166.0)	(92.0)	3.800	住居西壁沿い、床面から 54 cm浮いて出土。
10468	PJ-108 40	石柱	安山岩類	1/1	472.0	159.0	116.0	11.080	住居西壁沿い、床面から 61 cm浮いて出土。

PJ109 号住居

位 置: J-7 グリッドに位置する。北側は現状保存とし、南壁側の一部を発掘した。DK697、DK710 号土坑に切られる。

規 模: 不明だが隅丸方形の小形の住居と思われる。

埋 土: 黒褐色を基調とする埋土が水平に堆積していた。

床 面: 黄褐色砂質の地山を平坦に掘り込んで床面としている。踏みしまった硬化面は確認されなかった。

炉 : 調査範囲では検出されなかった。

周 溝: 検出されなかった。

柱 穴: 南壁沿いに浅く小さなピット 2 基を検出した。

出土遺物: 埋土から土器破片と石器等が散漫に出土した。諸磯式土器が少なからず出土しているが当該時期の遺構からの混入と思われる。

出土した土器の総量は 1,719g で、木島式 28g、中越式 891g、神ノ木式 279g、有尾式 39g、諸磯式 167g、前期土器破片 315g である。

出土した石器の内訳は、石鏃 1 点、剥離のある剝片 1 点で、このほか黒曜石を主体とする剝片・碎片 48 点 119g が出土した。

時 期: 遺構の時期を端的に示す遺物は出土しなかった。土器の出土量から本住居は神ノ木式を伴う中越式期と推測されるがあ、竪穴の深さ、形状が PJ106 号住居に類似することから諸磯式期の所産である可能性も否定できない。

PJ109 号住居 土坑ピット一覧表

遺構番号	位置	大きさ	深さ	遺土色	備考(遺物など)
PT-1719	109 住内	13×12	26	10YR2/3(黒褐)に 10YR2/2(黒褐)が混じる。	
PT-1720	109 住内	20×14	10	10YR2/3(黒褐)に 10YR2/2(黒褐)が混じる。	

PJ109 号住居 土器観察表

実測番号	注記	部位	口径 cm 幅	器高 cm 厚	底径 cm 厚さ	重量	残存度	胎土色調 上段: 内面 下段: 外面	備考
1622	PJ-109	口縁部			31.0	破片		7.5YR7/4 7.5YR8/4	格子目文。内外面整形の凹凸がやや残る。胎土に繊維を含む。中越式
1623	PJ-109 2	肩部			59.0	破片		7.5YR7/2 7.5YR7/6	外面タテナデ。内面指痕压痕が残る。胎土に繊維を含む。中越式
1624	PJ-109	肩部			37.0	破片		5YR5/3 5YR7/3	内外面整形の凹凸が残る。胎土に繊維を多量に含む。中越式
1625	PJ-109	肩部			22.0	破片		7.5YR7/6 7.5YR7/4	正反の合。胎土に繊維を含まない。神ノ木式

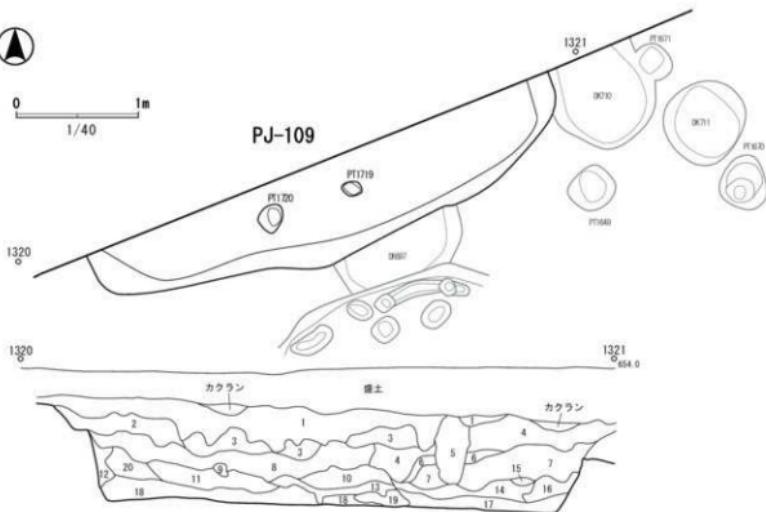
PJ109 号住居 石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
8223	PJ-109	剥離のある 剝片	黒曜石	1/1	17.0	23.0	4.0	1.50	両極打法による剝片素材の3辺に調整剝離。裏面のある半透明黒曜石
8224	PJ-109	石鏃	黒曜石	1/1	14.0	11.3	2.8	0.36	凹基、縁辺加工。剝片の縁辺のみを調整。稚拙なつくり。透明黒曜石

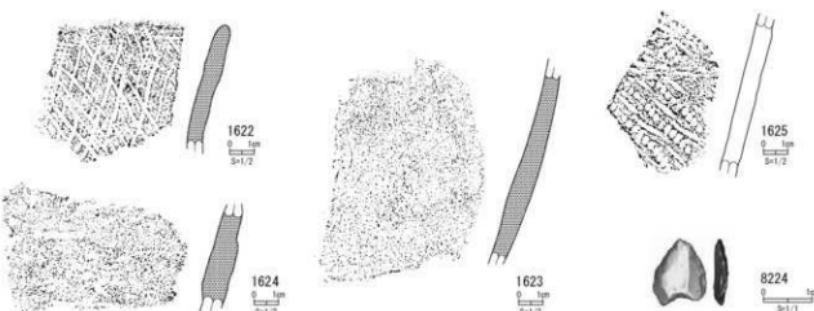


0
1m
1/40

PJ-109



- 1層 10F2.2(黒褐色)に10F2.2(黒褐色)が9%、10F2.3(暗褐色)が7%、花崗岩粒が4%で混じるシルト粘土。粘性ややあり、ややしまる。
- 2層 10F2.2(黒褐色)に10F2.2(暗褐色)が9%、10F2.4(こい 黄褐色)が7%、花崗岩粒が4%で混じるシルト粘土。粘性ややあり、ややしまる。
- 3層 10F2.2(黒褐色)に10F2.2(黒褐色)が9%、10F2.6(こい 黄褐色)が7%、花崗岩粒が4%で混じるシルト粘土。粘性ややあり、ややしまる。
- 4層 10F2.2(黒褐色)に10F2.2(黒褐色)が9%、10F2.7(こい 黄褐色)が7%、花崗岩粒が4%で混じるシルト粘土。粘性ややあり、ややしまる。
- 5層 10F2.2(黒褐色)に10F2.2(黒褐色)が9%、10F2.8(こい 黄褐色)が7%、花崗岩粒が4%で混じるシルト粘土。粘性ややあり、ややしまる。
- 6層 10F2.2(黒褐色)に10F2.2(黒褐色)が9%、10F2.9(こい 黄褐色)が7%、花崗岩粒が4%で混じるシルト粘土。粘性ややあり、ややしまる。
- 7層 硬さもやや明るい、炭化物が4%で混じるシルト粘土。粘性ややあり、ややしまる。
- 8層 10F2.2(黒褐色)に10F2.4(こい 黄褐色)が7%、炭化物が4%で混じるシルト粘土。粘性ややあり、ややしまる。
- 9層 10F2.2(黒褐色)に10F2.2(黒褐色)が9%、10F2.3(暗褐色)が7%、花崗岩粒が4%で混じるシルト粘土。粘性ややあり、ややしまる。
- 10層 10F2.3(こい 黄褐色)に10F2.4(こい 黄褐色)が7%、10F2.5(黒褐色)が7%、炭化物が4%で混じるシルト粘土。粘性ややあり、ややしまる。
- 11層 10F2.2(黒褐色)に10F2.2(黒褐色)が9%、10F2.6(こい 黄褐色)が7%、炭化物が4%で混じるシルト粘土。粘性ややあり、ややしまる。
- 12層 10F2.2(黒褐色)に10F2.2(黒褐色)が9%、10F2.7(こい 黄褐色)が7%、炭化物が4%で混じるシルト粘土。粘性ややあり、ややしまる。
- 13層 10F2.2(黒褐色)に10F2.2(黒褐色)が9%、10F2.8(こい 黄褐色)が7%、炭化物が4%で混じるシルト粘土。粘性ややあり、ややしまる。
- 14層 10F2.2(黒褐色)に10F2.2(黒褐色)が9%、10F2.9(こい 黄褐色)が7%、炭化物が4%で混じるシルト粘土。粘性ややあり、ややしまる。
- 15層 10F2.2(黒褐色)に10F2.2(黒褐色)が9%、10F2.10(こい 黄褐色)が7%、炭化物が4%で混じるシルト粘土。粘性ややあり、ややしまる。
- 16層 10F2.2(黒褐色)に10F2.2(黒褐色)が9%、10F2.11(こい 黄褐色)が7%、炭化物が4%で混じるシルト粘土。粘性ややあり、ややしまる。
- 17層 10F2.2(黒褐色)に10F2.2(黒褐色)が9%、10F2.12(こい 黄褐色)が7%、炭化物が4%で混じるシルト粘土。粘性ややあり、ややしまる。
- 18層 10F2.2(黒褐色)に10F2.2(黒褐色)が9%、10F2.13(こい 黄褐色)が7%、炭化物が4%で混じるシルト粘土。粘性ややあり、ややしまる。
- 19層 10F2.2(黒褐色)に10F2.2(黒褐色)が9%、10F2.14(こい 黄褐色)が7%、炭化物が4%で混じるシルト粘土。粘性ややあり、ややしまる。
- 20層 10F2.2(黒褐色)に10F2.2(黒褐色)が9%、10F2.15(こい 黄褐色)が7%、炭化物が4%で混じるシルト粘土。粘性ややあり、ややしまる。
- 21層 10F2.2(黒褐色)に10F2.2(黒褐色)が9%、10F2.16(こい 黄褐色)が7%、炭化物が4%で混じるシルト粘土。粘性ややあり、ややしまる。



PJ109号住居 PJ109号住居出土遺物

PJ110号住居

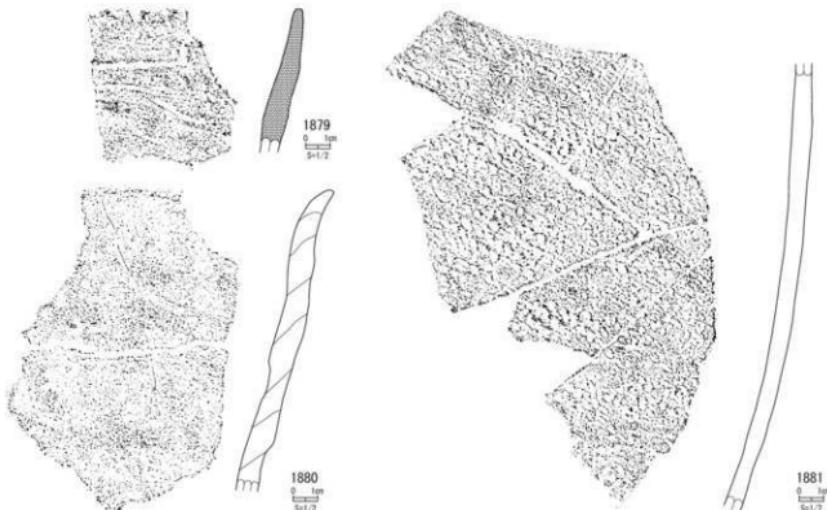
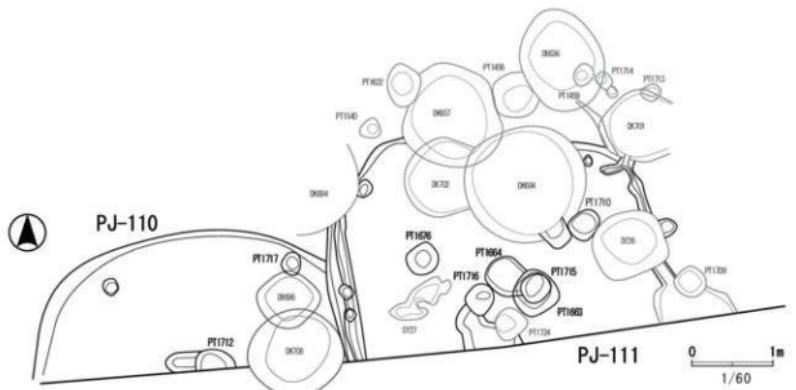
- 位 置：I-7 グリッドに位置する。PJ111号住居と重複するが新旧関係は不明である。DK696、DK708号土坑に切られる。
- 規 模：不明だが小形、円形の住居と思われる。南側は現状保存区域であるが、農地境にあたり大きく削平されているため遺構が残っていない可能性が高い。
- 埋 土：黒褐色土が堆積していた。
- 床 面：黄褐色砂質の地山を平坦に掘り込んで床面としている。踏みしまった硬化面は確認されなかった。
- 炉 焼：調査範囲では検出されなかった。
- 周 溝：検出されなかった。
- 柱 穴：北壁沿いに浅く小さなビットが検出されたが、柱穴かどうか不明である。
- 出土遺物：遺物は埋土中からまばらに出土した。中期土器破片と平安時代の土師器破片が出土したが混入である。打製石斧も中期遺物の混入と思われる。
- 出土した土器の総量は3,964gで、木島式16g、中越式1,070g、神ノ木式984g、関山式446g、有尾式71g、諸磯式590g、前期土器破片664g、中期土器破片110g、平安時代の土師器13gである。
- 出土した石器の内訳は、石鏃4点、石匙1点、打製石斧2点、台石破片1点、剥離のある剥片3点、黒曜石原石2点で、このほか黒曜石を主とする剥片・碎片84点166gが出土した。
- 時 期：遺構の時期を端的に示す遺物は出土しなかったが、土器1881、土器2059は比較的まとまって出土した。これらの土器から本住居は神ノ木式期には廃絶したと推測される。

PJ111号住居

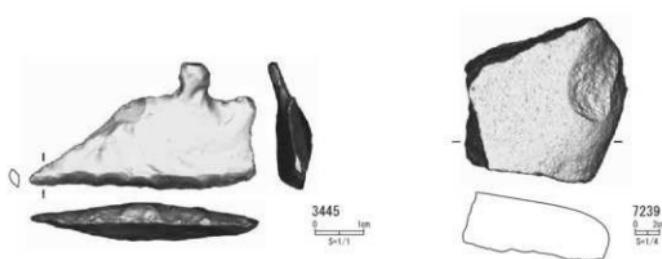
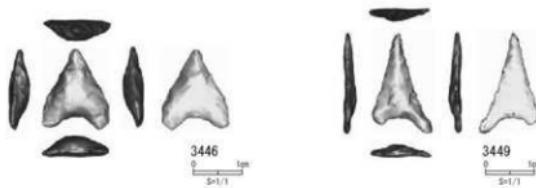
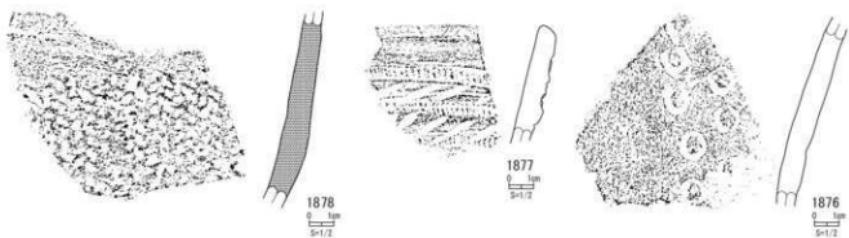
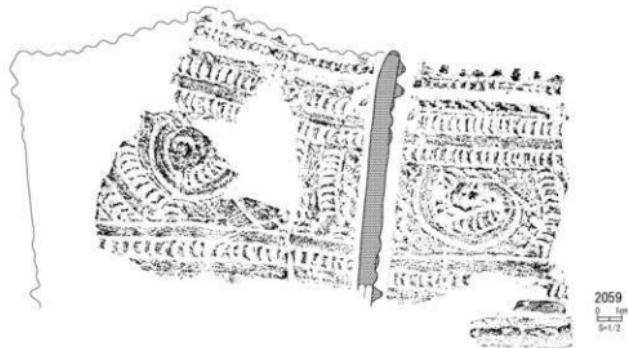
- 位 置：I-7 グリッドに位置する。PJ110号住居と重複するが新旧関係は不明である。SY026号集石土坑、DK694号土坑などに切られる。
- 規 模：不明だが小形の隅丸方形と思われる。南側は現状保存区域であるが、農地境にあたり大きく削平されているため遺構が残っていない可能性が高い。
- 埋 土：黒褐色土が堆積していた。
- 床 面：黄褐色砂質の地山を平坦に掘り込んで床面としている。踏みしまった硬化面は確認されなかった。
- 炉 焼：調査範囲では検出されなかった。
- 周 溝：検出されなかった。
- 柱 穴：住居内で検出されたビットのうち本住居の柱穴になるものはPT1676、PT1710号ビットの2基と思われる。PT1724号ビットは中期の遺構である。
- 出土遺物：中期中葉の土器破片と平安時代の土師器破片が出土している。遺構として認識できなかったが本住居に重複して当該時期の遺構があつた可能性が高い。打製石斧なども当該時期の所産であろう。
- 出土した土器の総量は14,518gで、木島式52g、中越式1,877g、神ノ木式1,781g、関山式148g、堂之上Z式7g、有尾式1,355g、釈迦堂Z式20g、諸磯式4,940g、北白川下層IIc式13g、前期土器破片3,943g、中期土器破片348g、平安時代の土師器破片26gである。
- 出土した石器の内訳は、石鏃4点、削器1点、石匙4点、両極石器1点、打製石斧3点、磨石類3点、磨製石斧1点、ハンマー1点、剥離のある剥片3点、黒曜石と石英岩の石核3点、黒曜石原石3点で、このほか黒曜石を主とする剥片・碎片204点734gが出土した。
- 時 期：遺構の時期を端的に示す遺物は出土しなかった。諸磯式土器破片が多く出土したのは当該時期の土坑多数が重複するためと思われる。土器型式ごとの出土量は、中越式、神ノ木式、有尾式がほぼ同量であるが、神ノ木式と有尾式は小破片では明瞭な識別が難しい。決め手に欠けるが神ノ木式を伴う中越式期に位置づけておきたい。

PJ110号・PJ111号住居 土坑ピット一覧表

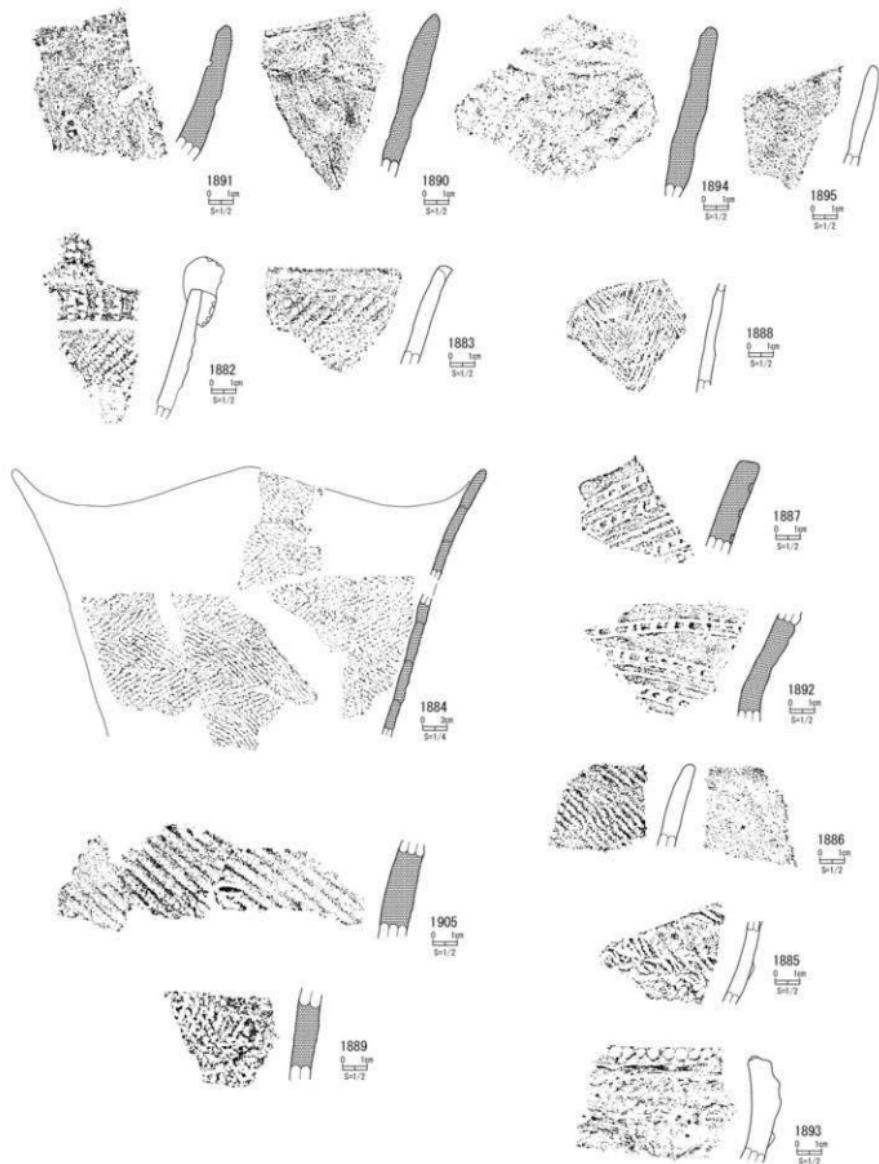
遺構番号	位置	大きさ	深さ	埋土色	備考(遺物など)
PT-1663	111住内	50×60	29	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/2(黒褐色)が5%、炭化物が5%混じる。シルト粘土。ややしまる。	神ノ木式、漆職b式
PT-1664	111住内	48×42	23	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/2(黒褐色)が5%、混じる。	中越式、神ノ木式、有花式、漆職b式
PT-1676	111住内	36×35	54	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/2(黒褐色)が混じる。	
PT-1710	111住内	33×33	30	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/2(黒褐色)が混じる。	
PT-1712	110住内	43×25	52	10YR3/4(暗褐色)に10YR4/4(褐)が5%混じる。シルト粘土。ややしまる。完掘	中越式
PT-1715	111住内	33×35	53	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/2(黒褐色)が混じる。	神ノ木式、漆職式
PT-1716	111住内	31×38	16	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/2(黒褐色)が混じる。	
PT-1717	110住内	24×22	16	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/2(黒褐色)が混じる。	



PJ110号・PJ111号住居 PJ110号住居出土遺物



PJ110 号住居出土遗物



PJ111 号住居出土遺物



PJ111 号住居出土遺物

PJ110 号住居 土器観察表

実測番号	注記	部位	口径 cm 縦	器高 cm 横	底径 cm 厚さ	重量	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
1876	PJ-110 5	腹部				68.0	破片	2.5194/6 2.5194/4	床面から 16cm 深いで出土。竹管の円形刺突文。縄文。内面ヨコナギ。諸種 a式
1877	PJ-110	口縁部				33.0	破片	2.5194/6 2.5194/3	押引文、刻み隆帯。内面ミガキ。諸種 b式
1878	PJ-110 2	腹部				74.0	破片	7.5196/6 5196.6	床面から 14cm 深いで出土。粗糲。内面ヨコナデミガキ。胎土に織維を含む。簡山式
1879	PJ-110	口縁部				38.0	破片	7.5195/3 7.5195/4	内外面整形の凹凸がやや残る。胎土に織維を含む。中越式
1880	PJ-110 3, PJ-110 6	口縁部～胴部				127.0	破片	5195.6 5195.4	床面から 8cm 深いで出土。内外面に整形の凹凸が残る。内面指頭圧痕。胎土に織維を含まない。中越式
1881	PJ-110 7, PJ-110, PJ-96, I-G-7031, I-G-7046, I-G-7	腹部				589.0	破片	5195.4 7.5194/3	床面から 5cm 深いで出土。複数縄文。内面ナデミガキ。胎土に織維を含まない。神ノ木式
2059	PJ-110 1, PJ-110, PJ-96, PJ-104, PJ-111, PJ-113, I-G-7031, I-G-7071, K-6-4	口縁部～胴部	(16.0)			362.0	破片	7.5197/4 7.5195/3	床面から 14 ~ 18cm 深いで出土。同一個体の破片が各所から出土。口縁部に臼状突起。口縁削落帯上に縄文押捺。竹管引きと平行沈線による曲線文。破片下端にも隆帯。口縁部文様帶に縄文地文。内面ミガキ。胎土に織維を含む。簡山式

PJ110 号住居 石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
3443	PJ-110	打製石斧	頁岩	1/2	90.0	55.0	20.0	109.90	基部例を欠損。黄褐色化し使用痕不明瞭だが刃部は摩耗か。両極打法による
3444	PJ-110	打製石斧	粘土質頁岩					72.00	基部と刃部を欠く断片。円錐面が残る。両極打法による製作
3445	PJ-110	石鎚	珪質頁岩	1/1	27.0	47.0	7.0	6.80	片刃。尖った端部は欠か。且立った使用痕なし。稚灰色珪質頁岩
3446	PJ-110	石鎚	黒曜石	1/1	17.0	14.2	4.3	0.67	凹基。両面加工。片面に主剥離面が残る。黒曜石に透明黒曜石
3447	PJ-110	石鎚	黒曜石	3/4	17.4	14.0	4.4	1.06	未成品。剥片の縁辺を調整し始めた段階。黒筋のある透明黒曜石
3448	PJ-110	石鎚	黒曜石	1/2	20.0	17.1	4.0	0.93	未完成。基部欠損。三角形状ができた段階。剥片末材。透明黒曜石
3449	PJ-110	石鎚	黒曜石	3/4	21.5	(13.0)	2.7	(0.32)	凹基。細身。片面は縁辺調整のみ。片端欠損。黒筋のある透明黒曜石
4494	PT-1717	剥離のある 剥片	鉄石英	1/1	41.0	28.0	9.0	8.50	PT-1717 出土。剥片の薄い縁辺に微小剥離。赤褐色の鉄石英
7239	I-G-7049	台石	安山岩類	破片	(13.3)	(14.8)	(5.7)	1323	平坦面がある剥片。平坦面は平滑に摩擦。多孔質安山岩
7274	I-G-7031	原石	黒曜石	1/1				14.80	タール状の河川転石
7275	I-G-7031	原石	黒曜石	1/1				23.70	ズリ。白筋、白斑のある漆黒曜石
7276	I-G-7031	剥離のある 剥片	黒曜石	1/1				2.30	やや厚手の剥片の対抗する 2 面に剥離剥離。両端石器か? 基準状透明黒曜石
7282	I-G-7032	剥離のある 剥片	珪質頁岩	1/1	32.0	31.0	7.0	8.20	両極打法による調整がある剥片。灰色珪質頁岩。搬入石材

PJ111 号住居 土器観察表

実測番号	注記	部位	口径 cm 縦	器高 cm 横	底径 cm 厚さ	重量	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
1882	PJ-111	口縁部				24.0	破片	5196.6 5196.6	口縫間に突起。紀源口縫。断面状工具の刺突。縄文。内面ヨコナデ。胎土に織維を含まない。神ノ木式
1883	PJ-111	口縁部				19.0	破片	2.5196/4 2.5194/2	やや角張った口縁部。縄文。内面ヨコナデ。胎土に織維を含まない。神ノ木式
1884	PJ-111, PJ-02	腹部				329.0	破片	7.5196/4 7.5194/2	同一個体が PJ-02 から出土。接合。羽状縄文。内面整形の凹凸がやや残るヨコナデ。胎土に織維を少量含む。有尾式
1885	PJ-111	腹部				13.0	破片	7.5196/4 7.5194/2	扁平腰帯に剥片。縄文。内面指頭圧痕。器壁薄手。胎土に織維を含まない。北白川下段Ⅱ式
1886	PJ-111	口縁部				14.0	破片	5196/4 5196/4	尖った口唇部。縄文。内面指頭圧痕。胎壁は薄手。胎土に織維を含まない。浜田式
1887	PJ-111	口縁部				17.0	破片	5196.6 5195.4	竹管刺突。内面ミガキ。胎土に織維を含む。有尾式
1888	PJ-111	腹部				11.0	破片	7.5197/4 7.5195/3	縄衝縫の条縁文。内外面に指頭圧痕。器壁は薄手。胎土に織維を含まない。木島式

PJ111号住居 土器観察表

実測番号	注記	部位	口径 cm 縦	器高 cm 横	底径 cm 厚さ	重量	残存度	胎土色調 上段：内部 下段：外部	備考
1889	PJ-111	胴部				19.0	破片	7.5YR4/4 7.5YR6/4 5YR3/2	羽状縞文。内面ミガキ。胎土に繊維を含む。蘭山式
1890	PJ-111	口縁部				33.0	破片	7.5YR6/4 5YR3/2	波状口縁。内外面に整形の凹凸が残る。胎土に繊維を含む。中越式
1891	PJ-111	口縁部				31.0	破片	5YR5/4 5YR4/3	内外面に整形の凹凸が残る。内圓風化。胎土に繊維を含む。中越式
1892	PJ-111	胴部				23.0	破片	7.5YR4/4 7.5YR4/3	竹管押引文。内面ミガキ。胎土に繊維を含む。有尾式
1893	PJ-111	口縁部				41.0	破片	2.5YR6/6 5YR4/4	口唇部に刻み、刻み縁帯。内面ミガキ。諸種b式
1894	PJ-111	口縁部				45.0	破片	5YR5/6 5YR4/2	波状口縁か。内外面に整形の凹凸が残る。胎土に繊維を含む。中越式
1895	PJ-111	口縁部				12.0	破片	7.5YR6/4 7.5YR5/3	内外面に指輪圧痕がやや残るナデ調整。器壁は中厚手。胎土に繊維を含まない。中越式
1905	PJ-111	胴部				57.0	破片	5YR6/6 7.5YR6/4	網文。内面ミガキ。胎土に繊維を含む。蘭山式

PJ111号住居 石器観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
3430	PJ-111	打製石斧	頁岩	3/4	91.0	46.0	9.0	59.10	刃部欠損。器面が風化し使用痕不明
3431	PJ-111	打製石斧	頁岩	破片				23.10	剥離するように折損した打製石斧の断片。風化し使用痕不明
3432	PJ-111	削器	チャート	1/1	42.0	71.0	13.0	32.10	縫隙に残る片剝の薄い辺に片刃の刃部。尖った端部に摩耗。石錐と削器の合成立石器か。暗灰色チャート
3433	PJ-111	原石	黒曜石					22.10	ズリ・漆黒黒曜石
3434	PJ-111	石匙	珪質頁岩	3/4	30.0	44.0	7.0	7.00	片刃。刃部にガソリ、灰色珪質頁岩。搬入石材
3435	PJ-111	石匙	黒曜石	1/2				4.60	板状竹理石材。刃部は片刃。未成品か。両側縫欠損。漆黒黒曜石
3436	PJ-111	剥離のある 剥片	頁岩	1/1	54.0	30.0	3.0	9.80	薄い板状剥片に微小剥離。風化し使用痕不明
3437	PJ-111	石鏃	黒曜石	1/2	-	-	4.2	(1.39)	未成品。凹基、両面加工。先端、片端欠損。最終調整段階。漆黒黒曜石
3438	PJ-111	石匙	黒曜石	1/1	15.8	35.7	3.5	1.63	ミニチュア石匙。縦型。灰色筋のある黒曜石
3439	PJ-111	剥離のある 剥片	黒曜石					0.90	剥片の1辺に限局剥離、1辺に微小剥離。透明系黒曜石
3440	PJ-111	両極石器	黒曜石	1/1	21.0	7.0	6.0	0.80	小さな碎片の両端に弱い衝撃剥離。透明系黒曜石
3441	PJ-111	石鏃	黒曜石	破片				(0.19)	石鏃剥離と思われる断片。透明系黒曜石
7241	16-7066	磨製石斧	砂岩類	1/2	(7.4)	5.0	(2.8)	153	刃部削片、側面が衝突状になる。刃部に幾小剥離、縫条痕。ガソリ。器面が暗赤褐色～茶色。鍛錬式焼成磨製石斧か。硬砂岩
7289	16-7033	打製石斧	砂岩類	破片	72.0	36.0	7.0	17.90	第3面で研削した断片。風化し使用痕不明
7290	16-7033	石匙	頁岩	1/1	42.0	37.0	11.0	12.60	二等辺三角形。黒色で質な頁岩
7291	16-7033	石鏃	石英岩	1/1	48.0	39.0	19.0	32.00	打撃痕あり。灰色の石英岩
7292	16-7033	石鏃	黒曜石	3/4	22.1	19.5	4.5	1.50	未成品。画面加工。三角形状ができた剥離。片側縫欠損。黒斑入りの葛状半透明黒曜石
7293	16-7033	剥離のある 剥片	黒曜石	1/1	39.0	29.0	9.0	8.90	薄い板状のズリ素材に調整剥片。透明系黒曜石
7294	16-7033	石核	黒曜石	1/1	30.0	23.0	19.0	12.30	両端打抜による打撃痕。透明系黒曜石
7295	16-7033	石核	黒曜石	1/1	37.0	27.0	20.0	15.90	ズリを因縁から打石等、分割。漆黒黒曜石
7296	16-7033	原石	黒曜石	1/1	39.0	36.0	24.0	18.10	ズリ、灰色筋がある半透明黒曜石
7297	16-7033	磨石類	安山岩	1/2	(6.6)	5.0	3.4	122	椭円形。広い2面に敲打集中の凹みが長軸方向に並ぶ。両側面にも深い打撃痕。器面風化し摩耗は観察できない。
7298	16-7095	磨石類	花崗岩	1/1	7.2	14.2	8.7	1208	不整規円錐。1種に敲打による平坦面。
7299	16-7034	原石	黒曜石	1/1				4.80	ズリ・透明系黒曜石
7300	16-7034	石鏃	黒曜石	3/4	15.8	(10.3)	3.5	(0.37)	小形、凹基、両面加工、片脚欠損。透明系黒曜石
10432	PJ-111	磨石類	安山岩類	破片				172	円錐の平坦な1面が消耗
10433	PJ-111	ハンマー	砂岩類	破片				69	棒状亜角錐の刃端が欠損。片端面に打痕。細粒緻密な砂岩

第2節 堀立柱建物

縄文時代と平安時代の堀立柱建物跡14棟を検出した。H0001とH0002号は平安時代の堀立柱建物、H0003とH0004号は縄文時代の堀立柱建物で、それぞれ現地調査で検出した。H0005からH0007号までは縄文時代の堀立柱建物で、調査記録の整理作業で設定した。柱間間隔は柱穴の中心間を計測した。

HO-001号堀立柱建物

F-4グリッドに位置する。2間×2間の建物で、PT001、PT002、PT003、PT004、PT005、PT006、PT007、PT008号ピットで構成される。柱間間隔は1.5mから2.15mと幅がある。建物の主軸方向と位置関係から、PH001号住居と同時に併存して機能した建物と思われる。

HO-002号堀立柱建物

G-3グリッドに位置する。PT009、PT010、PT011、PT013、PT871号ピットの5基のみを検出した。柱間間隔は2mから2.2mで、HO-001号堀立柱建物と同等である。おそらくHO-001号堀立柱建物と同じ2間×2間の建物と推測される。PH001号住居の床面を切ってPT009とPT013号ピットが掘り込まれており、本建物が新しい。本建物と対になる平安時代住居は検出されていない。削平され失われた可能性があろう。

HO-003号堀立柱建物

F-3グリッド、PJ024号住居南に位置する。DK134、DK123、DK120、DK34号土坑、PT218、PT294号ピットの6基で構成される。1間×2間の細長い建物で、柱間は短軸方向が3mから3.7m、長軸方向が3.9mから4.5mとばらつきがある。柱穴の深さは40cmから75cmである。DK34号土坑で諸磯b式土器破片、黒曜石原石1点が出土した。

HO-004号堀立柱建物

I-7グリッドからI-8グリッドにかけて位置する。PJ102、PJ108、PJ113号住居を切る。SY017号集石土坑に切られる。PT1568号ピット、DK660号土坑、PT1684、PT1718、PT1458、PT1665号ピットの6基で構成される。1間×2間の建物だが、短軸方向の柱間が狭く、本当に建物跡か確信がない。柱穴の深さは40cmから58cmである。PT1684号ピットで中期土器破片が出土する一方、PT1458号ピットは諸磯b式期のSY017号集石土坑に切られていて、時期の位置づけに齟齬が生じている。

HO-005号堀立柱建物

F-3グリッドに位置する。PJ024号住居と重複する。PT283、PT275、DK121、PT217、DK129、PT252の6基で構成される1間×2間の長方形建物である。柱間間隔は短軸方向が2.7mから2.8m、長軸方向が2.3mから2.6mで、柱穴の深さは39cmから55cmである。PT283号ピットはPJ024号住居の床面で検出された。埋土色はPJ024号住居の柱穴と大きく変わらず、確認面に貼床が施され、あるいは硬く踏みしまった状況は認められなかった。PT283以外で、諸磯式土器が小破片ながらまとまって出土している。

HO-006号堀立柱建物

E-3グリッドからF-3グリッドにかけて位置する。PJ024号住居と重複する。PT284、PT365、PT364、PT403、PT207、PT359、PT347、PT220号ピットの8基で構成される亀甲型の建物跡である。柱間間隔は短軸方向が2.9mから3.1m、長軸方向が1.7mから2.6mである。深さは24cmから48cmである。PT284号ピットがPJ024号住居の床面で検出された。検出面に貼床が施され、あるいは硬く踏みしまった状況は認められず、埋土色はPJ024号住居の柱穴と大きく変わらない。PT365、PT403、PT207、PT359、PT220号ピットで、縄文土器小破片、中越式土器小片、諸磯式土器小片が出土している。

HO-007 号掘立柱建物

F-3 グリッド周辺、PJ024 号住居南側に位置する。PT229、PT276 号ピット、DK119、DK118 号土坑、PT205 号ピットの 5 基で構成される長方形の建物跡で、残る 1 基は調査区外である。柱間間隔は短軸方向が 1.9m から 2.1m で、長軸方向が 3.2m から 4.2m である。柱穴の深さは 34 cm から 60 cm である。DK118、DK119 号土坑で諸磯式土器破片が出土している。

HO-008 号掘立柱建物

F-3 グリッド周辺、PJ024 号住居南側に位置する。H0003 号、H0005 号、H0007 号掘立柱建物などと重複する。PT343、PT348、PT215、PT179 号ピット、DK116 号土坑、PT230 号ピットの 6 基で構成される長方形建物である。柱間間隔は短軸方向が 2.5m から 2.7m、長軸方向が 2.3m から 3.5m とややばらつく。柱穴の深さは 34 cm から 57 cm である。DK116 号土坑で中期と思われる土器破片が出土したほか、他の柱穴では諸磯式土器が出土している。

HO-009 号掘立柱建物

F-3 グリッド、PJ024 号住居西側に位置する。DK133 号土坑、PT204、PT206、PT213、PT295 号ピット、DK111、DK115 号土坑の 7 基で構成される細長い建物である。もう 1 基の柱穴は調査区外である。PT295 号ピットは H0010 号掘立柱建物と共通する。柱間間隔は短軸方向が狭く 1.5m で、長軸方向は 2.1m から 2.2m である。柱穴の深さは 32 cm から 64 cm である。DK115 号土坑で中越式土器破片がまとまって出土した。

HO-010 号掘立柱建物

F-3 グリッド周辺、PJ024 号住居西側に位置する。PT277、PT282、PT369、PT295、PT203 号ピットの 5 基で構成される長方形の建物跡である。残る柱穴 1 基は調査区外である。柱間間隔は短軸方向が 2.2m、長軸方向が 1.8m から 2.7m とばらつく。柱穴の深さは 27 cm から 41 cm である。PT295 号ピットは H0009 号掘立柱建物と重複している。

HO-011 号掘立柱建物

E-4 グリッドから F-4 グリッド、PJ024 号住居と PJ008 号住居の間に位置する。PT227 号ピット、DK86 号土坑、PT138 号ピット、DK63 号土坑、PT224 号ピット、DK186 号土坑の 6 基で構成される 1 間 × 2 間の長方形建物跡である。柱間間隔は短軸方向が 3m から 3.6m、長軸方向が 2.9m から 3.4m、柱穴の深さは 20 cm から 43 cm である。DK86 号土坑では径 25 cm 程度の柱痕が検出された。

HO-012 号掘立柱建物

E-4 グリッドから F-4 グリッド、PJ024 号住居と PJ004 号住居、PJ008 号住居の間に位置し、H0011 号掘立柱建物と重複する。PT169 号ピット、DK75、DK69 号土坑、PT65、PT397、PT362 号ピットの 6 基で構成される 1 間 × 2 間の長方形建物跡である。柱間間隔は短軸方向が 3.9m、長軸方向が 2.4m から 2.9m で、柱穴の深さは 13 cm から 52 cm とばらつきがある。DK75 号土坑は PJ008 号住居柱穴と重複する。

HO-013 号掘立柱建物

F-3 グリッド、PJ024 号住居南側に位置する。DK134、DK189、DK125、DK122、PT216、PT294 の 6 基で構成される 1 間 × 2 間の長方形建物で、DK134 号土坑と PT294 号ピットは H0003 号掘立柱建物と重複する。柱間寸法は短軸方向が 3.7m から 3.8m、長軸方向が 2.2m から 2.4m で、深さは 23 cm から 42 cm である。柱穴 PT216 が H0005 号掘立柱建物の柱穴 PT217 を切ることから、本建物が H0005 号掘立柱建物より新しいと思われる。

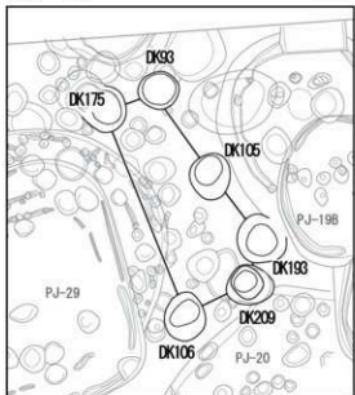
HO-014 号掘立柱建物

H-3 グリッド、PJ017 号住居の東側に位置し、PJ017 号住居と重複する。DK93、DK105、DK193、DK209、DK106、DK175 号土坑で構成される亀甲型の建物跡である。もう 2 基の柱穴は PJ017 号住居に切られて失われているらしいが、PJ017 号住居の記録写真を見直すと、DK105 号土坑の西側、対になる位置に円形、黒色の落ち込みが確認される。PJ017 号住居調査時には浅い落ち込みであったため遺構と認識しなかったが、本建物の柱穴である可能性が高い。この柱穴の可能性がある落ち込みは検出面で PJ017 号住居の黄褐色貼床が乗っていたから、本建物が住居に先行すると思われる。残る 1 基は PJ017 号住居の貯蔵穴 DK188 号土坑に重なる付近にあるはずだが、こちらは写真を見直しても判然としない。

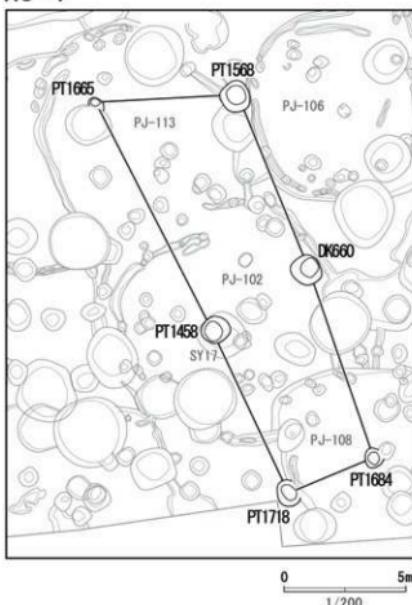
確実に検出された柱穴でみると柱間寸法は短軸方向が 2.2m、長軸方向が 1.8m から 1.9m で、柱穴の深さは 40 cm から 72 cm である。棟持柱にあたる DK209 号土坑が 25 cm と浅い。



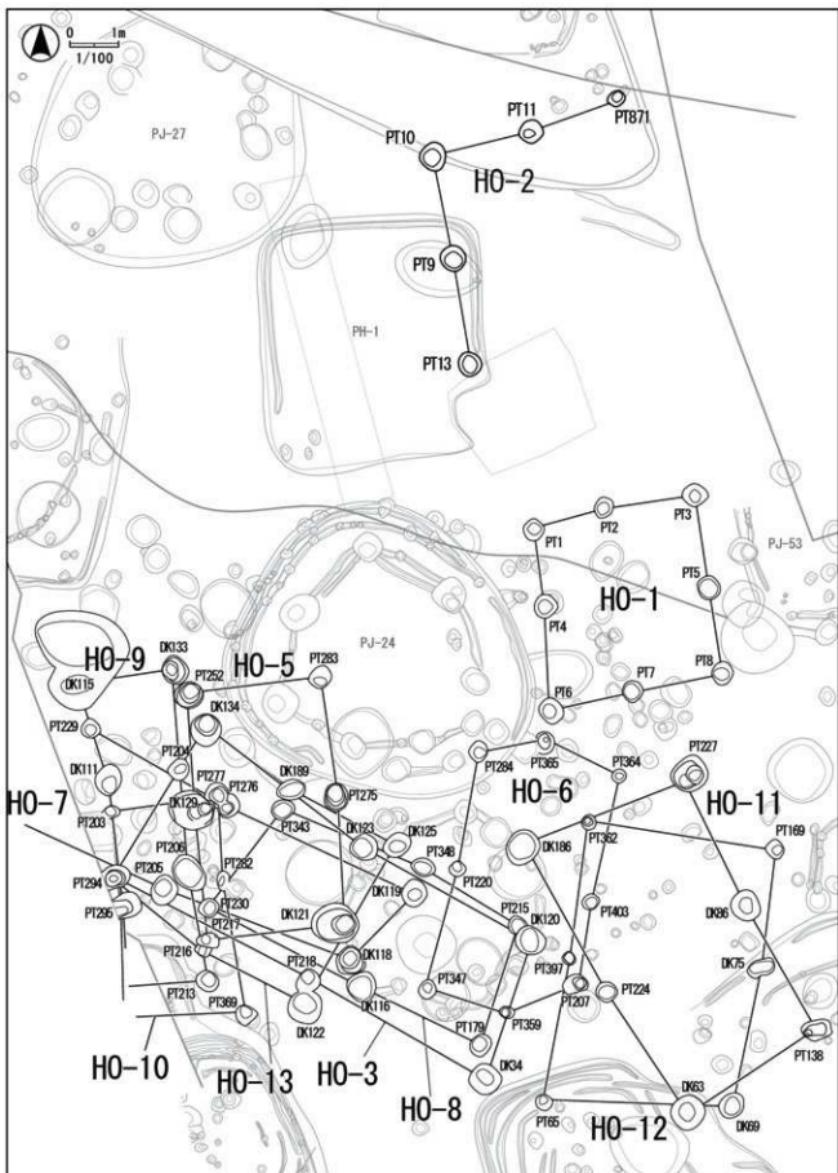
HO-14



HO-4



掘立柱建物位置図



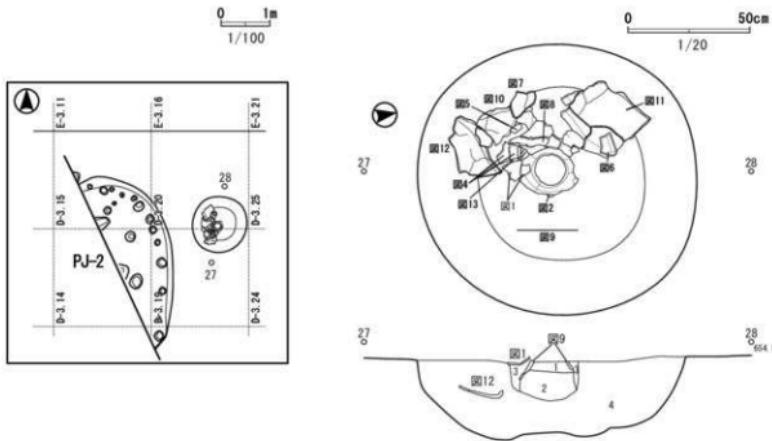
据立柱建物位置図

第3節 土器埋設土坑・土坑・ピット

本調査では土器を埋設した土坑1基(MD001)、土坑721基、ピット999基を検出した。住居に付属する施設、柱穴を除いた土坑とピットで、特に重要なと思われる遺構を報告する。紙数の制限のため報告文、図版、観察表を添付DVDに収録した。

MD001 号土器埋設土坑

- 位 置:D-3 グリッド、PJ002 号住居東側で検出された。
- 規 模: 径 1.1m の不整円形の掘り方で、逆位に埋設した土器の胴部中位の破片が出土した。この土器の周囲には同一個体の口縁部破片が、内面を上にしていること以外は規則性なく出土した。
- 埋 土: 掘り方の埋土は暗褐色を基調とした埋土で、埋設土器の内部の埋土はやや暗い印象がある程度で、顕著な違いは認められなかった。
- 出土遺物: 出土した土器 2829 は浮線文を貼付し、口縁部に渦巻文、胴部に横位のタガ状文を施す。口縁部には賦面突起が退化した円形貼付文があり、胴部には縄文地文を施す。これと別に集合沈線で口縁部文様帯を施す。やや新相の土器破片 2889 も出土した。
- 時 期: 出出土器から諸磧 b 式中段階に位置づけられる。

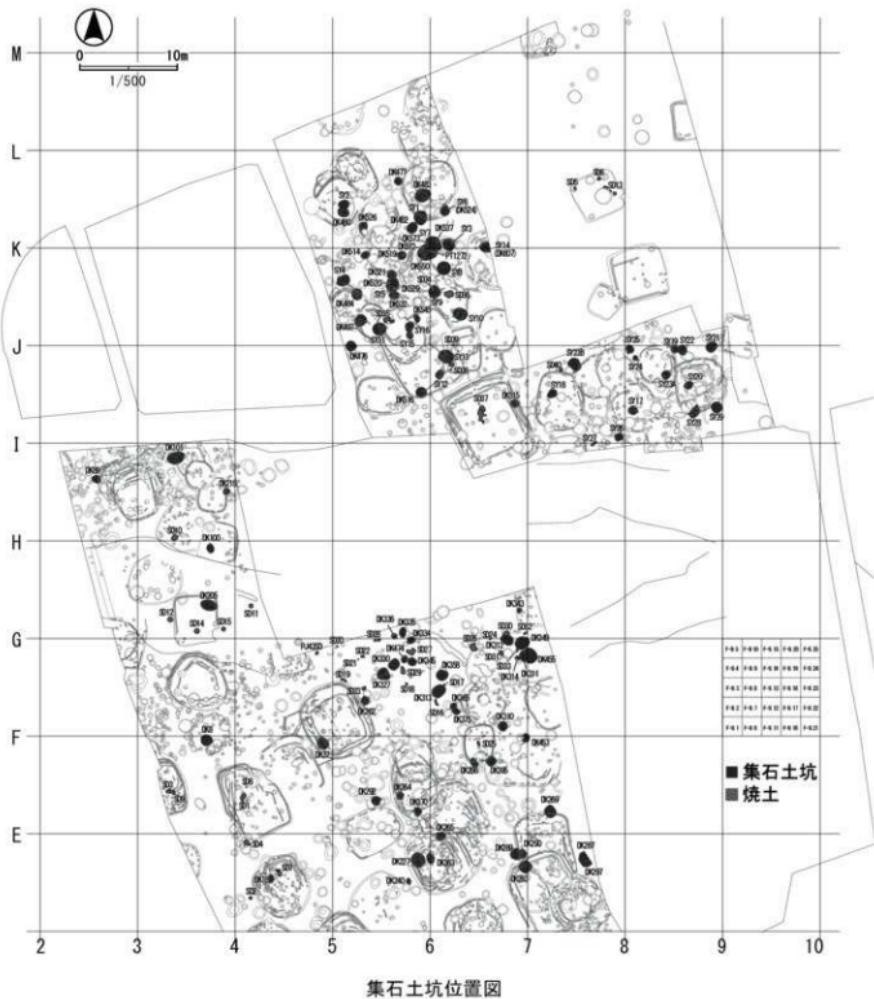


- 1層 10R3/4(深層)に10R5/6(黄褐色)が混じるシルト粘土。粘性ややあり。しまる。
2層 10R3/4(深層)に10R5/6(黄褐色)が7%、炭化物が1%、鐵土が1%以下、混じるシルト粘土。粘性ややあり。
3層 10R3/4(深層)に10R5/6(黄褐色)が5%、炭化物が1%以下、混じるシルト粘土。粘性ややあり。しまる。
4層 10R3/4(深層)に10R5/6(黄褐色)が7%、炭化物が6%、花崗岩の小砾が7%混じるシルト粘土。粘性ややあり。しまる。
地山 10R5/6(黄褐色)に10R4/4(深層)が汚じるシルト粘土。粘性あり。しまる。

MD001 号土器埋設土坑

第4節 集石土坑（SY）

堰口遺跡の今次調査では、84基の集石土坑を検出した。集石土坑は一般に焼石を用いた調理施設と考えられているが、本報告では調理施設と判断できるもの以外の縦の集中を伴う土坑も集石土坑として扱う。遺構確認面で集石土坑と判断したものは「SY」（集石土坑）の略号を付した。土坑と認定したうえで、調査途上で集石土坑と判断したものは、「DK」（土坑）の略号のままとした。



集石土坑位置図

集石土坑一覧表

遺構番号	位置	大きさ	深さ	覆土色	備考(遺物など)
SY-001	K-5-22	150×135	30	10YR3/2(黒褐色)に10YR4/4(褐色)が混じる。炭化材層あり	PJ07を切る。DK62と隣接。中継式
SY-002	K-5-3	120×90	20	10YR3/2(黒褐色)に10YR4/4(褐色)が混じる	PJ06を切る。DK60と隣接。集石はまばら。底面緩りすぎ。
SY-003	K-6-6	140×125	20	10YR2/2(黒褐色)に10YR2/3(黒褐色)が混じる。炭化材が少量混じる。	PJ08を切る。
SY-004	J-5-4	145×110	25	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が混じる。炭化材片、焼土粒子が混じる。	底面に大きな花崗岩塊。PJ077、DK523、DK556を切る。
SY-005	J-5-19				複数基の集石土坑が重複か。集石下部で検出した振り方を DK520、DK521、DK522、DK523とした。PJ076と PJ073を切る。
SY-006	K-6-2				振り方は DK524とした。PJ07を切る。
SY-007	J-5-25	210×170	36	10YR3/2(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が混じる。炭化材が混じる。	複数の集石土坑の集合か。PJ80、PJ81、DK537、DK550、DK572、DK573、PT1272を切る。隣接 b式。
SY-008	J-6-4	122×16	60	10YR2/3(黒褐色)に花崗岩が50%、10YR3/2(暗褐色)が10%、砂岩と炭化物が5%、焼土が5%混じる。シルト粒土。しまる。	PJ81を切る。中心に大きな砾
SY-009	J-6-3	180	25	10YR2/1(黒)に10YR3/3(暗褐色)が15%、花崗岩粒子が5%混じる。シルト粒土。粘性なし。ややしまる。	PJ80、PJ81、DK04を切る。
SY-010	J-6-7	150×125	20	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/2(暗褐色)が20%、10YR5/4(にじみ黄褐色)が5%、10YR5/6(黄褐色)が1%、炭化物が10%炭化物層を含む。花崗岩粒子が5%混じる。シルト粒土。粘性なし。ややしまる。	PJ83、PJ101を切る。底面から炭化材出土
SY-011	J-5-11				PJ89、PJ96を切る。やや乾燥な集石。振り方は検出されず
SY-012	I-6-4	100×80	20	10YR2/4(暗褐色)に10YR3/3(黒褐色)が10%、10YR4/3(にじみ黄褐色)が5%、炭化物が5%、花崗岩粒子が1mm以下に。混じる。シルト粒土。粘性やややあり。しまる。	PJ82を切る。
SY-013	I-6-5	160×135	45	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/4(暗褐色)が5%、10YR2/2(黒褐色)が5%炭化物が30%混じる。シルト粒土。粘性やややあり。ややしまる。	PJ82を切る。底面に大きな花崗岩塊
SY-014	J-6-15	170	35	10YR2/2(黒褐色)に炭化物が40%混じる。シルト粒土。粘性なし。しまる。	PJ84埋土中で検出。PJ84を切る。振り方は DK607とした。
SY-015	J-5-16	90×75	20	10YR3/4(暗褐色)に10YR2/3(黒褐色)が20%、炭化物が10%混じる。シルト粒土。粘性やややあり。ややしまる。	SY016に切られる。PJ86を切る。
SY-016	J-5-16	110×95	30	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/4(暗褐色)が10%、炭化物が20%混じる。シルト粒土。粘性やややあり。ややしまる。	SY015と PJ82を切る。
SY-017	I-8-2	102×88	52	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が10%、炭化物が5%混じる。シルト粒土。粘性やややあり。しまる。	PJ102を切る。振り力界面が焼土化
SY-018	I-7-8	115×92	27	10YR2/3(黒)に10YR2/3(黒褐色)が20%、10YR4/4(褐色)が10%混じる。シルト粒土。粘性やややあり。しまる。	PJ104を切る。
SY-019	I-8-15	78	13	10YR4/4(黒)に10YR2/4(暗褐色)が20%、10YR3/3(にじみ黄褐色)が5%、炭化物が5%、花崗岩粒子が1mm以下に。混じる。シルト粒土。粘性やややあり。ややしまる。	SY022と重複し。SY022を切る。
SY-020	I-8-18	98×82	13	10YR3/4(暗褐色)に10YR2/3(黒褐色)が5%、炭化物が3%混じる。シルト粒土。粘性やややあり。ややしまる。	PJ107を切る。
SY-021	I-8-25	124×103	22	10YR2/1(黒褐色)に10YR2/2(黒褐色)が30%、10YR5/3(黄褐色)が10%、炭化物が5%混じる。シルト粒土。粘性なし。しまる。	SY019と重複し。SY019に切られる。
SY-022	I-8-15	108×92	25	10YR4/4(暗褐色)に10YR4/3(にじみ黄褐色)が5%、炭化物が5%、花崗岩粒子が5%混じる。シルト粒土。粘性やややあり。ややしまる。	SY019と重複し。SY019に切られる。
SY-023A	I-8-14	93	30	10YR2/4(暗褐色)に10YR2/3(暗褐色)が10%、10YR3/3(黒褐色)が10%、炭化物が5%、花崗岩粒子が5%混じる。シルト粒土。粘性やややあり。ややしまる。	PJ105を切る。底面に炭化材。大きさと深さは PJ106 号住居床面での計測値
SY-023B	I-7-14	143×120	30	10YR2/3(黒褐色)に10YR2/3(暗褐色)が10%、炭化物が10%混じる。シルト粒土。粘性なし。ややしまる。	DK688に切られる。雙面が焼土化。底面に炭化材
SY-024	I-6-5	?	?	10YR3/3(黒褐色)に10YR2/2(黒褐色)が20%、10YR4/4(褐色)が10%、10YR5/6(黄褐色)が5%、混じる。シルト粒土。粘性やややあり。ややしまる。	PJ108に切られる。
SY-025	I-8-5	90	11	10YR2/3(黒褐色)に10YR4/4(暗褐色)が30%、10YR2/3(黒褐色)が5%、10YR5/6(黄褐色)が5%、混じる。シルト粒土。粘性やややあり。ややしまる。	SY024に隣接。大きさの計測値は底面の値
SY-026	I-7-21	90	40	10YR2/3(黒褐色)に10YR5/6(黄褐色)が1%、炭化物が5%、混じる。シルト粒土。粘性あり。ややしまる。	PJ111を切る。集石が周囲に散らばっていた。
SY-027	I-7-16	?	?	10YR2/3(黒褐色)に10YR2/2(黒褐色)が20%、10YR4/4(褐色)が3%、混じる。シルト粒土。粘性やややあり。ややしまる。	PJ111を切る。集石が周囲に散らばっていた。
SY-028	I-8-17	130	30	10YR2/3(黒褐色)に10YR2/2(黒褐色)が15%、10YR5/4(にじみ黄褐色)が7%、炭化物が5%、混じる。シルト粒土。粘性やややあり。ややしまる。	DK679、DK691に切られる。PJ107を切る。
SY-029	I-8-22	90	7	10YR2/3(黒褐色)に10YR2/2(黒褐色)が15%、10YR5/4(にじみ黄褐色)が10%、10YR5/6(黄褐色)が5%、炭化物が5%、混じる。シルト粒土。粘性あり。ややしまる。	PJ107を切る。
DK-008	E-3-20	122×116	70	10YR2/3(黒褐色)に花崗岩が5%、10YR3/3(暗褐色)が10%、砂岩と炭化物が5%、焼土が5%混じる。シルト粒土。しまる。	PJ32と重複。深い集石土坑で、壁面が焼土化。底面に炭化材散布している。壁は花崗岩が生。諸焼式、中継土器片
DK-018	D-4-8	76×81	18	10YR2/3(黒褐色)に花崗岩小種が3%、焼土と炭化物が1%混じる。シルト粒土。しまる。	PJ006を切る。中継式、木鳥式、諸焼式土器小片

集石土坑一覧表

遺構番号	位置	大きさ	深さ	覆土色	備考(遺物など)
DK-037	E-4-25	133×113	25	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/4(暗褐色)が10%、炭化物が10%、焼土が5%、混じる。シルト粘土。粘性ややあり。しまる。	PJ40を切る。中越式、神ノ木式、諸礎式。石頭2点、磨石類1点
DK-069	H-2-14	100×80	13	10YR2/3(暗褐色)に10YR2/3(黒褐色)が30%、混じる。シルト粘土。	PJ018を切る。諸礎b式土器破片
DK-100	G-3-20	96×70	36	10YR2/2(黒褐色)に10YR2/4(暗褐色)が10%、10YR4/6(褐)と炭化物が2%、焼土が15%、混じる。シルト粘土。ややしまる。	PJ6Bを切る。集石は少数。中越式、神ノ木式、有尾式、諸礎式、磨石類2点
DK101	H-3-10	178×122	18	黑褐色土。黒化した花崗岩の碎粒が多量に混じる。	PJ19を切る。中越式、神ノ木式、諸礎式。石頭1点、黒曜石
DK-205	G-3-17	182×113	10	5%、炭化物が3%、焼土が5%、混じる。花崗岩碎粒が5%、混じる。シルト粘土。粘性ややあり。固くしまる。	中越式、諸礎式、磨石類2点
DK-211	F-13-3	140×129	34	10YR2/1(黒)に10YR2/2(黒褐色)が10%、10YR2/3(黒褐色)が2%、炭化物が5%、混じる。シルト粘土。粘性なし。しまる。	中越式、有尾式、諸礎式、磨石類、黒曜石剝片
DK-215	H-3-23	77	11	10YR2/2(黒褐色)に10YR2/4(暗褐色)が20%、10YR5/6(黄褐色)が10%、混じる。焼土粘土。粘性ややあり。しまる。	PJ33を切る。
DK-227	D-5-24	158×140	21	10YR2/1(黒褐色)に10YR2/4(暗褐色)が10%、10YR4/6(褐)が5%、炭化物が20%、焼土粘土が3%、混じる。シルト粘土。粘性ややあり。ややしまる。	PJ4D号住居を切り。木島式、中越式、神ノ木式。有尾式、諸礎式、台石、黒曜石原石など
DK-240	D-5-18	52×70	17	10YR2/3(暗褐色)に10YR3/1(ぶい黄褐色)が10%、混じる。シルト粘土。ややしまる。	種は少數。DK239に切られる。
DK-262	F-5-7	85×63	22	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/4(暗褐色)が15%、10YR4/4(褐)が5%、炭化物が5%、焼土が1%、混じる。シルト粘土。粘性ややあり。しまる。	PJ4D安壁に接する。DK341、DK344を切る。中越式、神ノ木式、有尾式、諸礎式、石頭
DK-263	D-6-4	115×60	18	10YR2/3(黒褐色)に10YR2/4(暗褐色)が10%、10YR4/6(褐)が2%、炭化物が10%、焼土粘土1%、混じる。シルト粘土。粘性あり。ややしまる。	集石土坑。DK2号住居を切り。中越式、神ノ木式。諸礎a式、諸跡式土器破片。PJM2号住居裏で検出された焼土との肥厚層33cm
DK-264	D-5-17	88×74	5	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/4(暗褐色)が5%、混じる。シルト粘土。粘性ややあり。しまる。	PJ6Aを切る。壁は少數でまばら。中越式、有尾式、諸礎a式、諸跡式、石頭2点。土器の多くはPJM4から上の混入。
DK-265	D-6-5	100×66	5	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/4(暗褐色)が20%、混じる。シルト粘土。粘性あり。ややしまる。	PJ4Z号住居を切り。中越式、神ノ木式、諸跡式。磨石類、黒曜石
DK-269	E-7-7	126×115	27	10YR2/3(黒褐色)に10YR2/4(暗褐色)が10%、10YR5/6(黄褐色)が5%、炭化物が10%、混じる。シルト粘土。粘性あり。ややしまる。	PJ55を切る。木島式、中越式、神ノ木式。北白川下原Ⅲc式
DK-283	D-6-24	125	14	10YR2/3(黒褐色)に、炭化物が1%、混じる。シルト粘土。粘性ややあり。しまる。	PJ51を切る。大きな花崗岩碎粒を含む。木島式、中越式、神ノ木式、有尾式、諸跡式
DK-286	E-6-14	104	25	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/1(暗褐色)が10%、10YR2/1(黒)が7%、炭化物が1%、混じる。シルト粘土。ややしまる。	PJ60を切る。DK277に切られる。中越式、諸跡式
DK-287	D-7-14	150	10	10YR2/2(黒褐色)に10YR2/2(黒褐色)が10%、10YR5/6(黄褐色)が2%、炭化物が5%、花崗岩小砾が5%、混じる。シルト粘土。粘性ややあり。しまる。	DK27と同一遺構。木島式、中越式、神ノ木式、有尾式、諸跡式など土器破片が多数出土。
DK-289	D-6-24	123×113	25	10YR2/2(黒褐色)に炭化物が1%、混じる。シルト粘土。粘性なし。しまる。	集石土坑。DK290号土坑、P.J55号住居を切り。中越式、神ノ木式、諸跡b式、石頭、磨石類
DK-290	D-6-24	101	14	10YR2/2(黒褐色)に10YR3/4(暗褐色)が15%、炭化物が1%、混じる。シルト粘土。粘性なし。ややしまる。	集石土坑。DK289号土坑に切られる。早期奈良文系、木島式、中越式、神ノ木式、諸跡b式古段階
DK-292	D-5-12	98×96	22	10YR2/3(黒褐色)に10YR2/4(暗褐色)が10%、焼土が5%、炭化物が20%、焼土が2%、混じる。シルト粘土。粘性ややあり。しまる。	DK26を切る。木島式、中越式、諸跡式。石頭、磨石類1点、黒曜石原石
DK-310	F-6-16	100×98	14	10YR2/3(黒褐色)に10YR2/2(黒褐色)が5%、混じる。シルト粘土。粘性あり。ややしまる。	集石土坑。壁は少數。中越式、神ノ木式、簡山式、諸跡式、石頭1点
DK-311	F-6-25	124×100	50	10YR2/3(黒褐色)に10YR4/2(黄褐色)が7%、10YR4/4(褐)が2%、焼土粘土が2%、炭化物が2%、混じる。シルト粘土。粘性なし。しまる。	PJ004を切る。底面に炭化材。PJM45集石土坑を切り。中越式、神ノ木式、有尾式、諸跡式、磨石類、石頭破片
DK-312	F-6-20	136×104	24	10YR2/2(黒褐色)に炭化物が1%、花崗岩小砾が3%、燒土粘土が5%、混じる。シルト粘土。粘性ややあり。しまる。	PJ007画面化面を切る。DK49、DK300を切り。中越式、神ノ木式、簡山式、有尾式、諸跡式、石頭5点、石點1点、磨石類2点
DK-313	F-6-3	153×120	67	10YR2/2(黒褐色)に10YR2/3(黒褐色)が3%、10YR2/1(黒)が3%、焼土粘土10%、炭化物が30%、混じる。シルト粘土。粘性あり。ややしまる。	深い傾り方の底面まで壁。中越式、神ノ木式、有尾式、諸跡式、石頭、扇石、ハンマー、黒曜石原石
DK-314	F-6-25	70×45	8	10YR2/3(黒褐色)、シルト粘土。粘性あり。ややしまる。	まばらな集石。DK11との創旧關係は不明。有尾式?
DK-327	F-5-14	141×131	4	10YR2/2(黒褐色)に10YR4/1(褐)が10%、10YR4/1(褐)が5%、炭化物が3%、焼土が1%、混じる。シルト粘土。粘性あり。しまる。	中越式、神ノ木式、諸跡式、石頭2点、石點1点、磨石2点、台石1点
DK-330	F-5-19	122×102	17	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が20%、10YR2/2(黒褐色)が10%、10YR4/4(褐)が5%、炭化物が10%、混じる。シルト粘土。粘性ややあり。ややしまる。	底面近くに炭化材。底面に壁は平坦に敷いてある。焼青片が出土。中越式、神ノ木式、簡山式、諸跡式、石頭1点
DK-334	F-5-25	92×73	50	10YR2/2(黒褐色)に10YR2/1(黒)が10%、10YR3/3(暗褐色)が7%、7.5YR4/6(褐)が5%、炭化物が30%、焼土が5%、混じる。シルト粘土。粘性あり。ややしまる。	DK335に隣接。集石頭の内側に炭化材が集中。中越式、神ノ木式、諸跡式、土製円盤1点、石頭2点、石點1点、磨石1点
DK-335	G-5-16	101×73	16	10YR2/2(黒褐色)に10YR2/1(黒)が10%、炭化物が1%、焼土が1%、混じる。シルト粘土。粘性ややあり。ややしまる。	DK334に隣接。DK326に切られる。木島式、中越式、神ノ木式、有尾式、諸跡式、石頭3点、黒曜石原石1点、磨石1点
DK-336	G-5-16	56×60	25	1層 5 mmの中空砂壁。10YR2/2(黒褐色)、シルト粘土。粘性なし。面くしまる。	褐色細粒砂利が映出されたことから、N002号漢跡の一郎と判断した。出土遺物はN002号分として報告する。

集石土坑一覧表

遺構番号	位置	大きさ	深さ	覆土色	備考(遺物など)
DK-343	G-6-22	55*54	22	10YR2/3(黒褐色)に10YR2/3(黒褐色)が20%、10YR3/3(暗褐色)が10%、1m程度の砂利(10YR4/6(褐色))が2%、炭化物が2%、湿じる。シルト粘土。粘性やあります。ややしまる。	P.065, P.066 硬化面を切る。底面に大きな目立った平壠で敷く。底面に供土。中越式、神ノ木式、諸侯式、石竈1、磨石2、台石1
DK-345	F-5-24	94*86	20	10YR2/2(黒褐色)に10YR2/3(暗褐色)が1%、炭化物が2%、湿じる。シルト粘土。粘性やあります。ややしまる。	底面に供土あり。中越式、神ノ木式、諸侯式、磨石2
DK-349	F-6-25	158*131	40	10YR2/2(黒褐色)に花崗岩粒(5mm以下)が5%、炭化物が2%、湿じる。シルト粘土。粘性あります。しまる。	P.067 硬化面を切る。中越の縁層が保存状態良好。木島式、中越式、神ノ木式、有尾式、諸侯式、石竈2、石竈1、同様石器1、黒曜石原石2、磨石3
DK-358	F-6-4	130*115	45	10YR2/3(黒褐色)に10YR2/2(黒褐色)が10%、10YR3/4(暗褐色)が10%、炭化物が9%、湿じる。シルト粘土。粘性やあります。しまる。	大きな目立つ多い。中越式、神ノ木式、諸侯式、石竈5、石竈1、磨石1
DK-365	F-6-7	70	30	10YR2/2(黒褐色)に10YR4/6(黄褐色)が3%、10YR4/4(褐色)が1%、炭化物が2%、湿じる。シルト粘土。粘性あります。しまる。	DQ2/9に切られる。DK37を切る。木島式、中越式、神ノ木式、有尾式、諸侯式、棒状土器製品、打井1、黒曜石原石2、同様石器1、磨石1
DK-370	E-6-22	88	20	10YR2/2(黒褐色)に10YR2/4(暗褐色)が10%、10YR5/6(黄褐色)が2%、炭化物が3%、湿じる。シルト粘土。粘性やあります。しまる。	DQ3/8に切られる。P.054を切る。中越式、神ノ木式、有尾式、諸侯式、石竈1、石竈1
DK-375	F-6-7	90	25	10YR2/2(黒褐色)に10YR4/6(黄褐色)が3%、10YR4/4(褐色)が1%、炭化物が2%、湿じる。シルト粘土。粘性やあります。しまる。	DQ4/6に切られる。諸侯式、棒状球
DK-395	E-6-19	109*102	17	10YR2/2(黒褐色)に10YR2/1(黒)が20%、10YR4/6(褐)が2%、湿じる。シルト粘土。粘性やあります。ややしまる。	P.057, P.060 を切る。底面近くの隙間が残った集石土坑か。中越式、神ノ木式、有尾式、黒曜石原石、磨石、石鉋
DK-453 集石	E-6-25				P.057 を切る。隙間は少数。集石と DK453 は別遺構。
DK-455	F-7-5	143	24	10YR2/3(黒褐色)に10YR2/3(暗褐色)が10%、炭化物が2%、供土が5%、湿じる。シルト粘土。粘性やあります。くしまる。	P.064 を切る。DK411に切られる。縁層上に諸侯式土器破片。神ノ木台式、木島式、中越式、神ノ木式、開山式、有尾式、北白川下層式、諸侯式、削1、内縫2
DK-474	F-5-19	83*65	14	10YR2/1(黒)に10YR2/3(暗褐色)が2%、炭化物が1%、供土が1%以下。花崗岩粒(5mm以下)が2%、湿じる。シルト粘土。粘性やあります。しまる。	DQ4/5に隣接。南隣にS029焼土。中越式、神ノ木式、諸侯式、磨石1、台石破片1
DK-476	I-5-5	108*105	20	10YR3/4(暗褐色)に10YR4/4(褐)が20%、10YR2/3(黒褐色)が5%、10YR4/2(くまない黄褐色)が5%、炭化物が3%、湿じる。シルト粘土。粘性やあります。しまる。	P.065 黒化した炭化材。神ノ木式、諸侯式
DK-477	K-5-19	83	18	10YR2/2(黒褐色)に10YR2/1(黒)が10%、10YR5/4(にぶい黄褐色)が2%、炭化物が1%、花崗岩粒が1%、湿じる。シルト粘土。粘性やあります。しまる。	P.075 西壁に隣接。縁層は薄い。木島式、中越式、諸侯式、北白川下層式
DK-480	K-5-2	123*95	17	10YR3/4(暗褐色)に10YR4/3(くまない黄褐色)が湿じる	P.078 を切る。S002と重複。大きな目立つ多い。底面は掘りすぎ。木島式、中越式、神ノ木式、有尾式、諸侯式、石竈2、石竈1
DK-482	K-5-22	106	18	10YR2/3(黒褐色)に10YR2/3(暗褐色)が湿じる。	S009 と隣接。木島式、中越式、神ノ木式、諸侯式、石竈4、磨石1
DK-483	K-5-23	169*136	24	10YR2/1(黒)に土壌化した土に10YR3/3(暗褐色)が10%、炭化物が15%、花崗岩粒が5%、湿じる。シルト粘土。粘性やあります。しまる。	P.075, P.079 を切る。木島式、中越式、神ノ木式、諸侯式、石竈2、石竈1、磨石4、台石破片1
DK-484	J-5-6	120*110	22	10YR2/1(黒)に10YR2/2(黒褐色)が10%、炭化物が1%、湿じる。シルト粘土。粘性やあります。ややしまる。	P.077 を切る。炭化材を伴う。木島式、中越式、有尾式、諸侯式、石竈1、内縫2
DK-497	J-5-7	116	12	10YR3/4(暗褐色)に10YR2/3(黒褐色)が湿じる。	P.077, P.089, P.085 を切る。木島式、中越式、転造室23、諸侯式、石竈1、ハンマー1、磨石2、装身具未成品1
DK-514	J-5-10	83*73	10	10YR3/4(暗褐色)に10YR5/6(黄褐色)が10%、花崗岩粒が3%、湿じる。シルト粘土。粘性やあります。しまる。	P.076 を切る。縁層は薄く、隙間は少ない。中越式、諸侯式、石竈1、剥片1
DK-515	I-6-23	99*65	28	10YR2/2(黒褐色)に10YR2/2(黒褐色)が15%、10YR5/6(黄褐色)が3%、炭化物が1%、花崗岩粒が1%以下、湿じる。シルト粘土。粘性やあります。ややしまる。	P.086 東壁を切る。下階から諸侯式の溝跡2個体が出土。木島式、中越式、神ノ木式、諸侯式、石竈2、黒曜石原石1
DK-516	I-5-23				P.082 を切る。縁層少數で縁層は薄い。木島式、中越式、神ノ木式、世之上2式、有尾式、諸侯式、石竈1、削器1、石斧1
DK-519	J-5-20	94	40	10YR2/3(黒褐色)に炭化物が1%、湿じる。シルト粘土。粘性やあります。ややしまる。	P.076 を切る。縁層に炭化材が混じる。木島式、中越式、神ノ木式、有尾式、羽鳥式、諸侯式、石竈1、黒曜石原石1、磨石2、状体1
DK-520	J-5-19	163*135	15	10YR3/1(黒褐色)に10YR5/8(黄褐色)が湿じる。炭化物、供土粒子が湿じる。	S005 集石下部中央の掘り方
DK-521	J-5-19	62*51	10	10YR3/1(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が湿じる。炭化物、供土粒子が湿じる。	S005 集石下部北側の掘り方
DK-522	J-5-18	94*78	15	10YR2/1(黒褐色)に10YR5/6(黄褐色)が湿じる。	S005 集石下部南側の掘り方
DK-524	K-6-2	113*101	15	10YR1/1(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が湿じる。炭化物が湿じる。	S006 の掘り方。
DK-526	K-5-7	93	19	10YR2/2(黒褐色)に炭化物、供土が湿じる。シルト粘土。粘性やあります。しまる。	P.083 を切る。DQ25に切られる。石竈1
DK-529	J-5-18	77*62	5	10YR2/1(黒褐色)に10YR5/8(黄褐色)が湿じる。	S005 下階で横出し。S005に切られる重石か。P.080 を切る。
DK-537	K-6-1	182*140	25	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が湿じる。炭化物が湿じる。	S007 と重複。S007に切られる。木島式、中越式、神ノ木式、有尾式、諸侯式
DK-545	J-5-22	95*59	11	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/4(暗褐色)が20%湿じる。シルト粘土。湿じる。	P.082 を切る。木島式、中越式、神ノ木式、有尾式、諸侯式、石竈2、剥片1、削器1
DK-550	J-5-25	103*101	15	10YR3/2(暗褐色)	S007 と重複。S007に切られる。中越式、神ノ木式、有尾式、諸侯式、石竈1、黒曜石原石1、磨石2
DK-607	J-6-15	123	8	10YR3/2(黒褐色)に炭化物が40%、湿じる。シルト粘土。粘性なし。しまる。	S014 の掘り方。大きさは P.084 底面での計測

第5節 溝

MZ001号溝跡

位 置：F-3 グリッドに位置する。
所 見：PJ032号住居を囲うように検出されたことから、PJ032号住居の周溝と思われる。

MZ002号溝跡

位 置：G-2 グリッドから F-7 グリッドにかけて検出された。保存状態が良好で、実際に発掘できたのは G-4 グリッドの一部と F-6 グリッド、F-7 グリッドの 16m ほどである。

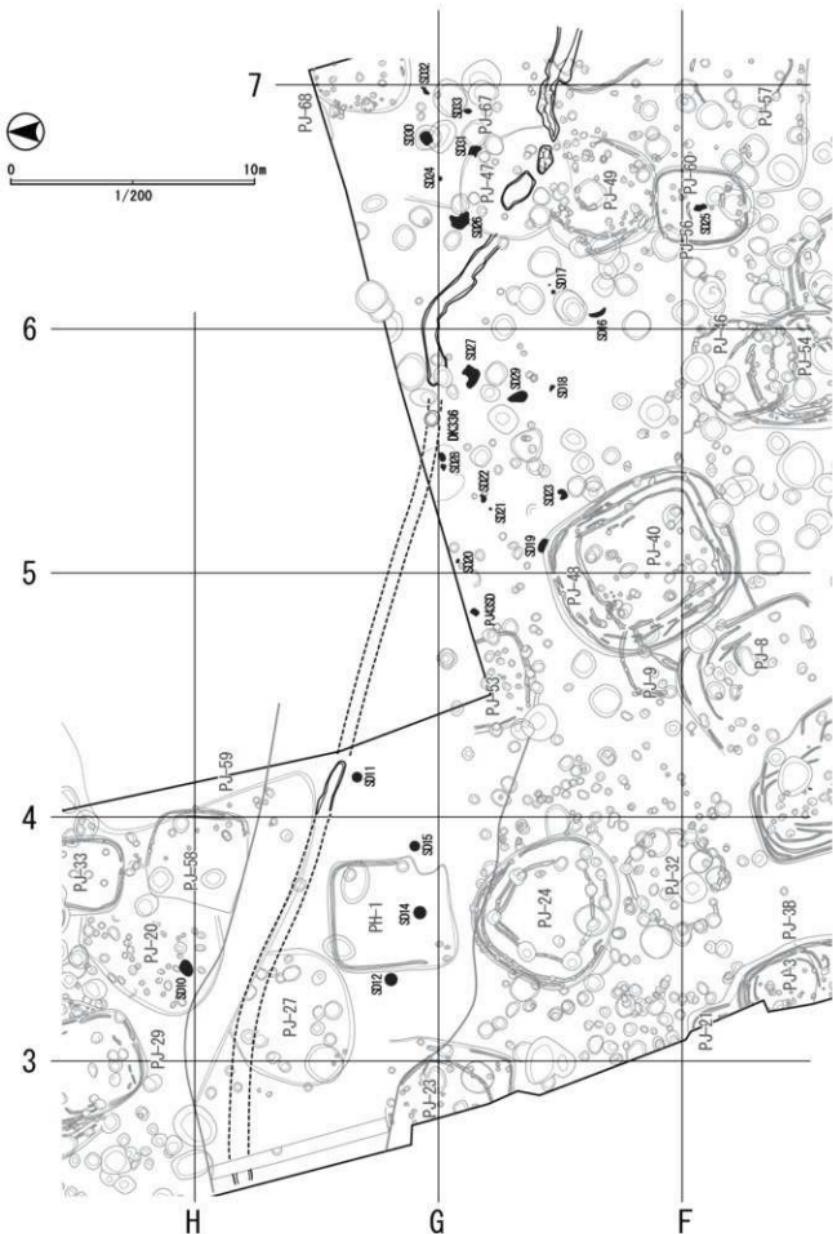
規 模：比較的の保存状態が良好な F-7 グリッド、PJ063号住居北西角付近で、溝は幅 95cm、深さは 73cm ほどであった。溝跡は西へいくほど浅くなり、途切れながら G-4 グリッドへ連なる。G-4 グリッドの断片的な溝跡を最後に、さらに西側は削平されて失われていた。

埋 土：PJ063号住居北西角付近に設けた土層断面で観察した。埋土は U 字状の溝断面を徐々に埋めたかのように黒褐色を基調とする埋土が層理をなして堆積し、下層の第 4 層には砂礫がまとまっていた。
PJ047号住居の床面で断片的に残る溝跡には、花崗岩由来の粗粒の砂層が堆積し、G-5~16 グリッドで検出した DK336号土坑は「土坑」と命名したものの粗粒砂で埋まり、MZ002号溝跡の一部と思われる。

所 見：溝跡は、断片的であったが、G-4 グリッドから F-7 グリッドにかけて徐々に下がりながら連続するようであった。埋土断面の第 4 層の砂層など、随所で粗粒砂が堆積している状況が確認されたことから、溝跡に流水があったと推測される。
溝は最大で幅 1m、深さ 70 cm 超であり、随所で土器や石器が出土した。やや蛇行する形状から自然流路なのか、人工的に掘削された水路なのか判断が難しいが、調査区の西側の水源から集落内に導水した施設である可能性は高いと思われる。
調査区内で検出された焼土（SD）は、必ずしも MZ002号溝跡に沿ってのみ分布するわけではないが、SD026号焼土をはじめとした焼土跡が MZ002号溝跡沿いに目立つ。ただし SD026号焼土は年代測定により前期中葉有尾式に相当する年代観が得られている。
なお第5節で集石土坑として報告した DK336号土坑は MZ002号溝跡の一部と判断し、当該土坑の出土品は溝跡分として報告・集石した。

出土遺物：溝跡から土器破片、石器が出土した。出土した土器は、中越式、神ノ木式、堂之上 Z 式、関山式、有尾式、北白川下層 II b 式、北白川下層 II c 式、諸磯 a 式、諸磯 b 式古段階、諸磯 b 式新段階、諸磯 c 式がみられる。東西に調査区を横断するように掘り込まれた遺構であるから、様々な時期の遺構と重複するためであろう。なかでも諸磯 b 式古段階の土器が大型破片でまとまっていることから、本溝跡の時期を示すと考えられる。

時 期：PJ063号住居を切り、PJ047号住居に切られること、出土土器から本溝跡は諸磯 b 式期には埋没途上にあったと考えられる。諸磯 b 式土器は竹管押引文が主で、結節浮線文、集合沈線文が少なく、かつ小破片であることから、本遺構は諸磯 b 式古段階に位置づけられる。



MZ002号溝位置図

第6節 焼土（SD）

本調査で焼土跡を 41ヶ所検出した。これらの焼土は、現地調査時点で遺構から遊離した単独の焼土と理解し、遺構番号を付したもので、調査記録の整理を経て、住居の炉跡としたもの、住居の炉跡の可能性が高いが住居自体が削平されて認識できないものの、焼失住居に伴う焼土と判断されたもの、遺構埋土に廃棄されたもの、遺物を伴い遺構として理解すべきものなどと判断した。その検討結果表は DVD に収録した。

本節では、遺構として理解すべきと判断し重要と思われる焼土跡 2 基と、小さな焼土跡がまとまって検出された地点の状況を報告する。焼土跡の略記号は SD である。

SD026 号焼土

位 置：F-6-15 グリッド、PJ047 号住居北壁沿いで検出された。東に PJ067 号住居とした硬化面、2m 南に MZ002 号溝跡が隣接する。

規 模：0.8m × 0.5m の範囲に焼土が広がる。

調査所見：焼土は遺構確認面の粘質な黒褐色土が被熱して生成された。場所により数 cm の厚みがあるが、大半は遺構確認面が平面的に被熱、焼土化した状況であった。焼土の西側に隣接して大形、扁平な台石（石器 11673）が出土した。長さ 65cm、幅 44cm、厚み 14cm、板状節理の安山岩の台石は、焼土と同じレベルに据えられ、上面は摩耗し、一部が被熱、変色していた。台石の下部から DK510 号土坑と命名した浅い掘り込みが検出された。台石を据えるための掘り込みと思われ、風化花崗岩、磨石類が台石下から出土した。台石下の掘り込みの埋土は、炭化物が混じる、やや灰色がかった粘質の黒褐色土であった。

この台石の西側と焼土の北側の 2ヶ所で炭化した堅果類が集中して出土した。堅果類の出土量は約 283g で、ナラガシワ子葉を主体とし、クリ子葉、コナラ属子葉、クヌギ節子葉、種不明の炭化鱗茎がわずかに混じっていた。炭化堅果類の集中は焼土自体からやや離れており、SD026 号焼土で被熱して炭化したとは限らない。炭化堅果類を含む埋土は DK510 号土坑の埋土とよく似た灰色がかった黒褐色土であった。炭化鱗茎 1 点を対象として放射性炭素年代を測定したところ、4489-4366calBCE(2σ)、6440-6316calBP(2σ) の値を得た。また炭化種実 1 点を対象とした測定では、4455-4354calBCE(2σ)、6450-6304calBP(2σ) の年代値を得た。両者はほぼ合致し、神ノ木式期から有尾式期に相当する。

焼土の周囲からまばらに土器片と石器類が出土したが、土器型式にまとまりはなく、削平して認識できなくなった住居跡の存在をうかがわせるピットなども、多くは検出されていない。

焼土の東側に隣接して PJ067 号住居とした硬化面、SD030 号焼土などが検出された。PJ067 号住居硬化面と SD030 号焼土は SD026 号焼土とは 20cm ほどのレベル差があり、SD026 号焼土がより高い位置で検出された。

焼土の南 2m に MZ002 号溝跡が走る。焼土直近の溝跡は、中期の PJ047 号住居に切られて失われている。焼土、炭化堅果類の集中、台石は、必ずしも明確に検証できたわけではないが、相互の位置関係から相互の関連する活動の痕跡である可能性がある。ただし、DK510 号土坑では台石の下から磨石類が出土しており、活動完了後の状況がそのまま保存されているのではなく、なんらかの片付け作業などの結果を示していると思われる。さらに、堅果類のアクリ抜きなどの可食化作業で多量の堅果類が炭化することは、一般的に考えにくいと思われる。ちなみに SD026 号焼土の年代観である前期中葉と、前期後葉諸磯 b 式期に位置づけられる MZ002 号溝跡、神ノ木式期と考えた PJ067 号住居硬化面とは帰属年代に開きがある。

出土遺物：

時 期：14C 年代測定から前期中葉、有尾式

SD034 号焼土

位 置：J-6-3 グリッドに位置し、PJ101 号住居（前期前葉）の埋土中で検出された。同じ位置の上層には SY009 号集石土坑がある。また南東 2m、同じ PJ093 号住居埋土中の同レベルで SD036 号焼土が検出された。

規 模：0.7m × 0.4m の範囲に複数の塊状になった焼土を検出した。焼土は垂直方向にまばらに検出された。

焼土は掘り方を伴う。掘り方は 1.1m × 0.9m の不整楕円形で PJ101 号住居の床面を 15cmほど掘り込んでいる。掘り方埋土は黒褐色を基調とし、PJ101 号住居埋土下層よりわずかに暗いが、明瞭な差異は認められなかった。

調査所見：焼土に混じって、またその周辺で炭化した堅果類 186.7g が出土した。炭化堅果類はオニグルミ核、クリ子葉、コナラ子葉、コナラ節子葉、コナラ属子葉を含み、コナラ子葉が最も多い。この状況は SD026 号焼土に類似する。

SD034 号焼土は PJ101 号住居床面を掘り込む掘り方を伴い、垂直方向にも分布することから PJ101 号住居の埋積過程で設けられた遺構と判断したが、PJ101 号住居埋土と SD034 号焼土掘り方の埋土の違いはわずかで、明瞭に識別できたわけではない。土器破片、石器とともに焼土が埋土中に廃棄された可能性は明確に否定できない。

一方、東に隣接して検出された SD036 号焼土は、PJ101 号住居埋土断面の観察から、住居埋土を掘り込む落ち込みが確認され、PJ101 号住居の埋積が進行した段階で設けられた遺構と判断された。この点を参考にすると、SD034 号焼土も掘り方を伴う、PJ101 号住居より新しい遺構と判断される。

SD034 号焼土とほぼ同じ位置の上層で SY009 号集石土坑が検出された。SY009 号集石土坑の掘り方底面と SD034 号焼土上面とのレベル差は 30cm程度あり、別遺構と判断した。

出土遺物：焼土上面で黒曜石製の石礫、珪質真岩製の石匙が出土した。また焼土の東脇、焼土と同じ高さで打製石斧、中越式土器の大きな破片が出土した。同じレベルでやや離れて珪質真岩製石匙、安山岩製磨石類が出土した。

時 期：焼土中から出土した炭化堅果類 1 点の放射性炭素年代を測定したところ、 $5280 \pm 25\text{yrBP}$ (1σ) の値を得た。曆年較正年代は 6120–5992calBP (2σ) である。これは諸磯 a 式期に相当し、PJ101 号住居、SY009 号集石土坑との切り合い関係に矛盾しない。

焼土周辺の遺物

黒色土が埋積した浅い谷地形がある F-5、F-6 グリッド付近で小さな焼土跡が検出された。この焼土跡周辺で出土した土器、石器を報告する。

F-5-9 グリッドを中心とする地点では、SD021 号、SD022 号、SD028 号焼土と 2ヶ所の硬化面が検出され、中越式、神ノ木式のまとまった土器破片が目立ち、有尾式、諸磯式はみられない。磨石類、石皿、台石破片、ハンマー、黒曜石原石が出土した。

F-5-19 グリッドに位置する SD029 号焼土周辺では諸磯 a 式古段階から諸磯 b 式新段階の土器がまとまって出土し、磨石類、台石破片、黒曜石原石、石錐が出土した。

SD016 号焼土西側の F-5-22 グリッドでは有尾式土器がまとまって出土し、石匙 1 点が出土した。

SD027 号焼土と MZ02 号構に挟まれる F-5-25 グリッドと F-6-5 グリッドでは中越式土器がまとまって出土し、石皿破片、石鎌、磨石、打製石斧、ハンマー、装身具、黒曜石石核が出土した。

先述した SD026 号焼土、SD034 号焼土以外の、これらの小さな焼土は二通りに解釈できる。ひとつは浅い谷地形を埋積した黒色土中に掘り込まれた堅穴住居を認識できず、炉跡がある床面まで掘り下げたところで、焼土すなわち炉跡を検出したという解釈である。焼土と土器、石器のまとまりが一致し、硬化面を伴う F-5-9 グリッド付近の SD021 号、SD022 号、SD028 号焼土はこうした解釈が適当かもしれない。ただしほかの住居で多数出土する石鎌が限られ、代わりに磨石類が多く出土する点に不自然さが感じられる。

次の解釈はこれらの焼土が磨石、石皿などを使用した生業活動により形成されたとするものである。石鐵、石匙、削器、石錐、装身具、黒曜石の原石と石核など多様な石器が出土しているが、磨石類が圧倒的に多く、完形の石皿、台石と石皿の破片も多い。堅果類の加工処理作業などが想定されるが、この解釈の場合、中越式、神ノ木式期から諸磯 b 式新段階にかけて相当な実年代幅を超えて、同一地点で似たような作業を行ったと解釈される点が不自然である。

発掘調査中にも焼土と出土品の解釈に悩み、住居である場合なら相応の柱穴が検出されないか、また生業活動の痕跡であるなら SD026 号焼土のように炭化堅果類が出土しないか注意しながら精査した。柱穴が検出されても浅く、配置、大きさが不安定であった。また炭化堅果類は出土しなかった。正直なところ、二通りの解釈のいずれが妥当か判断しかねている。



焼土位置図

第4章 平安時代の遺構と遺物

平安時代の住居跡8軒を報告する。土師器の編年は、甲斐型土器研究グループ編1992『甲斐型土器：その編年と年代』山梨県考古学協会、坂本美夫1999「奈良・平安時代の編年」『山梨県史：資料編2：原始・古代2』山梨県に拠った。

PH001号住居

位 置：G-3 グリッドに位置する。H0001号掘立柱建物を切る。
規 模：東西長4.6m、南北長5mの方形で、竪穴の深さは26cmである。
埋 土：黒褐色の埋土で、壁際に三角堆積した層理が確認された。
床 面：黄褐色のやや粗い砂層を平坦に掘り込んで床面としている。住居中央部は黒褐色土が斑に混じり、やや荒れている。
カマド：南壁の端、住居の南西角部に近い位置に設けられている。左右に袖石が3枚程度残るだけで、原形はとどめていない。カマド底面に焼土は少量しか検出されなかった。
周溝：南壁沿い以外の三方、壁沿いに小溝を検出した。
柱穴：検出されなかった。
出土遺物：土師質の壺、小皿、灰釉陶器破片、鉄滓小破片が出土した。
時期：山梨県史IX期、11世紀後半に位置づけられる。

PH012号住居

位 置：K-7 グリッドに位置する。DK49号土坑に切られる。
規 模：東西長4.7m、南北長4.6m、竪穴の深さは40cmである。
埋 土：黒褐色の埋土で層理は確認されなかった。
床 面：暗褐色の縄文時代の遺構と遺物の包含層を平坦に掘り込み、床面としている。住居中央部にやや硬く綿まった部分が検出された。
カマド：東壁中央からやや南寄りに設けられている。両袖には地山由来の黄褐色土が被熱し硬化、焼土化したカマド構築材が検出された。袖石は向かって右袖の1個残るのみであった。カマド中心には支石と思われる棒状角礫が立った状態で検出された。
周溝：検出されなかった。
柱穴：住居の北西角でPT180号ピット、南西角でDK92号土坑、北東角でDK91号土坑を検出した。これらが柱穴となる可能性がある。
出土遺物：埋土中から土師器壺、皿、甕、羽釜、灰釉陶器破片、帶金具と思われる青銅製品の破片、鉄滓の小破片が出土した。DK92号土坑から砥石破片が出土した。本住居は縄文時代の遺構と遺物を包含する土層を掘り込んでいるため、石礫、石匙、黑曜石原石、石核などが出土した。
時期：甲斐型XII期、山梨県史VI期、10世紀前半に位置づけられる。

遺構番号	長軸	短軸	深さ	覆土色	備考（遺物など）
DK91	85	83	22	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が5%、炭化物が5%混じる。シルト粘土、ややしまる。	中核式、中期中漢土器破片、黒曜石原石
DK92	50	40	20	10YR2/3(黒褐色)に10YR4/3(にぶい黄褐色)が10%混じる。シルト粘土、ややしまる。	前期土器破片、砥石1
PT180	50	50	12	10YR2/3(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)と10YR3/4(暗褐色)が5%混じる。シルト粘土、ややしまる。	前期土器破片

PH013 号住居

位 置：M-7 グリッドに位置する。北側半分は調査区外である。DK41 号土坑、DK72 号土坑に切られる。

規 模：東西長 4m の方形で、竪穴の深さは 20 cm 程度が残る。

埋 土：黒褐色の埋土で層理は確認されなかった。

床 面：黄褐色の地山を平坦に掘り込んで床面としている。住居南西部で床面がよく保存されていた。

カ マ ド：住居南東角部で検出した。保存状態が悪く、焼土粒子、袖石と思われる扁平角礫 1 個が検出されたのみである。顕著な擾乱が認められなかつたため、住居廃棄時に破壊されたと思われる。

周 溝：検出されなかつた。

柱 穴：検出されなかつた。

出土遺物：埋土から土師器坏、甕、灰釉陶器破片が出土した。カマド西側の床面で浅く埋設された須恵器甕が出士した。本住居は縄文時代の遺構と遺物を包含する土層を掘り込んでいるため、石器、剥片、打製石斧などが出土した。

時 期：甲斐型 X III 期、山梨県史 VII 期、10 世紀後半に位置づけられる。

遺構番号	長軸	短軸	深さ	埋土	備考
DK097	69	69	4	10R2/3(黒褐)に 10R4/6(褐)が 5%、SYR4/8(赤褐)と燒土が 1%、炭化物が 0.5% 混じる。シルト粘土、ややしまる。	毛毛炭化植物片が出土。PH03 の床下土坑。土師器破片
DK102	164		20	10R3/3(黒褐)に 10R4/6(褐)が混じる。シルト粘土、ややしまる。	PH03 掘り方
PT175	41	36	20	10R3/2(黒褐)に 10R4/4(褐)が 10% 混じる。シルト粘土、ややしまる。	
PT176	30	30	28	10R3/4(黒褐)に 10R5/6(黄褐)が 30% 混じる。シルト粘土、ややしまる。	

PH014 号住居

位 置：L-8 グリッドに位置する。東側半分は調査区外である。

規 模：南北長 4.1m の方形で、竪穴は深さ 26 cm が残る。

埋 土：黒褐色の埋土（図中第 2 層）で層理は確認されなかつた。

床 面：黒褐色の縄文時代遺構と遺物の包含層を平坦に掘り込み、床面としている。床面は若干、踏みしまった程度である。

カ マ ド：調査範囲内で検出されなかつた。

周 溝：南西角から北壁にかけて小溝を検出した。

柱 穴：調査区内で検出されなかつた。南壁沿いの PT153 号ピットと PT154 号ピットは出入口施設の可能性がある。

出土遺物：埋土から土師器坏、甕、須恵器破片が出土した。

時 期：甲斐型 X 期、山梨県史 V 期、9 世紀後半に位置づけられる。

遺構番号	大きさ	深さ	覆土色	備考（遺物など）
PT152	40	33	10R2/3(黒褐)に 10R2/1(黒)と 10R3/4(黒褐)が 5%、燒土が 2%、炭化物が 1% 混じる。シルト粘土、ややしまる。	前期土器破片
PT153	22	23	10YR2/2(黒褐)に 10R2/1(黒)と燒土が 3%、炭化物が 1% 混じる。シルト粘土、ややしまる。	石器 1
PT154	30	36	10R2/2(黒褐)に 10R2/1(黒)が 10%、炭化物が 3%、燒土が 1% 混じる。シルト粘土、ややしまる。	前期土器破片

PH015 号住居

位 置：J-8 グリッドに位置し、PH022 号住居を切る。

規 模：南北長 5.6m、東西長 5.7m、竪穴の深さは 50 cm が残る。

埋 土：黒褐色土中にやや明るい灰褐色土が混じる層理が確認された。壁沿いで三角堆積が確認された。

- 床 面**: 繩文時代遺構と遺物を包含する黒褐色土と暗褐色土の斑な土層を平坦に掘り込んで床面としている。部分的に黄褐色土が混じっている。局所的に踏みしまった箇所が検出されたが、硬くしまった床面は確認されなかった。
- カマド**: 東壁、住居南東角に近い位置で検出した。黄褐色土の構築材と袖石が検出された。向かって右側の袖は袖石6個が並び、原形をよく留めている。向かって左側の袖石は1個のみで、天井石、支石もないことから住居廃絶時にカマドを解体したものと思われる。カマド底面には焼土が発達し、煙道部にもうっすらと焼土化した層が検出された。煙道端には小ピット状の落ち込みが検出された。
- 周 溝**: 西壁と南壁沿いで小溝を検出した。また西壁から東へ延びる間仕切り状の小溝を検出した。
- 柱 穴**: 住居の北西角部以外の3ヶ所で小ピットを検出した。浅いピットであるが柱穴の可能性がある。
- 出土遺物**: 埋土下層から土師器壺、甕、灰釉陶器、風字硯、羽口、ねじ曲がった刀子断片、釘状の鉄製品、楕型鋸を含む鉄鋸1360gが出土した。PT198号ピットで鎖がついた錐状鉄製品が出土した。本住居は繩文時代の遺構と遺物を包含する土層を掘り込んでいるため、黒曜石製石鏃、石匙、石錐などの石器が少なからず出土した。拇指状スクレーパー(3302)は遺構外出土遺物で図示した。
- 時期**: 甲斐型XIII期、山梨県史VII期、10世紀後半に位置づけられる。

遺構番号	長軸	短軸	深さ	埋土	備考
PT197	50	42	10	10YR2/2(黒褐色)に10YR4/4(褐)と灰化物が1%、燒土が0.5%混じる。シルト粘土。ややしまる。	前期土器
PT198	56	49	18	10YR2/2(黒褐色)。シルト粘土。ややしまる。	前期土器、土師器片、鎖がついた錐状の鉄製品
PT199	32	28	11	10YR2/2(黒褐色)に10YR4/4(褐)が1%混じる。シルト粘土。ややしまる。	土師器片、石鏃!
PT264	66	65	18	10YR2/2(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が5%、燒土と灰化物が1%混じる。	前期土器、土師器、石鏃!
PT265	25	22	15	10YR2/2(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が15%、燒土が1%混じる。シルト粘土。しまる。	前期土器、土師器
PT266	24	20	18	10YR2/2(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が10%混じる。シルト粘土。ややしまる。	前期土器、土師器片、石皿破片
PT267	28	20	18	10YR2/2(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が10%、10YR5/6(黄褐色)が3%、灰化物が1%混じる。シルト粘土。しまる。	前期土器、土師器片、石皿破片
PT268	30	20	28	10YR2/2(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が15%、灰化物が1%混じる。シルト粘土。ややしまる。	前期土器、磨石!
PT281	27	27	5		前期土器

PH022号住居

- 位 置**: J-7グリッドに位置し、PH015号住居に接する。
- 規 模**: 長軸3.35m、短軸3.15mの方形で、竪穴は深さ58cmが残る。
- 埋 土**: 黒色土が水平に堆積していた。塗沿いは三角堆積が確認された。
- 床 面**: 黄褐色地山を掘り込み、暗褐色土で平坦に整地して床面としている。顕著な硬化面は確認されなかった。
- カマド**: 北東側壁の南東角寄りに位置する。向かって左側の袖石が残り、黄褐色土と黄褐色土が被熱、焼土化した構築材が袖石に付着していた。カマド底面に焼土が発達していた。カマド左側のDK108はカマドに付属する施設と思われる。
- 周 溝**: 溝: 検出されなかった。
- 柱 穴**: PT201、PT202号ピットは出入口施設であろうか。
- 出土遺物**: 土師器壺、甕が出土した。本住居は繩文時代の遺構と遺物を包含する土層を掘り込んでいるため、黒曜石製石鏃、石匙、石錐、打製石斧、黒曜石原石などが少なからず出土した。
- 時期**: 甲斐型VIII期、山梨県史V期、9世紀後半に位置づけられる。

遺構番号	長軸	短軸	深さ	埋土	備考
DK108	52	47	14	10YR3/2(黒褐色)に5YR6/8(褐)が20%、混じる。シルト粘土。ややしまる。	PH02カマド脇で検出。住居の付属施設
DK113	50	47	15	10YR2/1(黒褐色)に10YR3/3(暗褐色)が10%、10YR5/6(黄褐色)が3%、灰化物が1%混じる。シルト粘土。ややしまる。	PH02床面を切る。中路式、開山式、鍛跡式
PT201	29	24	14	10YR3/2(黒褐色)に10YR2/2(黒褐色)が5%、10YR5/6(黄褐色)が2%、灰化物が1%混じる。	
PT202	31	28	18	10YR3/2(黒褐色)に10YR5/6(黄褐色)が5%、灰化物が2%混じる。シルト粘土。ややしまる。	
PT219	20	18	12	10YR3/2(黒褐色)に10YR5/6(黄褐色)と10YR5/4(にぶい黄褐色)と燒土と灰化物が1%混じる。シルト粘土。ややしまる。	

PH016 号住居

位 置：J-9 グリッドに位置する。北東角が調査区外である。

規 模：南北長 4.1m、東西長 3.5m の方形で、竪穴は深さ 35 cm が残る。

埋 土：黒褐色土がレンズ状に堆積していた。

床 面：暗褐色土と黄褐色土の漸移層を平坦に掘り込み、床面としている。顕著な硬化面は検出されなかった。

カ マ ド：東壁のやや南東角寄りに位置する。左右の袖には粘質な黄褐色土が検出されたが、原位置を留める袖石はなかった。カマド底面には焼土が発達し、袖石を埋設した掘り込みが検出された。

周 溝：北壁、西壁、南壁に断片的な小溝を検出した。

柱 穴：検出されなかった。住居の角部で検出された土坑は掘り方もしくは貯蔵穴と思われる。

出土遺物：土師器壺、甕が出土した。

時 期：甲斐型X期、山梨県史VI期、10世紀前半に位置づけられる。

遺構番号	長軸	短軸	深さ	埋土色	備考
DK103	94	84	33	10YR2/2(黒褐) に 10YR4/6(褐) が 3% 混じる。シルト粘土。ややしまる。	PH16 床面で検出。住居の付属施設。土師器破片
DK104	50	50	22	10YR4/6(褐) に 10YR2/3(黒褐) が 1% 混じる。	PH16 床面で検出。住居の付属施設
DK109	105		13	10YR2/2(黒褐) に 10YR4/6(褐) が 3% 混じる。シルト粘土。ややしまる。	PH16 床面で検出。諸様式、中附土器小片

PH114 号住居

位 置：D-3、D-4 グリッドに位置し、PJ005 号住居を切る。

規 模：竪穴は失われ、掘り方と床下土坑、カマド焼土が検出されたのみで、規模は不明である。

カ マ ド：推定方形の住居の東壁沿いに位置すると推測される。DK031 号土坑は発達した焼土を伴い、カマド跡の可能性がある。

柱 穴：検出されなかった。DK012、DK015、DK029 号土坑が掘り方である。DK027 号土坑は床下土坑と思われる。

出土遺物：甲斐型甕破片が出土した。

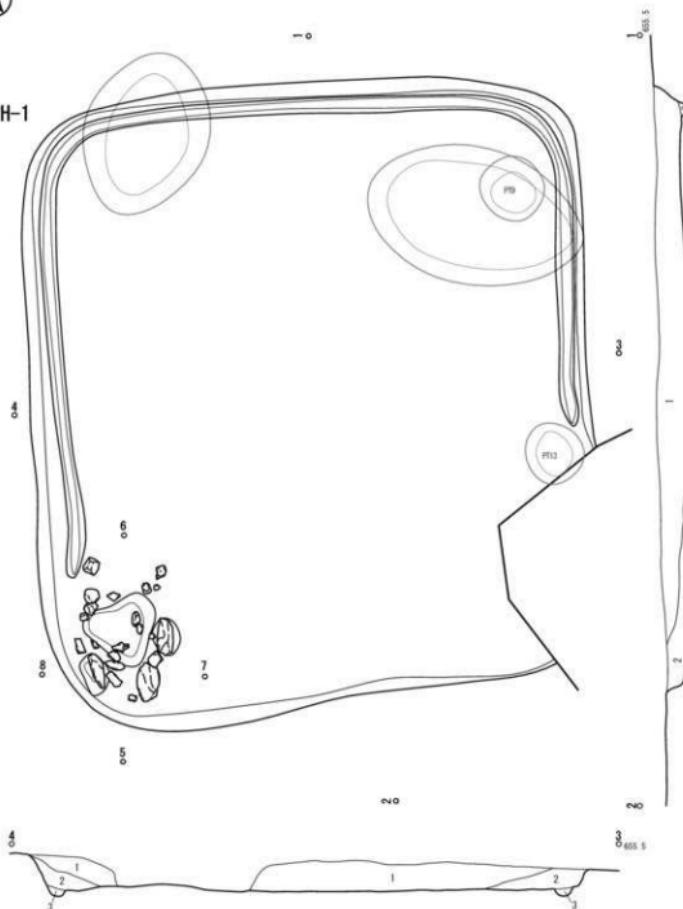
時 期：時期を特定できる遺物は出土しなかった。わずかに甲斐型甕から推測すると甲斐型X期以前、10世紀前半以前と思われる。

遺構番号	長軸	短軸	深さ	覆土色	備考(遺物など)
DK012	73	62	10	10YR2/2(黒褐) に 5YR3/4(暗赤褐) と焼土が 15%、10YR4/4(にぶい赤褐) と 10YR2/2(黒褐) が 3%、炭化物が 1% 混じる。シルト粘土。ややしまる。	甲斐型土師器甕破片
DK015	108	98	25	10YR2/3(黒褐) に 10YR5/4 が 10%、10YR4/4(褐) が 5%、焼土が 2% 混じる。シルト粘土。ややしまる。	DK27 に切られる。中越式、諸様式、甲斐型土師器甕破片
DK027	110	100	35	10YR2/3(黒褐) に 10YR3/4(暗褐) が 20%、10YR2/2(黒褐) と 10YR4/4(褐) が 5%、焼土が 1%、炭化物が 1% 以下 混じる。シルト粘土。しまる。	DK15 を切る。前期～中期土器甕破片、甲斐型甕破片、石鏡 2、棒状鏡
DK029	80		20	10YR2/3(黒褐) に 10YR5/4(にぶい黄褐) と焼土が 5%、炭化物が 1% 混じる。シルト粘土。しまる。	PJ05 を切る。中越式、神ノ木式、諸様式、甲斐型甕破片
DK031	44	38	16	10YR2/3(黒褐) に 10YR5/4(にぶい黄褐) が 5%、焼土が 3%、炭化物が 1% 混じる。シルト粘土。しまる。	甲斐型甕破片、黒曜石剥片
PT056	39	35	8	10YR3/4(暗褐) に 10YR2/3(黒褐) が 30%、10YR4/4(褐) と焼土が 5%、炭化物が 1% 以下 混じる。シルト粘土。しまる。	DK-27 より PT56 が新しい。
PT057	35				DK-27 の底面で検出。切り合ひは不明。
PT058	32		20		DK0 を切る。平安土師器甕破片



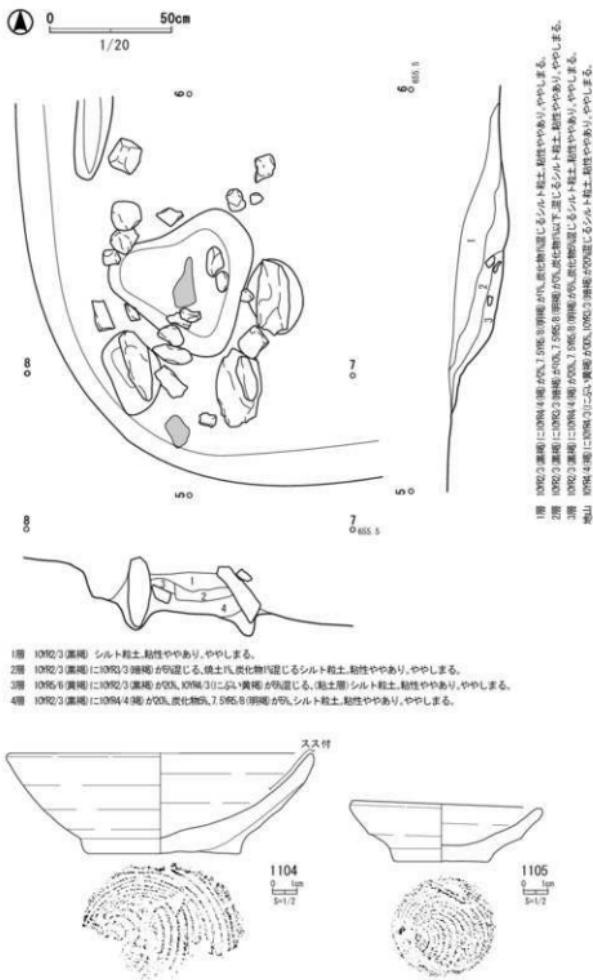
0
1m
1/40

PH-1



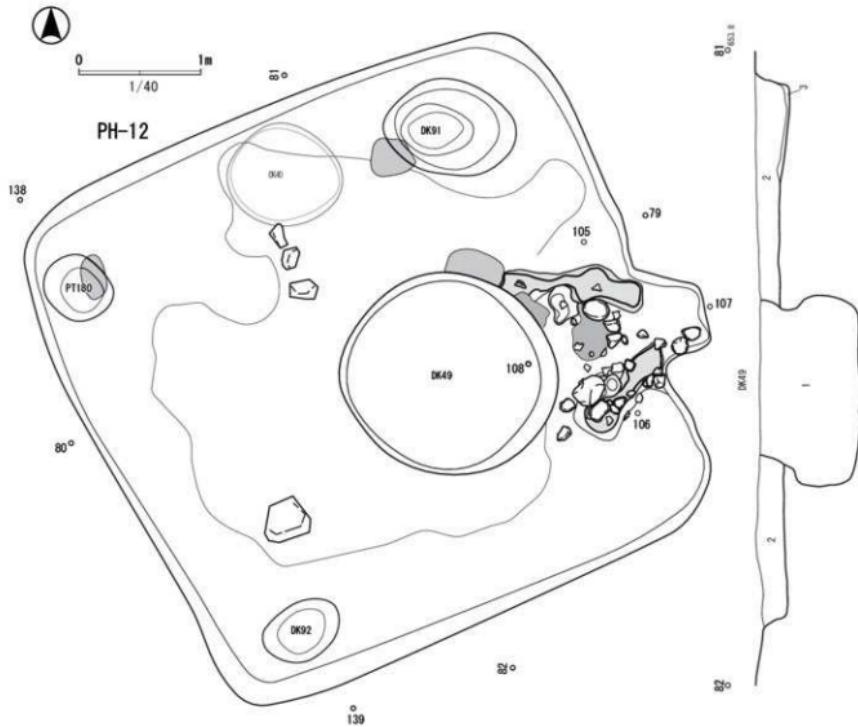
- 1層 10φ2.1(直)に10φ2.2(直埋)が空、10φ2.3(暗埋)が空置するシルト粘土。粘性やであり、ややしまる。
- 2層 10φ2.2(直埋)に10φ2.1(直埋)があり、10φ4.0(引)に5φ4(黄土)が空置するシルト粘土。粘性やであり、ややしまる。
- 3層 10φ3.0(暗埋)に10φ3.4(暗埋)があり、10φ4.0(引)に5φ4(黄土)が空置するシルト粘土。粘性やであり、ややしまる。
- 地山 10φ4.4(暗)に10φ0.9(暗埋)があり、10φ2.3(直埋)が空、10φ2.1(直)が空置するシルト粘土。粘性やであり、しまる。
- 壁 10φ4.0(引)に5φ4(黄土)に10φ0.3(暗埋)があり、10φ4.4(暗)が0%、10φ2.3(直埋)が5%、10φ2.1(直)が15%が空置するシルト粘土。粘性やであり、ややしまる。

PH-001号住居



PH-001号住居カマド 出土遺物

実測 番号	注記	部位	口径/ 幅 (cm)	高さ/ 横 (cm)	底厚/ 厚さ (cm)	重量 (g)	残存度	胎土色調 上段：口面 下段：外面部	備考
			(cm)	(cm)	(cm)	(g)			
1104	6-010-2012 PH-1, J, PH-1 括	口縁～ 底部	(12.6)	4.1	(6.4)	148.0	3/4	内：SYRE/6 外：SYRE/6	クロロ形態、やや出っ張る高台は糸切りのまま。口唇部に採用着。被熟し 唇面剥落。やや粗い甲型窓に似た胎土質
1105	6-010-2012 PH-1	口縁～ 底部	7.9	2.5	4.0	62.0	様(延 長) 形	内：7 SYRE/5 外：7 SYRE/4	クロロ形態、出っ張った高台は糸切りのまま。口唇部に採用着。甲型窓に 似た胎土質
1106	6-010-2012 PH-1括	口縁部	(9.4)	-	-	6.0	破裂	内：10 SYRE/6 外：10 SYRE/7	小形の反斜面破片。



1層 10R2/3(黒褐色)に10R2/3(黒褐色)が入り、10R4/3(くろい黄褐色)が入り、10R5/6(黄褐色)があり、炭化物があり、焼土が付着するシルト粘土。粘性あり、しまりなし。

3番 10R3/4(暗緑)に10R5/6(黄緑)が入り、炭化繊維が入り、強度が増進するシルト粘土。粘性ややあり、ややしまる。

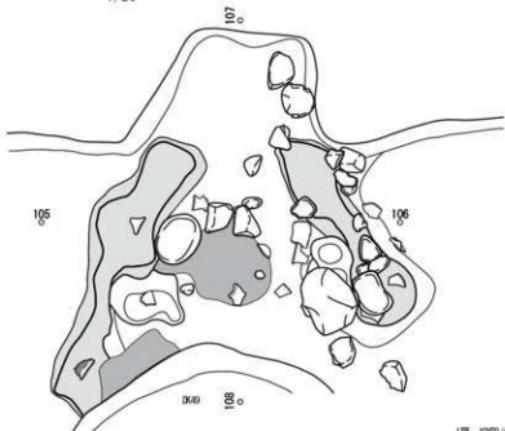
地山 1095.6(黄褐色), シルト粘土, 粘性ややあり, ややしまる

珠面 10M5.6(黄褐)に10M3.3(黒褐)が9%混じるシルト粒土。粘性ややあり。しまる。



PH-012号住居

Ⓐ 0 50cm
1/20



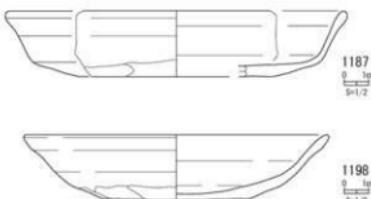
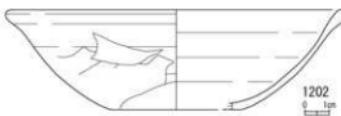
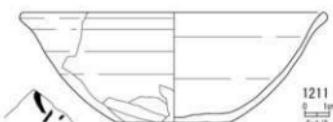
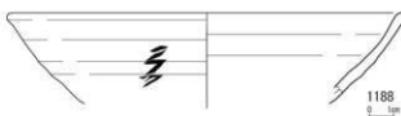
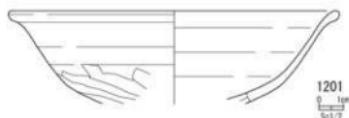
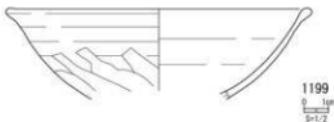
105

106 105.8

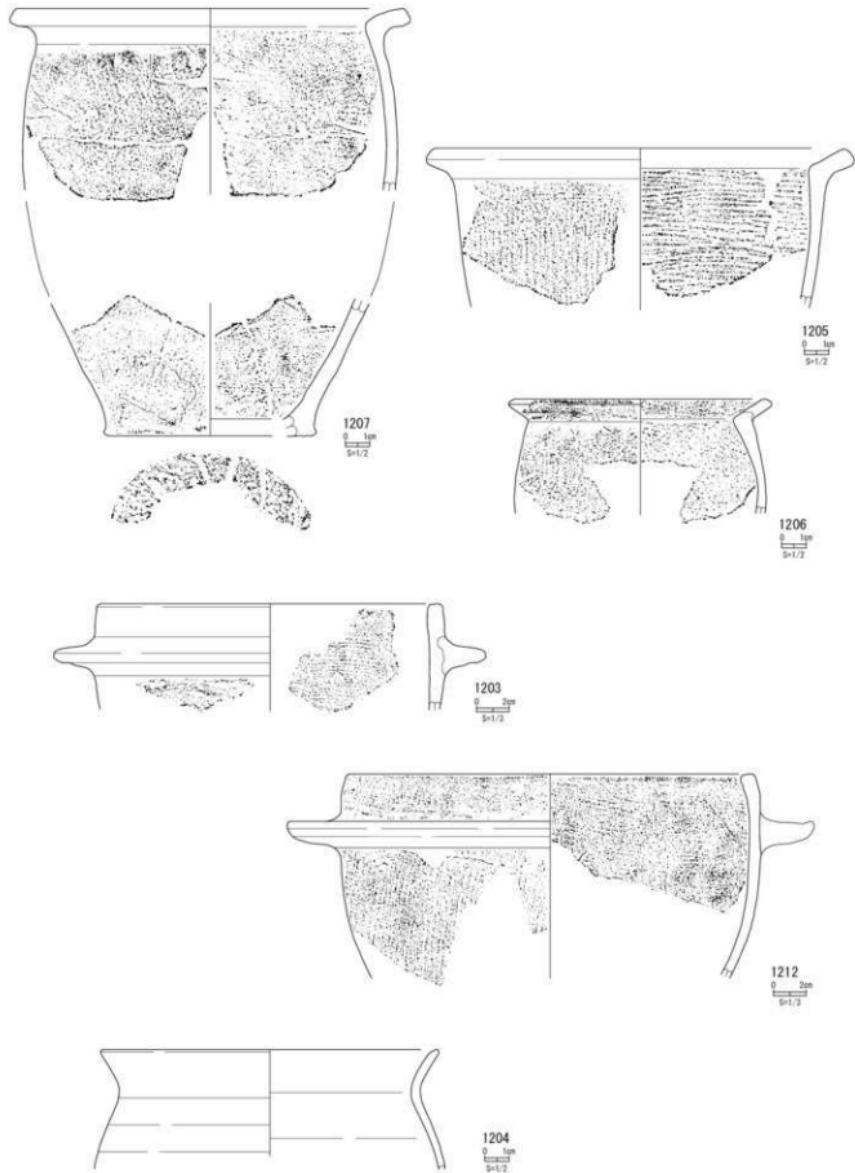
108

- 1層 10R0/4(黒褐色)に10R0(赤褐色)が6%、微土が70%混じるシルト粘土、粘性なし、ややしまる。
2層 10R0/4(黒褐色)に10R0(赤褐色)が6%、微土が70%混じるシルト粘土、粘性なし、ややしまる。
3層 5R6(赤褐色)に10R0/4(黒褐色)が4%混じるシルト粘土、粘性なし、ややしまる。(洗土層)
4層 10R0/3(黒褐色)に5% 5R4(赤褐色)が10%、微化物が75%混じるシルト粘土、粘性ややあり、ややしまる。
5層 10R0/4(黒褐色)に2% 5R4(赤褐色)が10%、微化物が75%混じるシルト粘土、粘性ややあり、ややしまる。
6層 10R0/3(黒褐色)に度化物が5%以下、混じるシルト粘土、粘性ややあり、ややしまる。
7層 10R4(2:1)～(黄褐色)に10R0/4(黒褐色)が30%、10R5(6)(黄褐色)が15%、微土が45%混じるシルト粘土、粘性ややあり、ややしまる。

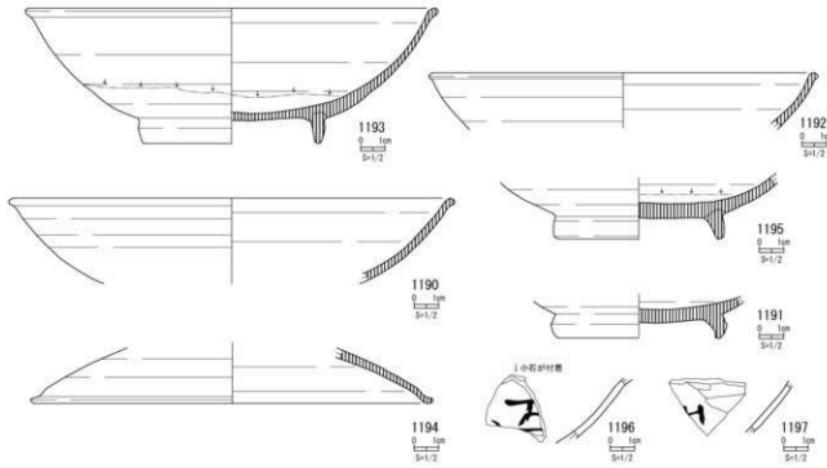
地山 10R2(2)(黒褐色)に10R4(4)(黒)が10%混じるシルト粘土、粘性ややあり、ややしまる。



PH-012 号住居カマド 出土遺物

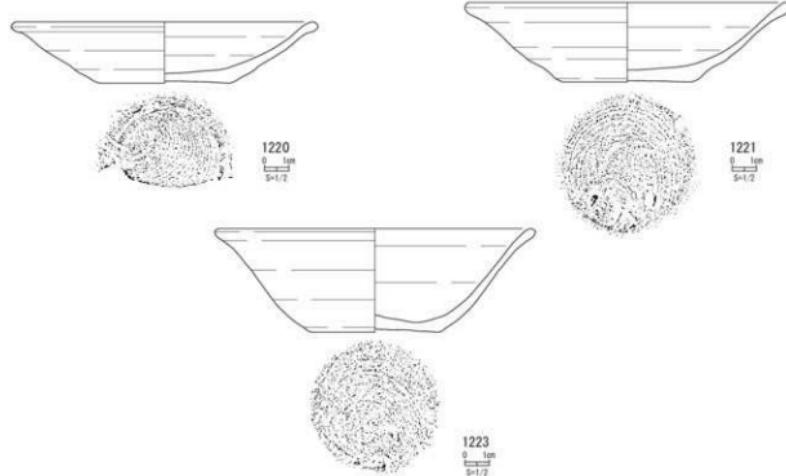
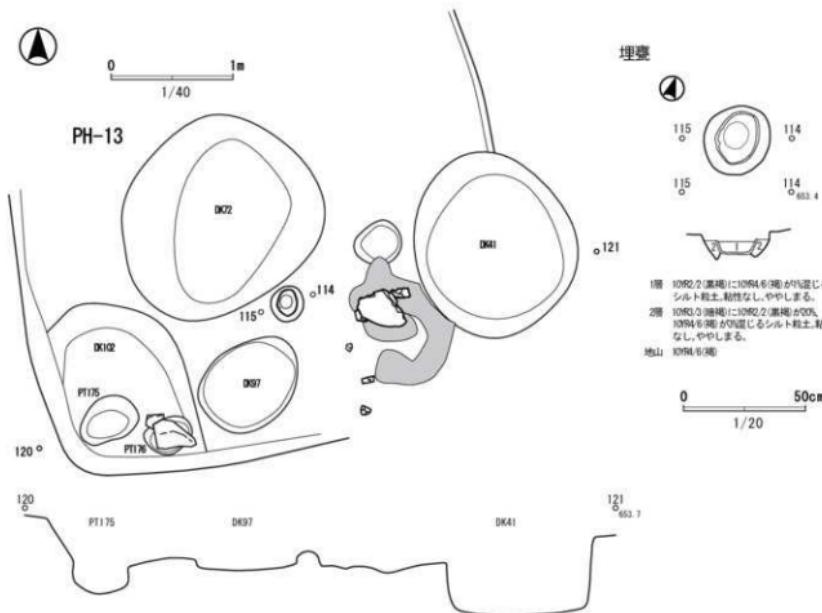


PH-012 号住居出土遗物

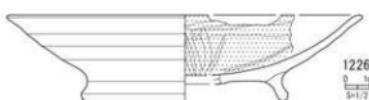
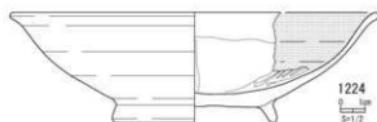
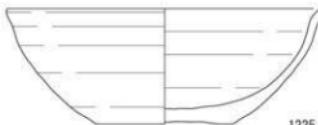
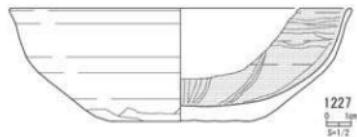
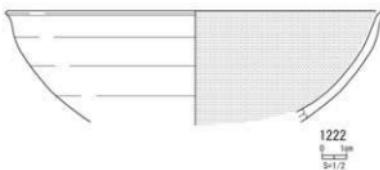
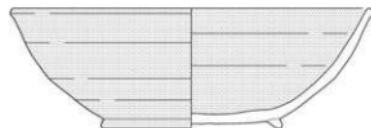
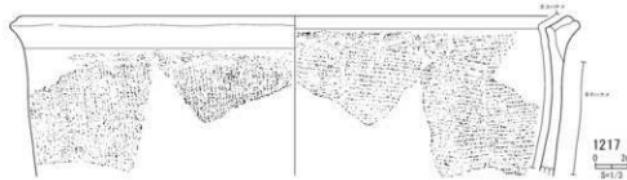
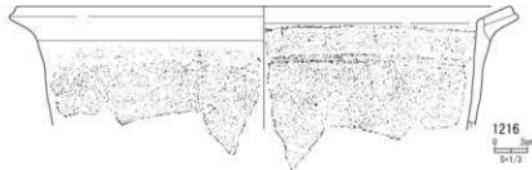


PH-012 号住居出土遺物

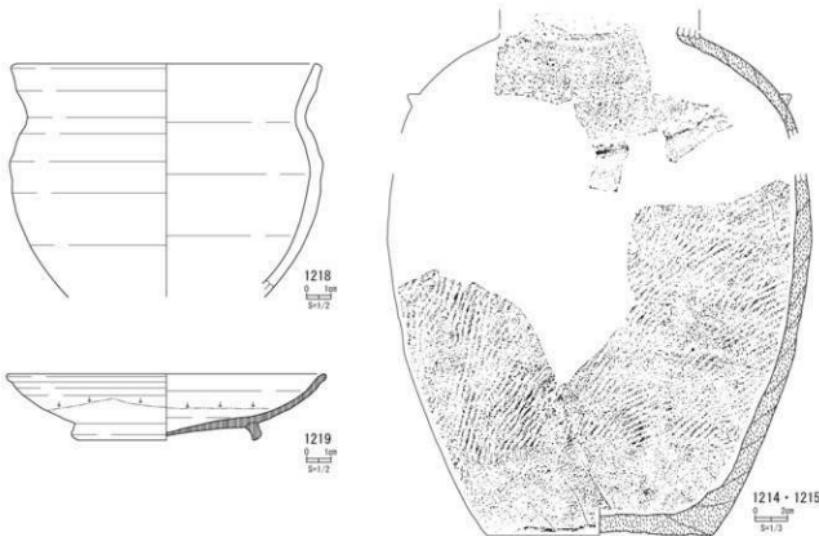
実測 番号	注記 (#-010-0102)	部位	口径 cm 幅	器高 cm 縦	底径 cm 厚さ	重量	残存度	地土色調 上段 / 内面 下段 / 外面	備考
1187	PH-12-1	口縁～ 底部	(14.0)	2.7	(5.0)	12.0	破片	内：7.5785.6 外：7.5786.6	身部が強く屈曲。手持ちヘラケズリ。口唇部はやや玉筋状
1188	PH-12-60, PH-12-1	口縁部	(16.0)	-	-	13.0	破片	内：7.5786.6 外：7.5786.6	クロ型整形。墨書きあり。
1190	PH-12-62	口縁部	18.2	-	-	13.0	破片	内：2.5771.2 外：2.5771.2	反転輪。灰色でやや乾いた粘土
1191	PH-12-102, PH-4-19	底部	-	-	6.5	67.0	破片	内：2.5771.2 外：2.5771.2	反転輪。底面に墨跡。転用窓か。乳白色できめ細かな粘土
1192	PH-12-24	口縁部	(15.7)	-	-	11.0	破片	内：2.5771.2 外：2.5771.2	反転輪。灰色で緻密、ガラス質の粘土
1193	PH-12-69	口縁～ 底部	(16.6)	5.5	(7.3)	51.0	1/4	内：10.972.1 外：10.972.1	反転輪。刷毛塗。灰色できめ細かな粘土
1194	PH-12-20	口縁部	(16.2)	-	-	17.0	破片	内：57.1 外：57.1	灰柱。口唇部形状から臺とみた。灰色できめ細かな粘土
1195	PH-12-63	底部	-	-	(7.0)	49.0	破片	内：57.1 外：57.1	反転輪。刷毛塗。灰色で緻密、ガラス質の粘土
1196	PH-12-1	胴部	-	-	-	2.0	破片	内：57.6 外：57.6	甲斐型坪。墨書き。「正」か?
1197	PH-12-1	胴部	-	-	-	2.0	破片	内：2.5785.6 外：2.5785.6	甲斐型坪。ヘラケズリ。墨書き
1198	PH-12-66	口縁～ 底部	(12.5)	2.7	5.0	68.0	2/3	内：57.6 外：57.6	クロ型整形。やたらとだらし手持ちヘラケズリ。やや突っぽい粘土。燒成により歪み、ひび割れ。
1199	PH-12-59	口縁～ 胴部	(12.2)	-	-	33.0	1/3	内：7.5785.4 外：7.5784.3	黒っぽい色調
1201	PH-12-55, PH-12-カマ F	口縁～ 胴部	(13.6)	-	-	51.0	1/4	内：57.6 外：57.6	ややざらついた粘土
1202	PH-12-138, PH-12-1	口縁～ 底部	(14.0)	-	(5.3)	32.0	破片	内：7.5787.4 外：7.5786.6	底部ヘラケズリ
1203	PH-12-17	口縁部	(21.0)	-	-	95.0	破片	内：57.6 外：57.5	内外面カキメ
1204	PH-12-64	口縁～ 胴部	(13.8)	-	-	18.0	破片	内：57.6 外：2.5784.6	クロ型整形。甲斐型裏より甲斐型坪に似たきめ細かい粘土
1205	PH-12-67, PH-12-1	口縁～ 胴部	(16.7)	-	-	70.0	破片	内：57.6 外：57.6	やや厚層した口縁部
1206	PH-12-1	口縁～ 胴部	(10.8)	-	-	19.0	破片	内：57.6 外：57.6	小形の甲斐型裏。内外面カキメ
1207	PH-12-94, PH-12-カマ F, PH-12-カマト1回1, PH-12カマト2回2	口縁～ 底部	(15.8)	(17.4)	(8.6)	136.0	破片	内：7.5787.4 外：7.5786.6	甲斐型の複数層。口縁部やや短め。口縁部の脛部は手づくね。指頭圧痕が強め。隔壁が厚手。きめ細かな环に似た粘土質。底面木葉底。
1211	PH-12-1	口縁～ 底部	(12.3)	4.5	4.5	28.0	1/5	内：57.6 外：57.6	口唇部墨縁。身部下端に墨書き
1212	PH-12-65, PH-12-100, PH-12カマト3, PH-12-1	口縁～ 胴部	(24.8)	-	-	345.0	破片	内：57.6 外：57.6	外表面カキメ調整後に開封付。内面ヨコカキメの後。襯カキメ。甲斐型裏と同じ粘土質



PH-013号住居 出土遺物

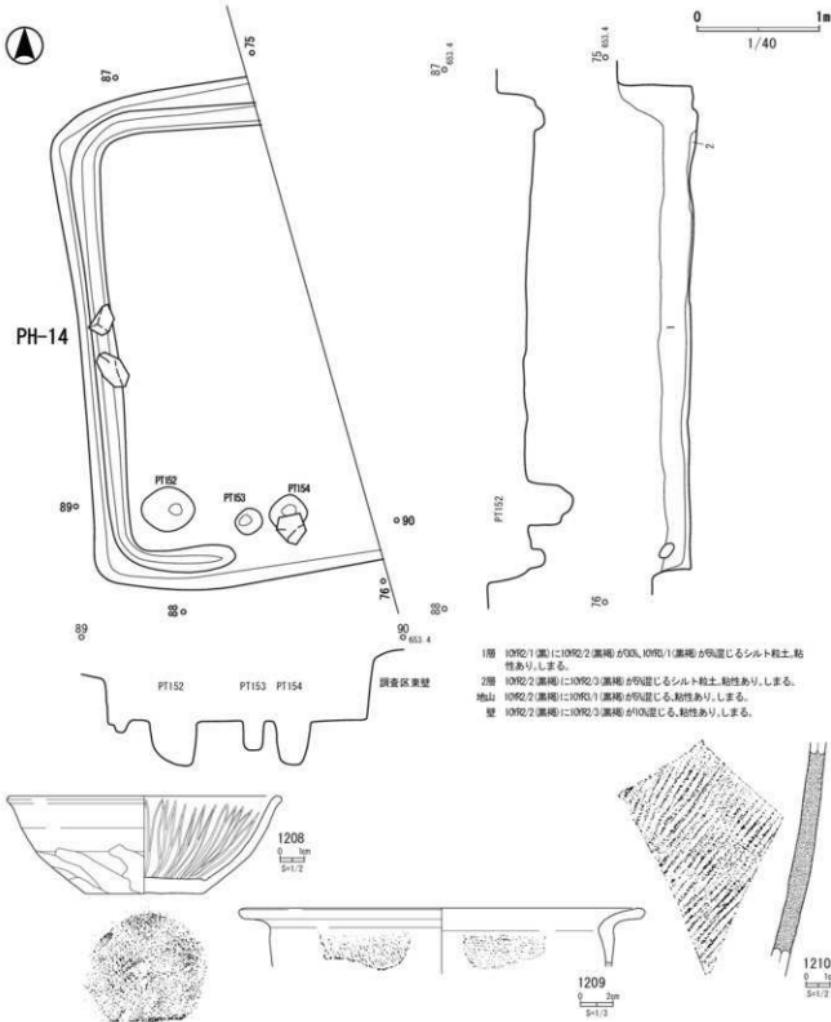


PH-013 号住居出土遺物



PH-013 号住居出土遺物

実測番号	注記 (5-010-2012)	部位	口径 cm 横	器高 cm 横	底径 cm 厚さ	重量	残存度	施土色調 上段：内面 下段：外面	備考
I214	PH-13 35, PH-13 一括	頭部～ 肩部	-	-	-	101.0	破片	内：7.5/6.1 外：N4/0	突帯付漆器器蓋。外面タタキ目、内面ロクナロダ。焼成良好。灰 色で砂粒が少ない胎土。同一器体破片が8点で出土。
I215	PH-13 球ダメ目 1, PH-13 19, PH-13 一括, 16-321, IG-318	頭～底 部	-	-	(13.8)	1,442.0	破片	内：7.5/6.1 外：5/5.1	I214 と同一個体。底部下端に煤化層、三次被熱し変色。底面は二 次被熱で焼け
I216	PH-13 46, PH-13 63, PH-13 一括, PH-13 カマド, (IG-97)	口縁～ 頭部	(30.2)	-	-	215.0	破片	内：7.5/8.5/4 外：7.5/8.5/1	甲斐型窓。内外面のカキメ調整が省略されている。
I217	PH-13 34, PH-13 51, PH- 13 66, PH-13 67	口縁～ 頭部	(34.6)	-	-	196.0	破片	内：7.5/8.4/3 外：7.5/8.4/2	甲斐型窓。口縁部は肥厚し、短い。
I218	PH-13 34, PH-13 一括, IG-72 2, 16-319	口縁～ 頭部	(12.8)	-	-	111.0	1/3	内：7.5/8.5/3 外：7.5/8.5/2	ロクロ形形跡。口縁部に複数の凹みのような煤化層。底部を細くすぼ めるような整形。単なる歪みか、武藏窯の系譜を引く器類か。胎 土質はやや砂が多いほかのロクロ形形跡と類似する。
I219	PH-13 33	口縁～ 底部	(13.2)	2.7	7.2	48.0	2/5	内：7.5/8.6/2 外：7.5/8.6/1	灰黒斑、刷毛迹。みごぶ筋が摩耗。灰色できめ細かな胎土
I220	PH-13 13, IG-324	口縁～ 底部	(12.6)	2.5	5.3	69.0	2/3	内：5/5.6 外：5/5.6/2	玉縁口縁。ヘラケズリなし。二次被熱、変色
I221	PH-13 30	口縁～ 底部	(13.0)	3.2	5.4	60.0	2/3	内：5/5.6 外：5/5.6/2	玉縁口縁。ヘラケズリなし。底部はやや高台状に出っ張る
I222	PH-13 49, PH-13 67	口縁～ 頭部	(15.6)	-	-	44.0	1/3	内：7.5/8.6/1 外：7.5/8.6/2	ロクロ型形、内裏環。内面襯。模方向に丹念なミガキ。
I223	PH-13 42, PH-13 47, PH-13 カマド	口縁～ 底部	(12.8)	4.2	5.3	74.0	2/3	内：2.5/8.5/6 外：2.5/8.5/5	底部がわざかに出っ張る。砂が多いいやざらついた胎土
I224	PH-13 25	口縁～ 底部	(15.2)	4.5	6.5	89.0	1/2	内：N2/0 外：5/5.6/6	灰黒縁部の内裏土師器。内面は見込み部から放射状のミガキ。口 縁部のみ帯状にミガキ。
I225	IG-97 1, IG-97 2, IG-97 5, IG-97 6, PH-13 一括, PH-13 カマド	口縁～ 頭部	(13.0)	4.7	5.6	66.0	2/5	内：7.5/8.6/1 外：7.5/8.6/2	I207 出土。ロクロ型土師器碗。内面は黄褐色。黒色處理してい ないのか。二次被熱で変色したのか不明。内面ミガキ痕なし
I226	IG-319, IG-322	口縁～ 底部	(13.6)	3.5	(7.4)	51.0	破片	内：10/92.1 外：7.5/8.6/4	PH-3 カマド出土。内面黑色處理。みごぶ筋から放射状紋。底部 に墨書き
I227	PH-13 16, PH-13 42, PH-13 一括, IG-319	口縁～ 底部	(14.0)	4.6	5.6	103.0	2/3	内：10/92.0 外：7.5/8.6/4	ロクロ型形の内裏土師器碗。底部と周辺ヘラケズリ。内面見込み 部から放射状のミガキ維繩。口縁部内面は模方向のミガキ
I228	PH-13 36	口縁～ 底部	(15.0)	4.9	(7.2)	125.0	1/2	内：10/92.1 外：10/92.1	ロクロ型土師器碗。内外面とも黑色處理。内面は全面を丹念に ミガキ。

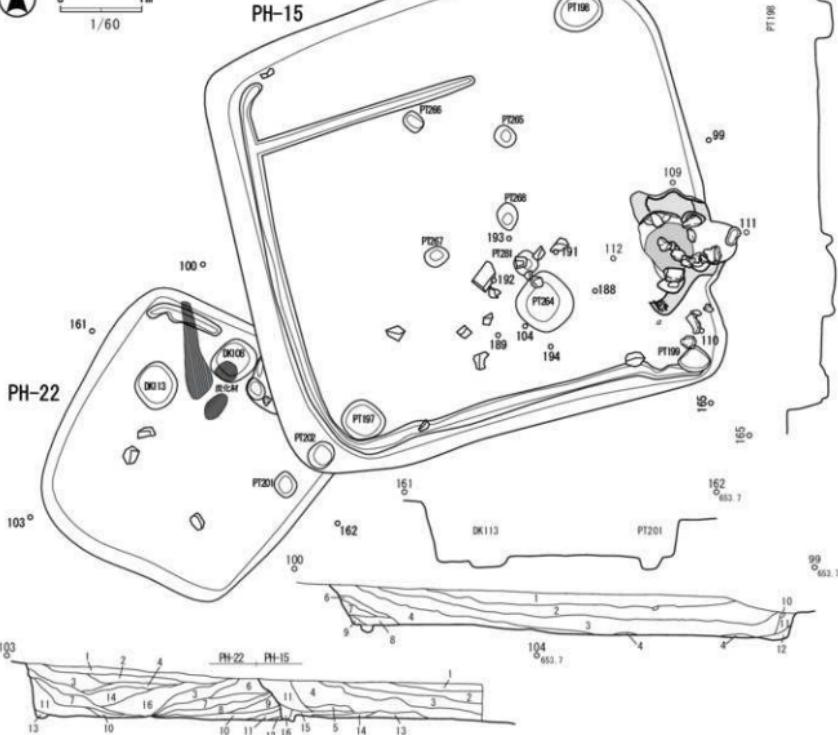


PH-014号住居 出土遺物

実測番号	注記	部位	口径 cm 横幅	壁高 cm 厚さ	底径 cm 厚さ	重量	残存度	土色調 上段：内面 下段：外面	備考
1208	6-010-2012 PH-14 1	口縁～ 底部	(11.2)	4.3	4.8	57.0	1/2	内：SYR6-6 外：SYR6-6	外面手持ちヘラケズリ、内面放射状線文。ややざらついた土質
1209	6-010-2012 PH-14 11	口縁部	(25.0)	-	-	29.0	破片	内：7.SYR6-4 外：7.SYR6-4	内外面カキメ
1210	6-010-2012 PH-14 22	底部	-	-	-	42.0	破片	内：N4.0 外：SPB1.7/1	硬質で焼成が良好。外面タキ、内面はロクロナデ痕が消えるほど平滑に摩耗。 紫褐色で砂粒が少ない土質



0
1m
1/60



PH-22 103-104

- 1層 1092/2(高場)に1092/1(底)が9%, 1094/4(頂)が9%, 1095/6(黄褐色)が10%混じるシルト粘土. 粘性ややあり。ややしまる。
- 2層 1092/2(高場)に1092/1(底)が9%, 1094/4(頂)が9%, 1095/6(黄褐色)が10%混じるシルト粘土. 粘性ややあり。ややしまる。
- 3層 1092/1(底)に1092/2(高場)が9%, 1094/4(頂)が9%, 1095/6(黄褐色)が10%混じるシルト粘土. 粘性ややあり。ややしまる。
- 4層 1092/2(高場)に1094/4(頂)が9%, 1092/1(底)が9%混じるシルト粘土. 粘性ややあり。ややしまる。
- 5層 1092/3(高場)に1092/2(底)が9%, 1095/6(黄褐色)が9%混じるシルト粘土. 粘性ややあり。ややしまる。
- 6層 1092/2(高場)に1094/4(頂)が9%, 1092/1(底)が9%, 1095/6(黄褐色)が10%混じるシルト粘土. 粘性ややあり。ややしまる。
- 7層 1092/2(高場)に1094/4(頂)が9%, 1095/6(黄褐色)が9%混じるシルト粘土. 粘性ややあり。ややしまる。
- 8層 1092/2(高場)に1092/1(底)が9%, 1095/6(黄褐色)が9%混じるシルト粘土. 粘性ややあり。ややしまる。
- 9層 1092/2(高場)に1094/4(頂)が9%, 1095/6(黄褐色)が9%混じるシルト粘土. 粘性ややあり。ややしまる。
- 10層 1092/3(高場)に1094/4(頂)が9%, 1095/6(黄褐色)が9%混じるシルト粘土. 粘性ややあり。ややしまる。(上層に炭化物が多量あり下層に洗出がある)
- 11層 1092/3(高場)に1094/4(頂)が9%, 1092/1(底)が9%, 炭化物が9%, シルト粘土. 粘性ややあり。ややしまる。
- 12層 1095/6(黄褐色)に1092/2(高場)が10%混じるシルト粘土. 粘性ややあり。ややしまる。
- 13層 1092/3(高場)に1094/4(頂)が9%, 1095/6(黄褐色)が9%混じるシルト粘土. 粘性ややあり。ややしまる。
- 14層 1092/3(高場)に1094/4(頂)が9%, 1095/6(黄褐色)が9%混じるシルト粘土. 粘性ややあり。ややしまる。
- 15層 1092/2(高場)に1092/1(底)が9%, 1094/4(頂)が9%炭化物が10%混じるシルト粘土. 粘性ややあり。ややしまる。
- 16層 1092/2(高場)に1092/1(底)が9%, 1095/6(黄褐色)が9%混じるシルト粘土. 粘性ややあり。ややしまる。

床面 1092/3(高場)に1092/1(底)が9%混じるシルト粘土. 粘性ややあり。ややしまる。

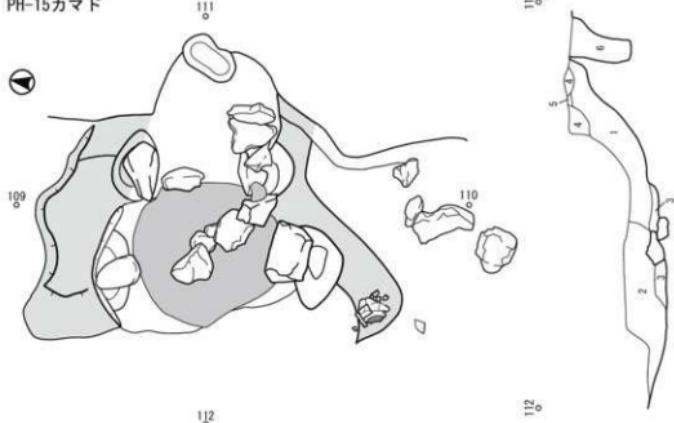
壁 上部 1092/2(高場)に1092/1(底)が9%, 1094/4(頂)が9%混じるシルト粘土. 粘性ややあり。ややしまる。

PH-15 99-100-101-102

- 1層 1092/1(底)に1092/2(高場)が9%, 1094/6(頂)が9%混じる。シルト粘土. 粘性ややあり。ややしまる。
- 2層 1092/2(高場)に1092/1(底)が9%, 1094/6(頂)が9%以下、混じる。シルト粘土. 粘性ややあり。ややしまる。
- 3層 1092/1(底)に1094/6(頂)が9%以下、混じる。花崗岩小礫が9%, 炭化物が9%以下、混じる。シルト粘土. 粘性ややあり。ややしまる。
- 4層 1092/2(高場)に1094/4(頂)が9%, 1094/6(底)が9%混じる。シルト粘土. 粘性ややあり。ややしまる。
- 5層 1092/1(底)に1094/4(頂)が9%以下、混じる。シルト粘土. 粘性ややあり。ややしまる。
- 6層 1092/2(高場)に1092/2(底)が9%, 1094/6(頂)が9%混じる。シルト粘土. 粘性ややあり。ややしまる。
- 7層 1092/2(高場)に1094/4(頂)が9%以下、混じる。シルト粘土. 粘性ややあり。ややしまる。
- 8層 1092/1(底)に1092/2(高場)が9%, 1094/6(頂)が9%混じる。シルト粘土. 粘性ややあり。ややしまる。
- 9層 1092/2(高場)に1094/1(底)が9%, 1094/4(頂)が9%混じる。シルト粘土. 粘性ややあり。ややしまる。
- 10層 1092/1(底)に1092/2(高場)が9%, 1094/6(頂)が9%混じる。シルト粘土. 粘性ややあり。ややしまる。
- 11層 1092/1(底)に1092/2(高場)が9%, 1094/4(頂)が9%混じる。シルト粘土. 粘性ややあり。ややしまる。
- 12層 1092/2(高場)に1094/1(底)が9%, 1094/4(頂)が9%混じる。シルト粘土. 粘性ややあり。ややしまる。
- 13層 1092/3(高場)に1094/4(頂)が9%, 1095/6(黄褐色)が9%混じる。粘土透水性が9%, 黄褐色が9%、砂土が9%以下、シルト粘土. 粘性ややあり。ややしまる。
- 14層 1092/3(高場)に1094/4(頂)が9%, 1095/6(黄褐色)が9%混じる。シルト粘土. 粘性ややあり。ややしまる。
- 15層 1092/3(高場)に1094/4(頂)が9%, 1095/6(黄褐色)が9%混じる。粘土透水性が9%, 黄褐色が9%、砂土が9%以下、シルト粘土. 粘性ややあり。ややしまる。
- 16層 1092/3(高場)に1094/4(頂)が9%混じるシルト粘土. 粘性ややあり。ややしまる。

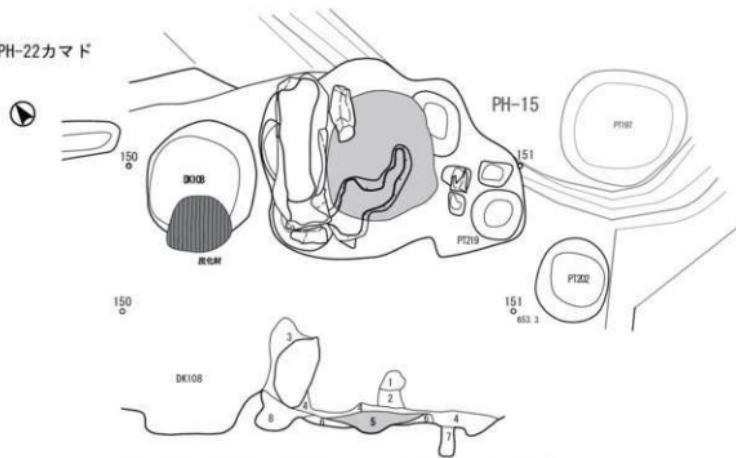
床面 1092/2(高場)に1092/3(高場)が9%, 1093/3(頂)が10%混じるシルト粘土. 粘性ややあり。ややしまる。

PH-15 カマド



1層 10F2.0(黒磚)に10F4.4(こい 黄磚)が9.0、底化物が6%、焼土5.6%を(添附)が引留するシルト粘土、粘性やであり、ややしまる。
2層 10F2.0(黒磚)に10F4.4(こい 黄磚)が9.0、底化物が6%、焼土が6%を(添附)が引留するシルト粘土、粘性やであり、ややしまる。
3層 10F5.4(こい 黄磚)に(添付)底化物引留4.0、10F2.0(黒磚)が6%、底化物が引留するシルト粘土、粘性やであり、ややしまる。(添付)
4層 10F2.0(黒磚)に10F4.4(こい 黄磚)が引留するシルト粘土、粘性なし、ややしまる。
5層 10F4.4(消粧)に10F2.0(黒磚)が引留するシルト粘土、粘性なし、ややしまる。
6層 10F2.0(消粧)に10F2.0(黒磚)が10.0、10F5.4(こい 黄磚)が引留するシルト粘土、粘性なし、ややしまる。(添付ナシ)

PH-22 カマド

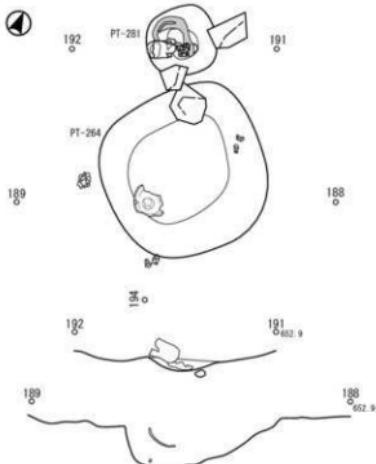


1層 10F5.4(こい 黄磚)に10F2.0(黒磚)が9.0、底化物が6%、焼土5.6%を(添附)が引留するシルト粘土、粘性やであり、しまる。(油部分①)
2層 10F2.0(黒磚)に10F4.4(こい 黄磚)が9.0、底化物が6%、焼土が6%を(添附)が引留するシルト粘土、粘性やであり、しまる。
3層 10F5.4(黄磚)に10F3.2(黒磚)が6%、底化物が引留するシルト粘土、粘性なし、しまる。(油部分②)
4層 10F2.0(黒磚)に10F3.2(黒磚)が9.0、底化物が引留するシルト粘土、粘性やであり、ややしまる。
5層 9F6.8(明礬磚)に10F2.0(黒磚)が9.0、10F5.4(こい 黄磚)が9.0、底化物が引留するシルト粘土、粘性なし、しまる。(床部油土層)
6層 10F6.8(黒磚)に10F2.0(黒磚)が9.0、焼土が引留するシルト粘土、粘性やであり、しまる。
7層 10F2.0(黒磚)に10F4.4(こい 黄磚)が9.0、底化物が引留するシルト粘土、粘性やであり、しまりなし。
8層 10F2.0(黒磚)に10F2.0(黒磚)が9.0、10F6.8(黒磚)が9.0、焼土が引留するシルト粘土、粘性やであり、ややしまる。
地山 10F6.8(黒磚)、シルト粘土、粘性やあります。

PH-015 号住居 カマド

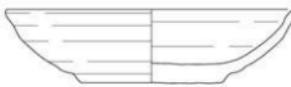
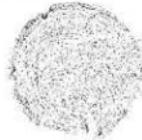
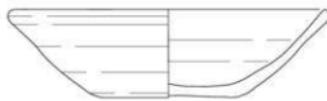
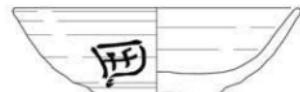
PT264・PT281

193.



0 50cm
1/20

1層 1082.2(高さ)に10RD/3(壁幅)が50%, 10FH/1(板厚)が5%混じるシルト粘土。粘性なし、ややしまる。
地山 1082.2(高さ)に炭化物が50%, 灰が5%混じるシルト粘土。粘性なし、しまる。



PH-015号住居



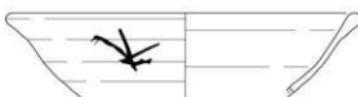
1135

0 1cm
5-1/2

1137

0 1cm
5-1/2

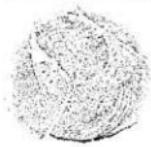
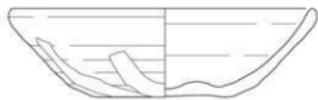
1139

0 1cm
5-1/2

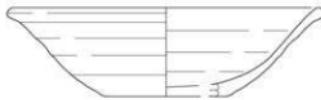
1157

0 1cm
5-1/2

1158

0 1cm
5-1/2

1164

0 1cm
5-1/2

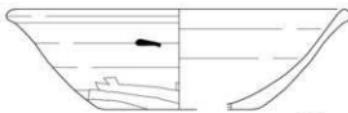
1166

0 1cm
5-1/2

PT-264



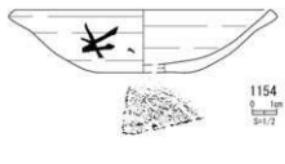
1181

0 1cm
5-1/2

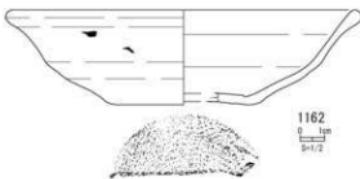
1228

0 1cm
5-1/2

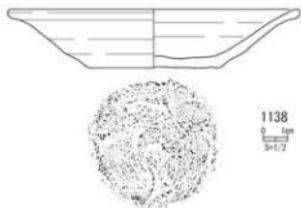
PH-015 号住居出土遺物



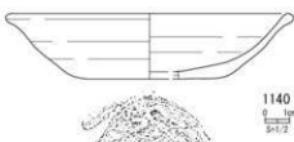
1154
0 1cm
S=1/2



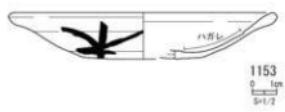
1162
0 1cm
S=1/2



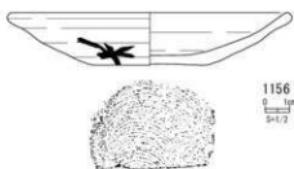
1138
0 1cm
S=1/2



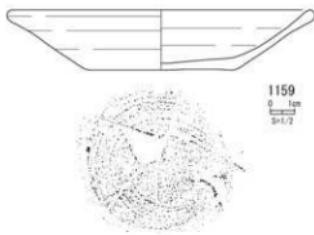
1140
0 1cm
S=1/2



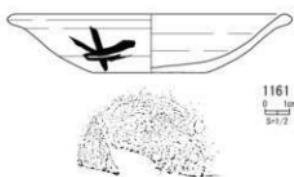
1153
0 1cm
S=1/2



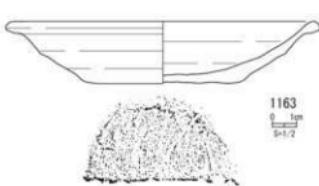
1156
0 1cm
S=1/2



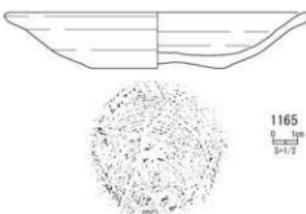
1159
0 1cm
S=1/2



1161
0 1cm
S=1/2

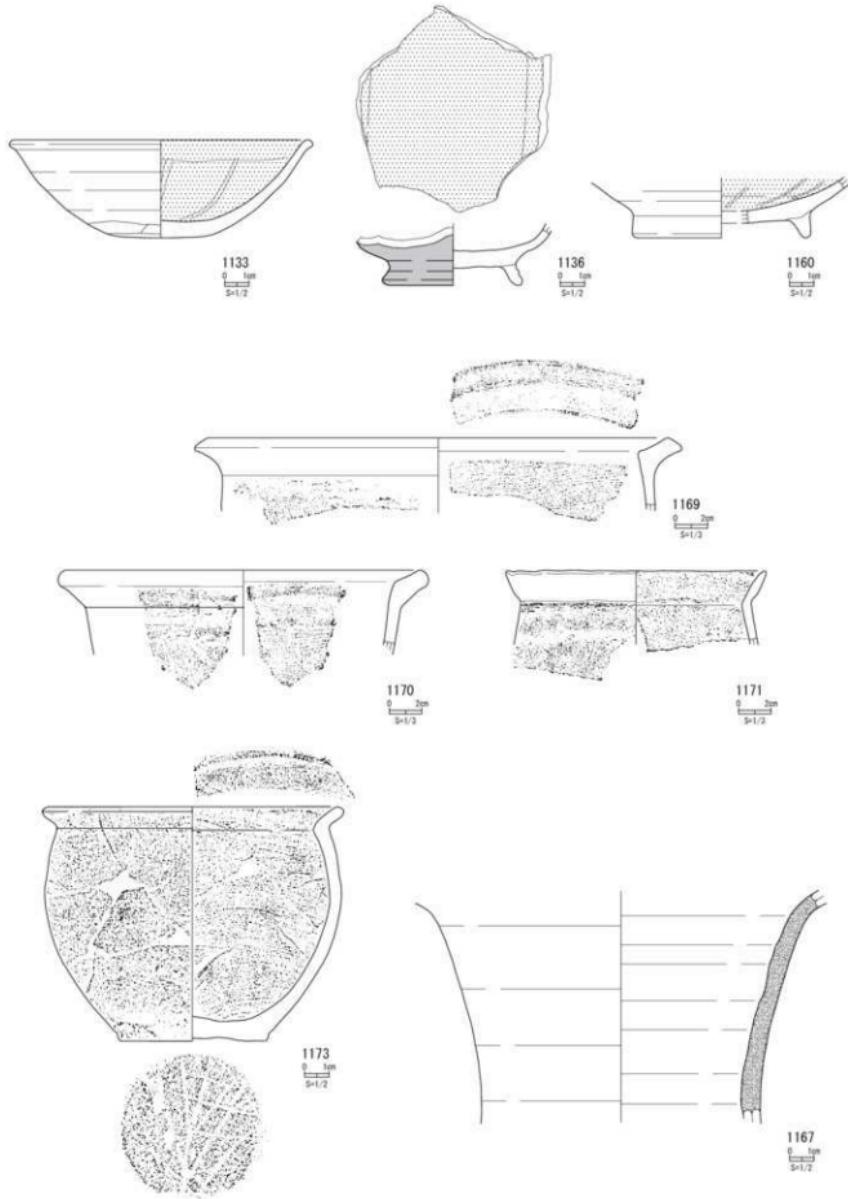


1163
0 1cm
S=1/2

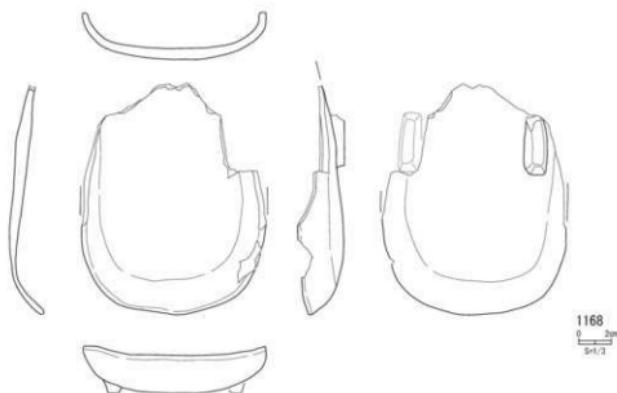


1165
0 1cm
S=1/2

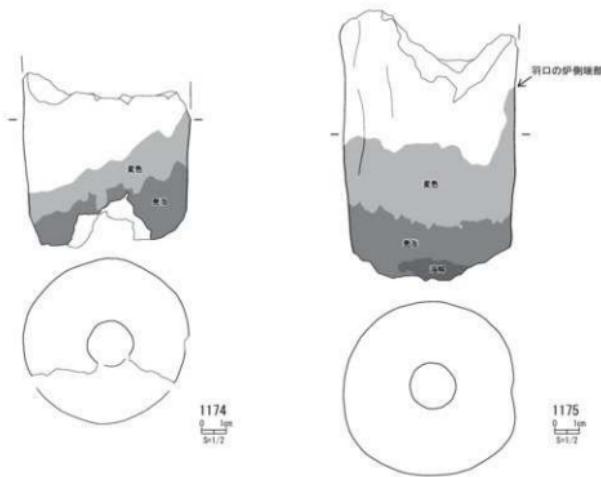
PH-015 号住居出土遺物



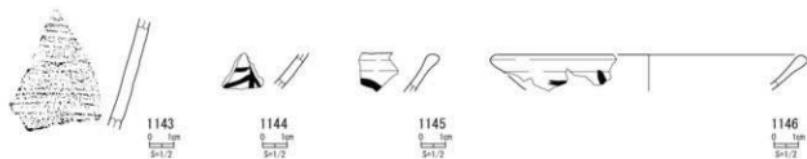
PH-015号住居出土遗物



PT-281



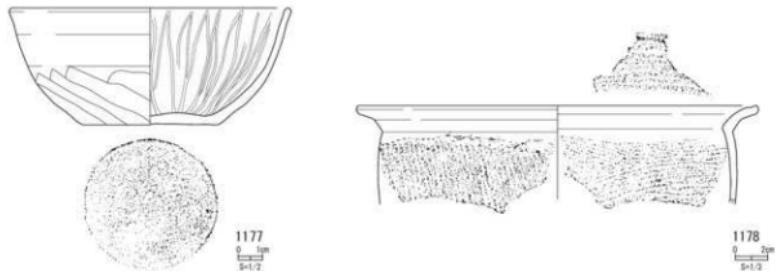
PH-015号住居出土遺物



PT-199



PH-015 号住居出土遺物



PH-022 号住居出土遺物

PH-015 号住居 土器観察表

実測番号	注記	部位	口径 cm 幅	器高 cm 機	底径 cm 厚さ	重量	残存度	出土色調 上段：内面 下段：外面	備考
1130	6-010-2012 PH-15 165	口縁～ 底部	11.8	3.6	4.7	111.0	ほぼ完 形	内：SYR6/6 外：SYR5/6	甲型型坏。墨書、底部糸切、高台状にやや出っ張る。内面風化著しい。
1131	6-010-2012 PH-15 125	口縁～ 底部	12.0	3.7	4.2	96.0	完形	内：SYR6/6 外：SYR5/6	甲型型坏。底部に糸切痕がある。玉縁口縁。手持ちヘラケズリ。見込み部に凹凸のあるロクナデ痕。
1132	6-010-2012 PH-15 124	口縁～ 底部	12.8	3.6	5.5	113.0	完形	内：7.5SYR6/6 外：7.5SYR5/6	甲型型坏。ヘラケズリなし。底部糸切。ややざらついた胎土
1133	6-010-2012 PH-15 118	口縁～ 底部	12.4	4.0	4.0	94.0	2/3	内：10YR2/1 外：SYR6/6	内風化。底部と周囲ヘラケズリ。内面黒色處理。みこみ部から放射線文。甲型型坏と同質の胎土でややざらつく。
1134	6-010-2012 PH-15 125	口縁～ 底部	11.9	3.0	5.6	111.0	4/5	内：SYR6/6 外：SYR5/6	甲型型坏。三のように器高が低い。ヘラケズリなし。底部糸切。底盤は高台状にやや出っ張る。内外面に粘土スカスカ付着。ややざらついた胎土。
1135	6-010-2012 PH-15 119, PH-15 一括	口縁～ 底部	13.2	3.7	6.0	104.0	4/5	内：SYR5/6 外：SYR5/6	甲型型坏。口唇部に煤が多量に付着。みこみ部に凹凸のあるロクナデ痕。
1136	6-010-2012 PH-15 20	体部下 半～底 部	-	-	5.7	57.0	破片	内：2.5SY3/2 外：N.D.	内黒耳皿。内外面黒色處理。みこみ部は平滑に摩耗
1137	6-010-2012 PH-15 158	肩部～ 底部	-	-	6.3	89.0	破片	内：10YR4/1 外：SYR5/6	甲型型坏。やや大ぶりの軒。底部は高台状にやや出っ張る。墨書「干」か
1138	6-010-2012 PH-15 122	口縁～ 底部	(11.9)	2.9	5.0	60.0	1/2	内：SYR5/4 外：7.5SYR6/6	甲型型坏。ややざらついた胎土
1139	6-010-2012 PH-15 120	口縁～ 底部	12.9	3.6	6.0	116.0	9/10	内：SYR5/6 外：SYR5/6	甲型型坏。口唇部に煤が多量に付着。墨書「干」
1140	6-010-2012 PH-15 一括	口縁～ 底部	(11.8)	2.6	5.7	33.0	1/3	内：SYR5/6 外：SYR5/4	甲型型坏。ややざらついた胎土
1141	6-010-2012 PH-15 一括	口縁部	-	-	-	5.0	破片	内：SYR5/6 外：SYR5/6	甲型型坏。墨書
1142	6-010-2012 PH-15 一括	肩下部	-	-	-	5.0	破片	内：7.5SYR6/4 外：SYR5/4	甲型型坏。ヘラケズリ。墨書
1143	PH-15 一括	胴部	-	-	-	9.0	破片	内：7.5SYR6/6 外：7.5SYR6/6	ロクロ唇形小形盤。甲型型坏に似たややざらつく胎土
1144	PH-15 一括	胴部	-	-	-	1.0	破片	内：SYR5/6 外：SYR5/6	甲型型坏。墨書
1145	PH-15 一括	口縁部	-	-	-	1.2	破片	内：2.5SYR6/6 外：2.5SYR6/6	甲型型坏。玉縁口縁。墨書
1146	PH-15 一括	口縁部	(13.0)	-	-	5.0	破片	内：2.5SYR6/6 外：2.5SYR6/6	甲型型坏。玉縁口縁。墨書
1147	PH-15 一括	胴部	-	-	-	1.4	破片	内：SYR5/6 外：SYR5/6	甲型型坏。墨書
1148	PH-15 一括	口縁部	-	-	-	1.5	破片	内：SYR6/6 外：SYR6/6	甲型型坏。墨書
1149	PH-15 一括	口縁部	-	-	-	1.7	破片	内：SYR6/6 外：SYR6/6	甲型型坏。墨書
1150	PH-15 一括	胴部	-	-	-	1.2	破片	内：SYR6/6 外：SYR6/6	甲型型坏。墨書
1151	PH-15 一括	口縁部	-	-	-	1.7	破片	内：SYR5/4 外：SYR5/6	甲型型坏。墨書
1152	PH-15 一括	口縁部	-	-	-	1.9	破片	内：2.5SYR6/6 外：2.5SYR6/6	甲型型坏。玉縁口縁。墨書
1153	PH-15 一括	口縁～ 底部	(11.0)	(3.5)	(4.9)	7.8	破片	内：7.5SYR7/4 外：7.5SYR7/6	甲型型坏。ヘラケズリ。墨書
1154	PH-15 一括	口縁～ 底部	(10.5)	2.6	(4.0)	10.9	1/6	内：SYR6/6 外：SYR5/6	甲型型坏。墨書
1155	PH-15 一括	口縁部	-	-	-	5.3	破片	内：SYR5/6 外：SYR5/6	甲型型坏。玉縁口縁。墨書
1156	PH-15 11	口縁～ 底部	(11.3)	2.2	5.0	31.0	1/3	内：SYR5/6 外：SYR5/6	甲型型坏。墨書。ややざらついた胎土
1157	PH-15 106, PH-15 一括	口縁～ 胴部	(14.6)	-	-	24.0	1/5	内：2.5SYR6/6 外：SYR5/6	甲型型坏。玉縁口縁。墨書
1158	PH-15 48, PH-15 一括	胴部～ 底部	-	-	6.0	32.0	破片	内：SYR5/6 外：SYR5/6	甲型型坏。みこみ部に凹凸のあるロクロナデ痕。墨書
1159	PH-15 108, PH-15 一括	口縁～ 底部	(12.6)	2.5	6.0	41.0	2/5	内：SYR6/6 外：SYR5/6	甲型型坏
1160	PH-15 35	台付部	-	-	(7.0)	30.0	破片	内：10YR2/1 外：SYR6/6	内黒土器。内面黒色處理。みこみ部から放射状堆文
1161	PH-15 39, PH-15 42, PH-15 32, PH-15 一括	口縁～ 底部	(11.6)	2.5	5.0	39.0	1/2	内：SYR6/6 外：2.5SYR5/6	甲型型坏。玉縁口縁。墨書
1162	PH-15 171, PH-15 170, PH-15 164, PH-15 58	口縁～ 底部	(14.6)	3.9	(6.0)	47.0	1/3	内：SYR5/6 外：SYR5/6	甲型型坏。墨書か

PH-015号住居 土器観察表

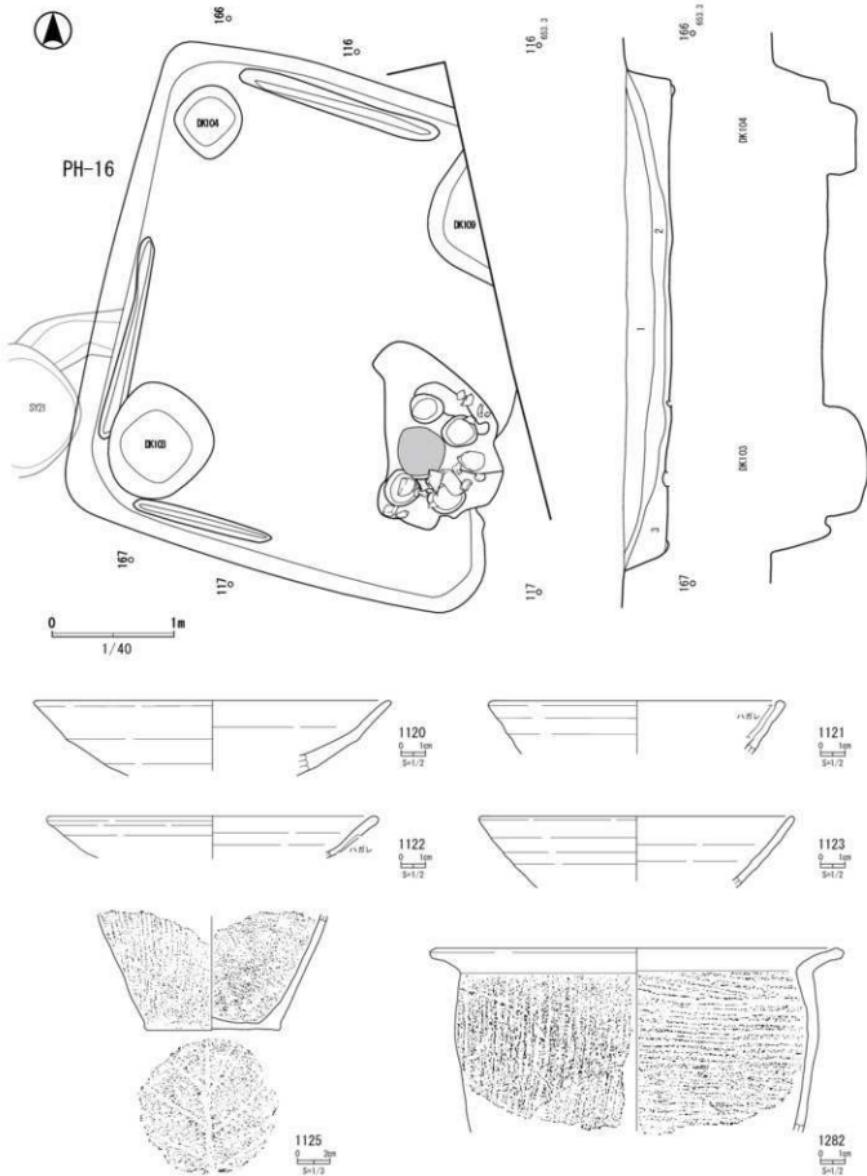
実測番号	注記	部位	口径 cm 縦	器高 cm 横	底径 cm 厚さ	重量	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
1163	PH-15. 1, PH-15. 15, PH-15. 16-232	口縁～底部	(12. 9)	2. 5	6. 0	49. 0	1/2	内：2. SYR5/6 外：2. SYR5/6	甲斐型皿
1164	PH-15. 51, PH-15. 24, PH-15. 47, PH-15. 52, PH-15. 53	口縁～底部	12. 4	3. 7	5. 5	72. 0	2/3	内：SYR5/6 外：SYR5/6	甲斐型坏。底部と周辺へラケズリ。みこみ部に凹凸のあるロクロナ子底。
1165	PH-15 カマド窓2, PH-15 カマド, PH-15-15	口縁～底部	12. 6	2. 3	5. 4	82. 0	5/6	内：SYR6/6 外：SYR6/6	甲斐型皿。焼成前の歪みあり。
1166	PH-15 カマド	口縁～底部	(13. 0)	3. 6	(5. 0)	16. 0	1/6	内：SYR6/6 外：SYR6/6	甲斐型坏。玉縁口縁
1167	PH-15. 52, PH-15. 53	縁部	-	-	-	160. 0	破片	内：SYR4/1 外：SYR4/2	須恵器長颈瓶破片、外縁ロコロナ子、内面は工具によるロクロナ子？ 砂粒がやや多い灰色の胎土。
1168	PH-15. 15, PH-15. 157, PH-15-15	縁部	-	2. 8	-	133. 0	1/2	内：N2/0 外：N2/0	裏面吸水、内外面ミカキ、黒色胎理。表面中心が膨隆、底面に系台あり。高台は左右にヶ所づ。表面底下側に變滑りができるように置かれる。
1169	PH-15. 88	口縁部	(28. 3)	-	-	83. 0	破片	内：SYR6/6 外：SYR6/6	外縁カキメは下から上へ引き上げ、頭部に粘土が溜まる
1170	PH-15. 36	口縁部	(22. 0)	-	-	40. 0	破片	内：7. SYR6/6 外：7. SYR6/6	甲斐型要。内外面カキメ。器壁がやや薄い、典型的な甲斐型焼胎土よりも砂粒が少くない。
1171	PH-15. 156	口縁部	(16. 0)	-	-	37. 0	破片	内：7. SYR6/4 外：7. SYR6/6	土師器要。手づくね成形か、口縁部に指頭圧痕。内面にわずかにカキメ。非甲斐型内巻环に似た胎土質
1172	PH-15-15	縁部	(15. 4)	-	-	10. 0	破片	内：2. SYR7/1 外：N2/0	灰轉輪器、口唇部形状から蓋とした。灰色、緻密でガラス質な胎土
1173	PH-15. 16, PH-15. 18, PH-15. 28, PH-15. 40, PH-15. 39, PH-15. 9, PH-15. 161, 16-837, PH-15-15	口縁～底部	12. 4	9. 5	6. 0	270. 0	2/3	内：SYR6/2 外：7. SYR5/4	甲斐型小形容
1174	PH-15. 99, PH-15. 110	羽口	(6. 8)	-	-	185. 0	破片	内：7. SYR7/6 外：7. SYR7/6	羽口の伊例端部、強く被熱し溶融、変色
1175	PT-281 直	羽口	(7. 2)	-	-	52. 0	破片	内：7. SYR6/4 外：7. SYR6/6	PT281出土。羽口の伊例端部、強く被熱し溶融、変色
1176	PT-199-15	縁部	-	-	-	3. 0	破片	内：2. SYR5/6 外：2. SYR6/6	PT199出土。甲斐型。墨書き
1181	PH-15 カマド窓2	口縁部	(14. 0)	-	-	7. 0	破片	内：7. SYR6/6 外：7. SYR7/6	甲斐型。玉縁口縁。墨書き
1182	PH-15-15	縁部	-	-	-	2. 0	破片	内：7. SYR6/6 外：7. SYR6/6	甲斐型。墨書き
1228	PT-264-15	口縁～底部	(14. 8)	4. 1	6. 0	87. 0	2/3	内：2. SYR5/6 外：2. SYR5/6	PT264出土。甲斐型。玉縁口縁。舟部下端と底面へラケズリ。底部の内外面が剥落。墨書き

PH-015号住居 金属製品観察表

整理番号	注記	器種	石材種	残存度	現存長 (mm)	現存幅 (mm)	現存厚 (mm)	重量 (g)	観察所見
11694	PH15. 9	鉄津						94. 5	柄型津
11695	PH15. 154	鉄津						269. 8	柄型津
11696	PT198. 1	錐						42. 6	PT198出土。錐がついた錐と思われる鉄製品。

PH-022号住居 土器観察表

実測番号	注記	部位	口径 cm 縦	器高 cm 横	底径 cm 厚さ	重量	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
1177	6-010-2012 DF-010-2012 PH-22 1 カマド	口縁～底部	(11. 4)	4. 8	5. 5	69. 0	1/2	内：7. SYR6/4 外：SYR6/6	身部下端と底面へラケズリ。内面はみこみ部端から口唇部にかけて密でいいねいな放射状焼紋。きめ細かな胎土
1178	6-010-2012 PH-22 3, SK-108-15	口縁部	24. 6			45. 0	破片	内：SYR4/4 外：SYR4/4	カマド脇のDK108出土。甲斐型蓋



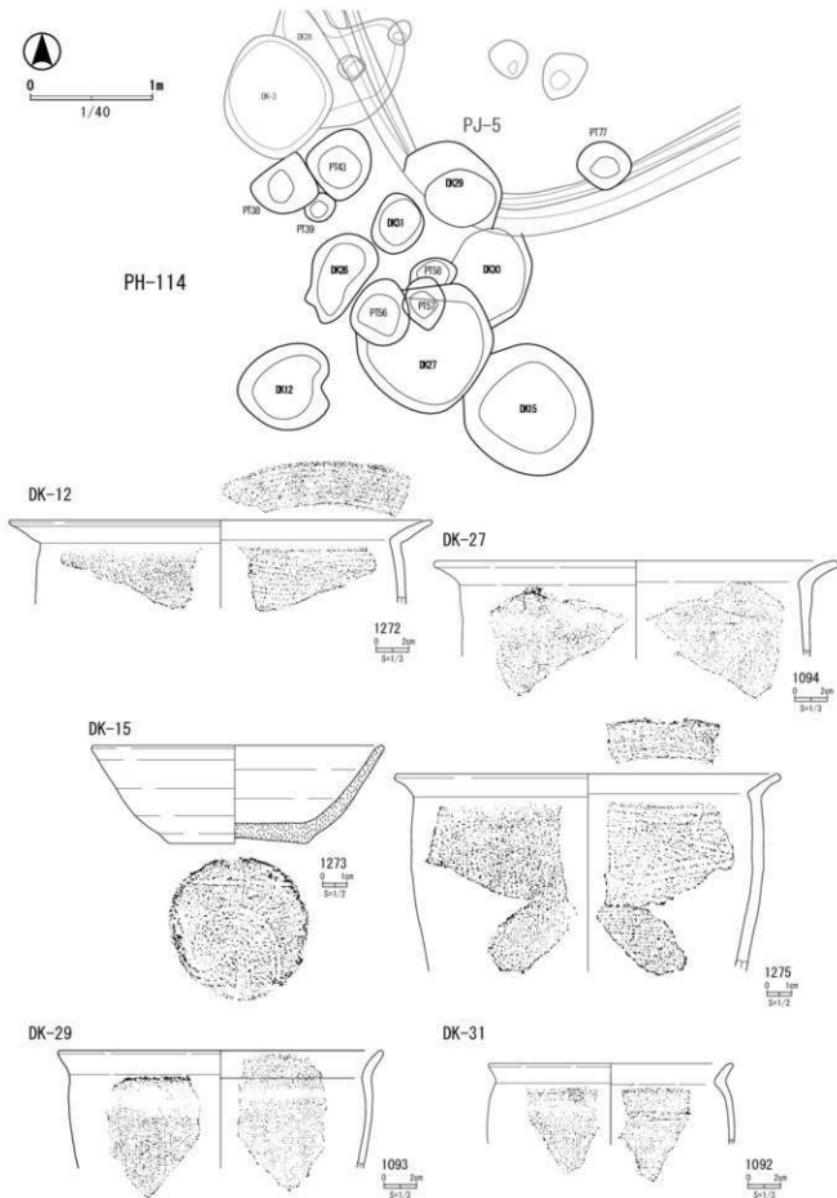
PH-016号住居 出土遺物

PH-016号住居 土器観察表

実測 番号	注記	部位	口径 cm 幅	器高 cm 模	底径 cm 厚さ	重量	残存度	胎土色調 上段：内面 下段：外面	備考
1120	6-010-2012 PH-16-1倍	口縁～ 肩部	(14.6)	—	—	9.0	破片	内：SYR6/6 外：SYR6/6	甲斐型皿。身部下端は回転ヘラケズリ。内面身部に弱い凹凸
1121	6-010-2012 PH-16 カマド	口縁～ 肩部	(12.2)	—	—	4.0	破片	内：— 外：SYR6/6	甲斐型皿。外面に凹凸が大きなロクロナデ痕。内面剥落
1122	6-010-2012 PH-16-1倍	口縁～ 肩部	(13.6)	—	—	4.0	破片	内：SYR5/4 外：SYR5/4	甲斐型皿。外面剥落、内面らせん状繪文
1123	6-010-2012 PH-16-24 カマド	口縁～ 肩部	(13.0)	—	—	5.0	破片	内：10YR7/4 外：10YR7/4	焼成が甘い須恵器状か、もしくは二次被熱、変色した甲斐型坪か、小破片のため判別できない
1125	6-010-2012 PH-16-17	肩～底 部	—	—	8.4	191.0	破片	内：SYR3/2 外：SYR4/4	甲斐型甌。底部木葉痕
1282	6-010-2012 DK-103 1、DK-103 2	口縁～ 肩部	(16.5)	—	—	77.0	破片	内：2 SYR6/6 外：2 SYR4/4	D010出土。甲斐型の中型甌。

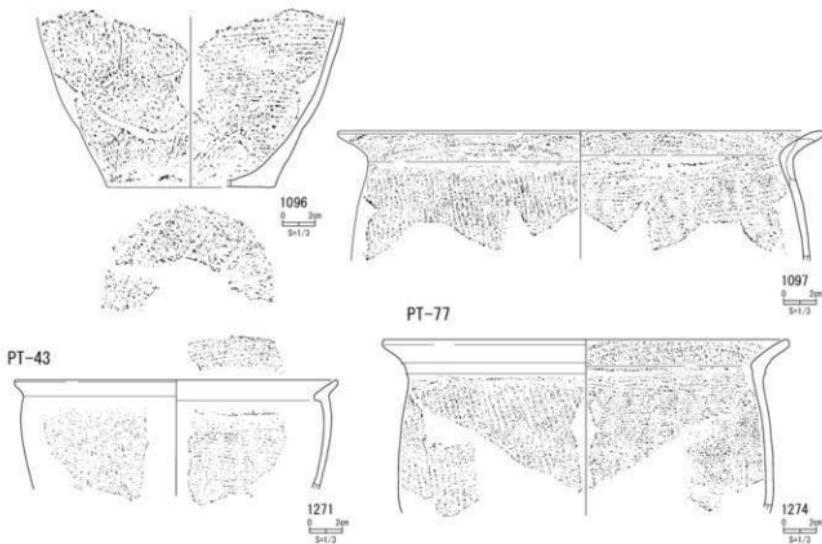


PH016号住居完掘（西から）



PH-114 号住居 出土遺物

DK-27/DK-31/PT-58



PH-114号住居 出土遺物

実測番号	注記	部位	口径 cm 横	器高 cm 横	底径 cm 厚さ	重量	残存度	施土色調 上段 内面 下段 外面	備考
1092	6-010-2012 DK-31 - 残	口縁部	(12.0)	-	-	13.0	破片	内 : 5YR6/2 外 : 2.5YR5/4	PH114 内 DK31 出土。小形の甲斐型甌
1093	6-010-2012 DK-27 1	口縁部	(20.0)	-	-	26.0	破片	内 : 5YR8/4 外 : 2.5YR5/4	PH114 内 DK27 出土。小形の甲斐型甌
1094	6-010-2012 DK-27 7	口縁部	(24.7)	-	-	35.0	破片	内 : 2.5YR5/3 外 : 2.5YR5/4	PH114 内 DK27 出土。甲斐型甌
1096	6-010-2012 PT-58 図4, PT-58 図10, DK-31 - 残, DK-27 10	肩部～ 底部	-	-	(7.0)	70.0	破片	内 : 5YR8/4 外 : 5YR8/4	PH114 内 PT58, DK27, DK31 出土。甲斐型甌底部。木葉痕
1097	6-010-2012 DK-27 1, DK-27 6, PT-58 図6, DK-31 - 残	口縁部	(30.0)	-	-	108.0	破片	内 : 5YR4/2 外 : 5YR5/4	PH114 内 PT58, DK27, DK31 出土。甲斐型甌
1271	6-010-2012 PT-43 1	口縁～ 肩部	(20.0)	-	-	32.0	破片	内 : 2.5YR5/4 外 : 2.5YR4/4	PT43 出土。甲斐型の小形甌
1272	6-010-2012 DK-12 1, DK-12 - 残	口縁～ 肩部	(26.0)	-	-	48.0	破片	内 : 5YR5/6 外 : 2.5YR5/6	PH114 内 DK12 出土。甲斐型甌
1273	6-010-2012 DK-15 4	口縁～ 底部	(11.8)	4.0	6.0	88.0	1/2	内 : 2.5YR1/ 外 : 2.5YR2/	PH114 内 DK15 出土。底部が低い高台状。回転糸切。焼成がやや弱い
1274	PT-77 1, PT-77 2, PT-77 8	口縁～ 肩部	(25.0)	-	-	115.0	破片	内 : 5YR4/3 外 : 5YR4/3	PT77 出土。甲斐型甌
1275	DK-15 1, DK-15 6, DK-15 - 残	口縁～ 肩部	(15.8)	-	-	61.0	破片	内 : 5YR5/4 外 : 5YR5/4	PH114 内 DK15 出土。小形の甲斐型甌

第5章 理化学分析

本調査に伴い、遺構の時期、遺跡における植物利用の実態、土器製作地の推測と搬入の基礎的情報を得るために、¹⁴C年代測定、出土炭化材樹種同定、出土炭化種実同定、土器胎土分析、土器に残された種実の圧痕調査を実施した。本節では、これら理化学分析の結果の概要を記す。詳細な報告文と図表は、添付DVDに収録したので参照いただきたい。

第1節 ¹⁴C年代測定

縄文時代前期中葉の44号住居と中期中葉の47号住居で出土した炭化材と土器付着物を対象に年代測定を実施した。年代測定は中央大学小林謙一氏に依頼した。分析試料は、44号住居の垂木と推測される炭化材1点、47号住居の垂木と推測される炭化材6点、木島式から諸磯c式土器の付着炭化物16点である。測定により中部地方の前期前葉から後葉の土器型式ごとの年代値が得られた。

これらと別に、樹種・種実の同定業務においても年代測定を実施した。対象試料は、縄文時代に帰属するか出土状況から判断し難かった炭化種実5点、炭化材13点、炭化鱗茎2点である。モモ、オオムギ、コムギの栽培植物は平安時代から近世の年代値を示し、縄文時代に帰属する試料はなかった。縄文時代前期の住居から出土したモミ属、マツ属、カラマツ、ヒノキ科の針葉樹、遺構内外で出土した炭化鱗茎は、いずれも從来の前期の年代観に整合的であった。

第2節 出土炭化材樹種同定

本遺跡に搬入された樹種の構成から周辺植生を推測する目的で、調査時に遺構埋土を水洗し炭化材を回収し、樹種同定に供した。同定試料は、前期前葉153点、前期中葉81点、前期後葉187点、中期中葉59点、計480点である。

樹種同定の結果、前期前葉では自然度の高い植生環境が想定されたが、前期後葉を経て中期中葉になるとクリ、クルミの有用樹木が卓越する植生に変化したと推測された。

第3節 出土炭化種実同定

遺構埋土から回収された炭化種実と、縄文時代に帰属するか疑わしい栽培植物の種実について種類を同定し、先述したとおり一部を年代測定した。その結果、クリ、オニグルミ、ミズナラーナガシワ、コナラ節、クヌギ節の堅果類のほか、ダイズ属、アズキ亜属、シソ属、ミズキ、マタタビ属、ニワトコ、鱗茎、キハダ、イヌタデ属、ササ属などが同定された。モモは平安時代、コムギ、オオムギは近世の所産であった。

第4節 土器胎土分析

縄文時代前期前葉から中葉にかけての土器は在地の土器型式とともに周辺地域の土器型式が認められ、ヒト、モノ、情報が広域に行き交ったと推測される。そこで壠口遺跡とその周辺の当該時期の土器について、岩石学的視点による土器胎土の混和材に注目した胎土分析を実施した。その結果、在地的特性を示す胎土だけではなく多様な地域性を帯びた胎土質が確認された。

第5節 種実圧痕調査

本調査で出土した縄文時代早期、前期、中期の土器破片3,879,529g(3879kg)を対象に種実等の圧痕の有無を調査し、レプリカ法による圧痕分析を実施した。その結果、前期前葉から中葉ではシソ属が最多で、ササゲ属、ダイズ属、マメ科、ニワトコ、ミズキなどが確認された。中越式土器破片でヤブマメ(*Amphicarpaea edgeworthii*)が検出された。

前期後葉でシソ属が最多であるものの比率がやや低下し、マメ科の比率が上昇した。さらに中期中葉になるとマメ科が最多となり、シソ属を逆転した。時期により土器に混入した種実の組成が変化した。

併せて多量種実混入土器の判断基準を検討するため、塵芥類の混入点数を分析した。その結果、土器型式をとおした平均で0.9点/土器破片100gの塵芥が混入していることを確認した。この値を大きく上回る種実点数が検出される場合、多量種実混入土器と判断できると考えた。ただし、この基準値が他の遺跡でも適用できるかは別途、検討する必要がある。

第6章 調査の成果と総括

堰口遺跡の今次調査では、堅穴住居と認定した遺構 128 基（平安時代を含む）、掘立柱建物 14 基、集石土坑 95 基（G-8 グリッドの現状保存区域で検出した 1 基を含む）、溝跡 1 条（M2002）、焼土跡 41 基、土坑 533 基（M0001 埋設土器、中近世の遺構を含む）、住居柱穴以外のピット 427 基を検出した。土器と石器あわせてテンバコ 460 箱分が出土した。土器は、縄文時代早期後半条痕文系土器から中期末葉の加曾利 E 式、ごくわずかであるが後期前葉堀之内式を含み、主体となるのは中越Ⅲ式、中越Ⅳ式、神ノ木式、有尾式、帆遊堂 Z3 式、諸磯 a 式、諸磯 b 式であった。さらに茅山下層式、神之木台式、坂平式、花積下層式、関山式、黒浜式、布目式、大木式、堂之上 Z 式、清水ノ上式、上の坊式、北白川下層式の各型式が客体的だが出土した。これに加えて平安時代の遺物がある。

調査対象面積 7,523 m² のうち 4,660 m² は遺構確認のみに留め、現状保存した。実際に発掘調査したのは 2,863 m² である。現状保存区域には過去の農地造成により遺構包含層が削平された箇所が認められたが、遺跡全体では上記の遺構数を上回る遺構がなお保存されていることは確実である。

以下、不十分であるが時期ごとに堰口遺跡の概要をまとめ総括したい。遺構の時期は出土土器を頼りに判断したが、土器の出土量、遺構間の重複の分かりにくさにより多少の齟齬があり得る。特に中越式土器は出土量が少ないと正確な細分型式の識別が難しい。また無文、縄文地文のみの破片では神ノ木式と有尾式の識別が難しかった。

縄文時代早期後半～末葉

茅山下層式、神之木台式、坂平式の土器破片が散発的に出土した。当該時期の遺構は検出されなかった。早期後半から堰口遺跡で土器を搬入し、廃棄するような活動があったことが分かる。前期前葉の活動痕跡と比較すると希薄であるが、長野県富士見町坂平遺跡でも早期後半から末葉段階で土地利用が始まるところと共通する。

八ヶ岳南麓、釜無川右岸、茅ヶ岳西麓でも早期後半から末葉段階の土器破片が散発的に出土する遺跡は多い。なかには木島 VI～VII 式土器を伴う堅穴住居も散見されるが、山梨県大月市原平遺跡のような多数の堅穴住居を伴う居住地は形成されていない。

縄文時代前期前葉

中越式、神ノ木式土器の段階である。出土土器から当該時期の住居を土器細分型式ごとに区分すると以下のとおりである。

中越 I 式（木島 V 式）期	PJ93 号住居 1 基
中越 II 式	PJ65 号住居 1 基
中越 III 式	PJ29、PJ86、PJ97、PJ99、PJ100、PJ101 号住居 6 基
中越 IV 式（神ノ木式）期	PJ3A、PJ4A、PJ4B、PJ5、PJ6A、PJ6B、PJ8、PJ9、PJ19、PJ20、PJ21、PJ23a、PJ28、PJ31、PJ33、PJ34、PJ35、PJ40、PJ45b、PJ50、PJ52、PJ53、PJ56A、PJ56B、PJ57、PJ58、PJ59、PJ60、PJ62、PJ63、PJ70B、PJ72B、PJ77、PJ81、PJ82、PJ85、PJ87B、PJ87C、PJ88、PJ94、PJ95、PJ96、PJ102、PJ104、PJ109、PJ110、PJ111、PJ113 号住居 49 基

前期前葉全体では 57 基の堅穴住居を検出した。当該時期の住居は調査区全体に分布する。住居どうしが重複しあい、かつ同一地点で繰り返し建設している状況が確認された。PJ4、PJ5、PJ8、PJ9、PJ40 号住居のように狭い範囲に住居がまとまり、小群を形成するようにみえる地点もあるが、57 基の住居を客観的根拠をもって小群に区分することは、調査区域が限られていることもあり、できないようと思われる。

堰口遺跡が立地する釜無川右岸には同時期の集落遺跡、上北田遺跡と板橋遺跡が知られている。さらに長野県富士見町坂平遺跡も至近であり、さらに八ヶ岳西麓には阿久遺跡、阿久尻遺跡がある。

上北田遺跡、板橋遺跡、堰口遺跡は主体となる時期に若干のずれが認められる。上北田遺跡は中越 II 式と III 式の段階、板橋遺跡は中越 III 式期、堰口遺跡は中越 IV 式と神ノ木式の段階である。村松佳幸によると上北田遺跡と板橋遺跡では石器組成にも差異が認められる（村松 2013）。阿久遺跡、阿久尻遺跡、板橋遺跡で検出された「方形柱穴列」、掘立柱建物は堰口遺跡では確認されていない。比較的規模の大きな集落跡が至近に分布するのは、時期差だけでなく石器組成、掘立柱建物に現れた機能差、あるいは居住の季節性が反映しているのかもしれない。この点は今後の詳細な検討に委ねたい。

なお堰口遺跡 PJ93 号住居を中越 I 式段階としたが、この段階で釜無川右岸まで中越式土器を保有する集団が進出してきたか、検討をする。

土器の胎土分析では、中越式、神ノ木式とともに多様な製作地が推測された。石器素材にも非在地的な灰色、良質な珪質頁岩が認められ、当該時期の人々の活動域が広範囲に及んでいたことが想定される。胎土分析は整理作業途上に、少數の試料を対象として実施したもので、そこから得られる情報も限定的である。より多くの試料で同様の分析を行うことで、土器製作地あるいは原料調達地の様相がより詳細に理解できると期待される。

当該時期の遺跡の環境は第6章で考察したとおりである。早期後半段階に限定期的な土地利用が始まり、前期前葉に本格的な居住地として利用されたが、長期にわたり継続的に居住され、周辺の植生を大きく改変するには至っていないといった可能性がある。

縄文時代前期中葉

有尾式、釧迦堂 Z3 式、黒浜式の段階である。当該時期の堅穴住居と判断したのは以下のとおりである。

有尾式（黒浜式、釧迦堂 Z3 式）期 PJ6D, PJ11, PJ42b, PJ51A, PJ54, PJ55, PJ61, PJ70, PJ72, PJ76, PJ78, PJ80, PJ83, PJ84, PJ87, PJ92, PJ98, PJ103, PJ107 号住居 19 基

前代の神ノ木式段階から住居数が半減する。小林謙一による土器型式のもつ実年代幅に照らすと、神ノ木式が 200 年程度の年代幅があるのにに対し、有尾式は 80 年程度で 2 倍以上の差異があるから（小林 2017）、一定期間における土地利用には大きな違いはなかったと思われる。

先述した上北田遺跡、板橋遺跡、坂平遺跡は、当該時期の堅穴住居は検出されていない。堰口遺跡周辺で前期中葉の土地利用が認められる遺跡は、阿久遺跡、大石遺跡、茅野市神ノ木遺跡、高風呂遺跡、諏訪市十二ノ后遺跡、千鹿頭社遺跡、下諏訪町武居遺跡などで、諏訪湖周辺に偏在するようである。こうした土地利用の偏在傾向が何に起因するのか、にわかには分からぬが、興味深い研究課題である。

前期中葉も前代と変わらず、周辺植生を大きく改変するような集中的、長期継続的な土地利用は認められなかった。

縄文時代前期後葉

諸磯式期と時期比定した堅穴住居は以下のとおりである。

諸磯 a 式期 PJ19B, PJ41, PJ42, PJ44b, PJ69, PJ75, PJ79 号住居 7 基

諸磯 b 式期 PJ2, PJ3 B, P J 6 C, P J 6E, PJ7, PJ8 B, P J 9 B, P J 10, P J 18, P J 23b, PJ26, PJ32, PJ44a, PJ49, PJ71, PJ73, PJ74, PJ89, PJ106 号住居 19 基

諸磯式期 PJ36, PJ45, PJ66, PJ112 号住居 4 基

前期前葉から中葉と比較すると、土器型式の実年代幅に照らし、住居数が減少傾向にある。とはいへ八ヶ岳南麓、釜無川右岸地域で諸磯 a 式段階の遺構がまとまって検出される遺跡はめずらしい。諏訪地域まで視野に入ると、諸磯 a 式期には十二ノ后遺跡、阿久遺跡、机原遺跡で住居数が多い。これら諏訪地域の遺跡は諸磯 b 式期に住居数が減少するが、堰口遺跡は増加する。堰口遺跡の掘立柱建物も諸磯式期に比定されるものが多い。

堰口遺跡では諸磯 b 式中段階までが主体であり、諸磯 b 式新段階の住居は確認されず、諸磯 c 式期になると土器が散発的に出土する程度となる。一方、八ヶ岳南麓の天神遺跡 C 地点で、諸磯 b 式新段階から諸磯 c 式、さらに五領ヶ台式期に拠点的な居住地が形成された。諸磯 b 式期から諸磯 c 式期にかけて、当該時期の生活拠点が移動するようである。そうした動向に黒曜石の交易、流通が関連している可能性も指摘されている（大工原 2008）。

堰口遺跡では諸磯式期の集石土坑 95 基が検出された。現状保存区域にも同じ密度で分布すると思われるから、相当数の集石土坑が存在したと思われる。集石土坑は諸磯式期の住居の分布と重なりながらも、より居住域の中心に近い範囲に偏るように検出されている。この点は阿久遺跡と同じ傾向が伺える。

集石土坑は阿久遺跡で諸磯 a 式期を中心に 271 基、天神遺跡では諸磯式期から五領ヶ台式期の 10 基が検出されている。集石土坑の一義的な機能が調理施設であると仮定すれば、堰口遺跡と阿久遺跡に集中する集石土坑は、諸磯式期の地域集団が繰り広げた社会的活動の結果、残されたものであろう。その活動の拠点が堰口遺跡と阿久遺跡であったということになる。集石土坑を通じて垣間見える当該時期の地域集団の社会活動は興味深い研究課題であるが、筆者の力の及ぶところではない。

MZ002 号溝跡は、周辺の焼土跡とともに注目すべき遺構である。不整形な溝跡は豪雨時の自然流路のようにみえるが、それには諸磯 b 式土器を中心に多くの出土品を伴う。周辺の焼土跡は時期認定が難しく SD26 号焼土のように 14C 年代測定で諸磯式期ではないと確認された遺構もあるから、全てが MZ002 号溝と同時期に機能したとは考えられない。MZ002 号溝が居住地へ導水する人工的な溝であったとすると、堅果類の加工処理などのために溝跡と焼土跡が形成されたと推測できなくもない。もちろん焼土跡は集石土坑とセットになって機能した可能性もあり、熟考が必要である。諸磯式期の遺構から少なからず北白川下層式の影響がある土器が出土した。石器素材にも灰色、良質な珪質頁岩、下呂石など非在地的な石材が多く認められる。前期前葉と同様に諸磯式期にも広範囲に及ぶ人々の活動が想定される。諸磯式期になるとクリ、オニグルミ、コナラ属の樹種が増加していた。前期前葉から断続的にせよ居住地として土地利用された結果、周辺植生に変化が生じていたことが分かる。

縄文時代中期前葉～中葉

堰口遺跡では、中期初頭の五領ヶ台式土器、中期前葉の貉沢式土器が散発的に出土し、中期前葉の新道式期に住居 1 軒 (PJ38) が検出された。中期中葉の藤内式期になると複数の住居からなる居住地が形成される。当該時期の堅穴住居は以下のとおりである。

藤内式期 PJ17a、PJ17b、PJ24、PJ25、PJ27、PJ43、PJ46、PJ47、PJ108 号住居 9 基

住居に伴う藤内式土器は藤内式 1 段階が多く、藤内式後半段階から井戸尻式土器は出土していない。藤内式前半の限られた時間幅で居住地として利用されたと考えられる。

堰口遺跡から西へ 300m の竹字 1 遺跡で新道式期、井戸尻式 2 段階から 3 段階、曾利式期の集落が調査され、北西 3.6 km の南沢遺跡で井戸尻式 2 段階を主とする集落跡、上小用遺跡で曾利式期を主体とする集落跡が確認されている。釜無川右岸では中期に点々と拠点的な居住地を移動しながら連絡と地域集団の活動が継続した様子がうかがえる。

中期中葉になると、土器、石器石材に在地的な様相が強くなる。前期後葉までにみられた多彩な土器型式、非在地石材の搬入がなくなり、他地域との交流に変化が生じたことがうかがえる。

中期中葉になるとクリ、オニグルミの検出数が増加した。住居のあり方をみる限り、短期的で小規模な居住地形成のようにみえるが、有用樹種への選択性が強化され、周辺植生の改変につながった可能性も考えられる。

縄文時代中期末葉

曾利 II 式期の住居 1 基 (PJ30) が検出されている。堰口遺跡の北西に隣接する竹字 3 遺跡で同時期の住居 2 基が調査されている。この時期には堰口遺跡と周辺で短期的で小規模な居住活動が展開されたようである。

加曾利 E III 式ないし E IV 式土器が少数だが出土している。拠点的、集住的な居住地が衰退し、居住地が小規模、分散化する時期に、堰口遺跡でも土器を残しながらも遺構を伴わない土地利用があったことがうかがえる。

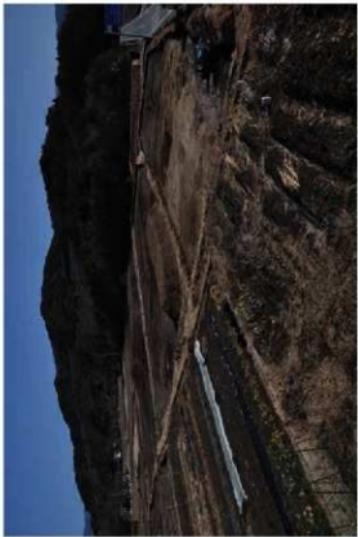
堰口遺跡の西に隣接する竹字 1 遺跡は、中期末葉の曾利 V 式期まで遺構が認められ、竹字 1 遺跡の直近には後期前葉から中葉の集落跡と目される桜井 1 遺跡がある。加曾利 E 式土器の出土は、中期末葉から後期にかけての居住地の立地の変化に関連した現象として理解できるのだろう。

総括

堰口遺跡の調査成果を地域史理解につなげるためには、多岐にわたる分析と研究が必要で、発掘調査報告書の刊行までの限られた期間のなかでは、とても筆者の力が及ばない。本章では遺構数の概略を記載するとともに、住居形態、構造の比較検討、集石土坑、溝跡、焼土跡、土坑の考察、土器と石器の考察はかなわなかった。これらは将来の課題である。

引用文献

- 小林謙一 2017 『縄文時代の宍年代－土器型式編年と炭素 14 年代－』 同成社
大工原豊 2008 『縄文石器研究序論』 六一書房
村松佳幸 2013 「山梨県の中越式期の石器」『縄文前期前葉の甲信地域—山梨からみた中越式期—』
山梨県考古学協会 2013 年度研究集会資料集



調査着手前の調査地点
調査前は水田、畠地として利用されていた



調査着手前の調査地点
背景は白糸中学校の体育馆。西から撮影



調査着手前の調査地点
北西から撮影



調査地点西端の土層断面
上層に黄灰色砂状地盤層。黒色土層以下が繩文時代の包含層
西から撮影



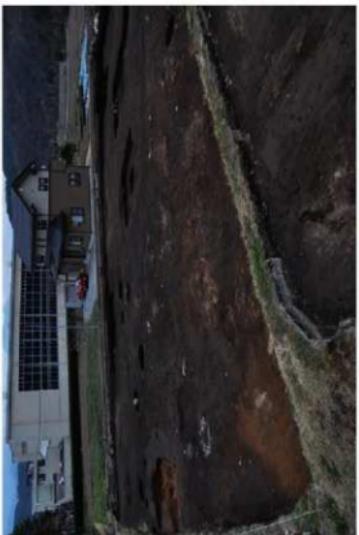
調査完了時の調査地点
左下はPH040号住居。北から撮影



現状保存区域
PH015号・PH022号住居付近の状況を南から撮影



現状保存区域
PH015号住居周辺で確認した溝渠に白線をいたした状況



現状保存区域
PH015号住居周辺を北西から撮影



現状保存区域

6-11 グリッド付近を西から撮影



現状保存区域

6-8 グリッド付近を北東から撮影



現状保存区域

6-8 グリッド付近、集石土坑、黒色土で埋積した谷を示す



現状保存区域

6-9 グリッド付近を北東から撮影



発掘調査風景

P-J057号住居付近を南から撮影



発掘調査風景

P-J075号・P-J079号住居の調査状況を南西から撮影



発掘調査風景

P-J044号住居周辺を北から撮影



発掘調査風景

J-5グリッド付近。集石土坑の調査が終わつた後でクリッドを振り下げている



堰口遺跡遠景

調査区を東上空から撮影。背景は巨摩山地



堰口遺跡近景

H-4グリッド周辺を南東上空から撮影



堰口遺跡近景

F-5グリッド周辺を北東上空から撮影



堰口遺跡近景

H-4グリッド周辺を北東上空から撮影



堰口遺跡跡近景

J-5 グリッド南辺を西上空から撮影



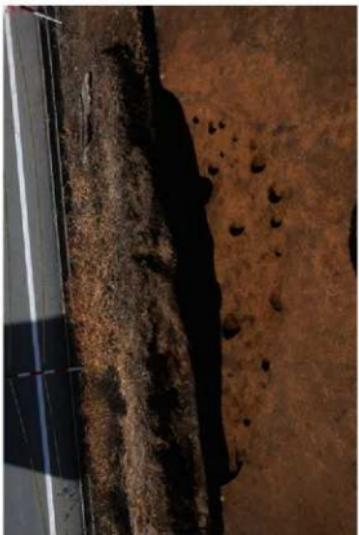
堰口遺跡跡近景

J-5 グリッド南辺を北上空から撮影



堰口遺跡跡近景

J-5 グリッド南辺の集石土堆群を北から撮影



PJ002 号住居 完掘状況

写真上方は調査区外、東側から撮影



PJ002 号住居
堆土断面を北東から撮影



PJ002 号住居
桂穴 PJ017 号ピットの断面を示す



PJ003 号住居 完掘状況
南から撮影。写真上方の點穴は PJ021 号住居



PJ003 号住居
床面の堆土、柱穴、周溝の様出状況を示す。南東から撮影



PJ003B 号住居 炉跡

写真中央、白いラベル直下の床面で焼土を鋸出した

PJ003B 号住居 床面

PJ003B 号住居の床面を示す。高く掘り残した箇所が床面



PJ021 号住居

調査区境界で鋸出された。北から撮影



PJ003A 号住居 炉跡

調査区境界の端で浅いくぼみと焼土を鋸出した。南から撮影



PJ021号住居
埋土断面を東から撮影



PJ004・PJ005号住居 完掘状況
完掘状況を北から撮影。手前がPJ004号住居



PJ004号・PJ005号住居 埋土断面
北西から撮影。写真左手がPJ004号住居



PJ004号・PJ005号住居 床面検出状況
床面の剥落、柱穴の検出状況を南西から撮影。左下の土坑群はPH114号住居



P004 号住居 床面検出状況
床面、周溝、柱穴の検出状況を南西から撮影



P004 号住居 SD001 号焼土
P004 号住居焼土上面で検出した焼土。P004 号住居より新しい。



P004 号住居 SD001 号焼土
焼土を半乾した状況



P004B 号住居 烧跡
D654 号土坑南壁の焼土と土器出土状況



PJ006 号住居 完掘状況
PJ006A 号・PJ006B 号住居を西から撮影



PJ006 号住居 埋土断面
東西方向の埋土断面を南から撮影



PJ006 号住居 埋土断面
南北方向の埋土断面を西から撮影



PJ06 号住居 埋土断面
南北方向の埋土断面(部分) 西から撮影



P.J006 号住居

床面、廻溝、柱穴等の検出状況を西北から撮影



P.J006 号住居 炉跡

DK59 号土坑は浅いくぼみで、燒土が堆出された。



P.J007 号住居 完掘状況

北西から撮影。住居南半は墓地造成により削失している



P.J007 号住居と重複する DK19 号土坑

P.J007 号住居を切って掘りこまれた DK19 号土坑



PJ008 号住居 床面検出状況

床面、周溝、柱穴、土坑の検出状況を北から撮影



PJ009 号住居 完掘状況

PJ008 号住居と PJ090 号住居に挟まれた PJ009 号住居。南から撮影



PJ008 号住居 埋土断面

埋土断面を南東から撮影

PJ008 号住居 完掘状況

完掘状況を来たから撮影。写真左端は PJ004 号・PJ005 号住居



Pj009 号住居 床面検出状況

北から撮影。写真右上は Pj008 号住居。左側の変色部が Pj009 号住居



Pj009 号住居 遺物出土状況

北から撮影。床面からやや深いた位置で木製土器が出土した。



Pj010 号住居 完掘状況

南東から撮影。住居南半分は施設造成で失われていた。



Pj010 号住居 墓土断面

埋土断面を南東から撮影。写真左側は Pj011 号住居



PJ011 号住居 完掘状況

南東から撮影。住居南半分は墓地造成で変わっていた。



PJ017 号住居 完掘状況

南東から撮影。変色部は中越式解釈の PJ029 号住居



PJ017 号住居 埋土断面

南北方向の埋土断面を西から撮影



PJ017 号住居 埋土断面

東西方向の埋土断面を北から撮影



P0017号住居 床面検出状況

P0029号住居埴土中でP0017号住居の柱穴等を検出しした。南東から撮影



P0017号住居 遺物出土状況

埴土下層から埴土、灰化材、土器等を検出した。北から撮影



P0017号住居 遺物出土状況

石圓炉上の遺物出土状況



P0017号住居 遺物出土状況

彩文土器1038の出土状況



PJ017号住居 炉検出状況
北西から撮影。石圓炉の周囲の床面が強く焼熱、焼土化していた。



PJ017号住居 DK188号土坑完掘状況
貯藏六と判明したPJ188号土坑。南東から撮影



DK188号土坑 半截状況
北西から撮影



PJ370号ビット 半截状況
柱穴と判明したPJ370号ビットの半截状況。東から撮影



PJ018 号住居 完掘状況

PJ017 号・PJ029 号住居と重複する。北東から撮影



PT421 号ビット

PJ017 号住居穴と判断した PT421 号ビット。西から撮影



DK190 号土坑

PJ018 号住居穴と判断した



PT422 号ビット

PJ017 号住居穴と判断した PT422 号ビット。燃え木椅子が混じる。南西から撮影



PT345 号 ピット

PJ018 号住居柱穴と判断した。PJ017号住居東壁の外側で検出



PT257 号 ピット

PJ018 号住居柱穴と判断した。PJ017号住居北壁の外側で検出。東から撮影



PT289 号 ピット

PJ018 号住居柱穴と判断した。PJ017号住居北壁の外側で検出。南から撮影



PT434 号 ピット

PJ018 号住居柱穴と判断した。PJ017号住居東壁の外側で検出



Pj029号住居 完掘状況

壁穴が深く、工事による削平を免れたため柱穴を半数、現状保存した。南から撮影



Pj029号住居 完掘状況

南西から撮影



Pj029号住居 墓土断面

壁穴上半はPj017号住居に切られていた。



Pj029号住居 遺物出土状況

北東壁付近を西から撮影



PJ029 号住居 遺物出土状況
北裏壁付近を南東から撮影。壁際で伏せた調査が出土した



PJ029 号住居 遺物出土状況
北西壁付近を南から撮影



PJ019 号・PJ033 号住居
北から撮影。手前が PJ019 号、円形の深い凹穴が PJ033 号住居



PJ019 号住居 完掘状況
南から。手前の一段低い造構は PJ019 号住居



Pj019B 号住居 完掘状況
Pj019B 号住居に切られる。南から撮影



Pj019号・Pj019B 号住居 埋土断面
埋土断面を東から撮影。Pj019B 号住居が新しい。



Pj033 号住居 完掘状況
Pj019B 号住居に切られる。南から撮影



Pj033 号住居 埋土断面
埋土断面を東から撮影



P0J023号住居 完掘状況

方形、円形の2基の遺構が重複する。東から撮影



P0J020号住居

南から撮影。遺構はぼんやりとして輪郭を明瞭に捉えられなかつた。



P0J023号住居 埋土断面

北から撮影。2基の遺構の切り合い關係は明瞭に確認できなかつた。





P023号住居 遺物出土状況
北西から撮影。床面には複数の地土が堆出された。



P024号住居 完掘状況
南東から撮影



P024号住居 埋土断面
北東から撮影



P024号住居 床面検出状況
床面、柱穴、周溝の検出状況を南東から撮影



Pj024号住居 炉検出状況
北西から撮影。伊周辺の床面ほど焼土化していないかった。



Pj024号住居 炉埋土の半載状況
北西から撮影。炉内には焼土が少ない。



Pj024号住居 炉完掘状況
北西から撮影。伊周辺は伊外の床面ほど焼土化していないかった。



DK156号土坑
Pj024号住居付近DK156号土坑の半載状況を示す



DK158 号土坑

P.J024 号住居柱穴 DK158 号土坑の半蔵状況を示す



DK159 号土坑

P.J024 号住居柱穴 DK159 号土坑の半蔵状況を示す



DK160 号土坑

P.J024 号住居柱穴 DK160 号土坑の半蔵状況を示す



DK161 号土坑

P.J024 号住居柱穴 DK161 号土坑の半蔵状況を示す



PT283号ビット

PJ024号住居床面で検出されたPT283号ビットの半蔵状況を示す



PT284号ビット

PJ024号住居の雨樋沿いで検出された



PT285号ビット

PJ024号住居の雨樋沿いで検出された浅いビット



PT285号ビット

PJ024号住居の雨樋沿いで検出された浅いビット



P1292号ビット

PJ024号住居 P1292号ビットの出土状況を示す



P1309号ビット

袋状断面の P1309号ビット、P1292号ビットと対をなす位置で検出された



PJ025号住居

調査区域で検出された。北東から撮影



PJ025号住居 埋土断面

黒色土層以下がPJ025号住居埋土。上層の灰褐色砂層は後代の耕作地堆積層。南東から



P025 号住居 遺物出土状況
床面から深いた理土中で遺物がまとまって出土した。南東から撮影



P026 号住居
諸様式土器がまとめて出土したため設定した住居。手前は P029 号、P031 号住居



P027 号住居 完掘状況
渓谷を埋める褐色土層で検出された



P027 号住居 埋土断面
道標理土は渓谷の埋積土よりも明るい色調であった



P.J027 号住居 炉

炉底は焼土化していないが炉石下は焼土化していた。北西から撮影



P.J027 号住居 炉

炉内を完照したところを北西から撮影。炉外が強く被熱、焦土化していた。



P.J027 号住居 炉

炉底は焼土化していないが炉石下は焼土化していた。北西から撮影



DK176 号土坑

P.J027 号住居柱穴 DK176 号土坑の半蔵状況を示す



DK177 号土坑

P-J027 号住居柱穴 DK177 号土坑の半蔵状況を示す



DK178 号土坑

P-J027 号住居柱穴 DK178 号土坑の半蔵状況を示す



DK181 号土坑

P-J027 号住居柱穴 DK181 号土坑の完蔵状況を示す



DK182 号土坑

深状断面の DK182 号土坑の完蔵状況を示す



DK183 号土坑

P.J027 号住居柱穴 DK183 号土坑の半蔵状況を示す



DK192 号土坑

P.J027 号住居柱穴 DK192 号土坑の完蔵状況を示す



DK200 号土坑

P.J027 号住居柱穴と置かれる DK200 号土坑の出土物状況を示す



DK204 号土坑

P.J027 号住居柱穴 DK204 号土坑（左）・DK204b 号土坑（右）



P1317号ビット

P0027号住居底穴P1317号ビットの完掘状況を示す



P0028号住居 完掘状況

調査区端で検出された盗掘



P0028号住居 埋土断面

写真左側で土坑に切られる



P0030号・P0038号住居 完掘状況

写真左側を南西から撮影。斜はP0030号住居



PJ030号住居 埋土断面

南西から撮影



PJ030号住居 遺物出土状況

北西から撮影。埋土下層で少量の遺物が出土した



PJ030号住居 床面検出状況

床面、周溝、柱穴の検出状況を南西から撮影



PJ030号住居 炉

花崗岩質砂岩を置き並べた炉。東から撮影



PJ030 号住居 埋土断面

南西から撮影。DK260 号土坑に切られる

PJ030 号住居 灰

伊の完掘状況を北東から撮影。伊底がわずかに焼土化していた



PJ031 号住居

完掘状況を北西から撮影。変色部は DK260 号土坑



PJ031 号住居 埋土断面



PJ032 号住居

写真中央の小溝に用まれた円形の通路が PJ032 号住居。北から撮影



PT351号ビット

PJ032号住居 PT351号ビットの半蔵状況を示す



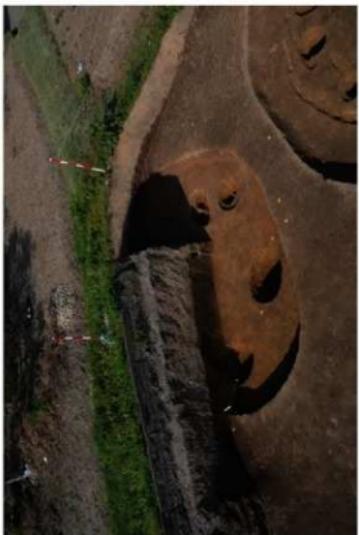
PT351号ビット

黒理石原石、石核がまとまつて出土した



PJ032号住居 MZ001号溝

当初、住居の面溝にしては深いことからMZ001号溝と独立して出発名を付した



PJ034号住居 完掘状況

雨から撮影。住居の1/4は調査区外



P034 号住居 埋土断面
埋土断面を東から撮影



P034 号住居 遺物出土状況
埋土中からまとめて遺物が出土した。南から撮影



P034 号住居 遺物出土状況
出土状況（部分）を示す。南から撮影



P035 号住居 完掘状況
北西から撮影。住居の半分は調査区外



P036 号住居 检出状況

P-036 号住居は出土段階で現状保存した。南西から撮影



P036 号住居 检出状況

北西から撮影



P040 号住居 完掘状況

南東から撮影。柱穴、面溝から複数回の焼替えが想定された。



P040 号住居 埋土断面

埋土断面を南東から撮影



PJ040号住居 埋土断面
埋土断面を南西から撮影



PJ041号・PJ061号住居
完掘状況を南から撮影



PJ041号住居 床面検出状況
PJ041号住居で上下2面の硬化面を検出した。



PJ041号住居 埋土断面
埋土中に地山由来の黄褐色土ロックがみられた。東から撮影



PJ041号住居 埋土断面
東西方向の埋土断面を南から撮影



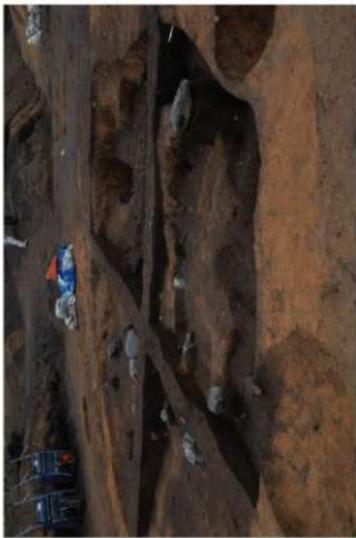
PJ041号住居 埋土断面
埋土断面を南東から撮影



PJ041号住居 埋土断面
北壁沿いの埋土断面を示す。埋土下部には焼土、炭化材も検出された



PJ041号住居 埋土断面
東壁沿いの埋土断面を南から撮影



PJ041号住居 床面検出状況
床面、趣向、柱穴の検出状況を南から撮影



PJ041号住居 遺物出土状況
南から撮影。遺物はまばらに出土した



PJ041号住居 炉
床面に複数の焼土を検出した。南から撮影



PJ041号住居 焼

DK424号土坑と遺構名を付したくぼみを地錠炉とした



PJ042号・PJ050号・PJ054号住居

南から撮影。手前がPJ042号、写真上端がPJ054号住居



PJ042号住居 埋土断面

南東から撮影。写真右側の黄色部がPJ050号住居



PJ042号住居 遺物出土状況

北西から撮影。遺物は埋土中からまばらに出土した



P042号住居 床面検出状況
南から撮影。床面、周溝、柱穴の検出状況を示す



P050号住居 完掘状況
南から撮影。写真左下の深い造構がP042号、写真上端がP054号住居



P050号住居 埋土断面
埋土断面を北から撮影



P050号住居 遺物出土状況
遺物は埋土中からまばらに出土した



PJ050 号住居 遺物出土状況
東壁沿いの遺物出土状況を北から撮影



PJ050 号住居 遺物出土状況
PJB50 号住居北壁沿いの埴土中で調理石がまとめて出土した。南東から撮影



PJ050 号住居 炉
DK437 号土坑とした浅いくぼみを地床炉と判断した



PJ050 号住居 焼土
PTB52 号ビット西側の床面で焼土を検出した



PJ054号住居 完掘状況

南西から撮影。写真右端はPJ050号住居



PJ054号住居 埋土断面

南西から撮影



PJ054号住居 遺物出土状況

南西から撮影。遺物は埋土中からまばらに出土した



PJ043号住居

渓谷の黒色土中で検出。床面は明褐色土であった



P.J043 号住居 炉

南東から撮影。炉外側の表面が焼土化していた。



P.J043 号住居 炉

炉石を外したところ。手前の炉石下が焼土化していた



DK356 号土坑

P.J043 号住居。やや浅いが貯蔵穴と思われる。



P.J053 号住居 完掘状況

P.J043 号住居の下層で検出した住居。写真左側は現状保存のため未発掘



P053号住居 遺物出土状況
北西から撮影



P053号住居 遺物出土状況
北西から撮影。中越式土器がまとめて出土した



P044号住居 完掘状況
南から撮影。写真中央の深い円形凹槽がP04号住居



P044号住居 完掘状況
南から撮影。写真右側は箇地造成のため削平され失われていた



PJ044 号住居 埋土断面

南東から撮影。PJ048 号住居との重複箇所を示す

PJ044 号・PJ045 号住居 検出状況

南から撮影。埋土、炭化材が混じる PJ044 号住居土がより黒くみえた。



PJ044 号住居

埋土と炭化材の出土状況を南から撮影



PJ044 号住居 埋土断面

南西から撮影。埋土下層から炭化材、骨土が出土した



P045号住居 床面検出状況
床面、柱穴、周溝の検出状況を南東から撮影



DK461号土坑
P045号住居周辺で検出したDK461号土坑。断面が袋状であった。



P046号住居 完掘状況
南から撮影。写真手前の変色部はP054号住居



DK461号土坑 埋土断面
埋土断面を東から撮影



P046号住居 遺物出土状況

南東から撮影。遺物は住居中央部の埋土中でまとめて出土した。



P046号住居 遺物出土状況

南東から撮影



P046号住居 遺物出土状況

南東から撮影



P046号住居 遺物出土状況

埋土中の遺物出土状況。西から撮影



P046 号住居 遺物出土状況
東から撮影



P046 号住居 遺物出土状況
北から撮影



P046 号住居 炉
一般の焼石は検出されなかつた。炉外側の床面が強く燒土化していた



DK325 号土坑
P046 号住居南壁沿いで検出。断面が袋状で貯藏穴と思われる



PT576 号ビット

PJ046 号柱原柱穴の半蔵状況

DK326 号土坑

PJ046 号柱原柱穴で検出。断面像状で貯藏穴と思われる



PT577 号ビット

PJ046 号柱原柱穴の半蔵状況

DK346 号土坑

PJ046 号柱原柱穴で検出。断面像状で貯藏穴と思われる



PT578 号 ピット
P.J046 号住原柱穴の半蔵状況



PT579 号 ピット
P.J046 号住原柱穴の半蔵状況



PT580 号 ピット
P.J046 号住原柱穴の半蔵状況



PT592 号 ピット
P.J046 号住原柱穴の半蔵状況



PJ047号住居 埋土断面

埋土断面を北から撮影。床面上上で焼土と炭化材を発出した。

PJ047号住居 完掘状況

南側はPJ049号住居と重複し、壁面を残出できなかつた



PJ047号住居 焼化材と焼土

北から撮影。住居北半分に焼土と炭化材がよく保存されていた。



PJ047号住居 埋土断面

埋土断面を南東から撮影



P047号住居 遺物出土状況
写真中央が手と骨灰土器。北から撮影



鹿角の出土状況
鹿角は床面直上の堆土層と同じ高さで出土した
鹿角は床面直上の堆土層を北東から撮影



鹿角の出土状況
鹿角は表面が被熱し保存されたが、断面中心側は腐食して空洞であった
鹿角周辺の遺物出土状況を北東から撮影



P047号住居 遺物出土状況
鹿角周辺の遺物出土状況を北東から撮影



PJ047号住居 遺物出土状況
面角と伊面辺を東から撮影



PJ047号住居 遺物出土状況
北壁沿いを北から撮影



PJ047号住居 炉
炉体土器を埋設した炉。伊石は出しませんでした。炉外側の床面が焼土化



炉体土器の埋土
住居埋土と同じ土質であった



炉体土器

床面から上は被熱、赤化し、埋設部分は黒色であった



P.J047 号住居 炭化材

北壁沿いに重木と思われる炭化材断面が並んでいた



DK410 号土坑

断面保状で貯藏穴と思われる。焼跡破片が出土した



DK410 号土坑

埋土の半蔵状況を示す



PJ049 号住居 完掘状況

南から撮影。写真上部の焼土と炭化材は PJ047 号住居

DK412 号土坑

北東壁沿いで鋤出した断面深状の土坑。貯藏穴と思われる



PJ049 号住居 埋土断面

南から撮影。写真上方のヤクショベルトは PJ047 号住居

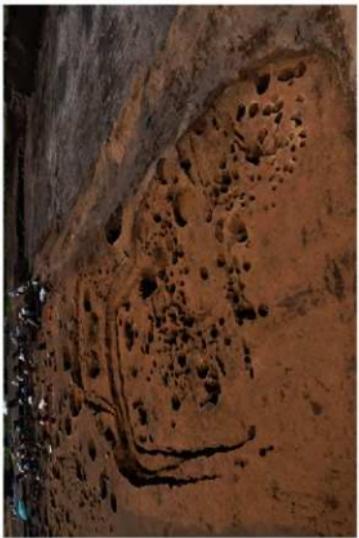


PJT87 号ビット

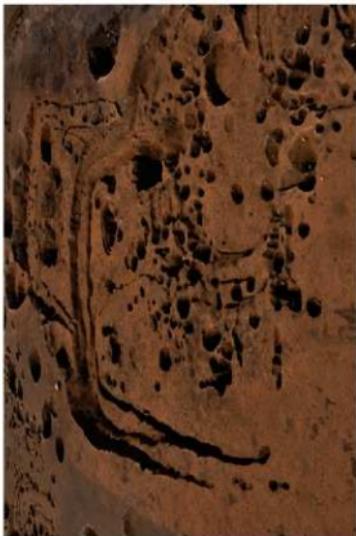
PJ047 号住居西面深い柱穴。炭化した柱材が立っていた



P049号住居 遺物出土状況
南壁沿いの遺物出土状況を北から撮影



P051号住居 実掘状況
写真中央の長方形プランがP051号住居。南西から撮影



P051号住居 実掘状況
写真上方はP055号、右下はP044号住居



P051号住居 埋土断面
埋土断面を北西から撮影。写真左側にP055号住居



PJ055 号住居 完掘状況
南から撮影。下側は PJ051 号住居



PJ055 号住居 埋土断面
西から撮影。写真右側が PJ051 号住居

PJ883 号ピット
PJ051 号住居北東角の PJ883 号ピット半蔵状況



PJ052 号住居 完掘状況
南西から撮影



P055 号住居 遺物出土状況
P7978 号ビット付近の遺物出土状況を示す



P056 号住居 遺物出土状況
南西から撮影



P056 号住居 埋土断面
南東から撮影。セクションベルト下の変色部は P060 号住居



P060 号住居 完掘状況
北から撮影。P060 号住居は P056 号住居の下で検出された



Pj060 号住居 埋土断面
東から撮影



Pj060 号住居 床面検出状況
床面、周溝、柱穴の検出状況を北から撮影



Pj060 号住居 炉
床面がやくほみ、焼熱、焼土化していた



Pj057 号住居と周辺
南から撮影



PJ057 号住居と周辺
南東から撮影



PJ057 号住居 埋土断面
PJ057 号住居とPJ060 号住居の重機部を南から撮影



PJ064 号住居と周辺
写真右下の円形プランは PJ047 号住居

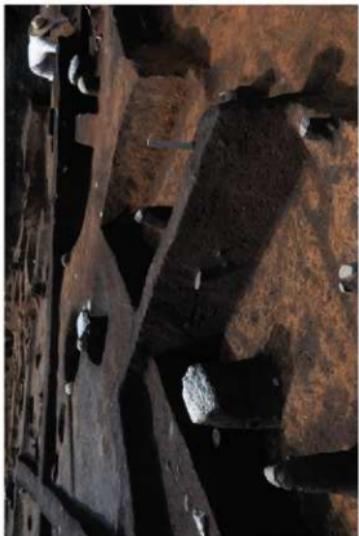


PJ066 号住居
貼状状の黄褐色様化面をPJ066 号住居とした。北から撮影



P058 号住居

南西から撮影。遺構の左半分は現状保存区域



P058 号住居

南東から撮影



P059 号住居 完掘状況

写真右下側がP059号住居、上方はP058号住居



P063 号住居 完掘状況

南から撮影。遺構の右半分は遺地の造成で削平されていた



P0063 号住居 埋土断面
南から撮影



P0063 号住居 遺物出土状況
南東から撮影



P0065 号住居 完掘状況
南から撮影。遺構の右半分は墓地の造成で削平されていた。



P0065 号住居 埋土断面
北東から撮影



P-J065 号住居 遺物出土状況
南から撮影



P-J066 号住居
P-J065 号住居の廃墟の上で検出。貼床状の青褐色硬化面を P-J066 号住居とした。



P-J069 号住居 完掘状況
南から撮影。上半分は調査区外



P-J069 号住居 遺物出土状況
南から撮影



P069 号住居 遺物出土状況
東から撮影



P070 号・P072 号・P078 号住居
南東から撮影。左下端が P070 号、中央が P0708 号、右上の浅い凹地が P072 号住居



P070 号住居 完掘状況
南東から撮影。中央の深い円形プランが P0708 号住居



P070 号住居 埋土断面
南東から撮影。セクションベルト下の変色部が P0708 号住居



Pj0708 号住居 埋土断面

Pj070 号住居の下で発出した住居。南東から撮影



Pj070 号住居 遺物出土状況

南東から撮影



Pj071 号住居 完掘状況

写真左下は Pj070 号、Pj0708 号住居。南東から撮影



Pj071 号住居 完掘状況

北西から撮影。左側が Pj071 号住居。深く小さなプランが Pj074 号住居



PJ162号ビット

PJ071号住居床面、PJ162号ビット上で黒曜石がまとまって出土した



PJ073号住居 完掘状況

北西から撮影



PJ073号住居 埋土断面
西から撮影



PJ073号住居 炉

PJ1352号ビットと遺構名を付したくぼみで伊体土器を検出した



PJ074号住居 完掘状況

北西から撮影



PJ071号・PJ074号住居 埋土断面

南から撮影。写真右側の変色部がPJ074号住居



PJ074号住居 遺物出土状況

西から撮影



PJ074号住居 遺物出土状況

西壁沿いを北から撮影



P075号・P079号住居 完掘状況

南西から撮影。深く小さな通路がP075号、左下側の浅い通路がP079号住居



P075号・P079号住居 完掘状況

北から撮影。床面が一段高い通路がP079号住居分



P075号住居 埋土断面

東から撮影。埋土断面でP079号住居との重複は確認できなかった。



P075号住居 遺物出土状況

北西から撮影。写真右側の土器はP079号住居分



P075 号住居 烧土と炭化材

床面上で焼土と炭化材を発出した。南西から撮影



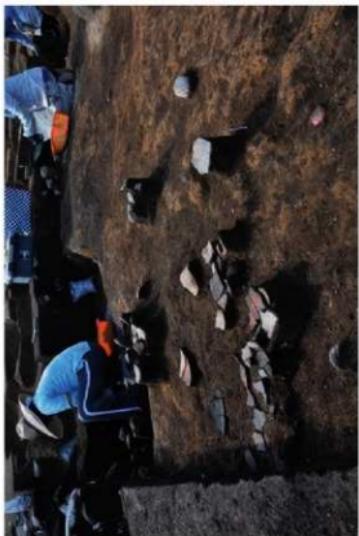
P079 号住居 遺物出土状況

西壁沿いの床面上、P115号ピット付近で埴輪・式土器が出士した



P088 号住居 完掘状況

北から撮影。P079号住居と P083号住居に接まれた遺構



P088 号住居 遺物出土状況

北から撮影



PJ088 号住居 炉

床面上で焼土を検出した。北から撮影



PJ076 号・PJ082 号・PJ083 号住居

北から撮影。写真中央の小さく深い遺構がPJ082号。左下がPJ083号、右上がPJ076号。



PJ076 号住居

床面が一段高い、方形プランがPJ076号住居



PJ082 号住居

北から撮影。



PJ083 号住居

北から撮影。写真右上が PJ082 号住居



PJ076 号・PJ082 号住居 埋土断面

東から撮影



PJ082 号住居 埋土断面

PJ082 号住居と PJ083 号住居の重複部分を東から撮影



PJ077 号・PJ095 号住居 完掘状況

北西から撮影。手前が PJ077 号住居。上方の圓溝が PJ095 号住居



PJ077号・PJ095号住居
北から撮影。右下側がPJ077号住居



PJ077号住居 埋土断面
南から撮影



PJ077号住居 遺物出土状況
南から撮影



PJ077号住居 遺物出土状況
北壁沿い埋土上層で精緻式土器が出土し、見落とした当該時期の土坑を想定した



P095 号住居 遺物出土状況
南から撮影。遺物量は多くなかった。



P1337 号・P1338 号ビット
左側が P1337 号ビット。細い柱状を焼出した。



P087 号住居と周辺
J-5、J-6 グリッドで複数個に重複する住居を焼出した。右下は P076 号住居。北から



P080 号住居と周辺
北から撮影



PJ081 号住居 完掘状況
写真中央がPJ081号住居。北から撮影



PJ093 号住居 完掘状況
北から撮影



PJ080 号住居 埋土断面
南から撮影。浅い道幅がPJ080号住居。右側の深い道幅はPJ081号住居



PJ081 号住居 埋土断面
東から撮影。写真下端の深い道幅はPJ084号住居



PJ081号住居 遺物出土状況
南から撮影。右端側にPJ084号住居



PJ093号住居 埋土断面
南東から撮影



PJ081号住居 遺物出土状況
南から撮影



PJ081号住居 遺物出土状況
土器、石器がまとめて出土。床面の変色部は土坑か



P087 号住居 遺物出土状況
南から撮影。床面まで下がったところで重複する土坑が確認できた。



P087 号住居 遺物出土状況
南東から撮影



P093 号住居 遺物出土状況
土器 2888 の出土状況を示す



SD034 号焼土の検出状況
南から撮影。P093 号住居堆土中で SD034 号焼土を検出した。(中央)



P084号住居 完掘状況

北西から撮影。写真左上は現状保存区域



P084号住居 埋土断面

西から撮影。セクションベルト交点に集石土坑がみえる



P084号住居 埋土断面

南から撮影。写真左端、一段高い床面はP081号住居



P084号住居 遺物出土状況

西から撮影



P084 号住居 遺物出土状況
南から撮影



P084 号住居 遺物出土状況
北から撮影。左側は SY014 号集石土坑



P085 号住居 完掘状況
北から撮影



P085 号住居 埋土断面
東から撮影。写真下側は D0502 号土坑で黒削木板と思われる



PJ085 号住居 墓土断面
南から撮影



PJ085 号住居 遺物出土状況
南東から撮影



PJ085 号住居 遺物出土状況
小形、扁平な石皿の出土状況。東から撮影



PJ085 号住居 遺物出土状況
南東から撮影



PJ086 号住居 完掘状況
南から撮影。写真右上は現状保存区域



PJ086 号住居 埋土断面
南西から撮影。深い壁穴で埋土中に粘土と思われる黄褐色土層が検出された



PJ086 号住居 遺物出土状況
南壁付近の遺物出土状況を北西から撮影



PJ089 号住居
粘土状の黄褐色土のひろがり、諸種式土器の出土から想定した遺構



PJ092号住居 完掘状況

北から撮影。大きな方形プランのなかに小孔、円形プランが重複する。



PJ092号住居 埋土断面

南東から撮影



PJ092号住居 埋土断面

南西から撮影



PJ092号住居 遺物出土状況

南東から撮影。埋土中からまばらに遺物が出土した。



PJ092 号住居 遺物出土状況

北西角部の円形の周溝に囲まれた範囲で遺物がまとまって出土。南東から撮影



SD38 号焼土

PJ092 号住居の埋土中で検出した焼土。周囲に土器、石器を作う。南から撮影



PT1436 号ビット

PJ092 号住居の柱穴。埋土下層で柱底を検出した。

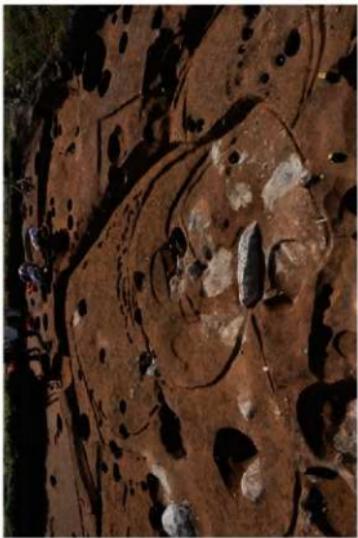


PJ094 号・PJ097 号住居 完掘状況

北から撮影。西北方向にすれて重複する



Pj094 号・Pj097 号住居 遺物出土状況
南東から撮影。少量の遺物が埋土中から出土した。



Pj098 号住居 完掘状況
北から撮影。Pj092 号住居北西角に重複する小形、方形の遺構を Pj098 号住居とした。



Pj096 号住居 完掘状況
南東から撮影。本遺跡で最大量の堅穴遺物。写真下方は現状保存区域。



Pj096 号住居 埋土断面
南東から撮影。写真左側は現状保存区域



P096 号住居 遺物出土状況
埋土中から多量の遺物が出土した。北西から撮影



P096 号住居 炉
住居中央からやや北寄りで浅いぼみと焼土を検出した。南から撮影



DK642 号土坑
P096 号住居主柱穴と判断した土坑で、柱頭が検出された。



DK644 号土坑
P096 号住居北東角部の壁柱穴。柱材を抜き取り、埋め戻したと考えた。



DK645 号土坑

PJ096号住居主柱穴とした土坑で、柱底が確認された。



DK651 号土坑

PJ096号住居西壁に掘られた方形の土坑。東から撮影



DK651 号土坑

土坑底面から中壺式土器が出土した。



PJ099 号住居

PJ096号住居の北東側に周溝が検出された。北から撮影



PJ099号住居 埋土断面
PJ097号住居との重複部分を西から撮影



PJ099号住居 遺物出土状況
少量の遺物が出土した



PJ100号・PJ102号・PJ113号住居
完掘状況を北から撮影



PJ100号住居 完掘状況
小形、円形プランの壁穴建物。北から撮影



PJ100 号住居 遺物出土状況
床面で中燃式土器が出土した。北から撮影



PJ100 号住居 遺物出土状況
北壁沿いで黒曜石、石器が出土。南東から撮影



PJ102 号住居 完掘状況
南から撮影。右下は PJ108 号住居



PJ102 号住居 遺物出土状況
床面近くの出土遺物は少なかった。PT1489 号ピット付近を東から撮影



PJ102号住居 遺物出土状況
南東から撮影



PJ102号住居 完掘状況
北から撮影。写真上方はPJ102号住居



PJ104号住居 遺物出土状況
地床部分を南東から撮影



PJ104号住居 完掘状況
北から撮影



PJ104 号住居 埋土断面
東から撮影。中心部に黄褐色土が堆積していた。



PJ104 号住居 焼
北東から撮影。浅いくぼみと複数の焼土が検出された。



PJ106 号・PJ107 号住居 完掘状況
東から撮影。現状保存堤に抜まれた狭い範囲を調査した。



PJ106 号住居 完掘状況
南から撮影



PJ106号住居 埋土断面
南から撮影。集石土坑が重複する。



PJ106号住居 遺物出土状況
南西から撮影



PJ107号住居 完掘状況
周溝、ビットを検出したが、金冠は不明瞭。南から撮影



PJ107号住居 埋土断面
南西から撮影。写真左端でPJ106号住居と重複する



PJ108号住居 完掘状況
東から撮影。写真左側は現状保存区域



PJ108号住居 埋土断面
北から撮影



PJ108号住居 遺物出土状況
西南から撮影



PJ108号住居 遺物出土状況
北西から撮影



PJ108号住居 遺物出土状況
南から撮影



PJ108号住居 遺物出土状況
北西壁付近で打製石斧がまとめて出土した



PJ109号住居 完掘状況
東から撮影。写真右側は現状保存区域



PJ109号住居 埋土断面
南から撮影



PJ110号・PJ111号住居 完掘状況
北から撮影。写真上方は現状保存区域



PJ111号住居 完掘状況
南から撮影



H0003号掘立柱建物
ピンホールを立てたピットで構成される。南東から撮影



H0004号掘立柱建物
1-7、1-8グリッドで検出された1箇所×2箇所の建物
1-7、1-8グリッドで検出された1箇所×2箇所の建物



DK115 号土坑
H009 号獨立柱建物の柱穴



DK86 号土坑
H011 号獨立柱建物の柱穴、柱直らしき土層を確認した



MD01 号埋設土器
諸橢式土器を埋設した土坑を MD01 号埋設土器とした

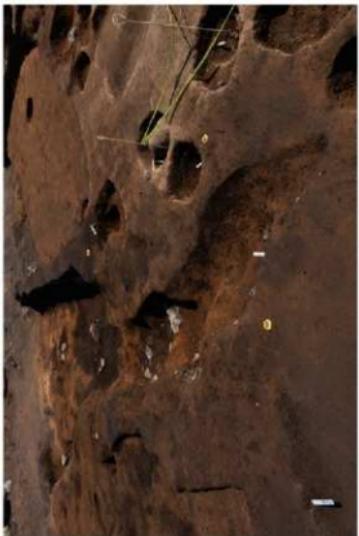


MD01 号埋設土器 半截状况
東から撮影



MZ001 号埋設土器

洼位に埋設した土器の面に口縁部破片が並べられていた



MZ002 号溝

溝内から埴輪式土器、石器が多数出土した



MZ002 号溝 埋設土器

PJ063号住居と重複する箇所の埋設土器を東から撮影。下層に砂質を採取した



MZ002 号溝 遺物出土状況

溝内から埴輪式土器、石器が多数出土した



MZ002 号溝

P-047号柱間に切られ、底面付近のみが露出された溝



MZ002 号溝

F-6グリッド付近を北西から撮影。溝は蛇行して露出された。



MZ002 号溝

G-4-3 グリッドを北西から撮影。削平を免れた箇所で断片的に確認された溝



MZ002 号溝

G-4-3 グリッドで検出した溝。砂、風化花崗岩が出土した。



MZ002 号溝

DK336 号土坑と命名した溝も溝の断片と判断した



MZ002 号溝

DK336 号土坑とした溝の半蔵状況。相前後で溝は充填されていた



S0001 号焼土

PJ004 号住居土中で発出した焼土



S0001 号焼土 半蔵状況

埋土が堆熱、焼土化して硬化していた



SD002 号焼土

PJ006 号住居西側、D-4-2 グリッドで検出した焼土



SD004 号焼土

PJ005 号住居南西、D-4-5 グリッドで検出。PJH14 号住居のカマド跡と判断した



SD024 号焼土

F-6-20 グリッドの PJ007 号住居硬化面で検出した鮮やかな色調の焼土



SD027 号焼土と MZ002 号溝

写真右下端が SD027 号焼土。MZ002 号溝付近には小さな焼土が分布する



SD026 号焼土

F-6-15 クリッドで発出した焼土と大きな台石。南から撮影



SD026 号焼土

焼土の南面で土器破片、炭化した堅果類が出土した。東から撮影



SD026 号焼土

炭化した堅果類の出土状況を西から撮影



DK510 号土坑

SD026 号焼土に隣接した台石の下で発出した土坑。台石を外したところ



SD034 号焼土

J-6-3 グリッド、PJ101 号住居裏土中で検出した焼土



SD034 号焼土

燒土周辺から中越式土器、石器、石獅などが出土



SD026 号焼土と周辺

燒土周辺を南西から撮影。写真右下は P047 号住居

DK510 号土坑

台石下の土坑から円錐が出土した



SD034 号焼土

検出状況を南から撮影



SD034 号焼土

SD034 号焼土から多量の炭化した堅果類が出土した



SD036 号焼土

J-6-3 グリッド、SD034 号焼土の東側で検出した焼土。写真右端。南から撮影



SD036 号焼土

焼土断面を東から撮影



SD037 号焼土

I-6-12 グリッド、P0.96 号住居埋土上面で検出した焼土



SD038 号焼土

I-6-10 グリッド、P0.982 号住居埋土中に検出した焼土



遺構外出土遺物

H-4-4 グリッド付近で縄文時代中期中葉の土器がややまとまって出土した。東から



遺構外出土遺物

現状保存区域の H-7 グリッドで出土した縄文時代中期土器



遺構外出土遺物

現状保存区域、L-7-15 グリッドで出土した縄文時代中期中葉の土器

遺構外出土遺物

J-7 グリッドで出土した縄文時代中期、施沢式土器



PH001 号住居 完振状況

カマドは南西角に設けられている。北から撮影



遺構外出土遺物

E-5 グリッドで出土した中期式土器。同一個体の破片が低い範囲に分布していた。



PH001号住居 検出状況
北から撮影。左上の変色部は後世の削乱



PH001号住居 力マド
袖石の一部が原位置を保っていた。北から撮影



PH012号住居 完掘状況
西から撮影。カマドは東壁に抜けられる



PH012号住居 力マド
中央に玄石が残る。焼れ落ちたように黄褐色粘質土が検出された



PH013号住居 カマド

住居の南東角付近に置けられたカマド。煉土と礫だけが残出された。南西から撮影

DK092号土坑

PH012号住居で検出された土坑。磁石破片が出土した。



PH013号住居 遺物出土状況

カマド西侧で須惠器壺底部が出土した



PH013号住居 完掘状況

西から撮影。写真左側は調査区外



PH014号住居 完掘状況

写真左側は調査区外。カマドは調査区外の東壁に想定される。北から撮影



PH015号・PH022号住居

南西から撮影。手前がPH022号住居、奥がPH015号住居



PH015号住居 完掘状況

南西から撮影。カマドは東壁に設けられる



PH015号住居 カマド

西から撮影。袖石、カマド構造物の真褐色土がよく保存されていた。



PH015 号住居 遺物出土状況
埋土中から土師器片などが出土した



PH022 号住居 完掘状況
東壁に設けられたカマドはPH015号住居に切られる



PH022 号住居 カマド
向かって右側の焼石は PH015 号住居に切られて失われている



PH016 号住居 完掘状況
西から撮影。写真上方は調査区外



PH114号住居

PH005号住居南西角で発出した。堅穴は削平され、カマド焼土と土坑のみを露出



DK027号土坑

PH114号住居内の土坑



PH016号住居 力マド

袖石の一部、カマド構造物の黄褐色土がよく保存されていた。

PH016号住居 埋土断面

南東から撮影



H0002 号掘立柱建物

6-3 グリッド、PH001 号住居と重複する。北から撮影

PH114 号住居 力マド

S0004 号焼土とした焼土は本住居のカマドと判断した



DK527 号土坑

J-6-4 グリッドで検出された長方形の土坑、鉄製刀子が出土した



H0001 号掘立柱建物

F-4 グリッドに位置する 2 間四方の掘立柱建物。PH001 号住居と主軸方向が一致。東から



SY001号集石土坑・DK482号土坑
手前がDK482号土坑、奥がSY001号集石土坑。南から撮影



SY001号集石土坑 半截状況
半截状況を北から撮影



SY001号集石土坑 完掘状況
南から撮影



SY001号集石土坑
西側の土坑壁面がわずかに焼土化していた。南から撮影



DK482号土坑 半截状況
半截状況を南から撮影



DK482号土坑 完掘状況
南から撮影。壁際の土器はPJ088号住居分



SY002 号集石土坑・DK480 号土坑

左侧が DK480 号土坑、右側が SY002 号集石土坑。東から撮影



SY002 号集石土坑 半截状況

北東から撮影



SY002 号集石土坑 完掘状況

北東から撮影。土器は PJ070 号住居分



DK480 号土坑 半截状況

南から撮影。集石は表層のみ



DK480 号土坑 完掘状況

南西から撮影。底面を掘り抜いたらしい



SY003 号集石土坑

PJ081 号住居上面で検出された



SY003 号集石土坑
半截状況を示す。掘り込みは浅い



SY003 号集石土坑
完掘状況。底面は PJ081 号住居埋土である



SY004 号集石土坑
PJ077 号住居上面で検出した。北から撮影



SY004 号集石土坑 半截状況
底面から大きな花崗岩質砂岩が出土した。北から撮影



SY004 号集石土坑 完掘状況
底面は浅く不整形。北から撮影



SY005 号集石土坑
複数の集石土坑が重複している。北東から撮影



SY005 号集石土坑
右側が DK520 号、左側を DK521 号土坑とした



DK520 号土坑
半裁状況を南から撮影



DK520 号土坑
完掘状況を南から撮影



DK521 号土坑
集石下部の半裁状況を北西から撮影



DK521 号土坑
完掘状況を北から撮影



DK522 号土坑
SY005 集石土坑の一部。南から撮影



DK522 号土坑

南から撮影



DK529 号土坑

SY005 号集石土坑の一部



SY006 号集石土坑

PJ079 号住居上面で検出。西から撮影



SY006 号集石土坑

半截状況を西から撮影



SY006 号集石土坑

完掘状況を西から撮影



SY007 号集石土坑

PJ080 号住居上面で検出。東から撮影



SY007号集石土坑

複数の集石の重複と思われるが下部の掘り込みで分離できない



SY007号集石土坑

半敷状況を東から撮影



SY007号集石土坑

まとまった土器と礫は DK550号土坑とした。東から撮影



SY008号集石土坑

PJ081号住居上面で検出した。南東から撮影



SY008号集石土坑

写真右側が南。中心に大きな礫があった



SY009号集石土坑

PJ093号住居上面で検出した。南東から撮影



SY009 号集石土坑
半截状況を西から撮影



SY009 号集石土坑
完掘状況を東から撮影



SY010 号集石土坑
PJ093 号住居上面で検出。東から撮影



SY010 号集石土坑
写真右側が南



SY010 号集石土坑
半截状況を東から撮影



SY010 号集石土坑
集石下で炭化材が出土した



SY010号集石土坑

完掘状況を東から撮影。手前側の底面を掘り抜いてしまった



SY011号集石土坑

PJ089号住居上面で検出。左上が南



SY012号集石土坑

PJ092号住居上面で検出。南から撮影



SY012号集石土坑

半裁状況を東から撮影



SY012号集石土坑

完掘状況を東から撮影



SY013号集石土坑

PJ092号住居上面で検出。南東から撮影



SY013 号集石土坑

写真下が南



SY013 号集石土坑

半截状況を北から撮影



SY013 号集石土坑

完掘状況を北東から撮影。底面に大きな礫



SY014 号集石土坑

PJ084 号住居埋土中で検出。北から撮影



SY014 号集石土坑

下層まで礫が連続して出土した



SY014 号集石土坑

下層の掘り込みを DK607 号、DK608 号土坑とした



SY015 号・SY016 号集石土坑
右側が SY015 号、左側が SY016 号集石土坑。西から撮影



SY015 号・SY016 号集石土坑
右側が SY015 号、左側が SY016 号集石土坑



SY015 号・SY016 号集石土坑
半截状況を東から撮影。右側が SY016 号集石土坑



SY015 号・SY016 号集石土坑
完掘状況を南東から撮影



SY015 号集石土坑
完掘状況を東から撮影



SY016 号集石土坑
完掘状況を南東から撮影



SY017 号集石土坑
PJ102 号住居上面で検出。西から撮影



SY017 号集石土坑
半截状況を北東から撮影



SY017 号集石土坑
掘り方壁面が焼土化していた。北東から撮影



SY018 号集石土坑
PJ104 号住居上面で検出。東から撮影



SY018 号集石土坑
半截状況を東から撮影。土壤化した炭化材の黒色土層がある



SY018 号集石土坑
完掘状況を東から撮影



SY019 号・SY022 号集石土坑

左侧が SY019 号、右側が SY022 号集石土坑。南西から撮影



SY019 号集石土坑

I-8-15 グリッドで検出



SY022 号集石土坑

SY019 号集石土坑に切られると判断した



SY019 号・SY022 号集石土坑

半截状況を南から撮影。左側が SY019 号集石土坑



SY019 号・SY022 号集石土坑

完掘状況を南から撮影



SY020 号集石土坑

PJ107 号住居上面で検出。南西から撮影



SY020 号集石土坑

半截状況を南から撮影



SY020 号集石土坑

完掘状況を北西から撮影



SY021 号集石土坑

I-8-25 グリッドで検出。北西から撮影



SY021 号集石土坑

半截状況を南東から撮影



SY021 号集石土坑

完掘状況を南東から撮影



SY023A 号集石土坑

PJ106 号住居埋土中で検出。西から撮影



SY023A 号集石土坑

半截状況を西から撮影



SY023A 号集石土坑

PJ106 号住居の埋土下層から床面に掘り込んだ様子を示す。東から



SY023A 号集石土坑

集石の下から炭化材が出土した。西から撮影



SY023A 号集石土坑

完掘状況を西から撮影



SY023B 号集石土坑

I-7-14 グリッドで検出。左上は DK683 号土坑



SY023B 号集石土坑

半截状況を北から撮影



SY023B 号集石土坑

完掘状況を北から撮影



SY024 号集石土坑

I-8-5 グリッドで検出。右側が北



SY024 号集石土坑

半裁状況を南から撮影



SY025 号集石土坑

左上が SY025 号集石土坑。右下は SY024 号集石土坑。南西から



SY025 号集石土坑

右側が北



SY025 号集石土坑

半裁状況を西から撮影



SY026 号集石土坑
PJ111 号住居上面で検出。南から撮影



SY026 号集石土坑
半截状況を南から撮影



SY026 号集石土坑
完掘状況を南から撮影



SY027 号集石土坑
PJ111 号住居埋土下層で検出。右側が北



SY027 号集石土坑
半截状況を南から撮影



SY028 号集石土坑
PJ107 号住居上面で検出。北から撮影



SY028 号集石土坑
半截状況を北から撮影



SY028 号集石土坑
完掘状況を北から撮影



SY029 号集石土坑
PJ107 号住居上面で検出。南から撮影。右上は SY028 号集石土坑



SY029 号集石土坑
半截状況を東から撮影



集石土坑の検出状況
F-5 グリッドを北東から撮影



集石土坑の検出状況
J-5 グリッド付近を北から撮影



DK008 号土坑
PJ032 号住居を切る土坑。焼けた小棧が多数出土した



DK008 号土坑
土坑壁面が燒土化していた



DK018 号土坑
PJ006 号住居上面で検出した集石土坑



DK018 号土坑
半截状況を示す



DK018 号土坑
完掘状況。半分は掘り抜いた



DK037 号土坑
PJ040 号住居上面で検出した集石土坑



DK037 号土坑
半截状況を示す。底面まで礫が充填していた



DK037 号土坑
完掘状況。手前側は掘り抜いた



DK089 号土坑
PJ018 号住居上面で検出した集石土坑



DK089 号土坑
完掘状況を示す



DK100 号土坑
PJ058 号住居上面で検出。礫がまばらだが集石土坑と判断した



DK100 号土坑
完掘状況を示す



DK101 号土坑
PJ019 号住居上面で検出。穀が風化している



DK101 号土坑
完壊状況を示す



DK205 号土坑
G-3-17 グリッドで検出



DK205 号土坑
半壊状況を示す



DK205 号土坑
完壊状況を示す



DK211 号土坑
F-13-3 グリッドで検出



DK211号土坑
底面まで礫が結まっていた



DK211号土坑
完掘状況を示す



DK215号土坑
PJ033号住居上面で検出した小さな集石



DK215号土坑
掘り込みはごく浅く残る程度であった



DK227号土坑
PJ042号住居上面で検出した集石土坑



DK227号土坑
手前に見える土器はPJ042号住居分



DK227 号土坑
底面は炭化物で黒く変色していた



DK240 号土坑
少數が硬がまとまる。集石土坑と判断した



DK240 号土坑
埋土断面を示す



DK240 号土坑
完掘状況を示す



DK262 号土坑
PJ040 号住居を切る集石土坑



DK262 号土坑
被熱し変色した硬が湿じる



DK262 号土坑

完掘状況を示す



DK263 号土坑

PJ042 号住居上面で検出した集石土坑



DK263 号土坑

半截状況を示す



DK263 号土坑

完掘状況を示す



DK264 号土坑

PJ054 号住居上面で検出した



DK265 号土坑

PJ042 号住居上面で検出した集石土坑



DK265 号土坑

集石下部の掘り込みは検出されなかった



DK269 号土坑

PJ055 号住居上面で検出した集石土坑



DK269 号土坑

半截状況を示す



DK269 号土坑

完掘状況を示す



DK283 号土坑

PJ051 号住居上面で検出した集石土坑



DK283 号土坑

半截状況を示す



DK283 号土坑
土器は PJ051 号住居分



DK286 号土坑
PJ060 号住居上面で検出した集石土坑。DK277 号土坑に切られる



DK286 号土坑
半截状況を示す



DK286 号土坑
完掘状況を示す



DK287 号・DK297 号土坑
单一の構造と判断した。集石を施したような土坑である



DK287 号・DK297 号土坑
半截状況を示す奥側は現状保存区域



DK289 号・DK290 号土坑
PJ055 号住居上面で検出した集石土坑



DK289 号・DK290 号土坑
右が DK289 号、左が DK290 号土坑



DK289 号・DK290 号土坑
完掘状況を示す



DK292 号土坑
D-5-12 グリッドで検出した集石土坑



DK292 号土坑
右側の DK248 号土坑を切る



DK310 号土坑
F-6-16 グリッドで検出。礫は少数だが集石土坑と判断した



DK310 号土坑

半掘状況を示す



DK310 号土坑

完掘状況を示す



DK311 号土坑

PJ064 号住居上面で検出した集石土坑。右上は DK314 号土坑



DK311 号土坑

半掘状況を示す



DK311 号土坑

完掘状況。右側は DK455 号土坑



DK312 号土坑

PJ067 号住居上面で検出した集石土坑



DK312 号土坑

半截状況を示す



DK312 号土坑

完掘状況。壁面の焼土は PJ067 号住居埋土に混じるもの



DK313 号土坑

F-6-3 グリッドで検出した集石土坑



DK313 号土坑

掘り方は深く、底面まで礫が詰まっていた



DK313 号土坑

完掘状況を示す



DK327 号土坑

F-5-14 グリッドで検出した集石土坑



DK327 号土坑
掘り方はほぼ残っていない



DK327 号土坑
円形の掘り込みは炭を検出するために作業員が掘ったもの



DK330 号土坑
F-5-19 グリッドで検出した集石土坑



DK330 号土坑
底面まで礫が詰まっていた



DK330 号土坑
底面で炭化材が出土した



DK334 号土坑（左）
F-5-25 グリッドで検出した集石土坑。右は DK335 号土坑



DK334 号土坑

半截状況を示す



DK334 号土坑

硬層のなかで炭化材が出土した



DK335 号土坑

DK334 号土坑に隣接する集石土坑



DK335 号土坑

集石下部の掘り込みは残っていない



DK343 号土坑

PJ065 号住居上部で検出した集石土坑



DK343 号土坑

半截状況を示す



DK343 号土坑
底面に大きめの扁平礫が敷かれていた



DK343 号土坑
底面と壁面で焼土を検出した



DK345 号土坑
F-5-24 グリッドで検出した集石土坑



DK345 号土坑
半截状況を示す



DK345 号土坑
底面で焼土を検出した



DK349 号土坑
PJ067 号住居上面で検出した集石土坑



DK349 号土坑

掘り込みは深めで底面まで礫が詰まっていた



DK349 号土坑

底面まで礫で充填された状況を示す



DK358 号土坑

F-6-4 グリッドで検出された集石土坑



DK358 号土坑

礫は底面まで詰まり、下層の礫はやや大きめであった



DK358 号土坑

完掘状況を示す



DK365 号・DK375 号土坑

右側が DK365 号土坑。F-6-7 グリッドで検出された集石土坑



DK365号・DK375号土坑
半截状況を示す



DK365号・DK375号土坑
完掘状況。右側がDK365号土坑



DK370号土坑
PJ054号住居埋土中で検出した集石土坑



DK370号土坑
完掘状況を示す



DK395号土坑
PJ057号住居上面で検出した集石土坑



DK395号土坑
半截状況を示す



DK395 号土坑
完掘状況。手前側は振り抜いた



DK453 号土坑
PJ057 号住居上面で検出した集石



DK455 号土坑
左側の集石は DK311 号土坑。右側は DK455 号土坑



DK455 号土坑
集石上面で諸磯式土器破片が出土した



DK474 号土坑
右側は SD29 号焼土



DK474 号土坑
半截状況。振り込みは残っていない



DK476 号土坑
I-5-5 グリッドで検出した集石土坑



DK476 号土坑
浅い掘り込みの底面まで梗が充填されていた



DK476 号土坑
完掘状況を示す



DK477 号土坑
PJ075 号住居を切る集石土坑



DK477 号土坑
浅い掘り込みが残っていた



DK483 号土坑
PJ075 号住居上面で検出した集石土坑



DK483 号土坑

半截状況を示す



DK483 号土坑

完掘状況を示す



DK484 号土坑

PJ077 号住居上面で検出した集石土坑



DK484 号土坑

半截状況を示す



DK484 号土坑

完掘状況。手前側は掘り抜いた



DK497 号土坑

PJ077 号住居上面で検出した集石土坑



DK497 号土坑

半截状況を示す



DK497 号土坑

完掘状況を示す



DK514 号土坑

PJ076 号住居上面で検出した集石土坑



DK514 号土坑

半截状況を示す



DK514 号土坑

完掘状況を示す



DK515 号土坑

PJ096 号住居上面で検出した集石土坑



DK515 号土坑

半截状況を示す



DK515 号土坑

集石下で諸種式土器が出土した



DK515 号土坑

集石下で出土した諸種式浅鉢



DK515 号土坑

土坑底面は PJ096 号住居床面近くに達している



DK516 号土坑

PJ092 号住居上面で検出した集石



DK516 号土坑

PJ092 号住居床面まで掘り込んで、土坑底面を探ってみた



DK519 号土坑
PJ076 号住居上面で検出した集石土坑



DK519 号土坑
底面近くまで礫が出土した



DK519 号土坑
手前側は底面を掘り抜いた



DK526 号土坑
PJ083 号住居上面で検出した集石土坑



DK526 号土坑
掘り込みは残っていない



DK537 号土坑
SY007 号集石土坑の下で検出した集石土坑



DK537 号土坑

半掘状況を示す



DK537 号土坑

完掘状況を示す



DK545 号土坑

PJ092 号住居上面で検出した集石土坑



DK545 号土坑

半掘状況を示す



DK545 号土坑

完掘状況を示す



DK550 号土坑

SY007号集石土坑に切られる



DK550 号土坑

半截状況を示す



DK016 号土坑

諸磯 b 式土器が出土



DK022 号・DK025 号土坑

PJ011 号住居を切る。風倒木痕か



DK023 号土坑

PJ011 号住居を切る。諸磯 a 式土器が出土



DK032 号土坑

底面から土器破片と礫が出土



DK035 号・DK036 号土坑

右側が DK036 号土坑



DK038 号土坑
確認面で諸磈 b 式土器が出土



DK045 号土坑
諸磈 b 式土器が出土。PJ052 号住居を切る



DK054 号土坑
PJ004 号住居を切る。諸磈式土器が出土



DK074 号土坑
諸磈 b 式土器が出土



DK076 号土坑
PJ004 号住居を切る。諸磈式土器が出土



DK085 号土坑
諸磈 a 式土器が出土



DK090 号土坑

諸磯 a 式土器が出土



DK090 号土坑 半截状況

水平に堆積した層理



DK099 号土坑

諸磯 a 式土器が出土した



DK117 号土坑

諸磯 b 式土器が出土した



DK128 号土坑

埋土から新しい時期の遺構と推測した



DK148 号土坑

諸磯式土器、櫛が出土した



DK149 号土坑
諸磯 b 式土器、台石が出土した



DK166 号土坑
大きな礫の下から諸磯 b 式土器が出土した



DK172 号土坑
石點、石英岩が出土した小判形の土坑



DK173 号土坑
石戻、諸磯 b 式土器が出土。DK172 号土坑に似た小判形土坑



DK196 号土坑 検出状況
PJ019 号住居床面で確認した土坑。礫は土坑分と考えた



DK196 号土坑
諸磯 b 式土器が出土した



DK225 号土坑
諸穢 b 式土器が出土した



DK226 号土坑
諸穢 b 式土器が出土した



DK236 号土坑
諸穢 b 式土器が出土した



DK244 号土坑
諸穢 b 式土器がまとめて出土した



DK248 号土坑
右側の集石は DK292 号土坑



DK255 号土坑
確認面で玦状耳飾破片が出土した



DK271 号土坑

諸礎 b 式土器、石、焼土塊などが出土した



DK276 号土坑

諸礎式土器、合石などが出土した横円形土坑



DK295 号土坑

諸礎 a 式土器、石皿片などが出土した



DK303 号土坑

諸礎 b 式土器が出土した



DK305 号土坑

諸礎 b 式土器、石匙などが出土した



DK328 号土坑 検出状況

PJ044 号住居土中から逆位の諸礎式土器が出土し、確認した



DK328号土坑
土坑壁面は掘り飛ばしてしまった



DK328号土坑 完掘状況
浅い横円形土坑であったと推測される



DK332号土坑
諸磯a式土器、黒曜石原石が出土した



DK344号土坑
諸磯式土器が出土した



DK347号土坑
諸磯b式土器が出土した



DK350号土坑
諸磯b式土器、石器が出土した



DK350 号土坑
完掘状況を示す



DK360 号土坑
有尾式土器などが出土した



DK361 号土坑
諸礎 a 式土器が出土



DK363 号土坑
諸礎 a 式土器、礎が出土



DK373 号土坑
諸礎 b 式浅鉢が出土した



DK374 号土坑
諸礎 b 式土器が出土した



DK381 号土坑
諸磯 b 式土器、台石が出土した



DK384 号土坑
諸磯 b 式土器が出土した小判形の土坑



DK398 号土坑
諸磯 b 式土器、石皿破片などが出土した



DK401 号土坑
諸磯 b 式土器が出土した



DK406 号土坑
中越式、有尾式土器が出土した



DK406 号土坑 半截状況
漆黒土層と黄褐色ブロックが混じる層理



DK416 号土坑
諸磯 b 式土器が出土した



DK417 号土坑
Pj044 号住居を切る



DK417 号土坑
諸磯 b 式土器が出土した



DK417 号土坑
底面まで硬が詰まっていた



DK429 号土坑
諸磯 b 式土器が出土した



DK439 号土坑
北白川下層式土器が出土した



DK441 号土坑
諸磯 b 式土器が出土した



DK442 号土坑
土器が出土しなかったが、諸磯式期の土坑と思われる



DK454 号土坑
PJ055 号住居床面で確認。諸磯 a 式土器が出土した



DK456 号土坑
諸磯 b 式土器が出土した



DK458 号土坑
有尾式土器、石鎚、磨石などが出土



DK459 号土坑
諸磯 b 式土器、磨製石斧が出土した



DK465 号土坑
諸種 a 式土器が出土した



DK467 号土坑
諸種 b 式土器が出土した



DK485 号土坑
諸種式土器が出土した



DK489 号土坑
諸種 b 式土器、炭化した堅果類が出土した



DK489 号土坑 半截状況
上面に SD30 号焼土、底面付近にも焼土を検出した



DK490 号土坑
左側の焼土は SD29 号焼土。諸種 b 式土器が出土した



DK498号土坑
磨製石斧、諸縦b式土器が出土した



DK505号土坑
諸縦b式土器、石匙などが出土した小判形土坑



DK505号土坑 埋土断面
黄褐色土ブロックが混じる埋め戻した埋土



DK509号土坑
炭化したオニグルミ、諸縦b式土器が出土した



DK509号土坑 半截状況
埋土上層に礫が混じっていた



DK510号土坑
SD26号焼土脇の台石を据えた浅い土坑。台石を外した状況



DK510 号土坑
台石下で円碟、諸種式土器が出土した



DK513 号土坑
袋状断面。諸種 a 式土器が出土した



DK513 号土坑 半截状況
自然堆積したと思われる層理



DK517 号土坑 半截状況
石皿破片、諸種 b 式土器が出土した



DK517 号土坑
埋土には炭化した堅果類が混じる



DK517 号土坑
完掘状況。底面に地山礫が露出していた



DK527 号土坑
平安時代の長方形土坑。右側は擾乱で失われていた



DK527 号土坑
鉄製刀が出土した



DK528 号土坑
諸磯 b 式土器が出土した



DK528 号土坑
確認面で炭化した堅果類が出土した



DK530 号土坑
諸磯 b 式土器が出土した小判形土坑



DK531 号土坑
諸磯 b 式土器が出土した



DK532 号土坑
PJ070 号住居を切る。諸磲 b 式土器が出土した



DK536 号土坑 半截状況
PJ072 号住居を切る



DK536 号土坑
諸磲 b 式土器が出土した



DK538 号土坑
諸磲 b 式土器が出土した



DK539 号土坑
格沢式か新道式土器破片が出土した



DK539 号土坑 完掘状況
土坑断面形は袋状であった



DK543 号土坑
諸種 b 式土器、石匙などが出土した



DK552 号土坑
諸種 b 式土器が出土した



DK560 号土坑
袋状断面で藤内式土器が出土した



DK562 号土坑
中期中葉の土器破片が出土した



DK566 号・DK567 号土坑
左側が DK567 号土坑。DK566 号土坑が新しい



DK567 号土坑
諸種 b 式土器が出土した



DK569 号土坑
諸磧 a 式土器、石鐵、磨石などが出土した



DK570 号土坑
確認面で焼けた穢が出土。諸磧 b 式土器が出土した



DK571 号土坑
PJ075 号住居を切る。確認時までに土坑壁面を握り飛ばした



DK573 号土坑
諸磧 a 式土器が出土した



DK574 号土坑 半截状況
PJ073 号住居を切る。諸磧 a 式土器が出土した



DK574 号土坑
土坑下部は細く、深い



DK579 号土坑 半截状況
黄褐色土ブロックが混じる埋土



DK579 号土坑
諸種 B 式土器、石鎚、石匙などが出土した



DK583 号土坑
諸種 b 式土器、磨石などが出土した



DK584 号土坑
PJ076 号住居を切る。確認時までに土坑壁面を振り飛ばした



DK585 号土坑 半截状況
PJ087 号住居を切る



DK585 号土坑
諸種 b 式土器、石鎚、磨石、台石が出土した



DK590 号土坑 半截状況

J-6-4 グリッドに位置する



DK590 号土坑

諸種 b 式土器、石匙、石鏡などが出土した



DK590 号土坑 遺物出土状況

土坑底面から石匙などが出土地した



DK597 号土坑

諸種 b 式土器などが出土した



DK598 号土坑 半截状況

J-5-10 グリッドに位置する



DK598 号土坑

石鐵、磨石が出土した



DK606 号土坑

諸礎 b 式、諸礎 c 式土器、石鏡、石匙などが出土した



DK606 号土坑 半截状況

J-5-23 グリッドに位置する



DK611 号土坑

扁平礎が重なって出土した。諸礎 a 式土器を伴う



DK615 号土坑

諸礎 b 式土器、炭化堅果類が出土。DK611 号土坑を切る



DK616 号土坑

PJ089 号住居の柱穴と推測した土坑



DK620 号土坑

PJ076 号住居を切る。諸礎式土器が出土した



DK624 号土坑

PJ087 号住居を切る。諸磯 b 式土器が出土した



DK635 号土坑

PJ079 号住居を切る。諸磯式土器が出土した



DK669 号土坑

諸磯 b 式土器が出土した



DK683 号土坑

SY023B 号集石土坑を切る。諸磯 b 式土器が出土した



DK688 号土坑

PJ113 号住居を切る。諸磯 b 式土器が出土した



DK702 号土坑

PJ111 号住居を切る。諸磯式土器が出土した



DK705 号土坑
底面で釧路堂 Z3 式土器が敷かれるように出土した



DK707 号土坑
小碟と諸種 b 式土器が出土した



DK707 号土坑
小碟を取り除いた状況



DK707 号土坑
埋土下層で諸種式有孔浅鉢が出土した



DK708 号土坑
PJ110 号住居を切る。諸種 b 式土器が出土した



DK712 号土坑
諸種 b 式土器、石鏃、石匙などが出土した



DK713 号土坑
諸種 b 式土器が出土した



DK714 号土坑
駁迦堂 23 式土器と石器が出土した



DK716 号土坑
長楕円形の土坑。有尾式土器が出土した



DK716 号土坑
遺物出土状況を示す



調査風景
集石土坑群の調査状況を北から撮影



写真タイトル
写真キャプション

報告書抄録

ふりがな	せきぐらいせき
書名	堰口遺跡
副題	県営耕作放棄地解消・発生防止基盤整備事業白州地区堰口工区その2に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	北杜市埋蔵文化財調査報告第43集
著者	佐野隆
発行機関	北杜市教育委員会
編集機関	北杜市教育委員会(学術課埋蔵文化財センター)
所在地/電話	山梨県北杜市明野町上手8310番地 0551-42-1375
印刷所	岐北印刷株式会社 山梨県北杜市長坂町長坂上条2313番地
発行日	2020(令和2)年3月31日

ふりがな	やまなしけんほくとしづくしゅうちょうしらす
所在地	山梨県北杜市白州町白須1894-1番地ほか12筆
位置	北緯35°48'20" 東経138°19'17"
調査原因	農業基盤整備事業
調査期間	2011年12月12日～2012年11月30日
調査機関	北杜市教育委員会
調査面積	7,523m ² (うち4,660m ² を現状保存)
時期	縄文時代、平安時代
主な遺構	縄文時代前期前葉の住居57軒、前期中葉の住居19軒、前期後葉の住居30軒、掘立柱建物12棟、中期中葉の住居9軒、中期末葉の住居1軒、平安時代の住居8軒、掘立柱建物2棟、集石土坑84基、土坑721基、ピット999基、溝跡1条
主な遺物	縄文時代早期末葉から中期末葉、平安時代の土器及び石器
特記事項	北陸地方の珪質頁岩製石器、布目式土器 漆で文様を描出した中期中葉の土器 諸磯a式～b式期の集石土坑群 諸磯式期と藤内式期の消失住居、焼けた鹿角

北杜市埋蔵文化財調査報告第43集

堰口遺跡

県営耕作放棄地解消・発生防止基盤整備事業白州町堰口工区その2に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2020年3月27日印刷

2020年3月31日発行

発行 北杜市教育委員会

山梨県北杜市明野町上手 8310 番地

TEL (0551) 42-1375

印刷 峡北印刷株式会社

山梨県北杜市長坂町長坂上条 2313 番地

TEL (0551) 32-3245
